

授 業 計 画

平成 30 年 度

東京家政学院大学

平成30年度 学年暦(授業カレンダー)

前期

30年 4月	日	月	火	水	木	金	土	週	行 事
	1	2	3 入学式	← オリエンテーション →		6	7	1	1日学年開始 3日入学式
	8	9 ① 授業開始	10 ①	11 ①	12 ①	13 ①	14	2	4・5日 オリエンテーション
	15	16 ②	17 ②	18 ②	19 ②	20 ②	21	3	6・7日 オリエンテーションミーティング
	22	23 ③	24 ③	25 ③	26 ③	27 ③	28 ④	4	9日前期授業開始 28日月曜日の振替授業日
	29 昭和の日	30 振替休日						5	
5月	日	月	火	水	木	金	土		行 事
								5	
			1 ④	2 ④	3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6	
	6	7 ⑤	8 ⑤	9 ⑤	10 ④	11 ④	12	7	
	13	14 ⑥	15 ⑥	16 ⑥	17 ⑤	18 ⑤	19	8	
	20	21 ⑦ 創立記念日	22 ⑦	23 ⑦	24 ⑥	25 ⑥	26	9	21日創立記念日 (授業日)
	27	28 ⑧	29 ⑧	30 ⑧	31 ⑦				
6月	日	月	火	水	木	金	土		行 事
						1 ⑦	2	10	
	3	4 ⑨	5 ⑨	6 ⑨	7 ⑧	8 ⑧	9	11	
	10	11 ⑩	12 ⑩	13 ⑩	14 ⑨	15 ⑨	16	12	
	17 ローズ祭	18 ⑪	19 ⑪	20 ⑪	21 ⑩	22 ⑩	23	13	17日千代田KVA祭 (ローズ祭)
	24	25 ⑫	26 ⑫	27 ⑫	28 ⑪	29 ⑪	30	14	
7月	日	月	火	水	木	金	土		行 事
								14	
	1	2 ⑬	3 ⑬	4 ⑬	5 ⑫	6 ⑫	7	15	
	8	9 ⑭	10 ⑭	11 ⑭	12 ⑬	13 ⑬	14	16	
	15	16 海の日	17	18	19 ⑭	20 ⑭	21	17	17日・18日補講日
	22	23 ⑮	24 ⑮	25 ⑮	26 ⑮	27 ⑮	28	18	27日前期授業終了 7月30日～8月4日 前期定期試験 (7月28日は予備日)
	29	30	31						
8月	日	月	火	水	木	金	土		行 事
								19	8月5日～9月20日 夏季休業
	5	6	7	8	9	10	11		
	12	13	14	15	16	17	18		
	19	20	21	22	23	24	25		
26	27	28	29	30	31				
9月	日	月	火	水	木	金	土		行 事
							1		
	2	3	4	5	6	7	8		
	9	10 ←	11 追・再試験	12 →	13	14	15		10日～12日 前期追・再試験
	16	17 敬老の日	18	19	20 オリエンテーション				19日・20日 後期 オリエンテーション

	月	火	水	木	金	土
前期実授業 回数	15	15	15	15	15	
試験を含めた 回数	16	16	16	16	16	

○数字は曜日別の授業回数
は試験期間

後期

9・10月	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
						21 ① 授業開始	22 ①	1	21日後期開始 22日月曜日振替授業
	23 秋分の日	24 振替休日	25 ①	26 ①	27 ①	28 ②	29	2	
	30	1 ②	2 ②	3 ②	4 ②	5 ③	6	3	
	7	8 体育の日	9 ③	10 ③	11 ③	12 ④	13	4	
	14	15 ③	16 ④	17 ④	18 ④	19 ⑤	20	5	
	21	22 ④	23 ⑤	24 ⑤	25 ⑤	26 ⑥	27	6	
	28	29 ⑤	30 ⑥	31 ⑥					
11月	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
					1 ⑥	2 ⑦	3 文化の日	6	
	4	5 ⑥	6 ⑦	7 ⑦	8 ⑦	9 ⑧	10	7	10日センター試験 プレテスト
	11	12 ⑦	13 ⑧	14 ⑧	15 ←	16	17 KVA祭	8	17日～18日 大学祭(KVA祭)
	18 KVA祭	19 ⑧	20 ⑨	21 ⑨	22 ⑧	23 勤労感謝の日	24	9	
	25	26 ⑨	27 ⑩	28 ⑩	29 ⑨	30 ⑨		10	
12月	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
							1	11	
	2	3 ⑩	4 ⑪	5 ⑪	6 ⑩	7 ⑩	8	12	
	9	10 ⑪	11 ⑫	12 ⑫	13 ⑪	14 ⑪	15	13	
	16	17 ⑫	18 ⑬	19 ⑬	20 ⑫	21 ⑫	22 ⑬	14	22日月曜日振替授業
	23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	29		25日補講日 26日～1月5日 冬季休業
	30	31							
31年 1月	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
			1	2	3	4	5		
	6	7 ⑭	8 ⑭	9 ⑭	10 ⑬	11 ⑬	12	15	
	13	14 成人の日	15	16	17 ⑭	18 ⑭	19 センター試験	16	15日・16日補講日
	20 センター試験	21 ⑮	22 ⑮	23 ⑮	24 ⑮	25 ⑮	26	17	25日後期授業終了
	27	28 斜線	29 斜線	30 斜線	31 斜線			18	28日～2月2日 後期定期試験
2月	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
						1 斜線	2 斜線	19	
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11 建国記念日	12	13	14	15	16		
	17	18	19	20	21	22	23		
	24	25	26 ←	27 →	28 →				26～28日 後期追・再試験
3月	日	月	火	水	木	金	土	週	行事
						1	2		
	3	4	5	6	7	8	9		
	10	11	12	13	14	15	16		19日大学卒業式・ 大学院修了式
	17	18	19	20	21 春分の日	22	23		
	24	25	26	27	28	29	30		3月25日～31日 春季休業 3月25日～31日 春季休業

	月	火	水	木	金	土
後期実授業 回数	15	15	15	15	15	
試験を含めた 回数	16	16	16	16	16	
年間実授業 回数	30	30	30	30	30	0
試験を含めた 回数	32	32	32	32	32	0

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
共通教育科目	G501010	日本の文学	井上 眞弓	1
共通教育科目	G501020	日本の言語と文化	内田 宗一	1
共通教育科目	G501030	文章表現法	内田 宗一	1
共通教育科目	G501040	外国の言語と文化	西本 晶絵	1
共通教育科目	G501050	異文化コミュニケーション	畝部 典子	2
共通教育科目	G501070	音楽	吉永 早苗	2
共通教育科目	G501080	美学・美術史	久々湊 直子	2
共通教育科目	G501090	色彩論	滝沢 真美	2
共通教育科目	G501110	民俗学	西村 敏也	3
共通教育科目	G501120	考古学	小瀬 康行	3
共通教育科目	G502010	基礎数学a	新海 公昭	3
共通教育科目	G502020	基礎数学b	新海 公昭	3
共通教育科目	G502030	数学トピックス	新海 公昭	4
共通教育科目	G502040	基礎統計学a	新海 公昭	4
共通教育科目	G502050	基礎統計学b	新海 公昭	4
共通教育科目	G502060	情報論	田中 康裕	4
共通教育科目	G502070	コンピュータ概論	田中 康裕	5
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	千葉 一博	5
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	田中 康裕	5
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	小野 由美子	5
共通教育科目	G502080	コンピュータ演習 a	原田 一義	6
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	千葉 一博	6
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	田中 康裕	6
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	小野 由美子	6
共通教育科目	G502090	コンピュータ演習 b	原田 一義	7
共通教育科目	G503010	人間の体	金子 和正	7
共通教育科目	G503020	ダイエットとフィットネス	金子 和正	7
共通教育科目	G503050	レクリエーション概論	大嶋 徹	7
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	大嶋 徹	8
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	外川 重信	8
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	宮崎 晃子	8
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	江川 賢一	8
共通教育科目	G503060	健康スポーツ演習 a	金指 みの利	9
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	金子 和正	9
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	外川 重信	9
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	大嶋 徹	9
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	宮崎 晃子	10
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	江川 賢一	10
共通教育科目	G503070	健康スポーツ演習 b	金指 みの利	10
共通教育科目	G503080	健康スポーツ演習 c	金子 和正	10
共通教育科目	G503080	健康スポーツ演習 c	大嶋 徹	11
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習 d	金子 和正	11
共通教育科目	G503090	健康スポーツ演習 d	江川 賢一	11
共通教育科目	G503100	体育講義	金子 和正	11
共通教育科目	G503110	体育実技	金子 和正	12
共通教育科目	G504020	教養の化学	三島 綾子	12
共通教育科目	G504020	教養の化学	佐山 信成	12
共通教育科目	G504030	化学入門	三島 綾子	12
共通教育科目	G504030	化学入門	佐山 信成	13
共通教育科目	G504040	教養の生物学	岩見 哲夫	13
共通教育科目	G504040	教養の生物学	沼波 秀樹	13
共通教育科目	G504050	生物学入門	岩見 哲夫	13
共通教育科目	G504050	生物学入門	沼波 秀樹	14
共通教育科目	G504060	環境と資源	岩見 哲夫	14
共通教育科目	G504060	環境と資源	沼波 秀樹	14
共通教育科目	G504070	地球の科学	角和 善隆	14
共通教育科目	G504070	地球の科学	尾張 聡子	15
共通教育科目	G504080	教養の物理学	小谷 太郎	15
共通教育科目	G504110	自然史	岩見 哲夫	15
共通教育科目	G505010	法学入門(日本国憲法)	尾崎 利生	15
共通教育科目	G505020	市民と法	尾崎 利生	16
共通教育科目	G505030	社会学入門	野坂 真	16
共通教育科目	G505060	経済学入門	大野 裕之	16
共通教育科目	G505070	経営学入門	金森 敏	16
共通教育科目	G505080	日本の歴史	熊井 保	17
共通教育科目	G505090	世界の歴史	宇野 陽子	17

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
共通教育科目	G505100	世界の地理	横地 留奈子	17
共通教育科目	G505110	国際関係論	宇野 陽子	17
共通教育科目	G506010	哲学入門	梅田 孝太	18
共通教育科目	G506040	生命倫理	田中 丹史	18
共通教育科目	G506050	心理学a	加地 雄一	18
共通教育科目	G506050	心理学a	木村 文香	18
共通教育科目	G506060	心理学b	加地 雄一	19
共通教育科目	G506060	心理学b	木村 文香	19
共通教育科目	G506070	ジェンダー論	鈴木 亜矢子	19
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	富田・朝倉・廣江	19
共通教育科目	G506080	東京家政学院を学ぶ	井上・佐藤・上村	20
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	千葉 一博 他	20
共通教育科目	G507010	リテラシー演習	井上 眞弓 他	20
共通教育科目	G507030	海外研修（英語研修）	畛部 典子 他	20
共通教育科目	G507040	英会話集中講座	マーク ルイス	21
共通教育科目	G507050	地域貢献活動	大嶋 徹 他	21
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛	21
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀 郁子	21
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛	22
共通教育科目	G508010	Basic English 1	畛部 典子	22
共通教育科目	G508010	Basic English 1	田中 愛	22
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大和田 寛	22
共通教育科目	G508010	Basic English 1	大穀 郁子	23
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田 寛	23
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀 郁子	23
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大和田 寛	23
共通教育科目	G508020	Basic English 2	畛部 典子	24
共通教育科目	G508020	Basic English 2	田中 愛	24
共通教育科目	G508021	Basic English 2	大和田 寛	24
共通教育科目	G508020	Basic English 2	大穀 郁子	24
共通教育科目	G508030	Listening&Speaking 1	大穀 郁子	25
共通教育科目	G508030	Listening&Speaking 1	大和田 寛	25
共通教育科目	G508030	Listening&Speaking 1	畛部 典子	25
共通教育科目	G508030	Listening&Speaking 1	橋本 文子	25
共通教育科目	G508030	Listening&Speaking 1	田中 愛	26
共通教育科目	G508040	Listening&Speaking 2	大穀 郁子	26
共通教育科目	G508040	Listening&Speaking 2	大和田 寛	26
共通教育科目	G508040	Listening&Speaking 2	畛部 典子	26
共通教育科目	G508040	Listening&Speaking 2	橋本 文子	27
共通教育科目	G508040	Listening&Speaking 2	田中 愛	27
共通教育科目	G508050	Reading & Writing 1	大和田 寛	27
共通教育科目	G508050	Reading & Writing 1	橋本 文子	27
共通教育科目	G508060	Reading & Writing 2	大和田 寛	28
共通教育科目	G508060	Reading & Writing 2	橋本 文子	28
共通教育科目	G508070	Comm English 1	マーク ルイス	28
共通教育科目	G508080	Comm English 2	マーク ルイス	28
共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	大穀 郁子	29
共通教育科目	G508090	英語検定対策講座	田中 愛	29
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	綾部 素幸	29
共通教育科目	G508100	フランス語入門1	アニー フランス	29
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	綾部 素幸	30
共通教育科目	G508110	フランス語入門2	アニー フランス	30
共通教育科目	G508120	フランス語初級1	綾部 素幸	30
共通教育科目	G508130	フランス語初級2	綾部 素幸	30
共通教育科目	G508140	ドイツ語入門1	高次 裕	31
共通教育科目	G508140	ドイツ語入門1	増田 好純	31
共通教育科目	G508150	ドイツ語入門2	高次 裕	31
共通教育科目	G508150	ドイツ語入門2	増田 好純	31
共通教育科目	G508160	ドイツ語初級1	高次 裕	32
共通教育科目	G508170	ドイツ語初級2	高次 裕	32
共通教育科目	G508180	中国語入門1	河野 哲宏	32
共通教育科目	G508180	中国語入門1	辻 リン	32
共通教育科目	G508190	中国語入門2	河野 哲宏	33
共通教育科目	G508190	中国語入門2	辻 リン	33
共通教育科目	G508200	中国語初級1	辻 リン	33
共通教育科目	G508210	中国語初級2	辻 リン	33

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
共通教育科目	G508220	韓国語入門1	徐 旻廷	34
共通教育科目	G508230	韓国語入門2	徐 旻廷	34
共通教育科目	G508240	韓国語初級1	徐 旻廷	34
共通教育科目	G508250	韓国語初級2	徐 旻廷	34
共通教育科目	G509010	アカデミック・ジャパニーズ1	森 朋子	35
共通教育科目	G509020	アカデミック・ジャパニーズ2	森 朋子	35
共通教育科目	G509050	日本語ラボa	森 朋子	35
共通教育科目	G509060	日本語ラボb	森 朋子	35
共通教育科目	G509070	日本語ラボc	森 朋子	36
共通教育科目	G509080	日本語ラボd	森 朋子	36
共通教育科目	G509090	社会人としての日本語	内田 宗一	36
共通教育科目	G509310	日本の歴史と文化	内田 宗一	36
<現代家政学科>				
専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏	38
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森 敏	38
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森 敏	38
専門科目	G010010	現代生活論（現代家政学科）	現代家政学科 教員	38
専門科目	G010020	家政学原論	上村 協子 他	39
専門科目	G010040	女性史	佐藤 広美	39
専門科目	G010050	美と健康	山村 明子	39
専門科目	G010060	情報処理演習Ⅰ	小野 由美子	39
専門科目	G010070	情報処理演習Ⅱ	小野 由美子	40
専門科目	G010080	卒業研究A	現代家政学科 教員	40
専門科目	G010090	卒業研究B	現代家政学科 教員	40
専門科目	G010100	家族論	林 葉子	40
専門科目	G010110	家族の文化	井上 眞弓	41
専門科目	G010120	子どもと遊び	大嶋 徹	41
専門科目	G010160	家族支援論	西口 守	41
専門科目	G010170	家族と法	木村 くに子	41
専門科目	G010180	家庭経済学	上村 協子	42
専門科目	G010190	消費者教育	早野 木の美	42
専門科目	G010220	消費者政策と法	小野 由美子	42
専門科目	G010230	高度情報社会と消費者	小野 由美子	42
専門科目	G010250	プロシューマー演習	小野 由美子 他	43
専門科目	G010260	プロシューマー実習	上村 協子 他	43
専門科目	G010270	生活設計論	上村 協子	43
専門科目	G010290	エコロジー	沼波 秀樹	43
専門科目	G010300	環境保護論	沼波 秀樹	44
専門科目	G010330	ツーリズムb（環境）	沼波 秀樹	44
専門科目	G010340	都市計画	長野 博一	44
専門科目	G010430	ツーリズムa（地域と文化）	玉木 栄一	44
専門科目	G010450	多文化共生	森 朋子	45
専門科目	G010470	NGO・NPO論	信田 理奈	45
専門科目	G010480	コミュニティ論	北原 零未	45
専門科目	G010510	ファッション造形学	山村 明子	45
専門科目	G010520	ファッション造形実習B	松本 幸子	46
専門科目	G010530	装飾マテリアル演習	松本 幸子	46
専門科目	G010540	現代衣生活論	山村 明子	46
専門科目	G010550	世界の服飾	山村 明子	46
専門科目	G010560	日本の服飾	井上 眞弓	47
専門科目	G010570	西洋服飾文化史	山村 明子	47
専門科目	G010580	ファッション販売論	井澤 尚子	47
専門科目	G010590	衣と消費科学	成田 千恵	47
専門科目	G010600	ファッションカラー演習	井澤 尚子	48
専門科目	G010610	ファッションコーディネート	山村 明子	48
専門科目	G010620	ファッション企画・設計論	井澤 尚子	48
専門科目	G010640	衣服環境論	成田 千恵	48
専門科目	G010660	インテリア設計論	大宮司 勝弘	49
専門科目	G010670	インテリア計画	大宮司 勝弘	49
専門科目	G010680	インテリアデザイン演習A	大宮司 勝弘 他	49
専門科目	G010730	言語コミュニケーション	内田 宗一	49
専門科目	G010740	若者文化論	内田 宗一 他	50
専門科目	G010760	生活文化論	小瀬 康行	50
専門科目	G010800	文化の継承と発信	井上 眞弓 他	50
専門科目	G010810	生活文化演習	井上 眞弓	50

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	GO10820	食品学実験	竹中 真紀子	51
専門科目	GO10830	食のリスクマネジメント	竹中 真紀子	51
専門科目	GO10840	レシピの比較文化史	伊藤 有紀	51
専門科目	GO10850	食文化論	伊藤 有紀	51
専門科目	GO10870	生活史演習	井上 眞弓	52
専門科目	GO10880	フードコーディネート論	伊藤 有紀	52
専門科目	GO10890	設計製図演習A	小林 直弘 他	52
専門科目	GO10900	設計製図演習B	小林 直弘 他	52
専門科目	GO10910	設計製図演習C	大橋 智子 他	53
専門科目	GO10920	設計製図演習D	左 知子 他	53
専門科目	GO10930	現代家政演習	現代家政学科 教員	53
専門科目	GO10940	日本語教育概論	森 朋子	53
専門科目	GO10950	社会調査法	小野 由美子	54
専門科目	GO10960	食物学概論	三宅 紀子	54
専門科目	GO10970	食と社会	竹中 真紀子	54
専門科目	GO10980	食生活演習	竹中 真紀子	54
専門科目	GO10990	インテリアデザイン演習B	大宮司 勝弘 他	55
専門科目	GO11000	インテリアCAD演習	大宮司 勝弘	55
専門科目	GO11010	建築調査	大橋 竜太	55
専門科目	GO11020	衣とユニバーサルデザイン	大野 淑子	55
専門科目	GO11100	基礎ゼミ	現代家政学科 教員	56
専門科目	GO11103	生活の経済学	古徳 佳枝	56
専門科目	GO11104	情報伝達と表現	小林 直弘	56
専門科目	GO11105	家庭電気・機械・情報処理	梶田 考一	56
専門科目	GO11106	会計情報演習	古徳 佳枝	57
専門科目	GO11107	家庭経営学概論	井上 眞弓 他	57
専門科目	GO11108	家政学概論	竹中 真紀子 他	57
専門科目	GO11109	家族関係論	林 葉子	57
専門科目	GO11110	家庭看護	吉賀 成子	58
専門科目	GO11111	消費者情報論	小野 由美子	58
専門科目	GO11112	消費経済論	金森 敏	58
専門科目	GO11113	児童学概論	坪井 瞳	58
専門科目	GO11114	保育学	坪井 瞳	59
専門科目	GO11115	衣生活概論	井澤 尚子 他	59
専門科目	GO11116	ファッション造形実習A	井澤 尚子 他	59
専門科目	GO11117	食品学概論	竹中 真紀子	59
専門科目	GO11118	フードスペシャリスト論	竹中 真紀子	60
専門科目	GO11119	栄養学概論	竹中 真紀子	60
専門科目	GO11120	食品学	西澤 千恵子	60
専門科目	GO11121	調理学	西澤 千恵子	60
専門科目	GO11122	栄養学	竹中 真紀子	61
専門科目	GO11123	食生活論	伊藤 有紀	61
専門科目	GO11124	調理学実習	三宅 紀子 他	61
専門科目	GO11125	健康・食発達心理学	青木 洋子	61
専門科目	GO11126	フードサービスビジネス論	吉野 知子	62
専門科目	GO11127	食料経済	二瓶 徹	62
専門科目	GO11128	食卓と工芸	澤田 雅彦	62
専門科目	GO11129	製品・食品鑑別演習	三宅 紀子	62
専門科目	GO11130	住居学概論	小池 孝子	63
専門科目	GO11131	建築史A	大橋 竜太	63
専門科目	GO11132	建築史B	大橋 竜太	63
専門科目	GO11133	住生活論	大橋 竜太	63
専門科目	GO11134	住居設備	梶田 考一	64
専門科目	GO11135	構造力学A	白井 篤	64
専門科目	GO11136	構造計画A	永井 佑季	64
専門科目	GO11137	インテリア材料	白井 篤	64
専門科目	GO11138	住宅施工	白井 篤	65
専門科目	GO11139	建築法規	塚田 豊	65
専門科目	GO11140	建築環境学A	梶田 考一	65
専門科目	GO11141	住居計画	小池 孝子	65
専門科目	GO11142	福祉住環境	小池 孝子	66
専門科目	GO11143	社会福祉概論	西口 守	66
専門科目	GO11144	スポーツツーリズム	大嶋 徹	66
専門科目	GO11145	ライフステージとレクリエーション	大嶋 徹	66
専門科目	GO11146	食文化演習	伊藤 有紀	67
専門科目	GO11147	現代家政とKVA	現代家政学科 教員	67

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G011149	江戸東京文化研究	内田 宗一	67
専門科目	G011150	生活福祉論	小野 由美子	67
<健康栄養学科>				
専門科目	G020020	健康福祉学概論	西口 守 他	68
専門科目	G020030	公衆衛生学Ⅰ	松田 正己	68
専門科目	G020040	公衆衛生学Ⅱ	松田 正己	68
専門科目	G020050	公衆衛生学実習	松田 正己	68
専門科目	G020060	疫学・社会調査法	細川 まゆ子	69
専門科目	G020080	解剖生理学Ⅱ	原 光彦	69
専門科目	G020090	解剖生理学実習	原 光彦	69
専門科目	G020100	スポーツ栄養学	加藤 理津子 他	69
専門科目	G020110	運動生理学実習	江川 賢一	70
専門科目	G020160	生化学Ⅱ	馬場 修	70
専門科目	G020170	生化学実験	馬場 修	70
専門科目	G020200	応用食品学	林 一也	70
専門科目	G020210	基礎食品学実験	海野 知紀	71
専門科目	G020220	応用食品学実験	林 一也	71
専門科目	G020230	食文化論	大富 あき子	71
専門科目	G020270	調理学実験	大富 あき子	71
専門科目	G020280	食品の官能評価・鑑別論	林 一也 他	72
専門科目	G020290	食品衛生学	林 一也	72
専門科目	G020300	食品衛生学実験	林 一也	72
専門科目	G020320	基礎栄養学Ⅱ	海野 知紀	72
専門科目	G020330	基礎栄養学実験	馬場 修	73
専門科目	G020340	食事摂取基準論	斉藤 恵美子	73
専門科目	G020350	ライフステージ別栄養学Ⅰ	原 光彦	73
専門科目	G020360	ライフステージ別栄養学Ⅱ	斉藤 恵美子	73
専門科目	G020370	応用栄養学実習	酒井 治子 他	74
専門科目	G020380	健康行動支援プログラム論	國井 大輔	74
専門科目	G020390	栄養教育総論	辻 雅子	74
専門科目	G020400	栄養教育方法論	辻 雅子	74
専門科目	G020410	ライフステージ別栄養教育論	酒井 治子	75
専門科目	G020420	栄養教育実習Ⅰ	辻 雅子	75
専門科目	G020430	栄養教育実習Ⅱ	酒井 治子	75
専門科目	G020440	カウンセリング論	吉田 恵子	75
専門科目	G020450	食情報表現演習	呉 起東	76
専門科目	G020460	臨床栄養学Ⅰ	斉藤 恵美子	76
専門科目	G020470	臨床栄養学Ⅱ	斉藤 恵美子	76
専門科目	G020480	臨床栄養アセスメント論	金澤 良枝	76
専門科目	G020490	臨床栄養ケアマネジメント論	金澤 良枝	77
専門科目	G020500	臨床栄養アセスメント実習	金澤 良枝 他	77
専門科目	G020510	臨床栄養ケアマネジメント実習	金澤 良枝 他	77
専門科目	G020520	栄養治療学	金澤 良枝	77
専門科目	G020530	公衆栄養学	田中 弘之	78
専門科目	G020540	地域栄養活動論	田中 弘之	78
専門科目	G020550	公衆栄養学実習	田中 弘之	78
専門科目	G020560	地域栄養活動演習	田中 弘之 他	78
専門科目	G020570	国際栄養活動論	松田 正己 他	79
専門科目	G020580	フードシステム論	二瓶 徹	79
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネジメント演習（児童）	田中 弘之 他	79
専門科目	G020590	福祉栄養ケアマネジメント演習（高齢者）	吉野 知子 他	79
専門科目	G020610	給食経営管理実習	吉野 知子 他	80
専門科目	G020620	健康フードマネジメント論	吉野 知子	80
専門科目	G020630	健康フードマネジメント実習	吉野 知子 他	80
専門科目	G020640	食・空間プロデュース論	大富 あき子	80
専門科目	G020650	健康栄養プロデュース実習	城田 直子 他	81
専門科目	G020660	給食運営臨地実習	吉野 知子 他	81
専門科目	G020670	臨床栄養Ⅰ 臨地実習	金澤 良枝 他	81
専門科目	G020680	臨床栄養Ⅱ 臨地実習	金澤 良枝 他	81
専門科目	G020690	公衆栄養臨地実習	酒井 治子 他	82
専門科目	G020700	実践健康栄養プロデュース実習	健康栄養学科 教員	82
専門科目	G020710	総合演習Ⅰ	吉野 知子 他	82
専門科目	G020720	総合演習Ⅱ	金澤 良枝 他	82
専門科目	G020730	海外文献抄読演習	橋本 文子	83
専門科目	G020740	実践栄養英会話	マーク ルイス	83

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G020750	食物・栄養演習A	田中 弘之 他	83
専門科目	G020760	食物・栄養演習B	田中 弘之 他	83
専門科目	G020770	食物・栄養演習C	田中 弘之 他	84
専門科目	G020780	食物・栄養演習D	田中 弘之 他	84
専門科目	G020790	食物・栄養演習E	田中 弘之 他	84
専門科目	G020800	運動生理学	江川 賢一	84
専門科目	G021002	健康・食発達心理学	青木 洋子	85
専門科目	G021003	フードサービスビジネス論	吉野 知子	85
<生活デザイン学科>				
専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏	86
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森 敏	86
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森 敏	86
専門科目	G030010	生活デザイン演習A	生活デザイン学科 教員	86
専門科目	G030020	現代生活論（生活デザイン学科）	生活デザイン学科 教員	87
専門科目	G030030	卒業研究A	生活デザイン学科 教員	87
専門科目	G030040	卒業研究B	生活デザイン学科 教員	87
専門科目	G030050	テキスタイル材料学	花田 朋美	87
専門科目	G030070	衣繊維学	花田 朋美	88
専門科目	G030090	機器分析法	花田 朋美	88
専門科目	G030110	繊維製品試験法	佐々木 麻紀子	88
専門科目	G030120	被服整理学	佐々木 麻紀子	88
専門科目	G030140	染色学	花田 朋美	89
専門科目	G030150	染色学実験	花田 朋美	89
専門科目	G030160	工芸染色技法	佐々木 麻紀子	89
専門科目	G030170	工芸染色実習B	佐々木 麻紀子	89
専門科目	G030180	服飾設計論	富田 弘美	90
専門科目	G030200	服飾造形実習C	富田 弘美	90
専門科目	G030220	アパレル商品論	富田 弘美	90
専門科目	G030240	衣構成学実習B	富田 弘美	90
専門科目	G030250	テキスタイルデザイン実習	大淵 和憲	91
専門科目	G030260	テキスタイルアドバイザー実習	富田 弘美	91
専門科目	G030270	消費科学	大橋 正男	91
専門科目	G030280	衣環境衛生学	小柴 朋子	91
専門科目	G030290	食品機能化学	黒田 久夫	92
専門科目	G030300	食品加工貯蔵学	黒田 久夫	92
専門科目	G030310	食品微生物学	山崎 薫	92
専門科目	G030320	食品衛生学	山崎 薫	92
専門科目	G030330	バイオサイエンス	山崎 薫	93
専門科目	G030340	調理とフードコーディネート	小口 悦子	93
専門科目	G030350	調理と素材	小口 悦子	93
専門科目	G030360	調理と文化	小口 悦子	93
専門科目	G030370	食文化論	櫻井 美代子	94
専門科目	G030380	食文化演習	櫻井 美代子	94
専門科目	G030390	食・空間コーディネート論	澤田 雅彦 他	94
専門科目	G030400	食品学実験	黒田 久夫	94
専門科目	G030410	食科学演習	食物学科 教員	95
専門科目	G030430	食企画・開発論	黒田 久夫	95
専門科目	G030440	食企画・開発実習A	黒田 久夫	95
専門科目	G030450	食企画・開発実習B	黒田 久夫	95
専門科目	G030460	食と地球環境	山岡 義卓	96
専門科目	G030470	調理素材とフードメニュー	小口 悦子	96
専門科目	G030480	フードビジネス・食産業研究	黒田 久夫	96
専門科目	G030490	住居デザイン演習A	小池 孝子 他	96
専門科目	G030500	住居デザイン演習B	小池 孝子 他	97
専門科目	G030510	住居デザイン演習C	原口 秀昭 他	97
専門科目	G030520	住居デザイン演習D	原口 秀昭 他	97
専門科目	G030530	建築デザイン演習A	原口 秀昭 他	97
専門科目	G030540	建築デザイン演習B	原口 秀昭 他	98
専門科目	G030550	住居CAD演習	足立 幸寿	98
専門科目	G030560	建築CAD演習	足立 幸寿	98
専門科目	G030570	建築総合演習	柏木 穂波	98
専門科目	G030580	建築計画	小池 孝子	99
専門科目	G030590	建築環境学B	椋田 考一	99
専門科目	G030600	建築環境システム	椋田 考一	99
専門科目	G030610	住環境調査A	深石 圭子	99

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G030620	構造力学B	西村 彰敏	100
専門科目	G030630	構造力学C	西村 彰敏	100
専門科目	G030640	住宅設計論	柏木 穂波	100
専門科目	G030650	構法計画	白井 篤	100
専門科目	G030660	構造計画B	西村 彰敏	101
専門科目	G030670	建築材料学	白井 篤	101
専門科目	G030680	建築施工	白井 篤	101
専門科目	G030700	基礎造形	澤田 雅彦	101
専門科目	G030710	インテリア基礎演習	高尾 純宏	102
専門科目	G030720	クラフトデザイン演習	澤田 雅彦	102
専門科目	G030730	インテリアデザイン演習	高尾 純宏	102
専門科目	G030750	メディアデザイン基礎演習	呉 起東	102
専門科目	G030760	メディアデザイン演習	呉 起東	103
専門科目	G030770	デジタルフォト論	呉 起東	103
専門科目	G030790	カラーコーディネート	高尾 純宏	103
専門科目	G030810	生活用具論	高尾 純宏	103
専門科目	G030820	インテリアデザイン論	高尾 純宏	104
専門科目	G030830	食器デザイン論	澤田 雅彦	104
専門科目	G030840	くらしの考現学	望月 史郎	104
専門科目	G030870	生活デザイン演習D	生活デザイン学科 教員	104
専門科目	G030880	高分子材料実験Ⅰ	花田 朋美	105
専門科目	G030890	繊維学実験Ⅰ	花田 朋美	105
専門科目	G030900	アパレルデザイン論	藤田 恵子	105
専門科目	G030910	アパレルデザイン表現実習	藤田 恵子	105
専門科目	G030920	服飾造形実習A	藤田 恵子	106
専門科目	G030960	高分子材料実験Ⅱ	花田 朋美	106
専門科目	G030970	繊維学実験Ⅱ	花田 朋美	106
専門科目	G030980	CGデザイン演習	呉 起東	106
専門科目	G031000	生活デザイン演習B	生活デザイン学科 教員	107
専門科目	G031001	生活の経済学	古徳 佳枝	107
専門科目	G031003	人体の構造と機能	岩見 哲夫	107
専門科目	G031004	コミュニケーションデザイン	呉 起東	107
専門科目	G031005	家庭電気・機械・情報処理	梶田 考一	108
専門科目	G031006	デザイン概論	澤田 雅彦	108
専門科目	G031007	人間工学	澤田 雅彦	108
専門科目	G031008	家庭経営学概論	河田 敦子 他	108
専門科目	G031009	家族関係論	林 葉子	109
専門科目	G031010	家庭看護	遠藤 由美子	109
専門科目	G031011	消費者調査法	小野 由美子	109
専門科目	G031012	消費経済論	工藤 千草	109
専門科目	G031014	保育学	新開 よしみ	110
専門科目	G031015	被服学概論	富田 弘美 他	110
専門科目	G031019	食科学概論	山崎 薫	110
専門科目	G031021	食品学Ⅱ	黒田 久夫	110
専門科目	G031022	調理学	小口 悦子	111
専門科目	G031023	栄養学Ⅱ	山崎 薫	111
専門科目	G031026	フードビジネス論	山岡 義卓	111
専門科目	G031027	食料経済	山岡 義卓	111
専門科目	G031028	ものづくり論	澤田 雅彦	112
専門科目	G031029	製品・食品鑑別演習	山崎 薫	112
専門科目	G031030	住居学概論	小池 孝子	112
専門科目	G031031	建築史A	大橋 竜太	112
専門科目	G031032	建築史B	大橋 竜太	113
専門科目	G031033	住生活論	小池 孝子 他	113
専門科目	G031036	構造計画A	西村 彰敏	113
専門科目	G031037	インテリア材料	白井 篤	113
専門科目	G031038	住宅施工	白井 篤	114
専門科目	G031039	建築法規	原口 秀昭	114
専門科目	G031040	建築環境学A	梶田 考一	114
専門科目	G031041	住居計画	小池 孝子	114
専門科目	G031042	福祉住環境	小池 孝子	115
専門科目	G031043	生活デザイン演習C	生活デザイン学科 教員	115
専門科目	G031044	被服整理学実験	佐々木 麻紀子	115
専門科目	G031045	工芸染色実習A	佐々木 麻紀子	115
専門科目	G031047	服飾造形実習B	藤田 恵子	116
専門科目	G031048	栄養学・食品衛生学実験	山崎 薫	116

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G031049	調理学実験	小口 悦子	116
専門科目	G031051	フードスペシャリスト論	山崎 薫	116
専門科目	G031052	生活デザイン演習E	生活デザイン学科 教員	117
専門科目	G031053	生活デザイン演習F	生活デザイン学科 教員	117
専門科目	G031055	アパレル生産実習	藤田 恵子	117
専門科目	G031057	アパレルグラフィックス実習	呉 起東	117
専門科目	G031058	インテリアコーディネート	塚田 豊	118
専門科目	G031063	ガーデニング概論	石綱 史子	118
専門科目	G031064	言語学概論	森 朋子	118
専門科目	G031065	ウェブデザイン	呉 起東	118
専門科目	G031067	ファッションビジネス論	安城 寿子	119
専門科目	G032056	アパレルCAD実習	藤田 恵子	119
専門科目	G032059	住環境調査B	栂田 考一	119
<児童学科>				
専門科目	G000010	卒業研究基礎ゼミ	児童学科 教員	120
専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏	120
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森 敏	120
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森 敏	120
専門科目	G040010	児童学研究法	児童学科 教員	121
専門科目	G040020	発達心理学	丹羽 さかの	121
専門科目	G040030	教育心理学	木村 文香	121
専門科目	G040040	教育原理	河田 敦子	121
専門科目	G040050	教育課程論（小）	齋藤 義雄	122
専門科目	G040060	保育学A	和田 美香	122
専門科目	G040070	保育学B	新開 よしみ	122
専門科目	G040080	児童文化	美谷島 いく子	122
専門科目	G040090	小児保健Ⅰ	鳥海 弘子	123
専門科目	G040100	卒業研究A	児童学科 教員	123
専門科目	G040110	卒業研究B	児童学科 教員	123
専門科目	G040120	児童心理学	丹羽 さかの	123
専門科目	G040130	発達臨床心理学	柳瀬 洋美	124
専門科目	G040140	対人関係の発達	丹羽 さかの	124
専門科目	G040150	発達障害の理解と支援	杉野 学 他	124
専門科目	G040160	発達臨床論	加地 雄一	124
専門科目	G040170	心理学研究法	加地 雄一	125
専門科目	G040180	児童とカウンセリング	柳瀬 洋美 他	125
専門科目	G040190	心理検査法実習	加地 雄一 他	125
専門科目	G040220	社会福祉	嶋田 芳男	125
専門科目	G040230	社会的養護	塩谷 隼平	126
専門科目	G040240	社会的養護内容	横井 義広	126
専門科目	G040240	社会的養護内容	杉野 学	126
専門科目	G040270	乳児保育	柳瀬 洋美 他	126
専門科目	G040280	幼児理解	新開 よしみ	127
専門科目	G040290	保育内容総論A	中田 範子	127
専門科目	G040300	保育内容総論B	中田 範子	127
専門科目	G040310	保育内容演習健康A	金子 和正	127
専門科目	G040320	保育内容演習健康B	金子 和正	128
専門科目	G040330	保育内容演習言葉A	和田 美香	128
専門科目	G040340	保育内容演習言葉B	和田 美香 他	128
専門科目	G040350	保育内容演習人間関係A	丹羽 さかの	128
専門科目	G040360	保育内容演習人間関係B	柳瀬 洋美 他	129
専門科目	G040370	保育内容演習環境A	中田 範子 他	129
専門科目	G040380	保育内容演習環境B	中田 範子	129
専門科目	G040390	保育内容演習表現A	新開 よしみ 他	129
専門科目	G040400	保育内容演習表現B	新開 よしみ 他	130
専門科目	G040410	保育方法論	野田 日出子	130
専門科目	G040420	障がい児保育	中野 佐世子	130
専門科目	G040420	障がい児保育	上出 香波	130
専門科目	G040430	保育実践演習	児童学科 教員	131
専門科目	G040440	算数科教育	新海 公昭	131
専門科目	G040450	生活科教育	中田 範子	131
専門科目	G040460	音楽科教育	吉永 早苗	131
専門科目	G040470	図画工作科教育	立川 泰史	132
専門科目	G040480	国語科教育（書写を含む）	宮津 大蔵	132
専門科目	G040490	体育科教育	金子 和正	132

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G040500	社会科教育	尾崎 利生	132
専門科目	G040510	理科教育	沼波 秀樹	133
専門科目	G040530	社会科教育法	佐藤 広美	133
専門科目	G040540	算数科教育法	新海 公昭	133
専門科目	G040550	理科教育法	黒田 篤志	133
専門科目	G040560	生活科教育法	池田 仁人	134
専門科目	G040570	音楽科教育法	吉永 早苗	134
専門科目	G040580	図画工作科教育法	立川 泰史	134
専門科目	G040590	家庭科教育法	海野 りつ子	134
専門科目	G040600	体育科教育法	金子 和正	135
専門科目	G040620	小児保健Ⅱ	松井 知子	135
専門科目	G040630	小児保健演習	田中 和香菜	135
専門科目	G040640	子どもの食と栄養	太田 百合子	135
専門科目	G040650	児童体育演習	金子 和正	136
専門科目	G040670	野外活動論（児童と野外環境）	金子 和正	136
専門科目	G040680	児童とことば	和田 美香	136
専門科目	G040690	児童と音楽A	吉永 早苗 他	136
専門科目	G040700	児童と音楽B	吉永 早苗 他	137
専門科目	G040710	児童と身体表現	荒金 幸子	137
専門科目	G040720	児童と造形	立川 泰史	137
専門科目	G040730	保育表現技術	桜井 郁子	137
専門科目	G040740	英語アクティビティ	畝部 典子	138
専門科目	G040750	児童と外国語A	畝部 典子	138
専門科目	G040760	児童と外国語B	畝部 典子	138
専門科目	G040770	児童と文学	原 善	138
専門科目	G040790	カリキュラム論	中田 範子	139
専門科目	G040800	相談援助	西口 守 他	139
専門科目	G040810	保育相談支援	柳瀬 洋美 他	139
専門科目	G040820	家庭支援論	新開 よしみ 他	139
専門科目	G041000	卒業研究基礎ゼミ	児童学科 教員	140
専門科目	G041001	多変量統計入門	新海 公昭	140
専門科目	G041002	青年心理学	木村 文香	140
専門科目	G041003	人格心理学	早野 富美	140
専門科目	G041004	心理学実験Ⅰ	加地 雄一 他	141
専門科目	G041005	心理学実験Ⅱ	加地 雄一 他	141
専門科目	G041006	家庭教育論	柳瀬 洋美	141
専門科目	G041008	児童学概論	齋藤 義雄 他	141
専門科目	G041010	児童福祉論	市川 和男	142
専門科目	G041015	自然体験活動演習Ⅰ	金子 和正	142
専門科目	G041016	自然体験活動演習Ⅱ	金子 和正	142
専門科目	G041018	初等教育演習A	齋藤 義雄 他	142
専門科目	G041019	初等教育演習B	齋藤 義雄	143
専門科目	G041020	初等教育演習C	齋藤 義雄 他	143
専門科目	G041021	初等教育演習D	齋藤 義雄 他	143
専門科目	G041022	児童臨床実習AⅠ	田尻 さやか	143
専門科目	G041023	児童臨床実習AⅡ	田尻 さやか	144
専門科目	G041024	児童臨床実習BⅠ	田尻 さやか 他	144
専門科目	G041025	児童臨床実習BⅡ	山原 麻紀子 他	144
専門科目	G041026	児童臨床実習CⅠ	柳瀬 洋美	144
専門科目	G041027	児童臨床実習CⅡ	柳瀬 洋美	145
専門科目	G041028	障害の基礎的理解	阿尾 有朋	145
専門科目	G041029	特別支援学校教育課程論	杉野 学	145
専門科目	G041030	特別支援教育総論	杉野 学	145
専門科目	G041031	知的障害者の指導法	杉野 学	146
専門科目	G041032	肢体不自由者の指導法	阿尾 有朋	146
専門科目	G041033	病弱者の指導法	阿尾 有朋	146
専門科目	G041034	知的障害者の心理・生理・病理	原田 晋吾 他	146
専門科目	G041038	聴覚障害の理解と支援	澤 隆史	147
専門科目	G041039	重複障害の理解と支援	阿尾 有朋	147
<人間福祉学科>				
専門科目	G000030	インターンシップ	金森 敏 他	148
専門科目	G000940	キャリアデザインA	金森 敏	148
専門科目	G000950	キャリアデザインB	金森 敏	148
専門科目	G050010	現代生活論（人間福祉学科）	朝倉 和子	148
専門科目	G050060	社会調査法	小野 由美子	149

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
専門科目	G050070	ソーシャルワーク各論Ⅲ	嶋田 芳男	149
専門科目	G050080	ソーシャルワーク各論Ⅳ	高橋 幸三郎	149
専門科目	G050120	ソーシャルワーク演習Ⅱ	嶋田 芳男 他	149
専門科目	G050130	ソーシャルワーク演習Ⅲ	嶋田 芳男	150
専門科目	G050140	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	朝倉 和子	150
専門科目	G050180	社会福祉リカレント講座Ⅰ	木本 明	150
専門科目	G050190	社会福祉リカレント講座Ⅱ	木本 明	150
専門科目	G050200	卒業研究A	人間福祉学科 教員	151
専門科目	G050210	卒業研究B	人間福祉学科 教員	151
専門科目	G050220	社会保障論Ⅰ	木本 明	151
専門科目	G050230	社会保障論Ⅱ	木本 明	151
専門科目	G050240	福祉サービスの組織と経営	西口 守	152
専門科目	G050250	福祉行政論	木本 明	152
専門科目	G050260	公的扶助論	木本 明	152
専門科目	G050270	医療福祉論	砂田 淳一郎	152
専門科目	G050280	権利擁護と成年後見制度	木本 明	153
専門科目	G050320	就労支援	木本 明	153
専門科目	G050330	更生保護制度	木本 明	153
専門科目	G050340	スクールソーシャルワーク論	芦田 正博	153
専門科目	G050440	精神障害者の生活支援	朝倉 和子	154
専門科目	G050480	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	朝倉 和子	154
専門科目	G050490	精神保健福祉援助実習	朝倉 和子	154
専門科目	G050650	福祉の心理学	加地 雄一	154
専門科目	G050660	こころの障害者心理	糸井 千尋	155
専門科目	G050730	地域福祉論Ⅰ	嶋田 芳男	155
専門科目	G050740	地域福祉論Ⅱ	嶋田 芳男	155
専門科目	G050750	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	朝倉 和子	155
専門科目	G050760	IT活用演習	千葉 一博	156
専門科目	G050760	社会福祉情報演習Ⅰ	千葉 一博	156
専門科目	G050770	生活実践英会話	マーク ルイス	156
専門科目	G051004	心理学実験Ⅰ	加地 雄一 他	156
専門科目	G051005	心理学実験Ⅱ	加地 雄一 他	157
専門科目	G051019	福祉の社会学	中條 共子	157
専門科目	G051020	障害者福祉論	高橋 幸三郎	157
専門科目	G051021	児童福祉論	市川 和男	157
専門科目	G051023	高齢者福祉論Ⅰ	西口 守	158
専門科目	G051024	高齢者福祉論Ⅱ	嶋田 芳男	158
専門科目	G051025	精神保健学	糸井 千尋	158
専門科目	G051032	アロマセラピーⅠ	川人 紫	158
専門科目	G051035	アロマセラピーⅡ	川人 紫	159
専門科目	G051036	アロマセラピー演習	川人 紫	159
専門科目	G051038	園芸療法実習	本田 ともみ	159
専門科目	G051039	ガーデニングⅠ	本田 ともみ	159
専門科目	G051040	ガーデニングⅡ	本田 ともみ	160
専門科目	G051041	音楽セラピーⅠ	深野 広美	160
専門科目	G051042	音楽セラピーⅡ	深野 広美	160
専門科目	G051043	プレイセラピーⅠ	大嶋 徹	160
専門科目	G051044	プレイセラピーⅡ	大嶋 徹	161
専門科目	G051045	福祉セラピー専門演習Ⅰ	川人 紫	161
専門科目	G051046	福祉セラピー専門演習Ⅱ	深野 広美	161
専門科目	G051047	社会福祉経営学Ⅰ	遠藤 茂 他	161
専門科目	G051048	社会福祉経営学Ⅱ	山田 真弥	162
専門科目	G051049	社会福祉経営学Ⅲ	前田 卓弥	162
専門科目	G051050	社会福祉情報演習Ⅱ	千葉 一博	162
専門科目	G051054	福祉ビジネス専門演習Ⅰ	前田 卓弥	162
専門科目	G051055	福祉ビジネス専門演習Ⅱ	前田 卓弥	163
専門科目	G051056	コミュニティアートプロデュース論	高橋かおり	163
専門科目	G051057	社会調査法演習	福嶋 美佐子	163
専門科目	G051062	園芸療法論	本田 ともみ	163
専門科目	G051063	ケア実践の理論と方法	中田 光彦	164
専門科目	G051064	スポーツセラピー	大嶋 徹	164
専門科目	G051650	ソーシャルワーク演習Ⅳ	朝倉 和子	164
専門科目	G051660	ソーシャルワーク演習Ⅴ	朝倉 和子	164
専門科目	G051670	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	千葉 一博 他	165
専門科目	G051680	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	千葉 一博 他	165
専門科目	G051720	ソーシャルワーク実習	千葉 一博 他	165

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
<食物学科>				
専門科目	G060010	食生産体験演習A	食物学科 教員	166
専門科目	G060020	食生産体験演習B	食物学科 教員	166
専門科目	G060030	栄養士論	山田 正子	166
専門科目	G060050	フードビジネス概論	山岡 義卓	166
専門科目	G060060	コミュニケーション・プレゼン演習	黒田 久夫	167
専門科目	G060070	有機化学	三島 綾子	167
専門科目	G060080	分子生物学	岩見 哲夫	167
専門科目	G060090	統計学演習	黒田 久夫	167
専門科目	G060100	基礎サイエンス実験	岩見 哲夫	168
専門科目	G060110	食と語学A	大和田 寛	168
専門科目	G060130	社会福祉学概論	西口 守	168
専門科目	G060290	食品学総論	山崎 薫	168
専門科目	G060510	基礎調理学実習	小口 悦子	169
専門科目	G060660	応用調理学実習	小口 悦子	169
専門科目	G060760	フードスペシャリスト論	山田 正子	169
専門科目	G060870	食事計画論	小口 悦子	169
専門科目	G060910	被服学概論	富田 弘美 他	170
専門科目	G060920	服飾造形実習A	藤田 恵子	170
専門科目	G060930	住居学概論	小池 孝子	170
専門科目	G060940	家庭経営学概論	河田 敦子 他	170
専門科目	G060970	食科学概論	山崎 薫	171
<人間栄養学科>				
専門科目	H020010	人間栄養学原論	加藤 理津子 他	172
専門科目	H020020	管理栄養士基礎演習	人間栄養学科 教員	172
専門科目	H020030	有機化学	佐山 信成	172
専門科目	H020040	基礎サイエンス実験	沼波 秀樹 他	172
専門科目	H020150	解剖生理学Ⅰ	原 光彦	173
専門科目	H020160	解剖生理学Ⅱ	原 光彦	173
専門科目	H020190	微生物学	津山 淳	173
専門科目	H020220	生化学	馬場 修	173
専門科目	H020240	基礎食品学	海野 知紀	174
専門科目	H020280	調理学	大富 あき子	174
専門科目	H020300	基礎調理学実習	大富 あき子	174
専門科目	H020320	食事計画論実習	加藤 理津子	174
専門科目	H020350	基礎栄養学Ⅰ	海野 知紀	175
専門科目	H020360	基礎栄養学Ⅱ	海野 知紀	175
専門科目	H020560	給食経営管理論	吉野 知子	175
<資格科目>				
資格科目	6100010	教師論（町田・千代田）	佐藤 広美 他	176
資格科目	6100020	教育原理（町田）	河田 敦子	176
資格科目	6100020	教育原理（千代田）	佐藤 広美	176
資格科目	6100030	教育心理学（町田・千代田）	木村 文香	176
資格科目	6100040	教育制度論（町田）	河田 敦子	177
資格科目	6100040	教育制度論（千代田）	佐藤 広美	177
資格科目	6100050	教育課程論（町田・千代田）	齋藤 義雄	177
資格科目	6100060	家庭科教育法A（町田）	和田 早苗	177
資格科目	6100060	家庭科教育法A（千代田）	上村 協子 他	178
資格科目	6100070	家庭科教育法B（町田）	和田 早苗	178
資格科目	6100070	家庭科教育法B（千代田）	上村 協子 他	178
資格科目	6100080	家庭科教育法C（町田）	花形 美緒 他	178
資格科目	6100080	家庭科教育法C（千代田）	深谷 敬子 他	179
資格科目	6100090	家庭科教育法D（町田）	花形 美緒	179
資格科目	6100090	家庭科教育法D（千代田）	深谷 敬子 他	179
資格科目	6100220	道德教育論（小）	河田 敦子	179
資格科目	6100220	道德教育論（町田・千代田）	河田 敦子	180
資格科目	6100230	特別活動論（町田）	齋藤 史夫	180
資格科目	6100230	特別活動論（小）（町田）	齋藤 史夫	180
資格科目	6100230	特別活動論（千代田）	齋藤 史夫	180
資格科目	6100300	教育方法・技術論（幼・小）	齋藤 義雄	181
資格科目	6100300	教育方法・技術論（町田・千代田）	齋藤 義雄	181
資格科目	6100310	生徒指導論（小）	齋藤 史夫	181
資格科目	6100310	生徒指導論（町田）	齋藤 史夫	181

Contents

領 域	科目NO.	授業科目名	担当教員	ページ
資格科目	6100310	生徒指導論（千代田）	齋藤 史夫	182
資格科目	6100320	教育相談論（町田・千代田）	木村 文香	182
資格科目	6100350	教育実習指導（町田）	河田 敦子 他	182
資格科目	6100350	教育実習指導（千代田）	佐藤 広美 他	182
資格科目	6100360	教育実習A（町田）	河田 敦子 他	183
資格科目	6100360	教育実習A（千代田）	佐藤 広美	183
資格科目	6100370	教育実習B（町田）	河田 敦子 他	183
資格科目	6100370	教育実習B（千代田）	佐藤 広美	183
資格科目	6100380	栄養教育実習指導	辻 雅子	184
資格科目	6100390	栄養教育実習（千代田）	辻 雅子 他	184
資格科目	6100400	初等教育実習指導（小学校）	齋藤 義雄	184
資格科目	6100410	初等教育実習C	齋藤 義雄	184
資格科目	6100420	初等教育実習指導（幼稚園）	中田 範子 他	185
資格科目	6100430	初等教育実習A	中田 範子 他	185
資格科目	6100440	初等教育実習B	中田 範子 他	185
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）（町田）	河田 敦子 他	185
資格科目	6100450	教職実践演習（中等）（千代田）	佐藤 広美 他	186
資格科目	6100460	教職実践演習（栄養）	佐藤 広美 他	186
資格科目	6100470	教職実践演習（幼・小）	立川 泰史 他	186
資格科目	6200010	学校栄養教育論Ⅰ	田中 延子	186
資格科目	6200020	学校栄養教育論Ⅱ	酒井 治子 他	187
資格科目	6300010	博物館概論（町田・千代田）	小瀬 康行	187
資格科目	6300020	博物館資料論（町田・千代田）	小瀬 康行	187
資格科目	6300030	博物館経営論（町田・千代田）	田尾 誠敏	187
資格科目	6300060	生涯学習概論（町田・千代田）	矢内 琴江	188
資格科目	6300080	博物館実習（町田・千代田）	小瀬 康行	188
資格科目	6300090	博物館資料保存論（町田・千代田）	田尾 誠敏	188
資格科目	6300100	博物館展示論（町田）	小瀬 康行	188
資格科目	6300100	博物館展示論（千代田）	田尾 誠敏	189
資格科目	6300110	博物館教育論（町田）	高木 幸枝	189
資格科目	6300110	博物館教育論（千代田）	佐藤 広美	189
資格科目	6300120	博物館情報・メディア論（町田・千代田）	木村 涼	189
資格科目	6400060	保育実習指導Ⅰ	新開 よしみ 他	190
資格科目	6400070	保育実習ⅠB	新開 よしみ 他	190
資格科目	6400080	保育実習ⅠC	柳瀬 洋美 他	190
資格科目	6400090	保育実習Ⅱ	丹羽 さがの 他	190
資格科目	6400100	保育実習Ⅲ	柳瀬 洋美 他	191
資格科目	6400130	保育実習指導Ⅱ	丹羽 さがの 他	191
資格科目	6400140	保育実習指導Ⅲ	柳瀬 洋美 他	191

共 通 教 育 科 目

NO. G50101031

日本の文学

井上 眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代を生きる息苦しさや不安を感じてもそれが無いことのように振る舞うことが求められている現況について、「文学」を通して考えます。材料として現代のクールジャパンといわれているものと日本の古典をつないでみます。古文を読めるようになることがねらいではありません。人間の生の多様性と普遍性に触れることを第一義に考えます。しなやかな感性で古代の人々の声を聞いてみてください。現代に生きるわたしたちの社会が相対化されて見えてくることでしょう。

学習目標・到達目標

3.11を体験したわたしたちは、日常がどのようなものか、理解する機会を得ました。文学はその日常を意識化させ、人間理解を促すものです。文学に触れることで、「今、ここ」の現実にしぼられていただけの自分ではないことを理解しましょう。きっと他者の声も聞こえてくるはずです。文学を通して、人間理解を深めることが目標となります。

評価方法その他

平常点(各回授業レポートの提出)40%、ふりかえりシートの提出20%、期末レポート40%による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 現代の女性と平安文学「源氏物語」とエヴァンゲリオン
2. 違和感を生きる「虫めづる姫君」「狭衣」と海月姫
3. つながらない気持ち「鄙」にありて都を想う
4. 交響する和漢のことば 男の人との会話術(1)「枕草子」とナナ
5. 交響する和漢のことば 男の人との会話術(2)和漢朗詠集
6. やまとことばの葉を拾う(1)「古今集」の理念
7. やまとことばの葉を拾う(2)「古今集」のうた
8. ことばで恋する女たち 小町と「君の名は」
9. 異郷のものとし生きる「うつほ物語」と「シンゴジラ」
10. 「ひかり」の転生「竹取物語」とセーラムーン
11. 歴史を書き付ける(1)源氏物語ってどんな話？
12. 歴史を書き付ける(2)源氏物語の恋
13. 浮舟にあこがれて「更級日記」
14. 現し身を生きる 和泉式部という生き方
15. ふりかえりシートによるまとめ

使用教科書名

井上・鈴木・深沢編『平安文学十五講』翰林書房 定価980円＋税

NO. G50103001

文章表現法

内田 宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自分の考えや感情をことばで表現し相手に伝える技術は、人間が社会の中で他者と関わりながら生きていく上で必須のものである。本授業では、文章表現に関する理論的な考察および課題への取り組みを通じて、日本語表現力を向上させることをめざす。場面に応じた効果的な文章表現のありようを理解するとともに、その知識を自らの生活の中で応用し、実践できる力を養う。受講生自身が作業を行って実践的に学ぶ形式を取るため、教育効果を考慮して1クラスの受講定員を40名とする。受講希望者が40名を超えた場合は初回授業で抽選を行う。

学習目標・到達目標

自分の考えや感情をことばで相手に正確に分かりやすく伝える技術を学ぶとともに、場面に適切な日本語表現の使い分けを理解し、それらを自らの言語生活の中で実践しようとする姿勢を身につける。

評価方法その他

平常点30%、課題提出(トレーニングシート)70%。平常点は授業への参加状況、授業中に行う練習問題等への取り組み、グループ作業への参加等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。また、トレーニングシートも授業終了時に毎回必ず提出する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.授業運営に関するガイダンス、文章表現技術の必要性
- 2.上手な意見交換の方法を学ぶ
- 3.文章を読解する(アカデミックリーディング)
- 4.文章を要約する(パラグラフの分析)
- 5.データを集めて解釈する
- 6.プレゼンテーションを行う1 発表資料の作成
- 7.プレゼンテーションを行う2 発表の実践
- 8.ディベートの技法を学ぶ
- 9.口頭表現の基礎を押さえる
- 10.エントリーシートを作成する1 エントリーシートの基本
- 11.エントリーシートを作成する2 自己分析の基本
- 12.面接のコツを学ぶ
- 13.手紙を書く1 書式の基本
- 14.手紙を書く2 依頼の手紙の基本
- 15.手紙を書く3 手紙文作成の実践

使用教科書名

福岡健師・橋本修・安部朋世編著(2009)『大学生のための日本語表現トレーニング 実践編』三省堂

NO. G50102001

日本の言語と文化

内田 宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

言語には、それを使って生活する人々の文化や思考の枠組みが反映していると捉えられる面がある一方で、反対に、使用する言語が人の認識やものの見方に影響を与えようという側面も認められる。この授業では、日本語の構造やしくみについて分析を行うとともに、言語と文化との関係について、日本語を対象として具体的な事例をいくつか挙げてながら考察を行ってゆく。日本語という観点から日本文化を読み解くことを通じて、日本語や日本文化に対する理解および興味・関心を深めてゆくことをめざす。

学習目標・到達目標

日本語のしくみの基本を理解する。また、日本語と文化との関係について考えることを通じて、ことばに対する興味・関心を深める。

評価方法その他

平常点30%、期末試験70%。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。なお、出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.日本語の音声・音韻1 発音のしくみ
 - 2.日本語の音声・音韻2 母音と子音
 - 3.日本語の音声・音韻3 音素と異音
 - 4.日本語の音声・音韻4 音素設定の原則
 - 5.日本語の文字・表記1 文字の分類
 - 6.日本語の文字・表記2 日本語表記の特色
 - 7.日本語の語彙1 語彙とは何か
 - 8.日本語の語彙2 語種から見た日本語語彙の特色
 - 9.日本語の文法1 文法とは何か
 - 10.日本語の文法2 日本語のテンス
 - 11.日本語と文化1 ことばと文化の関係性
 - 12.日本語と文化2 サビア・ウォーフの仮説
 - 13.日本語と文化3 日本の文化と語彙
 - 14.日本語と文化4 日本の文化と方言
 - 15.日本語と文化5 方言分布のさまざま
 - 16.期末試験
- (履修者数や授業の進み具合によってスケジュールが変更になる場合もあります。)

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G50104001

外国の言語と文化

西村 晶絵

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フランスにおける女性や家族、移民に関わる諸問題を知ることで、受講者各自が、日本におけるそれらのあり方や、自分自身の立場について、相対化する視点を持てるようになることを目的とします。また、自らの見解を、積極的に表現できるようになることを目指します。

学習目標・到達目標

本講義では、女性、家族、移民という三つのテーマを住に、これらをめぐるフランスの状況がどのように変化してきたのかを知り、現在のフランスを理解する土台を固めます。さらに、フランスの事例との比較を通じて、日本社会や私たち自身の生き方について問い直し、これからの国際社会や日本社会の在り方について自発的に考えられるようになることを目標とします。

評価方法その他

平常点50% (授業への積極的な参加や貢献度、リアクションペーパーへの真摯な回答)、レポート50%によって評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. フランスについての基礎知識
3. モードと女性たち (1) : コルセットと女性の身体
4. モードと女性たち (2) : ココ・シャネルの登場
5. モードと女性たち (3) : イヴ・サンローランの特異性
6. モードと女性たちまとめ
7. 女性と家族制度 (1) : 家庭における女性の立場の変遷
8. 女性と家族制度 (2) : バックス(事実婚)の登場
9. 女性と家族制度 (3) : 同性婚解禁法の制定
10. 女性と家族制度まとめ
11. フランス社会と移民 (1) : 移民とは？
12. フランス社会と移民 (2) : 移民を取り巻く環境
13. フランス社会と移民 (3) : テロ事件はなぜ起きたのか？
14. フランス社会と移民まとめ
15. 総まとめ

使用教科書名

教科書は特に指定しません。適宜プリントを配布します。必要に応じて、参考文献も紹介します。

NO. G50105001	異文化コミュニケーション	畝部 典子
---------------	--------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「文化」「コミュニケーションの種類」「異文化トレーニングの方法」などについて学び、「文化の違いを調整するテクニック」を身につけることを目指す。具体的な場面を想定して、どのような行動をとることがベストであるか考える。授業ではワークシートに基づき自分の考えを時間内にまとめ、発表することが求められる。

学習目標・到達目標

グローバル化が進んだ現代において、情報・人・物が国境を越えて交じりあう現象は日常茶飯事となった。文化に対する理解が不足していれば、異文化間における不意な接触は緊張や摩擦を生み出すきっかけにもなる。この授業では、異文化の諸現象に直面したとき私たちはどのように考え行動すべきか、また文化の違いをどのように調整したらよいのか、異文化コミュニケーションの視点から考える。

評価方法その他

中間試験40％、期末試験40％、平常点20％により評価する。平常点は授業参加状況に基づき総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 文化とは何か
- コミュニケーション/異文化コミュニケーションの定義
- コミュニケーションのメカニズムと特性
- コミュニケーションの内容面と関係面
- 言語コミュニケーション
- 非言語コミュニケーションの種類
- 異文化トレーニング:映像演習
- 中間試験
- エンパシーとシンパシー
- コンフリクト・マネジメント
- 異文化トレーニング:DIEメソッド
- 異文化トレーニング:アサーティブ・コミュニケーション
- 異文化トレーニング:エポケー
- 異文化学習サイクル
- 異文化適応とカルチャーショック
- 期末試験

使用教科書名

なし(プリント配布)

NO. G50108001	美学・美術史	久夛楽 直子
---------------	--------	--------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は先史・古代からの美術の流れを概説する講義形式である。現在われわれが「美術館の中に安置された《美しいもの》」と考えがちな作品たちが、いかに多様な機能を持っていたか（そして今も持っているか）を知ってもらい、美術作品が生々しく、多弁で、多面的であるかということを授業の中でともに分かち合う。

学習目標・到達目標

西洋美術の流れを把握するのが目標である。なるべく多くの作例に触れてもらい、その中で、シンボル、象徴、アトリビュートといった視覚文化特有の「決まりごと」や、厳整に視覚化されてきたキリスト教主題、ギリシア・ローマ主題の内容と典拠についての知識を身につける。作品に触れ、考え、それを言葉で表現するという習慣も身につけたい。

評価方法その他

テストと提出物を主な評価対象とする(7割以上)。毎回取り組んでもらうワークシートが授業参加態度を評価する対象となる場合もある。提出物としては、展覧会見学レポートが予定されている。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 ガイダンス(履修と講義内容の説明／参考文献の紹介)
- 第2回 先史とエジプトの造形 ～人が形を象ること～
- 第3回 古代ギリシア・ローマの発想 ～外界を写すこと、理想の形を求めること～
- 第4回 キリスト教美術の始まり ～形態の抽象化とシンボルの世界～
- 第5回 ロマネスク・ゴシックの美術 ～教会という権力・メディア～
- 第6回 ルネサンス ～古代を学び復興するという発想～
- 第7回 初期ルネサンスと北方ルネサンス:古代を復興する夢／細部に神の宿る絵画
- 第8回 盛期ルネサンス:ローマと法皇たちの攻防とヴェネツィア
- 第9回 バロック・ロココ ～教会・宮廷の権力と芸術の役割～
- 第10回 新古典主義とロマン主義 ～権威となった様式、対抗する様式～
- 第11回 写実主義から印象派へ ～広がる芸術の裾野～
- 第12回 印象派と後期印象派 ～展覧会と美術の制作～
- 第13回 世紀末美術と象徴主義 ～美術と工芸・デザインの融合～
- 第14回 フォーヴィスム・キュビスム～20世紀美術 ～前衛という発想～
- 第15回 予備日(まとめ)

使用教科書名

教科書は特に指定しない

NO. G50107001	音楽	吉永 早苗
---------------	----	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

楽鑑賞の基本である「よく聴くこと」のために、サウンド・エデュケーションを行います。その一環として、サウンドワーク（フィールフォワーク）の実践や音日記のレポートに取り組んでいただきます。毎回の講義で、「本日の気づき」を書いていただきます。音楽を聴くことはもとより、音楽の聴き方の変化も楽しんでください。・講義時に次のテーマをお話ししますので、教科書の該当箇所を読んで予習しておきましょう。・講義で紹介する音楽や関連の音楽をCDあるいはYou Tube等で積極的に聴きましよう。

学習目標・到達目標

音楽の歴史と音楽様式の変遷をたどりながら、さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、人を癒し励ましたきた音楽の魅力を探る。サウンド・エデュケーションの体験を通して、「音」「音楽」への聴き方をとらえ直す。

1.さまざまな表現力を持つ音楽を鑑賞し、その発信するものを感じ、言い表そうとするものを探求する。

評価方法その他

レポート50％、リプレクションシート(授業への参加態度、振り返り)50％

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 聴き方の再考 (1) サウンド・エデュケーション
- 第2回 聴き方の再考 (2) サウンド・ワーク、音日記などの演習
- 第3回 聴き方の再考 (3) 五感で感受する音・音楽
- 第4回 人間と音楽 (1) 音楽の起源・音楽の機能
- 第5回 人間と音楽 (2) 音の表情や音楽に込められた情景や感情を感受する
- 第6回 西洋音楽の鑑賞 (1) ルネサンスからバロックの音楽
- 第7回 西洋音楽の鑑賞 (2) 古典派の音楽
- 第8回 西洋音楽の鑑賞 (3) ロマン派の音楽
- 第9回 西洋音楽の鑑賞 (4) 印象派の音楽から現代音楽
- 第10回 西洋音楽の鑑賞 (5) 音楽と社会
- 第11回 民族と音楽 (1) 民族の音階と音楽
- 第12回 民族と音楽 (2) 民族の楽器・歌唱 テ
- 第13回 民族と音楽 (3) アメリカの音楽
- 第14回 日本の音楽 (1) 伝統音楽
- 第15回 日本の音楽 (2) 近代から現代の音楽

使用教科書名

NO. G50109001	色彩論	滝沢 真美
---------------	-----	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

色彩学は物理学、光学、工学、生理学、心理学など広範囲な複合領域である。この授業では、幅広い色彩の分野を総合的に知り、基礎知識を習得することを目標にしている。その中で、感覚的に捉えられがちな色彩をマンセル体系に基づいたHUE&TONEシステムを通して、論理的に捉えられるようにする。配色実習を通して、日常生活の中で色彩を使いこなせるよう、配色の基本ルールとカラーイメージ表現の基礎を習得する。グローバル社会の中で文化としての日本の色について学び、高齢者や色弱者に対応するカラーユニバーサルデザインについて学ぶことで、色彩を通して社会を見つめる目を養う。

学習目標・到達目標

色の果たす役割や仕組みを理解し、目的に合わせて効果的に使えるようになること、色彩を通して社会を見つめる目を養うことを目標とする。

評価方法その他

定期試験80％＋配色トレーニング実習シート20％とし、出席状況や授業態度を加味して総合判断する。出席は全体の3分の2以上を必須とする。定期試験は60点以上を合格とする。試験の得点が60点未満の場合、および配色トレーニングシートを未提出の場合は不合格とする。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション 色の果たす役割 センスレベルチェック
- 色とは何か 照明と色
- 色が見えるしくみ 色覚説
- 色の混色
- 色の伝達方法 1)色名 2)様々なカラーシステム
- マンセルカラーシステムと色の3属性
- HUE&TONEシステム 1)色相のしくみ
- HUE&TONEシステム 2)トーンのしくみ 嗜好色診断
- 対比、同化、補色残像 色の心理的效果
- 10.2つの色の関係 配色実習1)まとまりときわだち
- 11.配色実習2)色相配色とトーン配色3)グラデーションとセパレーション
- 12..配色センスアップのポイントとカラーユニバーサルデザイン
- 13.配色トレーニング実習
- 14.色と象徴 色とイメージ 主な色の特徴
- 15.色と文化 日本の色
- 16.定期試験

使用教科書名

「カラーコーディネーター入門色彩 改訂増補版」大井義雄・川崎秀明著/日本色研事業株式会社/¥1500＋税
「カラーレッスンベーシック」/株式会社日本カラーデザイン研究所 /¥1700＋税

NO. G50111001 民俗学

西村 敏也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちは、古くから続く現象やそれがかたちとなったものの中で価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家などの大きな単位・社会集団にとっての、いわゆるハイカルチャーを想定していることが多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能、寿司などの日本食など・・・である。しかし、私たちは、これらと違う生活に密着した文化、すなわち民俗、民俗文化も価値あるものと考え、成文化せず、語りやしぐさといった方法で伝承してきた。それは、家族や一族、村など小さな単位・社会集団が保持する衣食住、冠婚葬祭、生業に関する民俗文化であるが、近代以後、特に高度経済

学習目標・到達目標

民俗学の概要、用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心の向上を計る。

評価方法その他

平常点(出席状況・授業態度・リアクションペーパー)50%、レポート50%

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 民俗・民俗文化の展開
- 民俗学の歴史―柳田国男とその批判継承―
- 家、家族、一族と住まいの民俗
- 食の民俗
- 村と都市の民俗の比較
- 若者と通過儀礼
- 婚姻・出産・育児の民俗
- 子供と老人
- 先祖祭祀と葬送儀礼
- 生業と民俗
- 年中行事―祭りの民俗―
- 村の民間信仰
- 参詣と講
- まとめ

使用教科書名

特に指定しない。毎回プリントを配布する。

NO. G50201001 基礎数学a

新海 公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

高校までの数学は、どの分野も基礎的で重要なものばかりである。授業では、高校までに学習した数学I・数学A・数学II・数学B・数学IIIの中から特に重要な項目を選び出して復習しそれを発展させることで知識を確実なものとし、さらに獲得した知識を、自然科学、工学のみならず、広く経済学、社会学等の様々な事象に活用する大切さを学ぶ。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題される問題を大まかにフォローすることができる。

学習目標・到達目標

文章問題、平面幾何、1次関数、2次関数、平方根・累乗根、指数の定義と指数法則、指数関数、対数の定義と対数法則、対数関数、不等式と領域

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、課題点(40点)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス、実際の公務員試験の問題にチャレンジ
- 第2週 文章問題(1)
- 第3週 文章問題(2)
- 第4週 平面幾何(1)
- 第5週 平面幾何(2)
- 第6週 2次関数
- 第7週 2次方程式・不等式
- 第8週 中間テスト
- 第9週 不等式の表す領域
- 第10週 線形計画
- 第11週 指数法則と指数関数
- 第12週 対数の定義と対数の値
- 第13週 対数法則と対数関数
- 第14週 指数の応用(1)
- 第15週 対数の応用(2)
- 第16週 期末テスト

使用教科書名

使用しない。プリントを配布して説明する。

NO. G5012001 考古学

小瀬 康行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

考古学は過去の人間が残した遺跡、遺構、遺物などを研究することによって、過去の人間に関する歴史を叙述する学問である。歴史学が古文書類など文字情報を基礎として歴史を復元するのに対して、考古学は遺跡・遺構・遺物を通して過去の人間の行動や生活を明らかにする点で両者の方法論に違いがある。考古学の研究方法は、理化学的な方法のほか、に隣接学、型式学的研究など年代を明らかにするさまざまな方法があることを学び、また対象とする遺跡や遺物の分析方法を理解することを通じて考古学に対する基礎的な理解力を養う。

学習目標・到達目標

今日、歴史教育や地域学習などさまざまな場面で考古学の成果が公開され活用されている。本講義では、考古学とは何を学ぶ学問なのか、考古学によって何がわかるのか、考古学ではどのような方法で研究がなされるのかなど、考古学に関する基礎的な知識を学ぶとともに、わが国のさまざまな遺跡を事例として各時代の文化に対する理解を深め、また発掘調査によって出土した遺跡、遺構、遺物を分析することによって、過去の人間の文化を明らかにする。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 考古学とは何か: 考古学が過去の人類文化と歴史を明らかにする学問であることを学ぶ。考古学の定義、対象とする年代、研究方法について理解する。
2. 考古学の発展史: 考古学がどのように発達してきたのか、ヨーロッパにおける発掘調査と考古学について理解する。
3. 考古学が扱う年代: 考古学資料によって歴史を復元するために、年代を決定する必要性と考古学について述べる。
4. 考古学と年代(1) 理化学的年代測定法: 14年代法、熱ルミネッセンス法、年輪年代法他等の理化学的な年代測定方法を理解する。
5. 考古学と年代(2) 層位学的年代測定法: 地質学の原理、地層学重の法則、火山灰年代法等を理解する。
6. 考古学と年代(3) 型式学的方法の原理: モンテリウスの型式学、一括遺物の考え方を理解する。
7. 考古学と年代(4) 銅鐸の形態的変遷を中心にして痕跡器官の考え方を理解する。
8. 縄文時代(1) 縄文時代の代表的な遺跡(三内丸山遺跡他)をとりあげて、縄文時代の環境、生活、文化について学ぶ。
9. 縄文時代(2) 縄文時代の遺跡から出土した遺物について、その特徴と機能について学ぶ。
10. 弥生時代(1) 弥生時代の代表的な遺跡(吉野ヶ里遺跡他)を取り上げて、弥生時代の生活や文化について学ぶ。
11. 弥生時代(2) 弥生時代の遺跡から出土した遺物について、その特徴と機能を学ぶ。
12. 古墳時代(1) 代表的な古墳を取り上げて、その形状や副葬品などから古墳時代の文化を考える。
13. 古墳時代(2) 古墳から出土する遺物(埴輪、副葬品など)をから古墳時代文化を考える。

使用教科書名

資料は授業中に配布する。

NO. G50202001 基礎数学b

新海 公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

高校までの数学は、どの分野も基礎的で重要なものばかりである。授業では、前期開講科目の「基礎数学a」で扱ったテーマ以外で、高校までに学習した数学I・数学A・数学II・数学B・数学IIIの中から特に重要な項目を選び出して復習しそれを発展させることで知識を確実なものとし、さらに獲得した知識を、自然科学、工学のみならず、広く経済学、社会学等の様々な事象に活用する大切さを学ぶ。基礎数学aと基礎数学bを履修することで、公務員試験やSPI試験で出題される問題を大まかにフォローすることができる。

学習目標・到達目標

等差数列、等比数列、フラクタル図形、群数列、3角化、正弦定理、余弦定理、測量、数的推理、判断推理、資料解釈

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、課題点(40点)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 等差数列、等差数列の和
- 第2週 等比数列、等比数列の和
- 第3週 フラクタル図形
- 第4週 群数列
- 第5週 3角比
- 第6週 正弦定理と余弦定理
- 第7週 測量
- 第8週 中間試験
- 第9週 数的推理(1)
- 第10週 数的推理(2)
- 第11週 数的推理(3)
- 第12週 判断推理(1)
- 第13週 判断推理(2)
- 第14週 資料解釈(1)
- 第15週 資料解釈(2)
- 第16週 期末テスト

使用教科書名

使用しない。プリントを配布して説明する。

NO. G50203001	数学トピックス
新海 公昭	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日常にはたくさんの「不思議」がある。
A4サイズの紙の縦と横の長さはどのような基準で決めたのか？
なぜカーナビは現在の位置情報を正確に把握できるのか？
などである。高校までで学んだ数学を、有機的に結合させることで「身の回りの不思議」のいくつかを解決することができる。トピック的に取り上げて「先人たちのアイデアや知恵」について解説しながら、数学のおもしろさを味わう。
＊毎回の授業では、はさみ、のり、定規、コンパスを持参すること。

学習目標・到達目標

数学のおもしろさを味わう。
数学の奥深さを味わう。
数学の応用範囲の広さを味わう。
数学の長い歴史を味わう。
数学的なものの考え方を味わう。

評価方法その他

中間テスト(20点)、期末テスト(20点)、平常点(60点)
(平常点は、課題への取り組みと授業への貢献度(授業内での発表や質問)を総合的に評価する)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス、因数分解のクイズ、カプレカ数、黄金比、白银比(数のおもしろさ)
- 第2週 六角将棋1(論理のおもしろさ)
- 第3週 六角将棋2(論理のおもしろさ)
- 第4週 空間図形の展開図1(図形のおもしろさ)
- 第5週 空間図形の展開図2(図形のおもしろさ)
- 第6週 n進数を利用したゲーム1(情報理論)
- 第7週 n進数を利用したゲーム2(情報理論)、中間レポート
- 第8週 一弦ギター1(算数と音楽)
- 第9週 一弦ギター2(算数と音楽)
- 第10週 一弦ギター3(算数と音楽)
- 第11週 複利計算(社会生活と数学)
- 第12週 GPSのしくみ(図形の科学)
- 第13週 ファジ理論(複雑系)
- 第14週 和算と洋算1(数学の歴史)
- 第15週 和算と洋算2(数学の歴史)
- 第16週 定期テスト

使用教科書名

使用しない。プリントを配布して説明する。

NO. G50204001	基礎統計学a
新海 公昭	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業では、統計の考え方、計算方法を基礎から詳しく解説する。まずは平均値、分散、標準偏差のような基本統計量を学ぶことでいかなるデータに対しても計算でき、かつ、その意味を理解し応用できるようにする。次に、2変量のデータ解析の基本として相関分析、回帰分析を学ぶ。最後は、推測統計学の基礎として、離散型確率分布や連続型確率分布などにおける確率計算を理解することで、推定、検定の考え方の基礎を学ぶ。毎回の講義では、事例を複数提示するので、様々な事象への応用に触れることができる。

学習目標・到達目標

1変量のデータの処理、2つの変量の関係を探る、場合の数と確率、確率分布、標本分布と中心極限定理、統計的推定、統計的仮説検定

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、課題点(40点)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス、平均値、再頻値、中央値
- 第2週 箱ひげ図、分散、標準偏差
- 第3週 散布図、共分散
- 第4週 相関係数と回帰式
- 第5週 回帰式と重回帰式
- 第6週 中間テスト
- 第7週 離散型確率変数と確率計算
- 第8週 確率変数と変数変換
- 第9週 連続型確率分布
- 第10週 連続型確率変数の確率計算
- 第11週 正規分布と標準正規分布
- 第12週 正規分布表を用いた確率計算1
- 第13週 正規分布表を用いた確率計算2
- 第14週 推定:中心極限定理と区間推定
- 第15週 検定:統計的仮説検定(z検定、t検定)
- 第16週 期末テスト

使用教科書名

教科書 統計学がよくわかる本
著者 宮田庸一
出版社 アイ・ワイコーポレーション

NO. G50205001	基礎統計学b
新海 公昭	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

最初に前期開講科目である「基礎統計学a」で学習した基本統計量（平均値、分散、標準偏差、共分散）、相関分析、回帰分析（重回帰分析）、確率分布を復習する。その後、実際のデータ処理・分析で必要となる可能性が高い「統計的推定」および「統計的仮説検定」を中心に解説し多数の事例を紹介する。具体的には、点推定、区間推定、母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定、適合度の検定などである。EXCEL等の統計ソフトを用いて、積極的に実践的なデータ分析を行う。

学習目標・到達目標

2つの変量の関係を探る、確率分布(正規分布、t分布、 χ^2 分布、F分布など)、標本分布と中心極限定理、統計的推定、統計的仮説検定、統計ソフトを用いた実践的なデータ分析

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、課題点(40点)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 離散型確率変数と確率計算
- 第2週 確率変数の変数変換
- 第3週 連続型確率変数と確率計算
- 第4週 正規分布表を用いた確率計算(1)
- 第5週 正規分布表を用いた確率計算(2)
- 第6週 中間テスト
- 第7週 標本分布と中心極限定理
- 第8週 統計的推定(点推定)
- 第9週 統計的推定(区間推定)
- 第10週 推定の事例研究
- 第11週 統計的仮説検定の概要
- 第12週 検定(1)
- 第13週 検定(2)
- 第14週 分散分析
- 第15週 検定の事例研究
- 第16週 期末テスト

使用教科書名

教科書 統計学がよくわかる本
著者 宮田庸一
出版社 アイ・ワイコーポレーション

NO. G50206031	情報論
田中 康裕	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

情報を処理する機械としてのコンピュータを対象にして、情報に関する基礎的なことを学ぶ。そして、情報の表現方法や問題を解決するためのモデル化について考える。また、コンピュータで情報を処理する上での考え方を学び、情報を処理する方法の基礎を理解する。それは明確な手続きであるアルゴリズムを理解することにつながり、アルゴリズムを評価することによって情報を処理する効率について考えることができる。
履修条件: 学内ネットワークに対するアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

コンピュータの観点から情報の基本的特性を十分説明することができ、問題を解決する方法を考えることができる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(10 %)、提出物(75 %)、試験(15 %)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1. 情報とは(ガイダンスを含む)
- 2. 文字・音の表現
- 3. 画像・動画の表現
- 4. 問題のグラフによるモデル化
- 5. 数学的な解決
- 6. データの処理
- 7. オブジェクト指向
- 8. アルゴリズム
- 9. 同じ問題を解くいろいろなアルゴリズム
- 10. アルゴリズムの評価
- 11. アルゴリズムの基礎
- 12. 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア
- 13. 情報伝達の仕組み
- 14. 情報処理の歴史
- 15. 言語の定義と解釈
- 16. 試験

使用教科書名

NO. G50207001

コンピュータ概論

田中 康裕

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータについてハードウェアの構成を学び、コンピュータの特徴を理解する。そして、その構成と特徴に基づいてコンピュータが計算する仕組みを考えていく。また、コンピュータを動かす基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステムについても学ぶ。オペレーティングシステムが、ハードウェアを有効に使うことで複数の処理を行い、情報をファイルとして管理していることを理解する。履修条件: パソコン室のコンピュータを利用できること。また、@kasei-gakuin.ac.jp Gmail など、大学が用意しているネットワークサービスを利用できること。

学習目標・到達目標

基本的な概念を十分理解し、コンピュータの計算に際する基礎的な知識と考え方を身につけることができる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5 %), 提出物(75 %), 試験(20 %)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス
2. 情報システムのイメージ
3. 情報を処理する仕組みとその改善
4. コンピュータシステムの機能と性能
5. コンピュータの導入とアーキテクチャ
6. コンピュータの構成
7. 実行順序を変える命令
8. ループ
9. ループを終える処理
10. 条件によって分岐先を変えるプログラム
11. オペレーティングシステムとプログラム
12. メモリとファイルの管理
13. 情報ネットワークの環境
14. 情報セキュリティ
15. コンピュータの歴史
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G50208001

コンピュータ演習 a (D)

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5 %), 提出物(80 %), 試験(15 %)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G50208031

コンピュータ演習 a

田中 康裕

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っていること。

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5 %), 提出物(80 %), 試験(15 %)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 試験

使用教科書名

特に教科書は使用しない。講義内で適宜プリントを配布。

NO. G50208032

コンピュータ演習 a

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。

履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウントを持っている

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%), 提出物(80%), 試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

NO. G50208034

コンピュータ演習 a

原田 一義

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータにおける情報の取り扱いや身近な情報環境である学内ネットワークの利用から学び始める。そして、インターネットでの情報検索やコミュニケーションの基礎を学ぶ。また、コンピュータを利用して文書やスライドを作成する。演習を通して、大学での学習や研究に活かせる情報リテラシーを身につける。これらの基礎的な学びやリテラシーは現代の情報化社会では必須であり、コンピュータを利用した演習は社会への適応力を養うことにつながる。

【履修条件】

学習目標・到達目標

文書やプレゼンテーションを作成するソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それらを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%), 提出物(80%), 試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. タイピング入門
3. メールの送受信・文章入力練習
4. 簡単な文書の作成
5. ページと編集
6. 文書の作成練習
7. ファイル操作
8. 文字飾り
9. オブジェクトの挿入
10. 図形入力
11. 表の作成
12. 高度な表の作成・罫線処理
13. プレゼンテーション作成入門
14. プレゼンテーションの編集
15. プレゼンテーションの作成練習
16. 期末試験(コンピュータを使用しての実技試験)

使用教科書名

特に指定しない。授業中に資料(紙に印刷したものやPowerPoint等のファイル)を配布する。

NO. G50209001

コンピュータ演習 b

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学びや能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。履修条件: @kasei-gakuin.ac.jp Gmail を使うことができること。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%), 提出物(80%), 試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G50209031

コンピュータ演習 b

田中 康裕

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学びや能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。

履修条件: 大学が発行する各種のシステムを利用するためのアカウント（特に @kasei-gakuin.ac.jp のメールアドレス）を持っていること。また、「コンピュータ演習 a」を履修済であることが望ましい。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%), 提出物(80%), 試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。適宜講義内でプリントを配布する。

NO. G50209032

コンピュータ演習 b

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学びや能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。

履修条件: @kasei-gakuin.ac.jp Gmail を使うことができること。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを自らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%), 提出物(80%), 試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

NO. G50209034

コンピュータ演習b

原田 一義

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コンピュータを利用した表計算の演習を通して、情報リテラシーの中でも特に情報処理能力を身につける。また、多様な図表やグラフの特性を理解し、情報やその処理結果を適切に視覚化できる技法の基礎を学ぶ。これらの基礎的な学びや能力によって、コンピュータが計算する道具であることや情報を表現する道具であることを深く理解する。総合的な情報リテラシーを向上させる演習にも取り組む。

【履修条件】

大学から発行された以下の2つのアカウントが利用可能であること。

学習目標・到達目標

表計算ソフトウェアの基本的な概念を十分理解し、利用することができる。そして、それを見らさまざまな授業や学習・研究に活かすことができるようになる。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)，提出物(80%)，試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. データ入力の基本操作
2. 数式入力・関数挿入の基本操作
3. 数学関数の説明・練習
4. 論理関数の説明・練習
5. 統計関数の説明
6. 統計関数の練習
7. 条件判断
8. グラフ作成の説明
9. グラフ作成の練習
10. データ操作(整列)の説明・練習
11. データ操作(抽出)の説明・練習
12. 検索関数の説明・練習
13. 文字列関数の説明・練習
14. 文書への表の貼り付け
15. 文書へのグラフの貼り付け
16. 期末試験(コンピュータを使用しての実技試験)

使用教科書名

特に指定しない。授業中に資料(紙に印刷したものとPowerPoint等のファイル)を配布する。

NO. G50301001

人間の体

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

メディアによる体の情報は溢れる毎日である。正しい情報を得るためにも、自身の体についてしっかりとした知識をもっている必要がある。人の体の基本的なことから、運動や環境に左右される人の生理学的値についても修得していく。人の体を形態、機能、食事(栄養)、運動、加齢といったキーワードから考えていく。視覚教材を十分に利用し体の理解を深める事に重点を置く。自身の体に関心を持つ事によって疾病への予防、対策について考えられるようにしていく。

学習目標・到達目標

体の知識について正確な情報を選択できる能力を身につける。体の形態と機能について理解し栄養と食事との関連についても知識を身につける。多くの情報があふれる中で、自身の体について学習し人の生きる事の重要性についても考えていく。また、環境と人間の体の関連性についても理解を深める。

評価方法その他

出席を重視する。毎回の小テストと平常点の総合評価とする。毎回の小テスト60%、テスト40%。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス なぜ人の体について学ぶことは重要か
2. 人の体 形態と機能
3. 人の動きを決定する脳
4. 骨格と神経系
5. 運動と筋肉、神経(反射)
6. 病気と健康の間
7. 栄養と運動とダイエット
8. 呼吸・循環系
9. 運動と呼吸・循環系の変化
10. 環境の変化が人の体にもたらす影響(温度、湿度)
11. 人の体の数値とその変化
12. 運動による人の体の変化
13. 加齢による人の体の変化
14. 体の数値の変化(疾病)
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

授業時に適宜指示する。

NO. G50302001

ダイエットとフィットネス

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ダイエットは女子大生にとって関心の事柄の一つです。ダイエットをしてはリバウンドをしてという繰り返しもあるでしょう。正しいダイエットというものはありませんが、体に無理なダイエットはいつしか体の疲弊を招く恐ろしい現象につながっていきます。食事療法と運動療法はダイエットの両輪ですが、ここでは運動療法を中心に、具体的なダイエットの理論と実践のための知識を学びます。

学習目標・到達目標

ダイエットの正しい意味を理解し、運動と栄養と休息のバランスの取れた生活習慣の形成ができることをめざします。多くのダイエットに関する情報に振り回されず、自身を取り巻く環境を見つめ何が自分に合った正しいダイエット方法なのかを知ること。さらに生涯を通じて運動やバランスのとれた栄養の摂取がいかに大切であるかを知ることが目的とします。

評価方法その他

出席を重視するが、毎授業時の小テストとの総合評価とする平常点50%、テスト50%。

週 テーマ・授業目標等

1. ダイエットとフィットネスの関係
2. 体の構造
3. 体の機能
4. ダイエットの抱える課題
5. 生活習慣病
6. 運動とエネルギー代謝
7. 食事療法と運動療法
8. 有酸素運動と無酸素運動
9. 体力を計る方法
10. トレーニングの方法
11. トレーニングの効果、寿命
12. 運動と栄養
13. 運動と疲労、疲労の回復
14. 運動の怪我、リスクマネジメント
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G50305001

レクリエーション概論

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本のレクリエーション活動小史を把握し日本人の「レクリエーション」観を反省する。また、現行のレクリエーション活動援助や組織、その他の関連領域を把握すること。

学習目標・到達目標

遊びやレクリエーションがわれわれの生活にとって如何に重要なことであるかを理解すること。

評価方法その他

平常点50%、テスト50%で判定する。
(平常点はプログラムの達成状況・レポート提出・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 遊びとレクリエーション
2. 厚生思想(保養と厚生理念)
3. いろいろな場面のレクリエーション(2004年屈斜路湖カヌー事故など)
4. これからのレクリエーション運動
5. レクリエーション支援の理論1(福祉施設の現状・静岡・八王子・相模原3都市の比較)
6. レクリエーション支援の理論2(地域の現状)
7. レクリエーション支援の目標と理念(生きがいとレクリエーション)
8. レクリエーション支援者の役割
9. レポート課題(三世代のレクリエーション)
10. レクリエーション組織の経営論1(クラブを育て運営する)
11. レクリエーション組織の経営論2(市町村レクリエーション協会の役割と経営)
12. レクリエーション組織の経営論3(レクリエーションを支える組織とその役割)
13. レクリエーションサービス論1(趣味としてのレクリエーション・事業を実施する)
14. レクリエーションサービス論2(事業を評価する)
15. レクリエーションサービス論3(事業と安全・保険について)
16. テスト

使用教科書名

授業中に配布するプリントを参照すること。

NO. G50306001 健康スポーツ演習 a

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

レクリエーションやスポーツ活動を通して健康についてメンバーに示唆を与え、お互いに情報を交換することで技能も伸ばしていくことをねらいとする。後半ではフライフィッシングのキャスティング技術について学ぶ。

学習目標・到達目標

さまざまなゲーム・スポーツ経験から、活動のマナーを知り、健康増進をはかるとともに、他者と接する体験を通じて自分の身体(自分自身)を知ること。

評価方法その他

平常点50％、テスト50％で判定する。
(平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 室内レクリエーション(PA系ゲーム)
3. 室内レクリエーション(仲間作りのゲーム)
4. 室内レクリエーション(仲間作りのゲーム)
5. 室内レクリエーション(仲間作りのゲーム)
6. ウォーキング
7. 柔軟体操とゲーム
8. 視聴覚教材といろいろな運動種目
9. さまざまなゲーム・スポーツ(ドッジ・フライングディスクなど)
10. さまざまなゲーム・スポーツ(カップスタックス・剣玉ほか)
11. (フライキャスティング1) グリップからベーシックキャスト
12. (フライキャスティング2) ショートレンジ
13. (フライキャスティング3) ロングディスタンス
14. (フライキャスティング4) トリックキャスト
15. アキュラシーテスト1
16. ロングディスタンステスト2

使用教科書名

NO. G50306002 健康スポーツ演習 a

外川 重信

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながら楽しむことを前提とした授業とする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して学習していく。

学習目標・到達目標

最もポピュラーなスポーツを積極的に経験することで、生涯スポーツとしてのおもしろさを体感し、体力の維持・向上に寄与する。

評価方法その他

授業内評価とし、平常点(50％)、運動能力(30％)、ルールなどのスポーツの理解度(20％)を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 バレーボール(トスとサーブ)
- 3 バレーボール(レシーブとアタック)
- 4 バレーボール(ミニゲーム)
- 5 バレーボール(ゲーム)
- 6 テニス又はソフトボール(基本技術)
- 7 バasketボール(基本技術)
- 8 バasketボール(マンツーマンディフェンス)
- 9 バasketボール(ゾーンディフェンス)
- 10 バドミントン(基本技術)
- 11 バドミントン(ゲーム)
- 12 卓球(ゲーム)
- 13 フットサル(基本技術)
- 14 ラグビー(基本技術)
- 15 まとめ

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50306004 健康スポーツ演習 a

宮崎 晃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

①身体の調和
呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、
自己の身体の特性を理解し、
筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。

②心身の調和
身体と精神を呼吸でつなぎ、
いま、ここにいる自分を実感する。

学習目標・到達目標

基本的なポーズ（アーサナ）の連続による「太陽礼拝」を、
呼吸にのせて、自分らしくこなせるようになる。

ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を学び、理解を深める。

評価方法その他

平常点(40％)、課題(提出物)(20％)、実技テスト(40％)。
(平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、
コメント票の内容等で、総合的に評価する)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション／ 授業内容・進め方の説明
2. ヨガの概要／呼吸法、基本のポーズの実践
3. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ①(呼吸を深める)
4. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ②(身体部位への意識を高める)
5. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ③(逆転のポーズ)
6. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ④(ねじりのポーズ)
7. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ⑤(バランスのポーズ)
8. 講義：ヨガの歴史、ヨガの哲学、課題(提出物)の提示
9. 課題の振り返り。 実技：立位、座位ポーズ⑥(チャクラ)
10. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ⑦(後屈、前屈のポーズ)
11. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ⑧(総まとめ)
12. 実技：テスト課題の練習①(背骨や骨格の意識を高める)
13. 実技：テスト課題の練習②(呼吸とのつながりを深める)
14. 実技：テスト課題の練習③(流れるようにのびのび行う)
15. 実技：テスト課題の練習④(総まとめ)
16. 実技テスト

習熟度、天候、月の満ち欠け等に応じて、適時、適切なプログラムを行う。

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50306031 健康スポーツ演習 a

江川 賢一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

バドミントン、バレーボール、バスケッボール、卓球などをゲーム中心で実施する。後半は話し合いで種目を決める。

学習目標・到達目標

いろいろなスポーツのルール、楽しさ、運動強度を知り、将来生活の中にスポーツを定着させる基礎を形成する。

評価方法その他

100％平常点(出席点90％、授業態度10％)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 バドミントン
- 3 バドミントン
- 4 バレーボール
- 5 バレーボール
- 4 バasketボール
- 5 バasketボール
- 5 卓球
- 6 卓球
- 10 種目は話し合いで決定する
- 11 種目は話し合いで決定する
- 12 種目は話し合いで決定する
- 13 種目は話し合いで決定する
- 14 種目は話し合いで決定する
- 15 まとめ

使用教科書名

なし

NO. G50306034

健康スポーツ演習 a

金指 みの利

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

種目：フィットネス
自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して、体を動かしていきます。
体の不調を予防したり、リラックス効果を得るために、ストレッチ、筋力トレーニングを行います。また、持久力向上を目指し、有酸素運動のエアロビクスダンスを行います。音楽に合わせてリズムカルに動くことで、ストレス発散も目的としています。

学習目標・到達目標

自分の体力、体調に合った体の動かし方を知る。
また、自分の体に向かい合い、運動することの楽しさと気持ちよさを体感する。
定期的に運動することの意義を考え、運動をライフサイクルの中に取り入れる基盤づくりをする。

評価方法その他

平常点50%（授業への参加状況）、授業態度、取り組み30%、授業時の提出物20%の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. ストレッチ①、体の力を抜いてみる
3. ストレッチ②、体の重心を考える
4. ストレッチ③、体幹を考える
5. 体幹トレーニング
6. バランスボール①:体幹トレーニング
7. バランスボール②:筋力トレーニング
8. バランスボール③:まとめ
9. セルフマッサージ①:一人で行うマッサージ
10. セルフマッサージ②:二人組みで行うマッサージ
11. エアロビクスダンス①:有酸素運動とは
12. エアロビクスダンス②:足の動きを中心に
13. エアロビクスダンス③:手の動きを考える
14. エアロビクスダンス④:ハインバクト(跳躍系の動き)
15. エアロビクスダンス⑤:まとめ

使用教科書名

なし
資料は授業内で配布します。

NO. G50307001

健康スポーツ演習 b

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卓球は気軽に始められるスポーツですが、自己の技術の進歩とともに運動量は大きなものとなっていきます。反射的な動きが求められるとともに、いろいろと作戦を考えながら試合運びをしていく楽しさもあります。ダブルスゲームを中心に行いながらチームワークとコンビネーションの大切さを学んでください。

学習目標・到達目標

卓球を通してスポーツの楽しさを身につけ、生涯を通してスポーツをすることの素晴らしさを理解する。スポーツが、それぞれの発育発達段階で身体へ及ぼす影響について考えられる力を習得する。さらにスポーツのルールの重要性についても考えていく。

評価方法その他

出席と授業時の総合評価とします。平常点50%、授業時評価50%。

週 テーマ・授業目標等

1. フォアハンドドライブ
2. フォアハンドドライブ
3. フォアハンドドライブとショートカット
4. サーブ練習とサーブからレシーブ
5. フォアハンドドライブとカット練習
6. ラリーからスマッシュの練習
7. バックハンドの練習
8. クロス打ちの練習
9. ルールと簡易ゲーム
10. ダブルスゲーム
11. ダブルスゲーム
12. ダブルスゲーム
13. ダブルスゲーム
14. ダブルスゲーム
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50307002

健康スポーツ演習 b

外川 重信

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

レクリエーション・スポーツの中から、主にポピュラーな球技を中心に運動を行う。ゲームを中心として、ルール・マナーを守りながら楽しむことを前提とした授業とする。またスポーツ運動の科学的理論について実際に実技体験を通して学習していく。

学習目標・到達目標

最もポピュラーなスポーツを積極的に経験することで、生涯スポーツとしてのおもしろさを体感し、体力の維持・向上に寄与する。

評価方法その他

授業内評価とし、平常点(50%)、運動能力(30%)、ルールなどのスポーツの理解度(20%)を総合して評価する。平常点は、授業への参加状況、学習意欲などで総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. バレーボール(トスとサーブ)
3. バレーボール(レシーブとアタック)
4. バレーボール(ミニゲーム)
5. バレーボール(ゲーム)
6. テニス又はソフトボール(基本技術)
7. バasketボール(基本技術)
8. バasketボール(マンツーマンデフェンス)
9. バasketボール(ゾーンデフェンス)
10. バドミントン(基本技術)
11. バドミントン(ゲーム)
12. 卓球(ゲーム)
13. フットサル(基本技術)
14. ラグビー(基本技術)
15. まとめ

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50307005

健康スポーツ演習 b

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

さまざまなゲーム・スポーツを経験することで、その技能を修得し、仲間との情報交換、ビデオやスローモーション映像等の確認によって自他の能力を発展させること。

学習目標・到達目標

レクリエーションやゲーム・スポーツの場を通して、健康についてメンバーに示唆を与え、お互いの情報を交換することで技能も伸ばしていくことをおらいとする。

評価方法その他

平常点50%、作品・レポート等50%、テストを実施した場合にはテスト50%で総合的に判定する。
(平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. ウォーキング
3. 柔軟体操とゲーム
4. 視聴覚教材といろいろな運動種目
5. さまざまなゲーム・スポーツ ドッジ・フライングディスクなど
6. さまざまなゲーム・スポーツ カップスタックスほか
7. さまざまなゲーム・スポーツ 室内ゲーム
8. さまざまなゲーム・スポーツ 室内ゲーム
9. さまざまなゲーム・スポーツ Wii Sports
10. さまざまなゲーム・スポーツ Wii Sports
11. 映画化されたスポーツ I
12. 映画化されたスポーツ II
13. ゲーム・スポーツ・レクリエーション映像をつくる I
14. ゲーム・スポーツ・レクリエーション映像をつくる II
15. 作品紹介

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50307007 健康スポーツ演習b

宮崎 晃子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

①身体の調和
呼吸、ポーズ（アーサナ）を通して、
自己の身体の特性を理解し、
筋力、バランス力、体力、柔軟性を高める。

②心身の調和
身体と精神を呼吸でつなぎ、
いま、ここにいる自分を実感する。

学習目標・到達目標

基本的なポーズ（アーサナ）の連続による「太陽礼拝」を、
呼吸にのせて、自分らしくおこなえるようになる。

ヨガの哲学（ラージャ・ヨーガの八支則）を学び、理解を深める。

評価方法その他

平常点（40％）、課題（提出物）（20％）、実技テスト（40％）。
（平常点は、授業への参加状況、授業態度、服装、髪型、
コメント票の内容等で、総合的に評価する）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション／ 授業内容・進め方の説明
2. ヨガの概要／呼吸法、基本のポーズの実践
3. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ①（呼吸を深める）
4. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ②（身体部位への意識を高める）
5. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ③（逆転のポーズ）
6. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ④（ねじりのポーズ）
7. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ⑤（バランスのポーズ）
8. 講義：ヨガの歴史、ヨガの哲学、課題（提出物）の提示
9. 課題の振り返り。 実技：立位、座位ポーズ⑥（チャクラ）
10. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ⑦（後屈、前屈のポーズ）
11. 実技：立位ポーズ、座位ポーズ⑧（総まとめ）
12. 実技：テスト課題の練習①（背骨や骨格の意識を高める）
13. 実技：テスト課題の練習②（呼吸とのつながりを深める）
14. 実技：テスト課題の練習③（流れるようにのびのび行う）
15. 実技：テスト課題の練習④（総まとめ）
16. 実技テスト

習熟度、天候、月の満ち欠け等により、適時、適切なプログラムを行う。

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50307034 健康スポーツ演習b

金指 みの利

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

種目：フィットネス
自分の体の癖を知り、姿勢や体のバランスを意識して、体を動かしていきます。
体の不調を予防したり、リラックス効果を得るために、ストレッチ、筋力トレーニングを行います。また、持久力向上を目指し、有酸素運動のエアロビクスダンスを行います。音楽に合わせてリズムカルに動くことで、ストレス発散も目的としています。

学習目標・到達目標

自分の体力、体調に合った体の動かし方を知る。
また、自分の体と向かい合い、運動をすることの楽しさと気持ちよさを体感する。
定期的に運動をすることの意義を考え、運動をライフサイクルの中に取り入れる基盤づくりをする。

評価方法その他

平常点50％（授業への参加状況）、授業態度、取り組み30％、授業時の提出物20％の
総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. ストレッチ①、体の力を抜いてみる
3. ストレッチ②、体の重心を考える
4. ストレッチ③、体幹を考える
5. 体幹トレーニング
6. バランスボール①：体幹トレーニング
7. バランスボール②：筋力トレーニング
8. バランスボール③：まとめ
9. セルフマッサージ①：一人で行うマッサージ
10. セルフマッサージ②：二人組みで行うマッサージ
11. エアロビクスダンス①：有酸素運動とは
12. エアロビクスダンス②：足の動きを中心に
13. エアロビクスダンス③：手の動きを考える
14. エアロビクスダンス④：ハイインパクト（跳躍系の動き）
15. エアロビクスダンス⑤：まとめ

使用教科書名

なし。
資料は授業内で配布します。

NO. G50307031 健康スポーツ演習b

江川 賢一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球などをゲーム中心で実施する。
後半は話し合いで種目を決める。

学習目標・到達目標

いろいろなスポーツのルール、楽しさ、運動強度を知り、将来生活の中にスポーツを定着させる基
礎を形成する。

評価方法その他

100％平常点（出席点90％、授業態度10％）

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 バドミントン
- 3 バドミントン
- 4 バレーボール
- 5 バレーボール
- 4 バスケットボール
- 5 バスケットボール
- 5 卓球
- 6 卓球
- 10 種目は話し合いで決定する
- 11 種目は話し合いで決定する
- 12 種目は話し合いで決定する
- 13 種目は話し合いで決定する
- 14 種目は話し合いで決定する
- 15 まとめ

使用教科書名

なし

NO. G50308001 健康スポーツ演習c

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

長野県にある独立行政法人国立信州高遠少年自然の家のカンパ場を使用しての、本
格的アウトドアキャンブプログラムを展開する。プログラム内容は環境教育、冒険教
育を中心に4泊5日の期間で自然環境と人間の関わりについて様々な観点から学んでい
く。また大自然の中での生活の知識や技術の実践を通して、個々人がたくましく生き
る力を身につけることを目的としている。実習終了後、希望者は（社）日本キャンブ
協会公認「キャンブ・インストラクター」の資格を取得することができる。

学習目標・到達目標

人と自然とのつながりについて理解を深め、人は自然豊かな環境の中で成長することの重要性に
ついて理解する。さらに、環境教育と自然保護の重要についても理解する。

評価方法その他

実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。

週 テーマ・授業目標等

- 8月下旬から9月中旬4泊5日 独立行政法人国立信州高遠少年自然の家キャンプ場
30名
- *本授業終了後に、申請を希望した場合は（社）日本キャンブ協会公認「キャンブ・イン
ストラクター」の資格を取得できる。
- 1日目 新宿よりバス（貸し切り）にて現地 テントの設営、アイスブレイクゲーム、周辺の散
策、野外炊事、ナイトハイキング
- 2日目 ハイキング（沢登り）、野外科理コンテスト
- 3日目 アウトドアゲーム、工作、野宿（キャンプ場から1時間程度歩いた山の中での炊事と
ソロでの宿泊体験）
- 4日目 周辺散策
- 5日目 キャンプサイトの片づけ、バス（貸し切り）にて新宿到着後解散
- *本実習は4泊12食全て野外炊事となります。
- *キャンプ場はシャワー施設が完備しています。
- *実習中のキャンブに必要な用具等は全て大学で用意します

使用教科書名

NO. G50308002

健康スポーツ演習 c

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1. 東京都あきる野市にある養沢川の自然環境に親しむ
2. 水生の動植物を知る (K)
3. 溪流魚（ヤマメ・イワナ・ニジマス）の特性を知る (K)
4. フライ（毛鉤）や道具のことを知り、技能を身につける (K)
5. フライフィッシングを通して環境と如何にマッチしていくべきかを学ぶ (V)
6. フライフィッシングをARTにまで高める基礎をつくる (A)

学習目標・到達目標

フライフィッシングを通じて、野外活動の楽しみ、その奥義を見極めること。東京都あきる野市にある養沢毛鉤専用釣場（トーマス・ブレークモア記念社団）を利用し、4泊5日でフライフィッシングを中心とした河川の周辺活動を通じて、教養と趣味の幅を拡大するとともに、生涯スポーツとしてフライフィッシングの基本を修得すること。

（注）本習先は先方の都合により変更になる場合があります。

評価方法その他

平常点50％、実技・レポート等50％で総合的に判定する。
（平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. フライフィッシングとはどんなスポーツか
2. パーナーズ（12のフライ・12th Fly）とウォルトン（静かにしていることを学べ・Study to be quiet.）
3. フライを投げてみる
4. フライを作ってみる
5. 自作のフライで養沢川の鱒を釣る
6. 養沢川の水生昆虫を捕らえて観察する
7. 養沢川周辺の自然保護を考える
8. 養沢川の今昔を映像で見る
9. 養沢川の鱒を食べてみる
10. 釣った人の釣り方・釣り場の情報交換をする
11. 作戦の立て方
12. 情報交換から得た知識で自分の技能を磨く
13. 単に魚を釣ることが目的ではないことを知る
14. フライを工夫してつくる
15. 総合的にフライフィッシングについて振り返る
16. まとめ

使用教科書名

適宜

NO. G50309001

健康スポーツ演習 d

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

スキー、スノーボードの技術と理論を学ぶと共に、運動文化としてのスノースポーツの重要性について考える。また、滑走技術としてのスキーやスノーボードの捉え方から、移動手段としてのスキーやスノーボードの歴史的背景について学習する。さらに雪を媒介としての環境教育プログラムの考え方についても造詣を深める。スキー、スノーボードの講習は、それぞれ専門の大学教員が担当する。

学習目標・到達目標

冬のスポーツを待ち焦がれる気持ちを待つことの重要性を学ぶ。四季に応じたスポーツを実施することの必要性、スキー場のある地域のスノースポーツに対する考え方、人々の暮らしについて理解を深める。スキー技術やスノーボードの技術を修得し、様々な地形や雪質の変化に対応した滑りの楽しさ、奥の深さを知り技術の向上を目指す姿勢を身につける。スノースポーツの歴史的な変遷や今日の課題、文化的側面についても理解していく。

評価方法その他

実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。

週 テーマ・授業目標等

2月下旬4泊5日 長野県奥志賀高原スキー場 120名

* 希望者には(財) 全日本スキー連盟公認技術検定、スノーボード検定を実施する。

1日目 新宿集合 バス(貸し切り)にて現地 班分け後講習

2,3,4日目 午前2時間、午後2時間30分の講習

(自由練習は別途1時間程度)

5日目 午前2時間の講習終了後、バス(貸し切り)にて新宿駅到着後解散

* スキー、スノーボードは事前オリエンテーション時に個人の希望で選択する。

* 事前オリエンテーションを3回実施する。

* オリエンテーションは授業の一環として行う。

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50309002

健康スポーツ演習 d

江川 賢一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

グラウンドストローク、ボレー、スマッシュ、サーブなどの基本的技術を身につけて、ゲームを楽しむことができる。

学習目標・到達目標

テニスのルール、楽しむ、運動強度を知り、将来生活の中にスポーツを定着させる基礎を形成する。

評価方法その他

100％平常点(出席点80％、授業態度20％)

週 テーマ・授業目標等

第1日午後 フォアハンドストローク

第2日午前 バックハンドストローク

第2日午後 ボレー

第3日午前 スマッシュ

第3日午後 サーブ

第4日午前 総合技能練習

第4日午後 ゲーム

第5日午前 まとめ

使用教科書名

なし

NO. G50310001

体育講義

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの身体と運動能力について理解していく上での基礎的な知識を学ぶ。子どもの発育発達にともなう、遊びからルールをともなったスポーツへの参加がどのように身体的・精神的に影響を及ぼしていくのかについて考えていく。また、諸外国の多くの事例を見ながら運動やスポーツの効果について考える。

学習目標・到達目標

特に子どもの発育発達を中心に、運動やスポーツが重要な役目を果たしていることを理解する。発育発達の様々な過程で必要とされる運動やスポーツとは、どのようなものであるのかを実際の映像や資料を見ながら知っていく。体育実技を履修する際に、理論的な意味づけができるようにすること等を目的とする。

評価方法その他

課時間内の学習(授業への2／3以上の出席を基本として、平常点50％、課題・レポートの内容50％)を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 身体が発育・発達
2. 発育・発達に及ぼす栄養と運動
3. 運動やスポーツの科学的成果(生理学的側面から)
4. 運動・スポーツの科学的成果(運動学的側面から)
5. 運動・スポーツの科学的成果(心理学的側面から)
6. 運動・スポーツを取り巻く環境
7. トップスポーツの現状
8. オリンピック・パラリンピックの現状
9. 運動環境
10. 学校体育の役割
11. 社会体育の役割
12. スポーツの二極化
13. スポーツによる地域興し
14. スポーツ産業
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない

NO. G50311001

体育実技

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

運動やスポーツの実践を通して、身体を動かすことによる効果を体験していく。勝敗を決定すること以上に、運動やスポーツがコミュニケーションの形成や自己効力の向上に大きな効果を上げていることを学んでいく。これらが子どもの発育・発達においていかに重要な要素となっているかについて学ぶ。

学習目標・到達目標

運動は実際に経験することによって楽しさや、運動の持つ目的が理解できるということを知る。競技スポーツだけでなく、勝者を求めないスポーツも沢山存在していること、多くの人にとってスポーツは人と戦うことだけではないこと、生涯を通じて運動やスポーツはどのような位置づけになっていくのかを、実践を通じて考えていく。また、子どもたちにとっての運動やスポーツには、どのようなものがあるのかを体験を通して知っていく。

評価方法その他

出席を重視する。平常点60%、授業時の評価40%。

週 テーマ・授業目標等

1. コミュニケーションゲーム
2. アイスブレイクゲーム
3. さまざまなアウトドアゲーム
4. 基本的な運動(投げる、跳ぶ、走る)
5. 基本的運動から応用へ(ボール運動、なわ運動、マット運動)
6. ゲームスポーツ バレーボール
7. ゲームスポーツ バスケットボール
8. ゲームスポーツ ソフトボール
9. いろいろなスポーツを楽しむ タッチフットボール
- 10.いろいろなスポーツを楽しむ サッカー
- 11.いろいろなスポーツを楽しむ フライングディスク
- 12.いろいろなスポーツを楽しむ 運動会の企画と準備
- 13.いろいろなスポーツを楽しむ 運動会
- 14.ゲーム創作と実施
- 15.まとめ
- 16.テスト

使用教科書名

NO. G50402001

教養の化学

三島 綾子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活の中で出会う現象をとりあげ、現象の背景にある化学の基本的な原理を学ぶとともに、現代生活を支える様々な材料について理解を深める。また、地球環境と人間活動の関わり、直面している地球環境問題について学ぶ。授業終了時、本講義が、科学、科学技術に目を向け、地球環境問題を身近に捉えるきっかけとなることを願う。

学習目標・到達目標

暮らしに密着した化学の内容を健康や暮らしと結び付けながら学習する。身近な現象の化学を学ぶことにより、身の回りの現象や物質、食物などについて、化学的な視点から捉えられるようになることを目的とする。

評価方法その他

平常点(60 %)と課題提出(40%)により評価する。
平常点は授業への参加状況、授業中の小テスト等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1, 暮らしと化学、測定
- 2, 物質とエネルギー
- 3, 元素と原子
- 4, 電子配置と周期性
- 5, 無機化合物と有機化合物
- 6, 物質の量
- 7, 反応の表記と分類
- 8, 量で見る化学反応
- 9, 分子やイオンの形と引き合い
- 10, 気体
- 11, 溶液
- 12, 化学平衡
- 13, 酸と塩基
- 14, 酸化と還元
- 15, 放射能の化学

使用教科書名

ティンバーレイク教養の化学（東京化学同人）

NO. G50402031

教養の化学

佐山 信成

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

文系の学生や化学を勉強したことのない学生向けに基本事項の演習・復習も含めて、生活の中の身近な現象の化学を1回1テーマで講義する。化学物質の有用性と危険性を知り、身近な化学物質に関する理解を深める。生活する上でそれらに対して自分たちにできることは何かを考える。

学習目標・到達目標

生活の中の化学現象や素材など化学物質に関する化学の基礎を理解する。併せて医薬品・有害物質等に関する化学の基礎を学ぶ。

評価方法その他

平常点(60%) 課題レポート(40%)
生活の中の化学現象や素材など化学物質に関する化学の基礎を理解する。併せて医薬品・有害物質等に関する化学の基礎を学ぶ。
平常点は授業への参加状況、授業中の演習等で評価する。
定期試験を実施致しません。平常点と併せて課題レポートで評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 基本事項演習(1)・化学結合
2. 生活の中の化学物質
3. 食品の化学
4. 第1回課題レポートの説明・水の化学
5. 基本事項演習(2)・無機化合物
6. 化粧品化学
7. 衣料の化学
8. 基本事項演習(3)・有機化合物
9. 第2回課題レポートの説明・演習まとめ(1)
10. 市販薬の化学
11. 火災と化学物質
12. 基本事項演習(4)・高分子化合物
13. 第3回課題レポートの説明・演習まとめ(2)
14. 生活の中の有害物質(1)
15. 生活の中の有害物質(2)

使用教科書名

特に指定しない。必要な場合には、資料を配布する。

NO. G50403001

化学入門

三島 綾子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

化学は物質の性質、物質の変化を扱う学問である。物質をつくる原子の構造および結合、結合と物質の関係を学び物質の性質について理解を深める。また、化学変化と熱の関係、代表的な化学反応(酸塩基反応、酸化還元反応)、物質の変化、有機化合物の構造と性質など、化学の基礎を学習する。

学習目標・到達目標

高校化学と大学で学ぶ化学を結び役割とする。管理栄養士を目指す学生を主たる対象として、化学に関する専門科目を理解するための入門科目であり、専門課程の化学を学ぶ上で必要な知識を身に付けることを目標とする。

評価方法その他

平常点(60 %)と課題提出(40%)により評価する。
平常点は授業への参加状況、授業中の確認テスト、課題提出等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 元素と物質、単位と数値
2. 原子と電子配置、軌道
3. イオン形成、分子、物質の表し方、化学式
4. 元素と原子分野の演習、化学結合
5. 物質量と化学式
6. 化学反応の量的関係
7. 理想気体の性質
8. 化学反応と反応熱
9. 反応速度と化学平衡
10. 化学の基礎分野の演習、酸と塩基
11. 酸化還元反応
12. 電池と電気分解
13. 酸・塩基、酸化・還元分野の演習、有機化合物の特徴と構造
14. 脂肪族炭化水素、酸素を含む脂肪族化合物
15. 芳香族化合物、有機化合物分野の演習

使用教科書名

大学と高校を結ぶ化学基礎演習(培風館)

NO. G50403031 化学入門

佐山 信成

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士を目指す学生を主たる対象とした専門科目を理解するための入門科目である。化学を受験科目としなかった学生が専門課程を学ぶ為に必要な知識を身につけることあるいは化学が苦手だった学生が再び勉強することを主眼とし講義する。物質の状態と性質および化学変化について原子分子の構造と働きから学ぶ。

学習目標・到達目標

化学は「物質」を対象とする学問であり、人間の活動に最も深く関わる自然科学である。原子・分子の視点から物質の成り立ちと化学の基礎を理解し、論理的思考力を身につける。日常生活に溢れる「物質」を化学的視点から捉える力を養う。

評価方法その他

平常点(50%) 定期試験(50%)
平常点は授業への参加状況、授業中の中間試験により評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 物質とは
2. 原子と分子
3. 電子配置
4. 元素の周期表と価電子
5. 化学結合とは(1)
6. 化学結合とは(2)
7. 物質の名称
8. 化学反応式・演習・まとめ(1)
9. 中間試験
10. 酸と塩基
11. 中和反応と塩
12. 酸化と還元
13. 物質の状態変化
14. 化学反応の速さ
15. 演習・まとめ(2)
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。必要な場合には、資料を配布する。

NO. G50404031 教養の生物学

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

太古の海は生命誕生の場であり、今日においても地球上で最も多様な生物群を育む環境である。また、我々人類にとって海洋に生息する生物は水産資源として重要である。本講義では、海洋における生物の進化をたどりながら、多様な海洋環境とその環境における生物の「生きざま」を紹介。生物の行動・生態と環境、人類と海洋の関わりについて理解を深める。

学習目標・到達目標

海洋生物の生き様を通して生物について興味をもち、基礎的な生物現象(生命現象や生態系など)が理解できるようになる。

評価方法その他

定期試験(80%)および、レポート・平常点(20%)による総合評価。
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.イントロダクション ー海洋と私たちの暮らしー
- 2.地球誕生から海洋の形成まで
- 3.生物界の構成と海洋生物
- 4.海洋環境概説1 ーなぜ海は青いか？ー
- 5.海洋環境概説2 ー広大な海は一つではないー
- 6.海洋環境概説3 ーエルニーニョが起こると豆腐が高くなる？ー
- 7.海洋生物の生活様式1 ー海洋生物のライフスタイルー
- 8.海洋生物の生活様式2 ー海洋生物のライフスタイルー
- 9.海洋の食物連鎖 ーイワシが安くて、マグロが高い理由ー
- 10.浅海の生物群集 ー生物が豊富な海域ー
- 11.浅海の生物群集 ー厳しい環境に生きる生物たちー
- 12.外洋の生物群集 ーきれいな海には生物は多いか？ー
- 13.深海の生物群集 ーなぜ深海には生物が少ないか？ー
- 14.深海の生物群集 ー地球を“食べる”生物たちー
- 15.海洋生物と人類の関係 ー海洋汚染と乱獲ー
- 16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

NO. G50404001 教養の生物学

岩見 哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生物の形や色・模様などから、生物が環境に適応し進化してきた過程を解説する。「進化」、「生物多様性」、「生態系と環境」などの分野を横断的に扱い、自ら生物の特徴を評価して進化過程を推察したり、系統樹を構築したりしながら体験的に学ぶ。生命の誕生や生物の進化から生物と環境の関わり合いまで、マクロスケールでの生物学的な現象について学ぶことで、生物に関する興味・理解を高め、生きものに關する教養を深めることを目的とする。

学習目標・到達目標

身近な生物が示す種々の生命現象について、科学的な視点で観察し、その機構について科学的に解釈できるようになること。さらには、自ら好奇心を育んで生命や自然に興味を持てるようになることを目標とする。

評価方法その他

毎回実施する質問・アンケートへの回答状況(20%)および定期試験の得点(80%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 第01回 OL/生物種とは
- 第02回 生物の形
- 第03回 形と進化
- 第04回 生物の模様
- 第05回 擬態の妙ーだましだまされ
- 第06回 種類はどう決めるのか
- 第07回 生物進化の道筋を探る
- 第08回 生物の系統関係
- 第09回 系統関係を推定する
- 第10回 恐竜は絶滅した？
- 第11回 似ているけど他人
- 第12回 こどもだけどおとな
- 第13回 極限環境での進化
- 第14回 進化の脇道？ ウイルスとは
- 第15回 ウイルスの脅威
- 第16回 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

NO. G50405001 生物学入門

岩見 哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちは日々、呼吸し食事をして生命を維持し成長を続けており、これらの生命現象の基本を理解することは、健康の維持や種族の継続を図る上で不可欠となっている。そこで、この講義では、生物の特徴を理解し、生物の基本単位である細胞の構造や働き、細胞内・生体内での反応や生殖システムなど、生命現象に関する基礎的な内容について理解を深める。

学習目標・到達目標

私たちの含む生物の生命を支えるしくみについて、その内容が理解できる基礎的知識を身につけることを目標とする。また、特徴的な生命現象の機構や意義について、考察できる力も身につける。

評価方法その他

毎回実施する質問・アンケートへの回答状況(20%)および定期試験の得点(80%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 第01回 生物の特徴
- 第02回 細胞の基本構造
- 第03回 細胞小器官の働きと起源
- 第04回 DNAを見てみよう(実演を予定)
- 第05回 ささまざまな細胞
- 第06回 生きるための活動ーエネルギーの出入り
- 第07回 エネルギー通貨ー呼吸とATP
- 第08回 酵素の種類と働き
- 第09回 酵素反応を見てみよう(実演を予定)
- 第10回 光合成
- 第11回 細胞の増殖
- 第12回 生殖の方法ー無性生殖と有性生殖
- 第13回 ささまざまな生物の繁殖戦略
- 第14回 染色体からわかること
- 第15回 性の意味
- 第16回 定期試験

使用教科書名

適宜、プリントを配布する。

NO. G50405031

生物学入門

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生物の基本単位である細胞の構造から最も身近な生物であるヒトの体の構造と機能から個体維持のしくみまでマクロ・ミクロ的視点で生物学の基礎について学びます。特に栄養士を志す学生や食科学を学ぶ学生に必要な基礎的な生物現象の理解に力点を置いて講義を進め、生化学や栄養学など専門科目を学ぶ上での基礎力を養います。

学習目標・到達目標

基礎的な生物現象、特にヒトに関わる生物現象の理解

評価方法その他

平常点20％、定期試験80％の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション 生命とは何か？について考える。
2. 細胞の構造とはたらき1（生物の基本単位である細胞の構造）
3. 細胞の構造とはたらき2（生物の基本単位である細胞の機能）
4. 生物を構成する細胞（細胞の種類とウイルス）
5. 生き物としてのヒトを知る（食物から体をつくり維持するしくみ）
6. 生物体の構造1（組織の種類と特徴1）
7. 生物体の構造2（組織の種類と特徴2）
8. 生物体の構造3（主な器官・器官系）
9. 代謝のしくみ1（酵素・代謝）
10. 代謝のしくみ2（消化）
11. 代謝のしくみ3（呼吸）
12. 遺伝のしくみ1（遺伝の法則）
13. 遺伝のしくみ2（DNAの構造と機能）
14. 遺伝のしくみ3（遺伝子と体質）
15. 環境と人間（身近な環境問題について考える）
16. 定期試験

使用教科書名

川崎・古庄編著(2009). 生物学－ヒトと環境の生命科学－, 建帛社.

NO. G50406031

環境と資源

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

毎日のように新聞記事やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられているが、地球温暖化や人工化学物質による汚染など環境問題がクローズアップされています。環境に関する現象を理解するには生態学の基礎的な知識が必要です。この授業では、生態学の基礎的な知識を踏まえ、地球環境とそこに生活する生物の関係、人類を含む生物が環境に与える影響などについて解説し、環境・資源の利用・保全の実態と問題点について理解を深めます。

学習目標・到達目標

生態学の基礎的な現象を学び、環境に関する現象を理解する力を得る。

評価方法その他

定期試験(80%)および平常点・レポート(20%)による総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 イントロダクション「地球環境は何か」を考える
- 第2回 「環境」とは何か？
- 第3回 生態系の構成
- 第4回 生物と環境との関わり
- 第5回 生物と生物との関わり
- 第6回 人口問題－ヒトも生物－
- 第7回 生態系の構造－生態系の構成と食物連鎖－
- 第8回 生態系内の物質とエネルギーの流れ
- 第9回 生態系内の物質の循環1－炭素循環と地球温暖化1－
- 第10回 生態系内の物質の循環2－炭素循環と地球温暖化2－
- 第11回 生態系内の物質の循環3－窒素循環とリン循環－
- 第12回 生態系内の物質の循環4－人工化学物質と生物濃縮－
- 第13回 生物多様性とは何か？
- 第14回 環境保全への取り組み1－生物多様性保全－
- 第15回 環境保全への取り組み2－ホッキョクグマと資源開発を例として－
- 第16回 定期試験

使用教科書名

授業中に資料を配付する。

NO. G50406001

環境と資源

岩見 哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

毎日のように新聞記事やニュースで環境や生態系に関する話題が取り上げられているが、地球環境や資源に関する問題を正しく理解するためには生態学の基礎知識が不可欠である。そこで、この授業では、生態学の基本的内容を学習し、地球環境とそこに生活する生物の関係、生物間の相互関係、人類を含む生物が環境に与える影響、資源の利用と保全の実態や問題点等について理解を深めることを目的とする。

学習目標・到達目標

地球環境や資源に関する報道・記事・文献の内容を理解し、その合理性を的確に判断したり、評価したりできるようになることを目標とする。また、種々のグラフ等で表現される現象の内容を理解し、そこからその現象の本質を考察できるようになることも目標とする。

評価方法その他

毎回実施する質問・アンケートへの回答状況(20%)および定期試験の得点(80%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 第01回 「環境」とは何か？ 生態系の構成
- 第02回 生物と環境との関わり
- 第03回 生物と生物との関わりー同じ種類の間では
- 第04回 生物と生物との関わりー異なる種類の間では
- 第05回 生物間の関係ー競争
- 第06回 生物間の関係ー捕食者の効果
- 第07回 生態系の構成と食物連鎖
- 第08回 生態系内の物質の移動
- 第09回 生態系内のエネルギーの移動
- 第10回 炭素循環と地球温暖化
- 第11回 生物資源の特徴
- 第12回 資源保護と自然保護
- 第13回 生物多様性とは何か？
- 第14回 名もなき草や虫の役割ー生物多様性保全
- 第15回 これからの地球環境を考える
- 第16回 定期試験

使用教科書名

授業中に資料を配付する。

NO. G50407001

地球の科学

角和 義隆

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地球科学は物理・化学・生物の知識を総合して、宇宙や地球、それらと人間活動との関わりなどを解き明かす総合科学であり、地層や化石などを通して過去を知り、将来を見通す歴史科学でもある。この授業では、これら両側面を扱い、地球についての基本的な見方、自然観を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

身の回りに起きているさまざまな自然現象、その恵みと災害についてのニュース、各種情報についての読解力をつけることを目標とする。

評価方法その他

期末テスト80%、授業中の様々な提出物20%。

週 テーマ・授業目標等

1. 地球科学は面白い(個人の感想です)
2. 塵もつもれば地球になる
3. 地球外に生物はいないのか
4. 生物の進化は赤の女王の仰せのままに
5. 海は深い、「海」は高い
6. 地震の予知には自信が無い(-_-)
7. 活断層を探そう
8. 見かけは大事！火山の形を考える
9. 火山は怖いけど役に立つ
10. 地すべりと崖崩れは違うのか
11. 自然災害って結局何なの
12. 資源は天然やねん (1)生き物を燃やす、時間を燃やす。
13. 資源は天然やねん (2)四の五の言わず、金目のものを置いていけ。
14. 今は「暖かい」けど
15. 東京家政学院大学でプラタモリ(©NHK)
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G50407031

地球の科学

尾張 聡子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地球科学の基礎を学ぶことで、過去から現在までの地球の歴史、その成り立ちがどのようなプロセスをたどってきたのかについて理解する。さらに私たちの住む地球における環境、災害、エネルギー問題など、身近な問題を解説し、その背景や要因を学ぶ。

学習目標・到達目標

私たちの住む地球で起こる様々な地球科学的な現象が、私たちの生活に密接に関わり、大きな影響を持っていることを学び、その意義を理解することを目指す。地球の誕生から現在までにおける地球科学的な時間スケールを扱うことで、地球の歴史についての理解を深める。

評価方法その他

出席20％、期末の課題やレポート試験80％で総点を決め評価する。平常の授業における熱意・意欲を考慮することがある。

週 テーマ・授業目標等

- 1:ガイダンス-地球科学の意義と必要性、重要性
- 2:地球の誕生-地質学的な時間スケールを知る
- 3:大気・海洋・大陸の誕生-生命活動の始まり
- 4:石油と石炭のでき方
- 5:恐竜の世界-進化と絶滅
- 6:気候変動-氷期・間氷期サイクル
- 7:地球の活動-火山・地震とは
- 8:大気と海洋-熱輸送システム
- 9:地表の変化-風化侵食作用とその要因
- 10:地球の石-形成過程の異なる石たち
- 11:地球の姿-身近にある地形はどのように形成されたのか
- 12:エネルギー・資源問題-化石燃料・非在来型エネルギー
- 13:環境問題-地球温暖化、酸性雨
- 14:災害問題-地震、異常気象
- 15:まとめと解説
- 16:テスト

使用教科書名

教科書は使用せず、プリントを使用する。
次の参考書を勧める。

NO. G50411001

自然史

岩見 哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自然史とは、「時々刻々と変わっていく自然現象を、自然の歴史という観点でとらえ、観察し、記録しながら、自然観を養うことを目的とする」分野で、要約すると「自然の姿と生い立ちを探求する」分野と表現できる。その対象は、大きさでは宇宙から原子まで、時間軸では宇宙誕生から瞬間的な生命現象までの広い範囲を扱うことになるが、この授業では、約6億年前の生物大発展以降の生命の発展に重点を置き、時間の流れに沿う形でさまざまな自然現象を解説し、私たちヒトに連なる生命発展の経緯について理解を深める。

学習目標・到達目標

時間の流れの中で自然現象が進行していることを理解し、自然界の成り立ちを、変化するものという観点から理解できるようになること。また、通常の生活で認識が難しい億単位の時間軸について正しく理解し、現在の地球の状況について客観的に判断できるようになること。

評価方法その他

毎回実施する質問・アンケートへの回答状況(20％)および定期試験の得点(80％)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 第01回 自然史とは
- 第02回 時空の進化／宇宙の創世から太陽系の誕生
- 第03回 地球誕生／地球内部の構造
- 第04回 地球カレンダーを作る
- 第05回 生命の誕生と単細胞生物の進化
- 第06回 全球凍結と生物多様性の創出
- 第07回 エディアカラ生物群からカンブリア爆発
- 第08回 古生代の世界
- 第09回 古生代の終わり ペルム紀末の生物大絶滅
- 第10回 中生代の世界
- 第11回 恐竜の発展
- 第12回 古生代の終わり 白亜期末の生物大絶滅
- 第13回 新生代の世界
- 第14回 哺乳類の発展
- 第15回 人類の進化
- 第16回 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

NO. G50408001

教養の物理学

小谷 太郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

物理学はいつどのように成立したのか、「元素」や「原子」、「単位」といった概念は誰がいつ発見したのか、そこにいたるまでの物語とともに講義する。

数式はあまり使わず、物理学の思考方法（論理の展開）を追うことを重視する。

学習目標・到達目標

物理学の基礎を理解することを目標とする。

物理学は、この世界は何かからできているのか、どのような法則にしたがっているのかを明らかにする学問である。

評価方法その他

平常点(40％)、定期試験(60％)。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

一つのテーマにおおむね2回かける。

0. ガリレオ～ 最初の近代科学者
1. ニュートン～ ニュートン力学を一人で建設
2. ドルトン～ 原子論の再発見
3. 国際単位系の建設
4. メンデレーエフ～ 元素には周期がある
5. レントゲン～ X線から電波まで
6. キュリー～ 不滅のはずの原子が壊れた
7. フェルミ～ 最初の原子炉と原子爆弾

使用教科書名

特に指定なし。

NO. G50501001

法学入門(日本国憲法)

尾崎 利生

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

はじめに、法と憲法の基礎を概観し、どのようにして近代的意味の憲法が誕生してきたのかを考察する。次に、基本的人権の保障について、人権に関する判例のリーディング・ケースを通して今日の基本的人権をめぐる問題状況を検討する。後半は、統治システムについて、日本国憲法の理念から国民主権のもとにおける国会の役割と権能、行政の肥大化現象と地方行政改革、裁判所の人権保障機関としての役割などについて考察する。
(履修条件) 教育職員免許状希望者は必修。

学習目標・到達目標

憲法の基礎を概観し、基本的人権と統治システムを機能的に理解する。

評価方法その他

定期試験(70%)、平常点(30%)
(平常点は授業への参加状況、課題への取り組み姿勢等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.Ⅰ 憲法総論 (1) 法学と憲法学
2. (2) 憲法の歴史と憲法の基本原理
- 3.Ⅱ 憲法(人権) (1) 包括的基本権
4. (2) 精神的自由①
5. (3) 精神的自由②
6. (4) 経済的自由
7. (5) 人身の自由
8. (6) 生存権的基本権
9. (7) 国務請求権・参政権
- 10.Ⅲ 憲法(統治) (1) 国会の役割と権能
11. (2) 内閣の役割と権能
12. (3) 裁判所の役割と権能
13. (4) 財政の基本構造
14. (5) 地方自治の制度と地方自治法
15. (6) 憲法改正
- 16.定期試験

使用教科書名

尾崎利生・鈴木晃『憲法入門講義 第2版』(法律文化社、2016年)
井上正仁他編『ゴッケツ六法平成28年版』(有斐閣、2015年)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会における法の意義と機能を明らかにし、法的なものの見方・考え方（legal mind）が身につけられるよう努める。まず、日常生活の身近な問題を素材に、市民生活と法との関係を具体的に検討する。その際、テーマごとにトラブルを解決するためにどのような相談窓口に行き、だれに援助を求めることができるか、実際的なアドバイスを心がける。

（履修条件）テキスト・資料にあらかじめ目を通して出席できること。

学習目標・到達目標

身近な法律問題のとらえ方、考え方を身につける。

評価方法その他

定期試験（70%）、平常点（30%）
（平常点は授業への参加状況、課題への取り組み姿勢等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. 人生と法律の関わり
2. 社会人へのパスポート
3. 働きながら子育てする
4. 働きかたいろいろ
5. スマートな消費者をめざして
6. 恋愛のルール
7. 結婚の夢と現実
8. 子どもを産む・産まない
9. 子どもと親の関係
10. ふたたびの出発－離婚
11. 親の介護はだれが？
12. 親が死んだら、夫が死んだら、自分が死んだら
13. 相続の仕組みを知ろう
14. 世界へ飛び出そう
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

劇田隆重他『ライフステージと法（第6版）』（有斐閣、2012年）

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

中間試験の前までは、経済の基本的な仕組みの解説に充てる。その中で、経済学の中のいくつかの考え方の違いも評述する。後半は、新聞やニュースで取り上げられる、昨今の重要な経済問題について解説することを中心に進める。

学習目標・到達目標

経済学を初めて学ぶ学生に、経済の基本的な仕組みと最近の重要な経済問題を理解させ、私たちが生活へのかわりや経済問題の重要性を理解させることを目標にする。そして、それらに対する自分自身の意見を形成し、それを自分のことばで他人に伝えられるだけの知識を習得することも、併せて目標にする。

評価方法その他

小テスト2割、中間試験4割、期末試験4割で評価する。詳細は初回授業で説明する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、高校までの数学の復習（テスト）
2. 経済学とは何か
3. 貨幣の仕組み
4. 市場原理と「神の見えざる手」
5. 市場原理と失業
6. 公共授業と景気回復
7. 貨幣供給
8. 中間平常試験とその解説
9. 比較優位と貿易
10. インフレとデフレ
11. 政府か日銀か
12. パブル経済と平成不況
13. 年金と消費税
14. リーマンショック
15. 全体の復習と期末平常試験

使用教科書名

池上彰著『池上彰の優しい経済学』1、2巻、日本経済新聞社、2012年

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

電車内での迷惑行為、外国人との共生、地方創生、災害の多発など、実際に現代社会で生じている事象や課題を取り上げながら、人間社会の中で生きてきたできごとや変動を分析するさまざまな社会学の視点や方法を紹介する。

本授業は講義の形式を取るが、受講生の皆さんには、社会学の視点や方法を学びながら、現代社会の事象や課題をどのように理解しそれに向き合っていけば良いかを、自分の問題として考えて欲しい。質疑応答の時間なども設けるので、積極的に授業へ参加することを期待したい。

学習目標・到達目標

社会の様々な側面を社会学の視点や方法から考察することを通じて、社会学の方法論の基礎を理解する。

具体的には、社会やそこで起こっている事象を、総合的な洞察力、柔軟な思考力や想像力でとらえるための基本的な姿勢を学ぶ。国際化、情報化、少子高齢化など激動する現代社会では、頻繁に生じた社会の変化が起きており、現代人はその影響を少なからず受けながら生活している。

評価方法その他

平常点（20%）、授業内で毎回書く感想文やお題への回答例の内容（30%）、「まとめと補足」回に向けて書くレポートの内容（50%）を合わせて評価する。

平常点は、授業への参加状況（ディスカッションへの積極的参加など）を総合的に評価し判断する。本授業では、授業内試験としてレポートを複数提出してもらう。レポートで

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス（本授業のねらいと進め方、受講上の注意点）
- 第2週 社会学の視点と方法—そもそも社会学とは？
- 第3週 現代社会をみる（1）現代日本社会の特徴その1—価値観の多様化と他者理解
- 第4週 現代社会をみる（1）現代日本社会の特徴その2—都市化・国際化とリスク社会
- 第5週 現代社会をみる（2）私的な場と公共の場の変容
- 第6週 現代社会をみる（3）家族、ジェンダーと性の多様性
- 第7週 まとめと補足（1）価値観の多様化と他者理解
- 第8週 現代社会をみる（4）国際化、エスニシティと境界
- 第9週 現代社会をみる（5）都市化と地域社会の崩壊、地方の時代
- 第10週 まとめと補足（2）都市化と国際化
- 第11週 現代社会をみる（6）社会のリスクと災害
- 第12週 現代社会をみる（7）格差・不平等と貧困
- 第13週 まとめと補足（3）リスク社会
- 第14週 社会学の理論—秩序問題を題材にして
- 第15週 本授業のまとめと受講生へのメッセージ

使用教科書名

使用しない。必要に応じて資料を配布したり参考書を紹介したりする。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会は、営利組織である企業、非営利組織である官庁・学校・病院など、「組織」を通じてその運営がなされている。経営学は、この組織の構造や行動、組織で働いている人のやる気や管理などの問題を扱うものである。本講義では、主に企業活動における企業の行動や企業の中で働く人の管理に焦点を当て、企業に関する理解を深めてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講生の上限を設ける。

学習目標・到達目標

多様な企業活動を知ることができる。
企業活動について、「自分の言葉」で記述することができる。

評価方法その他

レポート（60%）
宿題4～5回（40%）

週 テーマ・授業目標等

1. イントロ
2. 企業イメージを考える
3. 株式会社について考える
4. 会社は誰のものを考える
5. 組織（構造）は戦略に従う？
6. 組織構造について考える
7. 組織文化について考える
8. 競争戦略のマネジメントについて考える①（業界分析を中心に）
9. 競争戦略のマネジメントについて考える②（企業分析を中心に）
10. ニーズの絞込みによる市場創造について考える
11. ビジネスモデルについて考える
12. 国際化のマネジメントについて考える
13. 日本の経営について考える
14. モチベーションマネジメントについて考える
15. 振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G50508001 日本の歴史

熊井 保

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本の歴史について、原始から古代・中世・近世・近代の成立まで概観する。具体的な地域としては東京都の変遷について述べるが、本学町田キャンパス周辺地域の歴史展開を中心に言及する。

学習目標・到達目標

多摩地域の歴史発展を把握すること。

評価方法その他

平常点20％、試験（中間・期末）80％。平常点は授業への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 はじめに、最初の東京人
- 2 古墳の世紀
- 3 国分寺と古代竊業
- 4 秩父平氏、江戸氏
- 5 山内経之
- 6 太田道灌、北条分国
- 7 中間試験
- 8 徳川家康
- 9 明暦の大火
- 10 八王子千人同心
- 11 相原村
- 12 武蔵野新田
- 13 八州廻り
- 14 世直しと農兵隊
- 15 東京の成立と多摩
- 16 試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G50510031 世界の地理

横地 留奈子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地球上では、その位置により、大気の動きと太陽との角度により、様々な気候が生じています。気候の影響は土壌にも影響を与えます。各地域の農業、さらに食文化は、気候と土壌の影響でさまざまな発展をしてきました。本講義では、地球上の食文化を中心に、それをもたらしてきた農業、気候と土壌、先住民の生活について解説します。また、現代の各地域でもたらされている諸問題についても解説します。

学習目標・到達目標

気候による食文化のちがいを、それが生じる要因を知ることによって、ニュースなどに出てくる国際情報を目にするときに、その背景を考えられるようになっていただきたいと考えています。将来、自分とは異なる文化背景を持つ人と接したときに、配慮できるようになる基礎となります。

評価方法その他

定期試験の得点（70％）、平常点（30％）。その他、受講時の参加状況や取り組み方を加味します。

※平常点は、講義への参加状況・態度などを参考に判断します。

※毎回、出席カードを配布します。これに感想・質問・要望などを自由に書いて提出し

週 テーマ・授業目標等

- 1回(4/12) 授業概要
- 2回(4/19) 熱帯雨林気候
- 3回(4/26) サバナ気候
- 4回(5/10) 砂漠気候
- 5回(5/17) ステップ気候
- 6回(5/24) 地中海性気候
- 7回(5/31) 西岸海洋性気候
- 8回(6/ 7) 温帯[温暖]湿潤気候
- 9回(6/14) 冷帯[亜寒帯]気候
- 10回(6/21) ツンドラ気候・氷雪気候
- 11回(6/28) 日本の気候
- 12回(7/ 5) 日本の気候と植生
- 13回(7/12) 日本の気候と作物
- 14回(7/19) 日本の気候と生活
- 15回(7/25) 定期試験

使用教科書名

特に指定はしませんが、中学・高校時に使用した地図帳があれば持参してください。毎回、プリントを配布します。これをもとに講義を進めます。

NO. G50509001 世界の歴史

宇野 陽子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会人に求められる常識・教養としての、現代史に関する基礎知識を体得すること。さらに、中東や世界各国で起きている国際的な問題の発生原因や複雑化要因を歴史の観点から理解し、論理的に説明できるようになることを目指す。

学習目標・到達目標

近年、高校での未履修や大学入試形態の多様化により、社会人の教養として求められる世界史の基礎的知識を持たずに入学・卒業していく大学生が多くみられる。本講義では、知識の欠如が特に問題視されている中東・イスラム史を中心に扱う。

評価方法その他

平常点50％と期末課題50％。毎回、授業内課題を出す予定である。詳細は初回オリエンテーションで説明する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.基本的用語と地理的概観
- 3.イスラーム以前の西アジア
- 4.イスラームの誕生と拡大
- 5.イスラーム世界の隆盛
- 6.キリスト教世界との関わり
- 7.アジアとの関わり:モンゴルを中心に
- 8.小まとめ
- 9.スンニ派の大帝国オスマン帝国
- 10.ナショナリズムの伝播と拡大
- 11.第一次世界大戦と中東再編
- 12.パレスティナ問題のはじまり
- 13.冷戦と中東
- 14.911事件後の中東・イスラーム世界
- 15.試験

使用教科書名

特に使用しない。

NO. G50511001 国際関係論

宇野 陽子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「国際関係論」とは、外国のことを学ぶ学問だろうか。「国際関係」とは、国家と国家の外交のことだろうか。確かにその面もあるが、それだけで「国際関係」を説明したことにはならない。現代においては我々の生活そのものが国際関係に直結している。我々の生活は国際関係に影響を受け、同時に、我々の選択が国際関係に影響を及ぼすこともある。言い換えれば、我々一人ひとりが国際関係の当事者なのである。この講義では、我々の日常生活に特に関わりの深い南北問題を通じて、国際関係を担う一人の人間として責任ある選択をしてゆくためのヒントを学んでゆきたいと考える。

学習目標・到達目標

国際関係における不均衡の問題を通じて、現代の社会生活がはらむ課題を把握し、それに対処するための知識を身に着ける。

評価方法その他

平常点50％と期末課題50％。毎回、授業内課題を出す予定である。詳細は初回オリエンテーションで説明する。

※毎回の授業への主体的参加を重視する観点から、3回の欠席でダウングレード、5回の欠席で失格とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.現在の国際問題と地理的把握
- 3.国際関係を作るのは誰か――多様な「アクター」
- 4.国内政治と国際関係1:システム
- 5.国内政治と国際関係2:実践編
- 6.経済のグローバリゼーションと南北問題
- 7.南北問題の起源1:理論的展開
- 8.南北問題の起源2:植民地と不均衡発展
- 9.国際関係と文化1:普遍主義の課題
- 10.国際関係と文化2:実践編
- 11.国際連合:革新性と限界
- 12.環境問題
- 13.越境する人々:移民
- 14.わたしたちと国際関係
- 15.試験

使用教科書名

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、(1) 哲学思想史の講義と、(2) 哲学的な問いをめぐってのグループワークを交互に実施します。講義の題にはソクラテスやカント、ニーチェといった哲学者たちの思想を概括的に学び、哲学思想史の大まかな流れを理解します。グループワークの題には、前課に思想史上の議論を紹介したあとで、グループに分かれて対話します。「神は存在するのか」、「目覚めているとき、それが夢の中ではないとどうして言えるのか」、「芸術は人間を救えるのか」といった問いを予定しています。

学習目標・到達目標

- (1) 自ら問いを立てて考え、論理的に表現できる。
- (2) ことからの本質をめぐっての対話的コミュニケーションの実践方法を身につける。
- (3) 西洋哲学思想史の流れを概括的に説明できるようになる。

評価方法その他

小レポート40%、テスト30%、平常点30%（平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性で総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・哲学対話の方法と実践について
2. 哲学の端緒(ソクラテス)
3. 「善い生き方とはどういうものか」／グループワーク①
4. 中世キリスト教思想における神と人間との関係(アウグスティヌス)
5. 「神は存在するのか」／グループワーク②
6. 近代フランス哲学に見る認識の問題(デカルト)
7. 「目覚めているとき、それが夢の中ではないとどうして言えるのか」／グループワーク③
8. 近代ドイツ哲学に見る二元論の問題(カント)
9. 「道徳的に正しい行為の基準とは？」／グループワーク④
10. 近代ドイツ哲学に見る芸術と生の哲学(ショーペンハウアー)
11. 「芸術は人間を救済するか」／グループワーク⑤
12. 19世紀哲学思想に見る道徳批判(ニーチェ)
13. 「自由とは何か」／グループワーク⑥
14. 現代哲学の諸問題(ハイデガー)
15. 「哲学とは何か」／グループワーク⑦
16. まとめと期末試験

使用教科書名

テキストは随時コピーを配布しますので事前準備の必要はありません。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史、研究方法から心の在りか、心の働き、心の発達、そして最後に自己について学ぶ。本授業では、心理学の基礎的知見を、新聞、小説、映画等、様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には、簡単な実験・実習に取り組む。

学習目標・到達目標

1. 人の心と行動の関係について、心理学の観点から考えることができる。
2. 心理学の基礎的知識にもとづいて、日常における人の心と行動の関係について説明することができる。

評価方法その他

平常点(30%)、定期試験(70%)で評価する。(平常点は授業への参加状況、課題への取り組み状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 心理学とは何か？
2. 心理学の歴史
3. 心理学の研究手法
4. 心の在りか①脳と心
5. 心の在りか②からだと心
6. 心の働き①学習
7. 心の働き②記憶
8. 心の働き③思考と言語
9. 心の働き④動機づけ
10. 心の働き⑤性格①
11. 心の働き⑥性格②
12. 心の発達①児童期までの発達
13. 心の発達②青年期の心
14. 心の発達③成人期以降の発達
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

20世紀後半以降の生命科学の飛躍的な発展に伴い、いのちをめぐる倫理としての生命倫理が問われるようになって久しい。本講義は生命倫理の基本的な知識の習得を企図し、生殖や死、再生医療、環境といった当該分野で一般的に問われるテーマを各問題の歴史的な経緯を踏まえながら考察する。その作業の中で、現在の生命倫理の中心的なアプローチの一つとなっている原則主義アプローチの妥当性を合わせて検討していきたい。こうした医療・環境をめぐる倫理問題の検討を通じ、科学技術がいかに社会と密接に関わり、また社会に対して大きな影響力を有しているのかを理解することを目標とする。

学習目標・到達目標

1. 生命倫理が一般に扱う問題を系統的に学習し、基礎的な知識を習得する。
2. 生命倫理の基本的なアプローチの一つである原則主義アプローチの意義・問題点を理解できるようにする。

評価方法その他

レポート(50%)、平常点(50%)、平常点は出席をとくに見る)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. アメリカにおける生命倫理の登場(1)
3. アメリカにおける生命倫理の登場(2)
4. 安楽死・尊厳死(アメリカの議論)
5. 安楽死・尊厳死(日本の議論)
6. 臓器移植(臓器移植法の成立)
7. 臓器移植(臓器移植法の改正)
8. 生殖技術(産まないための技術)
9. 生殖技術(産むための技術)
10. 生殖技術(診断技術)
11. 再生医療(クローン)
12. 再生医療(iPS細胞)
13. 環境倫理(環境倫理学概論)
14. 環境倫理(水俣病)
15. まとめ

使用教科書名

なし

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的な方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、心理学の基礎的な領域を幅広く学習する。心理学の歴史、心理学の基礎、人の発達について学ぶ。本授業では、心理学の基礎的知見を、新聞、小説、映画等、様々な資料を通して具体的に学んでいく。授業内で人の心と行動をとらえる方法を知る際には、簡単な実験・実習に取り組む。

学習目標・到達目標

- 人の心と行動の関係について、心理学の観点から考えることができるようになる。心理学の基礎的知識にもとづいて、日常における人の心と行動の関係について説明することができる。

評価方法その他

最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。(最終試験70%、授業への意欲・態度30%)

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション——心理学とは——
2. 心理学の歴史
3. 感覚と知覚の心理学
 - (1) 知覚の応用
 - (2) 記憶と忘却
- 【中間総括】
4. 人間と動物との違い
 - (1) 社会的隔離児、野生児
 - (2) 行動が形成されるための要因
 - (3) 人間の行動様式の特徴
5. 人の行動はなぜ生じるのか
 - I. 脳と行動
 1. 脳と心と身体の関係
 2. 大脳の発達と進化
 3. 欲求と行動
 - II. 行動と情動
 1. 喜怒哀楽
 2. 情動による行動の支配
 3. 状況の認知と行動
 - III. 学習
 1. インプリンティングと臨界期
 2. 学習理論

【定期試験】

使用教科書名

特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。

NO. G50606002

心理学b

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理学は「こころ」について理解し、支援するための学問です。心理学は大きく分けて、基礎領域と応用領域があります。「心理学b」では主に応用領域（社会、臨床など）をとりあげます。そして、心理学の基本的な考え方と知識を身につけ、日常生活とのつながりを考えます。

学習目標・到達目標

心理学について、基本的な考え方と知識を身につけ、日常生活場面への活用をめざします。

評価方法その他

平常点30％、レポート30％、試験40％
（平常点はコメント等の授業への参加度から評価します）

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス
- 社会①:社会的認知
- 社会②:自己過程
- 社会③:態度と説得
- 社会④:社会的影響
- 社会⑤:対人関係
- 臨床①:精神分析
- 臨床②:認知行動療法
- 臨床③:クライアント中心療法
- 臨床④:心理検査
- 応用①:行動経済学
- 応用②:ポジティブ心理学
- 応用③:恋愛
- 応用④:犯罪
- まとめ

使用教科書名

特に使用しません。

NO. G50606031

心理学b

木村 文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理学とは、心と行動の関係を明らかにする学問であり、科学的方法を用いて研究されてきた学問である。本授業では、これまで蓄積されてきた心理学の基礎的知見が、どのように現代社会において応用されているのか、心理学の応用的側面を学ぶ。応用場面として、コミュニケーション、家族、受講者自身を含む青年期、教育場面、心の支援方法、発達上の危機を取り上げる。その上で、問題に直面した際に解決方法として「自ら使える心理学」を修得することを目指す。

学習目標・到達目標

心理学が日常でどのように応用されているのか、具体的な場面と応用方法をイメージし、自らの生活を豊かにするために用いることができることを目指す。あわせて、人の心の問題について心理学の観点から分析し、解決方法等を知り、実践することができるようになることを目指す。

評価方法その他

最終試験をもとに総合評価を行う。授業への意欲、態度も加味する。
（最終試験70％、授業への意欲・態度30％）

週 テーマ・授業目標等

- コミュニケーションの心理学
(1)コミュニケーションの仕組み
(2)認知的不協和
(3)意思決定
(4)説得
- 「フツー○○だよね」
(1) 対人認知の様式——ステレオタイプ——
(2) 「みんな違う」はパーソナリティ
(3) こんな風に見られたい！——自己開示、自己呈示——
- 対人関係のネガティブとポジティブ
(1) 人を助ける心理学——援助行動と傍観者効果——
(2) いじわる？？——攻撃行動と非援助の行動——
(3) 「あの、ステキ」の心——対人魅力——
(4) 「社会的弱者」と心理学
- 「みんな」って誰？ 何？
(1) グループダイナミクスとリーダーシップ理論
(2) 社会的影響——同調——
- 身近な問題を解決する心理学——ストレス対処——
- 豊かなくらしと心理学
【定期試験】

使用教科書名

特に指定しない。毎回の授業開始時にレジュメを配布する。

NO. G50607001

ジェンダー論

鈴木 亜矢子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ジェンダー論の基礎をマスターする
- 社会現象をジェンダー視点から批判的に捉えることができるようになる
- 問題が生まれる社会的・構造的背景を理解し、問題解決の方策を考えることができる
- 反対説を踏まえ、自説を説得的に文章、口頭で論じることができるようになる

学習目標・到達目標

- ジェンダー論の基礎を習得することで、社会現象及び身
- 身近な出来事を多角的な視点から検証し、批判する視座を養い、各自の関心に応じて理解を深める。

評価方法その他

試験（又はレポート）70％、授業への参画（30％）
毎回、授業の最後にレスポンスカードを提出もらいます。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- ジェンダーとはなにかー性別を捉え直す
- ジェンダーとはなにかー性差・性役割
- 恋愛とジェンダー
- 近代家族とジェンダー
- 労働とジェンダー
- 現代日本におけるジェンダー問題
- 日本におけるジェンダー主流化ー男女共同参画
- DVとデートDV
- リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- フェミニズムとジェンダー
- 女性の人権とジェンダー
- 総括
- 試験

使用教科書名

千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』(有斐閣、2013年)ほか

NO. G50608001

東京家政学院大学を学ぶ

富田 弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

東京家政学院の建学の精神や学院の歩み、および創立者大江スミ先生の信念、理想、大江家政学、教育内容、人となりなどに触れる。また、ゲスト講師の様々なアプローチによる講義から、自校を深く知ることを通じて自信と誇りを持ち、充実した豊かな学生生活の実現と、社会への貢献を目指す、建学の精神を継承することを目的とする。

学習目標・到達目標

本学の建学の精神を深く理解し、各自が東京家政学院大学で学ぶ意義を考え、爽やかな学生生活を送るための精神的支柱とする。

評価方法その他

平常点80％、リアクション・ペーパー20％とする。

週 テーマ・授業目標等

- 導入
大江スミ先生のファッションと大学に制服があったのはホント？
富田弘美（本学生活デザイン学科准教授）
- 教養一礼法
小川美子
- 大江スミ先生を語る(1)
澤田佳与子(草月流本部講師)
- 大江スミ先生を語る(2)
澤田佳与子(草月流本部講師)
- 「住」と東京家政学院
深石圭子(本学生活デザイン学科助教)
- 東京家政学院大学における「児童学」のあゆみ
田尻さやか(本学児童学科助教)
- 東京家政学院大学附属図書館の大江文庫を紹介
関原暁子(元本学附属図書館事務部長)
- 大江文庫の資料に触れる 図書館に於いて
関原暁子(元本学附属図書館事務部長)
- イギリスの芸術文化にみる女性と社会
岩坂未佳(文筆・翻訳家)
- 変わらない「老舗の味」は、変わることと守られる
廣江 彰(本学学長)
- 近世女性史研究者から見た大江文庫
ー女性たちが書いた女子教訓書を中心にー
柴 桂子(近世女性史研究者 桂文庫主宰 NHKラジオ講座講師 文京アカデミー生涯学習講座講師)
- 実物資料で学ぶ、楽しむ、生活文化博物館
小瀬康行(前生活文化博物館長 前現代家政学科教授)
- つくる者と使う者の双方が賢くなって、社会は良くなる
廣江 彰(本学学長)
- 自由な発想があなたを「自由な未来」成長させる。→廣江 彰(本学学長)から

使用教科書名

ビデオ鑑賞、プリント配布等

NO. G50608031

東京家政学院大学を学ぶ

井上 眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

東京家政学院の沿革、創立者大江スミの信念・理想、大江家政学の特徴、建学の精神である「KVA精神」、教育史および家政学史上における本学院の意義などを学ぶことを通じて、本学院を深く理解するとともに、そこに学ぶ学生としての自信と誇りを持ち、学び豊かな充実した学生生活を送るための基盤を形成する。あわせて、建学の精神を継承し、それを具現化していくことによって、よりよい生活を創り上げていくとする姿勢を養うことをめざす。

学習目標・到達目標

学生自身が本学院への理解を深め、自身の未来に対して展望を抱くことができる。

評価方法その他

平常点50％、15回目に行う教場レポート(持ち込み可)50％の総合判定

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 家政学と現代家政学
- 本学の創立者大江スミ先生の生涯(沖吉理事長)
- 東京家政学院の創生と創業の地三番町(沖吉理事長)
- 東京家政学院大学の理念ーどのような女性を育てていくのか(廣江学長)
- 東京家政学院大学学びの特長ーどのように学ぶのか(廣江学長)
- 大江スミ先生の英国留学ーその背景と意義(永山スミ先生)
- 進路を考えるー東京家政学院大学を卒業して(1)
- 進路を考えるー東京家政学院大学を卒業して(2)
- 10女性史の中の東京家政学院ー戦前の東京家政学院
- 11女性史の中の東京家政学院ー戦後の東京家政学院
- 12東京家政学院の文化資源を活かすー大江文庫紹介
- 13生活文化博物館活動ー在校生・卒業生と共に育てる博物館
- 14東京家政学院と家政学
- 15まとめー今後の生き方を考える

使用教科書名

教科書は特に指定しないが、入学時に配布された東京家政学院光塩会編 大原徹也著『ひとひらの雪としてー大江スミ先生の生涯』を参考書とする。

NO. G50701031

リテラシー演習

井上 眞弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

指定クラスでテキストに従って演習を行う。各課では解説を理解した上で練習問題に取り組み、最低限知っておくべきスタディスキルズ（大学での勉強方法）を学ぶ。履修に関してはさまざまな「指定事項」があるので、オリエンテーション「基礎教育の説明」における「リテラシー演習履修について」の説明を必ず聞くこと。テキストは初回授業で配布する（無料）。学習内容（A～Nの各課および図書館ガイダンス）はすべてのクラスで共通だが、扱う順序はクラスにより異なる。クラスごとの学習日程表はオリエンテーション時に配布する。

学習目標・到達目標

レポート・論文を作成する技術を習得し、大学教育に対応できる基礎力を身につけることをめざす。具体的には、課題に適したテーマを設定し、必要な情報やデータを収集・整理して分析する能力および情報や意見をわかりやすく正確に伝えられる日本語能力を養成すると同時に、主体的に勉強に取り組める方法を学ぶ。

評価方法その他

平常点50％、期末試験50％。平常点は、授業への参加状況、練習問題への取り組み等で総合的に評価する。遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。

週 テーマ・授業目標等

- 大学生として身につけるべきこと
- 書くということ
 - 報告書とは何か
 - レポートとは何か
 - 報告書・レポートの表現
 - レポートの構成
 - 本論の書き方
 - テーマの設定
 - アウトラインの作り方
 - 文献の収集
 - 参考文献目録の書き方
 - 引用のしかた
 - 表・図の作成
 - 表・図からの読み取り
 - 表・図を使った説明
- 図書館ガイダンス
期末試験

使用教科書名

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編(2018)『平成30年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学

NO. G50701001

リテラシー演習

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

指定クラスでテキストに従って演習を行う。各課では解説を理解した上で練習問題に取り組み、最低限知っておくべきスタディスキルズ（大学での勉強方法）を学ぶ。履修に関してはさまざまな「指定事項」があるので、オリエンテーション「共通教育の説明」における「リテラシー演習履修について」の説明を必ず聞くこと。テキストは初回授業で配布する（無料）。学習内容（A～Nの各課および図書館ガイダンス）はすべてのクラスで共通だが、扱う順序はクラスにより異なる。クラスごとの学習日程表はオリエンテーション時に配布する。

学習目標・到達目標

レポート・論文を作成する技術を習得し、大学教育に対応できる基礎力を身につけることをめざす。具体的には、課題に適したテーマを設定し、必要な情報やデータを収集・整理して分析する能力および情報や意見をわかりやすく正確に伝えられる日本語能力を養成すると同時に、主体的に勉強に取り組める方法を学ぶ。

評価方法その他

平常点50％、期末試験50％。平常点は、授業への参加状況、練習問題への取り組み等で総合的に評価する。遅刻は30分までは「遅刻扱い」とし、30分以上すぎた場合は入室は認めても「欠席扱い」とする。また、3回遅刻で1回欠席扱いとする。

週 テーマ・授業目標等

- 大学生として身につけるべきこと
- 書くということ
 - 報告書とは何か
 - レポートとは何か
 - 報告書・レポートの表現
 - レポートの構成
 - 本論の書き方
 - テーマの設定
 - アウトラインの作り方
 - 文献の収集
 - 引用のしかた
 - 参考文献目録の書き方
 - 表・図の作成
 - 表・図からの読み取り
 - 表・図を使った説明
- 図書館ガイダンス
期末試験

使用教科書名

東京家政学院大学リテラシー演習テキスト作成グループ編(2018)『平成30年度 東京家政学院大学リテラシー演習テキスト』東京家政学院大学

NO. G50703001

海外研修（異文化理解）

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

平成29年度の海外研修（異文化理解）では、北欧スウェーデンの中心都市ストックホルムを訪問する。福祉・デザイン・衣食住をテーマとした視察研修だけでなく、現地で活躍する日本人女性や現地大学生との交流も行う。

学習目標・到達目標

海外異文化圏において現場を視察し、文献だけでは得られない生きた知識を体験的に学ぶため、1週間程度の研修を行う。研修では異文化における生活様式、考え方、制度、芸術、建築など、様々な分野における事象に直接触れ、異文化理解を深める。研修前には学内で減収準備のための事前授業が行われ、研修テーマに関する知識や研修地で最低限度必要な会話表現などを学ぶ。

評価方法その他

スウェーデン事情や簡単な英会話に関する事前授業4時間、事前ガイダンス2回に必ず出席すること。

週 テーマ・授業目標等

日程：平成29年8月25日（金）～8月31日（木）の5泊7日

旅行先：スウェーデン、ストックホルム

旅行代金：研修費及び旅費として383,000円、別途「燃油サーチャージ・海外空港諸税・

国内空港施設使用料・旅客保安サービス料」(平成29年1月17日現在で15,370円の見込

み)が加算される。

引率：本学教員2名、添乗員1名

申し込み締め切り：平成29年5月15日

事前授業、事前ガイダンス、研修スケジュール等の詳細はオリエンテーションおよび募集

説明会(町田4/12(水)と4/26(水)、千代田三番町4/13(木)と4/27(木)、開催時刻は全

て12:20～12:50)で説明する。

使用教科書名

NO. G50704001	英会話集中講座	マーク ルイス
---------------	---------	---------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業の内容は簡単な導入から始まり、より複雑な会話モデルへと進む。映画や音楽を通じて英語に触れるアクティビティも行う。この授業に参加することにより英会話が有益で楽しいものであると感じるであろう。平成29年度の英会話集中講座は、平成30年2月7日（水）午後3時に開始し、2月9日（金）午後3時に終了する。

学習目標・到達目標

外国人教員と生活をともにすることにより、日常よく使う生きた英語の表現を学ぶ。よって、合宿中は英語のみを使用し、日本語を使わないようにすること。

評価方法その他

「合宿への出席」と「積極的な授業参加」により総合的に評価する。「合宿への出席」とは、授業開始から授業終了までセミナーハウスに滞在し、授業に参加することを意味する。合宿途中での参加、退出、帰宅は評価の対象としないため、単位を取得できない。

週 テーマ・授業目標等

この授業の受講者数は25名を上限とする。履修したい学生は、教育研究支援グループにある「履修希望調査票」に名前を記入すること。25名を超えて希望者があった場合は抽選となる。その後、履修登録許可者の名簿を発表し、履修登録は教育研究支援グループが行う。この手続きを踏まない場合は履修を許可しない。履修が認められた学生は「参加申込書」に「参加費（別途揭示）」を添えて参加申し込みをすること。「参加費」には宿泊費と食費が含まれる。「参加申込書」と「参加費」の提出がない場合も履修を許可しない。申し込み期日など詳細は9月の後期オリエンテーション時に発表し、同時に別途揭示する。

< 授業計画 >

第1日目 2月7日：オリエンテーション、会話練習、ゲーム、映画鑑賞など

第2日目 2月8日：会話練習、ゲーム、屋内・屋外活動、映画鑑賞など

第3日目 2月9日：会話練習、ゲーム、復習、集中講座修了セレモニー

使用教科書名

なし

NO. G50801001	Basic English 1	大和田 寛
---------------	-----------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書の英文解説、日本語訳、文法事項の解説、練習問題等。

学習目標・到達目標

英語を、文法学習に基づきながら、外国人観光客に向けての日本案内をある程度できるようにする。最終目標は英語全般の上達である。

評価方法その他

毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

- 空港で①（文型①）
- 空港で②（文型①）
- マンションに到着①（文型②）
- マンションに到着②（文型②）
- お客様を迎える①（不定詞①）
- お客様を迎える②（動名詞）
- デパ地下でお買い物①（不定詞②）
- デパ地下でお買い物②（不定詞②）
- お花見①（分詞）
- お花見②（分詞）
- 浅草へ行こう①（等位接続詞）
- 浅草へ行こう②（等位接続詞）
- 秋葉原を散策①（従属接続詞）
- 秋葉原を散策②（従位接続詞）
- 平和への祈り①（過去完了形）

使用教科書名

初級英語で紹介するニッポン（朝日出版、2016）

NO. G50705001	地域貢献活動	大嶋 徹
---------------	--------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

国内外を問わず、授業外で行われたボランティア活動、介護等体験等などを通じて、当該地域に貢献した活動から自分を見直すこと。

学習目標・到達目標

ボランティア経験を生かすこと。
ボランティア経験を通じて自分にどのような変化があったかを認識すること。

評価方法その他

オリエンテーション・説明会などの出席20％，実習後のレポート提出30％，実習証明書の提出30％，事前指導・事後指導の連絡調整能力20％で総合的に判定する。

週 テーマ・授業目標等

- 履修登録
- オリエンテーション参加（調査票の提出，実習証明書用紙配布）
- ボランティアの内容，場所等について相談する。（事前指導）
- 実習先を捜す。【前期・後期どちらでも構わない】
- 実習先を決定する。依頼状が必要かどうか実習先に確認する。ボランティア保険の加入ができるかどうか確認する。
- 連絡調整の上ボランティア活動に参加する。
- 事後指導
- 「地域貢献活動」記録カードへ実習担当者に捺印してもらう。
- 「地域貢献活動」記録カードを後期試験期間中に提出する。
- 「地域貢献活動」レポートを作成，後期試験期間中に提出する。

- 単位認定

使用教科書名

NO. G50801006	Basic English 1	大穀 郁子
---------------	-----------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語学習を通じて「世界の今」を考えよう！
この講座では、基礎的な英語力を要請するだけでなく、国際人としての感覚を身に着けることを狙いとしします。世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら英語を学んでいきましょう。

学習目標・到達目標

①イギリスの日常生活をテーマとしたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目標とします。また、TOEICを意識した練習問題を解きつつ、TOEICへの取り組み方をも学びます。
②イギリスの児童文学に関する映像資料の視聴、原文読解を通じてイギリス文化についての知識を深めます。

評価方法その他

平常点20％、中間試験40％、定期試験40％により評価します。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 第1課＋アニメ「ピーター・ラビットと仲間たち」
- 第2課＋「ピーター・ラビットのお話」原文読解Ⅰ
- 第3課＋原文読解Ⅱ、映画Miss Potter
- 第4課＋原文読解Ⅲ、映画
- 第4課＋中間試験前のまとめ、映画
- 中間試験＋映画
- 第6課＋「作者ボターとビクトリア朝社会」
- 第7課＋映画「不思議の国のアリス」
- 第8課＋映画
- 第8課＋映画
- 第8課＋映画
- 第9課＋映画
- 第9課＋「不思議の国のアリス」とその時代背景、原文読解Ⅰ
- 第11課＋定期試験前のまとめ、原文読解Ⅱ
- 定期試験

＊進行状況によって予定は変更となる場合があります。

使用教科書名

Good Times
「基礎英語で学ぶイギリス生活」
Terry O'Brien他 著
南雲堂

NO. G50801004

Basic English 1

大和田 寛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書に即して、英文法、その例文の解説、練習問題、長文読解等。この教科書の良い点は例文、長文の内容が高度で現実的であること。その点で、中級レベルの教科書と思っていたきたい。まさに大人が学ぶ内容である。練習問題の作り方も従来のやり方と異なり、ネイティブ向けのところが見られる。TOEIC受験にもつながるだろう。

学習目標・到達目標

基礎的な英文法学習から始まり、高度な内容の英文学習に至る。

評価方法その他

授業毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

1. 文の要素と基本5文型①
2. 文の要素と基本5文型② 視力を健康に保つために
3. 動詞の種類①
4. 動詞の種類② 卵は健康にいい？
5. 動詞の時制①
6. 動詞の時制② 飛行機恐怖症
7. 助動詞①
8. 助動詞② 緊急事態に備えて
9. 名詞①
10. 名詞② 早寝早起きの効用
11. 代名詞①
12. 代名詞② 引越しは人生観を変える
13. 冠詞①
14. 冠詞② 人付き合いが苦手な人へ
15. 不定詞①

使用教科書名

英文法から離かな一歩(朝日出版、2018)

NO. G50801031

Basic English 1

田中 愛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直します。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげていきます。またリスニング能力を強化するために、洋楽や海外ドラマ（英語音声・日本語字幕）などで、英語にふれる時間を確保していきます。

学習目標・到達目標

既習の英文法（特に基本的分野）を反復することによって、これまでの学習のつまずき、不安な事項を発見し、それらを克服していくことを目標とします。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70％＋平常点30％
＊平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 前期授業ガイダンス、英文法の基礎知識
2. Unit1 be動詞（現在）＋be動詞を用いた慣用表現
3. Unit2 一般動詞（現在） 他動詞と自動詞の復習
4. Unit3 be動詞（過去）＋be動詞を用いた慣用表現
5. Unit4 一般動詞（過去形、規則変化）
6. Unit5 一般動詞（過去形、不規則変化）
7. Unit6 命令文、There is [are]～
8. Review 復習および練習問題
9. Unit7 itの特別用法
10. Unit8 注意すべき疑問文
11. Unit9 進行形
12. Unit10未来形
13. Unit11 助動詞（基礎）
14. Unit12 助動詞（応用）
15. Review 前期試験範囲の復習
16. 定期試験

使用教科書名

Everyday English Grammar(南雲堂) ¥2,000(税別)

NO. G50801005

Basic English 1

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業では、大学生に必要な英語の基礎力（文法、語法、語彙）を養成する。授業では教科書の他に副教材（プリント配付）を利用し、英文法のトレーニングも行う。授業期間中に中間試験を実施する。

学習目標・到達目標

高校までに学んだ英語を前提とし、大学生に必要な英語基礎力を身につける。

評価方法その他

平常点20％、中間試験40％、期末試験40％で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション(英語と日本語の違い、文とは何か)
2. 動詞の時制(プリント)、Unit 1 be動詞(現在形)
3. Unit 1 続き、Unit 2 一般動詞(現在形)
4. Unit 3 be動詞(過去形)、Unit 4 一般動詞(過去形、規則変化)
5. Unit 4 続き、Unit 5 一般動詞(過去形、不規則変化)
6. 提案と命令、疑問文、There is構文(プリント)
7. Unit 6 命令文、There is [are]～、Unit 7 itの特別用法
8. 中間試験
9. Unit 8 注意すべき疑問文、分詞と進行形(プリント)
10. Unit 9 進行形
11. Unit 10 未来形
12. 助動詞の使い方(プリント)、Unit 11 助動詞(1)
13. Unit 11 続き、Unit 12 助動詞(2)
14. Unit 12 続き、品詞・名詞・冠詞・代名詞(プリント)
15. まとめと復習
16. 期末試験

使用教科書名

水島孝司、ロジャー・バディモア(2018)『大学生のためのコミュニケーション英文法』南雲堂

NO. G50801032

Basic English 1

大和田 寛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書に即して英文法の解説と練習問題、長文読解等。教科書の内容が基礎的なので、手っ取り早く学生に当てていきます。

学習目標・到達目標

英語の基礎的な文法を習得する。

評価方法その他

毎回の小テストの合計

週 テーマ・授業目標等

1. be動詞
2. 現在形、過去形
3. 代名詞、進行形
4. 名詞と冠詞
5. 助動詞
6. 提案と命令
7. 未来形、疑問文と不可疑問文
8. 形容詞、比較
9. 副詞
10. 不定詞、動名詞
11. 接続詞、受動態
12. 語形、形容詞節
13. 副詞節、条件節
14. 名詞節
15. 現在完了形

使用教科書名

大学英語『گرامマープラス』(南雲堂、2013)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語学習を通じて「世界の今」を考えよう！この講座では基本的な英語力を養成するだけでなく、国際人としての感覚を身に着けることを狙いとしています。世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを意識しながら英語を学んでいきましょう。外国語を勉強するときには、その背景となっている文化を知ること大切なので、時には映像や音楽を交えながら、折々に英語圏の文化についても触れていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

- ①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目標とします。また、テキストはTOEIC対策を視野に入れて構成されています。
- ②英米文化の視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）を用いながら、英米文化についての知識を深めることを目標とします。

評価方法その他

評価は、平常点20%、中間試験40%、定期試験40%により評価します。平常点は授業への参加状況（受講態度、提出物などを含む）で総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 第1課＋イギリスの児童文学①短編アニメ「ピーターラビットと仲間たち」
- 第2課＋イギリスの児童文学②「ピーターラビットのお話」原文読解
- 第3課＋イギリスの児童文学③映画 Miss Potter
- 第4課＋イギリスの児童文学④作者ポターとビクトリア朝社会
- 第5課＋中間試験前のまとめ
- 中間試験
- 第6課＋アメリカ現代文化①映画Devil Wears Prada
- 第7課＋アメリカ現代文化② 同上
- 第8課＋アメリカ現代文化③ 同上
- 第9課＋アメリカ現代文化④ 同上
- 第10課＋アメリカ現代文化⑤Devil Wears Pradaと欧米ファッション史
- 第11課＋アメリカ現代文化⑥映画の脚本を読んでみよう！
- 第12課＋アメリカ現代文化⑦登場人物になりきって英会話してみよう！
- 第12課＋定期試験前のまとめ
- 定期試験

使用教科書名

Looking Around England <Revised Edition>
「写真で見えるイギリス・リスニングの旅<改訂新版>」
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語学習を通じて「世界の今」を考えよう！この講座では基本的な英語力を養成するだけでなく、国際人としての感覚を身に着けることも狙いとしています。世界の中にある日本、世界とともに歩む日本、そのようなことを常に意識しながら英語を学んでいきましょう。

学習目標・到達目標

- ①イギリスの日常生活をテーマとしたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目指します。また、TOEICを意識した練習問題を解きつつ、TOEICへの取り組み方を学びます。
- ②主としてイギリスの児童文学に関する映像資料の視聴覚、原文読解を通じてイギリス文化についての知識を深めます。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、定期試験40%により評価します。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 第11課、映画「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 第12課、映画
- 第13課、映画
- 第13課、映画＋アニメ「スヌーピーたちのハロウィーン」（一部視聴）
- 第14課＋中間試験前のまとめと復習、映画
- 中間試験＋映画
- 第14課、映画＋「ハリー・ポッターの世界にみるイギリスの歴史と文化」
- 第16課、映画＋ハリー・ポッター原文読解Ⅰ
- 第16課、映画＋ハリー・ポッター原文読解Ⅱ
- 第17課、映画＋ハリー・ポッター原文読解Ⅲ＋クリスマスについて
- 第18課、ディズニー映画「くまのプーさん」（一部視聴）
- 第19課＋「くまのプーさん」原文読解Ⅰ
- 第19課＋「くまのプーさん」原文読解Ⅱ
- 第19課＋定期試験前のまとめ、原文読解Ⅲ
- 定期試験

* 予定は進行状況によって変更となる場合があります。

使用教科書名

Good Times
「基礎英語で学ぶイギリス生活」
Terry O'Brien 他 著
南雲堂

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書の英文解説、日本語訳、文法事項の解説、練習問題等。

学習目標・到達目標

英語を、文法学習に基づきながら、実際に外国人観光客に日本を案内する際に使える英語を学ぶ。最終目標は英語全般の上達である。

評価方法その他

毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

- 平和への祈り②（過去完了形）
- 京都旅行：新幹線の旅①（話法①）
- 京都旅行：新幹線の旅②（話法①）
- 茶道初体験①（話法②）
- 茶道初体験②（話法②）
- 京都の思い出①（関係代名詞①）
- 京都の思い出②（関係代名詞①）
- 日本滞在最後の日：築地市場～上野公園①（関係代名詞②）
- 日本滞在最後の日：築地市場～上野公園②（関係代名詞②）
- 日本の事象を英語で説明①（関係副詞）
- 日本の事象を英語で説明②（関係副詞）
- 最後の晩餐①（仮定法①）
- 最後の晩餐②（仮定法①）
- 別れの時①（仮定法②）
- 別れの時②（仮定法②）

使用教科書名

初級英語で紹介するニッポン（朝日出版、2016）

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書に即して、英文法とその例文の解説、練習問題、長文読解等。この教科書の良い点は、例文、長文の内容が高度で現実的であること。その点で、中級レベルの教科書と思っていた方がいい。まさに大人が学ぶ内容である。練習問題の作り方も従来のやり方と異なり、ネイティブ向けのところが見られる。TOEIC受験にもつながるだろう。

学習目標・到達目標

基礎的な英文法学習からはじまり、高度な内容の英文学習に至る。

評価方法その他

授業毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

- 不定詞② 子供の成長のためのおもちゃ
- 分詞①
- 分詞② 人は長生きを望むか？
- 動名詞①
- 動名詞② ワクワクする、は大人にとっても重要
- 接続詞①
- 接続詞② 自分を辛抱強くするためには
- 関係詞①
- 関係詞② ファーストフードでいいの？
- 前置詞①
- 前置詞② 完璧主義はよそう
- 比較①
- 比較② 個人で銃を所持することは認めらるるか？
- 条件文と仮定法①
- 条件文と仮定法② 車を運転中の電子メール送受信について

使用教科書名

英文法から確かな一歩（朝日出版、2018）

NO. G50B02005

Basic English 2

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業では、大学生に必要な英語の基礎力（文法、語法、語彙）を養成する。授業では教科書の他に副教材（プリント配付）を利用し、英文法のトレーニングも行う。授業期間中に中間試験を実施する。

学習目標・到達目標

高校までに学んだ英語を前提とし、大学生に必要な英語基礎力を身につける。

評価方法その他

平常点20％、中間試験40％、期末試験40％で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 前期の復習
2. Unit 13 名詞・冠詞、Unit 14 代名詞
3. 前置詞・形容詞・副詞（プリント）
4. Unit 15 前置詞、Unit 16 形容詞
5. Unit 16 続き、Unit 17 副詞
6. 比較（プリント）、Unit 18 比較（1）
7. Unit 19 比較（2）
8. 中間試験、接続詞（プリント）
9. Unit 20 接続詞、受動態（プリント）
10. Unit 21 受け身（受動態）
11. 不定詞・動名詞（プリント）
12. Unit 22 不定詞
13. Unit 23 動名詞、Unit 24 分詞
14. 完了形（プリント）
15. Unit 25 現在完了
16. 期末試験

使用教科書名

水島孝司、ロジャー・バディモア（2018）『大学生のためのコミュニケーション英文法』南雲堂

NO. G50B02032

Basic English 2

大和田 寛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書の内容は、外国人留学生在が日本の大学で学ぶという想定で成り立っている。大学生生活に関連して英会話と英文読解を学習する。

学習目標・到達目標

大学生生活関連の英語を学ぶ。

評価方法その他

毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

1. 教室の場所を尋ねる。
2. わからない言葉を尋ねる。日程を確認する。
3. クラブ活動を説明する。アルバイトについて説明する。
4. 相手の意見を聞く。夏休みの予定を話す。
5. レポートの締め切りを尋ねる。ホストファミリーのルールを尋ねる。
6. 行先の確認をする。外国人観光客をサポートする。
7. 成績について話す。ゼミ決定を相談する。
8. 就職活動について話す。学園祭での模擬店。
9. 日本文化を紹介する。学食のメニューについて話す。
10. クリスマスの過ごし方。メールの文字化けについて話す。
11. ゼミで発表する。
12. 人事面接を受ける。
13. バレンタインデーの過ごし方。
14. 追い出しコンパを企画する。
15. 人生の目標を決める。

使用教科書名

Campus English（「センゲージラーニング」、2018）

NO. G50B02031

Basic English 2

田中 愛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コミュニケーション能力を高めるため、その土台となる英文法、構文を基礎から学び直します。基本的な仕組みを理解し、得た知識で英文理解や英作文の応用へとつなげていきます。またリスニング能力を強化するために、洋楽や海外ドラマ（英語音声・日本語字幕）などで、英語にふれる時間を確保していきます。

学習目標・到達目標

既習の英文法（特に基本的分野）を反復することによって、これまでの学習のつまづき、不安な事項を発見し、それらを克服していくことを目標とします。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70％＋平常点30％
＊平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 後期授業ガイダンス、Unit13 名詞・冠詞
2. Unit14 代名詞
3. Unit15 前置詞
4. Unit16 形容詞
5. Unit17 副詞
6. Unit18 比較（基礎）
7. Unit19 比較（応用）
8. Unit20 接続詞（基礎）
9. Unit20 接続詞（応用）＋Review
10. Unit21 受動態
11. Unit22 不定詞
12. Unit23 動名詞
13. Unit24 分詞
14. Unit25 現在完了
15. Unit25 現在完了（応用）＋Review
16. 定期試験

使用教科書名

Everyday English Grammar（南雲堂）¥2,000（税別）

NO. G50B02034

Basic English 2

大穀 郁子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語学習を通じて「世界の今」を考えよう！
この講座では、基本的な英語力のみならず国際人としての感覚も身に付けることを狙いとします。世界の中にある日本、世界と共に歩む日本、そのようなことを常に意識しながら英語を学んでいきましょう。また、外国語を勉強するときはその背景となっている文化について知ること大切で、時には映像や音楽を交えながら、英語圏の文化についてもふれていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

①イギリスの観光名所を巡って旅をするという設定のもとに書かれたテキストを使用しながら、基礎的で実用的な英語を習得することを目標とします。また、テキストはTOEIC対策を視野に入れて構成されています。
②英米文化の視聴覚資料（主としてイギリスの児童文学関連）を用いながら、英米文化についての知識を深めることを目標とします。

評価方法その他

評価は、平常点20％、中間試験40％、定期試験40％により評価します。
平常点は、授業への参加状況（提出物、受講態度などを含む）で総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 第13課＋映画「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 3 第14課＋映画「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 4 第15課＋映画「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 5 第16課＋映画「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 6 第16課＋中間試験前のまとめ＋「スノーピーたちのハロウィーン」一部視聴
- 7 中間試験＋映画「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 8 第17課＋「ハリー・ポッターの世界にみるイギリスの歴史と文化」
- 9 第18課＋ハリー・ポッター原文読解①
- 10 第19課＋ハリー・ポッター原文読解②
- 11 第20課＋ハリー・ポッター原文読解③
- 12 第21課＋ディズニー映画「くまのプーさん」一部視聴
- 13 第22課＋「くまのプーさん」原文読解①
- 14 第23、24課＋「くまのプーさん」原文読解②
- 15 第25課＋定期試験前のまとめ
- 16 定期試験

＊進行状況によって予定は変わることがあります。

使用教科書名

Looking Around England（Revised Edition）
写真で見るイギリス・リスニングの旅＜改訂新版＞
Terry O'Brien 他 著 南雲堂

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！
この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に着けることにあります。外国語を勉強するときには、その背景となる文化について知ることも大切です。時には音楽や映像を交えながら、英語圏の文化についてもふれていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

この講座では、TOEIC Bridgeのアキストを使用して日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、海外旅行の際に必要な書類の書き方なども学び、国際常識を身に着けることをも狙いとします。同時にまた、欧米の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。

評価方法その他

評価は、平常点20%、中間試験40%、定期試験40%により行います。平常点は、授業への参加状況(受講態度、提出物などを含め)で総合的に判断します。特に、出席状況は重視します。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 第1課＋アメリカの現代文化①アメリカ文化に関する映画
- 3 第2課＋アメリカの現代文化②同上
- 4 第3課＋アメリカの現代文化③同上
- 5 第4課＋アメリカの現代文化④同上
- 6 中間試験前の復習＋アメリカ現代文化⑤映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」
- 7 中間試験＋アメリカの現代文化⑥同上
- 8 第5課＋アメリカの現代文化⑦同上
- 9 第6課＋アメリカの現代文化⑧同上
- 10 第6課＋アメリカの現代文化⑨同上
- 11 第7課＋アメリカの現代文化⑩映画とその背景
- 12 第7課＋アメリカの現代文化⑪
- 13 第8課＋アメリカの現代文化⑫
- 14 第8課＋アメリカの現代文化⑬
- 15 第8課＋定期試験前のまとめ
- 16 定期試験

*進行状況によって予定は変更となる場合があります。

使用教科書名

TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎
和田ゆり 他 著
南雲堂
1900円(税別)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業では、語量の理解、会話の聞き取りとディクテーション、表現の学習、文法問題、聞き取った内容の復元、ロールプレイなどを通じて学習内容の定着を図る。授業期間中に中間試験を行う。

学習目標・到達目標

リスニング学習を通して英語コミュニケーション力を強化し、同時に英語を話す土台となる文法の理解を深めることを目標とする。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション、英語聴解力アセスメント
2. Unit 1 Introductions (1)
3. Unit 1 Introductions (2)
4. Unit 2 Friends (1)
5. Unit 2 Friends (2)
6. Unit 3 Hometown (1)
7. Unit 3 Hometown (2)
8. 中間試験、英語聴解力アセスメント
9. Unit 4 Weekend Activities (1)
10. Unit 4 Weekend Activities (2)
11. Unit 5 Eating Out (1)
12. Unit 5 Eating Out (2)
13. Unit 6 Free Time Activities (1)
14. Unit 6 Free Time Activities (2)
15. Unit 7 Sports
16. 期末試験、英語聴解力アセスメント

使用教科書名

山本成代, Kelly Kimura (2018) Taking Action 金星堂

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

飛行機の乗り方から帰国までの海外旅行英会話を勉強します。実用的なヒアリングと単語学習になります。内容が初歩的なので、毎回読み切り形式で、授業中に暗記、小テストを行います。

学習目標・到達目標

海外旅行で必要となる基本的な英語を学習する。

評価方法その他

毎回の小テストで評価します。

週 テーマ・授業目標等

1. I'm Fine, Thank you. And You?
2. Tell Me a Bit about You
3. Have a Pleasant Flight!
4. First Steps in a Foreign Country
5. Staying at a Hotel 1
6. Staying at a Hotel 2
7. Let's Go Shopping!
8. Sightseeing
9. At a Fast Food Place
10. Dining at a Restaurant
11. Catching a Taxi
12. Taking a Bus
13. I Don't Feel Well
14. On the Way Back to Japan
15. 復習

使用教科書名

英語を使って海外周遊(松柏社, 2009)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「読み・書き・聴き・話す」の4技能の向上を目指すと共に、自分のことについて英語で表現できるよう練習を行っていきます。

学習目標・到達目標

英語のリスニングとスピーキングの練習を行いながら、英語で情報を発信する能力の向上を図ります。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。(平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。)

週 テーマ・授業目標等

- 1 Introduction
- 2 英語の音の特徴について 1
- 3 Unit 1 Introducing Yourself 1~2
- 4 Unit 1 Introducing Yourself 3
- 5 Unit 1 Introducing Yourself 4~8
- 6 英語の音の特徴について 2
- 7 Unit 2 My Best Friend 1~2
- 8 Unit 2 My Best Friend 3
- 9 Unit 2 My Best Friend 4~8
- 10 英語の音の特徴について 3
- 11 Unit 3 My Typical Day 1~2
- 12 Unit 3 My Typical Day 3
- 13 Unit 3 My Typical Day 4~8
- 14 Unit 4 Shopping Habits 1~2
- 15 これまでのまとめ
- 16 定期試験

使用教科書名

Have a Nice Day! / Masuyuki Aoki / 南雲堂 / 2006年

NO. G50B03034

Listening&Speaking 1

田中 愛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

質問に対して、英単語一語で返すだけの会話ではなく、自然かつ正しい英文での会話を目指します。
その準備として、英語の基礎的文法を復習し、それを様々なコミュニケーションの場面で、正しく運用できるようになるための基礎的な能力を高めていくことを目標とします。

学習目標・到達目標

繰り返しリスニングと対話練習を通して、「聞く力」と「話す力」の向上を目指します。また異文化についての知識を深めます。
キッチン用品や食べ物、飲み物の場所、メニュー、食品の調理や準備などについて、日常生活で活用できる表現を身に付けます。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70%＋平常点30%
＊平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 前期授業ガイダンス＋Classroom English
2. Unit1 Transportation交通案内
3. Unit1 Transportation交通案内
4. Unit2 At a Check-in Counterホテルでのチェックイン
5. Unit2 At a Check-in Counterホテルでのチェックイン
6. Unit3 Facilities and Servicesホテル内の施設やサービス案内
7. Unit3 Facilities and Servicesホテル内の施設やサービス案内
8. Unit4 Giving Directions街歩きのための道案内
9. Unit4 Giving Directions街歩きのための道案内
10. Unit5 Recommending a Trip観光スポットを進める
11. Unit5 Recommending a Trip観光スポットを進める
12. Unit6 Dining in Japan①日本食の紹介①
13. Unit6 Dining in Japan①日本食の紹介①
14. Unit7 Dining in Japan②日本食の紹介②
15. Unit7 Dining in Japan②日本食の紹介②＋Review
16. 定期試験

使用教科書名

HOSPITALITY ON THE SCENE(金星堂) ¥2,200(税別)

NO. G50B04001

Listening&Speaking 2

大穀 郁子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語学習を通して異文化に対する視野を広げよう！
この講座の狙いは、基本的な英会話の習得とともに国際人としての感覚を身に付けることにあります。
外国語を勉強するときには、その背景となる文化について知ることも大切です。時には音楽や映像を交えながら、英語圏の文化についてもふれていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

この講座では、TOEIC Bridgeのテキストを使用して、日常英会話を学びます。それぞれの場面で最低限必要な英語表現を学習し、実際に発話できるように訓練します。合わせて、海外旅行の際に必要な書類の書き方なども学び、国際常識を身に付けることを狙います。
同時にまた、欧米の文化、特にアメリカ現代文化への知識を深めていきます。

評価方法その他

評価は、平常点20%、中間試験40%、定期試験40%により行います。平常点は、授業への参加状況(受講態度、提出物などを含む)で総合的に判断します。特に出席状況は重視します。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 第9課＋映画 Back To The Future
- 3 第10課＋同上
- 4 第10課＋同上
- 5 第11課＋同上
- 6 第11課、中間試験前のまとめ＋同上
- 7 中間試験＋映画 The Devil Wears Prada
- 8 第12課＋同上
- 9 第12課＋同上
- 10 第13課＋「ブラダを着た悪魔」と欧米ファッション史
- 11 第14課＋「ブラダを着た悪魔」の英会話
- 12 第14課＋「アメリカの名演説」
- 13 第15課＋「名演説」に見るアメリカの社会Ⅰ
- 14 第15課＋「名演説」に見るアメリカの社会Ⅱ：バラク・オバマ
- 15 定期試験前のまとめ＋「名演説」に見るアメリカの社会Ⅲ：キング牧師
- 16 定期試験
- ＊予定は進行状況によって変更になる場合があります。

使用教科書名

TOEIC Bridgeから学ぶ実用英語の基礎
和田ゆり 他、著
南雲堂
1900円(税別)

NO. G50B04007

Listening&Speaking 2

大和田 寛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ビジネスの場面での初対面の挨拶から始まり、電話の応答や商品の発注など、英語表現を学び、練習します。会話だけでなく、メールの読み書きも含まれます。就職してからきつと役立つと思います。

学習目標・到達目標

基礎的なビジネス英語を学ぶ。

評価方法その他

毎回の小テスト。受講者数によっては平常点を含むことがあります。

週 テーマ・授業目標等

1. Introductions
2. Telephone Calls
3. Making an Inquiry
4. Making an Appointment
5. Receiving a Visitor
6. Invitations
7. Presentations 1
8. Presentations 2
9. Presentations 3
10. Online Meetings
11. Negotiations
12. Placing an Order
13. Making a Complaint 1
14. Making a Complaint 2
15. Completing a Project

使用教科書名

Successful Office English(ナショナルジオグラフィックラーニング、2018)

NO. G50B04008

Listening&Speaking 2

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業では、語彙の理解、会話の聞き取りとディクテーション、表現の学習、文法問題、聞き取った内容の復元、ロールプレイなどを通じて学習内容の定着を図る。授業期間中に中間試験を行う。

学習目標・到達目標

リスニング学習を通して英語コミュニケーション力を強化し、同時に英語を話す主台となる文法の理解を深めることを目標とする。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 前期の復習、英語聴解力アセスメント
2. Unit 8 Health (1)
3. Unit 8 Health (2)
4. Unit 9 Transportation (1)
5. Unit 9 Transportation (2)
6. Unit 10 My Place (1)
7. Unit 10 My Place (2)
8. 中間試験、英語聴解力アセスメント
9. Unit 11 Vacation Plans (1)
10. Unit 11 Vacation Plans (2)
11. Unit 12 Travel (1)
12. Unit 12 Travel (2)
13. Unit 13 Shopping
14. Unit 14 Careers
15. Unit 15 Wishes
16. 期末試験、英語聴解力アセスメント

使用教科書名

山本成代、Kelly Kimura (2018) Taking Action 金星堂

NO. G50B04031

Listening&Speaking 2

橋本 文子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「読み・書き・聴き・話す」の4技能の向上を目指すと共に、自分のことについて英語で表現できるよう練習を行っています。

学習目標・到達目標

英語のリスニングとスピーキングの練習を行いながら、英語で情報を発信する能力の向上を図ります。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。（平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

- 1 前期のまとめと復習
- 2 Unit 4 Shopping Habits 3
- 3 Unit 4 Shopping Habits 4`8
- 4 Unit 5 My Favorite Country 1`2
- 5 Unit 5 My Favorite Country 3
- 6 Unit 5 My Favorite Country 4`8
- 7 Unit 6 On Campus 1`2
- 8 Unit 6 On Campus 3
- 9 Unit 6 On Campus 4`8
- 10 Unit 7 My Favorite Dish 1`2
- 11 Unit 7 My Favorite Dish 3
- 12 Unit 7 My Favorite Dish 4`8
- 13 Unit 8 My First Foreign Language 1`2
- 14 Unit 8 My First Foreign Language 3
- 15 Unit 8 My First Foreign Language 4`8
- 16 定期試験

使用教科書名

Have a Nice Day! / Masayuki Aoki / 南雲堂 / 2006年

NO. G50B05001

Reading & Writing 1

大和田 寛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

文法学習を基盤にして簡単なメール等を英語で書く練習です。堅苦しくなく、楽しんで学べる教科書です。解説もありますが、みなさんが積極的に書いていってください。

学習目標・到達目標

SNSやチャット、メールなどを簡単な英語で書けるようにする。

評価方法その他

授業毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

1. How nice!
2. What?
3. We are happy.
4. My mother likes soccer.
5. I submitted it.
6. I'm doing the assignment.
7. I was told off by a teacher.
8. I want to be a singer.
9. I'm saving money to go to Hawaii.
10. I have something to do today.
11. Can you tell me Kate's number?
12. Could you please bring it?
13. I have just noticed it.
14. I've known you for five years.
15. Karen has been there three times.

使用教科書名

ネット時代の英語コミュニケーション入門(センゲージラーニング, 2018)

NO. G50B04034

Listening&Speaking 2

田中 愛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

質問に対して、英単語一語で返すだけの会話ではなく、自然かつ正しい英文での会話を目指します。
その準備として、英語の基礎的文法を復習し、それを様々なコミュニケーションの場面で、正しく運用できるようになるための基礎的な能力を高めていくことを目標とします。

学習目標・到達目標

繰り返しのリスニングと対話練習を通して、「聞く力」と「話す力」の向上を目指します。また、異文化についての知識を深めます。
キッチン用品や食べ物、飲み物の場所、メニュー、食品の調理や準備などについて、日常生活で活用できる表現を身に付けます。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。
授業時に小テストも行います。
定期試験・小テスト70%＋平常点30%
＊平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 後期授業ガイダンス＋Classroom English
2. Unit8 Arranging a Tour国内旅行の手配
3. Unit8 Arranging a Tour国内旅行の手配
4. Unit9 Staying at a Ryokan旅館について
5. Unit10 Culture Experience in Japan①日本文化体験①
6. Unit10 Culture Experience in Japan①＋②日本文化体験①＋②
7. Unit11 Culture Experience in Japan②日本文化体験②
8. Unit12 Japanese Souvenirsショッピング
9. Unit12 Japanese Souvenirsショッピング
10. Unit13 Dealing with Health Problems and Emergencies怪我や病気の対応
11. Unit13＋Unit14 Dealing with Complaints and accidentsクレームやアクシデントの対応
12. Unit14 Dealing with Complaints and accidentsクレームやアクシデントの対応
13. DVD鑑賞
14. Unit15 Upon Departure帰国に際して
15. Unit15 Upon Departure帰国に際して＋Review
16. 定期試験

使用教科書名

HOSPITALITY ON THE SCENE(金星堂) ¥2,200(税抜)

NO. G50B05031

Reading&Writing 1

橋本 文子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語を読解する上で必要な文法事項を確認しながら、英作文の練習を行い、英語の文法の定着を図ります。また、語彙力を強化し、英語の読解能力の向上に役立てていきます。

学習目標・到達目標

高校までに学んだ英文法を復習しながら、学習内容の定着を図ります。また、基本的な英語を書く力と英文を読解する力の向上を目指します。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。（平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

- 1 Introduction
- 2 Chapter 1 5つの基本文型 Grammar Check
- 3 Chapter 1 Composition
- 4 Chapter 1 Reading Comprehension
- 5 Chapter 2 動詞 Grammar Check
- 6 Chapter 2 Composition
- 7 Chapter 2 Reading Comprehension
- 8 Chapter 3 進行形・未来形・助動詞 Grammar Check
- 9 Chapter 3 Composition
- 10 Chapter 3 Reading Comprehension
- 11 Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞 Grammar Check
- 12 Chapter 4 Composition
- 13 Chapter 4 Reading Comprehension
- 14 これまでのまとめ
- 15 定期試験

使用教科書名

Elementary English Reading & Writing / Tetsuzo Sato, Maki Ito / 南雲堂 / 2014年

NO. G50B06001

Reading & Writing 2

大和田 寛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この教科書は丁寧に作られていて、実用の観点から読解の素材を種々様々に選び、それらの読解を補佐する情報や文法解説が十分に盛り込まれています。まさに面白くてためになる教科書です。盛りだくさんですので、手早く進んでいきます。

学習目標・到達目標

様々なジャンルの英語読解練習をする。

評価方法その他

授業毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

1. 手紙
2. 伝記
3. イベント案内
4. 道案内
5. 名所案内
6. 求人情報
7. 取扱説明書
8. 健康、医療
9. 申込用紙
10. 銀行
11. 案内看板、交通標識
12. スポーツ
13. 歴史
14. 観光案内
15. 科学

使用教科書名

総合英語パワーアップ<基礎編> (南雲堂, 2011)

NO. G50B06031

Reading & Writing 2

橋本 文子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語を読解する上で必要な文法事項を確認しながら、英作文の練習を行い、英語の文法の習得を図ります。また、語彙力を強化し、英語の読解能力の向上に役立てていきます。

学習目標・到達目標

高校までに学んだ英文法を復習しながら、学習内容の定着を図ります。また、基本的な英語を書く力と英文を読解する力の向上を目指します。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。（平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

- 1 前期の復習
- 2 Chapter 5 前置詞・接続詞(I) Grammar Check
- 3 Chapter 5 Composition
- 4 Chapter 5 Reading Comprehension
- 5 Chapter 6 形容詞・副詞と比較級 Grammar Check
- 6 Chapter 6 Composition
- 7 Chapter 6 Reading Comprehension
- 8 Chapter 7 命令文・感嘆文 Grammar Check
- 9 Chapter 7 Composition
- 10 Chapter 7 Reading Comprehension
- 11 Chapter 8 不定詞 Grammar Check
- 12 Chapter 8 Composition
- 13 Chapter 8 Reading Comprehension
- 14 これまでのまとめ
- 15 定期試験

使用教科書名

Elementary English Reading & Writing / Tetsuzo Sato, Maki Ito / 南雲堂 / 2014年

NO. G50B07001

Comm English 1

マーク ルイス

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業ではスピーキングとリスニングにおける会話のパターンを練習する。学生は与えられた会話モデルをクラスメートとともに実際に練習する。

学習目標・到達目標

この授業では会話モデルの難易度を易から難へ段階的に進める。この授業を通じて英会話が有用で楽しいものだと思えるレベルを目指す。

評価方法その他

出席40%とパートナーとの最終インタビューの結果60%により評価する。最終インタビューでは日常的な英会話パターンを使えるかどうかを確認する。

週 テーマ・授業目標等

- Week 1: Are you happy? 「楽しいですか？」
- Week 2: Are you going to watch TV this evening? 「今晚テレビを見ますか？」
- Week 3: Are you looking forward to the Golden Week holidays? 「ゴールデンウィークは楽しみですか？」
- Week 4: How was your Golden Week? 「ゴールデンウィークはどうでしたか？」
- Week 5: Do you like movies? 「映画は好きですか？」
- Week 6: Did you watch TV last night? 「昨晩はテレビを見ましたか？」
- Week 7: Do you like spaghetti? 「スパゲッティは好きですか？」
- Week 8: Did you use the internet yesterday? 「昨日はインターネットを使いましたか？」
- Week 9: Have you ever been to Hakone? 「箱根に行ったことはありますか？」
- Week 10: Have you ever gone shopping in Shibuya? 「渋谷で買い物をしたことがありますか？」
- Week 11: Do you know the Hiratsuka Star Festival? 「平塚星祭りは知っていますか？」
- Week 12: Do you know Mos Burger? 「モスバーガーは知っていますか？」
- Week 13: Do you like the rainy season? 「梅雨は好きですか？」
- Week 14: Are you looking forward to the rainy season? 「梅雨が楽しみですか？」
- Week 15: Final interview with a partner 「パートナーと一緒に最終インタビュー」

使用教科書名

なし

NO. G50B08001

Comm English 2

マーク ルイス

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業ではスピーキングとリスニングにおける会話のパターンを練習する。学生は与えられた会話モデルをクラスメートとともに実際に練習する。

学習目標・到達目標

この授業では会話モデルの難易度を易から難へ段階的に進める。この授業を通じて英会話が有用で楽しいものだと思えるレベルを目指す。

評価方法その他

出席40%とパートナーとの最終インタビューの結果60%により評価する。最終インタビューでは日常的な英会話パターンを使えるかどうかを確認する。

週 テーマ・授業目標等

- Week 1: How was your summer? 「今年の夏はどう過ごしましたか？」
- Week 2: Do you sometimes buy junk food late at night? 「夜遅くにジャンクフードを買うことがありますか？」
- Week 3: Do you like autumn? 「秋は好きですか？」
- Week 4: Did you come to the school festival last year? 「去年は大学祭に来ましたか？」
- Week 5: What did you do last weekend? 「先週の週末には何をしましたか？」
- Week 6: Do you sometimes eat out with friends? 「友だちと外食することはありますか？」
- Week 7: Do you want to make a lot of friends? 「たくさん友だちを作りたいですか？」
- Week 8: Do you like planning? 「計画を立てることは好きですか？」
- Week 9: Is this class tough? 「この授業は難しいですか？」
- Week 10: How was November? 「今年の11月はどうでしたか？」
- Week 11: Did you have an end-of-the-year-party last year? 「去年は忘年会をしましたか？」
- Week 12: Are you looking forward to the New Year break? 「冬休みは楽しみですか？」
- Week 13: How was your New Year break? 「今年の冬休みはどうでしたか？」
- Week 14: Are you worried about your tests? 「テストが心配ですか？」
- Week 15: Final interview with a partner 「パートナーと一緒に最終インタビュー」

使用教科書名

なし

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まずは日常的なコミュニケーションができるレベルを目標に据えて勉強していきましょう。ただ、TOEICには日本の高校まで学校英語では対応できないような問題も出されます。授業では、そのための勉強法も伝授します。

学習目標・到達目標

この授業は、初めてTOEIC受験対策に臨む学生を対象とし、高校までの英語を復習しながら、TOEIC試験への取り組み方を学び、解答のコツや戦略を身に着けます。

評価方法その他

評価は、平常点20％、中間試験40％、定期試験40％により行います。平常点は、授業への参加状況（受講態度、提出物などを含む）で総合的に判断します。出席状況を重視します。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 Unit 1 Eating out
- 3 Unit 2 Travel
- 4 Unit 3 Amusement
- 5 Unit 4 Meetings
- 6 Unit 5 Personnel
- 7 Unit 6 Shopping
- 8 中間試験
- 9 Unit 7 Advertisement
- 10 Unit 8 Daily Life
- 11 Unit 9 Office Work
- 12 Unit 10 Business
- 13 Unit 11 Traffic
- 14 Unit 12 Finance & Banking
- 15 Unit 13 Media
- 16 定期試験

＊進行状況によって、予定は変更となる可能性があります。

使用教科書名

いま始めようTOEICテスト
北尾靖幸、他、著
朝日出版社

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フランス語を初めて学習する人を対象に、発音、入門的な文法、基礎的な会話文などを学びます。アルファベ、それに発音と綴り字の読み方という、フランス語学習の最初歩から授業を始めます。早い時期に綴り字の読み方の習得に成功すると、その後の学習効果が格段に上がりますので頑張ってください。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

フランス語の音、綴り字に親しみ、そして慣れること、挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことが出来ることを目指しましょう。

評価方法その他

評価の基準は、期末試験の結果が60％に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）が40％です。（私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突っ伏しての睡眠といった他の受講生の勉強意欲をそく迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是是非非、公正に評価します）

週 テーマ・授業目標等

☆フランス語に限らず、外国語の学習とは、要するに、文法構造と意味を理解した上で、できるだけ多くの外国語表現を身体に染み込ませて蓄積していくことに他ならないと思っています。そのために、自宅での学習（復習）としては、音声ダウンロードして聞きつつ、教科書に出てきた日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返して口に出して練習してください（学生へのメッセージ「準備学習」の項、参照）。少なくとも課が終わるたびに小テストをします。

1. フランス語学習への導入 (1)フランス語の音の種類と発音記号 アルファベ 綴り字記号 綴り字の読み方
2. フランス語学習への導入 (2)リエゾン アンシェヌマン エリズイオン アクセント 句読記号 あいさつなどの基本表現
3. フランス語学習への導入 第1課 (1)名詞の性と数 不定冠詞と定冠詞
4. 第1課 (2)提示の表現 練習問題
5. 第1課 (3)会話(テーマ:あれは何ですか?) 重要表現の確認
6. 第1課 (4)会話実践練習 発音規則の確認 語彙の確認
7. 第1課 小テスト 第2課 (1)主語人称代名詞 動詞 être の直説法現在
8. 第2課 (2)形容詞の一致 数詞1(1～20) 練習問題
9. 第2課 (3)会話(テーマ:私は日本人です) 重要表現の確認
10. 第2課 (4)会話実践練習 発音規則の確認 語彙の確認
11. 第2課 小テスト 第3課 (1)動詞 avoir の確認 否定形
12. 第3課 (2)指示形容詞 数詞2(20～60) 練習問題
13. 第3課 (3)会話(テーマ:空いている部屋はありますか?) 重要表現の確認
14. 第3課 (4)会話実践練習 発音規則の確認 語彙の確認
15. 第3課 小テスト 前期範囲全体の総復習
16. 前期定期試験

使用教科書名

『パラレル1』大岩昌子 他4名 共著 白水社 定価(本体2200円＋税)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、TOEICの問題集を教材として実践的な訓練を行い、試験で得点を伸ばすと同時に社会のニーズに応えられるような英語運用能力を養成します。中学・高校で学んできた英語を確実に定着させつつ、新たな発見（＋α）で、個々の能力を伸ばすことを目指します。

学習目標・到達目標

TOEICのリスニングとリーディングの実践的な練習問題に取り組み、各目のレベルアップを目指していきます。

評価方法その他

定期試験、平常点で総合的に評価します。授業時に小テストも行います。定期試験・小テスト70％＋平常点30％
＊平常点・・・授業への参加状況や積極性など

週 テーマ・授業目標等

1. 前期授業ガイダンス＋Unit7 Mini Test
2. Unit1 The Weather <Listening中心>
3. Unit2 Shopping <Reading中心>
4. Unit3 At the Airport <Listenig中心>
5. Unit4 Travel <Reading中心>
6. Unit5 Health <Listening中心>
7. Unit6 Housing <Reading中心>
8. Unit8 Getting a Job <Listening中心>
9. Unit9 In the Workplace <Reading中心>
10. Unit10 New Products <Listening中心>
11. Unit11 Office Message <Reading中心>
12. Unit12 Sales <listening中心>
13. DVD鑑賞
14. Unit13 Ordering <Reading中心>
15. Unit14 Commuting <Listening中心>
16. 定期試験

使用教科書名

Simply 500: Acing the TOEIC Listening & Reading Test(南雲堂) ¥1,600(税抜)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フランス語会話（入門）の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれば、簡単なり取りをすることができるようになります。主題はフランス料理といった食文化をはじめ、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画やゲームについても学び、仏日両者の文化の関係性を理解しましょう。例えば、フランスにあるMIKADOというゲームはご存知ですか？

学習目標・到達目標

授業を通して、フランス人の生活ぶりをのぞいたり、フランスを旅行するときやフランス人に出会うときに役立つ会話を学び、フランスに親しみを持てるようになりましょう。

評価方法その他

授業態度・小テストを総合的に評価します。授業態度: 50%
小テスト: 50%

週 テーマ・授業目標等

1. Faire connaissance 知り合いになる
2. Saluer 挨拶する
3. Epeler 名前の綴り
4. Compter 0から55の数
5. Se présenter (1) 自己紹介(1)
6. Se présenter (2) 自己紹介(2)
7. Demander le prix 値段を尋ねる
8. La date 日付
9. Les goûts - les différences (1) 好み(1)
10. Les goûts - les différences (2) 好み(2)
11. Mon passe-temps (1) 趣味(1)
12. Mon passe-temps (2) 趣味(2)
13. Les chansons françaises フランスのシャンソン
14. Les dessins animés français フランスのアニメ
15. Révisions 復習

使用教科書名

“Patachou 1 - Conversation”
(Marie-Emmanuelle Muramatsu 著)
朝日出版社

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前期と同様です。原則的に教科書に沿って授業を進めますが、時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

前期と同じく、フランス語の音、綴りに親しみ、そして慣れること、挨拶表現、簡単な日常的な表現なら、そう困難無く使うことが出来ることを目指します。

評価方法その他

評価の基準は、期末試験の結果が60％に平常点（即ち、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果）が40％です。（私語、携帯電話やスマートフォン弄り、机に突伏しての睡眠といった他の受講生の勉強意欲をそぐ迷惑行為を続ける人は高評価は得られません。そこは是是非非、公正に評価します）

週 テーマ・授業目標等

☆フランス語に限らず、外国語の学習とは、要するに、文法構造と意味を理解した上で、できるだけ多くの外国語表現を身体に染み込ませて蓄積していくに他ならないと思っています。そのために、自宅での学習（復習）としては、音声ダウンロードして聞きつつ、教科書に出てきた日常生活で多用される重要な語彙、構文、表現を何度も何度も繰り返しの口に出して練習してください（学生へのメッセージ「準備学習」の項、参照）。少なくとも課が終わるたびに小テストをします。

1. 授業への導入、方向付け 前期学習内容の復習
2. 第4課 (1)第1群規則動詞(-er動詞)の直説法現在 疑問文と答え方
3. 第4課 (2)所有形容詞 練習問題
4. 第4課 (3)会話(テーマ:きょうだいはいますか?) 重要表現の確認
5. 第4課 (4)会話実践練習 発音規則の確認 語彙の確認
6. 第4課 小テスト 第5課 (1)不規則動詞 aller, venir の直説法現在 前置詞 à, de と定冠詞の縮約
7. 第5課 (2)疑問形容詞 人称代名詞強勢形 命令法 数詞3(61～100) 練習問題
8. 第5課 (3)会話(テーマ:映画を見に行きませんか?) 場所を示す名詞による前置詞の使い分け
9. 第5課 (4)会話実践練習 重要表現の確認 語彙の確認
10. 第5課 小テスト 第6課 (1)不規則動詞 faire の直説法現在 不規則動詞 partir, voir の直説法現在
11. 第6課 (2)近接未来と近接過去 疑問副詞 序数 練習問題
12. 第6課 (3)会話(テーマ:明日バカンスに出かけます) 重要表現の確認
13. 第6課 (4)会話実践練習 発音規則の確認 語彙の確認
14. 第6課の小テスト+後期範囲全体の総復習

使用教科書名

『パレレル1』大岩昌子 他4名 共著 白水社 定価(本体2200円＋税) 前期の入門1で使用した同じ教科書を継続して使用します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フランス語について入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみてもいいかでしょうか。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

入門程度の知識をさらに確実にし、使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やすことを目指します。

評価方法その他

評価の基準は、割合で示すならば、期末試験の結果が60％に平常点が40％です。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。詳しくは初回の授業で話します。

週 テーマ・授業目標等

☆前期集中講義(授業)です。以下の進行予定表にある冒頭の数字は、開講から数えて何時間目なのかを表しています。以下、その回の授業で学ぶ文の一例をあげておきます。こうした文を作るのに必要な文法と一緒に学んでいきます。これはあくまでもシラバス入稿時点で考える進度目安であって、授業は皆さんの理解度に応じて柔軟にスピードあるいは内容を変えて進めます。確実に力を付けること、確実に使える表現を増やすことが大事です。

1. 授業への導入、方向付け
2. 「私は名前を〜といいます。／日本人です」
3. 「あなたはフランスのかたですか？」
4. 「これは何ですか？ /ほらあそこに教会があります」
5. 「兄弟姉妹はいますか？／私は21歳です」
6. 「フランスの歌は好きですか？」
7. 「きみはワインをかうの？ーいや、買わないよ」
8. 「私はテレビを見たい。／ワインはいいがですか？」
9. 「どんな花が好きですか？」
10. 「このホテルは快適です／これはきれいな花です」
11. 「ルーブル美術館へ行きます。／どこから来ましたか？」
12. 「大学へはどうやって来ますか？／なぜフランス語を学びますか？」
13. 「今何時ですか？ー4時15分前です」
14. 「いつフランスにもどりますか／おいくらですか？」
15. 前期の総復習
16. 前期定期試験

使用教科書名

特に指定しません。受講する皆さんの希望に沿った教材プリント等をこちらで用意します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フランス語会話（入門）の授業です。やさしいことばを使った、短い会話を繰り返しながらフランス語を練習します。相手がゆっくり、はっきりとして話してくれば、簡単なやり取りをすることができるようになります。主題はフランス料理といった食文化から学びます。また、フランスの現代文化に影響を与えたとされる漫画やゲームも学ぶことで、両者の文化の関係性を知ることができるようになります。例えば、フランスにあるWIKADOというゲームはご存知ですか？

学習目標・到達目標

授業を通して、フランス人の生活ぶりをのぞいたり、フランスを旅行するときやフランス人に出会うときに役立つ会話を学び、フランスに親しみを持てるようになります。

評価方法その他

授業態度・小テストを総合的に評価します。
授業態度: 50%
小テスト: 50%

週 テーマ・授業目標等

1. Présenter quelqu'un (1) 人を紹介する(1)
2. Présenter quelqu'un (2) 人を紹介する(2)
3. Le physique 人の特徴
4. Le caractère 性格
5. La possession (1) 持ち物(1)
6. La possession (2) 持ち物(2)
7. Les objets - les vêtements 物ー洋服
8. Les objets - les couleurs 物ー色
9. Demander l'âge (1) 年齢をたずねる
10. Demander l'âge (2) 年齢をたずねる
11. Parler de sa famille (1) 家族
12. Parler de sa famille (2) 家族
13. Noël en France フランスのクリスマス
14. Epiphanie - Les gâteaux et La galette des ros フランスのケーキとGaletteのレシビ
15. Jeux français フランスのゲーム

使用教科書名

"Patachou 1 - Conversation"
(Marie-Emmanuelle Muramatsu 著)
朝日出版社

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前期と同じく、入門程度の知識はすでに修めている人を対象に、発音、文法、語彙、表現などを学習します。とは言ってもアルファベ、それに発音と綴り字の読み方から復習しながら進めますので、とにかくフランス語やフランス文化に興味を持っているのであれば履修してみてもいいかでしょうか。時間を見つけて、種々の映像を見たり、音楽を聴いたりして、フランス文化にも親しんでもらいたいと思います。

学習目標・到達目標

入門程度の知識をさらに確実にし、使えるフランス語の表現、読めるフランス語の文章をさらに増やすことを目指します。

評価方法その他

評価の基準は、割合で示すならば、期末試験の結果が60％に平常点が40％です。ここでいう平常点とは、普段の授業への参加状況や参加姿勢、それに随時行う小テストの結果のことです。詳しくは初回の授業で話します。

週 テーマ・授業目標等

☆後期集中講義(授業)です。以下の進行予定表にある冒頭の数字は、開講から数えて何時間目なのかを表しています。以下、その回の授業で学ぶ主な文法事項をあげておきます。これはあくまでもシラバス入稿時点で考える進度目安であって、授業は皆さんの理解度に応じて柔軟にスピードあるいは内容を変えて進めます。確実に力を付けること、確実に使える表現を増やすことが大事です。

1. 授業への導入、方向付け
2. 前期の復習1 重要な動詞の活用、
3. 前期の復習2 否定文、疑問文、応答文、命令文
4. 前期の復習3 形容詞と副詞、
5. 複合過去形1 助動詞être
6. 複合過去形2 助動詞avoir
7. 代名詞の広がり1 直接目的語を人称代名詞に
8. 代名詞の広がり2 間接目的語を人称代名詞に
9. 代名詞の広がり3 強勢形代名詞、代名動詞
10. 代名詞の広がり4 中性代名詞
11. 表現の幅を広げよう1 もうひとつの過去時制
12. 表現の幅を広げよう2 天候や時間を言う(非人称表現)
13. 表現の幅を広げよう3 関係代名詞を使う
14. 表現の幅を広げよう4 意思を伝える
15. 後期の総復習
16. 後期定期試験

使用教科書名

特に指定しません。皆さんの意向を聞いたうえで私の方で教材を用意します。

NO. G50B14001

ドイツ語入門1

高次 裕

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。
ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言語の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。
ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験5級に到達することを目指します。

学習目標・到達目標

- ・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる
- ・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる
- ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する
- ・授業で扱う語彙を理解し、能動的に使うことができる
- ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

評価方法その他

平常点30%、小テスト20%、試験50%
（平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します）

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 導入 ドイツ語のアルファベットと発音
- 第2週 第0課 ドイツ語で使われる文字と発音
- 第3週 第0課 続き
- 第4週 第1課 動詞の現在人称変化(1)
- 第5週 第1課 続き
- 第6週 第2課 語順(1)
- 第8週 第2課 続き
- 第9週 第3課 語順(2)、seinとhaben
- 第10週 第3課 続き
- 第11週 第4課 定冠詞、不定冠詞
- 第12週 第4課 続き
- 第13週 第5課 定冠詞類、人称代名詞
- 第14週 第5課 続き
- 第15週 まとめ、復習

使用教科書名

伊藤直子／吉村曉子／小野幸賢「Sei aktiv! (ひらめき、発見、ドイツ語文法)」朝日出版社、2018年

NO. G50B15001

ドイツ語入門2

高次 裕

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ドイツ語を初めて学ぶ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音、基礎的な文法と会話表現を学びます。
ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言語の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。
ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験5級に到達することを目指します。

学習目標・到達目標

- ・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる
- ・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる
- ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する
- ・授業で扱う語彙を理解し、能動的に使うことができる
- ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

評価方法その他

平常点30%、小テスト20%、試験50%
（平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します）

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 前期のまとめ、復習
- 第2週 第6課 否定冠詞, 所有冠詞
- 第3週 第6課 続き
- 第4週 第7課 動詞の現在人称変化(2)
- 第5週 第7課 続き
- 第6週 第8課 前置詞
- 第7週 第8課 続き
- 第8週 第8課 続き
- 第9週 第9課 分離動詞
- 第10週 第9課 続き
- 第11週 第9課 続き
- 第12週 第10課 助動詞
- 第13週 第10課 続き
- 第14週 第10課 続き
- 第15週 まとめ、復習

使用教科書名

伊藤直子／吉村曉子／小野幸賢「Sei aktiv! (ひらめき、発見、ドイツ語文法)」朝日出版社、2018年

NO. G50B14031

ドイツ語入門1

増田 好純

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

はじめてドイツ語を学ぶ方を対象として、初歩ドイツ語の総合的な授業を行います。必須の文法事項とドイツ語圏の基礎知識を学び、あいさつや会話、簡単な文章に慣れることで、ドイツ語圏に住む人びととドイツ語で交流できることを目指します。ヨーロッパの大国ドイツは、日本とも歴史的に深いつながりを持ってきました。みなさんがドイツを中心とするドイツ語圏への関心をより深めてくれることを願っています。

学習目標・到達目標

ドイツ語のごく簡単な短文の発話、聴き取り、読解および基礎的な会話ができることを目標とします。目安としては入門・初級教科書の前半部分を学習し終えることを目指します。また、ドイツ語が話されている地域の社会、文化等も学び、ドイツ語だけでなくドイツ語圏そのものへの理解を深めます。

評価方法その他

前期の学習内容は基礎的な知識に関するものとなるため、筆記試験(60%)と平常点(40%)で評価します。平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:授業の進め方を説明します。また、ドイツ語とドイツ語を使用する地域(ドイツ語圏)の特色を解説します。
2. ドイツ語への導き 1:ドイツ語のアルファベット(英語のアルファベット)と発音を学びます。
3. ドイツ語への導き 2:数、曜日、月などの基礎単語と挨拶などを学び、日常の挨拶や自己紹介を実践してみます。
4. ドイツ語動詞の基本 1:ドイツ語は主語によって動詞が変化します(人称変化)。今回は現在形での人称変化を学びます。
5. ドイツ語動詞の基本 2:英語のbe動詞に当たるseinを学びます。そしてseinを使う簡単な日常会話を実践してみます。
6. ドイツ語名詞の基本 1:ドイツ語では名詞に性があり、それに応じて冠詞の形が変わります(格変化)。今回は格変化を学びます。
7. ドイツ語名詞の基本 2:名詞とともに使う動詞haben(英語have)を学び、「～を持っています」という会話を実践してみます。
8. ドイツ語名詞の基本 3:名詞の複数形とその格変化を学び、habenと複数形の名詞を使う会話を実践してみます。
9. ドイツ語動詞の例外的変化:不規則な変化をする動詞と重要動詞(werden・wissen)を学びます。
10. 命令形と人称代名詞:日常会話でよく使う命令形と人称代名詞を学びます。
11. 強変化動詞・命令形の実践:不規則な変化をする動詞と命令形で日常会話を実践してみます。
12. ドイツ語の前置詞 1:ドイツ語の前置詞を学びます。
13. ドイツ語の前置詞 2:引き続きドイツ語の前置詞を学び、前置詞を使った会話に挑戦してみます。

使用教科書名

B.ヴォンデ／石井孝／石井寿子／阪阪清人／阪阪良子著『ベルリンに夢中』同人社:
新規購入ではなく、前年度の受講生などから譲り受けても構いません。
ただし、著作権のため教科書全体をコピーして持ち込むことはご遠慮ください。

NO. G50B15031

ドイツ語入門2

増田 好純

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

はじめてドイツ語を学ぶ方を対象として、初歩ドイツ語の総合的な授業を行います。必須の文法事項とドイツ語圏の基礎知識を学び、あいさつや会話、簡単な文章に慣れることで、ドイツ語圏に住む人びととドイツ語で交流できることを目指します。ヨーロッパの大国ドイツは、日本とも歴史的に深いつながりを持ってきました。みなさんがドイツを中心とするドイツ語圏への関心をより深めてくれることを願っています。

学習目標・到達目標

ドイツ語のごく簡単な短文の発話、聴き取り、読解および基礎的な会話ができることを目標とします。目安としては入門・初級教科書の後半部分を学習し終えることを目指します。また、ドイツ語が話されている地域の社会、文化等も学び、ドイツ語だけでなくドイツ語圏そのものへの理解を深めます。

評価方法その他

筆記試験は課しません。
その代わり、第14回・第15回の「会話の総合実践」1・2で学習内容の理解度を判断し(60%)、平常点(40%)を加味して評価します。平常点は授業への参加状況・取り組み方の積極性等で総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

1. 複合動詞:「前つづり」との組み合わせでできる複合動詞と複合動詞が使われる日常会話を学びます。
2. ドイツ語の接続詞:ドイツ語の接続詞を学び、接続詞を用いた会話表現に挑戦してみます。
3. ドイツ語の助動詞:「～できる」や「～したい」のような気持ちを補う助動詞を学びます。
4. ドイツ語の未来形:未来を表現する未来時制を学び、前回学習した助動詞とともに様々な状況を会話で表現してみます。
5. ドイツ語の過去表現 1:過去形を学び、すでに起こったことを対話のなかで説明してみます。
6. ドイツ語の過去表現 2:ドイツ語の会話では過去の出来事を現在完了形で表現します。この現在完了形を学び会話で実践してみます。
7. ドイツ語の形容詞:より詳しく状況を説明できるようになるために形容詞の使い方を学び、形容詞を含む会話に挑戦してみます。
8. 形容詞の比較級・最上級、その他の比較表現:形容詞と副詞の比較表現を学びます。
9. ドイツ語の受身形:「～される」という表現を「受動」「受身」と言います。今回は受身形と日常会話で多用される表現を学びます。
10. 自分自身を表す代名詞:主語と同じ人物を表す代名詞を再帰代名詞と呼びます。今回は再帰代名詞を使った表現を学びます。
11. ドイツ・ベルリン事情:教科書で紹介されているコラムのうち、これまでの授業で触れることができなかった箇所を解説します。
12. 復習 1:会話の総合実践に備えて、前期で学習した必須文法事項と会話表現を復習します。
13. 復習 2:会話の総合実践に備えて、後期で学習した必須文法事項と会話表現を復

使用教科書名

B.ヴォンデ／石井孝／石井寿子／阪阪清人／阪阪良子著『ベルリンに夢中』同人社:
新規購入ではなく、前年度の受講生などから譲り受けても構いません。
ただし、著作権のため教科書全体をコピーして持ち込むことはご遠慮ください。

NO. G50816001

ドイツ語初級1

高次 裕

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ドイツ語を入門程度まで学んだ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音などを復習しつつ、基本的な文法と会話表現を学びます。
ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言語の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。
ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験4級程度のドイツ語能力に到達することを目標とします。

学習目標・到達目標

- ・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる
- ・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる
- ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する
- ・授業で扱う語彙を理解し、能動的に使うことができる
- ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

評価方法その他

平常点30%、小テスト20%、試験50%
（平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します）

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 導入、第1課 人称代名詞と動詞の現在人称変化(1)、語順、ja, neinの使い方
- 第2回 第1課 単語・表現:国名・～人・言語・専攻名・職業名、練習問題
- 第3回 第1課 会話表現、読解、【都市の紹介】ミュンヘン
- 第4回 第2課 名刺の性・冠詞・格、名詞の複数形、人称代名詞
- 第5回 第2課 単語・表現:身のまわりの物、練習問題
- 第6回 第2課 会話表現、読解、【都市の紹介】ザルツブルク
- 第7回 第3課 動詞の人称変化(2)、命令形、非人称のes、時刻の表現
- 第8回 第3課 単語・表現:乗り物・果物・野菜、練習問題
- 第9回 第3課 会話表現、読解、聴き取り、【都市の紹介】ウィーン
- 第10回 第4課 定冠詞・不定冠詞、人称代名詞3格と4格
- 第11回 第4課 単語・表現:身につけるもの・家族、練習問題
- 第12回 第4課 会話表現、読解、【都市の紹介】ハンブルクとブレーメン
- 第13回 第5課 前置詞の格支配、前置詞と定冠詞の融合形、疑問代名詞werとwas
- 第14回 第5課 単語・表現:街、練習問題
- 第15回 第5課 会話表現、読解、【都市の紹介】バーゼル
- 第16回 試験

使用教科書名

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『ブーメラン・エルエー』朝日出版社、2015年

NO. G50818001

中国語入門1

河野 哲宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語（普通話）を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的にを行い、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶、正しく発音できるようになることを目標とする。
履修条件：初めて中国語を勉強する人を対象とする。

学習目標・到達目標

現代中国語を初めて学習するにあたって、最も基礎的な発音(声調・母音・子音)の学習から始めて、基礎的な文法・簡単な会話をできるようにする。

評価方法その他

平常点30%、定期試験の得点70%
平常点は、普段の授業にきちんと出席する、教科書の読みの練習をしっかりと行っている、また、私語などの授業に不適切な行為をしていなかったか、等から判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.授業ガイダンス(学習の注意点)・第1課 四声・軽声
- 2.第1課 母音の発音・nとngの発音／r化
- 3.第2課 子音の発音
- 4.第2課 声調の変化
- 5.第3課 人称代名詞・名前の言い方・“是”の文
- 6.第3課 助詞“的”・副詞“也”
- 7.第4課 年月日・曜日の言い方・文末助詞“了”
- 8.第4課 年齢の言い方・S+V+O
- 9.第5課 指示代名詞・序数詞・動詞“有”
- 10.第5課 形容詞述語文・文末助詞
- 11.第6課 疑問詞疑問文・動詞“在”
- 12.第6課 “喜”・時を表すことばの位置
- 13.第7課 時刻の言い方・前置詞の“在”・経験を表す“ ”
- 14.第7課 動詞の重ね型・命令文・“有点儿”
- 15.第8課 去・来+V(+O)・助動詞“会”
- 16.定期試験

※上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。

使用教科書名

『総合力UP! 初級中国語』朝日出版社、2017

NO. G50817001

ドイツ語初級2

高次 裕

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ドイツ語を入門程度まで学んだ学習者を対象としたこの授業では、ドイツ語の発音などを復習しつつ、基本的な文法と会話表現を学びます。
ドイツ語文法の基礎を理解しドイツ語という言語の仕組み・特徴を知ること、基礎的なコミュニケーション能力を身につけること、ドイツ語学習を通してドイツ語圏の文化（生活、社会、芸術、哲学・思想）についての知見を得ることを目的とします。
ドイツ語の読む・書く・話す・聞く能力をバランスよく伸ばし、ドイツ語技能検定試験4級程度のドイツ語能力に到達することを目標とします。

学習目標・到達目標

- ・ドイツ語の標準的な発音を聞き取り、発音することができる
- ・ドイツ語の単語や文章を正確に書きとることができる
- ・授業で扱うドイツ語の仕組み・文法を理解する
- ・授業で扱う語彙を理解し、能動的に使うことができる
- ・ドイツ語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける

評価方法その他

平常点30%、小テスト20%、試験50%
（平常点は授業への意欲的な参加度で総合的に判断します）

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 第6課 話法の助動詞、未来形、従属接続詞と副文、分離動詞と非分離動詞
- 第2回 第6課 単語・表現:催し物、練習問題
- 第3回 第6課 会話表現、読解、【都市の紹介】ベルリン
- 第4回 第7課 形容詞の格語尾変化、形容詞・副詞の比較
- 第5回 第7課 単語・表現:食事・色、練習問題
- 第6回 第7課 会話表現、読解、【都市の紹介】エッセン
- 第7回 第8課 動詞の3基本形、現在完了形
- 第8回 第8課 単語・表現:過去の表現、練習問題
- 第9回 第8課 会話表現、読解、【都市の紹介】アイゼナハ
- 第10回 第9課 過去形、再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 第9課 単語・表現:童話、練習問題
- 第12回 第9課 会話表現、読解、【都市の紹介】ヴァイマル
- 第13回 第10課 zu不定詞(句)、関係代名詞
- 第14回 第10課 単語・表現:祝祭、練習問題
- 第15回 第10課 会話表現、読解、【都市の紹介】ケルン
- 第16回 試験

使用教科書名

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『ブーメラン・エルエー』朝日出版社、2015年

NO. G50818031

中国語入門1

辻 リン

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、中国語を初めて学習する人を対象とし、現代中国語の標準語を入門から学ぶ。入門段階において、特に発音の学習を重点的にを行い、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、正しく発音できるようになることを目的とする。繰りかえしのヒアリングと音読を通して、基礎レベルの語彙と文法、表現を習得する。テキストの内容に合わせて適宜中国文化事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標・到達目標

漢字を知っていることは中国語学習に有利な反面、害とし穴でもある。本授業は、中国語を単なる「目でみる」漢字のみではなく、「耳」と「口」を使ってしっかりと覚えていくことを目的とする。初めて学ぶ段階において、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを教育目標とする。

評価方法その他

平常点10%、授業での小テスト30%、総合テスト60%
（平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1、第1週 中国語と学習法
- 2、第2週 発音篇(その1)単母音
- 3、第3週 発音篇(その2)子音
- 4、第4週 発音篇(その3)複母音
- 5、第5週 発音篇(その4) 鼻母音、
- 6、第6週 発音篇(その5) 挨拶用語、名前のたずね方
- 7、第7週 発音篇(その6) 数字、日中漢字比較
- 8、第8週 発音篇 総復習
- 9、第9週 人称代名詞 私、あなた、彼、彼女
- 10、第10週 指示詞(1)これ、それ、あれ、どれ
- 11、第11週 指示詞(2)この、その、あの、どの
- 12、第12週 名詞述語文、形容詞述語文
- 13、第13週 時刻、時間、曜日の表し方
- 14、第14週 存在の表現
- 15、第15週 総復習・定着度の確認

使用教科書名

『最新2訂版 中国語ははじめの一步』、白水社、2012年3月発行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

後期では、前期と同じく中国語の基本的な会話を練習するほか、より複雑な文法内容についても学習する。
履修条件：前期と連動した内容であるため、受講者は前期の授業を必ず受けていること。

学習目標・到達目標

前期で学んだ基礎的な中国語の発音や言い方からさらに進んで、やや複雑な構文を会話で話せるようになる。

評価方法その他

平常点30％、学期末試験70％
平常点は、普段の授業にきちんと出席する、教科書の読みの練習をしっかりと行っている、また、私語などの授業に不適切な行為をしていなかったか、等から判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.第8課 太+形容詞(+了)・前置詞“从～到…”
- 2.第9課 金額の言い方・助動詞“想”“要”
- 3.第9課 “和”・前置詞“离”
- 4.第10課 程度補語・完了の助詞・前置詞“ ”
- 5.第10課 比較の文・動量補語
- 6.第11課 進行形・助動詞“能”“可以”
- 7.第11課 S+V+O1+O2の構文・“一点儿”
- 8.第12課 選択疑問文・使役形・V+一下(+O)
- 9.第13課 結果補語・持续形
- 10.第13課 “是…的”の文・禁止を表す“ ”
- 11.第14課 方向補語・助動詞“得”
- 12.第14課 疑問詞の不定詞的用法・疑問の種類
- 13.第15課 “把”の構文・可能補語・動詞(句)が連体修飾語になる場合
- 14.第15課 原因を述べる“因 ” 第16課 受身を表す“被”・“打算”
- 15.第16課 “就要…了”・“跟…一起”
- 16.定期試験

※上記のスケジュールは、おおよその目安である。実際の進捗状況によって、変更することもある。

使用教科書名

『総合力UP 初級中国語』朝日出版社、2017

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、入門段階または同等レベルを終えた学生を対象とする。初級段階において、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、簡単な文法知識を活かしたリスニング、会話練習も行う。

学習目標・到達目標

初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを学習目標とする。

評価方法その他

平常点10％、授業での小テスト30％、総合テスト60％
（平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1、発音復習 自己紹介 数字の言い方
- 2、発音復習 「…は～です」の表現 人称代名詞
- 3、基礎文型の復習 述語文
- 4、基礎文型の復習 疑問文
- 5、助動詞(2) 可以
- 6、助動詞(3) 要
- 7、連動文
- 8、比較文
- 9、過去・完了
- 10、「是…的」の構文
- 11、動作の進行
- 12、程度補語
- 13、時量補語
- 14、動量補語
- 15、総復習
- 16、テスト

使用教科書名

『新版 中国語つぎへの一步』白水社、2012.3

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前期に身につけた入門知識を確認しながら授業を進んでいく。後期には、繰りかえしのヒアリングと音読を通して、発音、初級文法、基礎レベルの会話を身につくように目指す。テキストの内容に合わせて適宜現代中国文化・経済事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標・到達目標

漢字を知っていることは中国語学習に有利な反面、落とし穴でもある。本授業は、中国語を単なる「目でみる」漢字のみではなく、「耳」と「口」を使ってしっかり覚えていくことを目的とする。初めて学ぶ段階において、もっとも重要な中国語のリズムと正しい発音を身体で記憶し、初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを教育目標とする。

評価方法その他

平常点10％、授業での小テスト30％、総合テスト60％
（平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1、第1週 前期の復習(その1)
- 2、第2週 前期の復習(その2)
- 3、第3週 場所指示詞、存在の“有”と“在”、
- 4、第4週 所有の表現、人や物の数え方
- 5、第5週 方位詞、二重目的語
- 6、第6週 連動文
- 7、第7週 前置詞(1)在、離
- 8、第8週 前置詞(2)給、從
- 9、第9週 比較の表現
- 10、第10週 助動詞 (1)能、会
- 11、第11週 助動詞 (2)得
- 12、第12週 完了の「了」と変化の「了」
- 13、第13週 経験を現す“過”
- 14、第14週 総まとめ
- 15、第15週 総まとめ・定着度の確認

使用教科書名

『最新2訂版 中国語はじめての一步』白水社、2012年3月発行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前期に身につけた基礎を更に発展させる。後期には、繰りかえしのヒアリングと音読を通して、基礎レベルの語彙と文法、表現を習得し、作文と会話も重視する。テキストの内容に合わせて適宜現代中国文化・経済事情についても説明し、言語の背景にある中国の発想や文化への理解を深めることにも心掛ける。

学習目標・到達目標

初級レベルにふさわしい語彙と文法、表現を習得して、今後の中国語学習に役立つ基礎能力を養うことを学習目標とする。

評価方法その他

平常点10％、授業での小テスト30％、総合テスト60％
（平常点は授業への参加状況、授業態度等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1、前期の復習
- 2、年月日・曜日、時間、時刻、
- 3、存現文
- 4、疑問詞の不定表現
- 5、回数補語
- 6、受身文
- 7、使役文
- 8、「把」の構文
- 9、可能補語
- 10、近接未来
- 11、強調表現
- 12、比較、取り立ての“是…的”
- 13、仮定表現
- 14、副詞の「再」「就」
- 15、総まとめ
- 16、テスト

使用教科書名

『新版 中国語つぎへの一步』白水社、2010.3

NO. G50822001	韓国語入門1	徐 旼廷
---------------	--------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 韓国語を初めて学習する人を対象に、ハングル文字とその発音の習得から始め、簡単な文を読めるようになることがこの講義の目標です。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 韓国語を初めて学習する人を対象に、ハングル文字とその発音の習得から始め、簡単な文を読めるようになることがこの講義の目標です。

学習目標・到達目標

韓国語の基本的な文字、発音、文法を学び、簡単な文を読めるように勉強します。

学習目標・到達目標
 韓国語の基本的な文字、発音、文法を学び、簡単な文を読めるように勉強します。

評価方法その他

平常点:40%
 定期試験:60%
 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- ハングル文字の成り立ち 子音と母音
- 10個の基本母音
- 二重母音
- 19個の基本子音(1)
- 19個の基本子音(2)
- 19個の基本子音(3)
- パッチムとその発音
- 単語の発音- 発音法則:連音化・鼻音化・濃音化
- 基本文法Ⅰ 「○○は○○です」、「○○は○○ではありません」
- 基本文法Ⅱ 韓国語の疑問詞、疑問文
- 基本文法Ⅲ 韓国語の「コ、ソ、ア」
- 基本文法Ⅳ 韓国語の「ある/ない」の表現
- 基本文法Ⅴ 韓国語の位置の表現
- 基本文法Ⅵ 基本的な動詞とその丁寧形
- 総合復習
- 定期試験

使用教科書名

プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

NO. G50824001	韓国語初級1	徐 旼廷
---------------	--------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 入門クラスに引き続き、基本的な文法表現と語彙を学習するとともに、様々な場面で使える表現も勉強し、会話を高めます。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 入門クラスに引き続き、基本的な文法表現と語彙を学習するとともに、様々な場面で使える表現も勉強し、会話を高めます。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 入門クラスに引き続き、基本的な文法表現と語彙を学習するとともに、様々な場面で使える表現も勉強し、会話を高めます。

学習目標・到達目標

言葉を通じて韓国の文化を理解し、日常のコミュニケーションを円滑に行えるように実用的な表現を身につけることを目標とします。

学習目標・到達目標
 言葉を通じて韓国の文化を理解し、日常のコミュニケーションを円滑に行えるように実用的な表現を身につけることを目標とします。

評価方法その他

平常点:40%
 定期試験:60%
 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 動詞の活用 連体形①
- 動詞の活用 連体形②
- 動詞の活用 変則用言①
- 動詞の活用 変則用言②
- 動詞の活用 変則用言③
- 動詞の活用 まとめ
- 会話・作文① 可能・不可能・希望
- 会話・作文② 勧誘・指示
- 会話・作文③ 条件文
- 会話・作文④ 順接・逆接文
- 会話・作文⑤ 理由・原因・目的
- 会話・作文⑥ 予定・推量
- 会話・作文⑦ 経験・依頼
- 会話・作文⑧ まとめ
- まとめ
- 定期試験

使用教科書名

プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

NO. G50823001	韓国語入門2	徐 旼廷
---------------	--------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 韓国語の用言の活用、否定文、敬語表現、過去形などの重要な文法と表現を勉強します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 韓国語の用言の活用、否定文、敬語表現、過去形などの重要な文法と表現を勉強します。

学習目標・到達目標

ハングルの読み方と書き方を勉強した方を対象とし、韓国語の重要な文法を表現を勉強し、簡単な日常の会話をできることを目標とします。

学習目標・到達目標
 ハングルの読み方と書き方を勉強した方を対象とし、韓国語の重要な文法を表現を勉強し、簡単な日常の会話をできることを目標とします。

評価方法その他

平常点:40%
 定期試験:60%
 平常点は出席率、授業への参加態度等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 前期の復習
- 前期の復習
- 基本構文 数字を使う表現(1)
- 基本構文 数字を使う表現(1)
- 基本構文 用言の活用(1)
- 基本構文 用言の活用(2)
- 基本構文 用言の活用(3)
- 基本構文 否定文の作り方(1)
- 基本構文 否定文の作り方(2)
- 基本構文 敬語表現(1)
- 基本構文 敬語表現(2)
- 基本構文 過去形(1)
- 基本構文 過去形(2)
- 総合復習
- 総合復習
- 定期試験

使用教科書名

プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

NO. G50825001	韓国語初級2	徐 旼廷
---------------	--------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 入門クラスに引き続き、基本的な文法表現と語彙を学習するとともに、様々な場面で使える表現も勉強し、会話を高めます。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 入門クラスに引き続き、基本的な文法表現と語彙を学習するとともに、様々な場面で使える表現も勉強し、会話を高めます。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）
 入門クラスに引き続き、基本的な文法表現と語彙を学習するとともに、様々な場面で使える表現も勉強し、会話を高めます。

学習目標・到達目標

言葉を通じて韓国の文化を理解し、日常のコミュニケーションを円滑に行えるように実用的な表現を身につけることを目標とします。

学習目標・到達目標
 言葉を通じて韓国の文化を理解し、日常のコミュニケーションを円滑に行えるように実用的な表現を身につけることを目標とします。

評価方法その他

平常点:10% 宿題:10%
 小テスト:10% 定期試験:70%
 平常点は授業に参加状況と積極的な態度等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 日記をつける①
- 日記をつける②
- 日記をつける③
- 手紙を書く①
- 手紙を書く②
- 手紙を書く③
- 自己紹介をする
- 電話をする
- 電話をする
- 買い物をする
- 買い物をする
- ラジオで聞く韓国語
- ラジオで聞く韓国語
- ラジオで聞く韓国語
- まとめ
- 定期試験

使用教科書名

プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

使用教科書名
 プリント

NO. G50901001

アカデミック・ジャパニーズ1

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のタスクを総合的に学ぶことで、単位取得に必要な日本語能力およびスキルを高めていくことを目的としている。アカデミック・ジャパニーズ1と2では異なる題材を用いて、同じプロセスを繰り返すことで能力および技能の向上を目指していく。

学習目標・到達目標

「アカデミック・ジャパニーズ」では、留学生が大学での単位取得に必要な日本語能力および技能を身につけることを目標としている。課題を通して、次のことができるようになることを目指していく。
(1)文章の意図を理解する。(2)レポートを作成する。(3)口頭発表をする。

評価方法その他

課題・小テスト 20%
レポート 30%
口頭発表 30%
平常点 20%

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 イントロダクション、論理的文章の構成(1) | 2 書くということ |
| 3 論理的文章の構成(2) | 4 アイディアの出し方 |
| 5 読解(1) | 6 テーマの決定 |
| 7 読解(2) | 8 アウトラインの構成 |
| 9 読解(3) | 10 アウトラインの修正 |
| 11 読解(4) | 12 レポートの構成(1) |
| 13 読解(5) | 14 レポートの構成(2) |
| 15 読解(6) | 16 レポートの構成(3) |
| 17 読解(7) | 18 レポートの構成(4) |
| 19 口頭発表の方法(1) | 20 文献収集の方法(1) |
| 21 口頭発表の方法(2) | 22 文献収集の方法(2) |
| 23 口頭発表の方法(3) | 24 文献収集の方法(3) |
| 25 口頭発表の方法(4) | 26 レポートの表現(1) |
| 27 口頭発表の方法(5) | 28 レポートの表現(2) |
| 29 口頭発表の方法(6) | 30 レポートの表現(3) |
| 31 口頭発表 | 32 まとめ |

使用教科書名

配付プリントを使用

NO. G50902001

アカデミック・ジャパニーズ2

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

留学生が大学での勉強を全うするために必要な日本語能力は、日常生活で体験的に身につくものではない。「アカデミック・ジャパニーズ」では「ノートを取る」「文献を調べる」「文献を読む」「レポートを作成する」「口頭発表をする」等のタスクを総合的に学ぶことで、単位取得に必要な日本語能力およびスキルを高めていくことを目的としている。アカデミック・ジャパニーズ1と2では異なる題材を用いて、同じプロセスを繰り返すことで能力および技能の向上を目指していく。

学習目標・到達目標

「アカデミック・ジャパニーズ」では、留学生が大学での単位取得に必要な日本語能力および技能を身につけることを目標としている。課題を通して、次のことができるようになることを目指していく。
(1)文章の意図を理解する。(2)レポートを作成する。(3)口頭発表をする。

評価方法その他

課題・小テスト 20%
レポート 30%
口頭発表 30%
平常点 20%

週 テーマ・授業目標等

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1 イントロダクション、論理的文章の構成(1) | 2 書くということ |
| 3 論理的文章の構成(2) | 4 アイディアの出し方 |
| 5 読解(1) | 6 テーマの決定 |
| 7 読解(2) | 8 アウトラインの構成 |
| 9 読解(3) | 10 アウトラインの修正 |
| 11 読解(4) | 12 レポートの構成(1) |
| 13 読解(5) | 14 レポートの構成(2) |
| 15 読解(6) | 16 レポートの構成(3) |
| 17 読解(7) | 18 レポートの構成(4) |
| 19 口頭発表の方法(1) | 20 文献収集の方法(1) |
| 21 口頭発表の方法(2) | 22 文献収集の方法(2) |
| 23 口頭発表の方法(3) | 24 文献収集の方法(3) |
| 25 口頭発表の方法(4) | 26 レポートの表現(1) |
| 27 口頭発表の方法(5) | 28 レポートの表現(2) |
| 29 口頭発表の方法(6) | 30 レポートの表現(3) |
| 31 口頭発表 | 32 まとめ |

使用教科書名

配付プリントを使用

NO. G50905001

日本語ラボa

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まず全体の指導では、発音、語彙、文型、表現について、基礎からやり直すことで、正確さを高めていく。更に個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、ひとりひとりの日本語能力を伸ばしていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組み姿勢等により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- | |
|-------------------|
| 1 オリエンテーション、発音(1) |
| 2 発音(2) 文型(1) |
| 3 発音(3) 文型(2) |
| 4 発音(4) 文型(3) |
| 5 発音(5) 文型(4) |
| 6 文型(5) 語彙(1) |
| 7 語彙(2) |
| 8 到達度チェック(1) |
| 9 語彙(3) |
| 10 ドリル |
| 11 ドリル |
| 12 ドリル |
| 13 ドリル |
| 14 ドリル |
| 15 到達度チェック(2) |

使用教科書名

プリント使用

NO. G50906001

日本語ラボb

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

発音、語彙、文型、表現について、全体的な指導を行い、より高度な日本語を身につけられるよう訓練する。また、個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、ひとりひとりの日本語能力を確実に伸ばしていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組みの態度等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- | |
|------------|
| 1 発音(1) |
| 2 発音(2) |
| 3 語彙・文型(1) |
| 4 語彙・文型(2) |
| 5 語彙・文型(3) |
| 6 語彙・文型(4) |
| 7 語彙・文型(5) |
| 8 到達度チェック |
| 9 ドリル |
| 10 ドリル |
| 11 ドリル |
| 12 ドリル |
| 13 ドリル |
| 14 ドリル |
| 15 到達度チェック |

使用教科書名

プリント使用

NO. G50907001

日本語ラボc

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、日本語ラボaおよび日本語ラボbを履修した学生が、トレーニングを続けることで、より高度な日本語能力を身につけることを目的としている。全体の指導とともに個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、日本語能力を高めていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組みの態度等を総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ニーズ判定テスト
- 2 ドリル
- 3 ドリル
- 4 ドリル
- 5 ドリル
- 6 ドリル
- 7 ドリル
- 8 到達度チェック
- 9 ドリル
- 10 ドリル
- 11 ドリル
- 12 ドリル
- 13 ドリル
- 14 ドリル
- 15 到達度チェック

使用教科書名

プリント使用

NO. G50908001

日本語ラボd

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業は、日本語ラボaおよび日本語ラボbを履修した学生が、トレーニングを続けることで、より高度な日本語能力を身につけることを目的としている。全体の指導とともに個々のニーズに合ったメニューでドリルを実施し、ひとりひとりの日本語能力を高めていく。

学習目標・到達目標

コミュニケーションに支障なく外国語を使えるレベルに達すると、それ以上の上達が困難になる「化石化」が起こるが、大学入学後の留学生の日本語はまさにその時期にあたる。この授業では、化石化を打破し、より高度な日本語能力を身につけることを目標としている。

評価方法その他

到達度チェック 50%
平常点 50%
(平常点は、授業への参加状況・課題への取り組みの態度等により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ニーズ判定テスト
- 2 ドリル
- 3 ドリル
- 4 ドリル
- 5 ドリル
- 6 ドリル
- 7 ドリル
- 8 到達度チェック
- 9 ドリル
- 10 ドリル
- 11 ドリル
- 12 ドリル
- 13 ドリル
- 14 ドリル
- 15 到達度チェック

使用教科書名

プリント使用

NO. G50909001

社会人としての日本語

内田 宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業後、社会人として日本語と関わる環境に身を置くことを希望する留学生を対象に、社会人として求められる日本語の力を身につけさせることをめざす。日本語の敬語の基本について学ぶとともに、さまざまな場面に応じた実践的な練習を通じて、日本社会の中で円滑にコミュニケーションをとっていく方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

日本で社会人として生活していく中で必要となる、基本的な日本語能力、コミュニケーション力を身につける。

評価方法その他

平常点20%、提出課題40%、期末試験40%。平常点は授業への参加状況、授業中に行う練習問題等への取り組み、討論への参加等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

1. 敬語のしくみ
2. 日本語敬語の分類
3. 日本語敬語の実践的練習
4. 電話応対の基本
5. 電話応対のマナー
6. 電話応対の実践的練習
7. 手紙の形式
8. 手紙に特有の日本語表現
9. 手紙の書き方の実践的練習
10. 履歴書の書き方の基本
11. 効果的な文章表現の工夫
12. 履歴書の書き方の実践的練習
13. 面接の受け方の基本
14. 効果的な口頭表現の工夫
15. 面接の受け方の実践的練習
16. 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリントを配付する。

NO. G50931001

日本の歴史と文化

内田 宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本の歴史や文化についての知識は、大学におけるさまざまな勉強を理解するための背景として必要であり、また留学生自身の日本社会への適応にも重要な要素となる。しかし、日本に育った者が大学入学時までに身につけてきているこれらの知識を、留学生は自ら意識的に学ぶことで蓄積していかなければならない。この授業では、日本の歴史を学ぶことを通じて日本の政治的・文化的変遷を理解するとともに、さらにそこから日本文化の特徴や日本人の思考形式についても理解を深めることをめざす。

学習目標・到達目標

日本の歴史の概略や、日本文化の歴史的な展開について理解する。

評価方法その他

平常点20%、中間試験40%、期末試験40%。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

1. 日本の姿 日本の地理
2. 日本の姿 人口・気候・行政区
3. 日本の歴史 石器から土器へ
4. 日本の歴史 農耕と金属器の時代
5. 日本の歴史 統一政権の誕生
6. 日本の歴史 聖徳太子と飛鳥文化
7. 日本の歴史 中央集権国家の形成
8. まとめ、中間試験
9. 日本の歴史 奈良時代の文化
10. 日本の歴史 律令国家の変容
11. 日本の歴史 武士政権の登場
12. 日本の歴史 鎌倉時代の文化
13. 日本の歴史 武士社会の展開
14. 日本の歴史 戦国大名の政治
15. 日本の歴史 中世の産業と文化
16. 期末試験

使用教科書名

東京外国語大学編(1990)『留学生のための日本史』山川出版社。

專 門 科 目

NO. G0003031	インターンシップ
	金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1～2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。企業先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

成果報告書70%
平常点30%

週 テーマ・授業目標等

- 前期
- 1回目：本授業の全体説明
- 2回目：1回目と同じ内容
- *1回目と2回目は同じ内容なので、学生はどちらか一方に参加すること。
- 3回目：インターンシップとは
- 4回目：成果報告書からインターンシップのイメージを把握する
- 5回目：先輩から聞くインターンシップの実像を知る
- 6回目：インターンシップに向けたエントリーシートの書き方
- 7回目：ビジネスマナー（1）外部講師予定
- 8回目：ビジネスマナー（2）同上
- 9回目～15回目：個別対応

後期

- 1回目～2回目：インターンシップの振り返り
- 3回目～4回目：インターンシップを今後に生かす

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095031	キャリアデザインB
	金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというどうしても個人の考えから始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題4～5回(40%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.イントロ:授業概要について
- 2.キャリア教育とは何か
- 3.働くとは
- 4.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える
- 5.これまでとこれからの時代の流れを知る
- 6.社会についてわかっていないことを考える
- 7.社会を知ろう
- 8.やりたいことのうそ
- 9.幸せとは
- 10.職種・業界について考える
- 11.会社とは
- 12.良い会社とは
- 13.レポート作成について
- 14.キャリアシナリオについて
- 15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094031	キャリアデザインA
	金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。本授業では、単に職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。興味を持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述できる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題4～5回(40%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.イントロ:授業概要の説明
- 2.大学での学びと働く
- 3.社会の多様な働き方
- 4.「社会にできる」ってどういうこと
- 5.学びと社会のつながりを知る
- 6.多様な働き方を知る
- 7.職種・業種を知る
- 8.会社を知る
- 9.チームワークを知る
- 10.リーダーシップを知る
- 11.社会に求められる能力
- 12.会社・職種・業界を知る
- 13.レポート作成について
- 14.仕事人生40年を考える
- 15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G01001031	現代生活論（現代家政学科）
	竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

21世紀を迎え、人間生活とその環境の変化は著しく、かつ、危機的な様相を深めている。地球環境、民族紛争、南北問題、格差・貧困、人種問題、国内に限れば、住宅問題、過労死・自殺の急増、介護、いじめ、虐待、食糧危機、食品安全、医療ミス、ニート・フリーター問題、そして、原発問題、などなど、世界に起きている生活の問題と日本社会に起きている問題について、その複雑な回路を学問的に解きほぐす努力を行い、問題を深め、希望と展望を語れる、そういう現代生活論を講じたい。

学習目標・到達目標

現代の生活に生起する諸問題を、具体的に考えられるようにしたい。他の人びととの意見の違いなど発見し、問題の複雑さを実感してほしい。学期末試験では、いくつかの課題について、調べたことを整理して、それに自分自身の意見が述べられるようにしたい。

評価方法その他

平常点(50%)および課題(50%)の総合評価とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 調理と食品成分の変化
- 3 料理の盛り付け
- 4 ことばと生活文化
- 5 身近なところにサステイナブル・デザインがある
- 6 食と農をつなぐ女性農業者
- 7 消費者の立場から考える日本の「奨学金」制度
- 8 祭り遊び
- 9 現代社会における余暇
- 10 Looking outward to communicate with different cultures.
- 11 家庭生活の中の衣服
- 12 現代の若者の古着とリサイクル方法を考える
- 13 人間の感覚と環境評価指標
- 14 生活様式と住まいの変化
- 15 現代住宅の設計手法
- 16 試験

使用教科書名

特に指定しない。複数の担当教員から、必要に応じて、それぞれ参考文献などが提示される。

NO. G01002031 家政学原論 上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

[illegible]

學習目標・到達目標

前半は家政学という学問についての理解、関心を高めることを目指す。生きたい今だからその生活を総合的に見つめる家政学の視点が求められている。国際家政学会の2008ミッドウインターと世界の家政学や家庭教育に動向に目をむけ、また日本の家庭教育の役割にも注目し、持続可能な社会の実現に自分が問われるかを自分に問いかけ、現代は家政学の歴史や、教育に関わる女性たちの生き方を、天野正子氏の現代生活者論や後半は家政学をもとに、女

評価方法その他

授業ごとのレポートなど平常点50点 試験50点

週 テーマ・授業目標等

1. 家政学の現在・過去・未来
2. 現代社会の家族・家庭と家政学
3. 現代日本の家政学と家庭教育
4. 世界の家政学・アジアの家政学
5. 老年学から見る家政学と家庭科
6. 女性の生き方から見る保育と地域社会
7. 持続可能な社会と家政学(1)
8. 持続可能な社会と家政学(2)
9. 大江スミの家政学と天野正子らの現代生活学
10. 女子高等師範学校にみる家政学の歴史とジェンダー
11. 女性が活躍する農業経営体にもみる男女共同参画型社会
12. 食品ロスにもみる食が結ぶ都市と農業との共生型社会
13. コミュニティネットワークにみる福祉循環型社会
14. 100年時代人生設計にもみるライフサイクルリカレント型社会
15. 私と家政学 振り返り

使用教科書名

NO. G01005031 美と健康

山村 明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心身が健やかで、疾病等のトラブルがなく日常生活をおくれることが「健康」な状態である。一方、「美しい」という概念は一通りの型にはまったものではない。それは歴史的にも、また時代や社会によって望ましい概念は異なってきた。また、多様性を認める今日の社会においては多種多様な「美」を見出すことが望まれる。本書では「美」と「健康」とのバランスを学び、衣履や装飾行動と身体メカニズムとの関連を理解し、美しく過ごすことの意義を考える。校外授業では美と健康を意識した製品づくりを行う企業を訪問し、企業実践の事例などを学ぶ。

學習目標・到達目標

人が心にいだく「美しい」という概念は多様であることを理解し、心身が健やかな状態である健康で、かつ美しく生きるための姿勢を考え、判断する力を養う。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・レポート課題など):30%
定期試験:30%

週 テーマ・授業目標等

1. 導入：多様な美、唯一の健康
2. 美のはじまり 清潔 身体加工
3. においと香り 香害
4. 皮膚 小麦色の肌と美白
5. 化粧 日本の化粧の変遷
6. 化粧 化粧で表現する美意識
7. 世界に通じる美(外部講師による校内特別授業)
8. 毛髪 髪型の変遷
9. 毛髪 黒髪と茶髪つづき
10. からだつき 肥満と痩身 美容体操に始まる美と健康志向
11. からだつき 足と脚 靴のおしゃれ
12. 美容医療(美容整形)と身体加工
13. 男性の美容意識
14. 企業見学(校外授業)※
15. おしゃれと心の健康
16. 試験

使用教科書名

特に指定しない(プリント配布等)

NO. G01004031 女性史 佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

女性の生き方を歴史に学びます。明治のはじめ、封建的な女性像（『女学』など）にはいかに批判されたのか。福沢諭吉は、その代表的な人物でした。彼の近代的な女性像を明らかにします。自由民権運動は女性の解放をどのように考えたのか。女性の参政権など、について語ります。明治後半から大正期にかけて女性の職業的自立や恋愛の自由が論じられます。平塚らいてうには、女性として恋愛の自由を主張します。女性には愛される対象ではなく、愛する主体となるべきだと説くのです。そして戦争の時代、女性たちはどのような生き方を選んだのか。戦争と女性の関わり方を考えます。

學習目標・到達目標

歴史に関心をもってほしいと思います。歴史に学び、現在を生きる教養を形成してほしいものだと思います。

現在の女性の社会的位置がどのようなものなのか、いかなる問題を抱えているのか、それを歴史的に考えられることを求めます。

いまの自分の生き方を歴史的状況にかかわらせて論じられることが重要だと思ってください。

評価方法その他

小レポート等平常点20%、試験80%、など総合評価(100%)。

週 テーマ・授業目標等

1. 女大学とは何か
2. 女大学批判
3. 福沢諭吉の女性観
4. 明治社の女性論
5. 自由民権運動と女性
6. 植木枝盛の女性観
7. 田俊子の女性論
8. 良妻賢母主義思想
9. 民法典論争と女性
10. 良妻賢母主義教育と高等女学校
11. 女性の自立と職業
12. 北村透谷の恋愛論
13. 平塚らいてうの「新しい女」の主張
14. 職業・戦争と女性
15. 生活科学、母性、戦争、
16. 試験

使用教科書名

特に決めません。プリントを用意しますので、大切に保管してください。試験に使います。

NO. G01006031 情報処理演習Ⅰ

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

多様な統計を読み解く力をつけ、計算ソフトを使い、集計表の作成、関数の利用、グラフの作成などについて、応用操作ができるようにする。
説明・練習と演習問題の提出をシステムを使用して行い、事例に沿って理解を深めていく。

學習目標・知識目標

表計算ソフトで集計表の作成、関数の利用、グラフの作成などの応用操作を習得する。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス:授業の目的・概要、授業計画、評価方法など
- 2 統計調査を読む①:グラフの読み方、官庁統計、国勢調査、家計調査
- 3 統計調査を読む②:研究調査、事業者が実施した調査
- 4 データ・計算式・関数入力、罫線、表作成、印刷などの基本操作の復習
- 5 基本的な統計処理①:単純集計・度数分布、統計処理(平均・分散、標準偏差)の説明と練習
- 6 基本的な統計処理②:統計処理(クロス集計)の説明と練習
- 7 演習問題①:基本的な統計処理
- 8 アンケート調査の入力・集計の説明・練習
- 9 演習問題②:アンケート調査の入力
- 10 アンケート調査の集計・分析の説明・練習
- 11 演習問題③:アンケート調査の集計・分析
- 12 高度なグラフ作成の説明・相関係数・偏相関係数を使って、因果関係と相関関係を説明・練習
- 13 演習問題④:相関関係
- 14 質的データの読み方と基本的なまとめ方①:質的データを読み解く
- 15 質的データと量的データのまとめ方②:高度な関数の説明・練習
- 16 試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

NO. G01007131

情報処理演習Ⅱ

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

情報処理演習Ⅰに引き続き授業である。
世の中の膨大な量の情報の中から有用な情報を探し出し役立てるためには、情報を収集・登録し、登録されたデータの中から必要なものを効率よく検索したり見やすい形式で出力する必要がある。そのためのツールがデータベースである。
ここではデータベースの基本的な考え方を学ぶとともに、データベース定義および操作に関する能力を身に付ける。

学習目標・到達目標

各種データベースの機能と特徴を理解する。
表計算ソフトによるデータベース操作を習得する。
データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作を習得する。

評価方法その他

受講状況・学習態度(5%)、提出物(80%)、試験(15%)などを総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス(授業の目的・概要、授業計画、評価方法など)
- 2 ファイル管理とファイル編成法
- 3 データベースの概念と種類
- 4 データベース管理システムの機能
- 5 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作①
- 6 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作②
- 7 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作③
- 8 表計算ソフトによる基本的なデータベース操作④
- 9 表計算ソフトによる高度なデータベース操作①
- 10 表計算ソフトによる高度なデータベース操作②
- 11 表計算ソフトによる高度なデータベース操作③
- 12 表計算ソフトによる高度なデータベース操作④
- 13 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作①
- 14 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作②
- 15 データベースソフトを使った基本的なデータベースの定義・操作③
- 16 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。講義時間内に配布する資料を用いる。

NO. G01009031

卒業研究B

現代家政学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。研究成果の報告では、プレゼンテーション力を身に付け、説明と議論を可能にすること。

学習目標・到達目標

大学での学びのなかから、興味のある課題を見出し、卒業論文・製作を行うこと。

評価方法その他

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(1)
- 2.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(2)
- 3.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(3)
- 4.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(4)
- 5.調査・実験実習・製作(まとめ・考察を含む)(5)
- 6.論文作成(1)
- 7.論文作成(2)
- 8.論文作成(3)
- 9.論文作成(4)
- 10.論文作成(5)
- 11.論文作成(6)
- 12.論文要旨の作成(1)
- 13.論文要旨の作成(2)
- 14.卒論発表の準備(1)
- 15.卒論発表の準備(2)

使用教科書名

NO. G01008031

卒業研究A

現代家政学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

4年間の学びの集大成として、研究課題の設定・研究方法の決定・資料の収集等を主体的に行うことができるようになること。

学習目標・到達目標

大学での学びのなかから、興味のある課題を見出し、卒業論文・製作を行うこと。

評価方法その他

研究に取り組む課程での参加状況および発表・報告等総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.問題の分析と課題の設定(1)
- 3.問題の分析と課題の設定(2)
- 4.先行研究・参考文献の調査
- 5.先行研究・参考文献の調査・発展
- 6.先行研究・参考文献の調査・まとめ
- 7.研究方法の決定(1)
- 8.研究方法の決定(2)
- 9.研究方法の決定(3)
- 10.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(1)
- 11.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(2)
- 12.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(3)
- 13.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(4)
- 14.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(5)
- 15.調査・実験実習・製作(分析・まとめを含む)(6)

使用教科書名

NO. G01010031

家族論

林 葉子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族は最も身近な基礎集団です。時代とともに日本の家族がどのような変遷を遂げてきたか、その背景を探っていきます。また、現代社会において「家族は変わった」と感じている者は多いでしょう。個人化や多様化が進む現代家族の実態は、未婚化や晩婚化など、これまでの枠組みでは捉えきれなくなっています。クラスでは、家族の近代化から現代家族への変遷、現代家族をめぐる現象などを探っていきます。さらに、毎日のように報道される現代家族をめぐる諸問題、その現状や背景にあるものについても探っていきます。後半は、クラスの皆さんが興味を持ち、調べてまとめあげた「私の家族」の報告を交えながら進めていきます。

学習目標・到達目標

- 次の内容への理解を学習の目標にしてください。
- 1 現代において家族とは何かを考える
 - 2 現代のファミリー・アイデンティティについて理解する
 - 3 現代家族への変遷について知る
 - 4 今日の家族の問題は何かについて考え、自分の意見をまとめる

評価方法その他

小論文 30%
発表レポート 40%
発表レジュメと発表態度 30%
その他、授業態度など、総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 家族の「近代化」の変遷 1 近代家族の誕生
- 第2週 家族の「近代化」の変遷 2 近代家族の大衆化
- 第3週 家族の形態と機能の変化
- 第4週 現代家族・現代家族の住まい方
- 第5週 「食卓」の風景を通して見る家族の変遷
- 第6週 女性と家と家族変動
- 第7週 子どもの社会化と親子関係
- 第8週 離婚と離婚後
- 第9週 高齢者と家族
- 第10週 ワーク・ライフ・バランスと家族
- 第11週 家族と医療
- 第12週 地域社会の変動・ネットワークにみる家族変遷
- 第13週 『私の家族と現代家族』
- 第14週 『私の家族と現代家族』
- 第15週 『私の家族と現代家族』

使用教科書名

石川美 『現代家族の社会学』有斐閣ブックス
授業にてプリント配布します

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代における親子が抱える問題について映像等を用いながら考察を行う。比較検証の対象として平安後期物語に見える親子関係を軸に据え、現代人が抱く世の中に対する不安感や他者との違和感について、分析してみたい。また、「住まう」という観点から家財と人間関係というモノと人のつながりを通して家族という存在を考察するワークショップを行う。その後、「近代家族」崩壊以後、どのような家族像が提起されているか、現代の小説を通して考察を行うことで、今後の家族のあり方について理解を深める。

学習目標・到達目標

家族は身近なだけに、思い込みや偏見などの醸成される母胎となりやすく、また現在の家族形態の絶対視も起こりやすい。そうした思い込みを拂って、家族の歴史的な変遷や成り立ちをよく理解し、広く家族の在り方を考える公平な態度を養う。また、歴史資料とは異なる文学作品等幅広い資料を読み取る能力を高め、分析方法を身につけることを目標とする。

評価方法その他

出席レポート(平常点)50%、試験50%で評価。
(平常点は、各回に実施する小レポートによって評価する。)

週 テーマ・授業目標等

- 1.モノと住まいと家族関係
- 2.母の束縛を生きる娘の問題「ラプンツェル」を読む
- 3.母の束縛を生きる娘の問題「ラプンツェル」の映像解析1
- 4.母の束縛を生きる娘の問題「ラプンツェル」の映像解析2
- 5.母の束縛を生きる娘の問題「浮舟」
- 6.違和感を生きる「虫めづる姫君」
- 7.リモデルできない娘「夜の寝覚」
- 8.ばくのおとうさんは誰ですか「狭衣」
- 9.ばくのおとうさんは誰ですか「浜松中納言物語」
- 10.母の四類型を考えるワークショップ
- 11.校内特別授業「地域で支える子どもの育成」外部講師
- 12.家族をつくる 西加奈子「円卓」1
- 13.家族をつくる 西加奈子「円卓」2
- 14.家族をつくる 朝井リョウ「世界地図の下書き」
- 15.家族をめぐる公共と私
- 16.試験

使用教科書名

特に指定しないが、授業時に参考文献その他必要な書籍の紹介を行う。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

障がいのある人がいる家族を取り巻く社会的な状況の変化を理解し、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援を提供するため、さまざまな種類の援助活動について理解することを目指します。校外授業として、国立ハンセン病記念館（東村山市）の見学を予定しています。校外授業への参加は、受講の条件になっています。

学習目標・到達目標

障がいのある人がいる家族を取り巻く社会的な状況の変化と家族のニーズを理解することを求めます。特にこの授業では、障がいのある人がいる家族が直面する困難とそれに応じたさまざまな支援のあり方を考えることが出来るようになることを目指します。

評価方法その他

平常点(30%)、レポート(50%)、試験(50%)による総合評価を行います。
(平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断)

週 テーマ・授業目標等

1. 家族支援とは何をするのか
2. 障がいのある人の家族支援の先駆者:石井筆子
3. 障がいイメージの変化と福祉施設での支援
4. 母親に子どもの障がいを知られる
5. 子どもの障がいを理解する
6. 子育て支援と福祉制度
7. 学齢期の支援
8. きょうだいとの関係支援
9. 発達障害者を抱える家族への支援
10. 精神障害者を抱える家族への支援
11. ハンセン病資料館見学
12. ハンセン病資料館見学
13. 家族が障がいオープンにする
14. 家族から自立して生活する:ダンの自立観
15. 家族支援の課題
16. 試験

使用教科書名

使用しません。適宜プリント配布します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの成長、発達にとって「遊び」の体験は重要であるが、その歴史的な変遷をたどってみると、そのプレーは必ずしも子どもたちだけのものではなかった。そうした歴史的な背景を認識した上で、子どもの遊びをめぐる現状とその問題点を把握し、そこで大人の果たすべき役割について考える。絵本、童話、童謡、遊戯、玩具、ごっこ遊びと子どもの空想・夢などを取りあげて、遊びの中で、子どもに何が育っていくのかを明らかにしていきたい。

学習目標・到達目標

子どもの成長に欠かせない遊びの役割や内容について理解し、保護者、保育者として知識を身につける。また、家庭科教諭を目指す学生は、保育分野の教育の方法など指導者として必要な知識を身につけることを目指す。

評価方法その他

課題レポート、授業中の質疑応答、プログラム達成度、などで20%、テスト80%の割合で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.子どもの遊びの特徴
- 2.マザーグースのなかの遊び
- 3.日本の童話のなかの遊び
- 4.現代の遊びの環境
- 5.ごっこ遊び1
- 6.ごっこ遊び2
- 7.遊びと子どもの発達
- 8.まとも(公園レポート)提出
- 9.いろいろなおもちゃ
- 10.子どもは玩具で舞台を創る
- 11.玩具と舞台でめざめるもの
- 12.イメージの拡大と大きな現実
13. 遊びの原風景
- 14.今、ここでの自分にとっての遊びとは何か？
15. 遊び、仕事、成長(ライフステージという考え)
16. テスト

使用教科書名

基本的にプリントを使用。その他必要に応じて指示する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族の法を学ぶ目的は、一つには、家族に生じるトラブルを解決したり、未然に予防するための知識を習得することですが、そればかりではありません。私たちの現在の家族法にはもちろん、歴史があり、現在の制度ができた社会的な背景があります。そして、社会は常に動き、それに応じて家族法も変化しつづけます。家族というものに対する考え方、家族と個人、家族と社会、家族と国家との関係について学ぶことも家族法を学ぶ重要な目的のひとつです。条文になっている法律がどのような目的で作られたのか、なぜ改正されたのか、などを考えることの大切さを知ってもらいた

学習目標・到達目標

家族法は、もつとも生活の身近な部分に係わる法といえます。家族に関する法律問題にまだ直面したことのない人が多いでしょうが、トラブルを経験して法律に関心を持った人もいます。一方、家族に関する問題や事件の報道に接する機会も多くなっています。身近なできごとに対処するための基礎的な知識を持ち活用できるようにすること、また、メディアによってもたされる情報を正しく理解し、自分で考えることができるようになることを目指します。

評価方法その他

授業の区切り、理解を確認するための小テストを行います。
評価は、定期試験70%、小テスト・平常点(授業への積極度など)30%を総合して行います。

週 テーマ・授業目標等

1. 家族と法について考える ガイダンス
2. 結婚(1)結婚の成立:法的に結婚するとは
3. 結婚(2)夫婦の身分関係:他人同士の関係との違い
4. 結婚(3)夫婦の財産関係:夫婦の財産は誰のもの？
5. 親子(1)子の出生と法:誰が親なのか
6. 親子(2)親の責任:子どもを育てるとは
7. 親子(3)人工生殖技術と家族:解決されなければならない問題
8. 離婚(1)離婚をめぐる社会の変化
9. 離婚(2)離婚の方法
10. 離婚(3)離婚後の生活: 母子あるいは父子の生活
11. 事実婚:いろいろなパートナー関係
12. 夫婦の氏:結婚と姓の問題
13. 相続と遺言(1)相続
14. 相続と遺言(2)遺言
15. まとめ

使用教科書名

教科書はとくに使いません。授業の際にレジュメ、資料を配付します。

NO. G01018031

家庭経済学

上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日常生活に関わる経済生活情報を、積極的に収集し、信頼できる自分オリジナルのデータをもとに、生活設計・家計管理を行う基礎的な能力を養う。

学習目標・到達目標

基本的な生活スキルとして家庭経済の知識を習得し、家計の収支・資産管理の技術を身につける。前半の目標は家計調査結果の数字を読み取り活用すること。次第に、家計をとりまく経済社会・生活政策について視野をひろげる。「社会保障・税の一体改革」など身近で今目的な家庭経済の問題をとりあげて、意味を解説する。ひいては持続可能な社会を実現するため家庭経済の役割と可能性を理解し、主体的に家計管理を行う態度を養う。

評価方法その他

家計調査分析レポートおよび発表 40点
スクラップブック(授業記録・自宅学習の記録と新聞記事)30点
試験 30点

週 テーマ・授業目標等

- 1 家庭経済における生産と消費
- 2 家計の収支1(職業・年齢と収入)
- 3 家計の収支2(物価・消費・貯蓄)
- 4 家計の収支3(税金・社会保険料・年金)
- 5 社会保障制度の動向と生活設計
- 6 ライフプラン1(金融資産と負債)
- 7 ライフプラン2(教育・住宅・子育て)
- 8 ライフプラン3(冠婚葬祭)
- 9 ライフプラン4(社会保障と老後)
- 10 地域と家庭経済(家計分析1)
- 11 地域と家庭経済(家計分析2)
- 12 地域と家庭経済(家計分析3)
- 13 地域と家庭経済(家計分析4)
- 14 持続可能な社会と家計:レポート発表
- 15 持続可能な社会と家計:レポート発表試験

使用教科書名

新訂 生活経済学 NHK出版 重川純子

NO. G01022031

消費者政策と法

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

2009年に消費者庁が発足し、関連する政策や法律の整備が展開されている。本講義では、消費者の生活に関わる政策と法律の動向を取り上げながら、私たち消費者が自立して考え、行動するための方策を探る。

学習目標・到達目標

消費者問題の実情を知り、その背後にある市場メカニズムや消費者施策の必要を理解する。自らが、日常の生活行動の中で具体的な体験から問題の所在を身近に考え、また行動できるようにする。

評価方法その他

定期試験 70%
平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 消費者問題とは何か
- 2 消費者問題と消費者政策
- 3 消費者法とは何か
- 4 生命・身体や財産にかかわる消費者被害
- 5 消費者の安全に関わる政策と法律①:食品を中心に
- 6 消費者の安全に関わる政策と法律②:製品を中心に
- 7 消費者の安全に関わる政策と法律③:事故情報を中心に
- 8 消費者行政の実際
- 9 消費者被害と法律①:取引被害
- 10 消費者被害と法律②:高齢者や知的障害者などの被害
- 11 消費者団体の役割
- 12 企業の消費者対応
- 13 海外の消費者政策 ―消費者教育との関わりで
- 14 消費者の権利と責任とは何か
- 15 消費者のための政策と法律のあり方
- 16 期末試験

使用教科書名

神山久美他編『新しい消費者教育:これからの消費生活を考える』慶應義塾大学出版会、2016年

NO. G01018031

消費者教育

早野 木の美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費者教育では、消費者が主体的に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について理解及び関心を深めるための教育を目指している。消費者問題の歴史を検証し、個々の消費者の特性や消費生活の多様性を様々な消費者問題の事例を引用しながら解説する。消費生活に関する行動が、将来にわたって内外の社会経済情勢及び地球環境に影響を及ぼしていることを理解させるための消費者教育教材として、DVDや資料を紹介する。一昨年より「消費生活相談員資格試験」の合格者には国家資格が付与された。在学中に国家資格を取得できるように、昨年実施された国家資格試験の紹介をする。また、繊維製品品質管理士、環境カウンセラー、世界遺産検定などの情報

学習目標・到達目標

消費者教育とは、消費者の自立を支援するために行われる消費生活に関する教育及びこれに準じる啓発活動である。「消費者教育の推進に関する法律」が制定された。消費者教育は就学期間だけ学習するのではなく、生涯を通じて学び続けなければならない。さまざまな場面の特性に応じて、各教育主体が連携・協働することが重要である。市民が消費生活に関する知識を習得し、適正な行動をとりつける実践的能力の育成をどう進めていくかを事例に基づいて学ぶ。

評価方法その他

平常点(60%)、レポート(40%)
平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 消費者問題の歴史。消費者教育推進法や消費者関連法規を解説。消費生活相談員資格試験や消費生活アドバイザーなどの資格について紹介する。
- 2 消費者問題関係の法律の説明。消費者基本法、消費者安全法、消費者行政の組織や司法について解説する。
- 3 民法の基礎を学ぶ。契約の無効と取消の違い。未成年者契約の取消しとは。消費者契約法、特定商取引法、中途解約、広告を見るときに注意を解説する。
- 4 悪質商法 キャッチセールス、マルチ商法などDVDを視聴し、消費者センターに寄せられた事例から消費者教育のありかたを学習する。
- 5 衣生活。衣服の機能、繊維、衣服素材の性能、衣服素材の改質と加工、クリーニング事故賠償基準の算出方法を紹介。洗濯のDVDを視聴する。
- 6 食生活。食品の表示法一元化の背景と食品表示法の概要について説明。景品表示法など、広告表示法についても解説する。
- 7 法テラスの仕組みと利用の仕方を説明する。離婚や相続は家事調停、金銭トラブルや賃貸住宅は民事調停であるが、裁判のイロハについて解説する。
- 8 住生活。住生活の快適性、住宅と法律、不動産の売買、不動産の賃貸借について学習。賃貸借を扱ったDVDを視聴する。
- 9 IT関連とサービス契約。ネットショッピング、インターネットのセキュリティ対策、スマートフォンのトラブル事例。運送、医療サービスについて学習する。
- 10 生活と家計管理。家計管理、クレジットの利用、電子マネー、貸金業法、金融商品、相続、遺言、生命保険、損害保険、税金について学ぶ。
- 11 東京都消費生活総合センター(最寄駅は飯田橋)を見学。展示室や図書室も見学する。2時間目に間に合うようにグループ別に分け時間調整を図る。
- 12 安全教育。子供の事故による傷害などを東京都消費生活総合センターの見学で学習するが、それを踏まえて子供の安全に配慮した製品などがよく見て検証する。111,112,113,114,115

使用教科書名

くらしの豆知識2018 編集・発行 国民生活センター 販売:全国官販販売協同組合

NO. G01023031

高度情報社会と消費者

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会における消費者と事業者の情報力の格差は著しく、高度に発達した情報社会においてそうした傾向は増々強まっている。本授業では、情報に関わる消費者問題の実情を把握し、社会的あるいは個人的な方策のあり方について学ぶ。

学習目標・到達目標

私たちの暮らしを取り巻く情報と消費者に関わる問題の存在に気づき、その背後にある市場メカニズムや消費者保護施策の必要性を理解し、関連する日常生活での経験に対して主体的に問題解決を図ることができるようになる。

評価方法その他

(1)調査報告 40%
(2)最終試験 30%
(3)平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1ガイダンス
- 2私たちの暮らしと情報①
- 3私たちの暮らしと情報②
- 4メディアリテラシー①
- 5メディアリテラシー②
- 6「情報通信白書」にみる論点①
- 7「情報通信白書」にみる論点②
- 8個人情報とその保護
- 9個人情報の流出の実態とその防止方法
- 10「消費者白書」にみる論点①
- 11「消費者白書」にみる論点②
- 12通信・情報に関わる消費者トラブル①
- 13通信・情報に関わる消費者トラブル②
- 14高度情報社会における消費者の自立
- 15まとめ
- 16試験

使用教科書名

特に指定しない。必要な文献や資料は授業で案内する。

NO. G01025031

プロシューマー演習

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地産地消をテーマに、社会調査により資料やデータを収集し、分析し、地域や企業と連携し、報告する形に整理していく具体的な方法を習得する。消費（食）と生産（農）をテーマに、アンケート調査を実施し、フィールド調査を行う。アンケート調査とフィールド調査を接合し、調査結果を報告する。

学習目標・到達目標

企業や自治体等との連携・協働により持続可能な消費にむけた活動を実践している事例を学び、発表する。

評価方法その他

- (1) アンケート調査・調査票 30点、
- (2) フィールド調査報告書 30点、
- (3) 中間発表 20点、
- (4) 最終レポート 20点

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 先行研究の整理: 既存統計を活用し、家族と食の消費の変容に関する基礎的知識をつける
- 3 調査目的と調査方法の決定 アンケート調査の目的・サンプリング方法の決定、フィールド調査インタビュー対象決定依頼
- 4 アンケート調査・フィールド調査: 企画と設計、調査仮説の話し合い
- 5 アンケート調査・フィールド調査: 質問文・調査票の作成 サンプリング実施
- 6 アンケート調査・フィールド調査: 調査の実施 調査票の配布・回収
- 7 アンケート調査・フィールド調査: 調査データの整理 (コーディング、データクリーニング)
- 8 フィールド調査: インタビュー調査の実施
- 9 フィールド調査: インタビュー調査の整理
- 10 アンケート調査とフィールド調査の接続 結果概要の作成
- 11 調査結果報告資料の作成
- 12 調査結果報告資料の発表
- 13 調査結果報告資料の振り返り
- 14 生産消費者演習まとめ
- 15 最終報告会

使用教科書名

活動に応じて指示する。

NO. G01027031

生活設計論

上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費者教育、金融経済教育、キャリア教育など、さまざまな領域で求められている生涯を見通した生活設計力とは冷たい貨幣で動く経済と金融に関する理論と実践の基本を理解し、自分の10年後20年後の目標を意識し、目標実現にむけて計画を立て、資源を主体的に選択する方法と、リスクマネジメントを視野に目標が達成できなかった場合にフィードバックする方法を考える。さらに、女性と財産をテーマに、家計調査などデータを収集し分析して、経済環境・社会政策に対応して生活者を支援する専門的能力を育成する。

学習目標・到達目標

金融庁と金融広報中央委員会が連携した金融経済教育の取組「大学における金融リテラシー向上に役立つ講座」として「最低限身に付けるべき金融リテラシー(4分野15項目)」の習得を基本に実施する。自立した社会人として必要な金融リテラシーを身に付けると共に、各業界団体(銀行、証券、保険等)の講師に接することで、今後のキャリアプランを考える。冷たい貨幣を温かいお金にする若者の金融リテラシーを身につけることを目標とする。

評価方法その他

- 授業ごとのリアクションペーパー 50点
レポート発表・提出資料 30点
最終試験 20点

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 貨幣新時代的生活設計
- 第2回 家計簿アプリとキャッシュフローを使った家計管理・生活設計
- 第3回 冷たい貨幣を温かいお金にする若者の金融リテラシー
- 第4回 金融教育の意義 世界の金融教育 <金融広報中央委員会>
- 第5回 収入を得る おか・ねを貯める <日本FP協会>
- 第6回 お金を預ける お金を借りる <全国銀行協会>
- 第7回 お金をふやす <日本証券業協会>
- 第8回 お金を遣す <信託協会>
- 第9回 寄付と社会貢献 <日本ファンドレイジング協会>
- 第10回 ライフプランを描く① 女性と財産の視点から
- 第11回 ライフプランを描く② 女性農業者の場合を考える
- 第12回 家計簿アプリを活用した家計管理<マネーフォワード>
- 第13回 学生による発表会
- 第14回 ライフプランを描く③
- 第15回 振り返り
- 第16回 試験

使用教科書名

生活設計にかかわる講師の団体が提供する資料を教材として使用予定である。
金融広報中央委員会(<http://www.shiruporoto.jp/>)
日本FP協会(<http://www.jpfa.or.jp/>)
生命保険文化センター(<http://www.jili.or.jp/>)

NO. G01026031

プロシューマー実習

上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品ロス削減は、世界的課題である。グローバル経済のなか、食と農が分離し、大量生産・大量消費・大量廃棄が食の分野にも及んでいる。消費者・事業者・行政は家庭で地域で生産の現場で、何ができるのか。どのような消費者の選択・消費行動を食品ロス削減につながるのか。地域のフードバンク・フードドライブの活動、消費生活協同組合などどのように関わっているか。フードチェーン全体を見通して、大学生にアンケート調査などの調査を実施し、実際に活動することを目指す。

学習目標・到達目標

生産者と消費者が連携して持続可能な消費生活を実現し消費者市民社会をつくるには何か必要か、食品ロスとエンカル消費をテーマに食品ロスに取り組むフードバンクと連携する学生や家庭科教員を目指す学生を事例にアンケート調査・ヒアリング調査・家計調査・フィールド調査なども活用しつつ、自分たちができるプロジェクトを企画して実行する。

評価方法その他

- 調査レポート報告まで 30点
プロジェクトへの参加 40点
成果発表会での発表内容 30点

週 テーマ・授業目標等

- 1 授業の目的、協力企業等を説明。
- 2 講義
- 3 講義「プロジェクトの進め方」
- 4 基礎調査レポート報告(1)
- 5 基礎調査レポート報告(2)「製造・流通・販売」「地域特性」消費に関わる近年の動向」など 意見交換
- 6 フィールド調査企画 調査依頼 仮説構成
- 7 フィールド調査実施(1) 意見交換
- 8 フィールド調査実施(2) 生産現場で意見交換
- 9 フィールド調査実施(3) 千代田など首都圏の生産者・消費者が交流する場での聞き取り
- 10 フィールド調査まとめ
- 11 課題抽出／課題整理／アイデア抽出／調査テーマの決定
- 12 アンケート調査(1) 調査項目の設定、対象者の選定
- 13 アンケート調査(2) 質問文・調査票の作成
- 14 アンケート調査(3) 調査実施
- 15 報告会の実施

使用教科書名

時々指示する。

NO. G01029031

エコロジー

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「エコロジー」とは、狭義には生物学の生態学のことを指しますが、広義には生態学的な知見を反映しようとする文化的・社会的・経済的な思想や活動を指しています。このように「エコロジー」は様々な意味を持っていますが、この授業では、主に「くらし」に関係した環境問題について解説し、人類と環境との共存について学びます。環境保護教育・活動を実践的に学ぶために都市に自然環境を残すビオトープなどを見学する予定で、見学を通して「くらしと環境の共存」について考えます。

学習目標・到達目標

この科目は「環境」に対する人類の影響、特に「くらし」との関連性について見学や簡単な測定などを通して、理解することを目指しています。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート(300%)の総合評価。見学に参加しないとレポートを書けません。平常点は授業中の課題等で評価します。見学が多いので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする時は、通常の授業に振り替えにします。また、見学の参加費や入園・入館料、交通費がかかります。見学期間は、授業中に限ります。

週 テーマ・授業目標等

- 1 イントロダクション
- 2 地球の歴史と環境
- 3 地球環境と生態系
- 4 環境問題の歴史と環境問題の実態1(大気1)
- 5 環境問題の歴史と環境問題の実態2(大気2)
- 6 環境問題の歴史と環境問題の実態3(水質)
- 7 環境保護教育・活動(見学)1(環境教育施設見学予定)
- 8 環境保護教育・活動(見学)2(環境教育施設見学予定)
- 9 環境問題の歴史と環境問題の実態6(都市化に伴う問題)
- 10 環境問題の歴史と環境問題の実態7(自然に与える影響・生物多様性)
- 11 くらしと身近な環境問題(まちづくりと環境;ヒートアイランドを測る)
- 12 環境とくらしの共生を考える(ビオトープを例として)
- 13 環境保護教育・活動(見学)3(自然教育園見学)
- 14 環境保護教育・活動(見学)4(北の丸公園見学)
- 15 定期試験

使用教科書名

プリントを配布する予定。

NO. G01030031

環境保護論

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

様々な環境問題がとりざたされている現在、人類と自然との共存が模索されている。私たちの社会システムも環境との調和に根ざしたものに変わらうとしている。この授業では、環境問題の過去と現在の状況を把握した上で、身近な暮らしを見直すことから環境に関する研究や政策までミクロ・マクロ的な視点で環境と共存するための方法について学び、自然保護や保全とは何かについて考える。また、以下の見学を予定しており、見学を通して自然観や保全方策などを理解する。
見学予定先：
①葛西臨海水族園：日本は海に囲まれている海洋国家で、海から食糧などの様々な資源

学習目標・到達目標

環境問題に対する基礎知識を学び、環境保護による持続可能な社会について理解を深める。

評価方法その他

定期試験(40%)、平常点・レポート(60%)の総合評価。見学に参加しないとレポートを書けません。平常点は授業中の課題等で評価します。見学が多いので、時間帯や曜日が不規則になる場合があります。原則として開講時間以外に見学をする時は、通常の授業に振り替えます。また、見学の参加費や入園・入館料、交通費がかかります。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション(授業の概要)
2. 環境とは何か？
3. 環境問題の変遷1
4. 環境問題の変遷2
5. 環境問題の現状
6. 生物と環境の関わり合いについて1(生物多様性)
7. 生物と環境の関わり合いについて2(生物多様性と人類)
8. 生物と環境の関わり合いについて3(国立科学博物館見学)
9. 生物と環境の関わり合いについて4(地球環境と人類の活動1)
10. 生物と環境の関わり合いについて5(地球環境と人類の活動2)
11. 生物と環境の関わり合いについて6(国立極地研究所見学)
12. 環境を保護する方法1(生活と環境問題)
13. 環境を保護する方法2(回転寿司から環境問題を考える1)
14. 環境を保護する方法3(回転寿司から環境問題を考える2)
15. 環境を保護する方法4(葛西臨海水族園見学)
16. 定期試験

使用教科書名

プリントを配布する予定。

NO. G01034031

都市計画

長野 博一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

都市計画は、人間が生活する場・空間・建築物をもたらし、都市の環境と施設を科学的方法によって計画的に実現する手段である。現在起きている都市問題・建築環境問題の解決のためには、都市計画が果たす役割は極めて大きなものがあるとともに、市民が参加する「まちづくり」を広く意識しながら、都市・地域計画を実行することが求められる。本講では都市計画の基本的な仕組みを理解するとともに、具体的事例を通して実践的な知識を身につけることをねらいとする。

学習目標・到達目標

- ①都市計画の基本的考え方を説明できる
- ②都市計画は建築やデザインに加えて、市民の生活を支える役割を担っている点を具体的に説明できる
- ③将来、プランナー(都市計画行政や計画コンサルタント)、建築家等に携わる者として必須となる基礎知識・専門知識、および専門的な計画能力を身につける

評価方法その他

最終回に予定しているグループ討議内容(30%)
最終レポート(40%)、演習・平常点(30%)による評価
※グループ討議の評価は、班としてのまとめや発表を加味して総合的に判断する

週 テーマ・授業目標等

1. 都市計画とまちづくり(都市計画の意味・意義、まちづくりの違い、ガイダンスなど)
2. 都市計画の歴史①(近代・現代都市計画の思潮)
3. 都市計画の歴史②(我が国の都市の歴史と現在までの軌跡)
4. 都市計画法①(都市計画法と都市計画マスタープラン、事例考察)
5. 都市計画法②(用途地域・市街化区域の話、市街化調整区域の話)
6. 市街地の整備①(土地区画整理事業、市街地再開発事業 事例考察)
7. 市街地の整備②(密集市街地整備、地区計画の策定、複合的な計画)
8. 交通のプランニング(道路、公共交通の計画と設計)
9. 演習(受講生の興味により内容を決めます。振り返り含む)
10. 集客施設等のプランニング(大型ショッピングモールのプランニング事例)
11. 現代都市が抱える諸問題①(人口減少・少子高齢化時代の計画理論)
12. 現代都市が抱える諸問題②(福祉のまちづくり、バリアフリー、ユニバーサルデザイン)
13. 現代都市が抱える諸問題③(海外都市の事例考察)
14. 現代都市が抱える諸問題④(現代的アーバンイズムと都市の課題)
15. まとめ(グループ討議 ※テーマはこちらで用意する)

使用教科書名

- ・参考書:「都市計画とまちづくりがわかる本」(彰国社)<2100円+税>
※講義で部分的に使用しますので、購入するようにしてください。
なお、講義予定をあらかじめ把握し、参考書で予習してくることを奨めます。
・講義中:毎度スライドを使用します。別途講義メモを配布しますので、ノート代わりとしてメモを

NO. G01033031

ツーリズムb（環境）

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ツーリズムb（環境）では、特にエコツーリズムとよばれる活動について理解を深めます。エコツーリズムは、単に自然の豊かな場所に旅行することではありません。その地域の環境を、生活文化・自然生態系の総和として理解し、これらを学ぶことを目的とするもので、その活動には、訪れる地域社会の発展や貢献を目指すことも含まれています。この演習では、エコツーリズムについて、エコツアーへの参加、展示会や博物館、研究機関の見学によって実感を伴った理解を培います。特に「大学が置かれている都心で、どのようなエコツアーが提案できるか」をテーマにして、実習を進めていきます。

学習目標・到達目標

幅広い見学を通して環境と人との関係を学び、エコツーリズムについて実感を伴った理解を深める。特に大都市・東京で環境・文化を持続可能な資源として利用することを学ぶ。

評価方法その他

演習への参加と取り組み(60%)、レポート+課題(40%)の総合評価(演習なので欠席とレポート未提出の場合は、評価が著しく下がる)。見学の参加費や入園・入館料、交通費がかかります。また、水曜日3・4時間目に開講しますが、見学など学外へ出る場合が多いので、5・6時間目に授業を入れないことが望ましい。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. エコツーリズムとは何か？
3. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)1
4. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)2
5. エコツーリズムの実例
6. 都心でのエコツアー実践1(ツアー参加)
7. 都心でのエコツアー実践2(ツアー参加)
8. 都心でのエコツーリズム(都会の自然を探す)3(国立科学博物館付属自然教育園見学)
9. エコツーリズムへの多様なアプローチ
10. 多様なエコツーリズム(エコロジー・環境関連の展示会見学)
11. 地球環境とエコツーリズム1
12. 地球環境とエコツーリズム2(国立極地研究所見学とレクチャー)
13. 自然の多様性について実感する(国立科学博物館見学)
14. エコツアーを創る1
15. エコツアーを創る2
16. エコツアー発表会

使用教科書名

プリントを配布する。

NO. G01043031

ツーリズムa（地域と文化）

玉木 栄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

19世紀に産声をあげたツーリズム(観光)は、20世紀後半に大きく発展し、現在では、地球規模での観光交流で、経済、社会、文化など様々な分野に影響を及ぼしている。この講義では、こうした観光の歴史的変遷を考察し、国際観光の意義と役割や国際観光の発展のための課題について論じる。また、観光による地域開発と地方の活性化について、学生自らが、一つの観光地を事例として、観光開発・観光振興の方法を検討し、その対策案をまとめていく。そして、講義全体として、これからの世界と日本の観光の在り方を論じて、日本の地域開発や地方の活性化のための課題を発見し、その対応策を学生自らが提案できるようにしていきたい。

学習目標・到達目標

1. 日本と世界の観光の現状を理解する。
2. 国際観光の役割、意義について理解する。
3. 観光の発展とその発展要因を理解する。
4. マスツーリズムの影響を理解する。
5. 観光開発・観光振興策の立案方法を理解する。

評価方法その他

期末試験の得点 40%
授業中の小テスト 20%
課題研究レポート 20%
平常点 20%

週 テーマ・授業目標等

1. 世界の観光の現状: 世界の観光の動向、課題と展望を論じる。
2. 日本の観光の現状: 日本の観光の現状を考察し、これからの日本の観光の在り方を論じる。
3. 観光とツーリズムの定義と概念: 観光とは何か、欧州で始まったツーリズムの概念とは何か、を論じる。そして、学問としての観光とツーリズムについて論じる。
4. ツーリズムの歴史1- 旅から観光へ: 古代の旅行から近代のツーリズムへの変遷を論じる。
5. ツーリズムの歴史2- 国際観光時代の到来 : 21世紀のツーリズムの動向を論じる。また、アジア太平洋地域の台頭、テクノロジーの革新、グローバル化の進展などによる観光業界の変化を考察する。
6. マスツーリズムの影響:戦後、大きく拡大したツーリズムの経済的、社会的な影響を検証する。また、自然への影響について、考察し、これからのツーリズムの在り方を論じる。
7. 持続可能な観光: マスツーリズムの代わる新たなツーリズムを検証する。自然生態との共存できるツーリズムは可能か、現地住民に利益をもたらし、地域を活性化することはできるのか、持続可能なツーリズムは何か、などを論じる。
8. 観光と地域開発: 観光によって地域活性化した地域の取り組みについて、幾つかの事例を考察する。
9. 観光行政と観光政策: 観光における政府機関の組織とその役割を論じる。
10. 日本の観光政策: 戦後の日本の観光政策、2003年からのビジット・ジャパン・キャンペーン、安倍政権での観光立国推進策などを考察する。
11. 観光開発・振興戦略1:観光開発・実施計画の作成方法を学ぶ。
12. 観光開発・振興戦略2:観光開発・戦略の策定方法を学ぶ。学生は、課題として、興味ある観光地を取り上げ、その観光地の動向を分析し、課題を把握する。そして、観光地の発展のための観光開発・観光振興策を検討し、提案する。学生数が多い場合は、グルー

使用教科書名

特に使用しない。

NO. G01045031

多文化共生

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まずは、異文化を理解するということがどのようなことなのかを学んでいく。その過程においても、異文化理解とは母語文化と外国文化の間だけに起きることではないことについても言及していく。次に多文化共生の例を外国および日本の中に見ていき、より良い多文化共生社会を構築していくにはどうしたら良いかを考えていく。

学習目標・到達目標

グローバル化が進んだ今日では、外国に出かけなくても学校、職場、地域が多文化共生社会となっているのが現状である。そのような時代において、異文化理解についての知識を持ち、多文化共生を進められる能力を持つことは「より良い暮らし」を実現するために必須と言える。この授業では、真の意味で国際人としての素養を身につけることを目標としている。

評価方法その他

中間試験 40%
期末試験 40%
平常点 20%
(平常点は授業に臨む態度、発言、出席率等により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1)イントロダクション
- 2)異文化理解とは1
- 3)異文化理解とは2
- 4)異文化理解とは3
- 5)異文化理解とは4
- 6)異文化理解とは5
- 7)中間試験
- 8)多文化共生の例1
- 9)多文化共生の例2
- 10)多文化共生の例3
- 11)多文化共生の例4
- 12)多文化共生社会をめざして1
- 13)多文化共生社会をめざして2
- 14)多文化共生社会をめざして3
- 15)多文化共生社会をめざして4
- 16)期末試験

使用教科書名

プリントを配付する。

NO. G01048031

コミュニティ論

北原 零未

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間は常に何らかのコミュニティを形成し、帰属している。コミュニティなしには生きられない。人と人とのつながりが希薄になったと言われる現代であるが、はたしてそれは本当なのか。そして、地域のつながりが希薄になることは悪いことなのか、もしそうなら現代社会はなぜそうなったのか。また、そうした現代にどのようなコミュニティが出現しているのか、家庭、労働現場、地域社会、ネット・コミュニティなど広くとりあげる。

学習目標・到達目標

人間は常に何らかのコミュニティを形成し、帰属している。コミュニティなしには生きられない。人と人とのつながりが希薄になったと言われる現代であるが、はたしてそれは本当なのか。そして、地域のつながりが希薄になることは悪いことなのか、もしそうなら現代社会はなぜそうなったのか。また、そうした現代にどのようなコミュニティが出現しているのか、家庭、労働現場、地域社会、ネット・コミュニティなど広くとりあげる。

評価方法その他

最終試験もしくはレポート(40%)、授業中に数回実施する小テスト(30%)、および平常点(30%)の総合点で評価。
(あくまで平常点なので、ただ出席していれば良いというものではありません。居眠り・内職など集中していない場合は欠席と看做します。また私語については退席を命じます。)

週 テーマ・授業目標等

1. 初回ガイダンス:コミュニティとは何か
2. 人間の帰属意識とは何か
3. なぜコミュニティが必要なのか
4. 女性とコミュニティ
5. 若者とコミュニティ
6. 地縁的つながりの衰退と現代社会
7. 現代人は地域社会を拒否したのか
8. 仮想空間コミュニティの出現
9. 仮想空間コミュニティと若者
10. SNSは人とのつながりを破壊したのか
11. 協働とコミュニティ
12. 外国人コミュニティ
13. 災害・戦争とコミュニティ
14. これからのコミュニティの可能性
15. まとめ: 個人にとってのコミュニティの価値と必要性

使用教科書名

毎回レジュメ・資料を配付

NO. G01047031

NGO・NPO論

信田 理奈

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

国内外を問わず、NGO（非政府組織）・NPO（非営利組織）が注目されています。その活動分野は医療・福祉、人権擁護、平和推進、子どもの健全育成、男女共同参画、国際協力、環境保全、まちづくり、災害救援など多岐にわたり、私たちの生活と密接に係わっています。1998年に通称「NPO」法が成立し、近年、子ども食堂やLGBT支援など多くの市民組織が誕生しています。授業ではNGO・NPOの歴史や仕組み、マネジメントをはじめ、主な活動事例を「生活者」の視点から取り上げます。また、施設見学やグループワークにより、NGO・NPOの現状と課題について多角的にアプローチします。

学習目標・到達目標

1. NGO・NPOの歴史や仕組み、社会的意義と役割を理解します。
2. 個々の活動内容について自らの意見・考えを発信する能力を培います。
3. ボランティアや市民活動に対する関心を高め、参加意欲を喚起します。

評価方法その他

平常点(授業への積極的な参加)、小テスト、定期試験等により総合的に判定します(配点:平常点50%、小テスト20%、定期試験30%)。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス(授業の目的と内容、進め方、成績評価の方法、その他)
2. NGO／NPOとは何か(1) 歴史とあゆみ
3. NGO／NPOとは何か(2) 仕組み・法制度
4. NGO／NPOとは何か(3) 活動分野と内容
5. NGO／NPOとは何か(4) マネジメント(管理運営)
6. 活動事例(1) 災害救援、まちづくり
7. 活動事例(2) 国際協力、環境保全
8. 活動事例(3) 子どもの健全育成(貧困対策、学習支援)
9. 活動事例(4) 人権擁護(女性、LGBT)
10. 施設見学(ユニセフハウスを予定)
11. グループワーク(1)
12. グループワーク(2)
13. グループ発表(1)
14. グループ発表(2)
15. まとめ(授業の振り返り、NGO・NPOの今後を考える:全体討論)
16. 定期試験

使用教科書名

指定せず、レジュメおよび資料を配布します。

NO. G01051031

ファッション造形学

山村 明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代の服飾文化でスタンダードとされている洋服の構造を理解し、その設計方法と表現上の特徴について学ぶ。衣服の構造を理解するにはまずその基体となる人体の形状と寸法を理解する必要がある。そして衣服を製作する素材となる布帛を立体的な人体の体型に適合させ、かつ表現的な要素となる布帛の立体化の技法を学ぶ。その上で、身頃原型の作図し、衣服製作に必要な基本的な設計について理解することが目的である。また、服飾デザインの基本的原理を学び、デザインの意味・効果を考える。

学習目標・到達目標

服飾の構造と人体の形状、大きさの関係について理解する。
服飾デザインの意味を理解する。

評価方法その他

授業への参加態度 レポート 中間・期末試験の総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 第1週: 衣服の構造の特徴 平面構成と立体構成
- 第2週: 人体の構造
- 第3週: 人体の計測
- 第4週: 見学課題
- 第5週: 体型・体格
- 第6週: 体型変化:成長・性差
- 第7週: 衣料品サイズ
- 第8週: 中間テスト、スタイル画
- 第9週: 動作と体型変化
- 第10週: 平面製図と立体構成
- 第11週: 身頃原型
- 第12週: 布帛の立体化の技法
- 第13週: デザイン理論 点と線 錯視
- 第14週: 服飾デザインの原理
- 第15週: 服飾デザインの形とイメージ
- 第16週: テスト

使用教科書名

プリントを配布

NO. G01052031

ファッション造形実習Ⅱ

松本 幸子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講では夏の浴衣制作を課題とし、材料に関する特徴である染色方法から、基礎的な和服の構成と縫製技術の種類を実践的に体験し習得する。さらに各自の身体を計測して制作した作品が適合しているかを、着装して確認すると共に着付けの方法も体験し着装発表を行なう。また、和の縫製技術と様々な体型の人々に可能な着装方法とその後の管理等についても合わせて理解する。最終的に日本の伝統文化である和服を継承していくことの大切さ考える。

学習目標・到達目標

- ・和服の構成の理解と様々な縫製技術を習得する。
- ・着装方法の特徴を理解し、適切に活用できる応用力をつける。

評価方法その他

- ・平常点(30%)、作品課題(40%) 着装課題(10%) 課題レポートとミニテスト(20%)（平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価）
- ・作品制作費用が必要となる。
- ・制作作品以外の副教材は、計画の進捗度合いにより変更することがある。

週 テーマ・授業目標等

- 01.ガイダンス、和服について 計測・材料・見積り
- 02.柄合わせと裁ち方:身頃,衽,袖の裁断
- 03.袖のしるしつけ・縫製と運針
- 04.袖の縫製と身頃のしるしつけ
- 05.衽と衿の裁断・肩当てつけ
- 06.衽のしるしつけ・衽つけと始末
- 07.脇縫い・衽の始末
- 08.袖つけ縫い代の始末・裾角の始末・裾角の部分縫い
- 09.脇の始末・裾くけ
- 10.掛け衿の柄合せ・衿のしるしつけ・衿つけ
- 11.衿つけ・衿先部分縫い
- 12.三つ衿芯入れ・衿くけ
- 13.衿くけ・脇の始末
- 14.袖つけと始末・仕上げ・たたみ方・ミニテスト
- 15.着付

使用教科書名

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

NO. G01054031

現代衣生活論

山村 明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

今日の社会における衣生活はアパレル産業との関わりを考えずには成り立たない。その為、アパレル産業の現状と問題点を探り、ファッション商品と消費の関係、商品の価値、廃棄と資源の再活用について考える。また、ジュニア・シニア世代のファッションについて視野を広め、衣生活の将来的なあり方を考える。

学習目標・到達目標

今日の社会における衣生活における問題点を理解し、持続可能な衣生活とファッションとの共存を考える。

評価方法その他

平常点:授業への参加態度(20%) 試験(80%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週:衣生活の問題点を考える
- 第2週:アパレル産業
- 第3週:ファストファッション
- 第4週:現代のファッションとグローバル化
- 第5週:現代のファッションとCSR
- 第6週:商品生産の現場;女工哀歌
- 第7週:商品の価値を考える
- 第8週:消費と廃棄
- 第9週:3Rとファッションデザイン
- 第10週:持続可能なファッションを考える
- 第11週:シニアファッション
- 第12週:ユニバーサルファッション
- 第13週:子ども服と安全
- 第14週:服育
- 第15週:まとめ
- 第16週:テスト

使用教科書名

プリント配布

NO. G01053031

装飾マテリアル演習

松本 幸子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

装飾とは、一般には物品、建築物、身体等を装飾する事である。ここにマテリアルを加えると原料・材料となり、洋服で言う生地になる。この授業では、装飾マテリアルとして、人間が身につける素材そのものやその素材を使用して装飾する様々な種類がある事を学び手法を理解する。次にいくつかを実際に制作することにより技法を体験し習得する。予定している作品は、刺繍作品、アクセサリーさらに髪飾りなどシーンを想定した作品デザインを行い制作する。完成作品はコンセプト等をプレゼンテーションし、相互に評価し合う。

学習目標・到達目標

様々な装飾の種類と手法を学び理解し、各自の創作作品に活かせる力を身につける。自分の創作作品を他に伝える能力を向上させる。

評価方法その他

- ・平常点(30%)、作品課題(50%)、プレゼンテーション(20%)（平常点は、授業への参加状況と作品等の取り組みの状況を総合的に評価）
- ・作品制作費用が多少必要となる。
- ・制作作品は、材料の関係より変更することがある。

週 テーマ・授業目標等

- 01.ガイダンス、装飾マテリアルについて
- 02.基礎となる刺繍の種類とその手法:基礎刺し演習a
- 03.基礎となる刺繍の種類とその手法:基礎刺し演習b
- 04.イギリスキルトⅠ:デザインと形の設定
- 05.イギリスキルトⅡ:図案写しと手法
- 06.イギリスキルトⅢ:仕上げと形製作
- 07.アクセサリー作品への応用Ⅰ:作品デザインとコンセプト
- 08.アクセサリー作品への応用Ⅱ:制作
- 09.様々な材料による髪飾りの創作Ⅰ:コンセプトとデザイン
- 10.様々な材料による髪飾りの創作Ⅱ:制作
- 11.様々な材料による髪飾りの創作Ⅲ:制作仕上げと発表準備
- 12.完成作品のプレゼンテーション
- 13.応用作品の創作
- 14.応用作品の創作
- 15.応用作品の創作、プレゼンテーション及び評価

使用教科書名

教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。

NO. G01055031

世界の服飾

山村 明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

世界各地には様々な民族服が存在する。今日ではその着用者は少なくなってきたが、儀式やイベントなどには着用されている。民族服の構成、色彩、装飾の特徴、現代社会における民族服飾の役割や、変わりゆく服飾文化をとらえ、グローバル社会と衣生活について考える。

学習目標・到達目標

世界各地の代表的服飾の特徴、気候や社会風俗との関わり、民族衣装としての役割を知る。

評価方法その他

出席および授業への取り組み・レポート30%
定期試験70%

週 テーマ・授業目標等

1. 導入 民族服飾とは
2. 自然をまとう オセアニア地域など
3. 布を巻く アジア地域(インドなど) 布帛の表現 染め ミラーワーク
4. 巻頭衣 南米地域(アンデス地方など) 布帛の表現 織と刺繍
5. 寛衣 中東地域など
6. 脚衣形式 中東地域(トルコなど)
7. ヨーロッパ地域 ギリシャの衛兵 フスタネラ
8. ヨーロッパ地域 チェコの女性 エブロン
9. ヨーロッパ地域 スコットランド タータン
10. 民族服飾がつくりだされる背景(ハワイ) 西洋からの影響、異文化の流入、
11. 変わっていく民族服飾 チャイナドレスとチマチヨリなど
12. 生活の中の民族服飾 チマチヨリ 民族アイデンティティの表出 式典 観光
13. 課題説明:民族服飾を現代ファッションにいかす
14. 校外授業 美術館見学
15. 課題作成
16. 試験

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01056031

日本の服飾

井上 真弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業は、2年生の科目としての位置づけにより、「過去を振り返り、現在を問う」ことの実践が求められている。したがって、現代に残存している日本の伝統的服飾がどのような由緒・歴史をもっているのかについて認識し、そのような知識をもとに現代の服飾表現を幅広い視野で分析できるよう、受講生の調査・作業を織り込みながら講義を行う。講義内容や自身の調査を踏まえて、伝統的服飾を現代へ活かす方策について、提案できる問題意識をはぐくんでほしい。

学習目標・到達目標

私たちは、技術や知識を伝承してきた人々の営々たる努力により、現代に引き継がれた伝統的服飾品や服飾文化を享受することができている。こうした歴史・文化的な観点で日本の服飾を捉える際の基本的知識・事項の修得を第1の目標とするが、さらに、その修得が可能となった受講者においては、現代の服飾や住まいに関する領域において提案できる力を養うことを第2の目標として掲げている。

評価方法その他

平常点(授業中の課題・レスポンスシートの内容を含む)40%、課題発表(レポート)40%。振り返りシート20%

週 テーマ・授業目標等

- 1 世界の中の日本—ラオス織と西陣織
- 2 日本の風土と服飾の関係について—石見銀山の例より
- 3 古代布の周辺
- 4 王朝の服飾(1)女房装束
- 5 王朝の服飾(2)襲色目
- 6 王朝の色彩表現(1)
- 7 江戸の色彩表現(2)
- 8 日本の文様(1)古代
- 9 日本の文様(2)江戸時代
- 10 老舗における逆張り経営戦略について
- 11 バイオメシスと服飾
- 12 伝統文化を現代に活かす
- 13 現代における服飾製品と女性の自立支援
- 14 エシカルファッションとアップサイクル
- 15 振り返りシートによるまとめと課題発表

使用教科書名

テキストは特に指定しない。必要に応じてプリントを用意する。

NO. G01057031

西洋服飾文化史

山村 明子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近世以降のヨーロッパでの社会的変動と服飾デザインの変化を関連づけて理解することで、服飾文化と社会的価値観との相互作用に着目する。時代を象徴する『姫』の存在とそのファッションを考えることで、服飾を切り口とした社会や人へのアプローチについて考える。

学習目標・到達目標

西洋式服飾文化の歴史的な背景を概観し、今日の服飾意識がどのように形成されてきたのかを理解する。服飾文化と社会と人々とのかかわりについて理解する。

評価方法その他

平常点(20%)、試験(80%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 導入:ファッションと人間社会 歴史を見る眼
2. 16世紀
3. エリザベス1世
4. 見学課題 (アクセサリーミュージアムの見学)の振り替え
5. 17世紀 オランダ服飾
6. 17世紀 フランスバロック
7. 18世紀 フランスロココ
8. マリー・アントワネット
9. 19世紀 フランス革命
10. 19世紀 男性服飾
11. 19世紀 ロマンティックスタイルとクリリンウェディングドレス
12. 19世紀 ウェディングドレス
13. 19世紀 女性とスポーツ服
14. 20世紀 生活様式の転換
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

ファッションの歴史—西洋服飾史—(朝倉書店)

NO. G01058031

ファッション販売論

井澤 尚子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッション商品を販売する現場は、消費者が商品の検討を経て購買を決心する場合と同時に、生産者側には消費者のニーズを商品企画等へつなげるための貴重な実態情報収集の場でもあり、消費者・生産者の両者にとって極めて重要である。本授業では、ファッション販売の基本およびファッション商品知識を身につけ、販売の現場で、消費者個々のニーズをつかみ適切に商品の専門的知識・技術・情報を提供できる人材を育成する事を目指す。

学習目標・到達目標

ファッション商品の特質を理解し、ファッション商品の基本的な知識(組成、取扱い・管理、サイズなど)と、ファッション販売の実務の基本を身につける。希望者は、ファッション販売能力検定試験2・3級を団体受験することで、学んだ成果を資格とすることを旨とする。

評価方法その他

平常点(20%)、課題レポート(20%)、定期試験(60%)

週 テーマ・授業目標等

1. ファッション販売とは
2. 販売知識(1)ファッション商品の流れ
3. 販売知識(2)消費者は何を求めているか
4. ファッション・マーケティング知識
5. ファッション販売業務
6. ファッション販売技術
7. 店舗演出、タウンウォッチングについて
8. 外部講師による特別授業
9. アパレル業界の職種と業務
10. ファッション商品知識(1)繊維素材の特徴
11. ファッション商品知識(2)取扱い・管理
12. ファッション商品知識(3)商品苦情
13. ファッション商品知識(4)サイズ規格
14. タウンウォッチングのまとめ
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

『ファッション販売3』日本ファッション教育振興協会

NO. G01059031

衣と消費科学

成田 千恵

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費者はアパレル商品に対して商品質・高付加価値を要求し、生産者は商品を豊富に供給している。本講ではまず、アパレル業界における生産・流通の仕組み、アパレル商品に求められる性能とその維持管理、アパレル商品の安全性および消費者苦情、循環型社会におけるアパレル業界の動向等について学習する。それをふまえて後半では具体的事例を扱いながら、アパレル商品に対して消費者が直面する問題・課題の現状と、それらに対する取り組み方について考える。

学習目標・到達目標

衣服に関する消費生活を的確に支える能力を養うことを目的とする。アパレル商品の生産・流通および消費に関する基礎的知識を身につける。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、討論への参加等)20%、発表20%、定期試験・レポート60%の総合評価とする。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、身のまわりの衣生活を振り返る
2. アパレル商品の性質
3. アパレル商品の企画、設計
4. アパレル産業の生産、流通、ファッションビジネス
5. アパレル商品に関する法規・表示 (1)各種表示
6. アパレル商品に関する法規・表示 (2)取扱い・絵表示、サイズ
7. アパレル商品に求められる消費性能
8. アパレル商品の性能維持 (1)洗濯
9. アパレル商品の性能維持 (2)仕上げと保管
10. アパレル商品の性能維持 (3)クリーニング
11. アパレル商品の安全性
12. アパレル商品に対する消費者苦情
13. アパレル産業のグローバル化
14. 衣生活からみた循環型社会
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリントを配付する。

NO. G01060031	ファッションカラー演習	井澤 尚子
---------------	-------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッションデザインの基礎、色彩論等をベースに、ファッションコーディネートにおける色彩表現を学ぶ。授業後半は企業連携を予定しており、実際の店舗におけるテキスタイルのトータルデザインとして、クッション等の企画・設計・制作を行う。衣生活の多様性を考え、実践に即したコーディネート感覚を磨く。特別授業では、外部講師による「パーソナルカラーの実践」を予定している。

学習目標・到達目標

ファッション分野における色彩論の基礎を習得するとともに、実際の店舗におけるテキスタイルデザインとしてクッション等の制作を行う。本学科で学んだ生活者としての視点と、女子大生としての感覚を作品制作に活かしてもらいたい。

評価方法その他

平常点(30%)、提出課題(50%)、作品プレゼンテーション(20%)
(平常点は授業への参加状況・取り組み等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション、特別授業(企業レクチャー)
2. 色相環のカラーージュ
3. ファッションと流行色
4. ファッションイメージとファッションカラー
5. 特別授業(パーソナルカラーの実践)
6. パーソナルカラーチャートの制作
7. 配色技法について(1)
8. 配色技法について(2)
9. 企画と設計計画(1)店舗見学
10. 企画と設計計画(2)デザイン画の作成、中間発表
11. パターン作成、素材の説明と材料の購入について
12. 制作(1)
13. 制作(2)
14. 仕上げ、プレゼンテーション準備
15. プレゼンテーション、まとめ

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01062031	ファッション企画・設計論	井澤 尚子
---------------	--------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッション商品は流行、社会規範、年齢、消費者のライフスタイル、経済状態や社会状況、個々人の嗜好など多くの要素を満足させるような企画をすることが必要である。この授業では様々な要素を考慮しつつ、実際に商品企画を行い、製品を制作しファッション産業における諸問題を検討する。

学習目標・到達目標

ファッションの企画はどのように立てられるかを学び、実際に企画、設計をして製品試作を行うと共にファッション産業の概要を知る。

評価方法その他

平常点(授業への取り組み)30%、レポート10%、試験60%

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション、ファッションビジネスとは
2. ファッション商品の分類
3. 原型製図(1)
4. 原型製図(2)デザインへの応用
5. アパレルCAD、グレーディング、マーキングについて
6. 特別授業:ファッション企業の概要を知る
7. アパレルメーカーでの役割
8. 情報収集と商品企画
9. 素材と副資材について
10. 縫製仕様書、縫製作業工程分析表について
11. デザインの検討
12. 工程、見積もり、企画の決定
13. 制作(1)
14. 制作(2)、仕上げ
15. 工程における諸問題の検討
16. 試験

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01061031	ファッションコーディネイト	山村 明子
---------------	---------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッションイメージマップの役割を理解したうえで、まず着用者の生活用途とオカージョンの分析、およびライフスタイル分析を行う。さらに、ファッションビジネスイメージの分類とデザイン要素とのかかわりを学ぶ。また、ファッション雑誌の提案で欠くことのできないファッション商品のシーズン特性と、ファッション雑誌の提案内容を分析し、ファッションイメージと個人の資質との関連性を考える。以上を総合し、広い視点からファッション提案を行うことができる力をつける。校内特別授業では日本毛皮協会に依頼し、各種毛皮の商品特性を学び、ファッションスタイリングに応用する力を養う。

学習目標・到達目標

服飾デザインのデザインイメージを理解し、ファッションイメージマップの制作を通してファッションスタイリング提案をする力をつけることを目的とする。

評価方法その他

平常点(20%)提出課題(80%)
(平常点は授業への参加状況・取り組み等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 導入 ファッションイメージマップについて
2. 生活用途とオカージョンの分析
3. ライフスタイル分析
4. ファッションイメージマップの制作① PC教室
5. ファッションイメージマップの発表①(提出)PC教室
6. ファッション感性分類とコーディネート
7. 毛皮協会による特別授業(学内)
8. シーズンサイクル
9. ファーアイテムを取り入れたファッションイメージマップの制作① PC
10. ファーアイテムを取り入れたファッションイメージマップの制作① PC
11. ファッション雑誌の分析
12. ファッションイメージと言葉の表現
13. 一週間コーディネートイメージマップの制作① PC教室
15. 一週間コーディネートイメージマップの制作② PC教室
16. 課題提出

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01064031	衣服環境論	成田 千恵
---------------	-------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間は常に衣服を着用していることから、衣服は人間の最も身近な環境であり、また着用者の生理、心理、健康に大きな影響をおよぼす。本講では衣服について、体温調節機能や外部気候に適応する衣服気候、人体の形態・運動による変形に適応する運動機能性、皮膚の構造・生理に適応する衣服の接触快適性の視点から解説する。様々な着用場面に適応した、機能的で安全、快適な衣服環境の実現を目指す。

学習目標・到達目標

温熱的、衛生的に健康で快適な衣服について理解し、環境や着用者に適した衣服の素材、デザイン、および着装等を選択できる力を修得する。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、討論への参加等)20%、定期試験80%の総合評価とする。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、衣服環境論の目的、着心地・快適性・健康性について
2. 体温調節に関わる環境温熱因子
3. ヒトの体温調節機能① 体温と皮膚温
4. ヒトの体温調節機能② 産熱と放熱
5. ヒトの体温調節機能③ 行動性体温調節と自律性体温調節、不感蒸散と発汗
6. 気候と衣服① 快適な衣服気候と布地を通した熱と水分の移動
7. 気候と衣服② 衣服の保温力の単位と測定法、衣服の形態・着装と衣服内気候
8. 気候と衣服③ 衣服による熱中症の予防と対策
9. 気候と衣服④ 衣服による低体温症・冷え性の予防と対策
10. 着衣の運動機能性① 衣服圧の発生要因、人体の構造と運動
11. 着衣の運動機能性② 衣服圧の人体影響と衣服圧を利用した衣服
12. 皮膚の構造と役割
13. 衣服による障害と対策
14. 乳幼児の衣服
15. 高齢者と障害者の衣服
16. 定期試験

使用教科書名

日本衣料管理協会刊行委員会編『アパレル生理衛生論』日本衣料管理協会(2016)

NO. G01066031	インテリア設計論
大宮司 勝弘	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

最初に家具の歴史、モダンムーブメントといった現代インテリアの背景について学習する。
次に建築構造・構法といった安全で堅固な空間を担保するための技術、仕上げ材料や床の間のデザインインテリアの設えについて学習する。
最後に関連法規などインテリアをコーディネートする際に必要な実務の知識を習得する。
なお、UR技術研究所（八王子市）と東京ビッグサイト（有明）での校外学習を行う。
交通費などの負担があるので注意すること。

学習目標・到達目標

インテリアの設計手法を学ぶ。
歴史・家具・構法・材料・関連法規など、インテリアをコーディネートする際に必要な背景や実務の知識を習得する。

評価方法その他

学期末の筆記試験（70％）、平常点（30％）

週 テーマ・授業目標等

- 1)インテリアの歴史1(西洋古典)
- 2)インテリアの歴史2(西洋近代)
- 3)インテリアの歴史3(西洋近代)
- 4)インテリアの歴史4(日本近代・戦前)
- 5)インテリアの歴史5(日本近代・戦後)
- 6)現代建築・インテリア
- 7)八王子UR技術研究所の見学※
- 8)インテリアトレンドショーJAPANTEK2018の見学
- 9)建築構造1(鉄筋コンクリート造・鉄骨構造)
- 10)建築構造2(木造)
- 11)インテリア材料1(木材)
- 12)インテリア材料2(ガラス)
- 13)インテリア構法1(床・カーペット)
- 14)インテリア構法2(壁・天井)
- 15)インテリア構法2(造作)
- 16)定期試験

※見学先の都合により順序が前後することがある

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G01068031	インテリアデザイン演習A
大宮司 勝弘	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業ではまず現代のインテリア空間の実例を調査・研究し、デザインの現状を調査する。
次に平面図・断面図・展開図による室内空間の表現方法ならびにアイソメトリック図やパース（透視図）の描き方、模型制作の手法などインテリア空間のプレゼンテーションの手法を習得する。そして、これら成果をもとに、みずからインテリアを計画し、図面および模型を作成する。

- ・導入課題 2回
- 『自分の部屋の実測』

学習目標・到達目標

建築・インテリア系の講義で得た知識を利用してインテリア設計を実践する。

なお、基礎的な建築製図力を必要とするため、設計製図演習AおよびBの単位取得済を履修条件とする。また、1回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

評価方法その他

平常点（30％）ならびに提出物（70％）による。

週 テーマ・授業目標等

- 4月13日 第01週:導入課題①『平面図・天井伏図・展開図のトレース』第1課題①『デザイナーズチェアのための空間』説明
- 4月20日 第02週:第1課題② 対象としたデザイナーズチェアの調査発表
- 4月27日 第03週:第1課題③ エスキス(平面、断面計画)
- 5月11日 第04週:企業連携特別課題① ブラインド&窓周り講義、デコブラインド紹介、制作条件確認、ASAX新カラーバレット(カラスキーム)紹介
- 5月18日 第05週:ニチペイ日本橋ショールーム見学、企業連携特別課題②『デコブラインドの制作』説明、ブラインド製作寸法の確認と発注。
- 5月25日 第06週:第1課題③ 模型提出、模型撮影の手法
- 6月01日 第07週:第1課題④ プレゼン図面提出、第2課題①『マンション1室のリフォーム(女子学生ひとり暮らしの部屋)』説明
- 6月08日 第08週:第1課題⑤ 講評会（試験に該当する）
- 6月15日 第09週:企業連携特別課題③ 制作プラン発表、プレゼン資 の作成ポイント。
- 6月22日 第10週:第2課題② 平面、断面計画
- 6月29日 第11週:企業連携特別課題④ プレゼンテーション（試験に該当する）
- 7月06日 第12週:第2課題③ インテリア計画
- 7月13日 第13週:第2課題④ アクソメトリック図法
- 7月20日 第14週:第2課題⑤ 模型提出期限、模型撮影の手法
- 7月27日 第15週:第2課題⑥ プレゼンテーション図面提出、図面手直し指導、口頭発表準備
- 8月03日 第16週:第2課題⑦ 講評会（試験に該当する）

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G01067031	インテリア計画
大宮司 勝弘	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

快適な空間づくりを目指すためには、人体寸法や家具寸法など必要寸法の把握、および必要な設備やインテリアエレメントについて学ぶ必要がある。
授業では最初に基本的な寸法、色彩などの考え方を把握し、次に住まいの空間ごとに必要な寸法、配置手法について学習する、そしてインテリアを構成する部材について学習し、インテリアをコーディネートするために必要とされる技術を習得する。

学習目標・到達目標

インテリア計画とはあくまで人間を中心に置いた内部空間の計画である。これには技術だけでなく、人間とものとの関係の中で生じるさまざまな要素を総合的にまとめあげる技術が必要とされる。この授業ではインテリアをコーディネートするために必要とされる技術についてその概要を学び、その後に続くインテリア設計論およびインテリアデザイン演習を通して専門知識と技術を習得するための、基礎的知識を習得する。

評価方法その他

平常点(30％)、期末試験(70％)

週 テーマ・授業目標等

- 1)住宅の種類と平面計画
- 2)人体寸法と動作空間
- 3)リビングの計画
- 4)寝室、子供室、書斎の計画
- 5)ダイニングの計画
- 6)キッチンの計画
- 7)サニタリーの計画
- 8)玄関、廊下、階段の計画
- 9)収納スペースの計画
- 10)家具1(椅子・机)
- 11)家具2(収納・ベッド)
- 12)ウィンドーリートメント
- 13)建具1(扉・サッシ)
- 14)建具2(金物)
- 15)内装材
- 16)定期試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G01073031	言語コミュニケーション
内田 宗一	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

コミュニケーションは、人が他者と関わりながら生きてゆく上で必須のものである。社会や文化を形作ってゆく基盤となるものである。コミュニケーションには様々な形があり、ことばを媒体とする言語コミュニケーションと、しぐさや表情、外見などといった要素による非言語コミュニケーションとに、大きく分けて捉えることができる。この授業では、このうちの言語コミュニケーションを主たる対象として、コミュニケーションをめぐる諸問題を考えてゆく。また、それを通じて受講生各自のコミュニケーション能力が向上することも期待したい。

学習目標・到達目標

言語コミュニケーションの特性および日本語の言語文化について理解する。あわせて、ここで得た知見をもとに自らのコミュニケーションのありようについて考え、その能力を向上させようとする姿勢を身につける。

評価方法その他

平常点20％、レポート30％、期末試験50％。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.コミュニケーションとは
- 2.言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
- 3.コミュニケーションと文化
- 4.日本の言語文化とコミュニケーション 敬語のしくみ
- 5.日本の言語文化とコミュニケーション 敬語の種類
- 6.日本の言語文化とコミュニケーション 誤りやすい敬語
- 7.日本の言語文化とコミュニケーション 敬語使用の実態と意識
- 8.日本の言語文化とコミュニケーション 敬語の変化
- 9.日本の言語文化とコミュニケーション 敬語をめぐる新たな動向
- 10.日本の言語文化とコミュニケーション 断り表現のしくみ
- 11.日本の言語文化とコミュニケーション 断り表現の種類
- 12.日本の言語文化とコミュニケーション 断り表現の使い分け
- 13.日本の言語文化とコミュニケーション 感謝表現のしくみ
- 14.日本の言語文化とコミュニケーション 感謝表現の使い分け
- 15.日本の言語文化とコミュニケーション 感謝と謝罪の関係性

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01074031

若者文化論

内田 宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会の中で10代から20代にかけての若年層は、既存のルール・文化に抵抗し、あるいは迎合し、自らの価値観を示してきた。若者が発信する文化にはその時代と社会の新しい感性が潜んでいる。この授業では主に昭和から平成にかけてのファッションの流行と、「若者ことば」という言語文化に関する考察を通じて、そこに投影された若者の感覚について論じてゆく。それらが培われてきた背景、及び今後の日本文化の発展についても論じていく。

学習目標・到達目標

若者文化の特色や変遷を理解する。若者文化に投影された若者の感覚や価値観、若者文化が培った背景について理解し、説明することができる。

評価方法その他

平常点20％、中間試験40％、期末試験40％。平常点は授業への参加状況、作業への取り組み等で総合的に判断する。なお、欠席は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.若者ことばとは
- 2.若者ことばの特色
- 3.若者ことばの分析1 さ入れことばの使用実態
- 4.若者ことばの分析2 さ入れことばの使用意識
- 5.若者ことばの分析3 ぼかし表現の使用実態
- 6.若者ことばの分析4 ぼかし表現の機能
- 7.まとめ・中間試験
- 8.1950年代ファッション シネマファッション
- 9.1960年代ファッション ヒッピーとサイケ
- 10.1970年代ファッション フォークソング
- 11.1970年代後半ファッション ファッション雑誌
- 12.1980年代ファッション 女子大生ブーム
- 13.1990年代ファッション バブル景気とギャルの多様化
- 14.2000年代ファッション ローティーン
- 15.2000年代 エイジレス志向 かawaiiとは何か
- 16.期末試験

使用教科書名

特に指定しない。プリント資料を配付する。

NO. G01080031

文化の継承と発信

井上 真弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業においては、伝統的生活文化に支えられて残存する文化遺産がいかなるものかその価値を理解し、それを未来に向けてどう伝え、また、どのように活用することができるのかについて考究する。前半は、日本における伝統的文化の現代における状況調査と継承の方法について考察し、未来に向けた新しい文化創造の可能性について講義する。後半は、主に服飾史の観点から、日本における西洋服飾文化の受容について分析ならびに考察を行い、それを踏まえた現代における新しい文化の発信方法について講義する。

学習目標・到達目標

伝統的な文化がどのように受け継がれてきたか、その受容の歴史を踏まえつつ受講者自らが文化的資産の現代における新しい意義を見出し、それらを自らの力で発信することをめざす。

評価方法その他

平常点30％(授業内課題含む)、発表10％、課題・レポート(前半・期末の2回)60％

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.文化遺産とともに生きる街－文化の継承と発信事例研究1
- 3.文化遺産とともに生きる街－地域と博物館・美術館の連携事業について
- 4.上野の街 見学(街角ミュージアムの実践)
- 5.文化遺産とともに生きる街－文化の継承と発信事例研究2
- 6.上野見学の振替 発表準備
- 7.文化の継承に関する発表会
- 8.日本の服飾(長着)のデザイン要素:形態、素材
- 9.日本の服飾からの洋服デザインの発想:三宅一生
- 10.日本の服飾からの洋服デザインの発想:川久保玲
- 11.日本の服飾からの洋服デザインの発想:山本耀司
- 12.日本の服飾からの洋服デザインの発想:matohu
- 13.日本のセンス クール
- 14.日本の染色技術と産業の継承
- 15.日本の服飾文化の継承例と発信 課題作成

使用教科書名

特に指定しないが、必要に応じてプリントを配布する。

NO. G01076031

生活文化論

小瀬 康行

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

長さ、かさ、重さをはかるという行為とその概念は、古くから度・量・衡の世界として理解がなされてきた。今日、わが国ではメートル法のもとで生産活動、商業活動などの社会の営みが行われているが、それ以前には、メートル法とは別の単位が存在していたことを理解し、その一部は今なお生活のなかに根づいていることを明らかにする。

学習目標・到達目標

暮らしの中には、いたるところに「はかる」行為が存在する。時間、速さ、重さ、長さ、かさなど数え上げればきりがないが、こうした行為が計量(はかる)という概念をつくりあげ、生産活動や商業活動を支えていると言っても過言ではない。本講義では長さ、かさ、重さに視点をあてて暮らしの中に見られる計量という概念について学習する。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.序論:新旧度量衡の葛藤
- 2.単位の世界:暮らしの中にはさまざまな単位があり、度量衡変換表を検討しながら世界の単位系について学ぶ。
- 3.わが国古来の長さの単位とものさし:大陸からものさしが伝播する以前にあったとされる身体尺とよばれる長さの基準と現代に残る古い尺度について学ぶ。
- 4.曲尺の観察と特色:わが国の代表的なものさしである曲尺の単位(分、寸、尺など)と曲尺目盛の意味について学ぶ。
- 5.曲尺と土地の面積:長さをはかることは面積をはかることにつながることを理解し面積の単位とその考え方を学ぶ。
- 6.かさの単位と量:かさの単位(勺、合、升など)とその意味するところを考えるとともに江戸時代における杓製造者についても触れる。
- 7.杓の構造とメートル法:杓の基準がどのように定まってきたのか、江戸時代から明治時代に至るまでのその歴史的な過程を学ぶ。
- 8.杓と米:かさを正確にはかる行為の重要性は、米の量を正確にはかるころにあったことを学び、同時に米俵のかさと重さについても理解する。
- 9.重さの単位とはかる道具:江戸時代の重さの単位(匁、貫、斤など)と、天秤と棹秤の2種類のはかりの存在について学ぶ。
- 10.はかりの構造と歴史:両替天秤としての天秤のはかりと、商業用はかりとしての棹秤の構造の差異と歴史的意味を考える。
- 11.重さと貨幣:重さを考えることは必然的に金銀銭の三種類の貨幣制度やあるいは秤量貨幣、数量貨幣などにも関連してくることを学ぶ。
- 12.江戸時代の家計簿と度量衡:金銭の出入が記録されている江戸時代の日記を分析しながら、当時の家計を考える。
- 13.近代の度量衡(±):度量衡取締条例

使用教科書名

授業中に配布する。

NO. G01081031

生活文化演習

井上 真弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活文化はくらしている土地との結びつきのなかでどのように位置づけられるのか、実際に街を歩いてその実態を調査し、その調査結果の分析を行う。2011.3.11以降の日本が直面するコミュニティの問題を含めて生活文化の時間軸・空間軸での変容を辿りつつ、次世代に何を伝えたいのか、何を伝えていくのか、受講生とともに探究していきたい。具体的には、人とモノとくらしの関係を考察し、東京の過去・現在・未来を考える活動である「街角ミュージアム」の実践となる。

学習目標・到達目標

それぞれの地域に生きる人間が営む生活文化と社会の関係について理解する。ここで得た知見をもとに現代家政学的視点による自身の研究課題について、具体的な方向性を獲得することができるような問題意識を持つ。

評価方法その他

平常点(授業内レポートを含む)40%、発表30% 期末レポート30%
平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション 現代家政学科で学ぶ生活文化について
- 2.街を見る BIDの観点から
- 3.街を見る 広告と生活文化
- 4.街に行く シオサイト
- 5.事後学習
- 6.発表会
- 7.街を見る 都市文化学の立場から
- 8.街を見る 生活文化学の立場から
- 9.次世代に伝える生活文化
- 10.ワークショップ1
- 11.ワークショップ2
- 12.ワークショップ3
- 13.ワークショップまとめ
- 14.発表会
- 15.授業のふりかえり(まとめ)

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G01082031

食品学実験

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品を総合的に理解するために、実際に食品を用いた加工実験や調理実験を行い、食品の性質や加工・調理過程での変化とその加工原理について理解する。結果のまとめ方や実験レポートの書き方についても学習する。

学習目標・到達目標

食品成分の性質を理解し、調理・加工過程でのそれらの成分の変化や成分間反応、食品加工の原理について理解する。

評価方法その他

平常点(30%)、レポート(70%)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 果実の加工(いちごジャムの瓶詰)
3. 野菜の加工(スイートピクルス)、計量についての実験
4. 乳の加工(バター、カッテージチーズ)
5. 穀類の加工(甘酒)
6. 小麦の性質
7. 小麦の加工(うどん)
8. 砂糖溶液の加熱変化に関する実験(タフィー、ビーナッツの砂糖衣)
9. 卵の加工(マヨネーズ)
10. 魚の加工(かまぼこ)
11. 乳の発酵(ヨーグルト)
12. 大豆の加工(豆腐)
13. 野菜の加工(トマトケチャップの瓶詰)
14. 食肉の加工(ソーセージ)
15. 大豆の加工(大豆の水煮缶)

使用教科書名

プリント配布

NO. G0108301

食のリスクマネジメント

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品の海外依存や食の外部化など、食生活の変化に伴って私たちの食の安全・安心は大きく揺らいでいる。わが国における食品リスクの現状とリスク要因（微生物、自然毒、有害化学物質など）、食品の安全基準や表示のあり方、食品の安全性を確保するためのリスク管理のあり方などについて、身近な食生活を中心に食料・環境問題までに視点を広げ考えていく。

学習目標・到達目標

「食の安全・安心」は私達が食に求める最重要条件である。「食の安全・安心」を確保するために必要な基礎知識を習得するとともに、食生活や食料・環境問題など広い視点から食の安全を捉える姿勢を養うことを目標とする。

評価方法その他

定期試験(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 食品の安全性
2. 微生物の基礎知識
3. 食品の腐敗・変敗とその防止
4. 食中毒
5. 食品の安全性の確保
6. 家庭における食品の安全保持
7. 環境汚染と食品
8. 器具および容器包装
9. 中間まとめ
10. 水の衛生
11. 食品の安全流通と表示(1)
12. 食品の安全流通と表示(2)
13. 食品の安全管理(1)
14. 食品の安全管理(2)
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

使用教科書名:日本フードスペシャリスト協会編「三訂 食品の安全性」建帛社

NO. G01084031

レシピの比較文化史

伊藤 有紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、料理のレシピに関する事柄を空間軸と時間軸で比較する。前半はコメ、ムギ、大豆などの代表的な食材の調理、加工法を中心に地域比較をする。後半は、日本人が摂取してきた食材や料理に焦点を当て、歴史の変遷を概観する。併せて自然環境や食のタブー、食事作法などの文化的背景も学ぶ。これらを通して民族、地域、時代、宗教などにより異なる食文化の多様性を理解し、レシピに違いが生じる要因を考える。

学習目標・到達目標

1. 世界および日本の様々なレシピに関する事柄の比較を通して、食文化の共通性と多様性を理解する。
2. どのような変遷をたどり現代の我々の食事に至っているかを把握し、将来の食生活について考える力を養う。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況)30%、レポートなどの提出物30%、試験40%

週 テーマ・授業目標等

1. レシピ文化の考え方
2. コメのレシピ比較
3. ムギのレシピ比較
4. 麵のレシピ比較
5. 食事作法と食のタブー
6. だしのレシピ比較
7. 豆のレシピ比較
8. 醬、寿司の文化
9. 日本の時代変遷によるレシピ比較1(縄文・弥生時代)
10. 日本の時代変遷によるレシピ比較2(古墳～平安時代)
11. 日本の時代変遷によるレシピ比較3(鎌倉・室町時代)
12. 日本の時代変遷によるレシピ比較4(安土桃山時代)
13. 日本の時代変遷によるレシピ比較5(江戸時代)
14. 日本の時代変遷によるレシピ比較6(明治時代～昭和時代前期)
15. 日本の時代変遷によるレシピ比較7(戦後～平成時代)
16. 筆記試験

使用教科書名

毎回、プリントを配布して授業を進める。学生はA4サイズのファイルを用意しておくこと。

NO. G01085031

食文化論

伊藤 有紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食文化を含む生活文化は、日常生活に密着しているため、自分の習慣や考え方を絶対的なものと捉えがちである。本講義では、まず世界の特徴的な食文化の形成要因を自然環境、社会環境から概観し、世界における日本の食文化の相対的な位置づけを把握する。さらに、自分の所属する食文化圏である日本の食文化の形成、発展の歴史を主食、副食などのテーマ別に学び、現代に至る道筋を学ぶ。これらの学習を通して、自らを取り巻く食文化を客観視し、食生活上の課題解決につながる思考態度を養う。

学習目標・到達目標

1. 世界の地域ごとの食文化の特徴とその形成要因を知る。
2. 現代に至るまでの日本の食文化の変遷を知る。
3. 食文化を自然、社会、歴史などと関連つけて多面的に考える習慣を身に付ける。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況)30%、レポートなどの提出物・発表40%、試験30%

週 テーマ・授業目標等

1. 食文化とは 世界の食文化形成
2. 日本の食文化形成 和食の現状
3. 主食の文化
4. 副食の文化
5. 調味料・油脂・香辛料
6. だし
7. 菓子・茶・酒
8. 日本料理の形成と発展Ⅰ(日本料理の系譜、本膳料理)
9. 日本料理の形成と発展Ⅱ(懐石料理、会席料理)
10. 台所・食器と盛り付け、食卓の文化
11. 外食文化の成立と変化
12. 行事と地域の食文化
13. 非常の食生活
14. 和食に関する発表1
15. 和食に関する発表2
16. 筆記試験

使用教科書名

江原利子・石川尚子編著(2009),『日本の食文化 その伝承と食の教育』,アイ・ケイコーポレーションの他、適宜プリントを配布

NO. G01087031

生活史演習

井上 真弓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本学附属図書館大江文庫は、江戸時代から昭和の時代までにおける食生活、女子教育、服装、住居など生活文化全般にわたる本を多数所蔵している。これらの書物を用いて、くらしのなかで培ってきた人々の教養の在処、生活の知恵、教育等の一端に触れることにより、現代社会の持つ問題を個々の履修生の問題意識に即して深める。

学習目標・到達目標

「生活史」には幾通りもの定義がある。それを理解した上で、くらしの中にいきづいている庶民の哲学を語りたい。現代との相違を把握し、かつ現代において何が問題となっているのか、時間軸において分析できる力を身につける。

評価方法その他

平常点40％、発表20％、レポート40％による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 生活史とは何か
- 2 くらしの中の哲学・文学・教育(1)ミニマムなくらし
- 3 くらしの中の哲学・文学・教育(2)現代における年中行事としての七夕
- 4 くらしの中の哲学・文学・教育(3)季節を楽しみ、地球環境に配慮したくらし
- 5 くらしの中の哲学・文学・教育(4)新しい「教養」とは何か
- 6 映像によるくらしの諸相(1)「天のしずく」にみる伝統的なくらし方
- 7 映像によるくらしの諸相(2)「天のしずく」にみるともに歩む生き方
- 8 江戸時代の教科書を読む
- 9 江戸時代の料理本を読む
- 10 大江スミ先生の教科書を読む
- 11 受講生の発表(1)
- 12 受講生の発表(2)
- 13 受講生の発表(3)
- 14 受講生の発表(4)
- 15 振り返りシートによるまとめ

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01089031

設計製図演習A

小林 直弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、住宅設計やインテリア設計を専門として学ぶための基礎となる製図方法の習得する事を目的とします。なお、本演習の履修には、指定の製図道具が必要になります。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

学習目標・到達目標

1. 建築設計を進めると基礎的な技術である製図の技法を習得する。
2. 構造別の住宅を対象として図面の表現方法を習得する。
3. 各種図面、模型などの制作を通して、建築計画のプレゼンテーション手法を習得する。

評価方法その他

講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。評価方法は、平常点20％、課題点80％とする。平常点は講義への取り組み、積極性を課題点は、製図技術の精度、完成度、理解度とします。

週 テーマ・授業目標等

- 1 4月11日 :ガイダンスと製図基礎
- 2 4月18日 課題1 :線の練習／レタリング・文字の練習
- 3 4月25日 課題2 :製図基礎／建築図面の表示記号
- 4 5月 2日 課題3 :木造住宅／配置図・平面図の表現方法(台東区 旧平樹田中邸)
- 5 5月 9日 課題3 :木造住宅／配置図・平面図の表現方法
- 6 5月16日 課題4 :木造住宅／断面図・立面図の表現方法
- 7 5月23日 課題4 :木造住宅／断面図・立面図の表現方法
- 8 5月30日 課題5 :木造住宅／展開図の表現方法
- 9 6月 6日 課題6 :RC住宅／配置図・平面図の表現方法(大阪市 住吉の長屋)
- 10 6月13日 課題6 :RC住宅／配置図・平面図の表現方法
- 11 6月20日 課題7 :RC住宅／断面図・立面図の表現方法
- 12 6月27日 課題7 :RC住宅／断面図・立面図の表現方法
- 13 7月 4日 課題8 :RC住宅／展開図の表現方法
- 14 7月11日 課題9 :模型作製図面の作成
- 15 7月25日 課題9 :模型制作
- 16 8月 1日 定期試験等:課題最終提出日

使用教科書名

瀬川康秀「初學者の建築講座 建築製図」市ヶ谷出版社

NO. G01088031

フードコーディネート論

伊藤 有紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食材に関する科学的知識、栄養と食品、食の安全性、調理科学などについて学んだことを基礎として、食生活におけるそれらの応用について具体的事項を中心に学ぶ。食に関する文化と歴史、テーブルウェア、メニュープランニング、食事に関するマナーとサービス、テーブルコーディネートなどについて学習する。

学習目標・到達目標

人々の食生活において、「健康を維持するための食」に並んで重要なのが「文化としての食」であることを理解できる。さらに「循環型社会」、「食育」など食をめぐる新しい課題にも関心をもつようになる。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. フードコーディネートとは
2. 食に関する文化と歴史
3. 食卓のコーディネート
4. 日本料理、中国料理、西洋料理の食卓のコーディネート
5. 食卓のサービスとマナー
6. 日本料理、中国料理、西洋料理のサービスとマナー
7. メニュープランニング
8. 日本料理、中国料理、西洋料理のメニュープランニング
9. 食空間のコーディネート
10. フードサービスマネジメント
11. フードサービスの起業
12. 投資計画、収支計画
13. 食企画の実践コーディネート
14. 食企画の実現場場
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

「三訂 フードコーディネート論」日本フードスペシャリスト協会編、建帛社

NO. G01090031

設計製図演習B

小林 直弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、建物を立体的に把握する事を目的とします。立体表現の基礎を学び、部屋ごと寸法や納まりを確認し、パースを作成します。設計製図演習A・Bの総括として、図面、模型、パースを作成し、総合的なプレゼンテーション手法の上達を目指します。なお、本演習の履修は設計製図演習Aの単位取得済であることを条件とします。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になります。

学習目標・到達目標

1. 木造住宅の設計製図手法を習得する。
2. 立体表現図法を習得する。
3. 部屋ごとの細部の納まりや寸法を確認し建築を立体的に把握する。
4. 建築計画のプレゼンテーション手法を習得する

評価方法その他

講義は演習形式のため、講義中に課題を実施します。評価方法は、平常点20％、課題点80％とする。平常点は講義への取り組み、積極性を課題点は、製図技術の精度、完成度、理解度とします。

週 テーマ・授業目標等

- 1 9月26日 課題1 :パースの基礎／アークソメとアイソメ
- 2 10月 3日 課題2 :和室(六畳)の知識とパース
- 3 10月10日 課題2 :和室(六畳)のパースと着色
- 4 10月17日 課題3 :居室の知識と設計
- 5 10月24日 課題3 :居室の知識と設計
- 6 10月31日 課題4 :建築細部の知識と設計(住居の設計)
- 7 11月 7日 課題4 :建築細部の知識と設計
- 8 11月14日 課題4 :建築細部の知識と設計
- 9 11月21日 課題4 :透視図法の基礎
- 10 11月28日 課題4 :居室のパースと彩色(成果発表)
- 11 12月 5日 休講(12月16日に振替)
- 11 12月 8日 課題5 :現地見学(江戸東京たてもの園・前川國男邸)
- 12 12月12日 課題6 :総合表現(木造住宅の断面図・展開図トレース)
- 13 12月19日 課題6 :総合表現(木造住宅の断面図・展開図トレース)
- 14 1月 9日 課題6 :総合表現(木造住宅の模型作製)
- 15 1月23日 課題6 :総合表現(木造住宅の模型作製)
- 16 1月30日 定期試験等:課題最終提出日及び講評会

使用教科書名

瀬川康秀「初學者の建築講座 建築製図」市谷出版社.2004

※適宜、参考資料プリントを配布する。

NO. G01091031

設計製図演習C

大宮司 勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

設計製図演習AおよびBで学んだ基礎知識と手法を活かし、小規模な住宅の設計2課題に取り組みます。身近な生活を想定し、図面に表現することで、ものを作り上げる喜びを感じながら、技術の上達も目指します。

第1課題「コンクリート壁式構造の小住宅」
決まったブロックの組み合わせにより、住宅を設計する手法を学ぶ。

第2課題「私の家族の家」

学習目標・到達目標

独立住宅の設計作図を通して、作図技術、プレゼンテーション技術、設計技術などの習得と上達を目指します。
なお、本演習の履修は設計製図演習Bの単位取得済を条件とします。また、1回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

評価方法その他

平常点20%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）80%とする。

週 テーマ・授業目標等

第1週	ガイダンス 第1課題 小住宅設計課題の説明
第2週	第1課題、第2課題敷地見学、周辺調査事例研究
第3週	エスキース
第4週	平面図、断面図、立面図のエスキース
第5週	平面図、立面図、断面図製図
第6週	平面図、立面図、断面図製図
第7週	模型製作、第1課題提出
第8週	第2課題 住宅設計課題の説明、エスキース
第9週	平面図、断面図、立面図のエスキース
第10週	平面、立面図、断面図製図
第11週	平面、立面図、断面図製図
第12週	平面、立面図、断面図製図
第13週	模型製作
第14週	模型製作
第15週	製図補足、プレゼンテーションまとめ
第16週	ポスターセッション（作品発表会）

使用教科書名

NO. G01092031

設計製図演習D

大宮司 勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

第1課題「エコロジーな生活空間としての住まい（木造住宅）―最もエコ的な100万都市江戸長屋からの学び」
ねらい：究極のエコ生活から、引き継ぐべきと考えるものと、改良発展させるべきものを考えていく。

第2課題「年月とともに美しくなる住宅（鉄筋コンクリート造）―日本の住宅は先進国で最も寿命が短いのは何故？」
ねらい：生活文化は引き継ぐものという認識にたつて、ファミリーヒストリーに加える

学習目標・到達目標

2つの課題の設計演習を通じて、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、上達を目的とします。

なお、本演習の履修は設計製図演習Cの単位取得済を条件とします。また、2回の校外授業と模型製作などで交通費、材料等の実費負担が必要になります。

評価方法その他

平常点20%、課題（提出期限、ポスターセッションを含む）80%とする。

週 テーマ・授業目標等

第1週	敷地の提示・設計諸元説明 見学と考察のためのガイダンス
第2週	深川江戸資料館の見学：考察
第3週	考察によって課題のまとめ エスキース1
第4週	エスキース2平面・立面
第5週	模型提出
第6週	プレゼンテーション図面提出（A2サイズ着彩、模型写真貼付）
第7週	プレゼン・講評
第8週	教室にて講義・設計諸元説明
第9週	敷地見学・エスキース1
第10週	エスキース2
第11週	チームの見つけた課題発表
第12週	平面図・立面図・断面・モデル
第13週	模型提出
第14週	プレゼンテーション図面提出（A2サイズ着彩、模型写真貼付）
第15週	プレゼン・講評

使用教科書名

NO. G01093031

現代家政演習

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代家政学科は、学生の興味や進むべき進路を見据えて、「食生活」「ハウジング」「ファッション」「総合家政」の各領域を横断的に学べることを特徴としている。この授業では、各領域での学びへの理解、教員や他の学生との対話、演習などを通して、現代家政領域における問題の新たな発見や興味・関心の学問的深まりを目的とする。なお、「総合家政」は、便宜上、「生活」「家族・家庭」「社会」の3つに分けることとする。

学習目標・到達目標

現代家政学科の学びの特徴を理解し、4年間大学で学ぶ目標を見つける。

評価方法その他

授業への取り組み（60%）、課題（40%）の総合評価。
（授業への取り組みは授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. 大学での学びを考えよう1
2. 大学での学びを考えよう2
3. 大学を知ろう
4. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み1
5. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み2
6. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み3
7. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み4
8. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み5
9. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み6
10. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み7
11. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み8
12. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み9
13. 領域別の学びの特徴の理解と課題への取り組み10
14. 問題の発見や関心の深まりを考える
15. 「学び」の理解をまとめる
16. 発表会（ポスター形式）

使用教科書名

プリント等を配布する。

NO. G01094031

日本語教育概論

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1) 世界では日本語をどのぐらいの人がどのような目的で学んでいるのかを学び、日本や日本語が世界の中でどのような位置づけにあるかを学んでいく。
2) 幼児の言語習得と成人の外国語習得の違いを学び、「なぜ外国語は母語のように自然に身につかないのか」という疑問を解決していく。
3) 外国語教授法の種類を学び、外国語習得との関係を考えていく。
4) 日本語の特徴とその指導を学び、外国語を学ぶ際に「形」を覚えるだけでは機能しないことを考察していく。

学習目標・到達目標

世界の日本語学習者の現状、幼児の母語習得と成人の外国語習得の違い、外国語教授法、日本語の特徴とその指導を学ぶことを通し、私達が普段無意識に使用している言語の役割および習得の過程についての考察を深めていく。

評価方法その他

中間試験 40%
期末試験 40%
平常点 20%
（平常点は授業に臨む態度、発言、出席率等により総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1) イントロダクション・日本語学習者の現状
- 2) 幼児の母語習得と成人の外国語習得の違い
- 3) 外国語教授法1
- 4) 外国語教授法2
- 5) 外国語教授法3
- 6) 外国語教授法4
- 7) 中間試験
- 8) 日本語の音声の特徴と指導1
- 9) 日本語の音声の特徴と指導2
- 10) 日本語の音声の特徴と指導3
- 11) 日本語の語彙の特徴と指導1
- 12) 日本語の語彙の特徴と指導2
- 13) 日本語の文法の特徴と指導1
- 14) 日本語の文法の特徴と指導2
- 15) 日本語の文法の特徴と指導3
- 16) 期末試験

使用教科書名

プリントを配布する

NO. G01095031

社会調査法

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会調査のうち質的調査について学ぶ。質的調査とは数値ではない文書を中心にしたデータを取り扱う。聞き取り調査と内容分析などについて説明と演習を通して理解を深める。

学習目標・到達目標

社会調査の質的調査の目的と意義を理解し、先行調査の結果を読み取る経験を通して、質的調査の企画、実施、結果報告といった一連の知識と技術を学ぶ。

評価方法その他

- (1) 調査報告 40%
- (2) 最終試験 30%
- (3) 平常点 30%
- (平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス 質的調査とは何か
- 2.質的調査の概要
- 3.問題と仮説
- 4.対象の選択
- 5.質的調査の方法
- 6.聞き取り調査(1)さまざまな聞き取り調査
- 7.聞き取り調査(2)データの収集と分析方法
- 8.聞き取り調査(3)演習①
- 9.聞き取り調査(4)演習②
- 10.内容分析(1)さまざまな内容分析
- 11.内容分析(2)データ収集と分析手法
- 12.内容分析(3)演習①
- 13.内容分析(4)演習②
- 14.調査者の責任と配慮、社会への貢献
- 15.質的調査のまとめ
- 16.試験

使用教科書名

谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査 技法編』ネルヴァ書房、2009年

NO. G01096031

食物学概論

三宅 紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人が健康に生活するため、食生活は重要であるばかりでなく、社会的、文化的な面からも様々な機能を果たしている。中学校・高等学校の家庭科の教員として食物学分野の教育を担当するために必要な食生活に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を実行できる力を養うことを目標とする。食と栄養、食品の機能、食品と調理・加工などを中心に、総合的に食物学について学習する。

学習目標・到達目標

人が心身ともに健康で豊かな生活をおくるために食生活の果たす役割は大きい。私たちの生活をよりよくするために学ぶ家庭科の食物分野の教育を担うことができるよう、食品学、栄養学に関する基本的な知識を習得し、よりよい食生活を営むことができる食に関する総合力を身につけることを目標とする。

評価方法その他

- 定期試験80%、平常点20%
- (平常点は授業への参加状況、課題提出等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.はじめに
- 2.食と健康、栄養素の種類と消化吸収
- 3.栄養素の機能(炭水化物)
- 4.栄養素の機能(脂質)
- 5.栄養素の機能(タンパク質)
- 6.栄養素の機能(ビタミン、ミネラル)
- 7.食品中のその他の成分の機能、食生活の設計
- 8.植物性食品の調理・加工(穀類)
- 9.植物性食品の調理・加工(いも類、豆類)
- 10.植物性食品の調理・加工(野菜類)
- 11.植物性食品の調理・加工(海藻類、果物類)
- 12.動物性食品の調理・加工(肉類、魚介類)
- 13.動物性食品の調理・加工(卵、乳類)
- 14.その他の食品の調理・加工(甘味料、油脂等)
- 15.その他の食品の調理・加工(ゲル化剤、嗜好飲料等)、まとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

食物学概論 第2版 / 藤原葉子 編著 / 光生館

NO. G01097031

食と社会

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代における食品の生産から消費までの流れやそれに関わる社会システムを踏まえて、私たちは把握する情報にまどわされずに食品（の成分）をどのようにとらえどのように食品を選択し豊かな食生活を築いていくのかを考えていく。

学習目標・到達目標

人々の食生活は長い歴史の中で変化し続け現代の食生活があること、また現代の食生活においては加工や流通の技術が発達した一方で食の安全や信頼などに関する様々な問題が発生していることも踏まえて、人々の健全な暮らしにおける食のあり方を考える。

評価方法その他

平常点(30%)、試験(70%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.食生活の変遷
- 3.食品の生産から消費まで
- 4.栄養素とそれ以外の食品成分
- 5.豊かな食生活における食品添加物の位置付け
- 6.食生活における健康志向(1)
- 7.食生活における健康志向(2)
- 8.食育と社会の関わり(1)
- 9.食育と社会の関わり(2)
- 10.食の安全(1)
- 11.食の安全(2)
- 12.くらしの中の食情報(1)
- 13.くらしの中の食情報(2)
- 14.食品の表示と宣伝広告
- 15.まとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

NO. G01098031

食生活演習

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

講義、決められたテーマに沿った調理の計画、調理実習を通して知識を修得するとともに実践力を養い、また発表を通して知識の定着を図る。1～6回目の授業では「食育」と「郷土料理」に焦点を当て、7～15回目の授業では調理機器メーカーとの連携により、新しい調理機器を用いたメニュー開発を実践する。

学習目標・到達目標

人々の食生活をより豊かなものにするために必要な知識を修得するとともに実践力を養い、今後の豊かな食生活に活かすことができるようになる。また、食育や企業連携を通して、食と社会との関わりについて理解する。

評価方法その他

平常点(40%)、課題(30%)、発表(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.食育についての講義
- 3.食育に関する企画の立案と実践(調理準備1)
- 4.食育に関する企画の立案と実践(調理準備2)
- 5.食育に関する企画の立案と実践(調理実習)
- 6.食育に関する企画の立案と実践(発表)
- 7.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(企業における企画開発についての特別講義)
- 8.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(調理準備1)
- 9.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(調理準備2)
- 10.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(試作1)
- 11.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(試作1の改善)
- 12.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(試作2)
- 13.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(発表準備)
- 14.新しい調理機器を用いたメニュー開発と実践(調理・発表・講評)
- 15.調理機器メーカー見学

使用教科書名

NO. G01099031

インテリアデザイン演習B

大宮司 勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業ではまず実例を調査・研究し、デザインの現状を調査する。また詳細図、建具図、家具図による室内空間の表現方法ならびにパースの描き方、模型制作の手法などのインテリア空間のプレゼンテーションの手法を習得する。そしてこれら成果をもとに、みずからインテリアを計画し、図面および模型を作成する。

- ・第1課題 7回『カフェの内装設計』
- ・都心のビル1階部分を想定し、商業空間を考える。
- 【提出図面】平面図・展開図・天井伏図・内観パース（一点透視）・模型写真

学習目標・到達目標

インテリアデザイン演習Aに引き続き、商業施設と住まいのインテリア設計を実践する。建具、家具などの設計手法を学び、より詳細なインテリア設計を行う。
なお、インテリアデザイン演習Aの単位取得済を履修条件とする。また模型製作などで材料等の実費負担が必要になる。

評価方法その他

平常点(30%)ならびに提出物(70%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 第01週:第1課題『カフェの内装設計』説明、実例研究
- 第02週:実例研究発表
- 第03週:平面、断面検討
- 第04週:インテリア仕上検討
- 第05週:パース作図
- 第06週:模型提出、撮影方法検討
- 第07週:プレゼン図面提出、手直しについて指導
- 第08週:講評会(試験に該当する)、第2課題『マンション1室のリフォーム』説明
- 第09週:実例研究発表
- 第10週:平面、断面検討1リビング、ダイニング、キッチン
- 第11週:平面、断面検討2サニタリー、寝室
- 第12週:インテリア仕上検討
- 第13週:アクセ作図
- 第14週:模型提出、撮影方法検討
- 第15週:プレゼン図面提出、手直しについて指導
- 第16週:講評会(試験に該当する)

使用教科書名

NO. G01101031

建築調査

大橋 竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

わが国ならびに諸外国の建築保存と歴史を活かしたまちづくりの歩みを概観するとともに、その過程で検討されてきた先達たちの考えを学ぶ。それと同時に、関連する現行法と諸制度について学び、それがどのように運用されているかを知る。また、実際に行われてきた建築保存の実例や歴史まちづくりの実例をさまざまな観点から検討し、より実践的な知識を身に着ける。

学習目標・到達目標

都市の歴史環境や伝統的な景観を保存・活用したまちづくりについて考える。健全な都市環境の形成にとって、その都市の景観や歩んできた歴史の尊重はきわめて重要である。わが国は、諸外国と比べ、遅れをとっていたが、昨今、これらを意識したまちづくりが各地で行われるようになった。こういったまちづくりに携わることができるように、それを実践するための制度等に関して学ぶとともに、先進的な事例を調査・検討しながら、明日のまちづくりを追求する。

評価方法その他

3回のプレゼンテーション(60%)と平常点(授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する:40%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1. イントロダクション(未来の都市空間を考える／建築・都市の個性とは何か)
- 2. 歴史を活かしたまちづくり(諸外国の建築保存)
- 3. わが国のまちづくりに欠けていたもの(わが国の建築保存)
- 4. 建築・町並みの調べ方
- 5. 東京駅周辺の歴史的変遷を調べる
- 6. 東京駅周辺の歴史を感じる(歴史的建造物の見学1)
- 7. 東京駅周辺の変遷をプレゼンテーションする
- 8. 日本橋・銀座に残る歴史的建造物を調べる
- 9. 日本橋・銀座周辺の歴史遺構を見る(歴史的建造物の見学2)
- 10. 歴史的建造物の過去・現在・未来をプレゼンテーションする
- 11. 歴史的建造物を守り、活かす
- 12. 文化財建造物の保存の技術
- 13. 建築医になる
- 14. 身近な建築を調べる
- 15. 身近な建築の将来を考え、プレゼンテーションする

使用教科書名

特に定めない

NO. G01100031

インテリアCAD演習

大宮司 勝弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業では最初に2次元(平面)CADの基本操作の習得を行い、次にデータの扱い方の取得、画像データの取り込みなどを含めたプレゼンテーション技法、最後に3次元(立体)CADの操作へ発展させていく。

CADソフトウェアはVectorWorksを使用する。2次元を得意とする他の建築業務用ソフトと違い、3次元のモデリングや写真を貼りこんだレイアウトを可能とするなど、プレゼンテーション向きのソフトである。

ソフトウェアのライセンス数やパソコンの台数に限りがあるため、履修人数の制限と調整を行う場合がある。

学習目標・到達目標

現在、建築インテリア業界ではその企画、設計の実務においてCAD(コンピュータ支援設計)が必修となっている。この授業では実社会において役立つCADの基本操作方法を身に付けることを目的とし、CADを利用した製図技術やプレゼンテーション技法を学習する。

なお、基礎的な建築製図力、立体把握力を必要とするため、設計製図演習A～Dについて単位取得済であることを履修条件とする。

評価方法その他

平常点(30%)及び提出課題(70%)によって、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) イントロダクション・CADソフトの取り扱い方
- 2) 2次元(平面)CAD基本描画(1)線
- 3) 2次元CAD基本描画(2)図形
- 4) 2次元CAD基本描画(3)住宅の平面図
- 5) 2次元CAD基本描画(4)住宅の断面図
- 6) 2次元CAD基本描画(5)住宅の展開図
- 7) CADデータの扱い方(1)
- 8) 画像ファイルの取り込み・レイアウト
- 9) 3次元(立体)CAD基本描画(1)住宅の立体作成
- 10) 3次元CAD基本描画(2)住宅の立体作成
- 11) 3次元CAD基本描画(3)住宅の立体作成
- 12) 3次元CAD基本描画(4)住宅のパース描画
- 13) CADデータの扱い方(2)
- 14) プレゼンテーションテクニック
- 15) 課題提出

使用教科書名

NO. G01102031

衣とユニバーサルデザイン

大野 淑子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ユニバーサルデザインについての理解を深め、あらゆる人への配慮する気持ちを持つことや行動が出来るようになり、共生社会の構築に貢献できるようになること。

学習目標・到達目標

ユニバーサルデザインとは人種、性別、年齢、身体的特徴などに関わらず、あらゆる人が区別されることなく、便利かつ快適に使えることを前提としたデザインのことである。衣服については機能性、安全性、審美性を始め、健康や表示などあらゆることに配慮することが必要である。ノーマライゼーションを目指す社会においては不可欠なことである。事例を参考にしながら理解を深め、現在あるものなどのように改良すればより良くなるかを考える。

評価方法その他

授業への取り組み50% 発表40% レポート10%

週 テーマ・授業目標等

- 1. ユニバーサルデザイン概念
- 2. 高齢者・障害者の被服(1)
- 3. 高齢者・障害者の被服(2)
- 4. 高齢者・障害者の被服(3)
- 5. 高齢者疑似体験
- 6. 身体を洗うミトンについて
- 7. 頭を守る帽子について
- 8. 自具具について
- 9. 組み紐で作品を作る
- 10. ユニバーサルファッション
- 11. 衣服のリフォーム(1)
- 12. 衣服のリフォーム(2)
- 13. ユニバーサルファッションの調査
- 14. 車いすの着付け
- 15. 発表とまとめ

使用教科書名

使用しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01110031

基礎ゼミ

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「生活の質の向上」を考えることは、現代家政学科の学びの中核をなしている。この講義では、企業活動と生活、各領域の研究と生活、社会見学を通して、現代家政学科の学びと実社会との関わりについて実感を伴った理解を促す。そして、各自が現代家政演習で見つけた学習課題をより具体化することを目的とする。主に教室での講義と校外施設等の見学を行う。

学習目標・到達目標

現代家政学科での学びと実社会の関わりについて理解を深めることを目標とする。

評価方法その他

平常点(60%)、課題＋授業評価(40%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス(各領域ゼミの事前説明、後期時間割の確認)
- 現代家政学科の学びと実社会との関わり1(外部講師による講演)
- 各領域の研究と学科での学びとの関わり1(各領域ゼミ)
- 各領域の研究と学科での学びとの関わり2(各領域ゼミ)
- 社会見学の事前説明1(見学先紹介)
- 各領域の研究と学科での学びとの関わり3(各領域ゼミ)
- 各領域の研究と学科での学びとの関わり4(各領域ゼミ)
- 社会見学の事前説明2、社会見学発表会の事前説明
- 特別公開講座
- 社会見学1
- 社会見学2
- 社会見学3
- 社会見学4
- 現代家政学科の学びと実社会との関わり2(外部講師による講演)
- 社会見学発表会1
- 社会見学発表会2

使用教科書名

プリント等を配布する予定。

NO. G01110431

情報伝達と表現

小林 直弘

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会で重要な能力の一つにコミュニケーション能力がある。情報を正しく理解し、伝えることがコミュニケーションの始まりである。そこで、本授業では、「情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の可視化」の流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の可視化を演習形式で行い、コミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

情報とその伝達の流れを理解し、情報を収集、分類、可視化(表現)することにより正確な情報を伝達出来ることを学習目標とする。

評価方法その他

課題50%、プレゼンテーション30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 4月11日 講義のオリエンテーション、情報伝達と表現の概要
- 4月18日 広告デザインとコミュニケーション
- 4月25日 インフォメーションデザインと事例
- 5月 2日 グラフィックデザインの要素(デザイン原理)
- 5月 9日 演習:個別テーマ決定、ブレインストーミング
- 5月16日 演習:情報の収集
- 5月23日 演習:情報の分類
- 5月30日 演習:グループ構成、テーマ決定、ブレインストーミング
- 6月 6日 演習:表現の基礎1
- 6月13日 演習:表現の基礎2
- 6月20日 演習:表現の基礎3
- 6月27日 制作:情報の可視化1
- 7月 4日 制作:情報の可視化2
- 7月11日 制作:情報の可視化3
- 7月25日 プレゼンテーション
- 8月 1日 プレゼンテーション

使用教科書名

なし。適宜レジュメを配布します。

NO. G01110331

生活の経済学

古徳 佳枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実生活において必要となる経済関連の知識として、F P（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「A. ライフプランニングと資金計画」「B. リスク管理」「C. 金融資産運用」「D. タックスプランニング」「E. 不動産」「F. 相続・事業承継」の6分野、そのうち特に「年金（ライフ）」「金融」「タックス」に重点を置く。単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に活用可能な実践的学びの場としていくため、疑問を持ったら積極的に質問してほしい。

学習目標・到達目標

私たちは日々の生活のために何らかの経済取引を行い続けている。「モノやサービスを買う・消費する」「お金を貯める、増やす」「借りる」「リスクに備える」「税を払う」などの経済取引において合理的な意思決定を行う際に、日本の法律や制度を知っているかどうかは大きな差につながる。本講義では、消費者・生活者としての視点を軸にしつつ、それに加えて、将来金融業界に関わる職業人として必要と立つ金融経済の知識やスキルの習得を目標とする。

評価方法その他

平常点(30%)、第3回のキャッシュフロー表の提出(30%)、第15回の確認テスト(40%)
(平常点は授業への参加状況等により、総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- パーソナル・ファイナンスの全体像(オリエンテーション)
- ライフプランニングと資金計画
- キャッシュフロー表の作成(提出)
- 社会保険制度と年金制度
- タックスプランニング①(税制の全体像と所得税の基礎)
- タックスプランニング②(所得税の計算方法)
- タックスプランニング③(給与所得の源泉徴収票の見方)
- リスクマネジメント(生命保険と損害保険)
- 金融資産運用①(経済・景気指標と金利)
- 金融資産運用②(安全性金融商品)
- 金融資産運用③(投資性金融商品)
- 不動産運用設計(不動産の法令上の規制)
- 相続・事業承継の基礎知識(相続税)
- 相続・事業承継の基礎知識(贈与税)
- 講義全体のまとめと確認テスト

使用教科書名

「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-[第4版]」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2016年発行

NO. G01110531

家庭電気・機械・情報処理

花田 考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなっており、成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活を営むことが可能になる。この授業では、家庭で使用されるエネルギー（電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水）および情報の供給システムを学ぶとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価できる能力を身に付ける。

学習目標・到達目標

家庭で使用されるエネルギーの観点から、その生活実態を評価できること。

評価方法その他

定期試験(75%)、課題(15%)、平常点(10%)の総合評価
(平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス
- 「住まう」を考える
- 地球環境と生活環境 ・地球環境のしくみ
- ・地球環境問題と生活環境からの改善行動
- 水環境 ・水環境
- 給排水衛生設備
- 廃棄物 ・ごみの排出実態
- 私たちの生活とエネルギー ・暮らしの中のエネルギー消費
- 私たちの社会とエネルギー ・日本のエネルギー利用
- ・エネルギー資源による世界とのつながり
- エネルギーと科学 ・人類の発展とエネルギー
- エネルギーと技術 ・電気の知識
- 家電機器の省エネルギー性能 ・家庭で使用される機器の省エネルギー性能・環境負荷・経済性
- 給湯機器の仕組み ・お湯の作り方機器の使い方
- 建物の環境性能 ・CASBEE,HEMS,ZEH ・住まいをテーマとした環境教育(事例)
- 試験

使用教科書名

NO. G01110631

会計情報演習

古徳 佳枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業と会計を支えている制度の概要について理解するため、財務諸表の中心となる貸借対照表と損益計算書の構造・作成方法を解説します。財務諸表作成の基礎となる簿記の記帳技術（仕訳など）について具体的に実践しながら学びます。その上で、貸借対照表と損益計算書の読み方、会計数値の見方について説明し、実際の企業の財務諸表を検証することによって、会計情報の知識を実務的に応用することを目的とします。

学習目標・到達目標

本講義では財務会計の基礎理論を学ぶことを目標とします。財務会計とは、企業のさまざまな経済取引を記録・測定し、利益・その他を報告するために行われる会計のことであり、財務会計を知り、企業の財務諸表を読みとくことで、企業活動の成果を把握することができます。会計の基礎となる複式簿記の初歩的なルールを理解し、財務諸表の構造を理解する（日商簿記3級レベル程度）ことを目標とします。

評価方法その他

平常点(30%)、授業中の小テスト4回(40%)、第15回の発表(30%)
(平常点は、各回提出したシートへの記入状況等によって判断します)

週 テーマ・授業目標等

- 1.企業活動における会計の意義(オリエンテーション)
- 2.貸借対照表の構造
- 3.損益計算書の構造
- 4.取引の仕訳
- 5.総勘定元帳と試算表の作成
- 6.精算表の作成
- 7.固定資産と減価償却費
- 8.連結財務諸表
- 9.キャッシュ・フロー計算書と株主資本等変動計算書
- 10.財務諸表分析①
- 11.財務諸表分析②
- 12.損益分岐点分析
- 13.企業分析実習①
- 14.企業分析実習②
- 15.企業分析の発表

使用教科書名

「企業と会計の道しるべ」水口剛・平井裕久・後藤晃範著、中央経済社

NO. G01110831

家政学概論

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生きる力の基盤となる衣食住、地域の暮らしに必要な知識と技術を概説する。家族・消費生活、家庭と地域の生活、衣食住の生活改善の知識と技術を理解し、生活の質を高める方法を習得する。生活者の視点で、現代社会のなかで、家政の知と技がどのように、生活における人と人の関わりあい、人と心の関わりあい、人と物との関わりあい、人と事からの関わりあいを支えてきたのかを考える。

学習目標・到達目標

家政学の視点から生活の歴史を振り返り、現状を分析し、持続可能な社会にむけて、今後の課題をみつける力を育成する。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況、討論への参加等):20点
定期試験:80点

週 テーマ・授業目標等

1. 家政学概論とは
2. 消費生活(1)衣生活
3. 消費生活(2)法律と契約、悪質商法
4. 消費生活(3)生活と家計管理
5. 消費生活(4)食生活
6. 消費生活(5)住生活・環境
7. 消費生活(6)まとめ
8. 住生活(1)住生活の変遷
9. 住生活(2)現代の住生活と消費者
10. 食生活(1)食生活の変遷
11. 食生活(2)現代の食生活と消費者
12. 衣生活(1)衣生活の変遷
13. 衣生活(2)現代の衣生活と消費者
14. 家庭経済(1)家庭経済の変遷
15. 家庭経済(2)現代の家庭経済と消費者
16. 試験

使用教科書名

「消費能力をつける 消費生活力検定テキスト」日本消費者協会編

NO. G01110731

家庭経営学概論

上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。前半は家族の問題について、ワークショップを中心に捉えます。後半は、消費者教育を中心にした生活課題解決の方法を社会的に考えます。これらの学びを通して、自立した経済生活を営むための基礎的な力を身につけます。

評価方法その他

平常点 50点 (上村分:25点 井上分:25点)
レポート・試験50点 (上村分:25点 井上分:25点)

週 テーマ・授業目標等

- 1.くらしをつくりかえる家庭経営学
- 2.自立のための意思決定
- 3.社会人になるための経済学
- 4.カード社会の歩き方
- 5.消費者市民社会
- 6.リスクマネジメント
- 7.持続可能な消費のための教育
- 8.「住まう」という観点から家族写真を読む
- 9.映像にみる家族 家族構成の観点から
- 10.映像にみる家族 生活文化継承の観点から
- 11.映像にみる家族 コミュニティの観点から
- 12.ワークショップ 家族の風景
- 13.ワークショップのまとめ
- 14.育児をめぐる生活時間調査について
- 15.授業の振り返り
- 16.試験

使用教科書名

暮らしをつくりかえる 生活経済力／朝倉基浩／2010
これであなともひとり立ち／金融広報中央委員会
消費生活能力検定試験受験対策問題集2／(財)日本消費者協会・消費生活能力検定委員会／日新印刷株式会社／2006

NO. G01110931

家族関係論

林 葉子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族関係はさまざまな人間関係の中でもっとも身近な人間関係であり、誰もがその経験から家族についてのイメージをいだいている。今日、家族はかつてない激しい社会変動の中であちこちも機能も多様化し、さまざまな問題をかかえている。家族関係の基礎理論や家族の心理を学び、諸問題への対応について考察する。

学習目標・到達目標

次の内容への理解を学習の目標にしてください。
1 さまざまな結婚・家族のかたちから家族とは何かを考える。
2 ファミリー・アイデンティティについて
3 家族の定義の変遷について
4 基本用語の概念を理解する(世帯・家庭・居住規模・家族周縁)

評価方法その他

授業の予習および授業に関する課題の小論文 50% (毎回、授業前と後に提出)
鑑賞したDVDの内容に関する問を出題するので、回答し、提出するレポート 20% (期限内に提出すること)
学期末テスト 30% (学期末に実施する)

週 テーマ・授業目標等

1. 家族とは
2. 家族分析のてがかり
3. 青年期の異性交際
4. 配偶者選択
5. 結婚の意味と機能
6. 離婚、その後
7. ライフサイクル
8. 家族の危機
9. 家族の役割構造
10. 家族の視力構造と情緒構造
11. 子どもの養育と社会化
12. 老親の扶養
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変動
15. まとめ

使用教科書名

森岡清美、望月嵩共著『新しい家族社会学』培風館 最新版

NO. G01111031

家庭看護

吉賀 成子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭看護の対象は、人間とその生活全般である。したがって、生活体としての人間とかわるためには、精神・身体・社会生活等広範囲な側面を基盤とした総合的な視点が必要である。本講義では、日常的にかかりやすい病気や生活習慣病を取り上げ、家庭看護に必要な知識や技術を学習し実践するための基礎を学ぶと同時に、福祉的視点からの生活支援についても学ぶ。

学習目標・到達目標

- ①病気の予防、家庭での看護、高齢者の介護などに留する知識と技術を習得する。
②家庭での看護や介護などを実践する能力と態度を習得する。

評価方法その他

平常点(30%)、レポート(30%)、定期試験(40%)による総合評価(平常点は授業への参加状況、受講への意欲態度等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション・健康とは
- 2 女性の健康
- 3 母子保健と看護
- 4 小児保健と看護 1)アレルギー疾患
- 5 小児保健と看護 2)感染症、発達障害
- 6 成人保健と看護 1)メタボリックシンドローム
- 7 成人保健と看護 2)生活習慣病
- 8 精神保健と看護
- 9 高齢者の看護 1)高齢者の心身の特徴
- 10 " 2)高齢者の病気・事故
- 11 " 3)高齢者の介護
- 12 " 4)高齢者の福祉(介護保険)
- 13 家庭看護の実践 1)基本的な生活とその観察
- 14 " 2)看護の基本技術
- 15 " 3)応急手当
- 16 まとめ・試験

使用教科書名

「暮らしの看護」 荻場一則編著 建帛社

NO. G0111131

消費者情報論

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

IT化、グローバル化、少子高齢化など、著しい変化をみせる社会において、一人の消費者・生活者として、自らの生活をどう守り、いかに創造していくかについて、消費者をめぐる情報の観点から検討する。消費生活に関する情報には消費者マークに代表される表示やチラシといった広告のほか、企業や行政、消費者団体などから提供・発信される情報がある。これらの消費者情報は消費者にもたらされるだけでなく、消費者から提供・発信することも重要である。講義では具体的な消費者問題を取り上げながら、情報の収集と整理、内容の分析と評価、情報発信などの技術について、消費者の視点から学ぶ。

学習目標・到達目標

現代市場の構造問題である消費者問題のさまざまな実相を知る。消費者行政や消費者法について理解を深める。主体形成としての消費者教育の役割を認識し、意識変容や行動変容の重要性を認識できるようにする。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40%
(2) 課題提出 30%
(3) 平常点 30%
(平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 消費者情報とは何か:企業、行政、消費者の立場から
- 3 消費者教育をめぐる動向
- 4 企業と消費者教育
- 5 企業における消費者情報:消費者信用情報と利用者
- 6 行政における消費者情報①:消費者教育の実践
- 7 行政における消費者情報②:消費生活相談情報
- 8 行政における消費者情報③:消費者事故情報
- 9 メディアリテラシーとは何か
- 10 生活と宣伝・広告、チラシ広告の検討
- 11 消費者マーク:記号・絵表示・絵文字の活用
- 12 消費者情報の収集と整理:新聞記事の活用方法
- 13 消費者情報に関わる統計の分析と評価
- 14 消費者情報をめぐる取組み:消費者ニーズの活用
- 15 まとめ

使用教科書名

国民生活センター編『くらしの豆知識(2019年版)』(2018年)

NO. G01111231

消費経済論

金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

消費経済について、消費者の視点を中心に授業を行う。主に、①個人消費者へのマーケティング、②個人としての消費者、③社会的存在としての消費者の3点から消費経済を学ぶ。①個人消費者へのマーケティングでは企業経営、②個人としての消費者では人間の心理・認知行動、③社会的存在としての消費者では集団心理などが関係する。これら3点から消費経済をダイナミックに見ていく。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

- 消費経済としての、消費者行動の全体像を把握することができる。
消費者としての自身の行動について、理論を用いて他者に説明することができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題4～5回(40%)

週 テーマ・授業目標等

1. イントロ
2. なぜ人の好みはこんなにも違うのか:セグメンテーション
3. どのように消費者を納得させるのか:コミュニケーション
4. 売れるお店はどうやって作る:店頭マーケティング
5. 人間はしょせんバブ洛夫の犬か:学習とは何か
6. 思い出は美化される:記憶
7. 好き嫌いとは、どのように生まれるのか:態度
8. なぜそれを買ったのか? 意思決定
9. 消費で自己表現をしている:アイデンティティ
10. 家族の買い物は誰が決めているのか:家族
11. なぜ友人同士の服装は似てしまうのか:集団
12. なぜものが集団のシンボルになるのか:ステイタス
13. 日本人は全員納豆が好き:サブカルチャー
14. 聖地巡礼も消費者行動:文化
15. 全体の振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G01111331

児童学概論

坪井 瞳

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもを総合的に捉える視点として、関係する各領域(心理、保育・教育、保健、社会、文化、環境、福祉等)を概観しながら、子どもを取り巻く基礎的課題(子ども観、現代社会における子どもの問題、子どもの発達、子どもと環境、子どもと教育・保育等)に対する理解を進める。現実の生活や社会における子どもという存在、子ども問題へのアプローチについて実践的な視点からも検討していく。

学習目標・到達目標

「子ども」という存在を歴史的、社会的、教育的などさまざまな観点から捉え、児童学における基礎的課題を理解し、子どもという存在について理解を深める。また、子どもを取り巻く現代的課題についても考察を行う。

評価方法その他

平常点(40%)、課題レポート(60%)

週 テーマ・授業目標等

1. 学問としての「子ども」:児童学とは
2. 子どもとは何か:子ども観の歴史の変遷
3. 子どもの発達の様相(1):乳児期
4. 子どもの発達の様相(2):幼児期
5. 子どもの発達の様相(3):学童期
6. 子どもの育ちの場(1):保育所、認定こども園
7. 子どもの育ちの場(2):幼稚園
8. 子どもの育ちの場(3):地域社会
9. 子どもの育ちの場(4):社会的養護
10. 現在の子どものおかれている状況と子どもに関する問題(1):乳幼児期
11. 現在の子どものおかれている状況と子どもに関する問題(2):学童期
12. 現在の子どものおかれている状況と子どもに関する問題(3):青年期
13. 「遊びをせんとやうまれけむ」:子どもにとっての遊びの重要性
14. 子育てをめぐる社会のサポート:子育て支援関連施策
15. すべての子どもの最善の権利:「子どもの権利に関する条約」

使用教科書名

講義時にレジュメやプリントを随時配布する。

NO. G01111431 保育学

坪井 瞳

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児期の保育や教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要なものである。子どもとの信頼関係を築き、子どもが身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして試行錯誤したり、考えたりするようになることを大切にする乳幼児期の教育や保育における見方・考え方について学んでいく。

また、子どもを取り巻く社会（家庭、社会など）と乳幼児期の教育・保育との関連についても学ぶ。

学習目標・到達目標

・乳幼児期の教育や保育の意義や重要性を知り、具体的な実践の在り方について理解する
・乳幼児期の教育や保育の今日的課題について考察を深める。

評価方法その他

平常点(40%)、提出物(20%)、課題レポート(40%)

週 テーマ・授業目標等

1. 乳幼児期の教育や保育の意義
2. 日本における乳幼児期の教育や保育の制度
3. かかわりあって育まれる力:乳児保育
4. 乳児向け手作りおもちゃの制作
5. かかわりあって育まれる力:よりどころを求めて:3歳児
6. かかわりあって育まれる力:やりたい、でもできない:3歳児
7. かかわりあって育まれる力::先生とともに:4歳児
8. かかわりあって育まれる力:育ちあい学び合う生活の中で(1):5歳児
9. かかわりあって育まれる力:育ちあい学び合う生活の中で(2):5歳児
10. 幼児向け手作りおもちゃの制作
11. 保育の場における「特別な支援」とは
12. 社会的養護を受ける子どもたち
13. 保護者に対する支援:多様化する家庭・家族の姿を踏まえて
14. 子育てと女性のキャリア:子育て支援関連施策
15. 子どもと社会・子育てと社会

使用教科書名

講義時にレジュメやプリントを随時配布する

NO. G01111631 ファッション造形実習A

井澤 尚子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

衣服によるファッション表現の基礎となる衣服の基本的な構造及び構成方法を学ぶ。人体の形状や動作性に適合する衣服の形態、ミシン縫製の基礎的な技術、及び被服材料の造形上の特性を修得する。中学・高校の家庭科教育の被服領域に対応、実習課題として、手縫いの基礎縫い（サンプルづくり）、ミシン縫製の基礎、手縫い作業の基礎、家庭科教材研究（ハーフパンツの製作）およびステップアップ課題（ブラウスの製作）を取り上げる。

学習目標・到達目標

衣服製作の手縫い、ミシン縫製の基本的な技術を習得する。体型と衣服の形態の関連について、製図として理解する。

評価方法その他

平常点:授業への参加態度(20%)作品・課題(80%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週:ガイダンス、洋裁道具の説明、人体計測、ハーフパンツの製図
- 第2週:ハーフパンツの裁断、材料特性
- 第3週:ミシン縫製の基礎
- 第4週:ハーフパンツの縫製
- 第5週:ハーフパンツの縫製、仕上げ
- 第6週:ブラウスのデザインと製図
- 第7週:ブラウスの裁断
- 第8週:ブラウスの縫製 仮縫い
- 第9週:ブラウスの試着点検 手縫いの基礎縫い
- 第10週:ブラウスの縫製 ダーツと縫い代の始末
- 第11週:ブラウスの縫製 見返しづくり
- 第12週:ブラウスの縫製 見返しつけ
- 第13週:ブラウスの縫製 ファスナーつけ
- 第14週:ブラウスの縫製 裾の始末、仕上げ
- 第15週:ブラウスの提出 製作に関する課題提出

使用教科書名

プリントを配布

NO. G01111531 衣生活概論

井澤 尚子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前半では、衣服の着用目的、衣服の機能、衣服の形態や表現、サイズ規格、社会との関連、色彩とファッションの関わりなどを学ぶ。後半では、衣服を構成する繊維・糸・布地について、また衣服の購入・管理・保管するプロセスにしたがって基本的知識を習得し、更なる学びや各種試験につなげる。

学習目標・到達目標

人間に最も近い環境を形成する「衣服」について、全般にわたる基本的事項を理解する。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況等):20%
筆記試験(中間試験、定期試験):80%

週 テーマ・授業目標等

1. 衣服とは何か
2. 衣服の機能
3. 日本服飾の変遷
4. 衣服と身体環境
5. 既成衣料品のサイズ表示と世界のサイズ規格
6. 色彩とファッション(1)色彩のはたらき
7. 色彩とファッション(2)デザインの表現と色彩
8. 衣服の材料(1)繊維・糸の種類・特徴
9. 衣服の材料(2)布地の種類・特徴
10. 衣服の材料(3)機能性繊維・加工
11. 衣服の管理(1)衣服の汚れと洗濯
12. 衣服の管理(2)家庭洗濯と商業洗濯
13. 衣服の管理(3)衣服の保管
14. 既成衣料品の取扱い表示
15. 現代生活における衣生活経営
16. 定期試験

使用教科書名

『消費者の視点からの 衣生活概論』菅井清美・諸岡晴美 編著、井土書院

NO. G01111731 食品学概論

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食生活の基礎となる食品は多種多様であるが、食品の基本的な性質を決定する基本的な成分は水、炭水化物、たんぱく質、脂質などに限られており、またそれらは調理・加工・保存中に変化する。一方で、食品の嗜好性に深く関わる微量成分（呈味成分、香気成分、色素など）の存在も重要である。これら食品に含まれる成分の性質とその機能（栄養性、嗜好性、生理機能）について学習する。

学習目標・到達目標

食品に含まれる成分と、それらの調理・加工・貯蔵中の変化、さらに食品成分とおいしさや機能性との関連について学習し、健康な食生活のための基本となる食品材料の特性について理解する。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 人と食べ物
2. 食品成分を理解するー有機化学の基礎ー
3. 食品の成分(水)
4. 食品の成分(炭水化物)
5. 食品の成分(脂質)
6. 食品の成分(タンパク質)
7. 食品の成分(ビタミン)
8. 食品の成分(無機質、核酸)
9. 味の成分
10. 香りの成分
11. 色の成分
12. 成分間の相互作用
13. 食品の物性とおいしさ
14. 食品成分表
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

食べ物と健康I 第2版(はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ③)喜多野寛子、近藤民恵、水野裕士 著 化学同人

NO. G01111831

フードスペシャリスト論

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食について総合的に幅広く学習し、フードスペシャリストの必要性について理解する。さらに食生活の変遷、食品の流通と消費、食に関する法律、食産業の現状や食に関する課題などについても学ぶ。

学習目標・到達目標

フードスペシャリストの役割について理解し、食物獲得の歴史、食生活の変遷、食品の製造や流通、表示制度、また現代における食に関する諸問題について学び問題意識をもつ。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. フードスペシャリストとは
2. 人類の歩みと食物
3. 食品加工・保存技術史
4. 世界の食
5. 日本の食
6. 現代日本の食生活
7. 食料の供給と食料自給率
8. 食品製造業
9. 食品流通業
10. 外食産業
11. 食品の品質規格と表示
12. JAS法と食品表示法による表示
13. 健康や栄養に関する表示制度
14. 食情報と消費者保護
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

四訂 フードスペシャリスト論(第4版) 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社

NO. G01111931

栄養学概論

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食生活が多様化するなかで、健康な生活をおくるためには正しい栄養知識に基づいた食生活が求められる。摂取した食物に含まれる成分、特に栄養素がどのような特性を持ち私たちのからだにとってどのような役割をもつかについて学ぶ。また、それらがどのように消化・吸収されて体内に入っていく、代謝されてそれぞれの機能を果たすようになるのかについて学習し、栄養と食生活について考える。

学習目標・到達目標

栄養とは何か、健康な食生活における栄養の役割の理解を目的とする。栄養学の基礎となる、栄養素のあゆみ、栄養素の種類、性質、機能、消化・吸収、代謝等について理解する。

評価方法その他

定期試験の得点(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 栄養とは
2. 栄養学のあゆみ
3. 栄養素とそのはたらき(エネルギーになる栄養素)
4. 栄養素とそのはたらき(からだをつくる栄養素)
5. 栄養素とそのはたらき(からだのはたらきを調節する栄養素(1))
6. 栄養素とそのはたらき(からだのはたらきを調節する栄養素(2))
7. からだと水
8. 食物繊維のはたらき
9. 消化と吸収(消化の流れとパターン)
10. 消化と吸収(吸収のしくみ)
11. 消化と吸収(栄養素の体内輸送)
12. 消化と吸収(消化吸収率)
13. エネルギー代謝(栄養素とエネルギー)
14. エネルギー代謝(エネルギー消費と基礎代謝)
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

基礎栄養学 第2版 (はじめて学ぶ健康・栄養系教科書シリーズ⑤) 杉山英子、小長谷紀子、里井恵子 著 化学同人

NO. G01112031

食品学

西澤 千恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちの健康は適切な食物の摂取と規則正しい食生活によって維持される。現在、食品の生産・加工などの技術革新や流通手段の発達により多種多様な食品を入手しているが、個々の食品の特性を知り、適切に組み合わせて利用することが重要である。代表的な食品の性質、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、利用などについて学ぶ。

学習目標・到達目標

食品素材の特性、成分の特徴と調理・加工・貯蔵などにおける変化、機能、その利用法について理解する。

評価方法その他

定期試験80%、平常点20%
(平常点は授業への参加状況、課題提出等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.はじめに、穀類(粉食と粒食)
- 2.穀類(米)の特徴
- 3.穀類(小麦、雑穀類)の特徴
- 4.いも類の特徴
- 5.豆類・種実類の特徴
- 6.野菜類の特徴
- 7.果実類の特徴
- 8.きのこ類、藻類の特徴
- 9.食肉類の特徴
- 10.魚介類の特徴
- 11.乳・乳製品、卵類の特徴
- 12.特別講義「私たちの生活の中での酵素について」
- 13.油脂類
- 14.甘味料、嗜好飲料の特徴
- 15.発酵食品・調味料の特徴、まとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

食べ物と健康 改訂 マスター食品学II 小関正道 編著 建帛社

NO. G01112131

調理学

西澤 千恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理とは食材を衛生的、栄養的に安心で、なおかつ嗜好的に優れた食べ物として供するまでの一連の過程である。その過程で起こる諸現象について、食品材料の種類と調理特性、食品成分と調理変化、食味・食感への影響について調理操作や調理器具との関連から科学的な法則性について学習する。また、人間と食べ物、環境との関係を理解し、調理の技術やおいしさの向上、豊かな食生活の実践に繋がる理論を系統的に学習する。

学習目標・到達目標

調理とは何かを学び、食品材料の種類と調理特性、調理過程での食品成分の変化、調理操作の特徴、嗜好性への影響などについて科学的、系統的に理解する。食べ物と人間や社会、環境との関連を理解し、豊かな食生活に繋げる能力を身につける。

評価方法その他

定期試験70%、平常点30%
(平常点は授業への参加状況、発表等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 調理の目的、おいしさの科学(その1)
2. おいしさの科学(その2)
3. 調理操作と調理器具(1)非加熱調理操作
4. 調理操作と調理器具(2)加熱調理操作その1
5. 調理操作と調理器具(3)加熱調理操作その2
6. 植物性食品の調理性(1)穀類(米)
7. 植物性食品の調理性(2)穀類(小麦、その他)
8. 植物性食品の調理性(3)いも類、豆類
9. 植物性食品の調理性(4)野菜類、果実類
10. 動物性食品の調理性(1)肉類
11. 動物性食品の調理性(2)魚介類
12. 動物性食品の調理性(3)卵類、乳類
13. 抽出食品素材、調味料と調理(でんぷん、油脂類、砂糖など)
14. 食事設計－献立と供食－
15. 食事設計－献立と供食－、まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

「第三版 調理学－生活の基盤を考える」 南道子 冊木淳子 編著 学文社
2,700円

NO. G01112231 栄養学

竹中 真紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが健康に生活していくためには適正な栄養の食生活、適度な運動、休養の3要素の関わりが重要である。実際の食生活において、何を、どれだけ、どのように食べればよいのかについてライフステージと栄養も含めて学習する。さらに、生活習慣病、食物アレルギー、ダイエット志向など食生活に関わる様々な問題について考えていく。

学習目標・到達目標

私たちが健康に生活していくために、各栄養素をどれだけ、どのように摂取したらよいのかをライフステージ別の特徴も含めて理解し、実際の食生活に活用できるようになることを目標とする。

評価方法その他

定期試験（100%）

週 テーマ・授業目標等

1. 健康と栄養
2. からだの仕組み
3. 食事と栄養(1) 糖質、脂質
4. 食事と栄養(2) たんぱく質、ビタミン
5. 食事と栄養(3) 無機質、水分
6. 食事と健康(1) 栄養状態の判定
7. 食事と健康(2) 日本人の食事摂取基準
8. わが国の食生活の変化と健康状況
9. 健康増進のための指針
10. 健康とダイエット
11. ライフステージと栄養(1) 胎児期および妊娠・授乳期、成長期
12. ライフステージと栄養(2) 成人期、高齢期
13. 生活習慣病と栄養
14. 免疫と栄養
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

三訂 栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社

NO. G01112431 調理学実習

三宅 紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本料理・西洋料理・中国料理の調理実習を通じて基礎的な調理技術を得習し、調理過程を系統的に把握する。合わせて、食材の性質、食品の衛生的な取り扱い方、栄養効率の向上や嗜好性の優れた調理法、食卓の演出、食事作法など調理に関する基礎的な総合能力を養う。

学習目標・到達目標

健康な食生活のために必要な基礎的な調理技術を得習し、調理過程における食品成分の変化、調理操作の意義を科学的に理解する。食材の性質を最大限活かした調理法、食品の衛生的な取り扱い方などを学習する。さらに私たちの食生活を豊かにする食卓の演出、食事作法など食文化を含めた調理に関する総合能力を身につける。

評価方法その他

平常点35%、実習ノート・課題提出15%、実習テスト10%、定期試験40%（平常点は授業への参加状況・実習への取り組み等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション、切り方、計量について
- 2.日本料理の基礎 炊飯の基本、煮干しだしのとり方、青菜の茹で方、あえ物のポイント
- 3.日本料理の基礎 塩味ご飯、混合だし汁のとり方、肉の調理、野菜の脱水
- 4.日本料理の基礎 しょうゆ味ご飯、吸い物、卵の調理(1)、乾物の調理
- 5.西洋料理の基礎 ビラフ、野菜の吸水、ゼラチンの調理(1)
- 6.西洋料理の基礎 ひき肉の調理、野菜の加熱調理、デンプンの調理性
- 7.中国料理の基礎 炒め物、あえ物、寒天の調理
- 8.中国料理の基礎 小麦粉の調理(グルテン)、野菜の調理、スープ
- 9.中国料理の基礎 もち米の調理、卵の調理(2)、小麦粉の調理(膨化)
- 10.日本料理の基礎 魚の扱い、具たくさんの汁物、希釈卵の蒸し物
- 11.行事食 クリスマス料理
- 12.行事食 正月料理
- 13.西洋料理の基礎 イースト発酵、スープ、ゼラチンの調理(2)
- 14.行事食 ひなまつりの献立(すし飯、潮汁)
- 15.まとめ、実習テスト
- 16.定期試験

使用教科書名

特に指定しない。プリント配布

NO. G01112331 食生活論

伊藤 有紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年、食品の安全性、インスタント食品の登場、外食産業の発達、食生活と健康、食料自給率など食にかかわる問題はテレビ・新聞・雑誌などで頻繁にとりあげられ、関心がもたれている。現代における食生活は第2次世界大戦後に欧米諸国の食生活をモデルとしたが、伝統的な和食文化はユネスコの無形文化遺産に登録され世界的に注目されている。和食による安全で健康的な食生活をするために、本講義は原始古代からの歴史的展開をふまえ、近現代における食生活の諸問題を中心に展開する。

学習目標・到達目標

1. 現代の食生活における問題を認識し、豊かな食生活を送るために必要な基本知識を得習する。
2. 日本の食文化の変遷や食環境の変遷、日本型食生活の特徴を理解する。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況)20%、レポートなどの提出物30%、試験50%

週 テーマ・授業目標等

- 1.食生活の概念
- 2.社会の変化と食生活
- 3.食生活に関わる諸問題1(食行動)
- 4.食生活に関わる諸問題2(食の安全、安心)
- 5.日本の食文化とその変遷1(日本の食文化の位置づけ)
- 6.日本の食文化とその変遷2(行事・儀礼食)
- 7.日本の食文化とその変遷3(日常食の変遷)
- 8.食環境と食生活1(食生活の変化)
- 9.食環境と食生活2(食品産業の発展)
- 10.ライフスタイルと食生活
- 11.日本型食生活の特徴1(一汁三菜の食事)
- 12.日本型食生活の特徴2(食習慣と健康)
- 13.食生活の未来1(食品の知識と調理技術)
- 14.食生活の未来2(ライフステージと食生活)
- 15.まとめ
- 16.筆記試験

使用教科書名

岡崎光子編(2009),「食生活論」,光生館

NO. G01112531 健康・食発達心理学

青木 洋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前半は発達心理学の基本的な知識を学びます。後半は、乳幼児期の心身の発達や対人関係の特徴、栄養面や食事介助の悩みなど発達心理学と実際の子どもの食事を関連づけて取り上げます。

学習目標・到達目標

発達心理学の基本的な知識を身に付ける。
健康や食発達に関する視野を広げる。
健康な食生活を送るために、講義で学んだ知識を活用する。

評価方法その他

平常点10%、定期試験90%。（平常点は授業への出席、定期試験は筆記テスト）

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション:授業の進め方・授業で扱うテーマの説明
2. 乳児期の発達心理学
3. 幼児期の発達心理学
4. 児童期の発達心理学
5. 青年期の発達心理学
6. 成人期・老年期の発達心理学
7. 文化と学習
8. 乳幼児期における食と心の関わり
9. 乳幼児期における食事の意義
10. 授乳期の食べる機能・栄養と食支援
11. 離乳期の食べる機能・栄養と食支援1:栄養指導・離乳の進め方・食べる機能の発達・食器具など
12. 離乳期の食べる機能・栄養と食支援2:離乳期の食事・献立・ベビーフード・口腔の成長など
13. 幼児期の食べる機能・栄養と食支援
14. 特別な支援が必要な子どもへの食支援
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

心・栄養・食べ方を育む乳幼児の食行動と食支援(2008)
巻野佑郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの1つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティーを理解して、総合的にフードサービスを考える。

学習目標・到達目標

国内外の食糧事情を含め中食・外食の動向とサービスの実態を理解する。食のトレンド、商品の付加価値、ホスピタリティーについて理解し、推薦する店舗や同業種の比較に関するプレゼンテーションや新商品の提案ができる。

評価方法その他

平常点(50%)、プレゼンテーション(50%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加、レポートの提出等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. フードサービスビジネスの概念
3. サービスとホスピタリティー
4. 食生活の領域と現状: 内食・中食・外食
5. データから読むフードサービスビジネス①海外の食糧事情
6. データから読むフードサービスビジネス②国内の食糧事情
7. 商品・メニューのマーケティング
8. 中食・外食産業最前線
9. 食の最新トレンド情報・ヒット分析
10. 市場調査法
11. 情報収集法
12. プレゼンテーション①店舗紹介
13. プレゼンテーション②新商品企画
14. プレゼンテーション③企業比較紹介
15. まとめ

使用教科書名

プリント配布

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、食品等が消費されるまでの流れを分断して考えるのではなく、それぞれのつながりを理解することを目的としています。
その結果、フードシステムの各段階の機能と課題を把握することができ、将来、食産業で活躍する学生が、時代とともにどのような「フードシステム」が望ましいかを考え、実践できるスキルを身に付けることができるよう、カリキュラムを組んでいます。受講生は「フードシステム」等への理解を習得したい初心者を対象とし、それらがより理解を深められるよう、身近なテーマを題材にしなが、講義を進めていきます。

学習目標・到達目標

「フードシステム」とは、食に関する生産から消費までの一連の流れのことを指しており、その流れを体系的なものとして捉える考え方です。
本講義では、前半に「フードシステム」の概念を理論と身近な食品を例に考え、理解し、後半は「フードシステム」が時代とともにどのように変遷してきたかを考え、今後の「フードシステム」の望ましいあり方について、自分自身の考えを述べるようになることを目的とします。

評価方法その他

毎回、講義終了時に提出していただくアクションペーパー内容(出席点含む)と期末試験によって評価します。

週 テーマ・授業目標等

- (1) ガイダンス
 - (2) 食市場の変化①
 - (3) 食市場の変化②
 - (4) 食品の流通①
 - (5) 食品の流通②
 - (6) 外食・中食産業のマーチャンダイジング①
 - (7) 外食・中食産業のマーチャンダイジング②
 - (8) 主要食品の流通①
 - (9) 主要食品の流通②
 - (10) 主要食品の流通③
 - (11) フードマーケティング①
 - (12) フードマーケティング②
 - (13) 新しい食品消費の課題①
 - (14) 新しい食品消費の課題②
 - (15) 期末試験試験
- ※開講日及び講義内容は、初回のガイダンスの際にアナウンスします

使用教科書名

日本フードスペシャリスト協会 編(2016)『新版 食品の消費と流通』建帛社。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食事に用いられる生活用具について、その材料、作り方、デザインの方法、そして使い方について解説する。食事で日常的にさまざまな工芸品・工業製品が使われているが、陶磁器と漆器を中心にとりあげ、食生活と食器、そしてものづくりの技術やデザインとの関係を考えるきっかけとしたい。またそういった考察を通して、日常生活のなかで使われるありふれた道具に対する関心を深め、暮らしを楽しむ道具の使い方についても考える。

学習目標・到達目標

日本の陶磁器と漆器の原材料と制作方法について理解し、器の性質に応じた使い分けができるようになることを目標とする。

評価方法その他

試験80%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 食生活と工芸のかかわり
2. 材料の性能について
3. 食器の材料①陶磁器とガラス
4. 食器の材料②金属
5. 食器の材料③木とプラスチック
6. 陶磁器の作り方①粘土の調整と土練り
7. 陶磁器の作り方②成形
8. 陶磁器の作り方③成形の仕上げと施釉
9. 陶磁器の作り方④本焼きと窯
10. 陶磁器の作り方⑤絵付け
11. 陶磁器の選び方と使い方
12. 漆器について①漆の性質
13. 漆器について②漆器の素地材料
14. 漆器について③漆の碗の作り方(下地と塗り)
15. 漆器について④選び方と使い方
16. 試験またはまとめ

使用教科書名

特に指定しない。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品の品質には、安全性、栄養性、生理機能性、嗜好性、経済性などさまざまな要素が関わる。豊かな食生活を営むためには、食品の特性を理解し、品質を見分ける能力を身につけることは重要である。個々の食品の鑑別方法について、演習をとりいれながら学ぶ。また、特に嗜好性は人間の五感によって評価されるが、この人の感覚による食品の評価について個人差を十分に考慮したうえで科学的に行う方法について演習を通して学習する。

学習目標・到達目標

食品の品質を評価する方法として、官能評価法、化学的評価法、物理的評価法について学習し、特に、味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚という人間の五感を活用して判断する官能評価法を中心に演習し、食品鑑別の基礎を理解する。

評価方法その他

平常点30%、課題提出40%、定期試験30%、
(平常点は演習への取り組みおよび発表等の評価を含む)

週 テーマ・授業目標等

1. はじめに 食品の品質とは
2. 官能評価の概要、味覚と閾値
3. 官能評価の手法(比較法1)
4. 官能評価の手法(比較法2)
5. 官能評価演習および発表(第1回)
6. 官能評価の手法(順位法)
7. 官能評価の手法(評点法その1)
8. 官能評価の手法(評点法その2)
9. 官能評価演習および発表(第2回)
10. 官能評価の手法(記述法)
11. 食品の化学的評価法・物理的評価法
12. 食品の鑑別評価(植物性食品1)
13. 食品の鑑別評価(動物性食品1)
14. 食品の鑑別評価(動物性食品2)
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

三訂 食品の官能評価・鑑別演習/日本フードスペシャリスト協会 編/建帛社

NO. G01113031

住居学概論

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。

評価方法その他

小課題20%、レポート40%、テスト40%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・住居の機能
- 2) 寸法と空間
- 3) 日本の住まいの変遷(1)
- 4) 日本の住まいの変遷(2)・生活様式と住居
- 5) 現代の家族と住まい
- 6) 日本の住宅政策
- 7) 住居の選択と管理
- 8) 住まいと環境
- 9) 安心・安全な住まい
- 10) 高齢者・障害者の住まい
- 11) 集まって住む
- 12) 子どもと住まい
- 13) 福祉と住まい
- 14) 居住地の管理
- 15) 空き家問題
- 16) 定期試験

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G01113131

建築史A

大橋 竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、タイプごとに分け、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げ、それぞれの建築の特徴を解説していく。用いる資料は、写真ばかりでなく、しばしば建築図面を用い、建築のもつ機能性や、設計者の意図を探る。また、構造上の特質や、建築形態のもつ意味等を、作り手・使い手の立場や、そのバックグラウンドとなる社会背景等を鑑みながら検討し、建築や生活空間に対する理解を深めていく。

学習目標・到達目標

日本建築史の通史を学ぶ。邸宅住居や高床住居などの原始的な建築から最新の現代建築に至るまで、また、住宅、社寺、公共建築など、さまざまなタイプの伝統的な日本建築に関して、実例を詳細に検討しながら、その建築的・社会的意義に関して概観する。それにより、木構造など日本建築に特有な技術的な発展過程を学ぶと同時に、わが国の建築文化・生活様式の変化を学び、建築を通して伝統文化に対する理解を深めることを目指す。

評価方法その他

学期末試験(50%)および平常点(提出物等:50%)による

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 先史時代の建築
3. 神社建築の成立
4. 仏教建築の伝来
5. 古代の都市計画と寝殿造り
6. 中世の仏教建築
7. 中世の神社建築
8. 書院造り
9. 城郭建築
10. 茶室と数寄屋
11. 近世社寺建築
12. 民家建築
13. 西洋建築の移入
14. 近代住宅建築
15. 現代建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G01113231

建築史B

大橋 竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、代表的な実例をとりあげながら、建築的特徴を解説していく。その際、写真資料、図面、模型等を用い、空間の理解を中心に、作り手・使い手の考え方、また、その空間が必要とされた社会背景等に関して、考察を加えていく。

学習目標・到達目標

西洋建築史の通史を学ぶ。ヨーロッパ大陸を中心に展開してきた西洋建築は、現代建築の根幹をなしており、その歴史の習得は、現代建築までつながる世界の建築文化の理解につながる。そこで、各国を代表する著名な西洋建築をひとつずつ詳細に検討することによって、世界の建築文化の系譜を学ぶと同時に、個々の建築とその建設の背景を探り、建築文化の理解をはかる。これらを通して、国際的文化人としての素養を身につけることを目指す。

評価方法その他

学期末試験(50%)および平常点(提出物等:50%)による

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 古代オリエント・エジプト建築
3. ギリシア建築
4. ローマ建築
5. 初期キリスト教建築・ビザンティン建築・イスラム建築
6. ロマネスク建築
7. ゴシック建築
8. 中世の世俗建築
9. ルネサンス建築
10. バロック建築
11. リヴァイヴァル建築
12. 新材料を用いた建築
13. 都市・住宅問題と建築
14. 近代建築運動
15. モダニズム建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G01113331

住生活論

大橋 竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住生活の歴史をふまえ、家族と住まいのかかわりや住生活を取りまく諸問題について検討する。また、良好な住空間を計画するために、理想とされる住空間の構成のタイプ、設備、関連法規など、建築計画の基本的な事項を一通り概観するとともに、設計・製図の基本を学ぶ。そのため、実際に住空間の設計を試み、快適で安全な住生活のあり方を実践的に考察する。これらの学習を通し、教職課程に必要な住生活分野の知識と技術の習得を目的とする

学習目標・到達目標

住まいの伝統ならびに現代の問題点を把握し、よりよい住空間とは何かを考察する。同時に、空間の表現方法(製図)の基礎を習得する。

評価方法その他

課題(50%)、学期末試験(50%)により、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 01.イントロダクション
- 02.さまざまな住まい
- 03.住まいの発展
- 04.住まいの歴史
- 05.住まいの近代化とnLDK住宅
- 06.住宅地と集合住宅
- 07.住まいの管理
- 08.住まいの建築計画
- 09.中間試験
- 10.図面の表現方法
- 11.自分の部屋を図面で表現する
- 12.住空間の計画－平面図を描く①
- 13.住空間の計画－平面図を描く②
- 14.住空間の計画－展開図を描く①
- 15.住空間の計画－展開図を描く②
- 16.課題の提出

使用教科書名

特に定めない

NO. G01113431 住居設備

梶田 考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが生活する住まいは様々な設備システムを維持管理することによって成り立っている。その設備システムには、快適性、利便性、機能性、安全性、信頼性、経済性、省エネ・省資源、環境保全性、保守管理性が求められており、住居を供給する立場から、生活者としても、それらを適切に評価できる能力を身につける必要がある。受講者が住居において使用する、給排水衛生設備、暖冷房設備、換気設備、電気・情報設備、防災設備について講義を行う。

学習目標・到達目標

【建築士指定科目】住まいの設備システムについて、その名称、働きを説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 設備システムから見た戸建住宅と集合住宅の違い
3. (1) 建築と水環境
4. (2) 水に関する基礎知識
5. (3) 給水設備
6. (4) 給湯設備
7. (5) 排水通気設備
8. (6) 衛生器具
9. (7) 浄化槽
10. (8) ガス設備
11. 4. 住宅の照明設備
12. 5. 住宅の電気設備
13. 6. 住宅の暖冷房設備
14. 7. 住宅の換気設備
15. 8. 住居内の設備と事故
16. 試験

使用教科書名

「建築の設備」入門 新訂第二版／同編集委員会編／彰国社／2017年

NO. G01113631 構造計画A

永井 佑季

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、建築における構造デザインについて学ぶ内容とします。構造に関する歴史の変遷を通して構造デザインの基礎知識を学び、現代建築における構造デザインの実例を通して、鉄骨構造、木質構造、鉄筋コンクリート構造等の概略の知識を習得します。その他、スタジオのような大空間やシェル構造等の空間構造、さらに、ガラスやアルミ等の建築に使われる材料にも着目して、幅広く構造について学んでいきます。

学習目標・到達目標

建築における、意匠設計と構造設計の関係性について理解を深めながら、各種構造に関する基礎知識を習得することを、目標とします。将来、建築のデザイン関係の仕事(設計やインテリアデザイン等)をする際に有用となる基礎的な構造の知識を身につけることを目指します。

評価方法その他

平常点(授業中のレポート課題含む)(70%)
学期末の課題レポート(30%)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 意匠設計と構造設計 / 構造デザインとは－1
3. 意匠設計と構造設計 / 構造デザインとは－2
4. 鉄の構造-1
5. 鉄の構造-2
6. 木の構造-1
7. 木の構造-2
8. 鉄筋コンクリートの構造-1
9. 鉄筋コンクリートの構造-2
10. 大きな空間の構造
11. まとめ-1
12. 模型実験で力の流れを理解する-1
13. 模型実験で力の流れを理解する-2
14. 模型実験で力の流れを理解する-3
15. まとめ-2

使用教科書名

特に指定しない

NO. G01113531 構造力学A

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

構造力学の入門編として、建築（住居）における力学への興味を喚起し、新しい空間構成を想像する能力の育成を目的としている。そのために、各種建築物のかたちと強さの関係について、平易に解説すると共に、実際にそれら建築物の構造模型を制作し、簡単な実験（一点で支える力の実験、両端で支える力の実験、梁の変形など）と計算を行うことによって、力学を含む数学的な知識の向上を図る。また、構造形式の異なる建築物（ラーメン構造、トラス構造、アーチ構造、膜構造、折板構造など）についても紹介する。

学習目標・到達目標

構造物に作用する荷重とそれによって生ずる支持反力及び部材応力を理解し、説明できる。また、これらの力の釣り合い条件をもとに、柱、梁、トラスに生ずる応力を計算できる。

評価方法その他

平常点(60%)、宿題(20%)、定期試験の得点(20%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.力とかたち① 一点で支える力の実験と計算
- 3.力とかたち② 実験結果の解説
- 4.力とかたち③ 図心の求め方(制作)
- 5.力とかたち④ 図心の求め方(計算)
- 6.かたちと変形 片持ち梁
- 7.力の合成と分解①(図式解法)
- 8.力の合成と分解②(図式解法－計算)
- 9.力の合成と分解③(支持反力の算出)
- 10.力の合成と分解④(支持反力の算出) 宿題①
- 11.力の合成と分解⑤(支持反力の算出) 宿題②
- 12.トラス①(部材応力の算出－節点法) 宿題③
- 13.トラス②(部材応力の算出－節点法) 宿題④
- 14.トラス③(部材応力の算出－切断法) 宿題⑤
- 15.トラス④(部材応力の算出－切断法)
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない

NO. G01113731 インテリア材料

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できること。

評価方法その他

平常点(50%)と定期試験の得点(50%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.屋根材料(1)－粘土瓦
- 3.屋根材料(2)－スレート
- 4.屋根材料(3)－金属板
- 5.内外装仕上げ材料(1)－木質系材料
- 6.内外装仕上げ材料(2)－せっこうボード
- 7.内外装仕上げ材料(3)－繊維補強系ボード
- 8.内外装仕上げ材料(4)－ALC
- 9.内外装仕上げ材料(5)－タイル
- 10.内外装仕上げ材料(6)－れんが
- 11.内外装仕上げ材料(7)－石材
- 12.内外装仕上げ材料(8)－左官材料
- 13.内外装仕上げ材料(9)－ガラス
- 14.その他の材料(1)－塗装材料、接着剤
- 15.その他の材料(2)－断熱材料
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G01113831

住宅施工

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主体工事、内外装仕上り工事（タイル工事、左官工事、塗装・吹付け工事など）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 施工・管理計画①－工事契約、工程表
3. 施工・管理計画②－材料管理、各種届出
4. 仮設・地業工事①－地盤調査
5. 仮設・地業工事②－基礎の種類
6. 主体工事①
7. 主体工事②
8. 内外装仕上り工事①(タイル工事)
9. 内外装仕上り工事②(タイル工事)
10. 内外装仕上り工事③(左官工事)
11. 内外装仕上り工事④(ガラス・建具工事)
12. 床工事①(合成樹脂系)
13. 床工事②(カーペット敷き、畳敷き)
14. 屋根工事(天井工事を含む)
15. その他の工事(断熱工事・設備工事)
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G01113931

建築法規

塚田 豊

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築基準法を中心に関係法令との関連を平易に解説する事で、社会活動上求められる建築関係法令の全体像を理解し、またインテリア・住宅・建築関連の実務及び資格取得の重要な項目である建築関係法令を読んで理解出来るようにする。

学習目標・到達目標

建築に関する法令への理解を深め、社会活動をおこなう上で必要な基礎的知識及びインテリア・住宅・建築に係わる企画、設計、施工、維持管理等の実務に役立つ建築関係法令の基礎的知識を学び、法令集の有効活用を修得する。

評価方法その他

平常点(30%)、問題演習2回(計20%)、定期試験(50%)によって総合的に評価する。(平常点は授業への参加状況、討論への参加等で総合判断)

週 テーマ・授業目標等

1. 建築基準法の意義、及び概要と歴史
2. 建築基準法及び関係法令の法体系と構成、建築基準法の用語の解説
3. 建築基準法の用語の定義
4. 集団規定Ⅰ 敷地と道路、地域による建物の用途制限
5. 集団規定Ⅱ 地域による面積制限(容積率、建ぺい率)
6. 集団規定Ⅲ 地域による各種高さ制限、日影規制の概略
7. 集団規定Ⅳ 防火、準防火地域内の建物規制、その他の地域地区の概略
8. 第1回問題演習(集団規定に関する総合問題)
9. 単体規定Ⅰ 一般構造(居室、内装、等の規定)
10. 単体規定Ⅱ 一般構造(階段、廊下、等の規定)
11. 単体規定Ⅲ 構造強度
12. 単体規定Ⅳ 建築設備、防災関連規定、関連法としての消防法
13. 第2回問題演習(単体規定に関する総合問題)
14. 建築士法、建築に関わる各種申請、関係法としての都市計画法の概略
15. 関連法としてのバリアフリー新法、住宅性能評価と品質確保、住宅瑕疵担保責任の履行法、景観法等の概略
16. 定期試験

使用教科書名

建築関係法令集(株式会社総合資格発行)

NO. G01114031

建築環境学A

梶田 考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

【建築士指定科目】建築環境を構成する、熱・空気の基本的性質を説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 0. 建築環境学及び建築設備の位置付け
2. 安全・衛生と快適
3. 気候風土に適した建築的工夫と建築の熱環境設計
4. 1. 建築環境学の概要
5. 4. 熱環境 (1) 温熱感
6. (2) 外界条件
7. (3) 日照環境
8. (3) 日照環境
9. (4) 建物の熱性能
10. (4) 建物の熱性能
11. (4) 建物の熱性能
12. (5) 湿気環境
13. (5) 湿気環境
14. 3. 空気環境(1) 空気と人の健康
15. (2) 室内の空気汚染対策
16. 試験

使用教科書名

生活環境学[改訂版]／岩田利枝 他／井上書院／2015

NO. G01114131

住居計画

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

学習目標・到達目標

住居はそこに住む家族のためのものであると同時にまちの財産でもある。住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する。

評価方法その他

小課題20%、レポート2題80%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・現代の家族と住まい
- 2) 家族のかたちと住まいのかたち
- 3) 家族の変化と新しい住まいのかたち
- 4) 居住歴と原風景
- 5) 住居の設計プロセス
- 6) 独立住宅の計画手法
- 7) 生活行為と生活時間
- 8) 生活行為と住空間
- 9) 独立住宅の構造・構法
- 10) 生活の外部化と地域施設
- 11) 住宅でまちをつくる
- 12) 集合住宅の平面構成
- 13) 集合住宅地の計画1
- 14) 集合住宅地の計画2
- 15) 集合住宅団地の再生

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G01114231

福祉住環境

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近い将来の超高齢者社会に備え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。

学習目標・到達目標

高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。

評価方法その他

小課題20％、レポート40％、テスト40％により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 福祉・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方
3. 福祉住環境の意義と役割
4. 福祉住環境整備と介護保険制度
5. 福祉住環境整備の意義
6. 高齢者・障害者の住環境整備－1
7. 高齢者・障害者の住環境整備－2
8. 高齢者・障害者の住環境整備－3
9. 日本の住宅と住生活上の課題
10. 福祉住環境整備の技術－1
11. 福祉住環境整備の技術－2
12. 福祉住環境整備の技術－3
13. 福祉用具の活用
14. 関連法規
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G01114331

社会福祉概論

西口 守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子ども・障害・高齢分野の福祉を中心に、あなたの身近な地域との関係で援助のあり方について考えていきます。

学習目標・到達目標

「福祉」を自分の言葉で説明できるようになることを学習目標にします。

評価方法その他

- 学期末テスト(社会福祉援助のあり方を事例をとおして説明する。事例に関する主題の記述・援助を必要としている状態の記述・解決のための活動に関する記述の明確さが基準になります。)
- リアクションペーパー

週 テーマ・授業目標等

1. キーワードで考える社会福祉
2. 社会福祉とは:リアクションペーパーに基づく解説
3. 地域から福祉を考える(「私の地域の宝物」)
4. 地域援助活動①:犯罪のないまちづくり
5. 地域援助活動②:孤独死
6. 地域援助活動③:高齢者福祉施設への参加
7. 地域援助活動④:福祉施設づくり
8. 福祉援助を考える①:障害児の子育て支援
9. 福祉援助を考える②:発達障害
10. 福祉援助を考える③:学齢期
11. 福祉援助を考える④:成人期
12. 家族と離れて生活する子どもたち
13. ハンセン病資料館の見学
14. 体験学習:ブラインドウォーク
15. まとめ:福祉援助のあり方を事例で示す
16. 定期試験

使用教科書名

『地域づくりの福祉援助』(ミネルヴァ書房)

NO. G01114431

スポーツツーリズム

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1. グランド・ツアーとは何かを明らかにすること
2. スポーツツーリズムとは何かを明らかにすること
3. 日本の遊行について知ること
4. グランド・ツアーとスポーツツーリズムの関わりを明らかにすること

学習目標・到達目標

18世紀イギリスで行われていたグランド・ツアーをてがかりにして現代のスポーツツーリズム、すなわちレジャー活動やスポーツ観光の特徴を明らかにする。なぜわれわれは旅行するのか、その目的はさまざまである。安息を求めて、救済、気晴らし、逃避、教育(自己開発)、休息、冒険、人とのつながりを求めて、レクリエーション、健康、自己確認、社会的地位の確認、鮮烈な新しさ、回復、祈願、支那など数多くいとまがない。総じて、そもそもスポーツツーリズムとは何かを探索していく。

評価方法その他

授業プログラム達成度、質疑応答、グループディスカッション等の積極性で50%、テスト50%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. グランド・ツアーのはじまり
2. グランドツアーの全盛期
3. ゲーテのイタリア紀行
4. グランドツアーから目的志向の旅へ
5. スポーツツーリズムのはじまり健康回復の旅、すなわち巡礼へ
6. 巡礼から教育志向の旅へ
7. 日本の遊行1
8. 日本の遊行2
9. 日本のスポーツツーリズム
10. グランドツアーと日本の遊行と世界志向のスポーツツーリズム1
11. グランドツアーと日本の遊行と世界志向のスポーツツーリズム2
12. モータースポーツツーリズム
13. リゾート型スポーツツーリズム
14. 世界志向のスポーツツーリズムと地域型スポーツツーリズム
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

毎回プリントを配布する。

NO. G01114531

ライフステージとレクリエーション

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1. ライフステージとは何か、ひとの発達段階をライフステージとして捉え、各ステージにおけるレクリエーションの意義を典型的に明らかにすること。
2. 現在の自分のレクリエーションの意味を明らかにすること。

学習目標・到達目標

レクリエーション活動には身体的・知的・社会的・情動的な側面がある。また乳幼児期・少年(学童)期・青年期・成人期・高齢期といったライフステージごとに、レクリエーションの意義も異なっていると考えられる。それぞれのライフステージにおけるレクリエーションの意義を捉え現在の自分のレクリエーションの意味を明らかにしよう。

評価方法その他

授業プログラム達成度、質疑応答、グループディスカッション等の積極性で50%、テスト50%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 遊びとライフステージ論
2. 乳幼児期の特徴とレクリエーション
3. 少年(学童)期の特徴とレクリエーション
4. 青年期1の特徴とレクリエーション
5. 青年期2の特徴とレクリエーション
6. 成人期1の特徴とレクリエーション
7. 成人期2の特徴とレクリエーション
8. 前期高齢期の特徴とレクリエーション
9. 後期高齢期の特徴とレクリエーション
10. 個人差の問題
11. 世代間格差の問題
12. レクリエーショングループの概念化(設立・発展・衰退)
13. 仮説と事実
14. 現在の自分のレクリエーションの意味
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

適宜

NO. G01114631

食文化演習

伊藤 有紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

江戸時代に編纂された代表的な料理書の中のいくつかの料理を再現することを軸とし、食文化の変遷とその延長上に現代の食卓があることを理解する。主に江戸時代の生活と食事などの時代背景を踏まえ、豆腐料理や調味料、菓子などを実際に調理したり試食したりしながら理解を深める。また、日本各地の郷土料理にも目を向け、地域の食文化についても学び、身近な生活文化の特長を知る。「調理実習」を履修していることを履修条件とする。実習費用がかかるため徴収する。

学習目標・到達目標

1. 講義による食生活の学習、文献の読み取りから試食、調理などを行い、多面的に日本の伝統食や郷土食について理解する。
2. 1を通して、調理技術やプレゼンテーション力を向上させる。

評価方法その他

平常点30％、レポートなどの提出物と発表70％

週 テーマ・授業目標等

1. 食文化年表作り
2. 江戸時代の食生活
3. 菓子の変遷と喫茶文化
4. 江戸時代の料理の再現1（調理実習・菓子）
5. 江戸時代の調味料（味噌と醤油）
6. 米食の文化
7. 盛り付け、食器の文化
8. 江戸時代の料理書の講読とレシピの確認
9. 江戸時代の料理の再現2（調理実習・豆腐料理）
10. 現代版アレンジレシピの考案と発表
11. 出汁の文化 試食（出汁数種類と雑煮）
12. 日本各地の郷土料理を学ぶ1（料理の決定）
13. 日本各地の郷土料理を学ぶ2（レシピの決定）
14. 日本各地の郷土料理を学ぶ3（調理実習と試食）
15. 郷土料理に関する発表

使用教科書名

毎回資料を配布する。

NO. G01114731

現代家政とKVA

上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代家政学科の最終学年を迎える直前の時点で、現代家政学科での学びの振り返りを行い、さらに今後の学び、卒業後のあり方を考え、展開していくための基盤を築くことを目的とする。また、4年次で「卒業研究A」「卒業研究B」を履修するための基本的習得事項（情報収集、課題の把握、調査・実験方法など）を定着させる。現代家政学科において生活に関わる分野を横断的に学んだことを生かして、本学の建学の精神である「KVA」の視点から、現代社会のニーズや生活課題に対して取り組んでいく姿勢を育成したい。

学習目標・到達目標

現代家政学科の最終学年を迎える直前の時点で、「卒業研究」に向けて、現代家政学科での教育内容を振り返り、自身の将来展望や、大学の学びと社会の課題との関わりについて、建学の精神である「KVA」に立ち戻って考えることを目標とする。

評価方法その他

平常点50％、レポート等の課題50％の総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、卒研ゼミ紹介(1)
2. 卒研ゼミ紹介(2)
3. 卒研ゼミ紹介(3)
4. 卒研ゼミ紹介(4)
5. 就職内定報告会
6. 卒業後のキャリアプラン（外部講師による講演）
7. 働くこととKVA 精神の関わり（外部講師による講演）
8. 学長による特別講義「大学と社会をつなぐ」
9. 社会の課題と大学の学び（外部講師による講演）
10. 卒研発表会出席(2月)
11. 卒研発表会出席(2月)
12. 卒研のための情報の収集方法（文献検索等）
13. 各配属ゼミでのプレゼミ(1)
14. 各配属ゼミでのプレゼミ(2)
15. 各配属ゼミでのプレゼミ(3)

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01114931

江戸東京文化研究

内田 宗一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

東京の面白いところは、日本文化の伝統の上に築かれた江戸の文化と、近代化と共に西欧からもたらされた文化とが共存し、コーディネートされて、世界標準の近代文化に包含されながら生き残っていることである。本演習では、文化的資料を読み、実際に街に出かけて、江戸の文化や近代東京の文化に触れられるスポットを見学し、理解した上で、それらを現在の私たちのくらしにどのように生かしていけるのかについて考えていく。前半は近世の江戸文化に関わる事象を、後半は近代以降の東京の文化に関わる事象をそれぞれ対象とし、主に言語文化の観点から考察を行う。

学習目標・到達目標

江戸文化と近代文化とが共存するという都市東京の文化的特色を踏まえた上で、新旧それぞれの文化のあり方について具体的事例に即して学び、理解を深める。あわせて、それらの文化が現代の私たちの生活にどのようにつながっているのかを理解するとともに、そこから何を学び取ってこれからの我々のくらしに生かしていくべきかを考えようとする姿勢を身につける。

評価方法その他

評価方法 平常点20％、授業内課題（制作物、レスポンスシート等）40％、見学レポート20％、期末レポート20％。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。出欠は毎回確認する。

週 テーマ・授業目標等

1. 出版文化の歴史
2. 江戸の出版文化
3. 和本に触れる
4. 和本を作る(1)下綴じ
5. 和本を作る(2)表紙付け
6. 和本を読む
7. 江戸文学から読み解く江戸の文化(1)本屋
8. 江戸文学から読み解く江戸の文化(2)食
9. 江戸文学から読み解く江戸の文化(3)蕎麦・うどん
10. 江戸文学から読み解く江戸の文化(4)水
11. 江戸文学から読み解く江戸の文化(5)水道
12. 明治・大正文学から読み解く東京の文化(1)学校
13. 明治・大正文学から読み解く東京の文化(2)書生
14. 明治・大正文学から読み解く東京の文化(3)女学生
15. 校外授業 東京都水道歴史館

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じてプリント資料を配付する。

NO. G01115031

生活福祉論

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが主体的に生活を営むためには個人、家庭、地域、社会の単位で生活を総合的に理解する必要がある。授業では、自助、互助、共助、公助について理解し、各段階に応じた支援について検討する。主な題材として子どもの貧困や障害のある消費者への社会的対応を取り上げ、家政学と関連させながら考察する。

学習目標・到達目標

私たちが主体的に生活を営むためには個人、家庭、地域、社会の単位で生活を総合的に理解する必要がある。授業では、自助、互助、共助、公助について理解し、各段階に応じた支援について検討する。主な題材として子どもの貧困や障害のある消費者への社会的対応を取り上げ、家政学と関連させながら考察する。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40％
 - (2) 課題提出 30％
 - (3) 平常点 30％
- （平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1 生活福祉論とは何か
- 2 私たちの生活と福祉
- 3 福祉の対象者とは誰か
- 4 個人、家庭、地域、社会単位で生活を考える
- 5 地域における助け合い①: 自助
- 6 地域における助け合い②: 互助
- 7 地域における助け合い③: 共助
- 8 地域における助け合い④: 公助
- 9 子どもの貧困①
- 10 子どもの貧困②
- 11 子どもの貧困③
- 12 障害のある消費者への社会的対応①
- 13 障害のある消費者への社会的対応②
- 14 障害のある消費者への社会的対応③
- 15 まとめ
- 16 期末試験

使用教科書名

特に指定しない。必要な文献や資料は授業で案内する。

NO. G02002031

健康福祉学概論

西口 守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、社会福祉を取り巻く環境、また現代社会の中で生じている深刻な生活問題、そしてその軽減支援のためのソーシャルワークの方法についてできるだけ実践的に理解する。

学習目標・到達目標

社会福祉の意義と意味、またソーシャルワークの理念と方法を学び、現代社会の直面する生活問題について理解する。

評価方法その他

平常点/10%
テスト/レポート80%
その他/10%
これらの総合点

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 西口 守 身近な生活問題を考える 新聞記事やテレビのニュースから生活困難の意味を理解する
- 第2回 西口 守 社会保障の概念規定 社会保障と社会福祉の関連や概念を整理しとめる。
- 第3回 西口 守 社会福祉とソーシャルワーク ソーシャルワークの意味と意義を学ぶ
- 第4回 西口 守 ソーシャルワークの理念と方法 ソーシャルワークの方法を直接、間接援助技術に大別し理解する
- 第5回 坂崎 隆浩 児童福祉① 児童福祉の理解～その意味と歴史～
- 第6回 坂崎 隆浩 児童福祉② 児童福祉の理解～児童福祉の制度～
- 第7回 坂崎 隆浩 児童福祉③ 児童福祉の理解～児童の教育と福祉=幼稚園、保育所の一元化問題を踏まえて
- 第8回 坂崎 隆浩 児童福祉④ 児童福祉の理解～児童福祉の実践
- 第9回 西口 守 高齢者福祉① その歴史と課題/基本的な理解
- 第10回 西口 守 高齢者福祉② 介護保険制度/制度の総括的理解
- 第11回 西口 守 高齢者福祉③ 介護保険制度/そのサービス/介護予防/地域包括ケア
- 第12回 西口 守 障がい者支援施策 障がい者支援施策とサービスの方法
- 第13回 西口 守 職種間連携 コーディネーションとマネジメント/チームケアの課題
- 第14回 西口 守 サービスの品質管理 ISOとリスクマネジメントについて
- 第15回 西口 守 総括授業 14回の授業を振り返り、整理
- 第16回 西口 守 試験

使用教科書名

授業開始時にご案内します

NO. G02003031

公衆衛生学Ⅰ

松田 正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

公衆衛生は疾病を予防し、寿命を延長させ身体的、精神的、社会的、霊的にも健康の増進を図るために学ぶ、自然を対象とする科学(science)と人間の作った技術(art)の体系である。地域社会集団や国といった集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について学習する。公衆衛生学の視点から健康および健康問題について学習し、社会の動向も併せて保健活動や施策について学習する。プライマリー・ヘルス・ケアやヘルスプロモーション、健康問題の現状、現在国が進めている健康づくり施策、保健予防活動について学習し、人々を取り巻く環境と健康、労働と健康問題等を理解する。

学習目標・到達目標

公衆衛生の基本的な考え方、理念、方法、歴史、現在等について学習する。集団における健康問題を把握する方法としての公衆衛生学について理解する。健康と社会、環境の関係を理解する。

評価方法その他

定期試験(80%)と平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 公衆衛生と社会・環境・健康、管理栄養士ガイドライン(法、ライフ・サイクル)
- 2 人口動態と公衆衛生
- 3 比の計算、指数、対数、と公衆衛生
- 4 死亡統計、健康指標
- 5 ミニテスト1
- 6 公衆衛生とグローバル化
- 7 公衆衛生の理念 疾病の自然史と予防の5段階
- 8 公衆衛生の理念 プライマリ・ヘルス・ケアの4原則、8分野
- 9 公衆衛生の理念 ヘルスプロモーションの5方法 ミニテスト2
- 10 健康と環境 食の安全、VDO雪印
- 11 健康と環境 食の国際化、VDO狂牛病
- 12 健康と環境 VDO公害
- 13 健康と環境 VDO公害
- 14 ミニテスト3
- 15 特別講義(国際保健)、まとめ

使用教科書名

- 1.最新 保健学講座Ⅰ 公衆衛生看護学概論 4版 編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2017(後期も使用)
- 2.松田正己編、PHCとUHCー現代公衆衛生学、第3版ー、クオリティケア、2018(後期も使用)

NO. G02004031

公衆衛生学Ⅱ

松田 正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康日本21の概要、それを実現するために必要なわが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解する。健康福祉に関する自己学習能力を高め、ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

公衆衛生学Ⅰで学習した事为基础に、理念レベル、統計レベル、政策・指標レベル(健康日本21)の公衆衛生学を統合的に学ぶ。また、ケアの分かる管理栄養士を目指し、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状、対象別の各種の公衆衛生・保健活動を理解する。

評価方法その他

定期試験(80%)と平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 健康論、悪循環 貧困・疾病・教育不足から栄養・運動・休養
2. 感染症対策とケア、性行動(VDO エイズと結婚)
3. 感染症対策とケア、性行動(VDO エイズとセックス)
4. 感染症対策とケア、性行動(VDO エボラ)
5. ミニテスト1
6. 健康日本21、栄養・運動・休養、フィットネス
7. 健康日本21、数値目標、精神保健(VDO やどかり)、自殺対策
8. 健康日本21、数値目標、健康寿命と格差の是正、計画策定の過程 地域作り型保健活動
9. 健康日本21、数値目標、地域保健の対応策とケアシステム(結核対策、母子保健)、産業保健 学校保健(VDO 恋愛)
10. ケアと難病対策と障害保健(VDO ありがとう)、
11. 危機管理・災害保健・放射線 ミニテスト2
12. 高齢者福祉保健
13. ミニテスト3 社会保障
14. 特別講義(国際保健・協力隊)
15. ミニテスト4(人生プラン、ライフサイクルと公衆衛生)、まとめ

使用教科書名

- 1.松田正己編、PHCとUHCー現代公衆衛生学、第3版ー、クオリティケア、2018(前期に使用したもの)
- 2.最新 保健学講座Ⅰ 公衆衛生看護学概論 4版 編集/金川 克子 メヂカルフレンド社 2017(前期に使用したもの)

NO. G02005031

公衆衛生学実習

松田 正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自分の生活プラン、将来設計を公衆衛生の統計データと結びつけて、作成する。その過程で、わが国における保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び社会保障制度によって提供されている具体的なサービスの内容や、費用と財源、各種多様な福祉関連施設ならびに社会保障を担う人々について、その資格や職務内容、社会保障制度、地域社会で展開されている保健活動と法律について理解する。健康福祉に関する自己学習能力を高め、ヘルス・リタラシーを向上させる方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

公衆衛生学Ⅱで学習した事为基础に、対象別の保健活動、保健医療福祉介護の対応策、ケアシステム、及び、わが国における社会保障、社会保険、社会福祉制度の歴史と現状を、健康日本21の数値目標と統計データの読み方の学習とともに理解する。

評価方法その他

授業中の発表(40%)と平常点(60%)

週 テーマ・授業目標等

1. いのちのケアのグループ・ワーク(テーマ決め)グループ分け、夢と条件
2. 夢と条件 自分の人生プラン
3. 夢と条件 放射線・騒音等の測定の練習(内)
4. 夢と条件 放射線・騒音等の測定(外)
5. 夢と条件 放射線・騒音等の測定(外) データの視覚化(GIS)
6. いのちのケアのグループ・ワーク、フィットネス
7. 同(グループ展開)
8. 同(グループ発表1)
9. 同(グループ発表2)
10. 自分の人生プラン、フィットネス
11. 自分の人生プラン 将来設計
12. 同(グループ発表3)
13. 自分の人生プラン、フィットネス
14. 発表(グループ発表4)
15. まとめ

使用教科書名

1. 松田正己他編、いのちの地域ケア いのちの倫理を考える(第3版)、やどかり出版、2014

NO. G02006031

疫学・社会調査法

細川 まゆ子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間集団の疾病および健康現象の発生状況を把握し、それに影響を及ぼしている要因や条件を包括的に探る方策として、疫学的思考および方法を習得する。
社会集団における社会現象を調査によって直接観察し、記述する社会データ収集の二方法である社会調査の基礎的事項を学び、習得する。

学習目標・到達目標

疫学の基礎的事項を理解し説明できる
社会調査の基礎事項を理解し、実施できる

評価方法その他

定期試験（100%）

週 テーマ・授業目標等

- 「疫学」
- 1.疫学入門(概念・歴史)
 - 2.疫学研究(記述疫学、分析疫学、介入研究、症例対照研究)
 - 3.疫学研究方法
 - 4.偏りと交絡
 - 5.因果関係
 - 6.疫学指標
 - 7.標準化
 - 8.相対危険
 - 9.スクリーニング
 - 10.統計の基礎
 - 11.循環器疾患の疫学
 - 12.食事調査と栄養疫学

「社会調査法」

- 13.社会調査(概要、種類、プロセス)
- 14.社会調査の実施(デザイン、調査票、方法、集計作業)
- 15.社会調査法のまとめ、演習

使用教科書名

グローバル化・健康福祉政策と公衆衛生・倫理―現代公衆衛生学第2版―松田正己編集 クオリアディケア2013

NO. G02008031

解剖生理学Ⅱ

原 光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

解剖生理学Ⅱでは、すでに解剖生理学Ⅰで習得した解剖学の基礎的な知識に基づいて、管理栄養士にとって重要な領域である「人体の構造と機能」についてわかりやすく解説する。特に正常機能（生理学）について理解を深め、2年次後期より始まる応用栄養学、臨床栄養学などの基礎となる知識を網羅する。

学習目標・到達目標

正常における栄養学や、スポーツ栄養、骨代謝・血液疾患・内分泌代謝・消化器・腎臓・神経系などの各種疾患における栄養学を学ぶ上で基礎となる人体の正常な構造と機能の概要を理解する。

評価方法その他

試験100%で行う。
15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

- 1 細胞・遺伝子の構造と機能
- 2 組織・器官の構造と機能
- 3 生殖器系の構造と機能
- 4 骨格系・筋系の構造と機能
- 5 感覚器系の構造と機能
- 6 循環器系の構造と機能
- 7 呼吸器系の構造と機能
- 8 腎・泌尿器系の構造と機能
- 9 血液系の構造と機能
- 10 免疫系の構造と機能
- 11 内分泌系の構造と機能
- 12 消化管の構造と機能
- 13 肝・胆・膵の構造と機能
- 14 神経系の構造と機能
- 15 全体総括と問題演習
- 16 試験

使用教科書名

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第4版)/岩堀修明/文光堂/2016年
(1年次解剖生理学Ⅰと同じテキスト)

NO. G02009031

解剖生理学実習

原 光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

解剖生理学Ⅰ・Ⅱで学ぶ「人体の構造と機能」を、器官系別に可能な限り実体験することで理解を深める。さらに、臨床栄養の現場で、医療チームの一員として疾病予防や栄養サポートを実施するために必要な臨床医学の基礎を体験的に習得する。

学習目標・到達目標

人体の構造と機能の実際を、可能な限り自ら観察し体験することで、臨床医学の基礎を習得する。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断します)
6回以上欠席すると「不可」の評価になります。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス:実習予定と注意事項、レポートの記載法
 - 2 体表解剖学、身体計測値を用いた栄養状態の評価
 - 3 運動器系の解剖生理:徒手筋力検査など
 - 4 神経系の解剖生理:疲労やストレスの評価など
 - 5 循環器系(1):診察法、脈拍、心音、心電図
 - 6 循環器系(2):血圧測定、動脈硬化の評価
 - 7 呼吸器系の解剖生理:呼吸機能検査など
 - 8 腎・泌尿器系の解剖生理:尿検査など
 - 9 血液・アレルギー疾患:血液型の判定、アナフィラキシーショックへの対応
 - 10 消化器系の解剖生理と感染予防:嚥下機能の評価など
 - 11 内分泌系の解剖生理:経口糖負荷試験
 - 12 一次救急蘇生法:AEDの使い方
 - 13 細胞・組織学(1):主な臓器の組織を顕微鏡で観察
 - 14 細胞・組織学(2):主な臓器の組織を顕微鏡で観察
 - 15 実験予備日
- *実習内容や順番は変更となる可能性があります

使用教科書名

解剖生理学実習/山田哲雄/第一出版/2014年

NO. G02010031

スポーツ栄養学

加藤 理津子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

運動生理学を中心として、栄養（飲食）に関わる事柄について講義形式で授業を進める。
前半（運動生理学）では、運動を行ったときの一過性の生理応答、トレーニングを行ったときの慢性的な適応現象を説明する。
後半ではスポーツ選手の栄養学的課題と栄養素の関わりと、よりよいスポーツ活動のための食事について、事例とともに説明する。

学習目標・到達目標

運動生理学の基礎を知る。
栄養摂取についてスポーツ選手と一般人との違いを知る。

評価方法その他

中間試験（50%）、期末試験（50%）

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション:授業概要、青年期女性の健康問題と対策
- 2.運動指導の種類と実施方法
- 3.健康づくりを目的としたスポーツ栄養
- 4.競技力向上を目的としたスポーツ栄養
- 5.健康づくりを目的とした栄養管理の企画立案(栄養アセスメント概要)
- 6.健康づくりを目的とした運動指導計画の作成
- 7.健康づくりを目的とした献立作成
- 8.栄養アセスメントの実施
- 9.栄養アセスメントの分析
- 10.運動・栄養指導の実践①(モニタリング)
- 11.運動・栄養指導の実施②(料理教室)
- 12.運動・栄養指導の実施③(モニタリング)
- 13.運動・栄養指導の評価
- 14.運動・栄養指導の結果報告
- 15.まとめ

使用教科書名

「七訂 食品成分表2016」 女子栄養大出版部
「調理のためのベーシックデータ第4版」 女子栄養大出版部
「日本人の食事摂取基準[2015年版]」 第一出版
「スポーツ・運動栄養学 第3版」 講談社

NO. G02011031

運動生理学実習

江川 賢一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

身体能力（体力）および運動を行ったときの身体の一過性変化を理解する。運動発現に必要な筋力、力を最大スピードで発揮するときのパワー、運動を継続させるための持久力の測定手法を実習する。自らのデータを分析し、自分の身体を客観的に（数値で）理解する。

学習目標・到達目標

筋力や持久力の測定方法を知る。統計的手法により数値が持つ意味を判断する。

評価方法その他

各授業後にまとめるレポートの内容による(100%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 新体力テスト
- 3 テスト結果の解析
- 4 基礎代謝量の測定
- 5 測定結果の解析
- 6 自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定①
- 7 自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定②
- 8 自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定③
- 9 自転車エルゴメータでの酸素摂取量の測定④
- 10 測定結果の解析
- 11 測定結果の解析
- 12 筋力・パワーの測定①
- 13 筋力・パワーの測定②
- 14 測定結果の解析
- 15 測定結果の解析／レポート作成

使用教科書名

大関伸吾, 中村富予(2012)フローチャートで学ぶ運動生理学実習. 建帛社.

NO. G02016031

生化学Ⅱ

馬場 修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学Ⅱでは生化学Ⅰにひきつづいて、一般的な生化学の知識を基礎に、栄養学との関連を重視しながら、栄養素の代謝の調節の仕組み、食生活環境の変化に対する身体の適応の仕組みについて学ぶ。

学習目標・到達目標

生体における代謝調節の仕組みについて理解する。
生体成分の相互変換、相互関係について理解する。

評価方法その他

筆記試験(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 物質代謝の相互関連と代謝の調節
2. 酵素活性の調節－アロステリック酵素とフィードバック制御
3. DNAの構造と機能
4. RNAの構造と機能
5. 遺伝情報の伝達
6. 遺伝情報の発現とその調節(1)
7. 遺伝情報の発現とその調節(2)
8. ホルモンと代謝の調節(1)
9. ホルモンと代謝の調節(2)
10. カルシウムの代謝
11. 消化と吸収
12. 呼吸とpHの調節
13. 鉄とヘムの代謝
14. 筋収縮の生化学
15. 免疫の生化学

使用教科書名

基礎から学ぶ生化学／奥 恒行他編／南江堂／2008

NO. G02017031

生化学実験

馬場 修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生化学的知識、すなわち生体成分の性質やそれらが示す化学反応と生命機序を理解するための基礎的実験を行う。他の実験と同様、実験をうまく進めていくためには、正確な実験操作と細かな観察や記録が不可欠であることはもちろん、どのような原理によっているのか、実験で得られた数値などの結果から、どのような結論が導けるのかなどを理解する。

学習目標・到達目標

生体成分の諸性質並びに測定法について理解する。
測定結果の解析・評価方法を理解する。

評価方法その他

レポート(50%)、授業への取り組み・参加態度(50%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 実験予定と実験についての諸注意
- 2 糖質実験Ⅰ(グルコースの代謝)
- 3 糖質実験Ⅱ(グルコースの代謝)
- 4 脂質実験Ⅰ(脂質の抽出・定量)
- 5 脂質実験Ⅱ(脂質の抽出・定量)
- 6 核酸実験Ⅰ(核酸の抽出)
- 7 核酸実験Ⅱ(核酸の抽出)
- 8 酵素の基礎実験Ⅰ(反応時間、基質との親和性)
- 9 酵素の基礎実験Ⅱ(反応時間、基質との親和性)
- 10 尿中成分の定量Ⅰ(尿素窒素、クレアチニン)
- 11 尿中成分の定量Ⅱ(尿素窒素、クレアチニン)
- 12 ビタミン実験Ⅰ(ビタミンCの定量)
- 13 ビタミン実験Ⅱ(ビタミンCの定量)
- 14 結果の解析
- 15 結果の解析

使用教科書名

新しい生化学・栄養学実験

NO. G02020031

応用食品学

林 一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

農産物（穀類、いも類、野菜類など）や畜産物、水産物などの食品の成分や特徴を学ぶ。また、それらを基に加工される食品の加工方法等についても学習する。貯蔵法や加工法のいずれにおいても、伝統的な方法に加えて、新しい技術や手法も次々と作り出されている。ここでは、食品の様々な貯蔵法の原理と身近な食品加工法の基礎について理解させる。ここの食品の諸性質やその食品の特長を生かした加工方法を学ぶことにより、食材や加工食品の高度な利用方法を理解させる。

学習目標・到達目標

普段食べている食品がいったいどんなものであるのか、その原料に使われている食材がどんなものか、またその性質は、その加工法は、さらには食材の旬とは、など、食品に関する基礎知識を学ぶことによって、管理栄養士として食や栄養を扱う上での食品、食材の基礎を確立させる。

評価方法その他

筆記試験(70%)出席(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 現在の食品に関する状況(食料受給率や供給、消費など)
- 第2回 穀類とその加工品
- 第3回 いも類とその加工品
- 第4回 豆類、種実類とその加工品
- 第5回 野菜類とその加工品
- 第6回 果実類とその加工品
- 第7回 キノコ類、海藻類とその加工品
- 第8回 食肉類とその加工品
- 第9回 乳類、卵類とその加工品
- 第10回 魚介類とその加工品
- 第11回 発酵食品(味噌、醤油、醬油)
- 第12回 発酵食品(アルコール類など)
- 第13回 油脂、甘味料
- 第14回 食塩など調味料、嗜好品
- 第15回 食品に関する新技術
- 第16回 試験

使用教科書名

新版 食品学Ⅱ／菅原龍幸監修／建帛社／2016

NO. G02021031

基礎食品学実験

海野 知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品成分の分析技術、品質管理技術の進歩は目覚ましいものがある。基礎食品学実験では、食の専門家として必要とされる実験技術を得得し、食品の成分間反応などの実験を確認する。それとともに日本食品標準成分表で採用されている分析方法についても理解する。

学習目標・到達目標

日本食品標準成分表における栄養素等の測定法を体得することは、食のスペシャリストである管理栄養士にとって必要不可欠である。本授業では、食品中の各種成分の定性・定量法について、測定法、クロマトグラフィー法などの基礎的な実験方法を修得する。さらに、食品成分の性質と成分間反応などが食品の嗜好性・栄養性に及ぼす影響について、基礎食品学で学んだ知識と関連づけて理解する。

評価方法その他

レポート(60%)、平常点(40%)
(平常点は授業への参加状況・実験に対する積極性で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 実験の基礎(薬品・器具の扱い方、結果の記録方法と報告など)
2. 重量測定(水分、灰分)
3. タンパク質の性質(等電点沈殿)
4. 無機質の定量(モール法による醤油の塩化物イオンの定量)
5. 糖の定性(薄層クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の検出)
6. 糖の定量(高速液体クロマトグラフィーによる清涼飲料水中の糖質の定量)
7. ポリフェノールの定量(緑茶飲料に含まれるポリフェノールの定量)
8. 食品成分間反応(アミノカルボニル反応)
9. タンパク質の定量(ケルダール法:試料の分解)
10. タンパク質の定量(ケルダール法:アンモニア蒸留)
11. 脂質の定量(ソックスレー抽出法による総脂質の定量)
12. ビタミンの定量(食品中のL-アスコルビン酸の定量)
13. 食品成分間反応(L-アスコルビン酸の酵素的変化)
14. 無機質の定量(原子吸光法によるカルシウムの定量)
15. 脂質の性質(油脂のケン化価の比較)

使用教科書名

プリント配布

NO. G02022031

応用食品学実験

林 一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

加工食品を実際に作り、それらの加工法の原理や基礎的な知識を深める。さらに、食品の加工過程で起きる様々な変化を観察し、食品加工の必要性、意義などを学ぶ。さらに、実際につくった加工食品と市販品との違い(食品添加物等の使用の有無)を比較する。また、食品開発における基礎についても学ぶ。

学習目標・到達目標

伝統的な加工食品や新しい製造技術など、加工食品の製造方法を理解することで、食品に関する興味を深め、基礎知識を得得する。

評価方法その他

レポート(50%)、出席(50%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 ガイダンス、発酵食品の原理(納豆)
- 第2回 豆タンパク質の加工変化(豆腐)
- 第3回 乳の変化(チーズ)
- 第4回 発酵(味噌)
- 第5回 缶詰製造
- 第6回 肉類の加工(ソーセージ)
- 第7回 果実類のゲル化(マーマレード)
- 第8回 乳類発酵(ヨーグルト)
- 第9回 糖蔵の原理(ミカンシロップ)
- 第10回 高圧殺菌法(レトルト食品)
- 第11回 糖質マンナンの変化(コンニャク)
- 第12回 カビの酵素による糖化実験(甘酒)
- 第13回 乳脂肪の変化(バター)
- 第14回 小麦タンパク質の粘性(パスタ)
- 第15回 糖質の加熱変化(キャラメル化)

使用教科書名

プリント配布

NO. G02023031

食文化論

大富 あき子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食文化とは何か？それが食物学でどのような位置づけにあるかを知る。
また、世界の特徴的な食文化の形成要因を、自然環境、社会環境の両面から考え、世界における日本の食文化の位置づけを把握する。
さらに、日本の食文化の形成・発展の歴史を、主食・副食、日常食・非常の食、外食、郷土食、食の教育などのテーマごとに変遷を学び、現代の食生活の背景を知ると共に、現在および将来の食生活に、学んだことを活かす道を考える能力を養う。

学習目標・到達目標

- ①日本の自然環境の特徴と食文化形成との関係を理解し説明することが出来る。
- ②日本の伝統食品の特徴と歴史を理解し説明することが出来る。
- ③現代の食生活の課題解決に食文化が有効であることを理解し例を示すことが出来る。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(40%)
(平常点は授業への参加状況および授業時のレポート等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 和食:日本人の伝統的な食文化
2. 食文化の領域
3. 世界の食文化形成
4. 日本の食文化形成と展開
5. 異文化接触と受容
6. 主食の文化
7. 副食の文化
8. 調味料、油脂、香辛料
9. 菓子、茶、酒
10. 日本料理の形成と発展
11. 台所、食器、食卓の文化
12. 日常の食生活
13. 外食文化の成立と変化
14. 行事と地域の食文化
15. まとめ

使用教科書名

「日本の食文化『和食』の継承と食育」 江原純子 アイ・ケイ・コーポレーション

NO. G02027031

調理学実験

大富 あき子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理学実験の目的は、調理の過程でなぜそのような現象が起こるのか、その理由はなぜか、法則性を見出し失敗しない調理技術の修得を目指すもの、すなわち再現性のある「調理のコツ」をつかむことである。調理科学実験の基本操作の修得から各食材の性質を知る実験、調理操作の違いによる料理の出来具合や栄養成分の差を調べる実験へと進めていく。

学習目標・到達目標

調理学実験の基本操作を理解して実践することが出来る。
班員と協力し合って作業が出来る。
実験の結果について、なぜそうなったのか調理科学的に説明が出来る。

評価方法その他

毎週のレポート(60%)、小テスト(30%)、平常点(10%)
平常点は実験への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス 調理実験の目的、実施方法、レポートの書き方等
2. 官能評価法 紅茶の甘味の嗜好試験
3. 米に関する実験 米の浸水時間と吸水量、炊飯要領
4. 卵に関する実験1 卵液の熱凝固性
5. 卵に関する実験2 卵黄の乳化性
6. 小麦粉に関する実験1 グルテンの性状
7. 小麦粉に関する実験2 異なる材料配合割合のクッキーの性状
8. 乳製品に関する実験 生クリームの起泡性とバターへの転相
9. 揚げ物の油切りと吸油量の変化
10. 砂糖溶液の加熱による変化
11. 魚介類に関する実験1 イカの加熱と収縮
12. 魚介類に関する実験2 魚の塩締め、酢締めの影響
13. ゼラチンと寒天の違い パイナップルゼリーの性状
14. 報告検討会 小テスト
15. まとめ

使用教科書名

「タッキング エクスペリメント 4th Edition」学建書院

NO. G02028031

食品の官能評価・鑑別論

林 一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

統計処理を含め、具体的な食品について官能評価法、鑑別法について学ぶ。官能検査の目的と意義、官能検査の基本と実施法、官能検査の方法と解析法（比較法、識別法、順位法、評点法など）について学ぶ。演習また、食品の化学的、物理的評価法も含めて教授する。個別食品の鑑別法に関しては、鮮度、熟度の判定法なども含めて行う。

学習目標・到達目標

官能検査の種類・実施方法・検定方法等の基本や、個別食品の食品の鮮度・熟度の鑑別法を習得する。

評価方法その他

レポート35％、試験35％、出席30％

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション:食品の官能評価の目的及び授業の進行方法等
- 官能検査の基本と実施方法
- 試料の調製法
- 比較試験法
- 識別試験法
- 評点法
- 統計処理1
- 食品の化学的評価法
- 食品の物理的評価法1
- 食品の物理的評価法2
- 食品の鑑別法1
- 食品の鑑別法2
- 食品の鑑別法3
- まとめ
- 試験

使用教科書名

プリント配布

NO. G02029031

食品衛生学

林 一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品の取り巻く情勢は、食の多様化、流通の国際化、食品をめぐる環境の変化などめまぐるしく変化してきている。また、国民の健康志向が増大し、残留農薬や異物混入、添加物、違法表示など、食品の安全、安心への期待、関心が高まっている。国際的に整合性のある食品衛生管理への要望が高まっており、管理栄養士にもその責務が求められている。本講義では、様々な食品衛生に関する項目（微生物、食品添加物、行政、農薬、化学物質、その他）を学び、食品衛生管理を行ううえでの基礎とする。

学習目標・到達目標

管理栄養士に必要な食品衛生の基礎を習得することが目標。

評価方法その他

試験（70％）、出席（30％）

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 食品衛生行政および関連法規
- 第2回 食品の表示
- 第3回 食品と微生物(微生物の種類)
- 第4回 食品と微生物(微生物の諸性質)
- 第5回 食品と微生物(培養方法、防止方法)
- 第6回 食品の変質と防止方法
- 第7回 食中毒の定義
- 第8回 食中毒の種類
- 第9回 寄生虫と衛生動物
- 第10回 感染症、BSE、インフルエンザウイルス
- 第11回 食品汚染物質(カビ毒、農薬、ダイオキシン、発ガン物質、アクリルアミド)第12回 食品添加物
- 第13回 食品の包装容器
- 第14回 食品衛生対策、水の衛生、HACCP、ISO
- 第15回 食品の安全、遺伝子組換え食品
- 第16回 試験

使用教科書名

食べ物と健康 食品の安全 有菌幸司(編集) 南江堂 2013

NO. G02030031

食品衛生学実験

林 一也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品衛生の立場から、食品の安全性を確かめる物理的、化学的並びに微生物学的諸検査を、身近な食品を対象にして行う。

学習目標・到達目標

微生物の扱い方や水道水の分析方法、遺伝子組換え食品など、食品衛生に関する実験の仕方を習得する。

評価方法その他

レポート(60％)・出席及び授業態度(40％)を総合して判定する。

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス
- 微生物培養培地作製
- 食品の細菌検査(標準平板培養法、大腸菌群テスト)
- 食品の細菌検査(生菌数、大腸菌群数、大腸菌確定検査)
- 真菌類の食品からの分離(カビ、酵母)
- 真菌類の形態観察、細菌類の分離
- 細菌類の顕微鏡観察(グラム染色など)
- 微生物の抗生物質耐性試験
- 微生物の紫外線、温度耐性試験
- 調理環境と調理器具の微生物汚染度測定
- 遺伝子組換え食品の検出試験
- 食品添加物(着色料)の検出
- 食品添加物(発色剤)の検出
- 米の品質試験、水道水の残留塩素試験
- GC-MSによる残留農薬の検出

使用教科書名

プリント配布

NO. G02032031

基礎栄養学Ⅱ

海野 知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ヒトの健康維持・増進には、栄養素やエネルギー量の摂取バランスが重要な要因の一つと考えられる。基礎栄養学Ⅱにおいては、食品中のたんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素が人体の機能維持において果たす役割、その過不足がもたらす欠乏症と過剰症などについて解説する。次に、栄養素ではないが、ヒトの生命維持に必須となる水の栄養学意義を理解し、1日当たりの水の出納を把握する。後半では、食後と食間期の代謝の違いや身体活動(生活活動・運動)との関わりに伴って変化するエネルギー産生栄養素の体内利用を解説する。

学習目標・到達目標

基礎栄養学Ⅰに引き続き、栄養素(たんぱく質、ビタミン、ミネラル)の役割を説明できるようにする。たんぱく質は量だけでなくその質(栄養価)が重要であることから、栄養価の評価法を説明できるようにする。ビタミン、ミネラルは、欠乏と過剰の観点からそれらの生理的意義を修得する。エネルギー代謝は、その測定原理を理解するとともに、エネルギー消費量の算出法を学び、管理栄養士に要求される個人および集団の健康維持・増進、疾病予防の活用に発展できるようにする。

評価方法その他

定期試験(80％)、小テスト(20％)

週 テーマ・授業目標等

- たんぱく質の栄養(たんぱく質の合成と分解)
- たんぱく質の栄養(たんぱく質・アミノ酸の体内代謝)
- たんぱく質の栄養(アミノ酸の臓器間輸送)
- たんぱく質の栄養(摂取するたんぱく質の量と質の評価)
- ビタミンの栄養(ビタミンの構造と機能)
- ビタミンの栄養(ビタミンの栄養学的機能)
- ビタミンの栄養(ビタミンの生物学的利用度)
- ミネラルの栄養(ミネラルの分類と栄養学的機能)
- ミネラルの栄養(硬組織におけるはたらき、生体機能の調節作用、酵素反応の賦活作用)
- ミネラルの栄養(鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度)
- 水の栄養的意義(生体内の水、水の出納、脱水・浮腫)
- 電解質の栄養的意義(電解質代謝と栄養)
- エネルギー代謝の概念
- エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝
- エネルギー代謝の測定法
- 定期試験

使用教科書名

栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第3版(羊土社)

NO. G0203031

基礎栄養学実験

馬場 修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養素が生体にとってどのような吸収・代謝経路をたどり、生理的役割を果たしているか、またそれらが体内で利用された後、どのように排泄されているかなどについて、実験的手法および動物実験を通して理解する。

学習目標・到達目標

栄養素の消化を実験を通して理解する。
栄養条件を変えて飼育した動物の反応を観察し、
個体レベルと栄養素の関係について理解する。

評価方法その他

レポート(50%)、授業への取り組み・参加態度(50%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 実験の予定と諸注意
- 2 糖質実験(でんぶんの消化Ⅰ)
- 3 糖質実験(でんぶんの消化Ⅱ)
- 4 タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅰ)
- 5 タンパク質実験(タンパク質の消化Ⅱ)
- 6 動物実験(飼料の作成)
- 7 脂質の消化
- 8 クロマトグラフィー
- 9 動物実験(体重、摂餌量の測定)
- 10 動物実験(解剖)
- 11 統計解析の手法と解説
- 12 血液成分の分析NEFA,TG
- 13 血液成分の分析TChol,HDLChol
- 14 データ解析
- 15 データ解析

使用教科書名

プリントを配布

NO. G02034031

食事摂取基準論

斎藤 恵美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食事摂取基準論は応用栄養学の一分野に分類される。解剖生理学、基礎栄養学、などの基礎知識に基づいて、「日本人の食事摂取基準」の基本理論や策定の概念に対する理解を深め、各栄養素についての策定された内容のアウトラインを掴むようにする。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験に要求される食事摂取基準に関する知識を、系統的・網羅的に学習し、実際の献立作成、栄養指導などの実践において、「日本人の食事摂取基準(2015年版)」を利用できる素養を身につける。

評価方法その他

定期試験の成績で評価します。(100%)
15回の授業のうち、正当な理由なく5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

1. 食事摂取基準:総論
2. 食事摂取基準:エネルギー
3. 食事摂取基準:エネルギー
4. 食事摂取基準:たんぱく質
5. 食事摂取基準:たんぱく質・脂質
6. 食事摂取基準:脂質
7. 食事摂取基準:炭水化物・エネルギー産生栄養素バランス
8. 食事摂取基準:脂溶性ビタミンⅠ
9. 食事摂取基準:脂溶性ビタミンⅡ
10. 食事摂取基準:水溶性ビタミンⅠ
11. 食事摂取基準:水溶性ビタミンⅡ・多量ミネラル
12. 食事摂取基準:微量ミネラルⅠ
13. 食事摂取基準:微量ミネラルⅡ
14. 食事摂取基準:水・対象特性Ⅰ(妊婦・授乳婦・乳児・小児)
15. 食事摂取基準:対象特性Ⅱ(高齢者)・高血圧
16. 試験

使用教科書名

厚生労働省策定 日本人の食事摂取基準(2015年版)/第一出版編集部編/第一出版/2014年

NO. G02035031

ライフステージ別栄養学Ⅰ

原 光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ライフステージ別栄養学Ⅰは応用栄養学の一分野に分類される。ライフステージ別の栄養学とそれに関連した病態生理についての学習にあたる。ライフステージ別栄養学Ⅰにおいてはライフステージの概論にはじまり、妊娠期(児の側からみれば胎児期)、授乳期および、出生後の乳幼児期から、思春期にいたる成長期における各段階の栄養と母性栄養学を包括的に学ぶ。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験のガイドラインにおける応用栄養学分野の母性栄養と成長発達に関する知識を系統的・網羅的に学習する。

評価方法その他

定期試験の成績で100%評価します。
15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

1. ライフステージ栄養学の概要
2. 栄養アセスメント:身体計測、臨床診査、臨床検査
3. 妊娠期、分娩、産褥期の生理と栄養
4. 妊娠期、分娩、産褥期の栄養アセスメントと病態生理
5. 授乳期の生理、栄養アセスメントと病態生理
6. 正常新生児、乳児の生理的発達と栄養アセスメント
7. 未熟児、新生児の病態生理と栄養学的問題
8. 母乳および調製粉乳の生化学と母乳栄養の利点
9. 乳児期の栄養と離乳食
10. 小児の先天代謝異常症と特殊ミルク
11. 幼児期の生理的発達と栄養アセスメント
12. 幼児期の病態生理と栄養ケア
13. 学童期の生理的発達と栄養アセスメント
14. 学童期の病態生理と栄養ケア
15. 思春期の生理的発達、病態生理と栄養ケア
16. 試験

使用教科書名

応用栄養学:改訂第5版/渡邊令子ほか/南江堂/2015年/

NO. G02036031

ライフステージ別栄養学Ⅱ

斎藤 恵美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ライフステージ別栄養学Ⅱは応用栄養学の一分野に分類される。成人期、更年期、高齢者などの各ライフステージの栄養学とそれに関連した病態生理についての学習と、栄養とエネルギー代謝、スポーツと栄養、環境ストレス(疾患、生体リズム、温度環境、高所、高圧、低圧、無重力など)の条件下における栄養を学ぶ。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験のために要求されるライフステージ別栄養学の成人期以降に関する基本となる知識を系統的・網羅的に学習する。

評価方法その他

定期試験の成績で評価します。(100%)
15回の授業のうち、正当な理由なく5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

1. 臨床検査の読み方Ⅰ
2. 臨床検査の読み方Ⅱ
3. メタボリックシンドロームの病態と診断
4. メタボリックシンドロームの特定健診の仕組み
5. メタボリックシンドロームの特定保健指導の仕組み
6. 成人期の生活習慣病と栄養
7. 更年期の病態生理と栄養
8. 高齢期の身体・精神的変化および栄養とQOL
9. 高齢期の病態生理と栄養ケア
10. 成人のエネルギー代謝と栄養素(概説)
11. 運動生理とエネルギー代謝
12. 筋肉トレーニングと栄養補給
13. 競技スポーツと栄養
14. ストレス応答・日内リズムと栄養
15. 温度環境・高圧、低圧、無重力環境と栄養
16. 試験

使用教科書名

健康・栄養科学シリーズ:応用栄養学:改訂第5版/渡邊令子ほか/南江堂/2015年/

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ライフステージ別栄養学Ⅰ・Ⅱ、食事摂取基準論で学んだ理論を基に、身体状況や栄養状態を踏まえ、具体的な食事による栄養ケアの実習を通して、栄養管理（マネジメント）の方法を学ぶ。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化の特徴を十分に理解し、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）に対応したケアプランニングとその評価を行う実践力を養う。

学習目標・到達目標

各ライフステージ別の栄養アセスメントの項目とその基準を抽出する力、また、具体的な食事による栄養ケア内容の選定をする力、栄養ケアプランニングとその評価を行う実践力を身につける。

評価方法その他

テスト60％、出席・授業態度20％、レポート20％）などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・栄養マネージメントの理論
- 第2週・・・妊娠・授乳期の栄養ケアの特徴とプランニング
- 第3週・・・妊娠・授乳期の栄養ケアのプランニング
- 第4週・・・妊娠・授乳期の栄養ケアの実習（オリジナル献立）と評価
- 第5週・・・乳汁期・離乳期の栄養ケアの特徴
- 第6週・・・乳汁期の栄養ケアの実習と評価
- 第7週・・・離乳期の栄養ケアの実習（統一献立）
- 第8週・・・離乳期の栄養ケアのプランニング
- 第9週・・・離乳期の栄養ケアの実習（オリジナル献立）と評価
- 第10週・・・幼児期の栄養ケアの特徴と実習（統一献立）
- 第11週・・・幼児期の栄養ケアのプランニング
- 第12週・・・幼児期の栄養ケアの実習（オリジナル献立）と評価
- 第13週・・・高齢期の栄養ケアの特徴と実習（統一献立）
- 第14週・・・高齢期の栄養ケアのプランニング
- 第15週・・・高齢期の栄養ケアの実習（オリジナル献立）と評価

使用教科書名

子どもの食生活、上田玲子、酒井治子他、ななみ書房
2011年
応用栄養学、田中平三他、南江堂、2006年

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、栄養教育者としての心構えをはじめ、栄養教育の概念・歴史を学ぶとともに、現代の健康や栄養上の問題点について考え、栄養教育の必要性・意義・目的を学ぶものである。さらに、具体的な教育の対象・場についても学びを深め、適切な栄養教育マネジメントを実施できるようにアセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解し、学びを深めるものとする。

学習目標・到達目標

栄養教育の概念・歴史を理解したうえで、現代の健康や栄養上の問題点を参考に、栄養教育の必要性・意義・目的を理解する。さらに、具体的な教育の対象・場についても学びを深め、適切な栄養教育マネジメントを実施できるようにアセスメントから計画・実施・評価までの一連のPDCAサイクルを理解することを目標とする。

評価方法その他

定期試験70％、小テスト・レポート10％、平常点20％（平常点は授業への参加状況や討論への参加等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1 栄養教育の概念
- 2 栄養教育・栄養指導の歴史
- 3 栄養教育の対象と機会
- 4 栄養教育の法的根拠
- 5 栄養教育のための理論的基礎
- 6 栄養カウンセリング
- 7 組織づくり・地域づくりへの展開
- 8 栄養教育マネジメント
- 9 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント
- 10 栄養教育の目標設定
- 11 栄養教育計画立案
- 12 カリキュラム・指導案立案
- 13 栄養教育プログラムの実施
- 14 栄養教育の評価
- 15 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル
- 16 試験

使用教科書名

サクセス管理栄養士講座 栄養教育論
池田小夜子・斎藤トシ子・川野因 第一出版

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この講義では、まず、健康づくり支援者（カウンセラー）に必要な考え方やスキルをはじめ、望ましい支援者としてどうあるべきか、実際の特定保健指導の現場経験を踏まえて、わかりやすく説明する。また、実際に使用している資料を用いて、健康づくり支援プログラム作成のポイントや介入方法など、成果につなげる健康づくり（行動変容）支援プログラムに関する理解、支援者としての心構え、健康づくり支援プログラムの開発に必要な考え方を通して、実践の場で役立つ知識・技術の習得を目指す。

学習目標・到達目標

メタボリックシンドロームの早期発見・早期改善を目指すべく導入された特定健診・保健指導は、内臓脂肪の蓄積に注目した生活習慣病予防のためのアプローチである。しかし、生活習慣病の発症を未然に防ぐ取り組みとはいえ、慣れ親しんだ習慣を変えることは容易ではない。特定保健指導を含めた健康づくりでは、単に対象者に合わせた情報提供をするだけでなく、対象者の生活スタイルや思考パターンを考慮した改善環境の見極めとフォローが重要になってくる。人の行動を科学的に評価方法その他

出席（ミニ課題）20％＋レポート20％＋テスト60％による総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 1.健康づくりの専門支援とは（導入）
- 2.健康づくりと支援者の役割 ①
- 3.健康づくりと支援者の役割 ②
- 4.健康づくりと支援者の役割 ③
- 5.健康づくりと支援者の役割 ④
- 6.健康づくりと支援者の役割 ⑤
- ※レポート課題1 → 1ヶ月後レポート提出
- 7.行動変容プログラムの開発と実際 ①
- 8.行動変容プログラムの開発と実際 ②
- 9.行動変容プログラムの開発と実際 ③
- 10.行動変容プログラムの開発と実際 ④
- 11.行動変容プログラムの開発と実際 ⑤
- ※レポート課題2 → 1ヶ月後レポート提出
- 12.ケーススタディ ①
- 13.ケーススタディ ②
- 14.ケーススタディ ③
- 15.健康行動支援プログラム論のまとめ
- ※レポート課題の解説とテスト対策
- 16.テスト

使用教科書名

使用しない
実際に特定保健指導の現場で使用している資料などを用いる

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では栄養教育の方法について学ぶ。対象者の特性の把握・教育の目標設定・教育方法の選択・カリキュラムの立て方、実施に必要な教育方法、教育の評価方法を理論的に学ぶうえで、行動科学理論を学ぶ。また、近年、個人教育に頻繁に用いられているカウンセリングについては、その基本と栄養教育への応用方法を学ぶ。また、栄養教育を効果的に展開するための技法についても理論的に学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養教育総論での学びをかまえ、栄養教育方法の概念及び歴史を理解する。とくに近年栄養教育は、学習者の行動変容を目的として行われ、その基本には行動科学の手法を用いる場合が多くなってきた。現代の健康や栄養上の問題点を参考に、栄養教育の必要性・意義・目的を理解し、さらに、本授業で学ぶ行動科学の基礎の学びを食行動変容への応用に必要な知識を理解することに関与していく方法を学ぶことを目的とする。

評価方法その他

定期試験60％、小テスト・レポート20％、平常点20％（平常点は授業への参加状況や討論状況・発表等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1 栄養教育のための理論的基礎
- 2 栄養教育と行動科学
- 3 行動科学の理論とモデル
- 4 ヘルス・ビリーフ・モデル
- 5 トランスセオレティカルモデル
- 6 計画的行動理論
- 7 社会的認知理論
- 8 ソーシャルサポート
- 9 行動カウンセリング
- 10 行動分析
- 11 ストレスとコーピング
- 12 行動変容技法と概念
- 13 行動置換・オペラント強化法
- 14 認知再構成・行動契約
- 15 セルフモニタリング・ソーシャルスキルトレーニング
- 16 試験

使用教科書名

1.サクセス管理栄養士講座 栄養教育論 池田小夜子・斎藤トシ子・川野因 第一出版
2.医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 松本千明 医歯薬出版株式会社

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教育総論、栄養教育方法論を踏まえて、乳幼児期から高齢期にいたるライフステージ別に、各特性に応じた栄養教育の内容と方法、また、食環境づくりの実践方法を、さらに、栄養教育の国際的な動向を学習していく。

学習目標・到達目標

乳幼児期から高齢期にいたるライフステージ別に、各特性に応じた栄養教育の内容と方法を学ぶ。また、複雑化する現代社会の中で、どのようにすれば健康の維持増進ができるかを食環境との関連から捉え、実践する方法を理解する。さらに、国際的な動向を踏まえて、今後の栄養教育のあり方をグローバルな視点からの確かな判断ができる力を養う。

評価方法その他

出席状況・学習態度10%、定期試験70%、小テスト20%などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション I. ライフステージ別栄養教育 1. 妊娠・授乳期の栄養教育①
- 第2週 1. 妊娠・授乳期の栄養教育の特徴②
- 第3週 2. 乳幼児期の栄養教育①
- 第4週 2. 乳幼児期の栄養教育②
- 第5週 1・2のまとめ(国家試験での出題傾向)
- 第6週 3. 学童期・思春期の栄養教育
- 第7週 4. 成人期の栄養教育
- 第8週 5. 高齢期の栄養教育
- 第9週 6. 障がい児・者の栄養教育
- 第10週 3～6のまとめ(国家試験での出題傾向)
- 第11週 II. 食環境づくりにおける栄養教育
1. 食環境づくりの意義と、環境整備のための法律・制度・施策
- 第12週 2. 食物へのアクセス面での展開
- 第13週 3. 情報へのアクセス面での展開
4. 食環境にかかわる組織・集団への栄養教育
- 第14週 III. 栄養教育の国際的な動向
1. 先進諸国における栄養教育
- 第15週 2. 開発途上国における栄養教育

使用教科書名

- 1) 健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論、丸山千寿子、足達淑子、武見ゆかり編 南江堂 2013
- 2) 子どもの食生活ー栄養・食育・保育ー上田玲子・酒井治子他編著 ななみ書房 2013

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教育総論、方法論、ライフステージ別栄養教育論などの理論を基に、様々な学習者に応じた多様な場での栄養教育のあり方について実習を通して学んでいく。特に、個人に対する栄養教育と、集団に対する栄養教育等、学習者の実態把握についても量的な質問紙調査とともに、質的調査を実施する能力を養うことができる授業である。

学習目標・到達目標

栄養教育総論、方法論、ライフステージ別栄養教育論などの理論を基に、社会的実践の一形態としての栄養教育実習を行う中で、修得した知識や技術の統合化を行い、総合的な展開力を養う。

評価方法その他

テスト60%、レポート20%、出席及び授業態度20%

週 テーマ・授業目標等

学習者(小集団と個人)の条件に対応し、栄養教育、ヘルスプロモーション等の理論をふまえた教育目標を設定。学習案の立案、ロールプレイングによる実施、評価までのプロセスをフルコースで行う。

使用教科書名

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教育を効果的に行なうには、専門知識を教育的理論に基づいて応用できなければならない。本実習では、対象の把握から実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を洗いだし、栄養教育の目標を設定し、教育実施にむけた計画が立てられ、適正な栄養教育を実践することができるような基礎知識・方法を学ぶ。

学習目標・到達目標

栄養教育総論や方法論での今までの学びより、本実習では、対象の把握から調査実施およびその評価にいたる一連のプロセスを理解し、方法を習得する。すなわち、対象者から得られたさまざまな情報を整理し、対象者の特性を的確に把握して、問題点を洗いだし、栄養教育の目標を設定し、教育の実施にむけた計画が立てられることを目標とする。

評価方法その他

レポート60%、グループワーク20%、平常点20%(平常点は授業への参加状況・グループワークへの参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 栄養教育のアセスメント
- 2 調査方法ー方法の決定
- 3 調査方法ー調査票作成
- 4 調査方法ー調査実施
- 5 情報の処理ーデータの特性を読む
- 6 情報の処理ーデータの関連性を知る
- 7 情報の処理ー解析方法
- 8 既存情報の収集と活用
- 9 栄養教育目標設定
- 10 栄養教育計画作成
- 11 教材作成
- 12 プレゼンテーション案作成
- 13 栄養教育の実施ーロールプレイング1
- 14 栄養教育の実施ーロールプレイング2
- 15 栄養教育の評価

使用教科書名

パソコン&データ活用法 林直樹・久保昌子・水井成美 東山書房

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

カウンセリングについての理解を深めるために、諸理論、心理アセスメントなどを学ぶ。また社会に出てから実践で役に立つカウンセリングの基本的な知識・姿勢・技術を面接実習や演習を通して身に付け、カウンセリングマインドを養うとともに、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を習得できることを到達目標とする。

学習目標・到達目標

カウンセリングの理論、技術を学び、カウンセリングマインド(人間関係を大切にする姿勢)を養うとともに、社会に出てから、管理栄養士として、栄養カウンセリングが実践できる能力を習得できることを到達目標とする。クラスでは理論だけでなく実際に役立つ事例を取り扱う。学生は実践に役立てるとともに、豊かな人間性の発達及び、社会適応能力の向上を目指す。

評価方法その他

平常点(30%)
レポート、提出物(60%)
その他(10%)
(平常点は授業への参加状況・討議への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.栄養教育におけるカウンセリングの位置づけ
栄養カウンセリングの効果
- 3.栄養カウンセリングのための実習プログラム
基本的事項
- 4.栄養カウンセリングのための実習プログラム
聴くときの視線、姿勢および態度
- 5.栄養カウンセリングのための実習プログラム
初回面接でのかわり行動
- 6.栄養カウンセリングのための実習プログラム
単純受容
- 7.栄養カウンセリングのための実習プログラム
理解したことを確認する
- 8.栄養カウンセリングのための実習プログラム
気持ちを受けとめる
- 9.心理アセスメント
面接によるアセスメント 行動観察によるアセスメント
- 10.栄養カウンセリングのための実習プログラム
クライアント役の体験
- 11.栄養カウンセリングのための実習プログラム
要約
- 12.栄養カウンセリングのための実習プログラム
開かれた質問と閉ざされた質問
- 13.栄養カウンセリングのための実習プログラム

使用教科書名

石井 均 編著「栄養士のためのカウンセリング論」建帛社

小松啓子・大谷貴美子編「栄養カウンセリング論」第2版 講談社

NO. G02045031

食情報表現演習

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会では情報伝達能力は必須である。自分の考えをまとめて効率よく人に伝達し理解してもらわなければならない。人間に一番大切と言っても過言ではない食の様々な情報を効率よく伝える事を本授業の目的とする。

学習目標・到達目標

2次元グラフィックスツールを学習し、食に関わる情報の処理、データの特性・関連性を知り、収集情報の分析と選択をする。最終的には媒体の制作を行う。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 1回目 授業のオリエンテーション、2次元CGの概要
- 2回目 課題1の説明、2次元CGの基礎
- 3回目 2次元CGの基礎—ツールを理解
- 4回目 2次元CGの基礎—プリミティブ図形の演習
- 5回目 2次元CGの基礎—図形の応用演習
- 6回目 2次元CGの基礎—曲線の演習
- 7回目 2次元CGの基礎—色彩の演習
- 8回目 総合課題
- 9回目 総合課題
- 10回目 既存情報の収集について
- 11回目 情報の処理 データの特性・関連性を知る
- 12回目 収集情報の分析と選択
- 13回目 収集した情報の活用
- 14回目 媒体作成
- 15回目 媒体作成
- 16回目 プレゼンテーション

使用教科書名

授業を行う際に資料を配布する。

NO. G02046031

臨床栄養学Ⅰ

斉藤 恵美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフとともにチームを組んで行われる。
その中で管理栄養士は多岐にわたる医学的素養を要求される。
臨床栄養学Ⅰでは、解剖生理学や病理学で学んだ知識を器官系別の主な疾患毎に再構築して、各疾患の病態・症状・診断・治療の基礎について学習する。

学習目標・到達目標

解剖生理学や病理学で学んだ知識を器官系別の主な疾患について整理し、各疾患の症状、診断・病態・治療について理解する。

評価方法その他

定期試験の成績で評価します。(100%)
15回の講義の内、正当な理由なく5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

- 1 循環器系1(心臓の形態・機能と主な疾患)
- 2 循環器系2(血管の形態・機能と主な疾患)
- 3 呼吸器系の形態・機能と主な疾患
- 4 消化器系の形態・機能と主な疾患
- 5 肝胆脾の形態・機能と主な疾患
- 6 内分泌系の形態・機能と主な疾患
- 7 代謝系の形態・機能と主な疾患
- 8 造血器系の形態・機能と主な疾患
- 9 アレルギー・自己免疫疾患
- 10 腎・尿路系の形態・機能
- 11 腎・尿路系の主な疾患
- 12 生殖器・乳腺・運動器の形態・機能と主な疾患
- 13 脳・神経系・感覚器の形態・機能と主な疾患
- 14 皮膚の機能と主な疾患～褥瘡と栄養
- 15 全体総括
- 16 試験

使用教科書名

カラーで学べる病理学(第4版)/渡辺照男/ヌーヴェル・ヒロカワ(1年次の病理学と同じテキスト)

NO. G02047031

臨床栄養学Ⅱ

斉藤 恵美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

入院患者の臨床病態における栄養マネジメントは、各方面の医療スタッフが協力してディスカッションしながら、施行されることが多くなってきている。このためには管理栄養士は多岐にわたる疾患群について確実な医学的素養を要求される。既に臨床栄養学Ⅰで履修した内容を基礎として、各病態に対する実践的な医学的知識を身につける。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験のガイドラインからみた、臨床栄養学分野に関する問題点を網羅的に学習し、将来的に、病院(管理)栄養士として勤務する場合を想定して、Nutrition Support Team(NST)の一員として活躍するための医学的基礎知識を習得する。

評価方法その他

定期試験の成績で評価します。(100%)
15回の授業のうち、正当な理由なく5回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

1. 栄養障害・肥満の病態と栄養マネジメント
2. 代謝疾患の病態
3. 代謝疾患の栄養ケア・マネジメント
4. 消化管疾患と病態
5. 消化管疾患の栄養ケア・マネジメント
6. 肝・胆・膵疾患の病態と栄養マネジメント
7. 循環器疾患の病態と栄養マネジメント
8. 腎・尿路疾患と病態
9. 腎・尿路疾患の栄養ケア・マネジメント
10. 呼吸器疾患・血液疾患の病態と栄養マネジメント
11. 骨疾患・免疫疾患・アレルギー疾患の病態と栄養マネジメント
12. 周術期およびクリティカルケアの病態と栄養マネジメント
13. 摂食機能障害・身体・知的障害の病態と栄養マネジメント
14. 小児疾患・産婦人科疾患の病態と栄養マネジメント
15. 老年症候群の病態と栄養マネジメント
16. 試験

使用教科書名

管理栄養士講座 三訂臨床栄養学Ⅱ/鈴木博ほか/建帛社/2015年

NO. G02048031

臨床栄養アセスメント論

金澤 良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

疾病者の病態を理解し、栄養評価、栄養管理の在り方を理解する。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態に基づいて、適切な栄養管理アセスメントが出来るようにする。

評価方法その他

出席、試験

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 医療制度、NST
- 3 栄養評価・身体計測
- 4 栄養評価・食事評価(1)
- 5 栄養評価・食事評価(2)
- 6 栄養ケア計画
- 7 肥満の栄養アセスメントと食事管理
- 8 糖尿病の栄養アセスメントと食事管理
- 9 高血圧の栄養アセスメントと食事管理
- 10 脂質異常症の栄養アセスメントと食事管理
- 11 腎疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 12 胃腸疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 13 肝臓臓疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 14 心疾患の栄養アセスメントと食事管理
- 15 まとめ

使用教科書名

新臨床栄養学栄養ケアマネジメント
栄養食事療法の実習

NO. G02049031

臨床栄養ケアマネジメント論

金澤 良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

各種疾病を理解し、栄養マネジメントについて学習する。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態に適した、栄養管理や栄養教育について学ぶ。

評価方法その他

出席 試験

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 消化器疾患(1)
- 3 消化器疾患(2)
- 4 内分泌代謝疾患(1)
- 5 内分泌代謝疾患(2)
- 6 内分泌代謝疾患(3)
- 7 循環器疾患(1)
- 8 循環器疾患(2)
- 9 腎臓疾患(1)
- 10 腎臓疾患(2)
- 11 肝臓、胆嚢、膵臓疾患
- 12 血液疾患
- 13 骨代謝疾患
- 14 術後の栄養管理
- 15 まとめ

使用教科書名

新臨床栄養学ケアマネジメント
栄養療法の実習

NO. G02050031

臨床栄養アセスメント実習

城田 直子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

疾病者の病態を理解し、身体計測などの栄養評価や安静時代謝、各種疾病の栄養管理指導の在り方、食事相談方法を実習する。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態に基づいて、適正な栄養管理アセスメントが出来るよう実習を行う。

評価方法その他

レポート、試験

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション
- 2.食事摂取量の評価(1)
- 3.食事摂取量の評価(2)
- 4.身体計測(1)
- 5.身体計測(2)
- 6.身体計測(3)
- 7.安静時代謝の測定(1)
- 8.安静時代謝の測定(2)
- 9.骨量の測定
- 10.身体活動量の算出
- 11.栄養評価の媒体作成(1)
- 12.栄養評価の媒体作成(2)
- 13.食事分析
- 14.食事分析の媒体作成
- 15.まとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

新臨床栄養学ケアマネジメント
栄養食事療法の実習

NO. G02051031

臨床栄養ケアマネジメント実習

金澤 良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

疾病者の病態の特徴に基づいた食事管理の方法や栄養指導方法について学ぶ。

学習目標・到達目標

疾病者の病態や栄養状態を把握し、適切な栄養管理について学ぶ。

評価方法その他

出席、レポート提出、試験

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 食糧構成について、易消化食の献立作成
- 3 糖尿病食品交換表、エネルギーコントロール食の献立作成
- 4 易消化食の調理実習
- 5 エネルギーコントロール食の調理実習
- 6 脂質コントロール食の献立作成
- 7 脂質コントロール食の調理実習
- 8 腎臓病食品交換表、治療用特殊食品の説明
- 9 たんぱく質コントロール食の献立作成
- 10 治療用特殊食品を用いた調理実習
- 11 減塩食の調理実習
- 12 たんぱく質コントロール食の調理実習
- 13 糖尿病性腎症の献立作成
- 14 糖尿病性腎症の調理実習
- 15 嚥下食の調理実習

使用教科書名

臨床栄養学栄養ケアマネジメント
栄養食事療法の実習

NO. G02052031

栄養治療学

金澤 良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

医療現場において活躍できる管理栄養士となれよう。各種病態の栄養管理について症例をとおして学ぶ。さらに患者教育のあり方や媒体作成など具体的患者指導が出来るよう授業を展開する。

学習目標・到達目標

各種疾病の栄養療法を習得する。

評価方法その他

試験、出席による総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 栄養評価と栄養補給法
- 3 糖尿病の栄養治療・症例検討
- 4 糖尿病腎症の栄養治療・症例検討
- 5 脂質異常症の栄養治療・症例検討
- 6 高血圧の栄養治療・症例検討
- 7 慢性腎臓病の栄養治療・症例検討
- 8 栄養治療のための媒体作成
- 9 栄養治療のための媒体作成
- 10 栄養治療のための媒体作成
- 11 透析療法の栄養管理
- 12 消化管術後の栄養治療
- 13 嚥下咀嚼と栄養管理
- 14 妊娠と栄養管理
- 15 まとめ

使用教科書名

NO. G02053031

公衆栄養学

田中 弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住民のQOLの向上と、健康の保持・増進のために、地域、国家のような集団・社会レベルで栄養問題と、それを取り巻く自然、文化、経済的要因との関連を分析し、あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能を養う。公衆栄養学では、特に、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状、課題及びそれらに対応した公衆栄養政策について理解を深める。

学習目標・到達目標

集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について基礎的な理解をする。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・1. 公衆栄養の概念、公衆栄養活動の意義
- 第2週・・・2. わが国の健康・栄養問題の現状と課題 1) 高齢社会と健康・栄養問題 2) 健康状態の変化
- 第3週・・・3) 国民健康・栄養調査の沿革
- 第4週・・・3) 国民健康・栄養調査の方法
- 第5週・・・4) 食事の変化
- 第6週・・・5) 食生活の変化
- 第7週・・・6) 食環境の変化 (1) 食品生産・流通面の要因
- 第8週・・・(2) 食情報の提供面の要因
- 第9週・・・3. わが国の栄養政策 1) 管理栄養士・栄養士養成制度
- 第10週・・・2) 食生活指針と食事バランスガイド、運動指針、休養指針
- 第11週・・・3) 健康日本21の背景と目標設定
- 第12週・・・3) 健康日本21の地方計画
- 第13週・・・4. 諸外国における健康・栄養問題 1) 現状と課題
- 第14週・・・2) 健康・栄養施策-1
- 第15週・・・健康・栄養施策-2

使用教科書名

公衆栄養学, 田中平三他編, 南江堂, 2010

NO. G02055031

公衆栄養学実習

田中 弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

公衆栄養学で学んだ理論を基に、集団の栄養問題、社会ニーズを把握するために、社会調査法を用いて公衆栄養学の観点から地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定の方法論を学ぶ。グループで設定した対象地域・者にあわせて、ディスカッションし、自分の意見を表現する力、意見をまとめる力を習得する。

学習目標・到達目標

集団や地域における健康・栄養問題とそれを取りまく自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析しそれらを総合的に評価・判定する能力を身につける。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(10%)、レポート(20%)、定期試験(60%)から総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・1. オリエンテーション(実習のねらい)
- 第2週・・・2. 健康増進計画の中での地域栄養計画の位置づけ
- 第3週・・・3. 地域栄養計画実習(各段階における具体的な進め方)
- 第4週・・・1) 地域特性の把握、体制づくり、社会資源との連携(住民参加)と多部門の参画の重要性
- 第5週・・・2) 上位目標(QOL、健康目標)の決定
- 第6週・・・3) 行動・ライフスタイルの診断
- 第7週・・・4) 準備、強化、実現、環境要因の診断(情報アプローチと環境アプローチの融合)
- 第8週・・・5) 運営・政策診断→事業の優先順位づけ
- 第9週・・・6) 事業計画の作成1
- 第10週・・・6) 事業計画の作成2
- 第11週・・・7) 評価計画の作成
- 第12週・・・8) 発表資料の作成
- 第13週・・・4. グループでの地域栄養計画案の発表と総合討議
- 第14週・・・4. ー2グループでの地域栄養計画案の発表と総合討議
- 第15週・・・まとめ

使用教科書名

公衆栄養学, 田中平三編, 南江堂, 2007

NO. G02054031

地域栄養活動論

田中 弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

公衆栄養マネジメントの概念、既存の理論的枠組みを理解し、公衆栄養プログラムの計画策定・実施する手法や技能を修得すると共に、具体的な公衆栄養プログラムについての理解を深める。地域住民を主体としたネットワークづくりや、食環境整備を含めた地域での公衆栄養活動の進め方について理解する。

学習目標・到達目標

わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策について理解する。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、定期試験(60%)、小テスト(毎授業内におけるテスト)(30%)などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・1. 公衆栄養マネジメントの概念とプロセス
- 第2週・・・2. 公衆栄養アセスメント
- 第3週・・・3. 住民参加とコミュニティ・オーガニゼーション
- 第4週・・・4. 公衆栄養活動のための法規
- 第5週・・・5. 公衆栄養マネージメント 1) 公衆栄養プログラムの実施と地域連携
- 第6週・・・2) 母子の公衆栄養プログラムの実際 1
- 第7週・・・2) 母子の公衆栄養プログラムの実際 2
- 第8週・・・3) 学童・思春期公衆栄養プログラムの実際
- 第9週・・・4) 成人・高齢者の公衆栄養プログラムの実際
- 第10週・・・5) 給食施設指導・食環境づくりプログラムの実際
- 第11週・・・6. 栄養疫学 (1)
- 第12週・・・6. 栄養疫学 (2)
- 第13週・・・7. 食事摂取基準 1) 概念
- 第14週・・・2) 活用ー1
- 第15週・・・活用ー2

使用教科書名

NO. G02056031

地域栄養活動演習

田中 弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、市町村、保険者、事業者、学校等の健康の増進に関わる各主体が、健康づくりに活用できる社会的資源の状況を踏まえた健康課題に対応した、個人の自発的な意志が関わる生活習慣の改善を促すための計画を提案し、実践・評価するまでの実践力を養う。

学習目標・到達目標

地域栄養活動論で学んだ、地域栄養活動をすすめるための理論や方法を基に、集団における栄養問題や、社会ニーズを把握するために社会調査法を用いて地域診断を行い、それに基づいて地域栄養計画策定のための方法論を学ぶ。また、その知識を活かすべく、地域での健康課題に対応した地域栄養活動に学生が実際に参画し、保健所などの実務者(管理栄養士など)とともに学ぶ中で、自らが計画を提案し、実践・評価するまで実践力を養うことを目的とする。

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(20%)、レポート(80%)などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション 地域栄養活動計画の策定方法
- 第2週 地域栄養活動計画の策定の実際
- 第3週 地域の特性について(1)
- 第4週 地域栄養活動支援法(2)ーコミュニティワークとはー
- 第5週 地域栄養活動支援法(3)ーコミュニティワークの展開ー
- 第6週 地域栄養活動支援法(4)ーネットワークづくりー
- 第7週 地域活動を支える人・組織及び課題
- 第8週 地域栄養活動計画演習(1)
- 第9週 地域栄養活動計画演習(2)
- 第10週 地域栄養活動計画演習(3)
- 第11週 地域栄養活動計画発表
- 第12週 グループインタビューを活用した質的調査法
- 第13週 グループインタビューを活用した質的調査の演習(1)
- 第14週 グループインタビューを活用した質的調査の演習(2)
- 第15週 グループインタビューを活用した質的調査の演習(3)

使用教科書名

NO. G02057031

国際栄養活動論

松田 正己

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

我が国の政治・経済は、国際的な環境の中で成立しており、日常生活もグローバル化の中で、国際的なことと切り離せない。国際的な場面における栄養士の活動を理解するため、幅広く、世界の保健協力の実情を理解し、将来の活動の場の広がり考えていく。

学習目標・到達目標

国際的な保健活動、栄養活動について学ぶ。特に、NCD(慢性非感染性疾患)、生活習慣病の予防対策は、世界の課題となりつつあるので、栄養士の果たす役割が大きくなりつつあることを実際に体感する。

評価方法その他

平常点(60点)とレポート(40点)

週 テーマ・授業目標等

- 1 国際保健とは 松田
- 2 「グローバルヘルス」、「食の歴史」(文献講読)、タイとPHC、ヘルスプロモーション 松田
- 3 結核、エイズ 松田
- 4 国際保健(アフリカ) 熱田
- 5 国際保健(アフリカ) 熱田
- 6 国際保健(アジア) 熱田
- 7 国際活動・アフリカ 熱田
- 8 国際保健(アジア) 熱田
- 9 栄養士と国際保健 西田美佐
- 10 栄養士と国際保健 西田美佐
- 11 栄養士と国際保健 西田美佐
- 12 栄養士と国際保健 西田美佐
- 13 グループ発表、もしくは青年海外協力協会、松田
- 14 グループ発表、もしくは青年海外協力協会、松田
- 15 イエメン、ホンデュラス、まとめ 松田

使用教科書名

NO. G02058031

フードシステム論

二瓶 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、私たち消費者に供給される商品が、生産から消費されるまでの流れを分断して考えるのではなく、それぞれのつながりを捉え、理解することを目指しています。その結果、フードシステムの各段階の機能と課題を把握することができ、将来、食産業で活躍する学生が、時代とともにどのような「フードシステム」が望ましいかを考え、実践できるスキルを身に付けることができるよう、カリキュラムを組んでいます。受講生は「フードシステム」等への理解を習得希望者を対象とし、より理解を深められるよう、テキストを中心に身近なテーマを題材にしながら、講義を進めていきます。

学習目標・到達目標

フードシステムとは、私たちが日ごと食す食べ物が生産され消費するまでの過程を言います。本講義では、テキストを中心にフードシステム全体と各段階の概念を理解するとともに、身近な問題とらえながら、フードシステムが時代とともにどのように変遷してきたかを考え、今後の「フードシステム」の望ましいあり方について、自分自身の考えを持てるようになることを目的とします。

評価方法その他

大学の規定に沿い、授業に6回以上出席することが定期試験を受ける条件とし、その上で定期試験の得点(100%)で評価します。なお、定期試験はノート及び配布資料など持ち込みはできません。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
 2. 食市場の変化①
 3. 食市場の変化②
 4. 食品の流通①
 5. 食品の流通②
 6. 外食・中食産業のマーチャンダイジング①
 7. 外食・中食産業のマーチャンダイジング②
 8. 主要食品の流通①
 9. 主要食品の流通②
 10. 主要食品の流通③
 11. フードマーケティング①
 12. フードマーケティング②
 13. 新しい食品消費の課題①
 14. 新しい食品消費の課題②
 15. 総括
- ＊開講日及び講義内容は、初回のガイダンスの際にアナウンスします

使用教科書名

日本フードスペシャリスト協会 編(2016)『新版 食品の消費と流通』建邦社

NO. G02059031

福祉栄養ケアマネジメント演習（児童）

酒井 治子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳児院、保育所、養護施設、障がい児・者施設、高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。1～4週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、そして咀嚼・嚥下機能の生涯発達と支援、さらに、5週以降は、児童・高齢者福祉現場での就職の希望者に応じて、就職後、即戦力となる能力を身につける。

学習目標・到達目標

子どもから高齢者まで、保健と福祉の両方の観点から、日常生活に根付いた栄養ケアマネジメントを理解する。

評価方法その他

平常点20% レポート80%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 栄養ケアマネジメントの仕組み(1)
2. 栄養ケアマネジメントの仕組み(2)
3. 保育所で期待される食育とは
4. 保育所における食育の内容
5. 保育所における食育の計画と評価(演習1)
6. 保育所における食育の計画と評価(演習2)
7. 保育所における食事の提供
8. 食を通した子育て支援
9. 保育所の役割と保育の原理
10. 子どもの発達と保育の内容(1)
11. 子どもの発達と保育の内容(2)
12. 保育の計画と評価(1)
13. 保育の計画と評価(2)
14. 食と保育の文化(1)
15. 食と保育の文化(2)

使用教科書名

坂崎：新保育所保育指針サポートブック 保育課程から指導計画作成まで、保育総合研究会監修、世界文化社、平成19年 12月15日

酒井：子どもの食生活、上田希子、酒井治子他、ななみ書房、2008年(応用栄養学実習で使

NO. G02059032

福祉栄養ケアマネジメント演習（高齢者）

吉野 知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

高齢者福祉施設での実践事例を基に、それぞれの現場での中心となる制度や法律の基礎から、栄養ケアマネジメントの実践力までを養う。1～2週は全体の栄養ケアマネジメントの仕組み、3週目以降は高齢者福祉施設に入所するご利用者に提供する介護サービスの実際と、その目的や効果を具体的な事例を基に学ぶ。

学習目標・到達目標

保健と福祉の両方の観点から、日常生活に根付いた栄養ケアマネジメントを理解する。介護保険制度における高齢者福祉施設の役割や課題を理解するとともに、栄養士をはじめ、介護職員や看護職員、生活相談員や介護支援専門員など他職種との連携による質の高い介護サービスの実現に向けた取り組みを学び、理解する。

評価方法その他

平常点(40%)、レポート(60%)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 栄養ケアマネジメントの仕組み(1)
2. 栄養ケアマネジメントの仕組み(2)
3. 高齢者が陥りやすい症状(1)脱水、低栄養
4. 高齢者が陥りやすい症状(2)褥瘡、摂食・嚥下障害
5. 高齢者ケアにおける食事のポイント
6. 栄養補助食品の種類と活用
7. 栄養ケアマネジメントの実際(1)施設
8. 栄養ケアマネジメントの実際(2)在宅
9. チームケアの基本となるコミュニケーション
10. 品質管理
11. 高齢者福祉施設におけるリスクマネジメント
12. 施設サービス計画書のつくりかた
13. 高齢者施設における看取り介護
14. 要介護高齢者に対する食事介助などの介護技術
15. 要介護高齢者の食事形態(経管栄養・ソフト食など)

使用教科書名

在宅訪問栄養ハンドブック/ライフメディアコム

NO. G02061032

給食経営管理実習

城田 直子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食経営管理論の理論を実践する。特にこの実習では生産管理を中心に学ぶ。給食経営の理念や目標を明確にし、対象者のニーズに応じ、栄養給与目標に従った「食事」という製品を作る。HACCPの概念に基づいた作業工程表を作成し、製品の品質管理および経営管理（コスト、労務、食材、施設・設備、時間、顧客、危機、情報）を行う。

学習目標・到達目標

給与栄養目標値、喫食者の嗜好などをかまえ、条件に応じた給食の生産管理を実施できる。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
(実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 実習ガイダンス 給食システム計画 給食の理念と目標
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画 献立計画 食材・発注管理
4. 衛生安全管理 生産管理 作業工程管理
5. 品質管理 評価
6. 試作
7. 試運転
8. 第1回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
9. 第2回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
10. 第3回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
11. 第4回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
12. 第5回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
13. 第6回給食運営(運営・サポート・評価・ホール)
14. 総合評価
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

NO. G02062031

健康フードマネジメント論

吉野 知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

対象者に応じたフードサービスという視点から、栄養アセスメントからはじまる栄養管理（栄養計画、食事計画）という給食経営・生産（会計、財務、品質評価等）における理論を学ぶ。また各種給食施設の特徴を学び、具体的に献立管理や生産に関しても理解を深め、給食経営管理実習に繋げる。また3年生が運営する給食を喫食することを原則とし、実際の給食を例にあげて解説する。

学習目標・到達目標

給食経営管理におけるマーケティング、外食産業・給食デリバリーサービスおよび各種給食施設の運営上の特徴と管理栄養士の役割を説明できる。

評価方法その他

定期試験の得点(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 給食経営管理の基礎1 給食管理の基本、人事管理、会計管理
3. 給食経営管理の基礎2 給食経営のアウトソーシング
4. 給食経営管理の基礎3 フードビジネス・外食経営の動向
5. 給食経営情報と活用1 給食におけるマーケティングと顧客情報管理
6. 給食経営情報と活用2 メニューのマーチャンダイジング
7. 給食経営情報と活用3 危機管理、給食のシステム化と施設・設備
8. 給食経営計画の展開とポイント1 栄養・食事計画と生産管理
9. 給食経営計画の展開とポイント2 提供サービス計画
10. 給食経営計画の展開とポイント3 品質管理と評価
11. 給食経営の実際1 各種給食施設の経営① 病院・学校
12. 給食経営の実際2 各種給食施設の経営② 福祉施設・事業所
13. 対象集団のアセスメント1
14. 対象集団のアセスメント2
15. まとめ(関連法規含む)
16. テスト

使用教科書名

実践 給食マネジメント論/高城孝助・三好恵子・松月弘恵編著/第一出版

NO. G02063031

健康フードマネジメント実習

城田 直子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康フードマネジメント論の理論を実践する。給食経営管理実習を発展させ、実際に対象者の栄養アセスメントや食行動スタイルを踏まえ、うえで栄養計画を立案し、給食運営をマネジメントする。「給食を好ましい食べ方」の気づきとなる栄養教育媒体ととらえ、モデルとしての食事提案とそのテーマにあった栄養情報の提供を行う。また、生産管理では特にHACCPシステムの理解と厨房設備のドライシステムの運用を習得する。さらに提供料理の品質測定を行いQC活動へと発展させる。

学習目標・到達目標

給食運営において、基本食から目的に応じた献立展開ができ、複数の種類の生産管理と品質管理を実施できる。

評価方法その他

実習点(80%)、定期試験(20%)
(実習点は授業への参加状況、実習技能、班のチームワークと貢献度、班の作成ファイル等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 実習ガイダンス 経営計画
2. 栄養管理計画・栄養教育計画
3. 食事計画 献立計画 食材・発注管理
4. 衛生安全管理 生産管理
5. 作業工程管理
6. 品質管理 評価活動
7. 試作
8. 第1回給食運営
9. 第2回給食運営
10. 第3回給食運営
11. 第4回給食運営
12. 第5回給食運営
13. 第6回給食運営
14. 総合評価 まとめ
15. ライフステージ別栄養・食事管理について
16. テスト

使用教科書名

給食マネジメント実習/松月弘恵、韓順子、亀山良子/医歯薬出版

NO. G02064031

食・空間プロデュース論

大富 あき子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

国内外の食事の文化や料理様式はもとより、食事空間全体のインテリア、食器やテーブルウェア、そしてそれらのテーブルコーディネートの方法、また消費者の食に関する最近のトレンドやニーズなど、心地よく食べるための環境作りをトータルで学ぶ。これまでに学んだ管理栄養士の視点を生かしながら、食事空間の環境づくりの課題について、グループで企画・演出、提案を通して実践力を養う。学内での実習や校外見学に係る経費（実習材料費、交通費等）は、自己負担になります。

学習目標・到達目標

「食事」はくつろぎの場であり、人と人を結び場としても機能する。気持ちよく食事をするために必要なマナーや心構えを理解し説明することが出来るようになる。
心地よい食事の場を構築できるよう、食材の色・食器・空間・飾り花などの工夫を実習等で実践出来るようになる。

評価方法その他

平常点(60%)、レポート(40%)
なお、平常点は授業への参加状況、提出物、プレゼンテーションへの取り組み状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食事空間・テーブルコーディネートとは
3. 日本の食事の歴史・文化・様式について
4. 外国の食事の歴史・文化・様式について
5. フードサービスマネジメントとは、マーケティング手法による企画立案の方法
6. 食の企画書作成・提出
7. 食事空間やキッチン環境 校外見学ガイダンス
8. 校外見学1 食事空間の最新設備
9. 校外見学2 キッチンの最新設備
10. テーブルコーディネートの方法、テーブル花の飾り方等
11. 食器とテーブルウェア 盛り付け方の工夫
12. クリスマスリース作り
13. 日本の伝統的な食材(鯉節)
14. 食の企画のプレゼンテーション
15. 半年間のまとめ

使用教科書名

特に指定しない

NO. G02065031

健康栄養プロデュース実習

城田 直子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士に必要な3年次の臨地実習の前に、様々な実践活動の場で組織の役割を学び、人々を取り巻く社会構造への認識を深め、将来の管理栄養士の立場からヒューマンサービスの意義を理解する。「食」を通してあらゆるライフステージに適した生活を創造できる人材を育成するために、乳幼児から高齢者に至る様々な健康状態の人々の健康づくりをプロデュースできる管理栄養士を目指す。

学習目標・到達目標

実践活動の場での管理栄養士および栄養士の位置付け、組織、役割、業務、食を通じた取り組み、他職種との連携、情報発信や地域とのかわり等を理解し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、プロデュース能力の向上を図る。

評価方法その他

実習先からの評価を参考に、授業態度や実習日誌の記入、その他提出物等を総合的に判断する。

単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。

ただし、実習先での事前オリエンテーション・実習を欠席した場合、学内講義出席日数

週 テーマ・授業目標等

1. 実習の概要(前年度報告会)
2. 実習ガイダンス、実習計画
3. 事前学習(1)
4. 事前学習(2)
5. 事前学習(3)
6. 事前学習(4)
7. マナー講習
8. 学外施設での実習
9. 学外施設での実習
10. 学外施設での実習
11. 学外施設での実習
12. 学外施設での実習
13. 学外施設での実習
14. まとめ
15. 実習報告会

使用教科書名

管理栄養士の学外実習の手引き(配付)

NO. G02067031

臨床栄養Ⅰ 臨地実習

金澤 良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

事前学習（学内）、病院での実習、実習後（学内）の学習を行う。

学習目標・到達目標

病院で実習を行う。病院のシステム、医療スタッフとしての関わり、ベットのサイドへの訪問など、病院管理栄養士の業務や患者の栄養アセスメント、栄養マネジメントについて2週間の学外実習で学ぶ。

評価方法その他

実習状態、レポート

週 テーマ・授業目標等

(事前学習)

学内での事前学習

実習施設における事前集中講義

(2週間の実習)

実習施設での実習

(事後学習)

グループでの発表準備、まとめ、媒体作成

使用教科書名

NO. G02066031

給食運営臨地実習

吉野 知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

履修条件：以下の指定科目を3科目以上取得していること
食品衛生学、給食経営管理論、健康フードマネジメント論、給食経営管理実習

特定給食施設において給食の運営を学ぶ。給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービスの提供に関する技術を得得する。具体的には小学校、事業所、高齢者福祉施設のいずれかにおいて給食の運営に関する管理技術、栄養・食事計画の立案能力、給食業務に関する情報処理能力等を得得する。

学習目標・到達目標

特定給食施設(事業所、介護保健施設、病院、小学校、保育所)において、給食運営を行うために必要な、食事計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を身につけることができる。

評価方法その他

実習施設での指導者の評価、実習報告書の内容を総合的に評価する。単位を取得できた場合の成績評価はP(合格)とする。

週 テーマ・授業目標等

1.事前学習

学内での事前課題学習

実習施設による事前集中講義

2.実習内容

各施設の給食運営について

①施設の概要・特徴

②給食部門の組織、経営管理

③栄養管理・献立管理

④食材管理・生産管理・衛生管理

3.事後学習

実習課題・報告書の提出

報告会

使用教科書名

NO. G02068031

臨床栄養Ⅱ 臨地実習

金澤 良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

臨床栄養Ⅰ 臨地実習終了後の実習となる。

学習目標・到達目標

医療チームの一環として加わり、患者の栄養アセスメントとその判定、それに適した栄養ケアプランの作成、治療の実施と評価のプロセスの詳細などについて、臨床栄養Ⅰ 臨地実習後、さらに1週間の実習で学ぶ。

評価方法その他

実習状態、レポートなど

週 テーマ・授業目標等

(1週間の実習)

実習施設での実習

使用教科書名

NO. G02069031

公衆栄養臨地実習

田中 弘之

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得すること

学習目標・到達目標

- 1). 区市町村
目標
区市町村における地域診断の方法を理解するとともに、住民への身近なサービスである健康日本21、食育推進活動及び母子保健活動を通じた健康づくり対策を知る。
健康、健康教育

評価方法その他

平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合判断する(10%)、グループワークへの積極性(20%)、レポート(70%)などから総合的に評価する

週 テーマ・授業目標等

1. 市町村
(1)実態把握及び分析
(2)計画の策定及び事業の施策化
(3)評価
(4)ライフステージに応じた生活習慣の改善に関する取組
(5)健康なまちづくり
(6)人材及び住民組織の育成
(7)連携体制づくり
(8)健康危機管理
(9)その他業務に関連する法律(健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等)
2. 保健所
(1)実態把握及び分析
(2)計画の策定及び事業の施策化
(3)評価
(4)専門的な栄養指導、食生活支援
(5)特定給食施設等への指導
(6)食生活に関する正しい知識の普及
(7)充実した食環境の整備
(8)市町村に対する技術的な支援
(9)人材育成
(10)連携体制づくり
(11)健康危機管理
(12)その他業務に関連する法律(健康増進法、母子保健法、食育基本法、地域保健法等)

使用教科書名

NO. G02070031

実践健康栄養プロデュース実習

健康栄養学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

所属する研究室において、管理栄養士としての自分の進路を見つけ出すことができるように、管理栄養士が広く活躍する場を踏まえた社会での実践体験を含む研究課題とする。学生が研究課題を理解し、社会で求められているニーズを把握し、実践力を養うことで、社会に貢献することを学ぶ。

学習目標・到達目標

4年間の学業の集大成とし、進路を切り開くことができる「自ら考え実行する力」を身につける。

評価方法その他

週 テーマ・授業目標等

第1週 オリエンテーション

第2週 ～ 第14週 所属する研究課題

第15週 発表

使用教科書名

NO. G02071031

総合演習Ⅰ（3年）

吉野 知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

臨地実習前の事前学内ガイダンスと各班の実習テーマに関する事前準備を行う。病院、事業所、小学校、高齢者福祉施設、介護保健施設、保健所等実習先の指導者から講義を受け、社会における管理栄養士の役割や業務について理解する。

学習目標・到達目標

実習先の特徴や概要を把握し、実習に必要な基本的事項や管理栄養士の使命や役割について、理解し説明できる

評価方法その他

平常点、レポートから総合的に評価する。
(平常点は授業への参加の状況・意欲から総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.総合ガイダンス:臨地実習の概要説明(2年次実施)
2.ガイダンス:臨地実習に向けて全体ガイダンス
3.外部講師による事前講義(1):給食運営 介護保険施設
4.外部講師による事前講義(2):給食運営 事業所
5.外部講師による事前講義(3):給食運営 保育園
6.外部講師による事前講義(4):給食運営 小学校
7.外部講師による事前講義(5):公衆栄養 保健所・保健センター
8.外部講師による事前講義(6):臨床栄養 病院
9.報告会
10.事前準備(1):給食運営臨地実習
11.事前準備(2):給食運営臨地実習
12.事前準備(3):公衆栄養臨地実習
13.事前準備(4):公衆栄養臨地実習
14.事前準備(5):臨床栄養臨地実習
15.事前準備(6):臨床栄養臨地実習

使用教科書名

NO. G02072032

総合演習Ⅱ（4年）

金澤 良枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実習先の指導者を招き、講義をととして管理栄養士の専門性、仕事について再確認し学ぶ。
各臨地実習（給食運営、公衆栄養、臨床栄養）について、体験した内容について発表報告会を実施する。

学習目標・到達目標

各臨地実習から得た経験をより明確にし、管理栄養士仕事・役割や社会的立場を学ぶ。

評価方法その他

臨地実習評価をもとに合否を決定する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 就職活動とマナー
3. 働くときに役立つ知識
4. 実習先指導者による講義
5. 実習先指導者による講義
6. 実習先指導者による講義
7. 実習先指導者による講義
8. 実習先指導者による講義
9. 実習先指導者による講義
10. 実習先指導者による講義
11. 事後学習
12. 報告会
13. 報告会
14. 報告会
15. 報告会
15. 報告会

使用教科書名

NO. G02073031

海外文献抄読演習

橋本 文子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書の各ユニットでは、Vocabulary Studyで語彙の学習をし、Listening Activity, Reading Activityを通して食物や健康に関するトピックについて理解を深めます。Building Vocabulary through Picturesで基本動詞のイメージの確認と理解を深め、Vocabulary Exerciseで英語で表現する練習をします。

学習目標・到達目標

食物や健康に関して英語で書かれた会話や読み物を学習していくことで、英語のバランスのとれたコミュニケーション能力の養成を目指します。

評価方法その他

定期試験60%、平常点40%で総合的に評価します。（平常点は授業への積極的な参加、課題の発表などから総合的に判断します。）

週 テーマ・授業目標等

- 1 Introduction
- 2 Unit 1 Fuel Your Body and Mind (1)
- 3 Unit 1 Fuel Your Body and Mind (2)
- 4 Unit 1 Fuel Your Body and Mind (3)
- 5 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away? (1)
- 6 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away? (2)
- 7 Unit 2 What Helps Keep a Doctor Away? (3)
- 8 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy (1)
- 9 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy (2)
- 10 Unit 3 Laughing Will Save You from Going Crazy (3)
- 11 Unit 4 The French Paradox (1)
- 12 Unit 4 The French Paradox (2)
- 13 Unit 4 The French Paradox (3)
- 14 これまでのまとめ
- 15 これまでのまとめ
- 16 定期試験

使用教科書名

Better Health for Every Day / KINSEIDO / 2014年

NO. G02075031

食物・栄養演習A

辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら学ぶ。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他

定期試験（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲）

週 テーマ・授業目標等

1. 社会・環境と健康
2. 人体の構造と機能
3. 人体の構造と機能
4. 人体の構造と機能(生化学)
5. 食べ物と健康
6. 食べ物と健康
7. 基礎栄養学
8. 応用栄養学
9. 応用栄養学
10. 栄養教育論
11. 臨床栄養学
12. 臨床栄養学
13. 公衆栄養学
14. 公衆栄養学
15. 給食経営管理論
16. 定期試験

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説(メディックメディア)及びその他プリント

NO. G02074031

実践栄養英会話

マーク ルイス

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この中級英会話授業では、健康と栄養に焦点を当てスピーキングとリスニングにおける会話のパターンを練習する。学生は与えられた会話モデルをクラスメートとともに実際に練習する。

学習目標・到達目標

この授業の内容は簡単な自己紹介から複雑な会話トピックまでを扱う。受講生は健康と栄養に関するディスカッションに徐々に慣れていくことを目指す。

評価方法その他

出席40%とパートナーとの最終インタビューの結果60%により評価する。最終インタビューでは日常的な英会話パターンを使えるかどうかを確認する。

週 テーマ・授業目標等

- Week 1: How was your spring vacation?「今年の春休みはどうでしたか？」
- Week 2: Do you like studying? / What are your goals for this semester?「勉強は好きですか？／この学期のあなたの目標はなんですか？」
- Week 3: How often do you visit a doctor/dentist?「どのくらいの頻度で医者／歯医者に診てもらいますか？」
- Week 4: How often do you exercise? What kind of exercise do you like?「どのくらいの頻度で運動しますか？あなたの好きな運動は何ですか？」
- Week 5: Do you take any vitamin supplements?「ビタミンのサプリメントは摂っていますか？」
- Week 6: Do you try to eat a lot of fruits and vegetables?「果物や野菜はたくさん食べるようにしていますか？」
- Week 7: Have you ever eaten out with friends in Yokohama?「友だちと横浜で外食したことがありますか？」
- Week 8: When did you last go to a hair salon?「最後に美容院に行ったのはいつですか？」
- Week 9: Do you work? How many hours per week do you work?「あなたは働いていますか？週に何時間働きますか？」
- Week 10: Do you like going out for a drink or eating out with friends?「友だちと飲みに行ったり食事に行くことは好きですか？」
- Week 11: Are you worried about anything at the moment?「今、心配なことはありますか？」
- Week 12: Do you get along with your father?「お父さんとはうまくやっていますか？」
- Week 13: Do you believe in fortune telling?「占いを信じますか？」
- Week 14: Have you ever seen the Milky Way Galaxy?「天の川を見たことがありますか？」

使用教科書名

なし

NO. G02076031

食物・栄養演習B

辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら講義を行う。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他

定期試験（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲が100%）

週 テーマ・授業目標等

1. 社会・環境と健康
2. 人体の構造と機能
3. 人体の構造と機能
4. 人体の構造と機能(生化学)
5. 食べ物と健康
6. 食べ物と健康
7. 基礎栄養学
8. 応用栄養学
9. 応用栄養学
10. 栄養教育論
11. 臨床栄養学
12. 臨床栄養学
13. 公衆栄養学
14. 公衆栄養学
15. 給食経営管理論
16. 定期試験

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説(メディックメディア)及びその他プリント

NO. G02077031

食物・栄養演習C

辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題等を利用しながら講義を行う。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他

定期試験（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲が100％）

週 テーマ・授業目標等

1. 社会・環境と健康
2. 人体の構造と機能
3. 人体の構造と機能
4. 人体の構造と機能（生化学）
5. 食べ物と健康
6. 食べ物と健康
7. 基礎栄養学
8. 応用栄養学
9. 応用栄養学
10. 栄養教育論
11. 臨床栄養学
12. 臨床栄養学
13. 公衆栄養学
14. 公衆栄養学
15. 給食経営管理論
16. 定期試験

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）及びその他プリント

NO. G02078031

食物・栄養演習D

辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他

定期試験（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲が100％）

週 テーマ・授業目標等

1. 社会・環境と健康
2. 人体の構造と機能
3. 人体の構造と機能
4. 人体の構造と機能（生化学）
5. 食べ物と健康
6. 食べ物と健康
7. 基礎栄養学
8. 応用栄養学
9. 応用栄養学
10. 栄養教育論
11. 臨床栄養学
12. 臨床栄養学
13. 公衆栄養学
14. 公衆栄養学
15. 給食経営管理論
16. 定期試験

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）及びその他プリント

NO. G02079031

食物・栄養演習E

辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士国家試験科目である社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論について、過去問題、練習問題等を利用しながら出題ポイントを解説する。

学習目標・到達目標

管理栄養士国家試験における合格基準を満たすため、各出題領域での知識を確実にする。

評価方法その他

定期試験（授業内で行った管理栄養士国家試験出題範囲が100％）

週 テーマ・授業目標等

1. 社会・環境と健康
2. 人体の構造と機能
3. 人体の構造と機能
4. 人体の構造と機能（生化学）
5. 食べ物と健康
6. 食べ物と健康
7. 基礎栄養学
8. 応用栄養学
9. 応用栄養学
10. 栄養教育論
11. 臨床栄養学
12. 臨床栄養学
13. 公衆栄養学
14. 公衆栄養学
15. 給食経営管理論
16. 定期試験

使用教科書名

クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説（メディックメディア）及びその他プリント

NO. G02080031

運動生理学

江川 賢一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

身体運動を行ったときには、その運動を遂行するのに最も適した状態となるように身体が変化する。また、ある種のトレーニングを長期間継続すると、その運動を行うのに適した身体に変化する。このような一過性または継続的な運動の身体に対する影響を、生理学的観点から捉えていくのが本講義の目的である。特に健康との関りで、「運動処方」につながる話が中心となる。

学習目標・到達目標

運動を行ったとき身体に起こる変化を数値で理解する。健康のための運動、競技のための運動、リハビリのための運動などについて違いを理解する。

評価方法その他

中間試験（50％）と期末試験（50％）による

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス（1章）
- 2 健康と運動（2章）
- 3 運動時のエネルギー（3章）
- 4 運動と筋・骨（4章）
- 5 運動と循環器（5章）
- 6 運動と呼吸器（6章）
- 7 運動と神経（7章）
- 8 効果的な運動プログラム（8章）中間試験
- 9 運動と体温調節（9章）
- 10 スポーツと栄養概論（10章）
- 11 スポーツと栄養各論（11章）
- 12 運動負荷テスト（12章）
- 13 運動処方（13章）
- 14 運動療法（14章）
- 15 運動障害（15章）
- 16 期末試験

使用教科書名

山本順一郎（2014）エクサパート管理栄養士養成シリーズ16運動生理学（第3版）、化学同人、

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前半は発達心理学の基本的な知識を学びます。後半は、乳幼児期の心身の発達や対人関係の特徴、栄養面や食事介助の悩みなど発達心理学と実際の子どもの食事を関連づけて取り上げます。

学習目標・到達目標

発達心理学の基本的な知識を身に付ける。
健康や食発達に関する視野を広げる。
健康な食生活を送るために、講義で学んだ知識を活用する。

評価方法その他

平常点10％、定期試験90％。（平常点は授業への出席、定期試験は筆記テスト）

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション:授業の進め方・授業で扱うテーマの説明
2. 乳児期の発達心理学
3. 幼児期の発達心理学
4. 児童期の発達心理学
5. 青年期の発達心理学
6. 成人期・老年期の発達心理学
7. 文化と学習
8. 乳幼児期における食と心の関わり
9. 乳幼児期における食事の意義
10. 授乳期の食べる機能・栄養と食支援
11. 離乳期の食べる機能・栄養と食支援1:栄養指導・離乳の進め方・食べる機能の発達・食器具など
12. 離乳期の食べる機能・栄養と食支援2:離乳期の食事・献立・ベビーフード・口腔の成長など
13. 幼児期の食べる機能・栄養と食支援
14. 特別な支援が必要な子どもへの食支援
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

心・栄養・食べ方を育む乳幼児の食行動と食支援(2008)
基野結郎・向井美恵・今村榮一 監修 医歯薬出版株式会社

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食も含めた中食・外食の運営管理はフードサービスビジネスの1つである。国内外の中食・外食の動向や食のトレンドを学ぶ。また、食マーケットや市場が求めるメニューについての最新情報から商品開発の動向を知る。さらに、商品に付加価値をつけるサービスとホスピタリティを理解して、総合的にフードサービスを考える。

学習目標・到達目標

国内外の食糧事情を含め中食・外食の動向とサービスの実態を理解する。食のトレンド、商品の付加価値、ホスピタリティについて理解し、推薦する店舗や同業種の比較に関するプレゼンテーションや新商品の提案ができる。

評価方法その他

平常点(50％)、プレゼンテーション(50％)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加、レポートの提出等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. フードサービスビジネスの概念
3. サービスとホスピタリティ
4. 食生活の領域と現状:内食・中食・外食
5. データから読むフードサービスビジネス①海外の食糧事情
6. データから読むフードサービスビジネス②国内の食糧事情
7. 商品・メニューのマーケティング
8. 中食・外食産業最前線
9. 食の最新トレンド情報・ヒット分析
10. 市場調査法
11. 情報収集法
12. プレゼンテーション①店舗紹介
13. プレゼンテーション②新商品企画
14. プレゼンテーション③企業比較紹介
15. まとめ

使用教科書名

プリント配付

NO. G0003001

インターンシップ（3年次）

金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1～2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。本習先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

成果報告書70%
平常点30%

週 テーマ・授業目標等

前期

1回目:本授業の全体説明

2回目:1回目と同じ内容

*1回目と2回目は同じ内容なので、学生はどちらか一方に参加すること。

3回目:インターンシップとは

4回目:成果報告書からインターンシップのイメージを把握する

5回目:先輩から聞くインターンシップの実像を知る

6回目:インターンシップに向けたエントリーシートの書き方

7回目:ビジネススマナー(1)外部講師予定

8回目:ビジネススマナー(2)同上

9回目～15回目:個別対応

後期

1回目～2回目:インターンシップの振り返り

3回目～4回目:インターンシップを今後に生かす

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094001

キャリアデザインA

金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。本授業では、単に職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。
興味を持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述できる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題4～5回(40%)

週 テーマ・授業目標等

1.イントロ:授業概要の説明

2.大学での学びと働く

3.社会の多様な働き方

4.「社会にでる」ってどういうこと

5.学びと社会のつながりを知る

6.多様な働き方を知る

7.職種・業種を知る

8.会社を知る

9.チームワークを知る

10.リーダーシップを知る

11.社会に求められる能力

12.会社・職種・業界を知る

13.レポート作成について

14.仕事人生40年を考える

15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095001

キャリアデザインB

金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというどうしても個人の考えから始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60%)
宿題4～5回(40%)

週 テーマ・授業目標等

1.イントロ:授業概要について

2.キャリア教育とは何か

3.働くとは

4.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える

5.これまでとこれからの時代の流れを知る

6.社会についてわかっていないことを考える

7.社会を知ろう

8.やりたいことのうそ

9.幸せとは

10.職種・業界について考える

11.会社とは

12.良い会社とは

13.レポート作成について

14.キャリアプレゼンマについて

15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G03001001

生活デザイン演習A

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科の教育の入門編として、オリエンテーションミーティングでのグループ活動の報告をする。また、学外イベントの企画と実行に携わり、その活動を通して、本学の学生としての所属意識を高め、チームとして活動すること、及び地域の方と協働することを経験する。更に、その活動報告を通して、プレゼンテーションの方法や技術を学ぶ。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科の学生であることを自覚し、今後の大学生活に必要なことを理解する。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業内容の説明／オリエンテーションミーティング報告準備

2. オリエンテーションミーティング報告会

3. 自分と友達を知る 1

4. 自分と友達を知る 2

5. 大学と生活デザイン学科を知る 1

6. 大学と生活デザイン学科を知る 2

7. 「さがみはら環境まつり」参加準備 1

8. 「さがみはら環境まつり」参加準備 2

9. 「さがみはら環境まつり」参加準備 3

10. 「さがみはら環境まつり」参加準備 4

11. 「さがみはら環境まつり」への参加

12. 「さがみはら環境まつり」活動報告会の準備

13. 「さがみはら環境まつり」活動報告発表会

14. 1年次前期の振り返り(今後の大学生活に向けて)1

15. 1年次前期の振り返り(今後の大学生活に向けて)2

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03002001

現代生活論（生活デザイン学科）

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科の各領域に関わる問題について、共通のテーマに基づき、学科の各教員が各々の専門分野の立場から講義を行う。様々な立場からの講義を通して、生活デザインに関する問題は、多角的・複合的な視点で考える必要があることを理解し、現代の生活における「生活デザイン」の意義と役割を考える。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶことの相互の関係を理解し、その意義を再認識できること。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業内容の解説と授業日程の説明
2. 生活デザイン学科で学ぶこと①
3. 生活デザイン学科で学ぶこと②
4. 生活デザイン学科で学ぶこと③
5. 生活デザイン学科で学ぶこと④
6. 生活デザイン学科で学ぶこと⑤
7. 生活デザイン学科で学ぶこと⑥
8. 生活デザイン学科で学ぶこと⑦
9. 生活デザイン学科で学ぶこと⑧
10. 生活デザイン学科で学ぶこと⑨
11. 生活デザイン学科で学ぶこと⑩
12. 生活デザイン学科で学ぶこと⑪
13. まとめ①
14. まとめ②
15. レポート作成

・授業日程の詳細については初回授業で告知します。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03003001

卒業研究A

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標・到達目標

衣・食・住・ものの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。

評価方法その他

- 1)研究要旨の可否判定
- 2)発表会におけるプレゼンテーションの可否判定
- 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

週 テーマ・授業目標等

1. 指導教員による個別指導(1)
2. 指導教員による個別指導(2)
3. 指導教員による個別指導(3)
4. 指導教員による個別指導(4)
5. 指導教員による個別指導(5)
6. 指導教員による個別指導(6)
7. 指導教員による個別指導(7)
8. 指導教員による個別指導(8)
9. 指導教員による個別指導(9)
10. 指導教員による個別指導(10)
11. 指導教員による個別指導(11)
12. 指導教員による個別指導(12)
13. 発表要旨の作成
14. プレゼン作品・資料の作成
15. 分野別発表会におけるプレゼン

使用教科書名

NO. G03004001

卒業研究B

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究の履修には、3年次終了時点で、卒業要件単位を90単位以上修得していることを条件とする。修得単位が90単位未満の場合は、90単位以上を修得した次の学期より卒業研究を履修することができる。卒業研究の内容は、家政学及びそれに関連する分野とする。形式は、論文、計画設計図書、制作等、いずれの形式でも差し支えないが、教員の指導によるものとする。なお、共同研究の場合は、各自分担を明確にすることを条件とする。

学習目標・到達目標

衣・食・住・ものの分野のうちの一つの分野について、1)より進んだ専門知識を持ち、活用する事ができ、問題点の設定と論理的な思考に基づき自らの見解を築くことができる。2)問題意識を持ち、主体的に取り組むとともに他人と協力し、その解決に取り組むことができる。3)習熟した技能に基づき、自らの考えを的確に形として表現できる。

評価方法その他

- 1)研究要旨の可否判定
- 2)発表会におけるプレゼンテーションの可否判定
- 1),2)全てに合格した場合、総合的(100%)に評価する

週 テーマ・授業目標等

1. 指導教員による個別指導(1)
2. 指導教員による個別指導(2)
3. 指導教員による個別指導(3)
4. 指導教員による個別指導(4)
5. 指導教員による個別指導(5)
6. 指導教員による個別指導(6)
7. 指導教員による個別指導(7)
8. 指導教員による個別指導(8)
9. 指導教員による個別指導(9)
10. 指導教員による個別指導(10)
11. 指導教員による個別指導(11)
12. 指導教員による個別指導(12)
13. 発表要旨の作成
14. プレゼン作品・資料の作成
15. 分野別発表会におけるプレゼン

使用教科書名

NO. G03005001

テキスタイル材料学

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちの生活に欠くことのできない被服を科学的に考えるためには、被服材料の性能を正しく理解することが必要である。この講義では、原料となる繊維、繊維からなる糸、糸を組み合わせた織物・編物の構造と代表的な衣料用繊維の性質について解説し、被服材料の物理・化学的性質と性能について理解する。

学習目標・到達目標

被服材料に用いられる代表的な衣料用繊維の構造や特性について理解する。更に、布帛は糸により構成され、糸は繊維の集合体であることを理解し、被服の性能はそれらの構造と性質が複合して発現していることを学び、被服を科学的に捉える思考を身につける。

評価方法その他

定期試験80%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. テキスタイル材料学って何？
2. 被服着用目的と被服の消費性能
3. 繊維について
4. 糸について
5. 織物の種類と構造(1)ー三原組織ー
6. 織物の種類と構造(2)ー組織の作製ー
7. 編物の種類と構造
8. 繊維の分類と特徴(1)ー植物性天然繊維ー
9. 繊維の分類と特徴(2)ー動物性天然繊維ー
10. 繊維の分類と特徴(3)ー再生繊維ー
11. 繊維の分類と特徴(4)ー半合成繊維ー
12. 繊維の分類と特徴(5)ー合成繊維ー
13. 被服材料の性能(1)ー機械的強度に関する性能ー
14. 被服材料の性能(2)ー保健衛生の機能に関する性能ー
15. まとめ
16. 筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

NO. G03007001

衣繊維学

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

衣料用繊維として用いられている各種繊維の分子構造や物理・化学的性質を解説する。更に、高感性繊維、高機能性繊維について、できるだけ多くのサンプルを手に取りながら、新しい繊維とその技術を説明し、繊維を形成する高分子がいかに多彩に変身するか等について解説する。

学習目標・到達目標

繊維材料の構造や性質について考察するためには、その基本物質である高分子についての理解が必要である。各種繊維を分子論的、微細構造的に捉え、繊維集合体として理解する。また、高感性、高機能性繊維の発想の原点、及び製造技術進展の背景を理解し、快適な衣服についての理解を深めることを目標とする。

評価方法その他

定期試験80％・平常点20％（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1.繊維の概要
- 2.繊維高分子の構造
- 3.繊維高分子の構造と性質
- 4.セルロース繊維－綿、麻－
- 5.タンパク質繊維(1)－羊毛繊維－
- 6.タンパク質繊維(2)－絹繊維－
- 7.化学繊維の製造
- 8.再生繊維
- 9.合成繊維(1)－ナイロン繊維－
- 10.合成繊維(2)－ポリエステル繊維－
- 11.合成繊維(3)－アクリル繊維、その他の合成繊維－
- 12.合成繊維(4)－生分解性合成繊維－
- 13.高感性・高機能性繊維の開発の歴史
- 14.高機能性繊維の技術展開
- 15.高感性繊維の技術展開
- 16.筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

NO. G03009001

機器分析法

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

衣の実験分野で使用頻度の高い赤外・紫外可視吸収スペクトル、測色等の光学的測定機器、示差熱分析、示差走査熱量分析等の熱的測定機器および化合物の分離・精製に用いられるクロマトグラフィー等について、その原理・試料調整・測定法等の基礎を学び、解析法の基礎演習も行う。

学習目標・到達目標

衣分野で取り扱う素材の性質を知るための代表的手法である光学的測定、熱的測定および化合物の分離・精製に用いられるクロマトグラフィー等の測定原理と得られる情報・意味を理解出来ることを目標とする。

評価方法その他

定期試験(80％)と平常点(20％)の総合評価(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.講義概略の説明
- 2.測色の基礎(1)－測色とは－
- 3.測色の基礎(2)－測色の方法－
- 4.色の測定と解析
- 5.赤外吸収スペクトルの基礎(1)－赤外吸収スペクトルとは－
- 6.赤外吸収スペクトルの基礎(2)－赤外吸収スペクトル測定の方法－
- 7.赤外吸収スペクトルの解析
- 8.紫外可視吸収スペクトルの基礎(1)－紫外可視吸収スペクトルとは－
- 9.紫外可視吸収スペクトルの基礎(2)－紫外可視吸収スペクトル測定の方法－
- 10.紫外可視吸収スペクトルの解析
- 11.熱測定の基礎
- 12.熱測定の解析
- 13.クロマトグラフィーの基礎
- 14.クロマトグラフィーの基礎と解析
- 15.分析法のまとめ
- 16.筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

NO. G03011001

繊維製品試験法

佐々木 麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

快適な衣生活を送るため、繊維製品試験の原理と方法、得られる測定結果と評価について講義する。JIS試験方法を中心に、品質管理やクレーム処理のための試験方法について概略を解説し、繊維製品試験の目的とその方法について理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

1級衣料管理士の資格科目として必要なJIS試験法を中心に品質管理や苦情処理のための試験方法、結果のまとめ方が理解できることを目標にする。

評価方法その他

筆記試験を50％、平常点を50％とした総合評価とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1.繊維製品試験の目的と準備
- 2.繊維製品試験規格、試験条件
- 3.糸の種類と構造
- 4.糸の性能
- 5.布の種類と構造
- 6.形態安定性、外観特性
- 7.着心地特性
- 8.耐久性
- 9.縫製部試験
- 10.接着芯と布地
- 11.着用試験
- 12.ドライクリーニング
- 13.洗濯試験
- 14.染色堅ろう度試験
- 15.クレーム事例
- 16.試験

使用教科書名

使用しない。適宜プリントを配布する。

NO. G03012001

被服整理学

佐々木 麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人体保護、体温保持や個人の表現に不可欠な被服について、初期の性能を変化させないために必要な洗濯、しみ抜き、漂白、加工、仕上げ、保管、最終的な廃棄と環境問題について、その理論と方法について解説をする。洗濯の歴史、被服に付着する汚れ、洗剤の作用等を理解し、効果的な洗濯条件や適正な取り扱い方法について学ぶことを目的とする。

学習目標・到達目標

衣類の洗濯、手入れについて科学的な視点から考え理解し、快適な衣生活を送るため、環境に配慮した取り扱い方法、洗濯の必要性、洗浄理論、洗濯方法、保管、廃棄方法、洗濯と環境との関係を理解する事を目標とする。

評価方法その他

筆記試験80％、平常点20％の総合評価とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1.洗濯の歴史
- 2.被服の汚れ
- 3.被服の洗浄(洗濯用水と洗剤)
- 4.被服の洗浄(洗濯条件)
- 5.被服の洗浄(家庭洗濯)
- 6.被服の洗浄(家庭洗濯と家庭用洗濯用機器)
- 7.被服の洗浄(商業洗濯)
- 8.被服の洗浄(洗濯による損傷・劣化とその防止法)
- 9.被服の洗浄(家庭洗濯の問題点)
- 10.洗浄試験と評価
- 11.洗浄メカニズム
- 12.しみ抜き
- 13.漂白と増白
- 14.仕上げ
- 15.被服の保管、被服整理と環境
- 16.試験

使用教科書名

被服管理学／増子 他／朝倉書店

NO. G03014001

染色学

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

染色は古代から人類の生活に密接に関連する重要な分野で、多くの自然科学に関連する、いわゆる境界領域の科学である。この講義では、まず染色の一般概論を述べ、次いで着色理論、染色各論などを、できるだけ平易に解説する。

学習目標・到達目標

繊維製品に施されている染色の概略。すなわち染料、染料の用法、染色方法等の基礎的な知識を身につけると共に、染色にかかわる繊維・染料間に働く親和力の理解を深めることを目標とする。
到達目標：染料の種類と各種繊維への適用を説明できる。

評価方法その他

定期試験80％・平常点20％（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 1光と色
- 2光源色と物体色
- 3混色と等色
- 4表色
- 5染色の基礎理論
- 6染色の条件と方法
- 7天然染料の概説
- 8伝統的な染法、染料、文様
- 9合成染料の概説
- 10染料の分類
- 11セルロース繊維の染色
- 12タンパク繊維の染色
- 13合成繊維の染色
- 14染料-繊維間の結合
- 15染色に関するトラブル
- 16筆記試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

NO. G03015001

染色学実験

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

染色学の講義で習得した知識をもとに、染色の基礎を実際に体得する。簡単な染料を合成し、その染料を用いての染色や各種染料・繊維間での染色条件等を検討し、染色の機構を理解する。

学習目標・到達目標

染料、染色に関する基礎的な実験を行い、講義で学んだ内容を実験に基づいて理解することを目指す。
到達目標：与えられた繊維に適用出来る染料の選択とその手法を例示できる。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20％)・レポート(80％)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1.実験概略の説明
- 2.酸性染料Orange・の合成 (1)
- 3.酸性染料Orange・の合成 (2)
- 4.酸性染料Orange・の合成 (3)
- 5.Orange・による羊毛の染色
- 6.ナフトール染料による木綿の染色 (1)
- 7.ナフトール染料による木綿の染色 (2)
- 8.アクリル繊維の染色 (1)
- 9.アクリル繊維の染色 (2)
- 10.木綿の建て染め染料による染色 (1)
- 11.木綿の建て染め染料による染色 (2)
- 12.各種染料による染色 (1)
- 13.各種染料による染色 (2)
- 14.各種染料による染色 (3)
- 15.総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

NO. G03016001

工芸染色技法

佐々木 麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

我が国の代表的な伝統工芸染色技法を解説する。教材としてビデオおよび標本を使用する。

学習目標・到達目標

我が国の代表的な伝統工芸染色技法を知ることにより、先人の知恵と努力、技法の特徴、衰退の原因、今後の在り方などについて理解し考察する力を養う。また優れた伝統工芸染色を存続させるために各自が出来ることを考える。

評価方法その他

試験80％、平常点20％の総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 1.序説
- 2.染色の分類
- 3.染色の歴史
- 4.三纏の技法
- 5.絞り染めの技法
- 6.有松(鳴海)絞り等の技法
- 7.藍染め等
- 8.糊防染の技法と特色
- 9.友禅染の発祥
- 10.京友禅
- 11.加賀友禅・東京友禅等
- 12.型染めの技法
- 13.型染めの分類と特徴
- 14.江戸小紋等
- 15.その他の染色技法
- 16.試験

使用教科書名

テキストは使用しない。

NO. G03017001

応用染色実習・演習

佐々木 麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

染色の基礎を踏まえ工芸的手法で染色品を制作し、繊維製品の審美性を高めるための染色の意義を理解する。

授業を通し、小さな努力の積み重ねの大切さ、自由にならない作品制作のもどかしさとそれに対応できる柔軟な発想と応用力、前向きな姿勢、一段階ごとの出来上がりを詳細に評価し、一喜一憂するのではなく、それを乗り越えて成し遂げることの大切さ体験する。
作り上げた達成感と喜びを味わい、自分が丹精込めて創りだした作品をいつくしむ心

学習目標・到達目標

我が国の代表的な伝統染色技法である絞り染め、ろうけつ染め、友禅染めの小作品制作を体験し、染色技法の特徴を理解し、初歩技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。
化学染料と天然染料の染色方法と発色の違いと理解できる。技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につけることができる。

評価方法その他

平常点50％、作品点30％、レポート点20％の総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 絞り染1図案の考案と下絵描き
3. 絞り染2各種絞り技法
4. 絞り染3各種絞り技法
5. 絞り染4浸染
6. 絞り染5仕上げ方法
7. 友禅染1 図案の考案と下絵描き
8. 友禅染2 糸目糊置きと地入れ ・絞り染6連続柄縫い
9. 友禅染3 色挿しと空蒸し ・絞り染7連続柄角絞り
10. 友禅染4 伏せ糊と地入れ ・絞り染8連続柄角絞り
11. 友禅染5 地染め・蒸熱 ・絞り染9連続柄角絞り
12. 友禅染6 水元・仕上げ ・絞り染10浸染
13. ろうけつ染1図案の考案と下絵描き ・絞り染11仕上げ方法
14. ろうけつ染2ロウ描きと彩色
15. ろうけつ染3仕上げ
16. レポート提出

使用教科書名

使用しない。適宜プリントを配布する。

NO. G03018001

服飾設計論

富田 弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

アパレルの設計製作に関して、人体構造や人体の形態、人体とアパレル、デザインとアパレルパターンとの関係、素材、副資材、縫製技法などを理解し、適正な評価ができる設計の基本を学ぶ。

学習目標・到達目標

着衣基体としての人体および人体形態の把握法、人体を包むアパレル（衣服）の形状、具体化するための素材やパターン、縫製技法などの要点を理解する。

評価方法その他

平常点30％（授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する）レポート提出40％、提出物（製図・原型など）30％

週 テーマ・授業目標等

1. アパレル設計と生産、人体の構造1（人体の構造と計測）
2. 人体の構造2（衣料サイズシステム）
3. 身頃原型の製作1（後・前身頃の製図）
4. 身頃原型の製作2（ダーツ計算、トレース）
5. 身頃原型の製作3（トワル裁断、縫製）
6. 身頃原型の製作4（縫製、試着補正点検、パターン修正）
7. 身頃原型の製作5（試着補正点検、パターン修正）
8. デザインとパターンへの展開1（胸ぐせ処理、衿のバリエーション）
9. デザインとパターンへの展開2（スカート・袖のバリエーション）
10. 材料の選定（主素材）
11. 副資材（外部講師による特別授業）
12. アパレルの縫製（布地の立体化技法、縫い糸と針）
13. ファッションデザイン画1（素材表現、下描き）
14. ファッションデザイン画2（点検、彩色）
15. ファッションデザイン画3（彩色、仕上げ）
16. レポート提出

使用教科書名

プリント配布

NO. G03020001

服飾造形実習C

富田 弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

裏付2枚袖のテーラードジャケットを課題として、素材の種類、ジャケットの構成とシルエット、パターンメイキング、芯地・裏地の扱い、プレスの仕方、ポケットの種類と縫製等を学んで、立体的な形態を造形するための総合的な知識と制作技術を習得する。

学習目標・到達目標

表地、裏地、芯地などから構成された衣服のパターンメイキング、素材、縫製技術などを学び、デザイン、製作への応用力を身につける。

評価方法その他

平常点40％（授業への参加・状況、提出期日などで総合的に判断する）作品50％、部分縫い10％

週 テーマ・授業目標等

1. ジャケットのシルエット、パターンメイキング1（身頃）、生地と副資材準備
2. パターンメイキング2（衿、袖）、生地と副資材標本作成
3. パターンのトレースとパターン展開
4. 表生地と芯地の裁断、芯地の扱い、しるしつけ
5. 仮縫い合わせ
6. 試着点検、補正とパターン修正、裏地・見返し・衿裁断
7. 袖の縫製1（表袖）
8. 袖の縫製2（裏袖と表裏合わせ）、ポケットの構造と部分縫い練習
9. 表身頃・衿の縫製
10. ポケットの縫製
11. 裏身頃・衿の縫製
12. 表身頃と裏身頃の合わせ
13. 袖付け、中仮縫い点検、ボタンホール（ミシン）
14. 裏地の処理
15. ボタンホール（ミシン）、仕上げ
16. 発表、提出

使用教科書名

プリント配布

NO. G03022001

アパレル商品論

富田 弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

アパレルにおけるマーケティング、企画、企画、設計、商品、販売、小売企業などを具体的な事例を交えて学び、ファッションビジネスを理解する。また、今日のファッション業界および将来について自分の考えや意見をまとめ、パワーポイントを使用し、口頭でわかり易く他者に説明できることを目的とする。

学習目標・到達目標

ファッションビジネスの仕組みを把握し、アパレル企業における企画から商品化までのプロセスを理解できる。

評価方法その他

平常点40％（授業への参加状況などで総合的に判断する）プレゼンテーション60％

週 テーマ・授業目標等

1. ファッションビジネスとその現状、ファッション情報取集
2. ファッションビジネスの仕組み
3. アパレルとマーケティング（外部講師による特別授業）
4. ターゲット設定、商品企画・設計、企業の商品企画事例
5. ターゲット分析、調査方法、体操着の調査事例
体操着のデザイン事例（コンセプト、色彩、素材、デザイン画設定）
6. ファッション商品（婦人服）
7. ファッション商品（和服）
8. ファッション販売
9. ファッション小売企業の組織と職務
10. ファッション小売企業と経営戦略
11. 発表内容の質問、個別指導、発表準備1
12. 発表内容の質問、個別指導、発表準備2
13. 発表内容の質問、個別指導、発表準備3
14. プレゼンテーション1
15. プレゼンテーション2（続き）

使用教科書名

プリント配布

NO. G03024001

衣構成学実習B

富田 弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

浴衣の着用に必要な半幅帯、ワンピース型肌襦袢などを製作する。半幅帯は各自の浴衣に合わせた色、柄、素材で製作し、浴衣のイメージに合わせた帯結びを考える。また、衣服と自身の肌や髪の色などのパーソナルカラーについて、専門講師の特別授業を行う。さらに、基礎ミシン縫いとしてコンシールファスナー付けと裏地の始末、英語による浴衣の着付けなどを学ぶ。

学習目標・到達目標

日本の民族衣装である浴衣の特徴や着付けの技法を把握し、自身の生活において和服の着装を楽しむことができる。また、他者にも浴衣を着付けることができる。

評価方法その他

平常点20％（授業への参加状況・提出期日などで総合的に判断する）、作品50％、発表30％

週 テーマ・授業目標等

1. 基礎のミシン縫い1（基礎縫い準備、縫い代始末）
半幅帯1 生地見本で説明・検討
ワンピース型肌襦袢1
2. 基礎のミシン縫い2（コンシールファスナー、縫い代始末）
半幅帯2（芯裁断） 生地決定帯生地注文
3. 基礎のミシン縫い3（裏地の扱い）
半幅帯3（積もり、印つけ、表地の縫製）
4. 基礎のミシン縫い4（巻きロック応用・仕上げ）
5. 半幅帯4（芯入れ、しつけ）
6. 半幅帯5（引き返し口のとじ、仕上げ、帯結びの検討）
7. 英語による浴衣の着付け
8. 特別授業
9. ワンピース型肌襦袢2（身体計測、見積り、裁断）
10. ワンピース型肌襦袢3（裁断、印つけ、表地の縫製）
11. ワンピース型肌襦袢4（身頃とベディコートを合わせる）
12. ワンピース型肌襦袢5（仕上げ）
13. 発表準備1
14. 発表準備2
15. 浴衣と帯のコーディネートおよび着発表表（着装と評価）

使用教科書名

プリント配布

NO. G03025001	テキスタイルデザイン実習	大淵 和應
---------------	--------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

テキスタイルは衣服やインテリアの素材として多く用いられているが、使用材料や制作技法などにより様々に変化する。本講では、手織り機を使用して織物制作を行い、基本的知識を習得すると共に繊維素材・繊維組織・繊維密度の違いによる表現効果やテクスチャー（風合い）の差、また色彩効果などについての理解を深める。応用作品では目的や用途を考慮した設計をし、材料を各自で選択して制作を行う。

このうち基礎制作では、平織による表現を主とし、整経・機上げ・製織の作業を行う。特に経糸を扱う上で求められる繊細さや力加減、また緯糸を通す上で必要なテン

学習目標・到達目標

織物の組織、糸と繊維密度との関係、風合いなどについて理解を深める。講義の中で説明を行うテキスタイルのデザイン方法や利用方法について思考しながら、同時に実習を通じて手足を動かすことで作品制作手法の習得を目指す。

評価方法その他

期末提出物（制作作品・作品集用原稿・製造設計書など）60％
平常点（毎回のアンケート提出、受講姿勢など）30％
中間レポート10％

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション：織物の概要、織り組織、機結びの方法
2. 手織の種類と仕組み、整経作業の準備
3. 基礎制作：織機の準備、配色決定、整経作業
4. 基礎制作：綜統通し
5. 基礎制作：筵通し、織り付け
6. 基礎制作：試し織り、製織作業
7. 基礎制作：製織作業、製造設計書の作成
8. 基礎制作：製織作業、房組み仕上げ
9. 応用制作：オリジナル作品企画、配色決定、整経作業
10. 応用制作：整経作業
11. 応用制作：綜統通し、筵通し
12. 応用制作：織り付け、試し織り、製織作業
13. 応用制作：製織作業、作品集用原稿の作成準備
14. 応用制作：製織作業、縫製仕上げ
15. まとめ：作品講評、今後に向けての目標設定

使用教科書名

毎回プリント資料を配布する予定です。

NO. G03027001	消費科学	大橋 正男
---------------	------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

衣料品を中心した繊維製品が多様化、消費者が個性化しているため、供給側と需要（消費者）側のあり方が問題になっている。
供給側から複雑化する経済の仕組みの中でアパレル・流通の体制、需要側から品質等を通して、現状を把握し、情報化、国際化の時代での今後のあり方を考察する。並びに、T A（衣料管理士）過程の必修科目のため、繊維製品の生産・流通・消費に関する知識を体系的に学ぶ。
以上をより理解するため、可能であれば、検査機関または素材展を見学する。

学習目標・到達目標

T A（衣料管理士）として、また賢い消費者になるために、繊維製品の品質、消費者行動、繊維製品の生産・流通・消費などの考え方・知識を収得する。

評価方法その他

レポート60％、出席状況・態度20％、課題（講義中に出題する複数の簡易レポート）20％。以上を目安に総合評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション 消費科学とは
- 2.繊維製品の品質 品質とは
- 3.繊維製品の品質 品質の評価
- 4.繊維製品の品質 品質保証
- 5.繊維製品の品質 品質表示
- 6.繊維製品の品質 安全性、消費者苦情
- 7.消費者行動 消費者行動の特徴
- 8.消費者行動 消費者行動の要因
- 9.消費者行動 商品・店舗と消費者
- 10.消費者行動 消費者調査
- 11.繊維製品の生産・流通・消費 産業の構
- 12.繊維製品の生産・流通・消費 生産
- 13.繊維製品の生産・流通・消費 流通
- 14.繊維製品の生産・流通・消費 消費・環境対応
- 15.まとめ

ただし、検査機関または素材展の見学も考えられ、内容の省略と順序に違いが生じることもあり得る。

使用教科書名

『改訂 衣生活のための消費科学』
日本衣料管理協会刊行委員会/(社)日本衣料管理協会/平成30年

NO. G03026001	テキスタイルアドバイザー実習	富田 弘美
---------------	----------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

繊維製品の試験、検査、企画、生産、流通、販売などの関連企業や、消費者行政機関などの該当部門において、45時間（1週間）以上の実習を行い、職場の現状を体得する。

学習目標・到達目標

T Aの役割を理解し、自ら問題意識を持ち、進んでそれに取り組み解決する能力を養うことを目標とする。
卒業後、テキスタイルアドバイザーとして関連の実務につぐために、在学中に実習を通して現場の状況と実務を体得することを目指す。

評価方法その他

- ・平常点30％（実習、説明会、報告会の参加状況などを総合的に評価する。）
- ・レポート提出30％、
- ・報告会での口頭発表40％

週 テーマ・授業目標等

受入先の実態に応じて以下の内容で実習する。

- A. 企画・設計業務
- B. 流通・販売業務
- C. 品質管理・品質保証業務
- D. 試験・検査業務
- E. 消費者対応・相談業務
- F. その他

使用教科書名

NO. G03028001	衣環境衛生学	小柴 朋子
---------------	--------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

快適で健康的な、かつ機能的なアパレルの条件について、アパレル製品の気候適応性、運動・動作への適応性、皮膚の生理・衛生と衣服の安全性の3分野に分けて、被服衛生学、被服人間工学の立場から、概説する。

学習目標・到達目標

快適で健康的な、かつ機能的なアパレルの条件について、アパレル製品の気候適応性、運動・動作への適応性、皮膚の生理・衛生と衣服の安全性の3分野に分けて、被服衛生学、被服人間工学の立場から、概説する。

評価方法その他

- ・評価方法：A(S)～C・E評価
- ・基準：レポート(40%)授業中の小テスト(20%)平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 着心地のよい衣服の条件 被服衛生学の目的、研究対象と範囲、快適性・健康性とは何か。
快適性と健康性・安全性の観点から、被服の素材、デザイン、着方および環境を含む衣生活全般について考える力を養う。将来、デザイナーや企画・販売などの衣服産業に従事する人、あるいは消費者として衣生活を営む人にとっても重要な、条件に適応した素材や構造、着装が選択できる能力を身につけ、現代社会におけるアパレルの問題点を考える能力を養う。
2. 湿熱環境と人体一湿熱環境要素と総合指標
1) 寒暑感を左右する環境条件、気温・湿度・気流・放射熱、不快指数、標準新有効温度 自然環境と人工環境
3. 2) 体温調節のしくみ 体熱平衡
4. 3) 体温調節のしくみ 皮膚温分布、血圧、脈拍
5. 4) 発汗とエネルギー代謝 精神性発汗と温熱性発汗、汗の冷却効果、安静時代謝と運動時代謝 エネルギー代謝測定法
6. 5) 快適衣服気候 衣服がつくる衣服内微気候の快適条件
着衣の熱抵抗、着衣の蒸発熱抵抗とその要因
7. 6) 暖かさの調節-寒さへの適応
衣服による暖かさの調節 素材・デザイン・着方の工夫と空気の役割
赤外線・遠赤外線の利用
8. 7) 涼しさの調節-暑さへの対応
防着服の条件 蒸し暑い日本の夏の衣服の工夫
汗の吸収放散と素材の性質、涼しいパンストや下着開発の現状
9. II 着衣の運動機能的快適性
1) 衣服圧の発生要因
人体の運動時変形、衣服の力学特性と衣服圧の関係
人体と衣服間の摩擦と運動機能的性
10. 2) 衣服圧の害とその原因 衣服圧が人体に及ぼす影響
ファンデーション等のマイナスゆとり服の設計方針
快適性との関係-評価法-ストレッチ素材衣服の設計と評価

使用教科書名

特に指定しない

NO. G03029001

食品機能化学

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年の栄養学や食品科学の発展は目覚ましく、食のおいしさ（2次機能）と、健康（3次機能）に関する多くの知見が報告されています。また、それらのメカニズムを利用して新しい食品素材や技術が次々と実用化されています。本講義では、食品の2次機能と3次機能のメカニズムと、製品への応用例を学んで行きます。

学習目標・到達目標

代表的な食品成分や素材について、その2次機能と3次機能を科学的根拠を示して説明することができる。

評価方法その他

レポート(50%)
期末テスト(50%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス・学習と進路の相談
- 2 3次機能の概要と研究方法
- 3 3次機能の概要と研究方法(グループワーク)
- 4 3次機能成分
- 5 3次機能成分(グループワーク)
- 6 2次機能の概要と研究方法
- 7 2次機能の概要と研究方法(グループワーク)
- 8 2次機能成分
- 9 2次機能成分(グループワーク)
- 10 健康機能性食品
- 11 健康機能性食品(グループワーク)
- 12 ゲノム栄養学／味覚・嗅覚の分子機構／脳科学
- 13 口頭発表(1)
- 14 口頭発表(2)
- 15 口頭発表(3)
- 16 期末試験

使用教科書名

(テキスト) 食品学(第2版 補訂) (スタンダード栄養・食物シリーズ5) 東京化学同人
(副読本) わかりやすい食品機能学 三共出版

NO. G03031001

食品微生物学

山崎 薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

微生物は多種多様であり、ヒトの生活と密接な関係を持っている。本講義では食品の安全確保、あるいは食品加工（伝統食品や新食品開発）などに重要なヒト・動植物および食品に関わる病原あるいは有用微生物を対象とし、その種類・性質といった微生物の概略から、微生物の利用、制御、感染症の発生メカニズムなど応用的な事柄に至るまで授業展開する。

学習目標・到達目標

食品に関係の深い微生物の基礎知識を修得し、伝統食品や新たな食品の開発に微生物が活用され、食生活を豊かにしていることを理解する。さらに、病原性微生物に対する理解も深め、食品の安全確保の礎となる知識を修得する。

評価方法その他

筆記試験100%

週 テーマ・授業目標等

- 01.微生物学の歴史と微生物の利用
- 02.微生物の種類と性質①微生物とは、分類学上の位置、真菌類;カビ、酵母,キノコ
- 03.微生物の種類と性質②細菌類;細菌の分類、主な細菌
- 04.微生物の種類と性質③ウイルス;ウイルスとは、バクテリオファージ
- 05.微生物の構造と機能①細菌の構造と機能
- 06.微生物の構造と機能②真菌類, ウイルスの構造と機能
- 07.微生物の生理①微生物の生育と栄養、微生物の培養
- 08.微生物の生理②微生物の代謝
- 09.微生物の利用①食品加工への利用
- 10.微生物の利用②酵素代謝系の利用
- 11.食品の腐敗と保存および食中毒①腐敗による食品の変質
- 12.食品の腐敗と保存および食中毒②食品の保存と微生物管理
- 13.食品の腐敗と保存および食中毒③食中毒
- 14.微生物のバイオテクノロジー①遺伝子の機能と構造
- 15.微生物のバイオテクノロジー②遺伝子組み換え技術、微生物バイオテクノロジーの応用
- 16.定期試験

使用教科書名

改訂 食品微生物学／建帛社
高見伸治・山本勇・西瀬弘・大塚暢幸・長澤治子・土居幸雄 著
A5/192ページ 発行年月日:2016年3月1日
定価: 2,268円(本体価格:2,100円)

NO. G03030001

食品加工貯蔵学

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品加工貯蔵学の基礎である化学基礎、化学反応と酵素反応を学び、加工・貯蔵・保存の原理としくみを理解します。

学習目標・到達目標

食品の成分変化のメカニズムと、それを制御する加工貯蔵技術を説明することができる。

評価方法その他

課題 60点
期末試験 40点

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス:食品の貯蔵と加工を学ぶ意義、食品成分表
2. 食品加工の原理(1)水分活性と乾燥
3. ICTガイダンス
4. 食品加工の原理(2)温度・熱・添加物の利用
5. 食品成分の変化(1)非酵素的反応ー化学反応の原理・活性酸素と油脂の酸化
6. 食品成分の変化(2)非酵素的反応ーアミノカルボニール反応と褐変
7. 食品成分の変化(3)酵素による反応ー酵素反応の原理・酸化還元酵素
8. 食品成分の変化(4)酵素による反応ー加水分解酵素
9. 成分間反応から生成する有害成分
10. 食品の包装と流通
11. 食品製造の安全衛生と環境問題
12. グループ発表の準備(調査・パワーポイントファイルの作成)
13. グループ発表(1)
14. グループ発表(2)
15. まとめ
16. 期末試験

使用教科書名

食品学ー食品成分と機能性ー (スタンダード栄養・食物シリーズ5)
やさしくわかるやさしい化学基礎
食品加工が一番わかる ISBN978-4-7741-7539-3

NO. G03032001

食品衛生学

山崎 薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品に対する多様な要望の中でも安全性は基本的絶対条件であるが、時代背景や社会情勢により要求される内容は変化する。食品衛生の対象は食品だけでなく食品添加物、器具、容器包装、おもちゃ、洗剤なども含まれる。食品に関連する衛生法規関連、食中毒原因物質、食品添加物や食品の関わる感染症や寄生虫との関係などの基礎的知識の習得と併せて、食品衛生管理手法や国内外の最新情報についても学ぶ。

学習目標・到達目標

食品における安全は絶対条件であるが、食品を扱う人の意識如何で健康障害を引き起こす原因ともなる。健やかな社会生活を個々が営める、また、管理をする、教育する立場として必要な一般的衛生管理の実施が行える知識を修得し、実際の現場でも危機管理活用のできる知識を養う。

評価方法その他

筆記試験100%

週 テーマ・授業目標等

- 01.食品の安全性・食品衛生微生物の基礎知識
- 02.食品の腐敗・変敗とその防止法
- 03.食中毒の分類と発生状況・微生物性食中毒①
- 04.微生物性食中毒②
- 05.微生物性食中毒③
- 06.自然毒食中毒
- 07.化学性食中毒
- 08.食品が媒介する寄生虫・原虫感染症・BSEプリオン
- 09食品の安全性の確保
- 10.家庭における食品の安全保持
- 11.環境汚染と食品
- 12.器具および容器包装
- 13.水の衛生
- 14.食品の安全流通と表示
- 15.食品の安全管理
- 16.定期試験

使用教科書名

二訂 食品の安全性／建帛社
日本フードスベシャリスト協会 編
A5/並製/2色/216ページ 発行年月日:2016年3月1日
定価: 2,268円(本体価格:2,100円)

NO. G03033001	バイオサイエンス
山崎 薫	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

バイオサイエンスは生命活動を支えている生体物質や細胞内で起こる代謝反応を化学的にとらえる学問である。食べ物を食べるとどのようにエネルギーになるのかといった事象に関わる部分、遺伝子組換えやクローン技術などの先端技術を支えている部分を、主に分子レベルで理解することを目的としている。

学習目標・到達目標

生命現象のしくみの中で栄養素の代謝、生理・病理的变化、個体の調節といった内容を中心に、生化学的断面から構造、機能、物質の変化を理解する。

評価方法その他

筆記試験100%

週 テーマ・授業目標等

- 1.ヒトの体とエネルギーの関係
- 2.糖の種類と性質・糖からエネルギーを得るしくみ
- 3.脂質の構造と性質・脂質の輸送と代謝
- 4.ビタミンとミネラルのはたらき
- 5.細胞の構造と機能
- 6.DNAの構造とはたらき
- 7.DNAからタンパク質へ
- 8.タンパク質のはたらき
- 9.細胞内外の情報伝達
- 10.細胞分裂のしくみと制御
- 11.発生と分化
- 12.細胞のストレス応答機構
- 13.免疫システムのしくみ
- 14.ES細胞とiPS細胞・再生医療の現在と未来
- 15.アポトーシスと老化
- 16.定期試験

使用教科書名

大学で学ぶ 身近な生物学
吉村成弘／著 羊土社
定価 2,800円＋税 2015年10月発行 B5判 255ページ

NO. G03035001	調理と素材
小口 悦子	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食生活の源泉である食材は、多種多様である。それぞれの食材も調理条件により味の異なった料理となる。日常使用頻度の高い素材について、その性質を生かした調理法を究めることにより、料理への創造性を養うことを目的とする。あわせて、素材の適性な組み合わせ、献立構成、地域の素材を使った料理の提案など調理全般についての応用力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 食材の調理特性を生かすための調理技術を修得する。
2. 食材の創造性のある組み合わせを可能にする。
3. 食材の特性を生かした献立立案を可能にする。

評価方法その他

平常点(40％、授業への参加状況)、課題(30％)、ノートおよびレポート(30％)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 授業目的と内容および進め方
2. 米を主とした献立 春の行楽弁当
3. 小麦粉を主とした献立による実習（中国料理）
4. いも類を主とした献立による実習（西洋料理）
5. いも類を主とした献立による実習（日本料理）
6. 豆類を主とした献立による実習 （日本料理）
7. 魚介類（たい）を主とした献立による実習（日本料理）
8. 魚介類を主とした献立による実習（日本料理）
9. 肉類を主とした献立による実習 （中国料理）
10. 卵を主とした献立による実習 （日本料理）
11. 牛乳・乳製品を主とした献立実習（西洋料理）
12. 野菜を主とした献立による実習（西洋料理）
13. 野菜を主とした献立による実習（日本料理）
14. 素材の組み合わせによる献立実習（日本料理）
15. 地域の素材を活用した料理法の提案
16. 定期試験（実習試験）

使用教科書名

プリントを配布する。

NO. G03034001	調理とフードコーディネート
小口 悦子	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本および諸外国の食文化・調理文化を背景とした料理形式の特徴と料理方法について学び、さまざまな目的にあうメニュープランを立てる力を養うことを目的とする。さらに、調理技能、テーブルセッティング、食卓作法について実習を通して学び、多様な趣向・目的に合わせたプランをコーディネートできる力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

1. 日本・西洋・中国料理の調理技術と食材の取り扱い方を習得する。2. 本膳、懐石、精進、会席料理の特徴を理解し、献立立案を可能にする。3. 食器・器具（磁器・陶器・木製・塗り物・金箔製など）の種類とその特徴を理解し、適切な取扱いができる。4. 行事や各種プランに合わせたメニュープランニングと食卓演出（コーディネート）、サービスマナーを修得する。これらから、フードサービス、食企画の実践へと繋がりがもてるようになることを目標とする。

評価方法その他

平常点(40％授業への参加状況)、実習ノート・提出物(30％)、実習試験(20％)、筆記試験(10％)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1.授業目的と進め方、フードコーディネートとは、実習の心得
- 2.行事と献立（節句料理 雛まつりの献立実習）
- 3.行事と献立（節句料理 端午の節句の献立実習）
- 4.日本料理の実習と器と盛り付けによる演出実習
- 5.季節向き日本料理の実習と演出（初夏）実習
- 6.お茶とお菓子（ティーパーティーの献立実習と演出）
- 7.精進料理の実習
- 8.懐石料理(1) 初夏
- 9.懐石料理(2) 初夏
- 10.中国料理の特徴と演出 点心
- 11.中国料理も特徴と演出
- 12.西洋料理の調理実習と演出実習
- 13.西洋料理の調理実習と演出実習
- 14.器・カトラリーの種類、食事マナー、ナプキンワーク、メニュープランニング
- 15.ブッフestaイルの献立実習と演出とマナー
16. 定期試験（実習試験・筆記試験）

使用教科書名

『三訂 フードコーディネート論』／日本フードスペシャリスト協会編

	調理とフードコーディネートのテキスト配布

NO. G03036001	調理と文化
小口 悦子	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食文化的視点から調理実習をおこなう。諸外国の種々の料理の調理法、副材料との組み合わせ、調味法を実習を通して学び、気候風土や文化による違いと食事との関連をを理解する。

日本国内の各地域の伝統的な郷土料理の実習、伝統食品や伝統野菜を用いた実習を通して食文化の特徴や背景を考える。また、欧米と日本のこども向け料理書のレシピの実習を通して、材料、調理法、諸注意等から食育と食文化的特徴を比較考察する。築地市場見学、日本料理（会席）の試食とプロの料理人からの説明などを通して、食材の流通の現状と食事様式とマナーの実践を学ぶ。

学習目標・到達目標

日本と諸外国の料理の実習を通して、それぞれの地域の調理技術や調理手法を習得することができ。また、国や地域による食文化的背景との関連性を見出すことができるようになること。

評価方法その他

実習試験(30％)、ノート提出(30％)、平常点(40％、授業への参加状況)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 世界の食文化と調理の概要
2. 世界の粉食文化と調理 無発酵パン（中国、インド、メキシコ）と料理
3. 世界の粉食文化と調理 発酵パン （中国、ドイツ、イタリア）と料理
4. 世界の粉食文化と調理 そば粉 （イタリア）
5. 日本の粉食文化 そば粉を用いた献立（日本料理）
6. 世界と日本の粉・粒食文化と調理 米粉・米
6. 世界と日本の粉・粒食文化と調理 雑穀粉・雑穀
7. 地域の食材と食文化 京都伝統野菜を使った献立(1) 賀茂茄子他
8. 地域の食材と食文化 京都伝統野菜を使った献立(2) 九条ねぎ他
9. 日本の伝統食品と調理 氷こんにやく、六条豆腐他
10. 日本の伝統食品と調理 三輪そうめん、ゆば他
11. 伝統的な郷土食の調査と献立作成・実習
12. 欧米と日本のこども向け料理書のレシピからの実習（料理書調査・翻訳）
14. 欧米と日本のこども向け料理書のレシピからの実習
15. 築地市場見学と日本料理の食事様式の学習と試食
16. 定期試験（実習試験）

使用教科書名

実習用資料を配布する。

NO. G03037001 食文化論

櫻井 美代子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

第2次大戦後の日本において欧米諸国の食事が推奨されたが、伝統的な和食を中心とした食文化を駆逐するまでには至らなかった。現在では、日本の食文化は世界において注目され、日本各地の郷土食にも関心が注がれている。この科目は、日本の食文化がどのように発展したのか、日常の食事、ハレの食事、地域差、料理に使用された食材はどこで生産されどのように運ばれたのか、などに注目しながら検討する。

学習目標・到達目標

日本の食文化が世界の中でどのような位置を占めるのかを把握すること
日本の食文化の内容について、食事様式、日常の食事、主食と副菜、調味料、外食文化などの位置づけを把握すること

評価方法その他

平常点20％、中間試験・レポート80％、平常点は授業への参加状況で判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. はじめに 食文化とは、和食について
2. 世界の食文化 主要穀物と食文化圏
3. 世界の食文化 粉食文化と粒食文化
4. 日本の食文化と和食について
5. 異文化接触と受容
6. 日本の主食について
7. 日本の副食について
8. 調味料・油脂・香辛料
9. 菓子・茶・酒
10. 日本料理の形成
11. 台所・食器・食卓
12. 日常食
13. 非常の食
14. 外食文化の成立と形態
15. 行事食と郷土料理
16. レポート又は試験

使用教科書名

江原詢子・石川尚子編著『日本の食文化「和食」の継承と食育 新版』アイ・ケイ コーポレーション

NO. G03039001 食・空間コーディネート論

澤田 雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食を共にすることがクローズアップされている現在、「食」を活性化させ、共に食べることによってコミュニケーションを活発にさせる場＝食空間をつくること（コーディネート）が求められている。食卓を通して人間関係を深め、生活文化の継承の場として、それぞれのライフスタイルに合ったコーディネートをする必要がある。食空間コーディネーターの仕事は、食文化についての知識やテーブルウェアや色彩の知識が問われている。食器を始め空間演出を実例を通して学びます。

学習目標・到達目標

テーブルコーディネートとは食卓演出、食空間コーディネートとは食卓を取り巻く空間全体である。料理、食器、花、クロス、照明などの種々の素材の知識を習得すると共に、実践的なコーディネートの実例を体験する。

評価方法その他

試験またはレポート80％・平常点20％（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. 食空間コーディネートとは
2. 食空間の構成要素、色彩の基礎・配色
3. 日本の食文化と西洋の食文化
4. 料理様式とテーブルコーディネート
5. 食器の歴史と種類
6. テーブルセッティングの方法
7. ティーテーブル・ビュッフェテーブルについて
8. 食器のデザインと素材①
9. 食器のデザインと素材②
10. 陶磁器の作り方①
11. 陶磁器の作り方②
12. 磁器・陶器・炆器・土器の見分けかたと使い分け
13. 漆器とはなにか（採取方法と特徴）
14. 漆器の作り方と使い方①
15. 漆器の作り方と使い方②
16. 試験

・第1週より第7週までを小池先生が、第8週より第15週を沢田が担当する。試験は、両教員より出題する。

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03038001 食文化演習

櫻井 美代子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この科目は主として江戸時代の食文化に関係した史料について検討を加える。江戸時代のものは活字になった利用しやすいものと本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本（古文書）の両方を活用し講読する。これらの基礎の上に江戸時代料理の再現をする。解説した料理を組み合わせて献立作成をすると共に、再現実習もする。また各人の郷土料理のレポートとそれらの再現料理をする。

履修条件

- 1) 「基礎調理」を履修していること。
- 2) 実習費用がかかるので別途徴収する。

学習目標・到達目標

世界中から注目されている日本食の原点について理解を深めることを目的とする。具体的作業として、本学附属図書館大江文庫所蔵の料理本を利用して江戸時代料理を再現する。

評価方法その他

平常点40％、レポートまたは試験60％。平常点は授業への参加状況で判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス・大江文庫見学
2. 江戸料理本『料理物語』魚類の部
3. 江戸料理本 再現料理史料の解説
4. 江戸料理の再現(1)実習
5. 江戸料理本 再現料理史料の解説
6. 江戸料理の再現(2)実習
7. 江戸料理本 再現料理史料の解説
8. 江戸料理の再現(3)実習
9. 江戸料理本 史料の解説と献立作成
10. 江戸料理本『料理物語』青物の部
11. 江戸料理本『料理物語』汁物の部
12. 江戸料理の再現(4)実習
13. 雑煮と郷土料理 解説と献立作成
14. 雑煮と郷土料理 実習
15. 雑煮と郷土料理についての発表
16. まとめ

使用教科書名

特に指定はない。必要に応じてプリント資料を配布する。

NO. G03040001 食品学実験

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品成分の同定と定量は、食品の品質と安全性を評価する重要な方法の一つです。本実習では、その原理を学び、手技を習得します。また、分子模型を利用して食品成分の構造を確認し、機能との関係を学びます。

学習目標・到達目標

食品分析法の原理が理解できている。分析手技と計算法が習得できている。

評価方法その他

実験への主体的な参加とラボノートの提出(70%)
期末試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション／面接
- 2 モルと試薬調製／酸塩基滴定(1)
- 3 酸塩基滴定(2)／誤差の検定
- 4 容量分析(前半)
- 5 容量分析(後半)
- 6 滴定とpH
- 7 官能検査(1)
- 8 官能検査(2)
- 9 アミノ酸と糖
- 10 アミノ酸
- 11 炭水化物と酵素
- 12 タンパク質／脂質
- 13 タンパク質／脂質
- 14 溶媒抽出とクロマトグラフィー
- 15 筆記試験
- 16 予備日

使用教科書名

やさしくわかるやさしい化学基礎
食品学(第2版 補訂) (スタンダード栄養・食物シリーズ5) 東京化学同人

NO. G03041001

食科学演習

小口 悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食領域の研究の概要を学び、自ら課題を見出し考えられるようになること。さらに、自らの考えることについて他者への説明を可能にし、研究成果に関するプレゼンテーションと議論を可能にすることを目的とする。

学習目標・到達目標

4年間の学習の集大成である研究について、主体的に取り組み、その過程において自ら目標設定ができるようになること。

評価方法その他

平常点（授業の参加状況・討論への参加等総合的に判断する）60％、成果報告40％の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 食と食品
3. 食と栄養
4. 食と調理
5. 食と文化
6. 食と環境
7. 食とコーディネート
8. 情報処理
9. 調査法① 聞き取り調査
10. 調査法② アンケート調査
11. 結果の解析と統計処理
12. プレゼンテーション
13. ゼミ① 調査系論文購読
14. ゼミ② 実験・実習系論文購読
15. ゼミ③ 実験・実習系論文購読
16. 定期試験（成果発表）

使用教科書名

必要に応じて資料を配布する。

NO. G03043001

食企画・開発論

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本講義では、食品開発に必要な様々な知識・考え方と手法を学び、ケーススタディを通してその実践方法を理解します。

学習目標・到達目標

食品の開発に必要な様々な知識と技術を習得し、企画開発の基本的な進め方を説明できる。

評価方法その他

課題とレポート

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス・面接
- 2 デザイン思考
- 3 ビジョンを作る
- 4 感性／小論文練習(1)
- 5 創造性／小論文練習(2)
- 6 マーケティングのツール (1)
- 7 マーケティングのツール (2)
- 8 組織論(1)コミュニケーション
- 9 組織論(2)マネジメント
- 10 グループワーク:コミュニケーションを活発にするために効果的な方法を考えよう
- 11 知的財産の法・制度
- 12 食の法令と制度
- 13 食企画開発の基礎知識／食品産業の概観
- 14 東洋経済ネットをフォローして、情報を取り入れよう
- 15 まとめ／キャリアについて考えよう
- 16 企画プレゼン練習(評価対象外)

使用教科書名

〔参考書〕システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」できれば、購入してください。特に、食品の企画開発職を考えている方には、仕事をしながらも役に立つと思います。

NO. G03044001

食企画・開発実習A

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本演習では、食品開発の技術と、そのマーケティングに必要な様々な考え方と手法をグループワークにより習得し、実践のための基礎力を養います。

学習目標・到達目標

食品の企画開発に必要な基本的な考え方と手法が身につく。基礎的な企画開発力が養われている。

評価方法その他

グループワーク 72 点: 主体的に最初から最後まで責任を持って行動した学生に満点を配点する。
実習レポートの提出と口頭発表 28点(レポート 18 点、個人口頭発表 10 点)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス／チーム分け／面接
- 2 企画開発の基本と心構え／プロジェクトの説明／フィールドスタディ
- 3 フィールドスタディ・フィードバック／大学食堂のSWOT分析
- 4 フィールドスタディの報告
- 5 企画ワーク(1)プレスト・企画
- 6 企画ワーク(1)ワーク
- 7 企画ワーク(1)フィードバック
- 8 企画ワーク(2)プレスト・企画
- 9 企画ワーク(2)ワーク
- 10 企画ワーク(2)フィードバック
- 11 企画ワーク(3)プレスト・企画
- 12 企画ワーク(3)ワーク
- 13 企画ワーク(3)フィードバック
- 14 まとめ
- 15 個人発表会

使用教科書名

システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」

NO. G03045001

食企画・開発実習B

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現在、製造業におけるものづくりは、高品質の製品を一定の水準で作る品質重視の考え方から、市場のニーズに対して柔軟に応え、ウォンツを発掘し提案するマーケティングの考え方にシフトしており、食品開発においてもその流れが現れています。本演習では、食企画開発実習Aで学んだ知識と技術をさらに発展させて、将来企画開発を担うための実践力を養います。

学習目標・到達目標

企画開発の発展的な考え方と手法が身につく。企画開発の応用力が養われている。

評価方法その他

実習への参加意欲、企画開発への取り組みを評価します。
評価の参考として、面接・実習ノート・自己開発シートを利用します。

週 テーマ・授業目標等

- 1 食企画開発実習Aのフィードバック
- 2 コミュニケーションとチーム形成(応用編)
- 3 食品加工技術に関する発展的な知識
- 4 「東京家政学院大学食堂のスイーツ提案」スタート
- 5 マーケティングと企画立案
- 6 試作方法の検討
- 7 試作準備
- 8 試作
- 9 成果レビュー
- 10 「健康を価値とするフードメニューの提案」スタート
- 11 マーケティング・企画立案と試作方法の検討
- 12 試作準備
- 13 試作
- 14 成果レビュー
- 15 まとめ

グループワークのテーマは、共同研究先との協議で変更する場合があります

使用教科書名

システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」

NO. G03046001

食と地球環境

山岡 義卓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食の営みは、自然の恵みをいただくことであるがゆえに、地球環境と密接に関係している。すなわち、私たちの食生活は地球環境に影響を及ぼすし、一方、地球環境の変化が私たちの食生活に影響を及ぼすこともある。この授業では、地球環境の変化が私たちの食とどのように関係しているのかを学習する。また、未来の変化を推察し、これらかの食のあり方についても考える。

学習目標・到達目標

食と地球環境の関係の観点から、現代の食に備する価値点を把握し、自ら問題解決に向けての取り組みを進められるようになること。

評価方法その他

平常点20点、中間レポート20点、定期試験60点

週 テーマ・授業目標等

- (1) ガイダンス
- (2) 食と地球環境の関係
- (3) 日本の食料需給・世界の食料需給
- (4) 地球環境と食にまつわる諸課題 ①地球温暖化
- (5) 地球環境と食にまつわる諸課題 ②水資源の問題
- (6) 地球環境と食にまつわる諸課題 ③生物多様性
- (7) 地球環境と食にまつわる諸課題 ④遺伝子組換え食品
- (8) 地球環境と食にまつわる諸課題 ⑤食の工業化・グローバル化
- (9) 地球環境と食にまつわる諸課題 ⑥廃棄物問題とリサイクル
- (10) 地球環境と食にまつわる諸課題 ⑦東日本大震災と食
- (11) 地球環境に配慮した食の営み ①地産地消
- (12) 地球環境に配慮した食の営み ②CSA・スローフード
- (13) 地球環境に配慮した食の営み ③フェアトレード・フードマイレージ
- (15) ワーク 地球環境の視点からこれからの食品消費を考える
- (15) 全体振り返り

使用教科書名

特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

NO. G03048001

フードビジネス・食産業研究

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ミクロ経済学と財務会計の基礎を理解した後に、フードビジネスと食産業の構造・歴史、業種別特徴・ビジネス戦略等を学びます。また、マネジメントの基本的な考え方や手法を学びます。

学習目標・到達目標

ミクロ経済学と財務会計の基礎を理解するための経済学の基礎知識と財務会計の考え方が習得できている。財務分析とSWOT分析をもとに、食品企業の特長性を判断できる。

評価方法その他

課題(50%) 期末試験(50%)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／経済学の基礎知識：履修条件の確認；経済学を学ぶ必要性；キャリア形成について
2. ミクロ経済入門①：分業；需要と供給；価格
3. ミクロ経済入門②：市場経済の仕組み
4. 財務と会計①：財務諸表
5. 財務と会計②：比率分析
6. 企業活動と財務・会計（グループワーク）①：企業活動と財務管理のグループワーク（前半）
7. 企業活動と財務・会計（グループワーク）②：企業活動と財務管理のグループワーク（後半）
8. 食産業の環境と動向：現代の経済環境と社会環境の理解
9. ビジネスマネジメント入門：情報管理と企業統治
10. 食産業の労働条件：給与・福利厚生・個人投資・働き方改革
11. ミクロ経済各論①：競争・独占・規制
12. ミクロ経済各論②：コストとリスク・インフラ
13. 企業研究・口頭発表①
14. 企業研究・口頭発表②
15. 企業研究・口頭発表③
16. 期末試験

使用教科書名

スタンフォード大学で一番人気の経済学入門 教科書
食品（2017年度版）（産業と会社研究シリーズ）
書いてマスター！ 財務3表・実戦ドリル
3級フードコーディネーター教本

NO. G03047001

調理素材とフードメニュー

小口 悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品は、それらを作るための素材（原材料）の調理的・栄養的な特性が活かされている。これには、伝承・経験を繰り返し、その調理法には科学的な必然性があることが見出される。この授業は、食品の持つ調理的特性を実験・実習を通して理解し、新しい利用法について試作・検討を行うことにより、メニュー展開への応用力・実践力を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

食品素材の特性を活かした多様な調理法・メニュー展開ができるようになること。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況や討論への参加等で総合的に判断する）40%、レポート（60%）の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 小麦粉の調理特性と代替食品による効果
3. 小麦粉の代替食品による調理法の検討と評価（米粉・コーンスタート他）
4. イモ類の粘性を利用した調理の可能性 ヤマイモ、長イモ、さつまいも
5. イモ類の粘性を利用した膨化調理と評価（1）饅頭への利用
6. イモの粘性を利用した膨化調理の可能性（2）パン、クリームへの利用
7. 低カロリーに視点をあてた食品素材の利用法の検討と評価（おから）
8. 低カロリーに視点をあてた食品素材の利用法の検討と評価（こんにやく）
9. 豆腐の新たな利用法の検討と評価
10. 乳製品の新たな利用法の検討と評価（ヨーグルト他）
11. 野菜・果物の新しい利用法の検討（1）野菜いりバターケーキへの利用
12. 野菜・果物の新しい利用法の検討（2）ジャム、饅頭、クッキーへの利用
13. 野菜・果物の新しい利用法の検討（3）バターケーキへの利用
14. 各種素材の利用法の提案（試作）
15. 各種素材の利用法の提案と評価（発表）

使用教科書名

プリントを配布する。

NO. G03049001

住居デザイン演習A

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、近い将来、建築やインテリアのプロ（専門職）として、また、本学科で学んだ知識や技術を生かした職業に就くことを目指すための初歩的で基礎的な製図手法や技術を習得する演習授業である。

学習目標・到達目標

初めて建築製図を学ぶ授業で、住宅をはじめとする建物の基本的な図面作成方法と構成及び構法と模型製作方法を学習する導入授業である。①基礎的な図面の表現法及び手法（技法）を習得する。②基本的な建築やインテリアとしての建築製図分野の全般的な知識を習得する。

評価方法その他

平常点：15％／課題：85％による総合評価、但し全課題提出を条件とする。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 課題1：線の練習
2. 課題2：レタリング・文字の練習
3. 課題3：建築図面の表示記号
4. 課題4：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－1
5. 〃：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－2
6. 〃：木造住宅／配置図・平面図の表現方法－3
7. 課題5：木造住宅／断面図・立面図の表現方法－1
8. 〃：木造住宅／断面図・立面図の表現方法－2
9. 課題6：RC住宅／平面図の表現方法－1
10. 〃：RC住宅／平面図の表現方法－2
11. 課題7：RC住宅／断面図・立面図の表現方法－1
12. 〃：RC住宅／断面図・立面図の表現方法－2
13. 課題8：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－1
14. 〃：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－2
15. 〃：住吉の長屋：安藤忠雄設計／模型製作－3
16. 課題提出

使用教科書名

「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005
「図解 すまいるの寸法・計画事典」岩井一幸／朝国社／2004

NO. G03050001

住居デザイン演習B

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

10㎡角の独立住宅の設計作図を通して、設計技術、作図技術、プレゼンテーション技術などの習得と上達を目指す。平面図、立面図、断面図、パースなどの作図を行い、模型を作成する。さらに、図面の着彩、模型写真の撮影などを通して、プレゼンテーション技術の上達をも目標とする。

学習目標・到達目標

基礎的な設計課題を通し、住まい手の求める生活像を実現する住宅設計の基本プロセスを習得する。

評価方法その他

平常点:30％／提出課題の完成度:70％による総合評価とする。平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 課題説明・コンセプト立案
2. エスキース(配置図・平面図)
3. エスキース(断面図)
4. エスキース(立面図)
5. 清書(配置図・平面図)
6. 清書(断面図)
7. 清書(立面図)
8. パース作成(一点透視図法)－1
9. パース作成(一点透視図法)－2
10. 模型製作－1
11. 模型製作－2
12. 模型写真の撮り方
13. レイアウトの手法
14. 印刷、着彩・写真貼付
15. 仕上げ・課題提出

使用教科書名

「新しい建築の製図」「新しい建築の製図」編集委員会／学芸出版社／2005
「図解 すまいの寸法・計画事典」岩井一幸／彰国社／2004
(住居デザイン演習Aと共通)

NO. G03052001

住居デザイン演習D

原口 秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

木造住宅課題の設計演習を通じて、デザインを楽しみながら、設計、作図、プレゼンテーション技術の習得、上達を目的とします。

学習目標・到達目標

木造住宅、RC住宅の基本構造が分かり、基本設計ができるようになる。

評価方法その他

出席、ポスターセッションの作品提示、作品評価等による。配点は出席点20％、課題評価80％。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・課題1説明:RC戸建て住宅
- 第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
- 第3週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
- 第4週・・・平面図の提出
- 第5週・・・断面図の提出
- 第6週・・・立面図の提出
- 第7週・・・ポスターセッション(発表会)
- 第8週・・・課題2説明:木造戸建て住宅
- 第9週・・・平面スケッチの提出
- 第10週・・・平面図の提出
- 第11週・・・断面図の提出
- 第12週・・・立面図の提出
- 第13週・・・パースの提出
- 第14週・・・模型の提出
- 第15週・・・ポスターセッション(発表会)

使用教科書名

NO. G03051001

住居デザイン演習C

深石 圭子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

RC造区分所有建物内の住宅の設計、RC造独立建物の店舗の設計を通して、設計製図の基本をマスターすること、デザイン、プレゼンテーション技法の上達を目指す。

学習目標・到達目標

住宅、店舗の基本寸法、基準寸法が分かり、インテリアの基本設計ができるようになる。

評価方法その他

出席、ポスターセッションの作品提示、作品評価等による。配点は出席点20％、課題評価80％。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・課題1説明:RC造区分所有建物
- 第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
- 第3週・・・平面スケッチの提出
- 第4週・・・平面図の提出
- 第5週・・・断面図の提出
- 第6週・・・立面図(展開図)の提出
- 第7週・・・ポスターセッション(発表会)
- 第8週・・・課題2説明:RC造独立建物(店舗)
- 第9週・・・平面スケッチの提出
- 第10週・・・平面図の提出
- 第11週・・・断面図の提出
- 第12週・・・立面図の提出
- 第13週・・・パースの提出
- 第14週・・・模型の提出
- 第15週・・・ポスターセッション(発表会)

使用教科書名

NO. G03053001

建築デザイン演習A

深石 圭子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

集合住宅の課題に取り組むことにより、基本コンセプトを考え、デザイン、製図、プレゼンテーション技法の修練、RC造、設備等の基本知識の習得などを目標としています。

学習目標・到達目標

集合住宅の基本設計をまとめ、それを平面図、立面図、断面図、パースなどの図面に書くことができるようになる。

評価方法その他

出席、ポスターセッションの作品提示、作品評価等による。配点は出席点20％、課題評価80％。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・課題1説明:集合住宅1・RC造壁式テラスハウス
- 第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
- 第3週・・・平面スケッチの提出
- 第4週・・・平面図の提出
- 第5週・・・断面図の提出
- 第6週・・・立面図(展開図)の提出
- 第7週・・・ポスターセッション(発表会)
- 第8週・・・課題2説明:集合住宅2・RC造シェアハウス
- 第9週・・・事例研究、設計趣旨の提出
- 第10週・・・平面スケッチの提出
- 第11週・・・平面図の提出
- 第12週・・・断面図の提出
- 第13週・・・立面図(展開図)の提出
- 第14週・・・パースの提出
- 第15週・・・ポスターセッション(発表会)

使用教科書名

NO. G03054001 建築デザイン演習B

原口 秀昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼稚園、美術館の課題によって、大型建築物の設計能力を向上させ、平面図、立面図、断面図、パースなどの図面に表せる能力を身につける。

学習目標・到達目標

大型建築物の設計製図ができるようになる。

評価方法その他

出席、ポスターセッションの作品提示、作品評価等による。配点は出席点20%、課題評価80%。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・課題1説明:幼稚園
- 第2週・・・事例研究、設計趣旨の提出
- 第3週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
- 第4週・・・平面図の提出
- 第5週・・・断面図の提出
- 第6週・・・立面図の提出
- 第7週・・・ポスターセッション(発表会)
- 第8週・・・課題2説明:博物館
- 第9週・・・事例研究、設計趣旨の提出
- 第10週・・・ボリューム模型、平面スケッチの提出
- 第11週・・・平面図の提出
- 第12週・・・断面図の提出
- 第13週・・・立面図の提出
- 第14週・・・パースの提出
- 第15週・・・ポスターセッション(発表会)

使用教科書名

NO. G03055001 住居CAD演習

足立 幸寿

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築設計においてCADの基礎を身に付けることを目的とし、設計製図の基本を学習する。本講義では、フリーソフトの中でも特に一般的なJWCAD for windowsを使用し、基礎的操作から図面作成のテクニックまで、さらに3次元CADやプレゼンテーション技法の習得を目指し、住宅の基本設計図を適切に表現するための必要な知識と技法を学ぶ。

学習目標・到達目標

CADによる設計図の基本的な表現スキルを身に付ける。

評価方法その他

授業中の小テスト(20%)
最終課題(80%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.JW_CAD 概要と基本
- 2.JW_CAD 作図系・編集系コマンドの基本操作
- 3.JW_CAD 作図系・編集系コマンドの応用操作 住宅平面図の作成 基本図
- 4.JW_CAD 作図系・編集系コマンドの応用操作 プレゼンの作成 画像編集
- 5.JW_CAD 集合住宅平面図作成 他
- 6.JW_CAD 集合住宅平面図作成 他
- 7.JW_CAD プレゼンテーション作成
- 8.SketchUp SketchUpとの連携エクスポート・インポートと環境設定
- 9.SketchUp 立体化 3Dモデリング(小テスト:JW-CADの確認)
- 10.SketchUp 外観パース マンションの立体化
- 11.SketchUp 内観パース (51C型・サザエさん)
- 12.SketchUp KERKYTHEAとの連携エクスポート
- 13.KERKYTHEA レンダリング(総合復習)
- 14.KERKYTHEA+GINP プレゼンテーション
- 15.KERKYTHEA+GINP プレゼンテーション(最終課題)

使用教科書名

Jw_cad徹底解説(操作解説編)2012-2013

NO. G03056001 建築CAD演習

足立 幸寿

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住居CAD演習で習得したスキルを基本に実社会に応用できる設計製図手法を身に付けることを目的とし、建築設計におけるプレゼンテーション技法のテクニックを学習する。本講義ではすべてフリーソフトを使用し、2次元から3次元図面作成のテクニックをさらに効果的に視覚化できる動画によるプレゼンテーション技法の習得を目指し、建築をわかりやすく適切に表現するために必要な知識と技法を学ぶ。差別化を図る為に動画によるポートフォリオを作成する。

学習目標・到達目標

紙媒体によるプレゼンテーション、さらに動画等のデバイスによるプレゼンテーションスキルを身に付ける。

評価方法その他

授業中の小テスト(20%)
最終課題(80%)

週 テーマ・授業目標等

1. JW-SU-GE-AR フリーソフトの連携の概要 動画
2. SketchUp 写真合成の手法
3. SketchUp モンタージュ写真
4. KERKYTHEA 添景の貼り付け
5. KERKYTHEA+GINP 断面パース・インテリアパースの基本
6. KERKYTHEA+GINP ライティングの基本
7. KERKYTHEA+Inkscape プレゼンテーションの基本
8. SU+GE+PP それぞれの動画エクスポート
9. GoogleEarth総合プレゼン 小テスト
- 10.PP+MM ポートフォリオの作成
- 11.PP 最終課題発表 プレゼンテーション
- 12.SU 動画ワークスルーのプレゼンテーション
- 13.Inkscape A1プレゼンテーション
- 14.GE+PP(動画) ポートフォリオ+プレゼンテーション
- 15.MM ポートフォリオ+ムービーによるプレゼンテーション(最終課題)

使用教科書名

NO. G03057001 建築総合演習

柏木 穂波

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科における4年間の学修を確実にものとするために、木造軸組構法、RCラーメン構造の戸建て住宅を設計・作図する。設計にあたっては、構造計画・設備計画及び周辺環境との調和を図り、総合的にまとめあげることを要求する。

学習目標・到達目標

住居を含む建築について、与条件のもとでの実践的な建築計画・作図技能を習得する。

評価方法その他

平常点:20%/課題:80%による総合評価、但し全課題提出を条件とする。平常点とは授業への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 課題1:RC住宅の計画と製図 その1
2. " その2
3. " その3
4. " その4
5. 課題2:木造住宅の計画と製図 その1
6. " その2
7. " その3
8. " その4
9. 課題3:木造住宅の計画と製図 その1
10. " その2
11. " その3
12. " その4
13. 課題4:RC住宅の計画と製図 その1
14. " その2
15. " その3

使用教科書名

「特に指定しない」
適宜、シラバスに沿ってプリント及び関連資料を配布する。

NO. G03058001 建築計画

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築計画学とは、建築をつくる上での基礎となる技術であり、人間の生活と空間との対応が重視される分野で、授業は建築計画に関する基礎的理論を学んだ後、各種建物に共通する基礎的問題や空間性能について具体的な建築としての各種施設を概説しながら進行する。

学習目標・到達目標

建築計画の基本概念を理解することで、寸法の単位や寸法のシステム等寸法、人間の心理・行動と空間との関連、建築・住居の安全性に関する基本的な考え方及び技術者の社会的業務、各種施設の機能・形態別の特徴と居住性などの基本的な「建築士」としての建築計画分野の全般的な知識を習得することができる。

評価方法その他

小課題30％、小テスト30％、定期試験40％により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／建築計画とは
2. 寸法の決め方・決まり方
3. 空間移動と安全性
4. 空間と知覚1
5. 空間と知覚2
6. 空間と人間のイメージ
7. 周辺空間と人間の心理
8. 小学校・中学校・高等学校
9. 幼稚園・保育所
10. 図書館・美術館
11. 劇場
12. ホテル・事務所
13. 病院・診療所・高齢者施設
14. 商業施設・駐車場・スポーツ施設
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03059001

建築環境学B

花田 考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「光・音」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

【建築士指定科目】建築環境を構成する、光・音の基本的性質を説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 5.光環境と色彩 (1)生活環境の中の光と色 (2)光と視覚
3. (2)光と視覚 (3)見えの効果
4. (4)光環境のデザイン
5. (4)光環境のデザイン
6. (5)色彩環境のデザイン
7. 2.音環境 (1)生活の中の音 (2)音の基礎知識
8. (2)音の基礎知識
9. (3)騒音の評価
10. (4)建物の音響性能
11. (4)建物の音響性能
12. (5)よりよい音環境づくりのために
13. 8.電気設備 (1)電気設備の基礎知識
14. (2)配線設備
15. (3)照明設備
16. 試験

使用教科書名

生活環境学[改訂版]／岩田利枝 他／井上書院／2015

NO. G03060001

建築環境システム

花田 考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちが建物の中で生活するためには、建築設備（給排水衛生・空気調和・電気・搬送・防災）が必要不可欠である。この授業では、安全で快適な居住環境を形成するために必要な建築設備のシステムを学び、建築と設備のかかわりを理解することによって、平面・断面計画上の設備スペースについて知る。また、省エネルギー手法について、エネルギー消費性能とライフサイクルアセスメント（環境評価）および経済性の関係についても学ぶ。

学習目標・到達目標

【建築士指定科目】建築設備の名称とその働きを説明できること。また、設備システムを選択する上で、考慮すべき点を説明できること。

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 建物内のエネルギーの流れ
3. 空調設備 (1)自然環境と建築環境
4. (2)太陽エネルギーの利用と遮蔽
5. (3)空調負荷
6. (4)空調熱源装置と使用エネルギー
7. (5)空調方式
8. (6)熱搬送方式
9. (7)室内空気分布と吹き出し口
10. (8)換気設備
11. (9)自動制御設備
12. 5. 防災設備
13. 6. 建築と省エネルギー
14. 7. 設備計画とスペース
15. 8. 電気設備
16. 試験

使用教科書名

「建築の設備」入門 新訂版／同編集委員会編／朝日社／2009年

NO. G03061001

住環境調査A

深石 圭子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住環境を構成している建築空間、建築環境について理解を深めるために、体験学習を行う。普段使用している製図室や階段の実測を通して空間の図面表現を理解する。

学習目標・到達目標

【建築士指定科目】建築空間の図面表現、建築環境と人間の感覚について、説明できること。

評価方法その他

平常点(60%)、課題(40%)の総合評価
(平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス、グループ分け、実測方法と測量機器の使い方
- 第1課題 製図室の実測・清書
- 製図室を実測し平面図(1:50)、展開図(1:50)を作成する。
- 製図室の実測(1)測量器具の使い方
- 2.製図室の実測(2)野帳作成
- 3.製図室の実測(3)野帳作成
- 4.平面図の作成(1)下書き
- 5.平面図の作成(2)清書
- 6.展開図の作成(1)下書き
- 7.展開図の作成(2)清書
- 8.第2課題 階段の実測・清書
- 3号棟階段を実測し平面図(1:20)、断面図(1:20)を作成する。階段の実測(1)測量器具の使い方
- 9.階段の実測(2)野帳作成
- 10.平面図の作成(1)下書き
- 11.平面図の作成(2)清書
- 12.断面図の作成(1)下書き
- 13.断面図の作成(2)清書
- 14.断面図の作成(3)清書
- 15.断面図の作成(4)清書

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03062001

構造力学B

西村 彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

構造力学Aの復習を行いつつ、静定構造物の構造力学の理解を深める。また、応力度、ひずみ度、たわみについての考え方を理解し、不静定構造物への導入を計る。さらには、部材に生ずる応力度と材料の許容応力度を比較することにより、許容応力度設計法を学ぶ。

学習目標・到達目標

圧縮、引っ張り、および、曲げモーメントによる応力度の概念を理解し、許容応力度設計法に基づいた構造物の安全評価ができる。

評価方法その他

授業における演習レポート(50%)、及び、試験(50%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1 概要説明(構造物の強度と安全)
- 2 支持反力、軸力部材の考え方(構造力学1レビュー)
- 3 曲げモーメント図、せん断力図(構造力学1レビュー)
- 4 材料の強度と許容応力度(木材、鋼、コンクリート)
- 5 応力度、曲げ応力度の計算――断面積、断面係数
- 6 曲げ応力度と曲げ変形――断面2次モーメント
- 7 断面の性質(その1:断面係数、断面1次モーメント)
- 8 断面の性質(その2:断面2次モーメント、断面2次半径)
- 9 柱・梁の曲げ変形(偏心荷重による複合応力と変形)
- 10 同上 計算練習
- 11 圧縮応力度、座屈応力度(座屈長さ、細長比)
- 12 構造計算と構造力学(その1:設計荷重、小梁の計算)
- 13 構造計算と構造力学(その2:交差梁、床板の計算)
- 14 構造計算と構造力学(その3:座屈と柱の設計)
- 15 定期試験

使用教科書名

NO. G03063001

構造力学C

西村 彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

不静定構造力学、および、実務的な設計計算手法を学ぶ。

学習目標・到達目標

柱、梁部材の力学特性を理解し、それらが骨組みとして構築された時の役割を理解する。

評価方法その他

授業における演習レポート(50%)、及び、学期末計算課題レポート(50%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1 概要説明(静定構造・不静定構造・構造設計詳細)
- 2 曲げモーメントと曲げ変形(モールの定理他)
- 3 ラーメン構造の力学(その1:D値法)
- 4 同上
- 5 同上
- 6 同上
- 7 ラーメン構造の力学(その2:固定モーメント法)
- 8 同上
- 9 同上
- 10 アーチ・ドーム・シェル構造の考え
- 11 構造力学と建築設計(その1:構造設計例を教材として)
- 12 構造力学と建築設計(その2:荷重条件と安全検証)
- 13 トラスの解法と、部材の許容応力度設計
- 14 ラーメン構造の終局強度設計
- 15 計算課題レポート

使用教科書名

各講義時間に、資料を配付する。

NO. G03064001

住宅設計論

柏木 穂波

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築、インテリアデザインの基本、法規や木造建築の基本を学び、デザイン演習の補助とし、応用可能な基礎的能力を高めます。授業の前半は建築家、デザイナーの作品を解説、後半は木造などの技術の基礎を解説、最後にその授業でやったことの小テストを行います。

学習目標・到達目標

建築、インテリアデザインの基本が分かり、デザイン演習に応用できるようになる。

評価方法その他

各授業の最後に、その授業でやったことの小テストを行い、その合計点で評価します。配点は出席点20%、テストの得点80%で評価。

週 テーマ・授業目標等

- 1 面積計算
- 2 容積率、建ぺい率
- 3 面積計算、ドライエリアなど
- 4 コルビュジェ、近代建築の5原則、家具の大きさ
- 5 コルビュジェ、木造の在来構法、枠組壁構法
- 6 ミース、W造、RC造、S造
- 7 ミース、RC像、S造
- 8 アアルト、基礎
- 9 カーン、パラペット、ペントハウス、ドレイン、笠木
- 10 ガウディ、平面図、断面図の間違いやすいところ
- 11 マッキントッシュ、屋根形
- 12 ワグナー、基礎、土台
- 13 柱の入れ方
- 14 床組み
- 15 小屋組み

使用教科書名

NO. G03065001

構法計画

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建物全般の中で最も基礎的な木構造を中心にして、建物がどのようにして建てられているか、各部材の構成方法はどのようになっているかについて、構造や構法の名称（在来軸組構法、木造枠組壁構法、木質系プレファブ構法など）、造作部材の呼び名を含めて具体的に解説する。また、建物を設計・施工し、維持管理するために必要な知識である、建物の構成要素である各部位の材料と、それらが統合された建物全体としての構成及び性能についても学ぶ。

学習目標・到達目標

木造在来軸組構法について、部材の名称とその役割を説明できること。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス(木造住宅の構法の種類)
- 2.住宅の品質確保促進法について
- 3.地業・基礎
- 4.木材の接合①
- 5.木材の接合②
- 6.軸組①―土台、大引、根太
- 7.軸組②―柱、梁
- 8.軸組③―桁、筋かい
- 9.軸組④―壁量計算
- 10.軸組⑤―壁量計算
- 11.床、壁、天井
- 12.小屋組①―和小屋
- 13.小屋組②―洋小屋
- 14.屋根一形、勾配
- 15.造作
- 16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03066001

構造計画B

西村 彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

構造力学の知識を基に、木構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎構造について、構造設計法に焦点を当てて講義、する。また、演習課題を通して、実務的な知識を学ぶ。これらは、建築デザイン演習、環境デザイン演習において必要とする構造の知識である。建築士受験範囲を網羅する。

学習目標・到達目標

建築計画、インテリアデザインにおいて、構造の知識による判断が出来る。あるいは、構造計画に基づいた建築デザインを考えることが出来る。

評価方法その他

出席(30%)、演習レポート(30%)、および、定期試験(40%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 概要説明(地震被害の歴史と耐震設計法の変遷)
- 2 木造軸組構造 1 床、梁の強度
- 3 2 壁量計算に基づく耐震設計
- 4 3 基礎の計算
- 5 鉄骨構造 1 鉄骨構造の設計、および、施工について
- 6 2 床、梁、および、柱の設計
- 7 3 接合部の設計(溶接接合、ボルト接合)
- 8 4 鉄骨構造・諸規定
- 9 鉄筋コンクリート(RC) 構造の設計
- 10 1 RC構造の設計、および、施工について
- 11 2 床、梁、および、柱断面の計算
- 12 3 構造計画と耐震設計方針
- 13 4 壁式構造とラーメン構造の耐震性
- 14 5 RC構造・諸規定
- 15 6 許容応力度設計と終局強度設計
- 16 耐震設計法まとめ
- 17 定期試験

使用教科書名

構造用教材 日本建築学会 丸善

NO. G03068001

建築施工

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築生産の最終段階である施工について、建築物の主要構造形式である鉄筋コンクリート造と鋼構造を中心として、地業工事、主体工事、防水工事の順に施工方法を平易に解説する。また、施工する際に重要となる、積算・見積りの方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

鉄筋コンクリート造及び鋼構造で建てられた建築物の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 仮設・地業工事① ー 地盤調査
3. 仮設・地業工事② ー 基礎フーチング工事・杭工事
4. 仮設・地業工事③ ー 根切り・山留め工事
5. 仮設・地業工事④ ー 足場
6. 主体工事① ー 鉄筋工事
7. 主体工事② ー 型枠工事
8. 主体工事③ ー コンクリート工事
9. 主体工事④ ー 鉄骨工事
10. 主体工事⑤ ー 鉄骨工事(接合)
11. 防水工事① ー アスファルト防水
12. 防水工事② ー シート防水／塗膜防水
13. 防水工事③ ー 金属シート防水／モルタル防水
14. 防水工事④ ー シーリング防水など
15. 積算
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03067001

建築材料学

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現在のように次々に建築用新素材や新製品が開発されている時代には、各種の建築物の用途に応じた適正な建築材料の選択と使用方法が必要になる。そこで、建築材料の中から、建物の柱、梁などの構造材料として用いられているコンクリート、木材及び鋼材について取り上げて、それら材料の基本的事項（種類、特徴、性能など）を平易に解説する。また、部位に要求される性能条件と材料の性質との関連性を理解させると共に、建築材料選定に当たっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

構造材料(コンクリート、木材、金属など)について、その基本的事項(種類、性質など)を説明できること。

評価方法その他

平常点(60%)とレポート(40%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. コンクリート用材料①(セメント)
3. コンクリート用材料②(骨材及び混和材料)
4. コンクリート供試体の作製
5. 硬化前のコンクリートの性質
6. 木質系材料の種類と性質
7. 木材の圧縮強さ試験
8. 木材の圧縮強さ試験のレポートの作成
9. コンクリートの圧縮強度試験
10. コンクリートの各種試験のレポートの作成
11. 硬化後のコンクリートの性質
12. 金属系材料
13. 鉄筋の引張試験
14. 鉄筋の引張試験のレポートの作成
15. 鉄筋コンクリートの耐久性
16. レポートの提出

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03070001

基礎造形

澤田 雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

デザインの基本となる、基礎的な造形訓練を行う。ものをよく見て描くこと、いろいろな素材で形を作ること、平面的な形を立体に変換すること、正確な寸法を測って作ること等、いくつかの手法を体験する。同時にそれらの体験を通して、さまざまな素材の特徴や、基本的な道具の使い方と加工方法の基礎を身につける。

学習目標・到達目標

かたちの発想方法を身につけ、素材に適した加工方法が選択できるようになることを目標とする。

評価方法その他

提出された課題40%・制作の過程40%・平常点20%(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／授業内容と日程の説明
2. レタリング:文字を切り抜いた立方体の制作①
3. レタリング:文字を切り抜いた立方体の制作②
4. 粘土(陶土)の造形/基礎:円筒形の茶碗を作る①
5. 粘土(陶土)の造形/基礎:円筒形の茶碗を作る②
6. 粘土の造形/応用:陶土のペン立ての制作①成形
7. 粘土の造形/応用:陶土のペン立ての制作②仕上げ
8. 木で曲面を作る①アイデアの展開と試作
9. 木で曲面を作る②作品の制作(木の切削作業)
10. 木で曲面を作る③仕上げ
11. 陶土の円筒形茶碗とペン立ての施釉作業及び窯入れ
12. 紙のカードの「TOWER」の制作①デザインの検討と試作
13. 紙のカードの「TOWER」の制作②作品の完成
14. まとめ(作品の撮影と制作意図のまとめ)
15. 作品合評会

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03071001

インテリア基礎演習

高尾 純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

照明の方法、効果、器具の種類、設置場所と設置方法など照明の基礎を学ぶ。（レポート）照明器具の材料は紙、布、木、金属、プラスチック、陶器、有機素材など様々な材料が考えられるが、照明効果を考慮して材料を選択し、材料の特性を生かしたフォルムを考える。今回は最初であるので、紙の特性である折るを生かしたペーパーフォルディングのランプシェード制作（1点目）。次に、平面材である紙、布、線材であるヒモを使用した照明器具を考える（2点目）。授業は素材研究、照明効果の実験、簡単な図面の作成、モデル等を経て制作を行う。

学習目標・到達目標

照明の基礎知識を学び、材料の特性を活かした照明器具の制作を行うことにより、インテリアプロダクトについての考え方を習得する。

評価方法その他

課題①、②の作品とプレゼンテーションパネル及びレポート(80%)、平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. G03073001

インテリアデザイン演習

高尾 純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家具の基本的な知識を習得し、先ず椅子の構造を理解するために有名な椅子の図面を基に模型製作を行う。次に平面材であり、ある程度自由な形を作ることができる厚み15mmのシナ合板と一部ブナ無垢材を使ったオリジナルの椅子のデザインを考える。三図面、模型の制作、部品図、木取り寸法表、木取り図を制作する。後期「生活デザイン演習F」の授業に於いて、側面型定規の制作を経て、椅子制作を行う。

学習目標・到達目標

家具についての基礎知識、モデル製作による椅子構造の理解(有名な椅子の図面を基に)プロダクトデザインのプロセスを学ぶ。

評価方法その他

1/5模型(2点)三図面2枚、木取り寸法表と木取り図、プレゼンテーションパネル(80%)、平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 家具の基礎知識
2. 椅子構造の理解／有名な椅子の資料を基に1/5の模型制作
3. "
4. "
5. 合板による椅子のデザイン アイデアスケッチ
6. アイデアスケッチ 1/10のラフ模型による検討
7. 三面図作成
8. 1/5の模型制作
9. 改善点を考える
10. 三面図の作成
11. 1/5の模型制作
12. 部品図作成
13. 木取り寸法表と木取り図作成
14. "
15. 写真撮影・パネル製作(プレゼンテーション)

使用教科書名

NO. G03072001

クラフトデザイン演習

澤田 雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

陶土と木を素材とし、スケッチによるアイデアの展開、製図の作成、試作品の制作という一連の手順をふんで、生活用品（食器）を制作する。その制作を通して生活の中の道具のあり方を考えながら、デザインのプロセスを実践的に理解する。制作にあたっては、既存の食器を観察して使用方法を考察し、その結果に基づいて計画的に作品を制作することを原則とする。その過程を通して制作のための基礎的な技術と、デザインの基本的な考え方を身につける。

学習目標・到達目標

陶器の制作技法の初歩と、簡単な生活用品のデザインの考え方を身につけることを目的とする。

評価方法その他

提出された課題40%・制作の過程40%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／授業内容と日程の説明
2. 陶器制作の基礎①土練り
3. 陶器制作の基礎②既製品の実測と図面の作図
4. 陶器制作の基礎③成形
5. 陶器制作の基礎④底削りと仕上げ
6. 茶碗の制作①アイデアスケッチ
7. 茶碗の制作②デザインの決定と製図の作図
8. 茶碗の制作③成形
9. 茶碗の制作④底削りと仕上げ
10. 木のバターナイフの制作①アイデアスケッチ
11. 木のバターナイフの制作②試作品の制作
12. 木のバターナイフの制作③デザインの決定
13. 木のバターナイフの制作④最終作品の制作
14. 茶碗の制作⑤施釉と窯入れ
15. 作品の制作意図のまとめとプレゼンテーション準備
16. 作品合評会

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03075001

メディアデザイン基礎演習

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

情報社会に流れている様々な情報を収集し、論理的に分析することにより、より正確な情報に変え、可視化することが出来る。本授業では、映像制作を通じてマルチメディアの原理を理解し、情報伝達を理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

映像表現を用いて情報を伝達することを学習目標とする。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション、映像制作について？
- 2 コンセプト、シナリオ作成1
- 3 コンセプト、シナリオ作成2
- 4 絵コンテ制作1
- 5 絵コンテ制作2
- 6 ロケーション
- 7 撮影
- 8 撮影
- 9 撮影
- 10 撮影
- 11 編集
- 12 編集
- 13 編集
- 14 編集
- 15 編集
- 16 プレゼンテーション

使用教科書名

授業を行う際に資料を配布する。

NO. G03076001

メディアデザイン演習

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

情報を伝達するメディアは様々である。このメディアデザイン演習Bでは映像を用いて如何に正確な情報を伝えるかを学ぶ事を目的とする。

学習目標・到達目標

CMの企画、シナリオ、演出、撮影、編集を学び、30秒CMの制作を行う。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 1回目 オリエンテーション
- 2回目 CMの企画、アイデア会議
- 3回目 ストーリー制作
- 4回目 ストーリー制作
- 5回目 絵コンテ制作
- 6回目 絵コンテ制作
- 7回目 撮影準備会議
- 8回目 撮影
- 9回目 撮影
- 10回目 撮影
- 11回目 撮影
- 12回目 編集
- 13回目 編集
- 14回目 編集
- 15回目 試写会
- 16回目 プレゼンテーション

使用教科書名

授業を行う際に資料を配布する。

NO. G03077001

デジタルフォト論

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

カメラの仕組みと写真の理論、撮影の実習を通じて、写真を理解する。写真は情報伝達の表現手段の一つである。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目的とする。
実際に風景、人物などの撮影や色々な場面の撮影を行いながら理論を理解し、その結果を用いて様々なデジタル処理を行う。

学習目標・到達目標

写真の理論と撮影の実習。写真は情報伝達の表現手段の一つである。まず、「表現する」ために必要な能力を育つことを目標とする。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)
注)カメラの機材の関係で人数制限があります。CG演習を履修することが望ましい。

週 テーマ・授業目標等

- 1 授業の説明
- 2 講義 カメラの種類と機能、レンズの種類・絞りとシャッターの機能
- 3 撮影演習 1 絞り、シャッター速度などカメラの基本原理の理解
- 4 撮影演習 1 絞り、シャッター速度などカメラの基本原理の理解
- 5 撮影演習 2 季節をテーマとして撮影
- 6 撮影演習 2 季節をテーマとして撮影
- 7 プレゼンテーション及び評価
- 8 撮影演習 3 人物をテーマとして撮影
- 9 撮影演習 3 人物をテーマとして撮影
- 10 プレゼンテーション及び評価
- 11 撮影演習 4 製品をテーマとして撮影
- 12 撮影演習 4 製品をテーマとして撮影
- 13 プレゼンテーション及び評価
- 14 デジタル補正1
- 15 デジタル補正2
- 16 統括

使用教科書名

授業中に指定する。

NO. G03079001

カラーコーディネート

高尾 純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、私たちを取り巻く「色」のことを深く知ること、インテリア、ファッション、グラフィック、エクステリア環境など色彩のもつ特性を活かして、ニーズに合った色のアドバイスやコンサルティングを中心に色彩が関わる分野の幅広い知識を学ぶことができる。

学習目標・到達目標

色彩は、外界からの情報を五感から取得している様々な情報である。特に視覚情報は対象の大きさ、形、運動、質感、及び色彩などで、本授業では色が人の心に与える影響、色彩学の中で色彩と人の心の関わりなど、「色彩検定2級」及び「カラーコーディネート2級」の基本的な知識を習得することを学習目標とする。

評価方法その他

平常点:35%(小テスト2回を含む)／定期試験65%による総合評価。なお、平常点は、授業への参加・討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 色の表示－マンセル表示系
2. 色の表示－色名の基本
3. 光と色－光の性質
4. 色彩調和－配色の種類
5. 色彩調和－色彩技法
6. 色彩調和－色彩調和論
7. 配色イメージ
8. 色の見え方
9. ビジュアルデザイン
10. ファッション－ファッションビジネス
11. ファッション－ファッションコーディネート
12. プロダクト
13. インテリアとエクステリア－インテリア
14. インテリアとエクステリア－エクステリア
15. 「色彩検定」の総括
16. 定期試験

使用教科書名

「特に指定しない。」

NO. G03081002

生活用具論

高尾 純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

文化の視点から総合的に食を観察する食文化。台所と食卓の視点で食について観察する食事文化。ここでは、食に関わるモノ（生活用具）を通して人の文化を考える。

学習目標・到達目標

食に関わる道具と日本独自の食の文化との関わりを理解する。箸を使用する文化圏は東アジアであるが、箸だけで食事をする国は日本だけである。箸を手で持つことを含めて、箸のみで食事ができる様に調理されているからである。その背後には様々な包丁の種類やまな板、箸の種類や小皿の存在がある。また箸の先端が細く、様々な使用方法ができることも日本独自である。箸という食の道具(食具)を観るだけで日本独自の文化が見えてくことを理解したい。

評価方法その他

レポート(80%) 平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・ガイダンス
- 第2週・・・西の文化と東の文化。雑煮
- 第3週・・・日本料理／寿司ブーム
- 第4週・・・日本の味／肉じゃが
- 第5週・・・コメの食文化／電気釜
- 第6週・・・三大食法(手食・箸食・ナイフ食)
- 第7週・・・魚醤・味噌・醤油
- 第8週・・・桶と樽／升
- 第9週・・・個卓から共卓へ／懷石料理
- 第10週・・・台所の変遷／ダイニングキッチン
- 第11週・・・包丁とまな板
- 第12週・・・器の文化／北大路魯山人／尾形乾山
- 第13週・・・寿司／小野二郎
- 第14週・・・食のライフスタイル／食の産業化、食の世界化
- 第15週・・・まとめ

使用教科書名

随時資料を配付する。

NO. G03082001

インテリアデザイン論

高尾 純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

インテリアデザインの入門として、内部空間との関係が深いモノや人との関係に関心を持ち、モジュールや形、色、テクスチャーの心理、家具、椅子、照明や材料などについての知識を深めていく。インテリアデザイン計画では建築空間の制約を受けると同時に、室内に配される物とも密接な関連を持っている。材料、技術、手法、法規などのハード面についての知識と人間の心理や行動、あるいは人間的スケールなど具体的な設計に応用できるための計画技術を学ぶ。

学習目標・到達目標

インテリアに関わる様々なエレメントに関心を持ち、幅広い知識を吸収する。建築の工法、材料、建築法規などの解説とインテリアに於ける人間との関係を学ぶ。

評価方法その他

試験(80%) 平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、インテリアデザインとは、日本の住まいの特徴
2. 日本の住まいとインテリアの変遷
3. 西洋のインテリア家具様式の変遷、戦後のデザインの流れと日本現代家具
4. 人間工学の意味と人体寸法、家具・設備への人間工学の応用
5. 形・色・テクスチャーの心理
6. 人間尺度と空間の心理
7. 家具、テキスタイル、照明、サイン、グリーン、アート
8. 材料と仕上げ(床/壁/天井/開口部、カーペット・カーテン)
9. インテリアの構成
10. 建築基準法・建築士法・消防法
11. 室内環境計画とその制御
12. 住空間計画、コミュニケーション空間①
13. コミュニケーション空間②
14. 子供の空間、高齢者の空間、夫と妻の空間
15. サニタリー空間、収納方式と収納空間、アプローチ空間
16. 試験

使用教科書名

インテリアデザイン教科書第二版／インテリアデザイン教科書研究会編著／彰国社／2800円＋税

NO. G03084001

くらしの考現学

望月 史郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代生活にあふれている多くのものが果たす役割は、生活の諸相を丹念に観察したり体験したりすることで理解が深まる。この講義では、かつての生活ともの、現代生活ともの、そこに至る変化の過程などを注意深く見ながら学び、生活観察とデザインの結びつきを考察する。

学習目標・到達目標

現代生活の基礎的な考え方を理解し、その方法を体験する。
・観察・記録またはそれに関連する資料を集め、バラバラに見える情報を整理することによって、問題発見、計画への反映を行うための能力を高める。
・ものの意味や役割を、できるだけ幅広く理解する。

評価方法その他

平常点35%、小レポート15%、最終レポート50%

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクションー講義日程と内容の概要
2. 生活観察の意義
3. ひと昔前の生活と現代生活の比較
4. ひと昔前と現代との、生活観とデザイン観の比較
5. ものに囲まれた現代生活の観察
6. 『サザエさん』に描かれたものと生活の観察(1)変化の実態
7. 『サザエさん』に描かれたものと生活の観察(2)変化の傾向
8. 生活用具の変遷(1)電化製品広告と時代背景
9. 生活用具の変遷(2)製品開発コンセプトの変遷
10. 生活用具の変遷(3)造形の変遷
11. 一具多用のもの文化
12. 図像の象徴的表現と生活文化
13. ものの象徴的意味(物理的機能との対比)
14. 行動観察に基づく開発・計画
15. まとめ

使用教科書名

使用しません。必要に応じて資料を配付します。

NO. G03083001

食器デザイン論

澤田 雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

陶磁器と漆器の歴史的な作品例を紹介しながら、制作工程と技術、材料、道具などについて解説を行い、食器のデザインの変遷と、制作技術についての基礎知識を学ぶ。さまざまな作品の事例についての考察を通して、食器と生活、そして素材と技術と形の関係についても理解を深め、食器デザインの基盤となる考え方を身につけることをめざす。

学習目標・到達目標

陶磁器や漆器等の様々な食器の制作方法と扱い方を理解できる。

評価方法その他

試験またはレポート80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス／授業内容の説明
2. 日本の陶芸の歴史①土器と生活
3. 日本の陶芸の歴史②窯とろくろの発達
4. 日本の陶芸の歴史③釉薬の利用
5. 日本の陶芸の歴史④中国の陶磁器からの影響
6. 日本の陶芸の歴史⑤茶道とやきもの
7. ヨーロッパのやきもの①古代ギリシャ
8. ヨーロッパのやきもの②中世スペイン
9. ヨーロッパのやきもの③イスラム世界からの影響
10. ヨーロッパのやきもの④中世以降のイタリア
11. ヨーロッパのやきもの⑤磁器
12. 漆器のデザイン①加飾の技法
13. 漆器のデザイン②古代の漆器
14. 漆器のデザイン③漆器の色
15. まとめ
16. 試験またはレポート提出

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03087001

生活デザイン演習D

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

2年次前期の生活デザイン演習Cと同様、生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、あるいは学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解し、授業を専門的、主体的に学ぶための考え方や手法を身につける。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに

独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

・他学年と合同で実施するプログラムもある。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03088001

高分子材料実験Ⅰ

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した知識を、自分の手で実験し観察する事は習得した事柄の理解をより深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段となる。ここでは主に糸・布を対象とした1)糸の構造観察、2)各種繊維布の分解による構造の観察と性質、3)機械的性質としての引張り強伸度、摩擦・摩耗試験、4)吸水・吸湿性試験、5)ドレープ性試験等の項目について実験し、繊維の性質を背景とした糸、糸を組み合わせた布の構造と性質について理解する。

学習目標・到達目標

高分子材料実験Ⅰは実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、得られた結果からどんな結論が導かれるかを考える能力を高めることを目標とする。
到達目標:主要な布構造と性質の関係が理解出来、実験結果のチャートを読む事が出来る。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1.実験プログラムの説明
- 2.糸の観察(1)
- 3.糸の観察(2)
- 4.織物の構造(1)
- 5.織物の構造(2)
- 6.引張強硬度試験(1)
- 7.引張強硬度試験(1)
- 8.考察
- 9.吸湿・吸水性試験(1)
- 10.吸湿・吸水性試験(2)
- 11.吸湿・吸水性試験(3)
- 12.摩擦・摩擦試験
- 13.ドレープ性試験(1)
- 14.ドレープ性試験(2)
- 15.総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

NO. G03089001

繊維学実験Ⅰ

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

テキスタイル材料学、衣繊維学の講義で習得した事柄を、自分の手で実験し観察する事は習得した事柄の理解を深めると共に、実生活における有効な応用を可能にする手段である。この実験では繊維と糸を中心とした実験を行い、顕微鏡観察、繊維の燃焼性、呈色性、耐薬品性、繊維・糸の製造実験等の各種繊維の構造観察と性質等の項目について実験し、各種性質を利用した繊維の鑑別から糸・布にいたる一連の流れの中での相関を理解させる。

学習目標・到達目標

繊維学実験Ⅰは実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、得られた結果からどのような結論が導かれるかを考える能力を高めることを目標とする。
到達目標:主要な天然繊維・合成繊維の鑑別ができる。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20%)・レポート(80%)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1.実験プログラムの説明
- 2.顕微鏡の取扱いと繊維の観察(1)
- 3.顕微鏡による繊維の観察(2)
- 4.繊維の燃焼性(1)
- 5.繊維の燃焼性(2)
- 6.着色による繊維の鑑別(1)ー鑑別用試薬ー
- 7.着色による繊維の鑑別(2)ー混合インクー
- 8.考察
- 9.耐薬品性試験(1)
- 10.耐薬品性試験(2)
- 11.ビニロンの製造(1)ー紡糸ー
- 12.ビニロンの製造(2)ーアセタール化ー
- 13.未知試料の鑑別(1)
- 14.未知試料の鑑別(2)
- 15.総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

NO. G03090001

アパレルデザイン論

藤田 恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

アパレル製品の企画・設計・流通・管理や、衣服デザインに関する基礎的な知識を学ぶ。1回はアパレルメーカーの講師による特別授業を予定している

学習目標・到達目標

アパレルデザインの基礎を学ぶ。

評価方法その他

平常点40%、レポート・作品30%、試験30%

週 テーマ・授業目標等

- 1.1章 商品企画とアパレルデザイン
- 2.1章 商品企画とアパレルデザイン
- 3.特別授業
- 4.2章 ファッションの変遷とその背景
- 5.2章 ファッションの変遷とその背景
- 6.3章 衣服デザインの基礎
- 7.3章 衣服デザインの基礎
- 8.4章 フォーム
- 9.4章 フォーム
- 10.5章 カラー
- 11.5章 カラー
- 12.6章 テキスタイル
- 13.6章 テキスタイル
- 14.7章 着装とデザイン
- 15.8章 コストとデザイン

使用教科書名

『改訂 アパレルデザインの基礎』日本衣料管理協会 2004

NO. G03091001

アパレルデザイン表現実習

藤田 恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ファッションデザイン画と、ドレーピング(立体裁断)実習を通して、アパレルの基礎技術を学ぶ。1回はアパレルメーカーの講師による特別授業を予定している。

学習目標・到達目標

アパレルデザインの表現法としてデザイン画や、ドレーピング(立体裁断)の実習により、アパレルの商品化の基礎技術を修得する。

評価方法その他

平常点40%、作品30%、試験30%
授業参加状況、作品製作の取り組み等総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.デザイン画(ヌード正面、着衣)
- 2.デザイン画(パンツ、スカート、衿、袖)
- 3.特別授業(アパレル企業の講師による)
- 4.デザイン画(創作下絵)
- 5.デザイン画(創作完成)
- 6.ドレーピングの説明、ボディライン入れ
- 7.ドレーピング、スカート用シーチングの準備
- 8.ドレーピング、スカート実習
- 9.ドレーピング、スカートパターン修正、縫い代整理
- 10.ドレーピング、スカートのパターンを紙に転写、次週の準備
- 11.ドレーピング、上半身実習
- 12.ドレーピング、上半身実習
- 13.ドレーピング、上半身修正、縫い代整理
- 14.ドレーピング、上半身紙に転写
- 15.ドレーピング、上半身とスカートをつなげる試験
- 16.試験:上半身とスカートをつなげる

使用教科書名

随時テキストとプリント配布

NO. G03092001

服飾造形実習A

藤田 恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人体下半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて下衣の基本的なショートパンツとスカートの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズのショートパンツとスカートの制作を通して、基礎的な制作技術を習得する。

学習目標・到達目標

下衣の基本的なショートパンツおよびスカートの制作をする。制作に必要な人体下半身の計測法を学び、計測値を基に自身のサイズの製図をし、作品を完成させて着装発表をする。

評価方法その他

平常点40％、作品制作30％、レポート30％
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 各種スカート、ショートパンツの説明、用具の説明、人体計測
2. ショートパンツ・スカートの製図
3. ショートパンツパターンの整理、布裁断、印付け
4. ショートパンツ、ポケット作り・付け、
5. ショートパンツ、脇・股下・股上縫合
6. ショートパンツ、裾・ウエスト始末、ゴム通し、完成
7. スカートのパターン整理、裁断、印付け
8. 仮縫い
9. 補正、脇・ダーツなどの本縫い
10. ファスナー付け
11. ベルト付け、レポート作成の説明
12. ベルト付け完成、ヘムの始末
13. 前カン付け
14. 仕上げアイロン
15. ショートパンツ・スカートの着装発表、レポートの提出

使用教科書名

製作したテキスト配布

NO. G03096001

高分子材料実験Ⅱ

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

繊維や被服材料の構造と性質を理解するためには、衣服を構成している基本物質である高分子についての理解が必要である。この授業では求められる繊維の性質と、高分子材料、糸、布の構造との相関関係についての実験をできる限り少人数で行い、その理解を深める。

学習目標・到達目標

高分子材料実験Ⅱは実験・観察を通して繊維材料の性質を理解すると共に、その元となる繊維を形成している高分子化合物への理解を深めることを目標とする。
到達目標：主要な天然繊維・合成繊維布帛の基本となるいくつかの性質の評価手段を説明できる。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20％)・レポート(80％)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1.実験プログラムの説明
- 2.繊維の太さ測定(1)
- 3.糸の引張強伸度測定(1)
- 4.糸の引張強伸度測定(2)
- 5.紡しわ・ブリーツ保持性試験(1)
- 6.ブリーツ保持性試験(2)
- 7.破裂強さ試験
- 8.考察
- 9.引裂き強さ試験
- 10.剛軟性測定(ハートループ・45°カンチレバー)
- 11.織物の寸法安定性(1)
- 12.織物の寸法安定性(2)
- 13.帯電性試験(1)
- 14.帯電性試験(2)
- 15.総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する

NO. G03097001

繊維学実験Ⅱ

花田 朋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

繊維製品の染料、加工剤等の構造や加工・成分の分析に用いられる各種の機器を用いて、その使用法と結果の意味を理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

繊維材料の性質を知るための代表的測定である熱的測定、光学的測定を実体験し、測定原理と結果の意味を理解することを目標とする。

評価方法その他

各テーマ実験を行い、そのレポートを提出してその実験項目の終了となる。
従って実験を行っても、レポートの未提出は欠席扱いとなる。
評価は授業への取り組み方・平常点(20％)・レポート(80％)による。

週 テーマ・授業目標等

- 1.実験概略の説明
- 2.繊維の熱分析測定(1)ーフィルムの作製ー
- 3.繊維の熱分析測定(2)ーサンプルの作成ー
- 4.繊維の熱分析測定と解析(3)
- 5.繊維の熱分析測定と解析(4)
- 6.赤外吸収スペクトル測定(1)
- 7.赤外吸収スペクトル測定(2)
- 8.赤外吸収スペクトル測定(3)
- 9.染料の可視吸収スペクトル測定(1)
- 10.染料の可視吸収スペクトル測定(2)
- 11.染料の可視吸収スペクトル測定(3)
- 12.染色布の測色(1)
- 13.染色布の測色(2)
- 14.染色布の測色(3)
- 15.総合的考察

使用教科書名

実験書を配布する。

NO. G03098001

CGデザイン演習

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

情報の伝達、表現方法である2次元CGの基礎学習を目的とする。この授業は2次元CGの代表的なツールであるPhotoshopやIllustratorを用いて課題を行いながら基礎的な学習を行う。

学習目標・到達目標

ディプロマポリシーの「技能・表現」に対応した科目である。家政学を学修し、各領域での学びを深め、課題解決に必要な情報を収集・分析・整理できる技能を身につけている。社会に対して洗練された表現力でその課題解決策を発信できる力を身につけている。PhotoshopやIllustratorの基本を学び情報を加工し表現出来ることを目標とする。

評価方法その他

課題50％、最終報告書30％、授業の参加及び平常点20％(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週:オリエンテーション:授業のガイダンス、2次元CGの概要
- 第2週:課題1の説明、2次元CGの基礎 Photoshop1
- 第3週:2次元CGの基礎Photoshop2 小課題 1-1
- 第4週:2次元CGの基礎Photoshop3
- 第5週:2次元CGの基礎Photoshop4
- 第6週:総合課題 1
- 第7週:総合課題 1
- 第8週:課題2の説明 2次元CGの基礎 Illustrator1
- 第9週:2次元CGの基礎 Illustrator 1
- 第10週:2次元CGの基礎 Illustrator 2
- 第11週:2次元CGの基礎 Illustrator 3
- 第12週:2次元CGの基礎 Illustrator 4
- 第13週:総合課題 2
- 第14週:総合課題 2
- 第15週:プレゼンテーション

使用教科書名

必要に応じて講義関連資料を配布する。

NO. G03100001 生活デザイン演習B

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科で学ぶための基礎となる考え方や手法を、体験的に学習する。「まねる」「はかる」「つたえる」等をキーワードとして、毎週異なる課題を設定する。また卒業生を招いて懇談会を開催し、生活デザイン学科での学習の意義と将来の進路についても考える。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解すること。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方と日程の説明
2. 課題「はかる」1
3. 課題「はかる」2
4. 課題「はかる」3
5. 課題「まねる」1
6. 課題「まねる」2
7. 課題「まねる」3
8. 課題「つたえる」1
9. 課題「つたえる」2
10. 課題「つたえる」3
11. 卒業生との懇談会
12. 課題「しらべる」1
13. 課題「しらべる」2
14. 課題「しらべる」3
- 15.まとめ／課題の発表

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03100101 生活の経済学

古徳 佳枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実生活において必要となる経済関連の知識として、F P（ファイナンシャル・プランナー）資格初級レベルの知識獲得を目的とする。具体的には、「A. ライフプランニングと資金計画」「B. リスク管理」「C. 金融資産運用」「D. タックスプランニング」「E. 不動産」「F. 相続・事業承継」の6分野、そのうち特に「年金（ライフ）」「金融」「タックス」に重点を置く。単なる知識取得を目的とするのではなく、自身の実生活に応用可能な実践的学びの場としていくため、疑問を持ったら積極的に質問してほしい。

学習目標・到達目標

私たちは日々の生活のために何らかの経済取引を行い続けている。「モノやサービスを買う・消費する」「お金を貯める、増やす」「借りる」「リスクに備える」「税を払う」などの経済取引において合理的な意思決定を行う際に、日本の法律や制度を知っているかどうかは大きな差につながる。本講義では、消費者・生活者としての視点を軸にしつつ、それに加えて、将来金融業界に関わる職業人として必要と立つ金融経済の知識やスキルの習得を目標とする。

評価方法その他

平常点(30%)、第3回のキャッシュフロー表の提出(30%)、第15回の確認テスト(40%)（平常点は授業への参加状況等により、総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. パーソナル・ファイナンスの全体像(オリエンテーション)
2. ライフプランニングと資金計画
3. キャッシュフロー表の作成(提出)
4. 社会保険制度と年金制度
5. タックスプランニング①(税制の全体像と所得税の基礎)
6. タックスプランニング②(所得税の計算方法)
7. タックスプランニング③(給与所得の源泉徴収票の見方)
8. リスクマネジメント(生命保険と損害保険)
9. 金融資産運用①(経済・景気指標と金利)
10. 金融資産運用②(安全性金融商品)
11. 金融資産運用③(投資性金融商品)
12. 不動産運用設計(不動産の法令上の規制)
13. 相続・事業承継の基礎知識(相続税)
14. 相続・事業承継の基礎知識(贈与税)
15. 講義全体のまとめと確認テスト

使用教科書名

「ファイナンシャル・プランニング入門-for Students-[第4版]」日本ファイナンシャル・プランナーズ協会編、2016年発行

NO. G03100301 人体の構造と機能

岩見 哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食の機能を理解するためには、ヒトの体の構造や働き、さらには病気に関する知識も必要となる。人体を構成する骨格・筋肉・神経・内臓器官などは、驚くほど合理的な構造をもち、極めて効率的に所定の機能を果たしている。そこで、本講義では、人体の構造と機能を系統的に理解するために、細胞・組織から、器官、器官系と段階を追って学習し、人体の全体像について理解を深める。

学習目標・到達目標

人体の基本構造と主要な器官の働きを理解する。特に、日々の生活において私たちの体がどう機能しているかを学習し、食の専門分野を学ぶ際に必要な基礎知識とその知識を元にさまざまな生命現象の原因を推察・理解する能力を身に付ける。

評価方法その他

毎回実施する質問・アンケートへの回答状況(20%)および定期試験の得点(80%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 第01回 OL/人体概観
- 第02回 細胞の構造と機能
- 第03回 体を構成する組織
- 第04回 骨格系/骨格の形態と各部の構成
- 第05回 筋肉系/形態と機能
- 第06回 循環器系
- 第07回 血液/血液の構成と機能
- 第08回 生体防御系/免疫の種類と機構
- 第09回 消化器系/全体の構成
- 第10回 消化器系/各部分の働き
- 第11回 消化器系/消化と吸収
- 第12回 腎・尿路系
- 第13回 内分泌系
- 第14回 呼吸器系
- 第15回 神経系と感覚器系
- 第16回 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配付する。

NO. G03100401 コミュニケーションデザイン

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会で最も必要なのは情報とコミュニケーション能力と言える。情報を正しく理解し、伝えるのがコミュニケーションの始まりである。本授業では、情報の収集 → 分類 → 情報の再構築 → 情報の視覚化に流れるプロセスを理解し、如何に情報の表現を行うかを講義や事例を用いて説明を行う。また、グループワークを用いて、実際に情報を収集し、分類、情報の視覚かを体験しながらコミュニケーションを理解することを目的とする。

学習目標・到達目標

情報とコミュニケーションの関係を理解し、情報を収集、分類、可視化することにより正確な情報を伝達出来ることを学習目標とする。

評価方法その他

課題50%、最終報告書30%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 1講義のオリエンテーション、情報とコミュニケーション。
- 2広告デザインとコミュニケーション
- 3インフォメーションデザインと事例
- 4グラフィックデザインの要素(デザイン原理)
- 5演習:チーム構成、テーマ決定、ブレインストーミング
- 6演習:情報の収集
- 7演習:情報の分類
- 8演習:表現の基礎1
- 9演習:表現の基礎2
- 10演習:表現の基礎3
- 11演習:表現の基礎4
- 12制作:情報の可視化1
- 13制作:情報の可視化2
- 14制作:情報の可視化3
- 15制作:情報の可視化4
- 16プレゼンテーション

使用教科書名

授業中に指定する。

NO. G03100501

家庭電気・機械・情報処理

花田 考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちの生活は家電機器や給湯機器などのエネルギー消費をともなって成り立っている。機器の仕組みや使用方法などを知ることによって、環境負荷の小さな生活営むことが可能になる。この授業では、家庭で使用されるエネルギー（電気・ガス・石油・再生可能エネルギー・水）および情報の供給システムを学ぶとともに、家電機器、ガス石油機器および情報機器の仕組み、望ましい使用方法、性能表示の見方を知り、その省エネルギー性能、環境負荷、経済性について適切に評価できる能力を身に付ける。

学習目標・到達目標

家庭で使用されるエネルギーの観点から、その生活実態を評価できること。

評価方法その他

定期試験(75%)、課題(15%)、平常点(10%)の総合評価
(平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス
- 「住まう」を考える
- 地球環境と生活環境 ・地球環境のしくみ
- ・地球環境問題と生活環境からの改善行動
- 水環境 ・水環境
- ・給排水衛生設備
- 廃棄物 ・ごみの排出実態
- 私たちの生活とエネルギー ・暮らしの中のエネルギー消費
- 私たちの社会とエネルギー ・日本のエネルギー利用
- ・エネルギー資源による世界とのつながり
- エネルギーと科学 ・人類の発展とエネルギー
- エネルギーと技術 ・電気の知識
- 家電機器の省エネルギー性能 ・家庭で使用される機器の省エネルギー性能・環境負荷・経済性
- 給湯機器の仕組み ・お湯の作り方機器の使い方
- 建物の環境性能 ・CASBEE,HEMS,ZEH ・住まいをテーマとした環境教育(事例)
- 試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03100701

人間工学

澤田 雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間工学は、人間と機械をひとつのまとまり「人間－機械系（マン－マシンスystem）」にとらえ、機械や作業環境の性能・形態・状況が、人間の心と体の感覚や運動などの能力・特徴によく適合し、人間－機械系の性能が十分かつ安全に発揮されることをめざす。そのために生理学・解剖学・動作研究・社会学など様々な立場から人間を客観的に観察・分析し、人間－機械系を最も合理的に設計しようとする科学である。その人間工学の概略について解説する。

学習目標・到達目標

人間工学の考え方の基本と、人間工学とデザインの関係を理解することを目指す。

評価方法その他

試験またはレポート80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

- 人間工学の定義
- 人間工学の源流と発展
- 人間工学と社会
- 人間工学とデザイン
- 人間特性の理解①人体寸法
- 人間特性の理解②人体の構造と機能
- 人間特性の理解③視覚と聴覚
- 人間特性の理解④神経系・ストレス
- 人体工学と生活(事例紹介)
- 人間工学の製品設計への応用
- ユニバーサルデザイン①
- ユニバーサルデザイン②
- 製品安全①
- 製品安全②
- まとめ
- 試験またはレポート提出

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03100601

デザイン概論

澤田 雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科における学習の基本として、「デザインとはどんなことをするものなのか」を考える。そのために、現代社会の中で幅広く展開されている、さまざまなデザインの事例に触れながら、デザインの概念、領域、手法などについて概観するとともに、さまざまなものの計画から設計までの、具体的な考え方や進め方について学習する。

学習目標・到達目標

・デザインの諸相を基礎知識として理解する
・「デザインとは何か」を自分で考え表現する。

評価方法その他

試験80%・平常点20%（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

- イントロダクション／講義日程と内容の概要
- 身近なものに見られるデザインとその領域
- 行動観察に基づくデザイン
- デザインの考え方とプロセス
- デザインを支える要素①技術と道具
- デザインを支える要素②材料
- デザインを支える要素③形の表現
- デザインの辞書的定義の分析
- デザインの事例①工業デザイン
- デザインの事例②視角伝達デザイン
- デザインの試作／シンボルマークづくりの小演習
- デザインの課題①人・生活との関わり
- デザインの課題②製品安全
- デザインの課題③ユニバーサルデザイン
- まとめ

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03100801

家庭経営学概論

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。社会において家庭・家族がもつ意味、果たす役割は時代や社会背景によって異なることを理解し、ジェンダー構造や消費者としてのあり方を将来的展望を持って考察できる力を身に付けることを目標とします。

評価方法その他

平常点 30点
小テスト・レポート 70点

週 テーマ・授業目標等

- 第1回：現代社会における家庭経営の枠組み
- 第2回：社会変動と家族・家庭～パブリックとプライベートな領域へ～
- 第3回：生活経営～新しい価値・規範の創造へ～
- 第4回：家庭経営とジェンダー（1）近現代日本におけるジェンダー構造の変動
- 第5回：家庭経営とジェンダー（2）現代社会におけるワークライフバランス
- 第6回：家庭生活の経済
- 第7回：地域と消費者市民社会
- 第8回：経済生活設計と金融リテラシー
- 第9回：家族関係（1）家族の概念 結婚と離婚
- 第10回：家族関係（2）親子関係
- 第11回：家族関係（3）出産と子育て
- 第12回：家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等
- 第13回：少子高齢化社会と福祉
- 第14回：高齢化社会における生活設計
- 第15回：家庭と環境問題 持続可能な社会づくりのための家庭経営

使用教科書名

①暮らしをつくりかえる生活経営力/朝倉書店/2010

NO. G03100901

家族関係論

林 菓子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育目的
家族を構成する個人と集団としての家族が活かされる人間関係の構築とそれを可能にする社会環境の整備について、経験知や感情とは異なる、論理的知識を獲得する。それを通じて、家族に関する多面的重層的な知識の形成に寄与する。

授業概要
多様化する家族の内部の人間関係のダイナミックスを、家族を取り巻く社会環境や法制度と関連づけながら学習する。前半は、生涯発達に添って、ライフステージ各期の

学習目標・到達目標

1. 家族および家族関係を、自身の経験や感情だけでなく、理論やデータに基づいて記述・分析・考察の対象として扱えるようになる。
2. 家族関係を、家族をとりまく環境と関連づけて分析考察できる。
3. ライフステージ各期の家族関係上の発達課題が理解できる。

評価方法その他

期末試験による習得到達目標の到達度の評価 75%
授業中の活動、リアクションペーパー授業への取り組みの積極性の評価 25%

週 テーマ・授業目標等

- 1 テーマ：イントロダクション、家族のとらえ方
内 容：個人と社会のインターフェイスとしての家族、
家族の多様性と歴史・社会・文化的規定性、
データに見る「家族」の現状、家族に関する法制度
- 2 テーマ：家族関係の機能と構成要素
内 容：家族システムとサブシステム、家族境界、家族ダイナミックス、
家族関係の機能
- 3 テーマ：発達期の家族関係
内 容：子どもとは、親機能、子どもの発育・発達と家族、
親子関係の形成・発展と機能、家族における子どもの社会化、
個性の伸長支援、社会規範の媒介、学校生活・友達関係の拡大と親離れ
- 4 テーマ：青年期の家族関係
内 容：社会的役割の獲得と自立、セクシュアリティ、
リプロダクティブ・ヘルス/ライフ
- 5 テーマ：壮年期の家族関係
内 容：パートナー選択、パートナーシップの成熟、結婚/離婚、
ステップファミリー、シングルペアレント、子育てのさまざまな態勢、
ワーク・ライフ・バランス
- 6 テーマ：高齢期の家族関係
内 容：経済的基盤、健康・介護、社会的つながり、人生の納得、死と家族関係
- 7 テーマ：家族関係の困難：ドメスティック・バイオレンス(DV)①
内 容：女性に対する暴力の一型としてのDV、
- 8 テーマ：家族関係の困難：ドメスティック・バイオレンス(DV)②
内 容：調査結果からみるDVの被害実態、被害者が置かれる状況・状態

使用教科書名

教科書は使用せず授業用プリントによる。
第13回、14回の教材として次の図書を使用する(教科書扱い)。
内田伸子、見上まり子：虐待の連鎖を超えて生きる一頁の連鎖を断ち切る力、新曜社、2010
(1900円＋税)

NO. G03101101

消費者調査法

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会調査の目的・調査の種類と実例について理解する。
量的調査と質的調査によって科学的な根拠をもって私たちの生活を見直す方法を理解する。
質問紙調査の企画、実施、集計、分析、報告といった一連の演習を通して消費者調査の基礎的知識と技術を習得する。

学習目標・到達目標

社会調査の意義を理解し、消費者に関する身近なテーマを調査するための基礎知識と技術を習得する。
消費者に関わる調査の種類と方法について理解し、量的調査と質的調査によって科学的な根拠で調査データのとりまとめができる力を高める。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40%
 - (2) 課題提出 30%
 - (3) 平常点 30%
- (平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1 消費者調査とは何か
- 2 利用目的による分類、情報の種類による分類、量と質による分類
- 3 情報の収集による分類(質問紙調査法、観察法)、動機調査
- 4 質問紙調査法の手順、調査票作成の手順
- 5 調査票作成の仕方
- 6 全数調査と標本調査、母集団と標本、標本抽出法
- 7 標本誤差と標本数
- 8 消費実態調査・トピックス調査の実例
- 9 調査企画
- 10 調査票の作成①
- 11 調査票の作成②
- 12 調査の実施
- 13 集計・分析
- 14 発表
- 15 まとめ
- 16 期末試験

使用教科書名

日本衣料管理協会刊行委員会編訂新版『消費者調査法』(日本衣料管理協会、2004年)

NO. G03101001

家庭看護

遠藤 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭とは、生活を共にする家族の集まりである。家族が健康で日常生活を営むために年代別による健康管理が求められる。また加齢、病気などで障がいがあってもその人らしく生活を過ごすための知識・技術も必要である。家庭看護では、健康や疾患、加齢についての基礎知識とともに、生活を支援するための技術についても学ぶ。

学習目標・到達目標

健康と病気の定義について説明ができる
年代別の健康問題と管理について述べることできる
乳幼児期から高齢期の心身の特徴について説明ができる
加齢や病気で障がいがあってもその人の望む生活ができるよう、生活を支援する技術と知識を身につけることができる。

評価方法その他

課題(評価)70% 授業中の活動状況30%として総合的に評価する。
授業への主体的な参加も重視する。
平常点は授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション 病児の遊びを考えよう①
- 2 健康と病気①健康について
- 3 健康と病気②看護と介護
- 4 病気と看護 家族の年代別健康管理
- 5 病気と看護 病気の種類と特徴(子ども編)
- 6 病気と看護 病気の種類と特徴(大人編)
- 7 病気と看護 病児の遊びを考えよう
- 8 病気と看護 看護の基本と高齢者の心身の特徴
- 9 高齢者の介護①移乗(車椅子にTRY)
- 10 高齢者の介護②介護の基本(体位変換・着脱にTRY)
- 11 高齢者の介護③介護の基本(清潔・口腔ケアにTRY)
- 12 高齢者の介護④介護の基本(排泄介助にTRY)
- 13 高齢者の介護⑤介護の基本(視覚障害者の介助にTRY)
- 14 課題作成
- 15 課題作成・発表・提出

使用教科書名

授業内で配布

NO. G03101201

消費経済論

工藤 千草

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年、消費者問題は多様化し、特に契約については若年層が巻き込まれるケースも多発している。安心で安全な生活を送るために、取り締まる法規が作られ、改正も行われている。この科目では、過去から現在に至る様々な消費者問題を入り口として、それらに対応した国の政策や行政などについて体系的に概説し、消費者基本法のもと、消費者被害の未然防止と被害者救済のために行われている、国、行政、企業、教育からの方策について学ぶ。被害にあわない自立する消費者として必要な知識を得るとともに、消費者の責任と権利について認識することを目的とする。

学習目標・到達目標

- ①消費者問題の未然と発生する背景を知る。
- ②消費者とは何か、権利と責任を知る。
- ③消費者政策とそのしくみを知る。
- ④消費生活に関する法規等を知る。
- ⑤消費者教育や企業の消費者対応を知る。

評価方法その他

定期試験の得点(70%)
レポート(30%)

週 テーマ・授業目標等

消費者として自立し、被害にあわないための必要な知識を概説する。

1. 消費者とは
生産と消費の関係
2. 消費者問題の発生
消費者問題が発生する過程
3. 消費者問題の多様化
現代社会における消費生活の実態と問題、環境問題
4. 消費者の権利と責任
消費者にある権利と責任と、消費者主権について
5. 消費者政策
消費者基本法と消費者政策の理念
6. 消費者行政とその仕組み
消費者行政として行うこと
7. 消費生活の安全性
有害物質の規制や消費生活用品の安全性
8. 計量・規格、広告と表示
JISなどの規格、不当な表示や広告とは何か
9. 消費生活と契約①
契約の無効・取消、未成年契約と民法、
10. 消費生活と契約②
消費生活に関連する法規、消費者信用、クレジット
11. 消費者被害と救済
被害の救済方法と機関
12. 企業の消費者対応と社会貢献
社会貢献活動、消費者対応

使用教科書名

「衣料管理士養成のための消費生活論」社団法人日本衣料管理協会平成22年7月発行

NO. G03101401

保育学

新開 よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもと大人が共に豊かな成長を続けていくことのできる社会を目指し、家庭保育及び保育所・幼稚園保育のもつ今日的課題、大人の果たすべき役割について考察するとともに、共に育つ保育実践について学んでいく。また、保育観察や子どもとのふれあい体験（自主実習）を通して実際の子どもの発達や遊びの実態を体験的に学びながら、家庭科教育における保育領域の授業実践のあり方を具体的に構想していく。

学習目標・到達目標

- 家庭科教育における保育領域の意義と目的を理解する
- 保育に関する基礎的知識を身につける
- 乳幼児の生活と発達を理解する
- 子どもとのふれあい体験の意義を理解する

評価方法その他

課題点70％＋まとめレポート30％
（課題点には、自主実習・レポーター・研究発表等に加え、平常の授業への取り組みが含まれます）

週 テーマ・授業目標等

1. 家庭科教育における保育領域の意義と目的
2. 保育研究課題の設定
3. 子どもの発達と保育
4. 自主実習計画の作成
5. 絵本の教材研究発表
6. 保育実技の研究発表
7. 自主実習事前学習
8. 自主実習(1)
9. 自主実習(2)
10. 保育研究課題に基づく模擬授業(1)
11. 保育研究課題に基づく模擬授業(2)
12. 保育研究課題に基づく模擬授業(3)
13. 保育研究課題に基づく模擬授業(4)
14. 保育研究課題に基づく模擬授業(5)
15. 振り返りとまとめ

使用教科書名

NO. G03101501

被服学概論

富田 弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康で豊かな衣生活を目標に、服飾史、被服デザイン、被服製作、被服材料、被服衛生、被服管理などの分野の基礎を総括的に講義し、被服の役割と機能を分かりやすく概説する。

学習目標・到達目標

被服・服飾の領域全般を広く学び、魅力的で質いい衣生活を送ることに役立つ基礎知識を習得する。

評価方法その他

1～8週担当者と9～15週担当者による担当者別の筆記試験(60％)および平常点(40％)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 被服学の領域
2. 体型分類
3. 体型とデザイン
4. 西洋服装史
5. 日本服装史(古代～近世)
6. 日本服装史(近代)
7. 日本服装史(近代～現代)
8. 日本服装史(近代～現代)
9. 被服材料(1)天然繊維と合成繊維
10. 被服材料(2)合成繊維と新合繊
11. 糸・布地・加工・性能
12. 被服の性能と衛生
13. 被服管理(1)被服の整理・洗濯の意義と方法
14. 被服管理(2)洗剤の成分と働き・合理的な洗濯と仕上げ
15. 被服管理(3)洗浄の実際等
16. 試験

使用教科書名

プリントの配布等

NO. G03101901

食科学概論

山崎 薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。自立した社会生活を個々が営むためにも「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く「ヒトと食生活」「ヒトと栄養」「ヒトと食品」「ヒトと食の安全と衛生」をキーワードにライフステージにも留意し、最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

生きる力」を育むために重要な要素である「食」に留し、多角的な視点と基礎知識(特に食生活・栄養学・食品学)を習得することを目的とする。また、「食」に関する興味の引出しかたのアプローチとなる正確な食情報を得るツールや情報の精査の仕方にも視点をおき、食情報を正しく活用できる基礎能力習得も行う。

評価方法その他

筆記試験100％

週 テーマ・授業目標等

- 01.ヒトと食生活 「食情報と現代の食の課題」
- 02.ヒトと食生活 「日本の食文化と現代の食生活」
- 03.ヒトと食生活 「世界の食文化」
- 04.ヒトと食生活 「地域の食文化」
- 05.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;炭水化物(糖質・食物繊維)」
- 06.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;脂質・タンパク質」
- 07.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;ビタミン・ミネラル」
- 08.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;水分・ファイトケミカル」
- 09.ヒトと食品 「食生産の現場から食卓まで」
- 10.ヒトと食品 「日本食品標準成分表」「食事バランスガイド」
- 11.ヒトと食品 「食品の特徴;分類と成分、表示」
- 12.ヒトと食品 「食品の特徴;動物性食品とその加工食品」
- 13.ヒトと食品 「食品の特徴;植物性食品とその加工食品」
- 14.ヒトと食の安全と衛生 「微生物的危害」
- 15.ヒトと食の安全と衛生 「化学的危害」
- 16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配布します。

NO. G03102101

食品学Ⅱ

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本食品標準成分表にリストアップされている食品素材を中心に、食品素材の構造・特徴・含有成分・加工特性等を学びます。

学習目標・到達目標

代表的な食品素材の構造・特徴・含有成分・保存加工の方法を説明することができる。

評価方法その他

グループワーク課題(30%)
期末テスト(70%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 植物性食品① 講義
- 3 植物性食品① グループワーク
- 4 植物性食品② 講義
- 5 植物性食品② グループワーク
- 6 セミナー「食品開発の世界」
- 7 動物性食品① 講義
- 8 動物性食品① グループワーク
- 9 動物性食品② 講義
- 10 動物性食品② グループワーク
- 11 成分抽出素材・調味料・油脂 講義
- 12 成分抽出素材・調味料・油脂 グループワーク
- 13 香辛料・嗜好飲料と菓子 講義
- 14 香辛料・嗜好飲料と菓子 グループワーク
- 15 まとめ
- 16 期末テスト

使用教科書名

やさしくわかるやすい化学基礎
食品学(第2版 補訂) スタンダード栄養・食物シリーズ5 東京化学同人

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理過程でおこる科学的な諸現象について食品材料の性質と調理操作上のかかわりを理論的に学ぶとともに、おいしさを左右する要因について総合的に理解する。

学習目標・到達目標

1. 調理の意義を理解する。
2. 食品の調理特性を理解し、調理操作にともなう食品素材の旨味、物性、栄養成分の変化を理解する。
3. 調理操作と調理機器の特徴と関係性を理解し、テクスチャーやおいしさとの関連性を理解する。
4. 献立作成に関する基本を修得する。

評価方法その他

筆記試験90％、平常点(授業への参加状況)10％

週 テーマ・授業目標等

1. 調理学の意義・対象、食事の目的、様式
2. 食べ物のおいしさ(味・におい)
3. " (温度・テクスチャー・その他)
4. 非加熱調理操作と調理器具
5. 加熱調理操作と調理器具・設備
6. 植物性食品の調理性(穀類)
7. " (穀類・野菜・果物)
8. " (豆類、いも類)
9. 動物性食品の調理性(鶏卵)
10. " (肉類)
11. " (魚介類)
12. " (乳・乳製品)
13. 成分抽出素材の調理性(でんぷん、砂糖)
14. " (ゲル化素材)
15. 調理と環境、まとめ
16. 試験

使用教科書名

スタンダード栄養・食物シリーズ6／調理学 畑江敬子・香西みどり編

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食糧が豊富になり、食生活が多様化する中、日々の活動や健康な生活をおくるには正しい栄養知識に基づいた食生活が求められる。体内に取り込まれた食物（栄養素）が、どのような特性や役割を持つか、いつどの様に摂取したら良いかを、食生活の問題点なども併せて学ぶ。

学習目標・到達目標

食生活を通じた健康に関与する栄養の営みを習得する。

評価方法その他

筆記試験100％

週 テーマ・授業目標等

1. 栄養素と代謝について
2. 栄養素と代謝について
3. 食事と健康(1)
4. 食事と健康(2)
5. 食事と健康(3)
6. 食品の機能性と栄養(1)
7. 食品の機能性と栄養(2)
8. 健康とダイエット
9. ライフステージと栄養(1)
10. ライフステージと栄養(2)
11. 生活習慣病と栄養(1)
12. 生活習慣病と栄養(2)
13. 免疫と栄養
14. 情報社会と健康
15. 健康づくりのための食生活指針
16. 定期試験

使用教科書名

三訂 栄養と健康/建帛社
日本フードスペシャリスト協会 編
A5/並製/2色/200ページ 発行年月日:2015年3月20日
定価: 2,160円(本体価格:2,000円)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フードビジネスの範囲は、農業・漁業、小売業、飲食業、流通業、医療福祉、情報産業など幅広い分野におよぶ。フードビジネスは、ライフスタイルの変容やグローバル化の進展など昨今の社会の変化に伴って拡大、発展してきた産業分野であるが、一方で、食の安全性の確保や食品ロスの増大といった諸問題とも深く関係している。本授業では、私たちの日々の生活と深く関わるフードビジネスについて、その普及の経緯と現代社会における役割や諸課題等を理解するとともに、今後、持続可能な社会を目指していくに際して、同産業のあり方や方向性について考える。

学習目標・到達目標

フードビジネスの普及の経緯や役割、問題等を理解する。そのうえで、消費者として、あるいは商品やサービスを提供する側の人間として、フードビジネスに関わる際には、短期的な視点からの消費者視点やビジネス上の視点だけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになることを目標とする。

評価方法その他

平常点30点、レポート40点、ワーク30点

週 テーマ・授業目標等

- (1)ガイダンス フードビジネスとは
- (2)私たちの暮らしとフードビジネス
- (3)フードビジネスに関する諸課題① 消費社会
- (4)フードビジネスに関する諸課題② グローバル化
- (5)フードビジネスに関する諸課題③ 食の安全性
- (6)フードビジネスに関する諸課題④ 環境問題
- (7)フードビジネスと関連法規① 食品表示等
- (8)フードビジネスと関連法規② 食品営業等
- (9)事例に見るフードビジネス① 農業等
- (10)事例に見るフードビジネス② 飲食業
- (11)事例に見るフードビジネス③ 流通・小売
- (12)フードビジネスをつくってみる ①事業計画のつくり方
- (13)フードビジネスをつくってみる ②事業計画作成
- (14)フードビジネスをつくってみる ③発表会
- (15)まとめ・振り返り

使用教科書名

特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配付する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。この点において、食料は、他の財貨とは本質的に異なる性質を有する。本授業では、食料の有するこうした特性を踏まえたうえで、現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムを概観し、その経緯や現状の諸課題について理解し、さらに、今後の社会における望ましいあり方を考える。

学習目標・到達目標

現代社会における食品の生産、流通、消費のシステムの経緯と現状を理解し、そのうえで、今後の社会における望ましいあり方を考え、行動できるようになる。

評価方法その他

平常点20点、中間レポート20点、定期試験60点

週 テーマ・授業目標等

- (1)ガイダンス
- (2)食料経済とは
- (3)食品の生産から消費まで
- (4)食品輸入と食料自給率
- (5)食市場の変化
- (6)卸売流通
- (7)小売流通
- (8)生鮮食品の流通(米・野菜)
- (9)生鮮食品の流通(鮮魚・精肉)
- (10)加工食品の流通
- (11)中食と外食
- (12)フードビジネスとフードマーケティング
- (13)食品消費と安全
- (14)食品消費と環境問題
- (15)まとめと振り返り

使用教科書名

特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配布する。

NO. G03102801

ものづくり論

澤田 雅彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日常生活の中で使われている様々なものについて、主にその材料と制作技術について解説する。それによって、ものを作る、あるいは生産するために必要な基本的な考え方を理解する。また材料や作り方の理解を通して、日常生活のなかで使われるありふれたものや道具に対する関心を深め、あわせて暮らしを楽しむためのもの・道具の使い方についても考える。

学習目標・到達目標

ものづくりの基本的な技術と、材料の種類及びその特徴について理解し、生活の中でものづくりが果たす役割について理解できる。

評価方法その他

試験80％・平常点20％（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. ガイドンス／授業内容の説明
2. ものづくりの基本 (1) 手順
3. ものづくりの基本 (2) ものづくりと材料
4. ものづくりの基本 (3) 技術と道具について
5. ものづくりの基本 (4) 造形のこと・美しい形とは？
6. 形を表現し伝える方法 (1) 製図の考え方とかき方
7. 形を表現し伝える方法 (2) 形を見て製図で示す
8. 形を表現し伝える方法 (3) 形を考えて製図で示す
9. ものづくりのための材料 (1) 木材
10. ものづくりのための材料 (2) 金属
11. ものづくりのための材料 (3) 陶磁器・ガラス・他
12. 道具作りについて
13. 造形と表現 (1)
14. 造形と表現 (2)
15. まとめ
16. 試験またはレポート提出

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03103001

住居学概論

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。建築製図の基本的な技術を習得する。

評価方法その他

小課題20％、製図課題40％、テスト40％により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイドンス・住居の機能
- 2) 寸法と空間
- 3) 日本の住まいの変遷 (1)
- 4) 日本の住まいの変遷 (2)・生活様式と住居
- 5) 現代の家族と住まい
- 6) 日本の住宅政策
- 7) 住居の選択と管理
- 8) 住まいと環境
- 9) 安心・安全な住まい
- 10) 高齢者・障害者の住まいー集まって住む (1)
- 11) 集まって住む (2)
- 12) 住まいの設計
- 13) 住まいの設計／製図 (1)
- 14) 住まいの設計／製図 (2)
- 15) 住まいの設計／製図 (3)
- 16) 定期試験

使用教科書名

定行まり子「生活と住居」光生館

NO. G03102901

製品・食品鑑別演習

山崎 薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品を評価する際に、嗜好に直接結びつく官能評価ならびに個別の食品に関する鑑別知識は大変重要である。官能評価は味覚、嗅覚、視覚、触覚、聴覚の五感を持つヒトを一種の計測機器と考え、ヒトの感覚を用いて、評価、測定する方法である。また、食生活の多様化により、利用する食品の種類も多くなっている中、食の安全性確保の上でも食品の品質を見抜く能力も必要である。その両者の考え方、手法、具体的な実施方法について、演習を通して修得することを目的とする。

学習目標・到達目標

食に関する官能評価の考え方、手法、具体的な実施方法を修得するとともに食品の鑑別法についても評価法を修得する。

評価方法その他

演習態度20％、レポート50％、実技・筆記試験30％

週 テーマ・授業目標等

- 01.食品の品質と官能評価について
- 02.官能評価①:五味の識別, 個別食品の鑑別①米
- 03.官能評価②:1・2点比較法, 2点比較法:識別・嗜好, 個別食品の鑑別②麦類・トウモロコシ
- 04.官能評価③:3点識別試験法, 個別食品の鑑別③雑穀類・イモ類
- 05.官能評価④:スピアマンの順位相関係数, 個別食品の鑑別④豆類・種実類
- 06.官能評価⑤:Newell&MacFarlaneの検定表を用いる検定, 個別食品の鑑別⑤野菜類・キノコ類
- 07.官能評価⑥:ケンドールの一致性の係数, 個別食品の鑑別⑥果実類・海藻類
- 08.官能評価⑦:評点法, 個別食品の鑑別⑦魚介類
- 09.官能評価⑧:SD法, 個別食品の鑑別⑧肉類
- 10.化学的評価法①食品の成分と品質, 個別食品の鑑別⑨卵とその加工品・乳と乳製品
- 11.化学的評価法②化学的品質評価, 個別食品の鑑別⑩油脂・菓子類
- 12.物理的評価法①食品の状態, 個別食品の鑑別⑪酒類・茶類・コーヒー・ココア・清涼飲料
- 13.物理的評価法②レオロジーとテクスチャー, 個別食品の鑑別⑫醸造食品・調味料・香辛料
- 14.物理的評価法③物理的性質の評価方法, 個別食品の鑑別⑬インスタント食品・冷凍食品・弁当
- 15.物理的評価法④色の評価方法・非破壊検査法, 個別食品の鑑別⑭機能性食品
- 16.定期試験

使用教科書名

三訂ノ食品の官能評価・鑑別演習/健昂社
日本フードスペシャリスト協会 編
A5/並製/2色/264ページ 発行年月日:2014年4月10日
定価:2,376円(本体価格:2,200円)

NO. G03103101

建築史A

大橋 竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、タイプごとに分け、それらを代表する具体的な実例をいくつか取り上げ、それぞれの建築の特徴を解説していく。用いる資料は、写真ばかりでなく、しばしば建築図面を用い、建築のもつ機能性や、設計者の意図を探る。また、構造上の特徴や、建築形態のもつ意味等を、作り手・使い手の立場や、そのバックグラウンドとなる社会背景等を鑑みながら検討し、建築や生活空間に対する理解を深めていく。

学習目標・到達目標

日本建築史の通史を学ぶ、堅穴住居や高床住居などの原始的な建築から最新の現代建築に至るまで、また、住宅、社寺、公共建築など、さまざまなタイプの伝統的な日本建築に関して、実例を詳細に検討しながら、その建築的・社会的意義に関して概観する。それにより、木構造など日本建築に特有な技術的な発展過程を学ぶと同時に、わが国の建築文化・生活様式の変化を学び、建築を通して伝統文化に対する理解を深めることを目指す。

評価方法その他

学期末試験(50％)および平常点(提出物等:50％)による

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 先史時代の建築
3. 神社建築の成立
4. 仏教建築の伝来
5. 古代の都市計画と寝殿造り
6. 中世の仏教建築
7. 中世の神社建築
8. 書院造り
9. 城郭建築
10. 茶室と数寄屋
11. 近世社寺建築
12. 民家建築
13. 西洋建築の移入
14. 近代住宅建築
15. 現代建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G03103201

建築史B

大橋 竜太

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

授業は、主としてパワーポイントを用いながらすすめる。おのおのの時代の建築を、代表的な実例をとりあげながら、建築的特徴を解説していく。その際、写真資料、図面、模型等を用い、空間の理解を中心に、作り手・使い手の考え方、また、その空間が必要とされた社会背景等に関して、考察を加えていく。

学習目標・到達目標

西洋建築史の通史を学ぶ。ヨーロッパ大陸を中心に展開してきた西洋建築は、現代建築の根幹をなしており、その歴史の習得は、現代建築までつながる世界の建築文化の理解につながる。そこで、各国を代表する著名な西洋建築をひとつずつ詳細に検討することによって、世界の建築文化の系譜を学ぶと同時に、個々の建築とその建設の背景を探り、建築文化の理解をはかる。これらを通して、国際的文化人としての素養を身につけることを目指す。

評価方法その他

学期末試験(50%)および平常点(提出物等:50%)による

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 古代オリエント・エジプト建築
3. ギリシア建築
4. ローマ建築
5. 初期キリスト教建築・ビザンティン建築・イスラム建築
6. ロマネスク建築
7. ゴシック建築
8. 中世の世俗建築
9. ルネサンス建築
10. バロック建築
11. リヴァイヴアル建築
12. 新材料を用いた建築
13. 都市・住宅問題と建築
14. 近代建築運動
15. モダニズム建築
16. 学期末試験

使用教科書名

「建築史」編纂委員会編著、『コンパクト版 建築史【日本・西洋】』、彰国社

NO. G03103301

住生活論

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住生活および住環境について、現代における問題点を理解し、その解決方法をについて検討する。

学習目標・到達目標

住生活について科学的に分析し理解する能力、および住生活に関する課題の発見能力・問題解決能力を養う。

評価方法その他

小課題20%、レポート40%、定期試験40%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス
- 2) 敷地の把握と機能図
- 3)ゾーニングと動線
- 4) 尺度
- 5) 木造在来軸組工法(平屋)の部材名称と施工順序
- 6) 木造在来軸組工法(2階建)の部材名称と施工順序
- 7) 階段の構造・種類・各部名称・寸法
- 8) 直階段
- 9) 折り返し階段、螺旋階段
- 10) 住まいの管理
- 11) 集合住宅の管理
- 12) 居住地の管理
- 13) 空き家問題
- 14) 子どもと住まい
- 15) 福祉と住まい

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03103601

構造計画A

西村 彰敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

構造力学の知識を基に、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造建物他の特徴について講義する。実在の建築物を教材とし、建築物の形、建築物の強度、安全性を含めて、建築、インテリ計画における、構造デザインの役割について学ぶ。

学習目標・到達目標

構造の知識を、建築計画、インテリアデザインに活用する能力を得る。

評価方法その他

授業における演習レポート(50%)、及び、期末試験(50%)による。
演習レポートは、出席点を含む

週 テーマ・授業目標等

- 1 架構の仕組み:力の流れ
- 2 梁の曲げ応力と、安全検討(その1:木構造、鉄骨構造)
- 3 同上 (その2:鉄筋コンクリート構造)
- 4 柱、基礎、支持地盤の強度と安全検討
- 5 トラス部材の直応力と、安全検討
- 6 同上 座屈と、許容圧縮応力度
- 7 空間デザイン 1. 釣り構造、シェル構造と空間のイメージ
- 8 2. 大屋根、大スパン床板、支持構造
- 9 3. 構造部材と非構造部材
- ... (この頃、レポート課題提示) ...
- 10 構造デザイン 1. 吹き抜け空間、地下室とドライエリア
- 11 2. 階段 as インテリアモニュメント
- 12 構造詳細 1. 木造建物の仕口、鉄骨造の仕口
- 13 2. 鉄筋コンクリート造の仕口
- 14 3. 詳細図の作成(レポート課題、提出期限)
- 15 レポートおよび課題の講評

使用教科書名

構造用教材 日本建築学会 丸善

NO. G03103701

インテリア材料

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築材料の中から、インテリアを中心とした仕上げ材料（壁材料、天井材料、床材料など）を取り上げて、それらの材料（せっこうボード、繊維補強系ボード、軽量気泡コンクリート、タイル、れんが、石材、ガラス、塗料、断熱材、接着剤、プラスチックなど）の基本的事項を平易に解説する。また、インテリア材料は構造材料とは異なり、安全性や耐久性以外に、機能性、快適性、美観性などの性能も要求される。そこで、各部位に要求される性能条件と材料との関連性を理解させると共に、建築仕上げ材料選定にあたっての基礎的知識を養う。

学習目標・到達目標

各種の建築仕上げ材料について、その基本的事項（種類、性質など）を説明できること。

評価方法その他

平常点(50%)と定期試験の得点(50%)により、総合的に評価する。なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス
- 2.屋根材料(1)ー粘土瓦
- 3.屋根材料(2)ースレート
- 4.屋根材料(3)ー金属板
- 5.内外装仕上げ材料(1)ー木質系材料
- 6.内外装仕上げ材料(2)ーせっこうボード
- 7.内外装仕上げ材料(3)ー繊維補強系ボード
- 8.内外装仕上げ材料(4)ーALC
- 9.内外装仕上げ材料(5)ータイル
- 10.内外装仕上げ材料(6)ーれんが
- 11.内外装仕上げ材料(7)ー石材
- 12.内外装仕上げ材料(8)ー左官材料
- 13.内外装仕上げ材料(9)ーガラス
- 14.その他の材料(1)ー断熱材料
- 15.その他の材料(2)ー塗料／接着剤
- 16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03103801 住宅施工

白井 篤

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住宅生産の最終段階である施工について、住宅の主要構造形式である木構造を中心として、地業工事、主體工事、内外装仕上げ工事（タイル工事、左官工事、塗装・付付け工事）、床工事（カーペット敷き込み工事、畳敷き工事など）の順に施工方法を平易に解説する。また、住宅などの建築物を建設する際に必要となる敷地とその周辺並びに地盤の調査方法についても学ぶ。

學習目標・到達目標

木造住宅の施工方法について、工事種別ごとに説明できること。

評価方法その他

平常点(45%)、レポート(10%)、定期試験の得点(45%)により、総合的に評価する。
なお、平常点は、授業の最後に行う小テストの点数によって判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 施工・管理計画①－工事契約、工程表
3. 施工・管理計画②－材料管理、各種届出
4. 仮設・地業工事①－地盤調査
5. 仮設・地業工事②－基礎の種類
6. 主体工事①
7. 主体工事②
8. 内外装仕上げ工事①(タイル工事)
9. 内外装仕上げ工事②(タイル工事)
10. 内外装仕上げ工事③(左官工事)
11. 内外装仕上げ工事④(ガラス・建具工事)
12. 床工事①(合成樹脂系)
13. 床工事②(カーペット敷き、畳敷き)
14. 屋根工事(天井工事を含む)
15. その他の工事(断熱工事・設備工事)
16. 定期試験

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03104001 建築環境学A

梶田 考一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

建築環境学は建築の内外空間の環境形成を計画・評価する分野であり、建築設計において建物性能を決める重要なポイントのひとつである。この授業では、建築環境を形成する物理的要素である「熱・空気」の基本的性質を学ぶとともに、その環境を評価する我々の感覚の特性を知ることによって、建物・設備性能が居住者へ与える影響を理解する。また、それらの知識を踏まえて、居住者にとって望ましい建築環境を構築するための具体的な手法を学ぶ。

學習目標・到達目標

〔建築士指定科目〕建築環境を構成する、熱・空気的基本的性質を説明できること

評価方法その他

定期試験(70%)、レポート及び授業中の課題(30%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 0. 建築環境学及び建築設備の位置付け
2. 安全・衛生と快適
3. 気候風土に適応した建築的工夫と建築の熱環境設計
4. 1. 建築環境学の概要
5. 4. 熱環境 (1)温熱感
6. (2)外界条件
7. (3)日照環境
8. (3)日照環境
9. (4)建物の熱性能
10. (4)建物の熱性能
11. (4)建物の熱性能
12. (5)湿気環境
13. (5)湿気環境
14. 3. 空気環境(1)空気と人の健康
15. (2)室内の空気汚染対策
16. 試験

使用教科書名

生活環境学[改訂版]／岩田利枝 他／井上書院／2015

NO. G03103901 建築法規

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

道路、敷地、防火、避難、居室などの規制を知ること、面積計算、高さ計算、採光計算などの計算練習をすることで、設計、施工、不動産取引に応用できる力を養います。

學習目標・到達目標

建築法規の目的、全体像、概念を知り、建築関係法令集を自力で引けるようになる。また具体的な面積計算、高さ計算や、用途規制、道路と敷地の関係、防火規定、避難規定などのチェックなどを、建築関係法令集を引きながらできるようになる。

評価方法その他

毎回、その回でやった授業内容の小テストをして、15回分を集計して成績評価します。
その際、出席点20%、得点80%とします。

週 テーマ・授業目標等

1. 法規のアウトライン(法律と条令、施行令、手続き規定と実地規定(単体規定、集団規定)、都市計画法、市街化区域、市街化調整区域、各用途地域、高度地区など)の意味、包含関係、適用範囲、また確認申請、工事届・除却届け、中間検査、完了検査、定期報告などの手続き、用語の定義など。
2. 道路、敷地 42条の各項の道路、43条、44条など。特に2項道路、五号道路(位置指定道路)、接道義務について詳細に学ぶ。
3. 用途制限 その1 13種の用途地域の特徴と建てられる建築物について
4. 用途制限 その2 すべてに用途地域で建てられる建築物。具体的に、住宅、保育所、幼稚園、学校、図書館などの用途制限について
5. 面積制限 その1 建築面積、床面積の定義、緩和規定、建蔽率、容積率、その計算方法、地階の住宅駐車場の緩和規定
6. 面積制限 その2 計算練習1
7. 面積制限 その3 計算練習2
8. 高さ制限 その1 高さ、軒高の測り方、緩和規定、絶対高さ、道路斜線、隣地斜線、北側斜線、公園、広場、水路などによる緩和の取り方
9. 高さ制限 その2 計算練習1
10. 高さ制限 その3 計算練習2、天空率、日影規制
11. 防火規定 その1 不燃材料、準不燃材料、燃焼材料、耐火構造、準耐火構造、防火構造、準防火構造、耐火建築物、準耐火建築物、防火地域、準防火地域などの2
12. 防火規定 その2 特殊建築物、防火区画、防火壁、境界、隔壁、内装制限など
13. 避難規定 階段の一般構造、直通階段、2以上の直通階段、歩行距離、避難階段、特別避難階段、排煙、非常用照明装置、非常用の進入口、非常用昇降機など
14. 居室 その1 居室の定義、採光面積規定、換気設備、換気設備
15. 居室 その2 天井の高さ 構造規定 固定荷重、換気設備、長期荷重、短期荷重

使用教科書名

原口秀昭著「ゼロからはじめる建築の法規入門」彰国社

NO. G03104101 住居計画

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家族の暮らしの場である住居について、現代的な課題を踏まえたうえで、それぞれの家族にとって快適な住宅、住宅地のあり方について検討をおこなう。

學習目標・知識目標

住居はそこに住む家族のためのものであると同時にまちの財産でもある。住宅および住宅地を計画する際に必要となるさまざまなことがらについて理解し、住居設計のための基礎知識を習得する。

評価方法その他

小課題20%、レポート2題80%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイダンス・現代の家族と住まい
- 2) 家族のかたちと住まいのかたち
- 3) 家族の変化と新しい住まいのかたち
- 4) 居住歴と原風景
- 5) 住居の設計プロセス
- 6) 独立住宅の計画手法
- 7) 生活行為と生活時間
- 8) 生活行為と住空間
- 9) 独立住宅の構造・構法
- 10) 生活の外部位と地域施設
- 11) 住宅でまちをつくる
- 12) 集合住宅の平面構成
- 13) 集合住宅地の計画1
- 14) 集合住宅地の計画2
- 15) 集合住宅団地の再生

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03104201

福祉住環境

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近い将来の超高齢者社会に備え、高齢者や障害者が在宅で自立した生活をおくるための住環境整備が求められている。本授業は、この福祉住環境整備分野の初歩的な知識を習得することを目的とし、高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識を学ぶとともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から、介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を学ぶ。

学習目標・到達目標

高齢者や身体障害者を対象とした住環境整備についての基礎知識とともに、在宅介護の現状と問題点、特徴、必要な視点等から介護保険制度の対象となる住宅改修、福祉用具、特定疾病等、建築・福祉・医療などに関して体系的な幅広い知識を習得する。

評価方法その他

小課題20％、レポート40％、テスト40％により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 福祉・ノーマライゼーション・リハビリテーションの考え方
3. 福祉住環境の意義と役割
4. 福祉住環境整備と介護保険制度
5. 福祉住環境整備の意義
6. 高齢者・障害者の住環境整備－1
7. 高齢者・障害者の住環境整備－2
8. 高齢者・障害者の住環境整備－3
9. 日本の住宅と住生活上の課題
10. 福祉住環境整備の技術－1
11. 福祉住環境整備の技術－2
12. 福祉住環境整備の技術－3
13. 福祉用具の活用
14. 関連法規
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

特にテキストは指定しない。

NO. G03104301

生活デザイン演習C

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に学ぶために、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。プログラムは学期の最初に生活デザイン学科で設定する。2年次3年次合同のプログラムもあり、個人での作業にとどまらず、グループの中で協力して計画と作業を進め、問題を解決する力を養う。

学習目標・到達目標

生活デザイン学科で学ぶために必要なことは何かを理解し、授業を専門的、主体的に学ぶための考え方や手法を身につける。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに

独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

使用教科書名

適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03104401

被服整理学実験

佐々木 麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

衣料用洗剤の洗浄力に関して、起泡性、浸透力、界面張力等を測定し臨界ミセル濃度を求める。また、人工汚染布を用いた洗浄力試験を行い、市販洗剤の性能を評価すると共に、洗浄に関する要因とそれらの相関性などを考察する。これらの実験を通じ、生活に関わる身近な問題を科学的に観察する方法を学ぶことを目的とする。

学習目標・到達目標

洗剤の洗浄に関わる現象を理解し、有効な洗濯および取扱いが出来ることを目標にする。また、衣管理学の中の洗濯、しみ抜き、漂白などについて、適切で効果的な方法と条件を学び、実生活で活用できる能力を身につける。

評価方法その他

レポートを50％、平常点を50％の総合評価とする。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス 諸注意
2. 洗剤水溶液の性能1 溶解性・pHの測定
3. 洗剤水溶液の性能2 起泡力の測定
4. 洗剤水溶液の性能3 浸透力の測定
5. 洗剤水溶液の性能4 浸透力の測定
6. 洗剤水溶液の性能5 水の硬度測定
7. 洗剤水溶液の性能6 水の硬度測定
8. 洗剤水溶液の性能7 比界面張力の測定
9. 洗剤水溶液の性能8 比界面張力の測定
10. 洗浄力試験1 洗浄力の測定1
11. 洗浄力試験2 洗浄力の測定
12. 洗浄力試験3 洗浄力の測定
13. 染色堅ろう度試験1 試験布の作成
14. 染色堅ろう度試験2 洗濯試験・耐光試験・摩擦試験
15. 染色堅ろう度試験3 漂白試験・ホットプレス試験
16. レポート提出

使用教科書名

使用しない。適宜プリントを配布する。

NO. G03104501

工芸染色実習A

佐々木 麻紀子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

わが国の代表的な染色技法である刷り込み染め、板締め、型染を取り上げ、被染物の素材として紙、布、革を用いて初歩的な小作品制作を体験することにより、染色の楽しさや染色技法の特徴を理解し、初歩技術の習得とデザイン力、色彩感覚を身につける。

学習目標・到達目標

染色の基礎を踏まえ初歩的な工芸的手法で小作品を制作し、繊維製品の審美性を高めるための染色の意義を理解する。

評価方法その他

平常点40％、作品点30％、レポート点30％の総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 紙の染色1 摺込み染1
3. 紙の染色2 摺込み染2
4. 紙の染色3 摺込み染3
5. 紙の染色4 板締め染1
6. 紙の染色5 板締め染2
7. 布の染色1 型染1
8. 布の染色2 型染2
9. 布の染色3 型染3
10. 布の染色4 型染4
11. 布の染色5 型染5
12. 布の染色6 江戸更紗1
13. 布の染色7 江戸更紗2
14. 革の染色1 墨流し染1
15. 革の染色2 墨流し染2
16. レポート・作品提出

使用教科書名

使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

NO. G03104701 服飾造形実習B

藤田 恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

上半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて基本的なブラウスの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズの衿付き長袖ブラウスの制作を通して、上衣の基本的な制作技術を習得する。

履修条件：「服造形実習A」の履修していること

學習目標・到達目標

衿付き長袖ブラウスの制作をする。ブラウス制作のための人体計測法を学び、計測値に基づいて自信のサイズの作品を完成させ、着装発表をする。

評価方法その他

平常点40%、作品30%、レポート30%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、テキスト配布、各種ブラウスの説明、人体計測、製図
2. ブラウス製図
3. 布裁断、印付け
4. 印付け、仮縫い(ダーツ、脇、肩、見返し、衿、袖)
5. 仮縫い(袖作り)
6. 仮縫い(袖付)
7. 補正、本縫い(ダーツ、脇、脇、接着芯貼り(衿、カフス、見返し))
8. 衿作り
9. 衿付け
10. 袖作り(見返し)
11. 袖作り(カフス)
12. 袖付け
13. ボタンホール(練習)、
14. ボタンホール仕上げ、ボタン付け、
15. 仕上げ、仕上げアイロン
16. 着装発表、レポート提出

使用教科書名
制作したテキスト使用

NO. G03104901 調理学実験

山口 悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理学実験では、調理操作上で起こる様々な現象について、その諸条件と食品の物性や化学性への変化との関連性、および食感、食味への影響を学び、食品の調理特性と嗜好性の向上に關する要因について理解する。また、調理の実際において実践展開ができる応用力をつけることを目的とする。

學習目標・到達目標

1. 調理学実験の基本的な手法を学ぶ。
2. 調理条件と食味への影響について科学的な機構を理解する。

評価方法その他

レポート内容(60%)、平常点(40%、授業への参加状況)の総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 調理学実験における測定の基礎
2. 味覚 閾値と味の相互作用、色と味覚の関係
3. 米と米粉 米の吸水と炊飯、米粉の調理特性
4. 小麦粉の種類と特徴 グルテン形成に及ぼす要因
5. クッキーの性状におよぼす材料配合割合の影響
6. 野菜・果物の色 酵素的褐変とpH、加熱による変化
7. 卵の調理性 熱凝固性、希釈性
8. 卵の調理性 乳化性、起泡性
9. 牛乳・乳製品の調理特性(1) 酸・熱による変化
10. 牛乳・乳製品の調理特性(2) 生クリームの気泡生
11. いも類の取り扱い方
12. 肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
13. 魚肉の加熱と調味液によるテクスチャーと味の変化
14. 成分抽出素材と調理(1) 寒天、ゼラチン、カラギーナンゲルの調理特性
15. 成分抽出素材と調理(2) 砂糖、

使用教科書名

調理科学実験／綾部園子他／アイ・ケイコーポレーション

NO. G03104801 栄養学・食品衛生学実験 山崎 薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養や食品衛生について、教科書や講義などから修得した知識を客観的に分析する力を基礎的な実験に行いながら養う。栄養学分野では、生化学的な要素も取り入れながら、栄養成分の科学的性質や化学反応について実験を行う。食品衛生学実験では、食品衛生に関連する微生物学実験、食品添加物の分析などを行いながら、扱う試料、薬品の性質も理解し、安全な実験実施への心構えも修得していく。

學習目標・到達目標

栄養、食品衛生に関係する事項を実験的手法を用いて体得するとともに、化学的なデータ解析を初歩を学び、習得する。両分野とも、結果の予測、実験操作の習熟、細やかな観察力、得られた結果に対する分析力を積み上げることを目的とする。

評価方法その他

定期試験・レポート内容50%、出席・授業態度50%

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス(実験を始めるにあたっての心構えと安全確保について)・器具の洗浄等
2. 基礎実験Ⅰ：ピペットの扱い方
体内内の酵素反応に関する実験Ⅰ；酵素実験の準備；試薬の作成、器具の準備等
3. 体内内の酵素反応に関する実験Ⅱ；唾液アミラーゼの至適(最適)温度
4. 体内内の酵素反応に関する実験Ⅲ；唾液アミラーゼの至適(最適)pH
5. 体内内の酵素反応に関する実験Ⅳ；タンパク質分解酵素ペプシンの人工消化実験
6. 洗浄度確認検査；デンプン性・タンパク質・脂質性食品
7. グラム染色と顕微鏡による細菌の観察
8. 微生物実験の準備；培地作成、器具の準備等
9. 洗浄前後の手、まな板、ひき肉、環境中の生菌数測定と観察Ⅰ
10. 洗浄前後の手、まな板、ひき肉、環境中の生菌数測定と観察Ⅱ
11. DNAプロファイリング実験；フィンガープリント法Ⅰ
12. DNAプロファイリング実験；フィンガープリント法Ⅱ
13. DNAプロファイリング実験；フィンガープリント法Ⅲ
14. 食品添加物の分析Ⅰ；発色剤：亜硝酸塩定量
15. 食品添加物の分析Ⅱ；着色料：羊毛染色試験
16. 定期試験

使用教科書名

必要資料を適宜、配布します。

NO. G03105101 フードスペシャリスト論

山崎 薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、栄養性、安全性、嗜好性、加工・貯蔵性など幅広く最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。フードスペシャリストの意義とその概要、活用等の基本知識を習得する。

學習目標・知識目標

食」に関する事例を總体的に概略を理解する。

評価方法その他

筆記試験100%

週 テーマ・授業目標等

1. 食に関わる職業
2. フードスペシャリストとは
3. 人類と食物
4. 人類と食物
5. 世界の食
6. 世界の食
7. 日本の食
8. 日本の食
9. 現代日本の食生活
10. 現代日本の食生活
11. 食品産業の役割
12. 食産業の役割・食品の品質規格と表示
13. 食品の品質規格と表示
14. 食品の品質規格と表示・食情報と消費者保護
15. 食情報と消費者保護
16. 定期試験

使用教科書名

A5/並製/2色/208ページ 発行年月日:2017年2月1日 定価:2,160円(本体価格:2,000円)

NO. G03105201

生活デザイン演習E

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活デザイン学科の専門分野の内容を体験的に幅広く学ぶため、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、卒業研究の予備的授業（プレゼミ）、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。2年次3年次合同のプログラムもあり、グループの中で協調を図りながら、異なる立場のメンバーと共に計画を完遂する力を養う。

学習目標・到達目標

プログラムの企画・実施を通して、組織的に作業を成し遂げることを経験し、計画を実行する力を身につけ、自分が得意とする能力を自己認識できる。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに

独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

・他学年と合同で実施するプログラムもある。

使用教科書名

テーマ毎に適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03105501

アパレル生産実習

藤田 恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

アパレル産業の工程の基礎を学んだ後、実際に販売する目的で小物の商品企画をし、製作して、学園祭で販売する。また、学外で多種類の工業用ミシンの見学をする。デザイナーによるワークショップも体験する。

学習目標・到達目標

アパレル製品の商品化の過程を学ぶ。更にグループで小物の商品化を企画し、製作し、販売する。

評価方法その他

平常点:40点、商品企画・製作:30点、レポート:30点

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、プロジェクトの説明
2. 工業用パターンメイキング、プロジェクト開始
3. 工業用各種ミシン見学
4. 縫製仕様書、グレーディング、プロジェクト
5. 縫製作業工程分析表、プロジェクト
6. シーチングによる試作、プロジェクト(中間発表準備)
7. 学内特別授業 デザイナーによるワークショップ
8. プロジェクト(中間発表)、実物製作開始
9. プロジェクト製作
10. プロジェクト製作
11. プロジェクト製作
12. プロジェクト製作、CADによる製図
13. プロジェクト製作、CADによる製図
14. プロジェクト製作、プレゼンテーション(パネル)準備
15. 商品完成、パネルによるプレゼンテーション

使用教科書名

テキストを初回に配布する

NO. G03105301

生活デザイン演習F

生活デザイン学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

前期の生活デザイン演習E同様、生活デザイン学科の専門分野の内容を、体験的に幅広く学ぶため、各教員の授業の補完的または発展的な内容の授業、卒業研究の予備的授業（プレゼミ）、学外学内のイベント等への参加などのプログラムを展開する。4年次の卒業研究、そして社会に出てからの様々な活動の手がかりを得ることを期待する。

学習目標・到達目標

プログラムの企画・実施を通して、組織的に作業を成し遂げることを経験し、計画を実行する力を身につけ、自分が得意とする能力を自己認識できる。

評価方法その他

平常点(50%)、課題(50%)の総合評価。(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

・授業は、生活デザイン学科の教員が提示する、いくつかのテーマに沿って行う。

・授業は集中講義の形式で行うが、授業の内容・進め方・日程については、テーマごとに

独自に設定する。

・授業内容と日程の詳細については、4月の学科ガイダンスで告知する。

・他学年と合同で実施するプログラムもある。

使用教科書名

テーマ毎に適宜、資料を印刷・配付する。

NO. G03105701

アパレルグラフィックス実習

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

広告の制作を通じてデザインの原理を理解する。

学習目標・到達目標

ファッションの広告の企画や制作、商品のディスプレイを行うためには、基本的なコンピュータグラフィックスデザインのスキルが必要である。本授業では、衣料品の売り場展開に必要な企画、演出、ディスプレイ、宣伝広告のための資料作成に必要なグラフィックの基礎を学び写真、印刷物、映像などの制作を通じて実践的に学ぶ。

評価方法その他

課題及び最終報告書70%、授業の参加及び平常点30%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

1. 授業のオリエンテーション
2. デザインの要素について
3. デザインの原理ー回復
4. デザインの原理ー多様性
5. デザインの原理ーリズム
6. デザインの原理ーバランス
7. デザインの原理ー強調
8. デザインの原理ー簡潔性
9. 広告の企画ーテーマ、アイディア
10. 広告の制作ーレイアウト
11. 広告の制作ー写真撮影
12. 広告の制作ーコンピュータ作業
13. 広告の制作ーコンピュータ作業
14. 広告の制作ーコンピュータ作業
15. プレゼンテーション

使用教科書名

NO. G03105801

インテリアコーディネート

塚田 豊

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

インテリアの概要、歴史、デザイン、材料、納まり、構法、建具と金物、カーテンとブラインド、諸設備、環境、構造などの基本をマスターする。技術的、用語的な解説だけではなく、なるべくデザインに関連させて説明する。

学習目標・到達目標

インテリアに関する総合的な知識を持ち、目的に応じた適切な商品選択とコーディネートができる。

評価方法その他

週 テーマ・授業目標等

- 1 インテリア、インテリアコーディネートとは 古代、中世のインテリアデザイン
- 2 近代のインテリアデザイン 1
- 3 近代のインテリアデザイン 2
- 4 近代のインテリアデザイン 3
- 5 日本のインテリアデザイン
- 6 インテリア材料 1
- 7 インテリア材料 2
- 8 床、壁、天井の納まり
- 9 建具と金物 1
- 10 建具と金物 2
- 11 カーテンとブラインド
- 12 設備 1
- 13 設備 2
- 14 環境
- 15 構造

使用教科書名

NO. G03106301

ガーデニング概論

石網 史子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人々が様々なストレスを抱えた現代の社会では、植物に求められる機能や用途も多様化している。本講義では、主にガーデニングを行う際に必要な植物学やデザイン法に関する知識や技術の基礎を培うことを目的とする。

学習目標・到達目標

身の回りの植物やデザインについて興味を持ち、理解を深める。ガーデニング実習や専門科目を学ぶための園芸の知識、園芸機材の種類等、基礎的な知識を修得する。

評価方法その他

平常点(50%)と、課題とレポート(50%)による総合評価。
平常点は、授業への参加状況等などで総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンスとイントロダクション:本講義の目的や講義内容、進め方。
2. 植物と庭を見る:植物の愛で方、庭(ガーデン)の種類と見方。
3. 造園・ランドスケープの歴史①:日本の庭の事例紹介。
4. 造園・ランドスケープの歴史②:国外の庭の事例紹介。
5. 植物学の基礎:植物の形態、命名法、分類。
6. 園芸植物の基礎:園芸植物とは何か。栽培植物の起源と育種。
7. 庭と植物の維持管理①:ガーデニングで使う道具と安全対策。
8. 庭と植物の維持管理②:灌水、剪定、増殖など。
9. 庭と植物の維持管理③:病虫害対策、施肥など。
10. デザインの基礎①:デザインする場所のサイズ、空間的などらえ方。
11. デザインの基礎②:デザインの構成要素である植物の種類と要素。
12. デザインの基礎③:エクステリアと園芸資材。
13. デザイントライアル①:初歩的な題材、寄せ植えのデザイン方法とポイント。
14. デザイントライアル②:グループまたは個人でデザインを考える。
15. デザインの発表会と本講義の総括

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G03106401

言語学概論

森 朋子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

言語を「分類」「音」「語」「文法」「言語習得」「コミュニケーションでの用い方」から学び、言語とは何かについての理解を深める。自らの言語習得および将来生育者になった際に役立てられる力も身につける。

学習目標・到達目標

耳型、無意識に使っている「言語」を科学的に見つめ直すことで、「言語」の機能、不思議さ、面白さについての理解を深める。

評価方法その他

中間試験40%、期末試験40%、平常点(小テスト、発言等)20%

週 テーマ・授業目標等

- 1 イントロダクション・言語とは何か
- 2 言語の分類
- 3 言語習得
- 4 音声学1
- 5 音声学2
- 6 音韻論
- 7 形態論1
- 8 中間試験
- 9 形態論2
- 10 統語論1
- 11 統語論2
- 12 語用論1
- 13 語用論2
- 14 社会言語学1
- 15 社会言語学2
- 16 期末試験

使用教科書名

教科書は使用しない。プリントを配付する。

NO. G03106501

ウェブデザイン

呉 起東

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ディプロマポリシーの「思考・判断」に対応した科目である。社会の中にある諸課題を自ら発見し、論理的に分析し考察することができる。また、各種の多様な情報を客観的に理解し判断して行動できる。

学習目標・到達目標

情報化社会に必須とされる情報の発信のためのウェブデザインの理解が必要である。本講義では、ウェブデザインの歴史、技術、デザインなどの知識を通してウェブデザインについて理解を深めることを目的とする。ウェブデザイン全般の知識や理解を高める。

評価方法その他

講義後、講義中の小テスト、レポート、最終試験を総合して評価する。
最終試験60%、小テストやレポート20%、授業の参加及び平常点20%(但し4回以上欠席すると単位は修得できません)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週:オリエンテーション:授業のガイダンス、Webデザインとは。
- 第2週:ウェブデザインについて:インターネットの誕生から今日までの展開、影響と意味、役割を論じる。
- 第3週:ウェブデザインについて:テクノロジー(CGI, PHP, Flash)について、Webの現状と今後について論じる。
- 第4週:ウェブデザインの構成1:「レイアウト」、「カラーの計画」について実例を挙げながら論じる。
- 第5週:ウェブデザインの構成2:「Typography」、「イメージデザイン」について実例を挙げながら論じる。
- 第6週:ウェブデザインの構成3:「インタフェース」、「ナビゲーション」、「データ構造」について実例を挙げながら論じる。
- 第7週:デザイン原理:表現原理である「反復」「多様性」「リズム」「バランス」「強調」「簡潔性」の原理を論じる。
- 第8週:戦略的なウェブサイトの構築:Webサイトをコミュニケーションツールとして戦略的に構築するための要素を論じる。
- 第9週:ウェブデザインの企画:コンセプト、コンテンツ計画、インタフェース設計、イメージ制作などの企画プロセスを論じる。
- 第10週:ウェブデザイン
- 第11週:コンテンツデザイン1:情報の収集、分類、分析について論じる。
- 第12週:コンテンツデザイン2:コンテンツ制作におけるアイデア発想法について論じる。
- 第13週:コンテンツデザイン3:デジタル著作権について論じる。
- 第14週:ウェブプレゼンテーションとコミュニケーション:送り手と受け手の視点から考えてコミュニケーションとしてのプレゼンテーションについて論じる。
- 第15週+まとめ:Webデザインとコミュニケーション、コンテンツデザインの観点から今まで

使用教科書名

必要に応じて講義関連資料を配布する

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

私たちにとって身近なものである「服」や「流行」はどのような仕組みに基づいて生み出されているのだろうか？本講義では、ファッション産業の仕組みの歴史・現状・課題を様々な角度から学び理解を深めていく。

学習目標・到達目標

- ①ファッション産業の仕組みを把握する。
- ②ファッション産業の歴史・現状・課題を理解する。
- ③ファッション産業に関連する用語について説明できるようになる。

評価方法その他

授業態度(20%)
時間内に行う小課題(20%)
定期試験の得点(60%)
※私語常習者や授業放棄とみなされる行為が常態化している者については大幅な減点

週 テーマ・授業目標等

- 1.授業ガイダンス、授業希望アンケート
- 2.ファッション産業の種類と構造(1):糸をつくる仕事
- 3.ファッション産業の種類と構造(2):布をつくる仕事
- 4.ファッション産業の種類と構造(3)服をつくる仕事
- 5.ファッション産業の種類と構造(4):服を売る仕事
- 6.アパレル産業の歴史(1):欧米の場合
- 7.アパレル産業の歴史(2):日本の場合
- 8.アパレル産業の歴史(3):途上国の場合
- 9.アパレル産業の現状と課題(1):消費者の購買行動の変化
- 10.アパレル産業の現状と課題(2):ビジネスのグローバル化とIT化
- 11.アパレル小売の歴史(1):欧米の場合
- 12.アパレル小売りの歴史(2):日本の場合
- 13.アパレル小売りの現状と課題(1):ネガティブな側面から
- 14.アパレル小売りの現状と課題(2):ポジティブな側面から
- 15.これまでの授業を振り返って

使用教科書名

必要に応じてプリントを配布する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

アパレルCADを使用して、直線や曲線の基本を学び、最終的にはアパレル生産に必要な簡単なパターンの製作ができるようにする。特別授業でデザイナーによるワークショップを計画している。また、多種類の工業用ミシンの見学もする。

学習目標・到達目標

アパレルCADのソフトを用いて上半身原型、スカート、ブラウスの製図を描き、製図を部分的に展開することもできるようにする。

評価方法その他

平常点:40点、課題:30点、レポート:30点

週 テーマ・授業目標等

- 1.アパレルCAD概要 CAD実習 直線
2. CAD実習 四角形 課題
- 3.工業用各種ミシン見学
4. CAD実習 移動
5. CAD実習 切り開き
6. CAD実習 曲線 課題
7. 学内特別授業 デザイナーによるワークショップ
8. CAD実習 スカート 課題
9. CAD実習 原型製図 袖
10. CAD実習 課題
11. グレーディング
12. CAD実習 ブラウス製図
13. CAD実習 ブラウス製図 マーキング 出力
14. CAD実習 自由課題
15. CAD実習 課題完成

使用教科書名

テキストを初回に配布する

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住環境を調査により評価する手法について紹介するとともに、基礎的な調査や実測を行うことによって、その分析・評価手法を習得する。具体的には、調査手法の習得、人の作り出す空間の評価、室内環境の評価、デザインサーベイについて実施する。

学習目標・到達目標

【建築士指定科目】住環境を評価するための基礎的な調査・実測手法を説明できる。

評価方法その他

平常点(40%)、レポート及び課題(60%)の総合評価。
(平常点は授業への参加状況等を総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. A. 調査の手法 (1)集団でアイデアを発想する
3. (2)人の意見を整理する手法を習得する
4. (3)アンケート調査の手法を習得する
5. (4)人の評価構造を知る手法を習得する
6. B. 人の作り出す空間(1)事例を知る
7. (2)人が作り出す空間を評価する
8. C. 室内環境の評価 (1)温熱環境を評価する
9. (2)空気環境を評価する
10. (3)視環境を評価する
11. D. デザインサーベイ(1)調査計画を立案する
12. (2)調査の方法を検討する
13. (3)調査を実施する
14. (4)調査をまとめる
15. (5)調査結果をプレゼンする

使用教科書名

NO. G00001002

卒業研究基礎ゼミ

児童学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童学科専任全教員が少人数のゼミ形式で分担して行う。4年次に開講される卒業研究A・B履修に先立ち、各自が取り組みたいテーマをもとに研究の基礎について学ぶ。具体的には、資料の収集、講読及び討議を通して仮説や探求したい点を絞り込み、論文の構成や書き方について理解を深める。また、「児童学研究法」の学習内容を参考に研究方法を設定し、各自が主体的に取り組む。なお児童学を研究するにあたり、子どもの個人情報保護に関する注意事項や子どもの利益になる研究とは何かを念頭に置きながら取り組むことを前提とする。

学習目標・到達目標

児童学の研究の基礎を理解し、各自取り組みたいテーマに基づいた、文献収集、分析をし、論文作成の基礎を身につける。

評価方法その他

平常点(60%)および各テーマごとのミニ課題やレポート(40%)の総合評価

週 テーマ・授業目標等

(1) 卒研基礎プレゼミとして児童学科教員が5テーマに分かれ、1テーマ5コマを担当す

る。

(2) 卒研基礎プレゼミグループ

①心理と発達a、b

②生活と教育a、b

③福祉と保育a、b

④健康と環境a、b

⑤文化と社会a、b

(3) 児童学科でのこれまでの学びと「児童学研究法」で学んだことをもとに、それぞれの

テーマについて理解を深める。1テーマでは同一内容の授業を5回繰り返す。各テーマで

は、子どもの個人情報の保護に関する注意事項や、子どもの利益になる研究とは何かに

ついて、必ず授業で取り上げる。

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094001

キャリアデザインA

金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその順のセミナーの受講を勧める。本授業では、単に職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。
興味を持つ働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述できる。

評価方法その他

レポート(60%)

宿題4～5回(40%)

週 テーマ・授業目標等

1. イントロ:授業概要の説明

2. 大学での学びと働く

3. 社会の多様な働き方

4. 「社会にでる」ってどういうこと

5. 学びと社会のつながりを知る

6. 多様な働き方を知る

7. 職種・業種を知る

8. 会社を知る

9. チームワークを知る

10. リーダーシップを知る

11. 社会に求められる能力

12. 会社・職種・業界を知る

13. レポート作成について

14. 仕事人生40年を考える

15. 振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00003001

インターンシップ(3年次)

金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感(働き甲斐)を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1～2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。
インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。
インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。
インターンシップの学びを、今後の学生生活(就職活動も含む)に結びつける。
企業先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

成果報告書70%

平常点30%

週 テーマ・授業目標等

前期

1回目:本授業の全体説明

2回目:1回目と同じ内容

*1回目と2回目は同じ内容なので、学生はどちらか一方に参加すること。

3回目:インターンシップとは

4回目:成果報告書からインターンシップのイメージを把握する

5回目:先輩から聞くインターンシップの実像を知る

6回目:インターンシップに向けたエントリーシートの書き方

7回目:ビジネスマナー(1)外部講師予定

8回目:ビジネスマナー(2)同上

9回目～15回目:個別対応

後期

1回目～2回目:インターンシップの振り返り

3回目～4回目:インターンシップを今後に生かす

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095001

キャリアデザインB

金森 敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその順のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというどうしても個人の考え方から始まりがちなが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。
他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。
自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60%)

宿題4～5回(40%)

週 テーマ・授業目標等

1. イントロ:授業概要について

2. キャリア教育とは何か

3. 働くとは

4. 憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える

5. これまでとこれからの時代の流れを知る

6. 社会についてわかっていないことを考える

7. 社会を知ろう

8. やりたいことのうそ

9. 幸せとは

10. 職種・業界について考える

11. 会社とは

12. 良い会社とは

13. レポート作成について

14. キャリアデザインについて

15. 振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G04001001

児童学研究法

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代生活における児童学研究の基本的方法（研究課題の立て方、資料の収集、分析、統計的处理、考察の仕方など）についてオムニバス形式で学ぶ。第1週目の授業で詳しい説明を行う。

学習目標・到達目標

児童学研究の基礎を理解し、文献・データ収集やそれらの分析方法を学ぶ。この授業を通して各自が卒業論文で取り組みたいテーマを見つけ、卒業研究の充実に資することを目標とする。

評価方法その他

平常点と全5回の小テストにより総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 授業概説、評価について、卒業論文とは何か
2. 文献研究の方法1:文献研究法概論、電子ジャーナル・アーカイブ活用
3. 文献研究の方法2:レポートの構成、文献目録の書き方
4. 文献研究の方法3:文献の読み方
5. 文献研究の方法4:要約の仕方
6. データ収集の方法1:質問紙調査
7. データ収集の方法2:インタビュー調査
8. データ収集の方法3:観察の概要と実際
9. データ収集の方法4:観察の実際と手続き
10. データ収集の方法5:授業研究・事例研究1
11. データ収集の方法6:授業研究・事例研究2
12. 統計的处理1:量的研究法と質的研究から混合型研究法へ(トライアンギュレーションを含む)
13. 統計的处理2:コンピュータを用いた記述統計
14. 統計的处理3:コンピュータを用いた推測統計
15. 全体のまとめと振り返り

使用教科書名

NO. G04003001

教育心理学

木村 文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校・家庭・社会でよりよい教育を展開するために必要な、教育心理学の基礎的な概念と基本的事項を様々な具体例から習得させ、生涯発達の観点から乳児期から死に至るまでの能力の発達過程と、個々の発達に応じた教育的対応への理解を深めさせる。障害のある幼児、児童・生徒の心身の発達及び学習の過程も理解させ、実践的な問題解決能力を習得させる。

学習目標・到達目標

「教育」という立場で、生徒、保護者、他の教師、関連諸機関に接するにあたり、必要な教育心理学的な知識、および心理学に基づく考え方やものの見方を概観する。その上で、生徒にまつわるさまざまな現場での問題解決手段の一つとして、これらの考え方やものの見方を用いることができるようになることをこの授業の到達目標とする。そのため、テキストや資料を基にした講義を行うが、受講者が主体的に「考える」ことを重視する予定である。

評価方法その他

授業への姿勢(30%)、及び定期試験の結果(70%)をもとに総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション——心理学と教育、人の発達の関わり——
2. 発達と教育1——身体・運動機能——
3. 発達と教育2——「人」の発達——
4. 発達と教育3——社会性の発達——
5. 認知の発達1——脳と神経の発達、心の理論——
6. 認知の発達2——ピアジェの理論とヴィゴツキーの理論——
7. 子どもの学び1——動機づけ——
8. 子どもの学び2——学習の理論——
9. 子どもの学び3——技能学習——
10. 子どもの学び4——自己効力感——
11. 子どもの学び5——学習における記憶——
12. 教育における評価
13. 特別支援教育と障害1——特別支援教育とは——
14. 特別支援教育と障害2——わかりづらい障害と合理的配慮
15. 総括
16. 定期試験

使用教科書名

NO. G04002001

発達心理学

丹羽 さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人は生涯を通じて発達の的に変化していく。その発達の過程を、特に心的活動の変化に焦点を当てて学習する。まず、発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学ぶ。その上で、胎児期から老年期に至るまでの各時期の発達課題や発達の特徴について、具体的事例や視聴覚教材も参照しながら基本的知識を身に付ける。人の発達に関する知見を、保育・教育実践に結び付けることができるよう、事例や自分自身の体験とも関連させながら具体的に理解し、考えを深める。

学習目標・到達目標

・生涯発達心理学の考え方や研究法の基本、発達の諸理論を学ぶ。
・胎児期から老年期までの発達に関する基本的な知識を身に付ける。
・発達心理学の知見を保育・教育実践において活かすことができるよう、自分の体験や事例と結び付けて具体的に理解し、考えを深める。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(40%)
(平常点は、コミュニケーション・カードの記入状況・内容、課題の提出状況等により総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- <授業計画>
1. オリエンテーション
 2. 生涯発達心理学の考え方
 3. 胎児期と周生期の発達
 4. 乳児期の発達①—運動・認知の発達—
 5. 乳児期の発達②—社会性の発達—
 6. 歩行開始期の発達
 7. 幼児期の発達①—認知の発達—
 8. 幼児期の発達②—社会性の発達—
 9. 乳幼児期の発達と子育て
 10. 児童期の発達①—認知の発達—
 11. 児童期の発達②—社会性の発達—
 12. 思春期・青年期の発達
 13. 成人期の発達
 14. 老年期の発達
 15. まとめ
 16. 定期試験

使用教科書名

教科書は特に指定しない。適宜資料を配布する。

NO. G04004001

教育原理（3年）

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。毎時資料（歴史的原典・ワークシート（A3判表裏印刷2枚）を配布し、知識および理解の定着を図っている。歴史的な建造物や絵画については、PPTで映像を示しながら授業を行う。

学習目標・到達目標

教育が人間固有の営みであることを理解し、現代教育価値の本質にあるものを見つめられるようになることを学習目標とする。教育の意義を理解することで、教職を志す者としての心構えを身につけ、広い視野で社会貢献できる教員を目指す姿勢が備わることも目標である。

評価方法その他

平常点20%、小テスト(1回)30%、最終レポート50%で総合評価。
積極的な授業参加態度と真面目に考える姿勢を持つことが評価のポイントとなる。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:教育が人間にとって持つ意味:人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。
- 第2回:人間は教育をどのように捉えてきたか:「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を紹介する。
- 第3回:<子ども>の発見:西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想:コメンタス、ルソー、コンドルセの教育思想を概説する。
- 第4回:近代日本に影響を与えた西洋教育思想:ベスタロッチャー、フレーベル、デュエーイの教育思想を概説する。
- 第5回:近世以前の教育と近世の教育:大学寮、足利学校等近世以前の教育と近世の藩校郷校について映像を用いて概説する。
- 第6回:近世の教育思想:中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡逸、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を紹介する。(第1回小テスト)
- 第7回:近代日本公教育制度の成立と展開:近代日本公教育制度の成立期の制度として学制の頒布と教育令について概説する。
- 第8回:近代日本公教育制度の成立と展開:初代文部大臣森有礼の教育政策と教育勅語の公布
- 第9回:子どもの権利条約:コルチャック神父の思想について概説し、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。
- 第10回:教科書の歴史:近代日本の教科書の歴史、現代的課題を概説する。(第2回小テスト)

使用教科書名

『やさしい教育原理・新版補訂版』有斐閣 著者 田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩

NO. G04005001

教育課程論

齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程（カリキュラム）の充実である。また、教育課程経営（カリキュラムマネジメント）の重要さも増している。この講義では、教育課程や教育課程経営をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領についての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。特に次期学習指導要領については詳しく解説する。

また、「主体的・対話的で深い学び」を積極的に取り入れ、理解の深化を図る。

学習目標・到達目標

この講義では、子どもの学びを保障する教育課程の意義について考え、理解を深める。教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解することを目指す。

評価方法その他

定期試験 70％、平常点 30％。
定期試験：基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。
平常点：授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

週 テーマ・授業目標等

授業計画

第1回：ガイダンス・教育課程とカリキュラムの類型

・教育課程とカリキュラムの類型

第2回：教育課程に関する法制及び行政

・教科書検定制

第3回：近代日本の教育課程

・明治期や大正自由教育、国民学校

第4回：現代日本の教育課程 昭和編

・戦後の経験主義、現代化とゆとり教育

第5回：現代日本の教育課程 平成編

・ゆとり教育と生きる力

第6回：学習指導要領の改訂

・次期学習指導要領（中学校編・高等学校編）の解説

第7回：教育課程をどう編成するか。

・教育課程の構成要件と編成の基本原則

・カリキュラムマネジメント

定期試験

使用教科書名

齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希『教育課程論－カリキュラムマネジメント入門－』大学図書出版 2018年

NO. G04007001

保育学B

新開 よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育所・幼稚園・認定こども園における保育者の専門性とは何か。保育者として身につけるべき知識・技術・心構え・態度・姿勢とはどのようなものかについて学ぶ。また、保育者としての専門性を高めていくとはどういうことか。保育者としての成長のプロセスや同僚性のあり方について考究する。

学習目標・到達目標

●保育者に求められる役割と専門性について理解する
●さまざまな保育者のあり方（保育者論）に触れ、身につけるべき資質や技術について理解する
●保育者の成長と同僚性のあり方について理解する

評価方法その他

課題点60％＋小テスト40％
（課題点には、提出物に加え、平常の授業への取り組みが含まれます）

週 テーマ・授業目標等

1. 保育者になるということ
2. わが国の保育観と保育者の役割
3. 社会的養護における保育者の役割
4. 保育における子ども理解
5. 保育の計画と実践
6. 保育の環境
7. 保育における援助
8. 省察と記録
9. 子育て支援
10. 保育者の同僚性と協働
11. 保幼小の連携・地域連携
12. 保育実践から考える
13. 保育実践から考える
14. 保育実践から考える
15. まとめと振り返り～保育者の専門性とは（小テストを含む）

使用教科書名

保育者のためのキャリア形成論/石川昭義・小原敬郎編著/建帛社/2015

NO. G04006001

保育学A

和田 美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育とは何か、保育の理念と概念、社会的役割や制度的位置づけ、保育の原理と方法など。保育を行う上で基本となる知識、考え方を学ぶ。これまでの日本、諸外国における保育の歴史を学び、我が国の保育の特色と現状、課題を把握する。特に、子育て支援、小学校教育との接続のあり方、子ども・子育て新制度などを取りあげ、理解を深める。また、保育実践の基礎となる子ども観、保育観、発達観について学生自身のもつそれらを確かめ、その多様性や専門家である保育者との違いに気がつく。

学習目標・到達目標

1. 保育の意義について理解する。2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本について理解する。3. 保育の内容及方法の基本について理解する。4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。5. 保育の現状と課題について考察する。

評価方法その他

定期試験(80%)、受講姿勢(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 保育原理で学ぶこと:保育とは何か
2. 保育の概念と意義
3. 西洋における保育思想の歴史
4. 日本の保育思想と歴史
5. 保育所保育と幼稚園教育
6. 保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育の基本
7. 保育の内容
8. 保育の計画
9. 保育の方法
10. 保育行政
11. 保育者の責務
12. 今日の保育問題1
13. 今日の保育問題2
14. 今日の保育問題3
15. まとめ

使用教科書名

保育の質を高める保育原理(大学図書出版)

NO. G04008001

児童文化

美谷島 いく子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもを取り巻くさまざまな文化について学ぶ。
・児童文化史を概観し、児童文化の流れを把握する。
・年中行事や伝承遊び等の伝承文化について学び、基礎的な知識を習得する。
・現代の子どもの暮らしについて学び、子どもの生活文化についての理解を深める。
・現代の子どもの遊びの現状を具体的に検討することによって、子どもを取り巻く文化についての考察を深める。
・子どもにとって身近な児童文化財のひとつである絵本や紙芝居などについて学び、知識を深める。

学習目標・到達目標

○児童文化について、基礎的な知識を学ぶ
○子どもにかかわるさまざまな伝承文化について学ぶ
○子どもに身近な児童文化財である絵本や紙芝居について、基礎的な知識を習得する
○睡眠や食事等の、子どもの生活文化について学ぶ
○現代の子どもの遊びについて考察する

評価方法その他

平常点40％・試験または課題60％
（平常点は、毎回の授業でのミニレポート、授業への参加状況等を総合して判断します）

週 テーマ・授業目標等

1. 児童文化について こどもと遊ぶ
2. 伝承文化と子ども 生育儀礼
3. 伝承文化と子ども 年中行事
4. 伝承文化と子ども 昔話
5. グリム兄弟『子どもと家庭のメルヘン』
6. わらべ唄
7. 絵本の「読み聞かせ」
8. 世界の絵本の歴史 世界図絵 チャップブック他
9. 世界の絵本の歴史 もじやもじやベーター、ピータラビットのおはなし他
10. 日本の絵本の歴史
11. 絵本の種類 赤ちゃん絵本他
12. IBBYとバリアフリー絵本
13. 紙芝居
14. かるた
15. 子どもの生活 睡眠 食事
16. 定期試験

使用教科書名

皆川美恵子・武田京子編著「改訂 児童文化」ななみ書房 ISBN 978-4-903355-07-8

NO. G04009001

小児保健Ⅰ

鳥海 弘子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地域における保健活動、子どもの身体的特徴や発育発達を学び基礎知識を習得する。
子どもの発達段階に応じた事故予防や保育における衛生管理、危機管理、安全管理を理解する。
具体的な保健的支援を考えることを目標とする。

学習目標・到達目標

1. 子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解している。
2. 子どもの発達段階に応じた事故防止について理解している。
3. 保育における環境整備、衛生管理、危機管理、安全管理について理解している。
4. 地域の子育て支援・母子保健などの地域の連携について理解している。

評価方法その他

定期試験（70%）
課題及び授業中小テスト（20%）
平常点（10%）

週 テーマ・授業目標等

1. 子どもの健康と保健の意義
2. 地域における保健活動と児童虐待防止
3. 地域の子育て支援と専門機関との連携
4. 生物としてのヒトの成り立ち
5. 身体発育と保健
6. 子どもの生理機能の発達と保健① 形態と機能
7. 子どもの生理機能の発達と保健② 体内環境の恒常性
8. 子どもの運動機能の発達と保健
9. 子どもの精神機能の発達と保健
10. 子どもの発育発達と生活習慣
11. 保育における環境整備と衛生管理
12. 保育における危機管理と安全管理
13. 子どもの事故の現状と課題
14. 事故やけがに対する応急処置・救命処置
15. 小児保健の総理解
16. 定期試験

使用教科書名

「子どもの保健」第7版 追加 巷野悟郎 診断と治療社

NO. G04011001

卒業研究B

児童学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究Aにおいて得られた研究データの整理、分析、考察を行い、研究の成果をまとめた論文及び要旨を作成・提出する。卒業研究発表会では、最終的な研究成果を口頭で発表し、質疑応答を行う。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標・到達目標

卒業研究Aにおける研究課題を発展させ、分析と考察を重ねながら、最終的な結論を導き出す。卒業論文・要旨・発表資料を作成する。研究成果についての発表と質疑応答を通して、今後の課題を明らかにする。

評価方法その他

平常点（40%）、研究論文（50%）、研究発表（プレゼンテーション）（10%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. 研究データの整理、分析、考察一週目
2. 研究データの整理、分析、考察二週目
3. 研究データの整理、分析、考察三週目
4. 研究データの整理、分析、考察四週目
5. 研究データの整理、分析、考察五週目
6. 研究データの整理、分析、考察六週目
7. 論文構成の検討
8. 論文作成一週目
9. 論文作成二週目
10. 論文作成三週目
11. 論文作成四週目
12. 論文作成五週目
13. 論文作成六週目
14. 要旨作成
15. 発表資料作成
16. 卒業研究発表会

使用教科書名

NO. G04010001

卒業研究A

児童学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの福祉と保育、心理と発達、健康と環境、文化と社会、生活と教育の5つの学びの分野及びその他の児童学関連分野から、先行研究をふまえて自らの研究課題を設定し、研究方法を吟味し、研究計画に基づいて調査・データ収集等に従事する。中間報告会では、これまでの研究成果をプレゼンテーションし、卒業研究Bに向けての課題を明らかにする。なお、授業内容の詳細については各指導教員の指導によるものとする。

学習目標・到達目標

4年間の児童学科における学びの集大成として、自ら研究課題を設定し研究計画を立て、主体的に研究活動に取り組むこと。また、研究を進めていく中で、課題をより深め、発展させていくこと。

評価方法その他

平常点（60%）、中間報告（プレゼンテーション）（40%）による総合評価。
（平常点は毎週の授業への参加状況、研究への取り組みや討論への参加の積極性等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 問題の分析と課題領域の設定
3. 先行研究一週目
4. 先行研究二週目
5. 先行研究三週目
6. 先行研究四週目
7. 先行研究のまとめと研究課題の設定
8. 研究方法、手続きの検討
9. 研究方法、手続きの決定
10. 研究計画の立案
11. 調査・データ収集等一週目
12. 調査・データ収集等二週目
13. 調査・データ収集等三週目
14. 調査・データ収集等四週目
15. 調査・データ収集等五週目
16. 中間報告会

使用教科書名

NO. G04012003

児童心理学

丹羽 さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・子どもの発達を把握するための基礎的知識、技術を身に付ける
- ・子どもたちの学びのスタイル（乳幼児期、児童期）を理解する
- ・子どもの発達における環境の重要性を理解する
- ・発達を踏まえた援助について理解する
- ・子どもの育ちをめぐる今日的課題を知り、子育て支援について考える

学習目標・到達目標

保育、教育の現場において、子どもの育ちと学びをとらえて援助する力を身に付ける。

評価方法その他

期末の試験（60%）、コミュニケーション・カード+受講姿勢（40%）により評価する。
（コミュニケーション・カード+受講姿勢は、授業への参加状況、コミュニケーション・カードへの記入状況と内容、課題への取り組み等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、心理学と保育・教育
2. 子ども理解における発達の把握
3. 観察と記録
4. 個人差や発達過程に応じた保育
5. 環境との相互作用による発達
6. 人的環境としての保育者
7. 子どもの仲間関係と遊び
8. 自己主張と自己抑制
9. 集団での活動と環境
10. 基本的生活習慣の獲得と主体性
11. 発達課題に応じた援助や協同
12. 発達や学びの連続性と就学支援
13. 現代社会における子どもの発達
14. 発達に影響を与える要因
15. 保育の現場における子育て支援
16. 定期試験

使用教科書名

使用しない。

NO. G04013001

発達臨床心理学

柳瀬 洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間のライフサイクルを「生涯発達」という連続性のなかで捉え、乳児期・幼児期、学童期・思春期、青年期、成人期、老年期の各時期に生ずる様々な悩みや問題について理解を深める。また、直面する課題に即した臨床実践のあり方や支援に必要な心理臨床の基礎的理論、技法、実践を学ぶ。発達臨床心理学の意義と課題、子どもの問題のとらえ方、臨床心理学の基礎理論、発達と学習、心理的アセスメントと援助の方法、事例研究、等から理解し学ぶ。

学習目標・到達目標

1. 人間のライフサイクルにおいて直面するさまざまな問題について「生涯発達」という視点から理解を深めていく。
2. 課題に対応するために必要な心理臨床の基礎的な理論・方法を学ぶ。
3. 心理劇（ロールプレイ）等を通じて、問題の把握と問題解決への実践力を養う。

評価方法その他

テスト(60%)、平常点(40%:学習態度及び出席状況、ミニ課題)

週 テーマ・授業目標等

1. 発達臨床心理学の意義と課題
2. 乳児期・幼児期の発達と心理臨床
3. 学童期・思春期の発達と心理臨床
4. 青年期の発達と心理臨床
5. 成人期の発達と心理臨床
6. 老年期の発達と心理臨床
7. 臨床心理学の基礎知識
8. 関係性の発達と臨床心理学
9. 心理的アセスメントの方法(1)観察
10. 心理的アセスメントの方法(2)発達検査・心理検査
11. 心理的アセスメントの方法(3)総合的理解と見立て
12. 心理的援助の方法(1)遊戯療法、箱庭療法
13. 心理的援助の方法(2)集団心理療法(心理劇の基礎)
14. 心理的援助の方法(3)集団心理療法(課題解決の心理劇)
15. まとめとミニテスト

使用教科書名

NO. G04014001

対人関係の発達

丹羽 さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児期から老年期までの、各世代の対人関係の発達や特徴について概観する。社会の変化を背景として対人関係のあり方も変化してきていることを理解する。現代に生きる子どもたちの対人関係の課題について取り上げ、ソーシャルスキルトレーニングなどの支援について学ぶ。青年期の対人関係の課題については、学生自身の対人関係について振り返りつつ考えていく。

学習目標・到達目標

- 人にとっての人間関係の重要性を理解する。
1. 人間関係の発達について理解する。
 2. 今日の人間関係の諸問題を理解する。
 3. 自分の人間関係を振り返る

評価方法その他

レポート(60%)、コミュニケーション・カード+受講姿勢(40%)により評価する。
(コミュニケーション・カード+受講姿勢については、コミュニケーション・カードの記入状況と内容、授業への参加状況、課題への取り組み等で総合的に評価する。)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:人にとっての人間関係
2. 乳児期の人間関係:愛着
3. 幼児期の人間関係
4. 児童期の人間関係(1)ギャングエイジ
5. 児童期の人間関係(2)レポート発表
6. 思春期・青年期の人間関係(1):ソーシャルスキルトレーニング
7. 思春期・青年期の人間関係(2):恋愛関係
8. 現代社会における人間関係を考える(1)青年の人間関係
9. 現代社会における人間関係を考える(2)SNSの世代
10. 現代社会における人間関係を考える(3)自分たちの人間関係を振り返る
11. 現代社会における人間関係を考える(4)グループ発表
12. 成人期の人間関係(1)メンターの役割①
13. 成人期の人間関係(2)メンターの役割②
14. 老年期の人間関係
- 15.まとめとレポート発表

使用教科書名

特に指定しない。適宜資料を配布する。

NO. G04015001

発達障害の理解と支援

杉野 学

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)等についての理解と指導や支援方法について理解する。
- ・幼稚園、小学校、特別支援学校における指導事例を取り上げ、障害が及ぼす学習面・行動面・コミュニケーション面等への影響と二次障害について理解し、具体的な指導や支援の在り方について学ぶ。
- ・個別指導、集団指導、校内支援、保護者・地域関係機関との連携について、発達障害等のある幼児児童やその家族にとって望ましい支援の在り方について考える。

学習目標・到達目標

自閉症、高機能自閉症、アスペルガー症候群、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)等について、正確な知識を身につけるとともに、障害の特徴や個々の特性に応じた指導や支援のあり方を考える。

評価方法その他

定期試験50%、平常点50%とし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業への出席状況、討論への参加、課題に対するレポートの取り組み等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 発達障害と特別支援教育
- 2 発達障害の種類、定義、障害特性の理解と教育
- 3 幼稚園、小学校、特別支援学校の教育課程編成と指導
- 4 自閉症スペクトラムの理解と支援
- 5 学習障害の理解と支援
- 6 注意欠陥多動性障害の理解と支援
- 7 アセスメントを活用した発達障害児への指導
- 8 発達検査・知能検査の学習指導への活用
- 9 発達障害児への指導上の基本的な考え
- 10 幼稚園、小学校における発達障害児への配慮と支援の実践
- 11 特別支援学校幼稚園・小学部における発達障害児への配慮と支援の実践
- 12 特別支援学校小学部における「社会性の学習」
- 13 学校教育におけるSST、TEACCH等の支援プログラムの活用例
- 14 校内支援、保護者・地域関係機関との連携による支援の実践
- 15 発達障害に関する最近の動向
- 16 定期試験

使用教科書名

「発達障害の理解と支援」、大学図書出版

NO. G04016001

発達臨床論

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

発達障害とその心理臨床、療育、特別支援教育、について学ぶ。
発達障害は子どもの時期に起こる障害であり、それ故その特性と発達の段階に応じた全人的な早期療育、早期対応が重要である。また、親や家族に対する療育上の援助も同様に不可欠である。家庭、園、学校、等における、実際の事例や問題を通して、行動や認知、情緒面に課題がある子どもの心理と教育、親や家族へのメンタルケアについて学ぶ。

学習目標・到達目標

発達障害とは何か、その心理臨床と療育について理解する。各発達障害(発達障害の課題)について、教科書を中心にグループでまとめ、発表し、全体で学びあう過程を体験する。実習(実習)の体験と関連させ、発達障害と対応の仕方の理解を深める。

評価方法その他

平常点(30%:学習・発表態度及び出席状況、小レポート) 課題レポート(70%)

週 テーマ・授業目標等

1. 発達障害とは何か
2. 現代社会と障害のとらえ方
3. 自閉症と体験世界
4. 自閉症と発達臨床
5. 広汎性発達障害の諸問題と対応
6. アスペルガー症候群と発達臨床
7. ダウン症候群と発達臨床
8. 多動児と発達臨床
9. 学習障害と発達臨床
10. 非行と発達障害
11. 乳幼児健診と早期療育
12. 発達障害と虐待
13. 発達障害とかかわり方
14. 特別支援教育一保育園、幼稚園
15. 特別支援教育一学校
16. まとめ

使用教科書名

NO. G04017001

心理学研究法

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理学分野における研究法の基礎から応用にいたるまでをわかりやすく実演・講義する。科学的研究の原理から始め、行動観察、アンケート法による各種調査、実験計画法による心理学研究のデザインのたてかた、得られたデータの処理と分析法、結果の解釈、研究結果のプレゼンテーション、研究における倫理的問題等について具体的に紹介する。

心理学a、bを履修していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

期末試験80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 心理学研究法の紹介
- 第2週 科学的研究とは 1
- 第3週 科学的研究とは 2
- 第4週 仮説の立て方について(帰納と演繹)
- 第5週 データによる行動の記述 1(行動観察)
- 第6週 データによる行動の記述 2 (データの集計とビジュアル化)
- 第7週 心理統計について 1 (統計の基礎)
- 第8週 心理統計について 2 (有意差の検定)
- 第9週 実験計画法 1
- 第10週 実験計画法 2
- 第11週 アンケートによる調査について 1(調査計画)
- 第12週 アンケートによる調査について 2 (結果の分析と解釈)
- 第13週 心理学的アセスメント 1 (パーソナリティ)
- 第14週 心理学的アセスメント 2 (知能)
- 第15週 心理学的アセスメント 3 (行動)
- 第16週 試験

使用教科書名

NO. G04018001

児童とカウンセリング

柳瀬 洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人は生きていく上で、苦しみや哀しみと無縁ではられません。時には「何が辛く苦しいのか」すら分からないほど困難な状態に陥ってしまう場合もあります。そのような場合、まず困っている自分自身に気づき、理解し、その状況を客観的に再認識するところから始めると、新たななかかわり方の工夫が可能となり、問題解決へと結びついていくことが少なくありません。本講義では事例検討を交えながら基本的なカウンセリングの理論と技法、実践を統合的に理解し自分と向き合いながら、人が人を理解し支えるとはどういうことなのか、子どもの心に寄り添うとはどういうことなのかについて考えていきます。

学習目標・到達目標

・自己の課題に気づき、課題と向き合うために必要なスキルを身につける。
・課題や悩みを抱える相手に寄り添うということについて理解を深め、支えていくために必要な姿勢を育み、カウンセリング・スキルの基礎を学ぶ。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断)30%、期末レポート50%、その他の提出課題等20%による総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. カウンセリングとは何か
3. 日常生活におけるカウンセリング
4. ところとからだのメッセージ
5. こころの病理の理解
6. ♡Who am I?♡～私の「自分探し」自分を理解すること
7. セルフカウンセリング～マイ・カウンセラーとの対話
8. 自己を表現するということ～セルフアサーション
9. 語ることの意味と聴くことの意味
10. カウンセリングにおける基本的な態度
11. カウンセリングの展開と気づきのプロセス
12. カウンセリングの理論と技法①クライアント中心療法
13. カウンセリングの理論と技法②認知療法
14. カウンセリング体験～ロールプレイ
15. まとめ～事例検討とスーパーヴィジョン

使用教科書名

NO. G04019001

心理検査法実習

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの発達検査、知能検査、性格・人格検査などの各種の心理検査に関する基礎知識の習得とともに、人間理解の一つの方法として心理学的臨床観察と検査方法に関して実習を行う。

学習目標・到達目標

心理検査の基本的な意味を知り、心理臨床活動で、どのように実施していくかを理解する。いろいろな心理検査をグループで実際に実施してみて、個々の検査の特色、実施の仕方、配慮点などを、総合的に理解する。

評価方法その他

平常点(50%;出席状況、授業態度)、レポート(50%)

週 テーマ・授業目標等

1. 心理検査とは何か
2. 乳幼児の問題と心理的アセスメントの実践
3. 発達検査実習①乳幼児発達診断法、デンバー式発達スクリーニング検査
4. 発達検査実習②K-ABCテスト
5. 発達検査実習③K式発達テスト
6. まとめ～小レポート
7. 知能検査実習①田中ビネー式
8. 知能検査実習②WISC、WIPSI
9. まとめ～小レポート
10. 性格検査実習①箱庭法
11. 性格検査実習②文章完成法
12. 性格検査実習③バウムテスト
13. まとめ～小レポート
14. 相談場面の展開～診断即治療の心理劇
15. 診断即治療・心理劇を活用した行為評価法
16. 総合レポート

使用教科書名

各種テスト解説書

NO. G04022001

社会福祉

嶋田 芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉は、従来のような限定された福祉から普遍化された福祉へと変化し、特にその傾向は高齢者福祉領域において顕著となっている。そこで、講義では社会福祉全般の制度概要及び近年の動向について示していくとともに、今後の福祉のあり方について考えていきたい。

学習目標・到達目標

社会福祉の概要を理解する

評価方法その他

平常点20%(授業への参加状況)、定期試験80%

週 テーマ・授業目標等

1. 社会福祉の基礎概念(1)―社会福祉の意味と理念―
2. 社会福祉の基礎概念(2)―社会福祉の原理―
3. 社会福祉をとりまく環境(1)―少子社会と高齢社会の到来―
4. 社会福祉をとりまく環境(2)―家族と地域社会の動向と課題―
5. わが国における社会福祉の展開(1)―明治期～大正期―
6. わが国における社会福祉の展開(2)―昭和期～今日―
7. 社会福祉を支える仕組み(1)―法体系―
8. 社会福祉を支える仕組み(2)―行政組織―
9. 社会福祉を支える専門職
10. 社会保障の概要―医療保険・年金保険制度について―
11. 公的扶助の概要(1)―生活保護の原理―
12. 公的扶助の概要(2)―扶助の種類と内容―
13. 社会福祉援助の方法
14. 高齢者と障害者の福祉―高齢者の現状と介護保険制度―の仕組みと内容―(1)
15. 高齢者と障害者の福祉―障害者の現状と障害者自立支援法―の仕組みと内容―(2)
16. 定期試験1. 社会福祉の基礎概念(1)

使用教科書名

『社会福祉形成分析論』大学図書出版
必要に応じて、授業時にプリントを配布

NO. G04023001

社会的養護

塩谷 隼平

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会的養護について、原理、理論、援助方法、課題などの視点から、実践例を通して総合的に学ぶ。特に児童福祉施設における社会的養護について取り扱い、施設養護における子どもの育ちとケアの方法の理解を深める。また、そのために必要な子どもの心理的発達について説明し、子どもの抱える心理的な問題とその援助方法についても学ぶ。さらに児童虐待をはじめとした現代社会における子どもを取り巻く養護の諸問題について保育士としてできることを考えていく。

学習目標・到達目標

1. 社会的養護についての理解を深める
2. 児童福祉施設の種類や役割を知る
3. 施設養護における子どもの育ちとそのケアについての知識を得る
4. 子どもの心理的発達について自分の体験をもとに学ぶ

評価方法その他

平常点(50%)、定期試験(50%)
平常点は授業への参加状況などから総合的に判断する

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション 社会的養護とは
2. 児童福祉施設の役割と歴史
3. 児童福祉施設の種類と現状
4. 児童福祉施設における援助
5. 児童養護施設
6. 乳児期の心の発達
7. 乳幼児期の心の発達
8. 幼児期の心の発達
9. 児童期前期の心の発達
10. 児童期後期の心の発達
11. 思春期の心の発達
12. 児童虐待の現状
13. 児童虐待の原因
14. 児童虐待の影響
15. 児童虐待の援助
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない

NO. G04024002

社会的養護内容(PB)

杉野 学

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童養護施設や障害児入所施設等で生活する子どもたちの日常を知り、保育者としての支援のあり方を具体的に理解することをねらいとする。そのためには、社会的養護を必要とする多様な子ども達に対する理解を深めるとともに、具体的な支援内容・方法を知ることは欠かせない。授業では、障害のある子どもをはじめとした多様な子どもたちの生活、心理、支援内容・方法などについて考究することを通して、保育士として必要な資質・能力を高める。

学習目標・到達目標

児童養護施設や障害児入所施設等で暮らす障害のある子どもたちの生活、心理、支援について理解を深める。また、障害のある子どもたちに対する様々な支援内容・方法を考察するとともに、保育者としての使命や実践的指導力を高めることを目的とする。

評価方法その他

定期試験50%、平常点50%とし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業への出席状況、討論への参加状況、授業ごとの振り返りシートへの記入内容、課題に対するレポートの取り組み等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 社会的養護の概要
・社会的養護の定義、原理
・児童虐待・障害児の入所増加・障害児入所施設の種類の増加
2. 障害児入所施設の子どもの生活と支援のあり方
・障害児入所施設の概要・障害者総合支援法との関連
・障害児入所施設における支援
・児童福祉施設と保育士
3. 知的障害児の障害特性と支援を理解する
・知的障害児の特性・知的障害児施設の生活と支援の実例
・知的障害児施設の役割・障害者ケアマネジメント
4. 肢体不自由児の障害特性と支援を理解する
・肢体不自由児の特性・重症心身障害児施設・肢体不自由児施設の生活と支援の実例
・肢体不自由児施設の役割・生活支援介護
5. 発達障害児の心理・発達と支援のあり方
・発達障害児の特性と支援
・児童養護施設の生活と支援の実例
6. 発達障害と特別支援教育
・特別支援教育
・発達障害児の理解と支援
・自閉症スペクトラムの子どもへの接し方
・特別支援学校と施設との連携
7. 児童養護施設における支援事例の考察
・日常生活の支援
・個別及び集団における支援
・注意欠陥多動性障害児への支援に

使用教科書名

テキストは特に指定しない。プリント及び映像資料等で進める。

NO. G04024001

社会的養護内容(PA)

横井 義広

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

施設で子ども達と関わりあうための基礎となる重要な概念について身につけているかどうか自己評価・相互検討を行い、スーパーヴァイズを受ける。併せて養護技術の基礎を習得する。子どもとの関わりの中で主体的に考え判断できるような態度を形成する。児童期にふさわしい生活プログラムを作成するなどの演習をとおして、居住型児童施設に生活する児童の立場についての理解を深める。日常的に展開されている児童の具体的な活動や生活の援助の方法を学ぶ。児童の心身の成長や発達を保障し、援助するために必要な知識や技能を習得する。

学習目標・到達目標

評価方法その他

定期試験85% 授業内レポート5% 授業態度10%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 養護内容 (1)基本的な日常生活の援助
- 第2週 養護内容 (2)心の傷を癒したり、心をはぐくむための援助
- 第3週 養護内容 (3)親子関係を調整するための援助
- 第4週 養護内容 (4)学校や地域などとの関係を調整するための援助
- 第5週 養護内容 (5)自己実現・自立への援助
- 第6週 児童福祉施設における生活場面の事例検討 (1)実践例を講読する
- 第7週 児童福祉施設における生活場面の事例検討 (2)課題解決の可能性を共に探求する
- 第8週 施設養護プログラムの実際を知る (1)生活のリズムと日課 事例
- 第9週 施設養護プログラムの実際を知る (2)衣食住と生活の喜び 事例
- 第10週 施設養護プログラムの実際を知る (3)生活習慣の形成と生活技術の習得 事例
- 第11週 施設養護プログラムの実際を知る (4)心身の発達と性の理解 事例
- 第12週 施設養護プログラムの実際を知る (5)個人の尊重と集団生活 事例
- 第13週 地域社会との連携・・・学校教育と施設、地域社会、ボランティア
- 第14週 施設養護と社会福祉援助技術 援助者としての資質・倫理
- 第15週 試験

使用教科書名

児童養護の原理と実践的活用/浅井春夫監修・中山正雄編集/保育出版社

NO. G04027001

乳児保育(PA)

和田 美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学生が主体的に学習する授業を教育目的とする。3歳未満児の発達過程を、家庭育児と保育所保育と乳児院・あるいは子育て支援の場における専門職として、子どもの育つ道筋やその特徴について、個性を尊重し、個人差に留意できるよう学ぶ。講義については、教科書や保育所保育指針を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」を知る。乳児保育に関する賛否両論の歴史を踏まえて、乳児院における保育所における乳児保育の現状を知る。さらに視覚教材を手掛かりとして、乳児期の発達と生活について知る。また、乳児保育現場見学とその事前・事後指導を手掛かりとして、乳児保育で豊かな

学習目標・到達目標

学生が主体的に学習する授業を教育目的とする。3歳未満児の発達過程を、家庭育児と保育所保育と乳児院・あるいは子育て支援の場における専門職として、子どもの育つ道筋やその特徴について、個性を尊重し、個人差に留意できるよう学ぶ。講義については、教科書や保育所保育指針を手掛かりとして「乳児保育の基本となる考え方」を知る。乳児保育に関する賛否両論の歴史を踏まえて、乳児院における保育所における乳児保育の現状を知る。さらに視覚教材を手掛かりとして、乳児期の発達と生活について知る。また、乳児保育現場見学とその事前・事後指導を手掛かりとして、乳児保育で豊かな

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断する)
(40%)授業を通して出される課題(30%)テスト(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 乳児保育の教科書に記述される内容を学習できるようにする。具体的には以下のとおりである。
1. 乳児保育の基本となる考え方／乳児とは何か(私たちが抱く乳児像)
 2. 乳児に関する保育観の経緯と現状／乳児の発達と遊び(0～1歳)
 3. 乳児の生活(日課と遊び)／乳児の発達と遊び(1～2歳)
 4. 乳児の生活(食事と睡眠)／乳幼児の発達と遊び(2～3歳)
 5. 乳児の生活(排泄と健康・安全)／着替えとオムツ替えの実技練習
 6. 乳児の生活(子どものいる場所)／乳児の過ごす環境を考える
 7. 乳児保育の見学に向けてオリエンテーション(保育所での環境と生活の仕方)／見学実習事前学習
 8. 保育所・子育て支援施設見学の実施(1)
 9. 保育所・子育て支援施設見学の実施(2)
 10. 見学交流報告会(1)
 11. 見学交流報告会(2)／日々の生活の中から見てくる子どもの姿(1)
 12. 日々の生活の中から見てくる子どもの姿(2)(乳児が生活する場所の問題)／乳児と遊び
 13. 生活を支える保育者の役割・子どもと生活を共にする保育者の役割／乳児を取りまく現代社会の課題(1)―家庭とのつながり
 14. 保育計画と評価／乳児を取りまく現代社会の課題(2)―他機関との連携
 15. テスト／まとめ(育てられるものから育てるものへ)

使用教科書名

阿部和子「演習 乳児保育の基本」萌文書林

NO. G04028001

幼児理解

新開 よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

目の前の幼児のありのままの姿から幼児の内的世界を理解し、その育ちの芽を見出すことは、保育の出発点であり、保育者の専門性の中核である。この授業では、幼児理解の基本を踏まえ、それに基づくかかわり、援助の可能性・工夫についてビデオやエピソード記録などの事例を用いながら考究していく。

学習目標・到達目標

- 幼児理解の基本的視点について理解する
- 幼児理解の具体的な方法を知る
- 事例を読み取ったり書き出したりする中で、子どもの内面について考察できる

評価方法その他

課題点（授業への参加・取り組みへの姿勢、提出物を含む）60％ ＋ 小テスト40％

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション～わたしの中の子どもと出会う
2. 幼児理解と評価の考え方
3. 幼児を肯定的に見る
4. 活動の意味を理解する
5. 発達する姿をとらえる
6. 集団と個の関係をとらえる
7. 保育を見直す
8. 教師の姿勢
9. 触れ合う・観察する
10. 記録する
11. さまざまな記録と事例研究
12. 家庭との連携
13. エピソードの取り出しと読み取り
14. 記録の発表と協議
15. まとめと小テスト

使用教科書名

NO. G04029001

保育内容総論A(PA)

中田 範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現行の幼稚園教育要領や保育所保育指針で示されている内容を踏まえ、乳幼児期の発達を理解しながら、幼稚園等保育現場で展開されている保育の内容について具体的に学ぶ。また、わが国の保育の基本の一つである「環境を通しての教育」や「遊びによる総合的な指導」についての理解を深める。

具体的には、子どもの様子や保育者のかかわりについての事例や園生活の概要を紹介するビデオから、子どもの内面を読み取り、幼児期の遊びの意義やより良い保育のあり方について実践と結び付けながら理解する。

学習目標・到達目標

- ①乳幼児期の発達に即し、育ちを支える保育者の援助の在り方について考察することができる。
- ②乳幼児期における環境の重要性や、「環境を通しての教育」の意義について理解できる。
- ③幼稚園教育要領に示す各領域のねらい及び内容を踏まえ、遊びを通して子どもが育つ姿と保育者の援助の在り方について理解できる。

評価方法その他

学期末に行う定期試験及び授業内に提出するレポート等から総合的に評価する。評価の比率は、定期試験(0.8)、授業内提出レポート(0.2)である。

週 テーマ・授業目標等

- 1 保育内容とは
- 2 幼児の園生活と保育者の援助(1)
- 3 幼児の園生活と保育者の援助(2)
- 4 乳幼児の特性と保育内容
- 5 幼稚園教育と幼稚園教育要領
- 6 保育所保育と保育所保育指針
- 7 保育の基本と保育内容
- 8 領域・ねらい・内容
- 9 環境を通しての教育
- 10 遊びを中心とした保育(1)
- 11 遊びを中心とした保育(2)
- 12 3歳未満児の生活と保育
- 13 3歳児の生活と保育
- 14 4歳児の生活と保育
- 15 5歳児の生活と保育
- 16 定期試験

使用教科書名

中田範子著「子どもの育ちと環境―未来を見据えた保育の探求―」大学図書出版

NO. G04030001

保育内容総論B(PA)

中田 範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「保育内容総論A」で学習した内容を踏まえ、現行の幼稚園教育要領の5領域にそれぞれ示されているねらい、内容、内容の取扱いについての理解を深めながら、発達段階に応じた保育の計画と実践のあり方について学ぶ。

具体的には、討議、ロールプレイなどの演習、教材研究や指導計画の作成などから、より良い保育のあり方について検討し、今後の課題を見出す。また、子どもや保育を取り巻く環境や今日的課題に視点を広げ、求められる保育内容について検討する。

学習目標・到達目標

- 到達目標①:各年齢の発達に即した保育者の働き方や保育内容について具体的に理解する。
- 到達目標②:国内・国外の保育の実践を参考にしながら、よりよい保育内容を構築するための保育環境や教材について調査し、保育を計画する基礎を習得する。
- 到達目標③:それまで得られた保育に関するあらゆる知識を結び付けながら、実際に保育を行うことを想定して指導計画(活動案)を作成する。

評価方法その他

学期末のレポート課題に加えて数回的小レポート及びサブノートの提出を課し、総合的に評価する。評価の比率は、レポート課題(0.7)、小レポート及びサブノート(0.3)である。

週 テーマ・授業目標等

- 1 ガイダンス
- 2 子ども同士の関係と保育者の援助(1)
- 3 子ども同士の関係と保育者の援助(2)
- 4 0～1歳児の生活と保育内容
- 5 1～2歳児の生活と保育内容
- 6 3歳児の生活と保育
- 7 4歳児の生活と保育
- 8 5歳児の生活と保育
- 9 諸外国の保育
- 10 保育をデザインする
- 11 保育に活用する教材について
- 12 保育を計画する
- 13 音楽遊びの展開
- 14 造形遊びの展開
- 15 運動遊びの展開

使用教科書名

中田範子著「子どもの育ちと環境―未来を見据えた保育の探求―」大学図書出版

NO. G04031001

保育内容演習健康A

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育実践例を学ぶ。乳幼児が健康やかに育つために「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。

授業時間外の学習として児童学科承認の保育実践活動に参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標・到達目標

幼児期の身体発達を正しく理解すること、また、現場に出て戸惑うことなく子どもたちの身体や健康に向き合うことができるようになることを目的とする。「健康」を多くの側面から捉えられる力を修得する。

評価方法その他

授業時間内の学習（授業への2/3以上の出席を基本として、平常点50％、課題・レポートの内容50％）及び授業時間外学習を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 健康観の変遷と社会環境
2. 健康と運動
3. 健康を指導する
4. 運動を指導する
5. 演習 発育・発達と遊び
7. 演習 運動遊びを考える
9. 運動習慣の形成と必要性
10. 演習 生活習慣と健康
11. 演習 乳幼児の食事と健康
12. 演習 乳幼児の遊びや運動と健康
13. ケガの予防と救急法
14. 保育者の危機管理
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

特に指定しない

NO. G04032001

保育内容演習健康B

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児期の健康は乳幼児の行動力を高めるだけでなく、その後の児童期、青年期へと成長していくための基礎である。乳幼児が健康に育つための基礎理論と保育環境と保育の実践例を学ぶ。特に、乳幼児が健やかに育つために働く「おとなの育てる機能」とその機能を働かせる「保育」における具体的な方法を修得する。2年次においては児童学科承認の子ども体験塾に参加する。3年次には児童学科承認の森のようちえんに連続4回以上参加し、総合的な指導力・実践力を修得する。

学習目標・到達目標

子どもの健康を総合的に捉えられる能力を身につける。子どもは発育発達に大きな個人差が生じ、一定の側面だけで健康について評価することは望ましいものではない。様々な観点から子どもの健康を考え、健康の維持・増進をどのように捉えていくかを考えられるようにする。過去から現在、さらにこれからの子どもを取り巻く環境についても考え、大人として、保育者としてどのように子どもの健康を取り上げていくべきなのかを考えられるようにする。

評価方法その他

出席と毎回の小テストの総合評価とする。平常点50%、小テスト50%とする。

週 テーマ・授業目標等

- 1.子どもの健康は今 森のようちえん活動を理解する
- 2.子どもの健康を計るバロメーターは何か
- 3.様々な食生活と生活習慣
- 4.子どもに運動習慣をつけることの意義
- 5.日本の子どもと外国の子どもの生活習慣について
- 6.運動刺激は子どもになぜ必要か
- 7.子どもの発育・発達に応じた運動
- 8.子どもの運動能力の測定方法
- 9.親と子どもの健康観と運動観
- 10.コミュニティの重要性
- 11.保育園、幼稚園で行う健康教育、健康指導
- 12.保育園の健康教育の実際
- 13.幼稚園の健康教育の実際
- 14.小学校の健康教育の実際
- 15.まとめ
- 16.テスト

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04034001

保育内容演習言葉B

和田 美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

専門家として必要な「話す姿勢や呼吸の意識化」をする。声を出したり、それを人に届けることを楽しむ。さまざまな素材を読みこなせるよう演習する。組み立てを考えて読むことで、その内容が聞き手にしっかりとどけられるようにする。日常生活の遊びを劇遊びにつなげていく方法や、劇遊びによって日常生活の充実を促す方法を考える。1.5回の授業のうち前半は保育内容の統合性を顕在化するために、KVA祭で人形劇や朗読劇などの制作・演出・発表、という実践演習を行う。後半は、『言葉』に焦点を当てた指導案作成と模擬保育を行う。

学習目標・到達目標

幼児教育場面で必要になる表現力・指導力や実践力を養います。具体的には「4～50名の前で、マイクがなくても自分の声を届けることができるようにする。声を出し続けても壊れない身体作り」「子どもの興味・関心や発達の状態、年間行事や季節、を考えて絵本や童話が選択できる」「絵本やお話を提供する場面で、その組み立てを考えて、語り聞かせることができる」「子どもと共に既成の絵本・紙芝居や劇遊びなどを活かして、お話の世界を享受できる」

評価方法その他

授業時間内の参加状況・討論への参加・指導案・模擬保育などで総合的に判断します。(50%) 実技演習評価とレポート(50%) 総合して評価します。

週 テーマ・授業目標等

- 1.呼吸法・姿勢(実践演習)
- 2.自分の声・人に伝わる声(実践演習)
- 3.音声による表現・交流(実践演習)
- 4.日本語の音韻と音声(実践演習)
- 5.声に出して読む・話すように読む(実践演習)
- 6.組み立てを考えて読む。(講義と実践演習)
- 7.紙芝居・ペープサート・パネルシアターを活かす。(実践演習)
- 8.絵本を読む(絵・絵本・本を読むこと。指導案の作成)
- 9.絵本を読み聞かせる(伝わるように読むには。指導案の作成)
- 10.絵本を今ここで子どもと共に読む(指導案の作成)
- 11.素話を語り聞かせ①(模擬保育)
- 12.素話を語り聞かせ②(模擬保育)
- 13.絵本の「先」を創る劇あそび①(模擬保育)
- 14.日常保育を統合する劇あそび②(模擬保育)
- 15.文化財や機器を活かした劇あそび③(模擬保育)

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04033001

保育内容演習言葉A

和田 美香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

領域のねらい「生活の中で、言葉の興味や関心を育て、話したり、聞いたり、相手の話を理解しようとするなど、言葉の豊かさを養うこと」を柱にして、保育のあり方、子どもの姿の捉え方、について考えることを目的とする科目である。言葉の機能や乳幼児期の言葉の発達について理解し、それらの知識を総合的に保育実践に取り入れる力を養う。保育の中で活動を展開できる技術を獲得する他、指導計画を作成し模擬保育を行うなかで、その技術をさらに実践的に学ぶ。

学習目標・到達目標

子どもが言葉を獲得する発達のな道前と、言葉を使うことによって子どもが育っていく過程を理解する。その上で、領域「言葉」のねらいと内容を中心に、保育のあり方、子どもの姿の捉え方等を実践的に学ぶ。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.保育内容「言葉」とは
- 2.領域言葉の概要
- 3.言葉をよりよく理解するために
- 4.言葉の発達の概要
- 5.自己表現、コミュニケーションとしての言葉
- 6.保育の中の言葉
- 7.伝承遊びと遊び歌
- 8.文字としての言葉
- 9.児童文化財について1
- 10.児童文化財について2
- 11.児童文化財について3
- 12.言葉でのかわりに配慮を必要とする子ども
- 13.領域「言葉」と小学校「国語」の関連
- 14.言葉をめぐる相談の実際と対応
- 15.現代における言葉の諸問題
- 16.定期試験

使用教科書名

コンバト版「保育内容シリーズ4 言葉」

NO. G04035001

保育内容演習人間関係A

丹羽 さがの

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間関係が希薄化しているといわれる現代において、乳幼児期に人とのかかわる力の基礎を培うことの重要性はますます増している。子どもが初めての集団生活を経験する場である保育所・幼稚園は、人とのかかわる力の基礎が育つ土壌であり、保育者が適切な支援を行うことが求められる。この科目では、乳幼児期の人間関係の発達を学び、人とのかかわる力を育てる保育のあり方について考える。また、子どもとの関係には保育者自身がもつ感情や価値観が影響することを理解し、自らの人間関係の持ち方について客観的に振り返り、課題を自覚する。

学習目標・到達目標

1.乳幼児期の人間関係の発達について基本的な知識を身につける。2.「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」の「人間関係」の領域について理解する。3.子どもたちの人間関係を育むような保育者としてのかわり方や役割について理解する。

評価方法その他

レポート(50%)、コミュニケーション・カード+受講姿勢(50%)により評価する(コミュニケーション・カード+受講姿勢は、事業への参加状況、コミュニケーション・カードへの記入状況と内容、課題への取り組み等で総合的に評価する。)

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション:領域「人間関係」とは
- 2.乳幼児期の発達と領域「人間関係」(1)親との出会いとかかわり(2)保育者との出会いとかかわり
- 3.乳幼児期の発達と領域「人間関係」(3)仲間との出会いとかかわり
- 4.子どもと保育者のかわり(1)子どもとの信頼関係を築く(2)子ども同士の関係をつなぐ
- 5.子どもと保育者のかわり(3)子どもの人間関係を支える
- 6.遊びの中の人とかかわり
- 7.生活の中の人とかかわり
- 8.規範意識・道徳性の芽生え
- 9.個と集団の育ち(1)個と集団の関係
- 10.個と集団の育ち(2)協同性を育む
- 11.人とかかわりを見る視点(1)依存と自立(2)自己主張と自己抑制
- 12.人とかかわりを見る視点(3)いざこざ(4)役割と責任
- 13.保育者の人間関係
- 14.保育・幼児教育の現代的課題と領域「人間関係」:保幼小連携
- 15.人間関係を支える保育者の役割

使用教科書名

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

NO. G04036001

保育内容演習人間関係B

柳瀬 洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「保育内容演習人間関係B」は、保育現場において子どもも大人（保育者、保護者）も共に育ちあう「人間関係」をめざし、実践演習を中心に進める。具体的にはKVA祭という機会を実践の場として生かし、地域の子どもの対象とした劇制作と上演経験を通して、保育者自身のチームワークのあり方とチームアプローチの基礎を実践的に学ぶと共に、総合的な指導力と実践力の習得を本授業のねらいとする。

学習目標・到達目標

・グループワークへの取り組みを通じ、メンバー間の役割分担と連携、チームワークのあり方を実践的に学び、保育者間の連携について理解を深める。
・保育者として子どもたちにどのような保育活動を提供したらいいのか、「人間関係」という視点からの保育目標の設定、保育計画の立て方や保育者の役割について、実際に経験し考える。

評価方法その他

平常点（授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断）（40％）、グループワーク（劇制作活動および発表）への取り組み（30％）、レポート（30％）

週 テーマ・授業目標等

1. 保育者チームによるグループワーク（劇制作活動）の計画
2. 劇制作活動に向けての準備計画と役割分担
3. 保育者間の連携のあり方を考える
4. グループワーク①（劇制作活動）
5. グループワーク②（劇制作活動）
6. グループワーク③（劇制作活動）
7. グループワーク④（劇制作活動）
8. グループダイナミクスを考える（1）
9. グループダイナミクスを考える（2）
10. グループダイナミクスを考える（3）
11. 劇発表
12. 劇制作活動と上演経験のふりかえり
13. 子どもを支える保育者同士の人間関係
14. 子どもの人間関係の発達に保育者が果たす役割
15. まとめ

使用教科書名

特になし。必要に応じて資料を配布します。

NO. G04038001

保育内容演習環境B

中田 範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育内容演習環境Aで学習した内容を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示す「環境を通した教育」に基づいた保育内容を具体的に計画し、理解を深める。

学習目標・到達目標

到達目標①:「環境を通した保育」の考え方を基盤として、小学校教育への接続を視野に入れた保育を具体的に計画することができる。
到達目標②:子どもを取り巻く環境を把握しながら、保育現場での子育て支援について理解を深める。
到達目標③:幼児が季節の移り変わりに気づき、身近な自然環境に親しむことができる内容や方法

評価方法その他

主にレポート課題(50%)、発表・提出物(50%)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 秋の自然と伝統行事
3. 秋の自然を体験する
4. 小学校教育への接続と環境教育
5. 動物飼育活動の意義と方法
6. 栽培活動の意義と方法
7. 自然科学と社会をめぐる問題について
8. 園生活と行事
9. 園外保育の計画
10. 園生活と社会環境①保護者との連携
11. 園生活と社会環境②子育て家庭を取り巻く環境
12. 園生活と社会環境③地域社会とのかわり
13. 園生活と社会環境④地域資源を生かした保育
14. 冬の自然と伝統行事
15. 冬の自然を体験する

使用教科書名

無藤隆・中坪史典・後藤範子編著「保育内容環境」大学図書出版

NO. G04037001

保育内容演習環境A

中田 範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼児を取り巻く環境の現状を踏まえ、幼稚園教育要領、保育所保育指針に示す「環境を通した教育」と領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深める。
幼児と様々な環境と関わる姿と保育者の援助、幼児を対象とした環境教育の具体的な方法について演習を交えながら具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

到達目標①:幼稚園教育要領、保育所保育指針の示す「環境を通した教育」の考え方を理解できる。
到達目標②:「環境を通した教育」が保育の実際にどのように具現化されるのかについて理解できる。
到達目標③:幼児が楽しみながら身近な自然環境に親しむことのできる方法や内容について考察

評価方法その他

主にレポート課題(60%)、発表・提出物(40%)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 領域「環境」
3. 春の自然と伝統行事
4. 春の自然を体験する
5. 植物を育てよう【生物にかかわる幼児の経験と知識1】
6. 子どもの感覚と遊び
7. 数と形
8. みのまわりのかたち
9. 虫取りをしよう【生物にかかわる幼児の経験と知識2】
10. 「子どもの見え方」を体験する
11. 「子どもの見え方」を体験する
12. 夏の自然と伝統行事
13. 夏の自然を体験する
14. 環境を通した教育
15. 子どもを取り巻く環境の変化

使用教科書名

無藤隆・中坪史典・後藤範子編著「保育内容環境」大学図書出版

NO. G04039001

保育内容演習表現A（1クラス）

新開 よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの感性、表現する意欲、創造性を豊かにはぐくむための保育の内容と方法について学ぶ。領域「表現」においては、乳幼児のさまざまな表現をとらえ、その意味を理解し、育ちの見通しをもった援助に結びつけていくことが重要である。また、子どもの主体的な表現活動を支えるためには、保育環境を意図的に構成するとともに、環境の一部である保育者自身が感性を磨き、自らの心やからだに問いかけながら豊かに表現するスキルを身につけることも大切である。この授業では、さまざまな「表現遊び」を演習・体験しながら、保育における表現活動の指導の可能性について探究する。

学習目標・到達目標

●保育における領域「表現」のねらい及び内容を理解する
●子どもの行為・遊びを「表現」の視点からとらえる
●乳幼児の表現をはぐくむ環境構成と基本的な指導法について理解する
●表現者（保育者）としてのスキルを磨く
●乳幼児期にふさわしい指導案を作成し、模擬的に実践できる

評価方法その他

1) 授業時間内の演習評価（授業への参加状況・課題への取り組み・発表態度を含む）50％
2) 提出物の評価（指導案・レポート等）50％
を100点満点に換算して成績評価点とする。

週 テーマ・授業目標等

1. 子どもの音楽表現（1）乳幼児の発達と音楽表現（事例に学ぶ）
2. 子どもの音楽表現（2）乳幼児の音楽表現と環境（事例に学ぶ）
3. 子どもの音楽表現（3）乳幼児の音楽表現において育みたい資質・能力
4. 子どもの音楽表現（4）乳幼児の音楽表現を引き出す言葉かけ
5. 子どもの音楽表現（5）モデル指導案の検討と実践
6. からだで感じて（1）においマップ
7. からだで感じて（2）えのぐで遊ぶ
8. 身近な素材の発見（1）コラージュで遊ぶ
9. 身近な素材の発見（2）つくって遊ぶ
10. 身近な素材の発見（3）新聞紙で遊ぶ
11. 子どもの身体表現の発達と保育
12. からだであらわすトレーニング
13. 模擬保育（1）音・リズムにのりながら
14. 模擬保育（2）つくる行為にのりながら
15. 模擬保育（3）絵本劇場
16. 課題提出

使用教科書名

保育内容表現/吉永早苗他/光生館/2018
感性をひらく表現遊び/岡本弘子編著/北大路書房/2013

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの感性、表現する意欲、創造性を豊かにしていくための保育の内容と方法について、演習を通して具体的に・体験的に学ぶ。前半は、総合的な表現活動体験として「わくわくシアター」の制作と発表を行う。後半は、身体表現・造形表現・音楽表現など「表現遊び」のための教材研究を行い、保育における表現活動の指導の可能性について探究する。

学習目標・到達目標

- 保育における領域「表現」のねらい及び内容を理解する
- 子どもの行為・遊びを「表現」の視点からとらえる
- 乳幼児の表現をはぐくむ環境構成と基本的な指導法について理解する
- 表現者（保育者）としてのスキルを磨く
- 乳幼児期にふさわしい指導案を作成し、模擬的に実践できる

評価方法その他

- 1)授業時間内の演習評価(授業への参加状況・課題への取り組み・発表態度を含む) 50%
 - 2)提出物の評価(指導案・レポート等) 50%
- を100点満点に換算して成績評価点とする。

週 テーマ・授業目標等

1. 総合表現活動① 制作課題の目的・内容の確認、グループ分け
2. 総合表現活動② グループごとの題材選択、役割分担、活動プランの立案
3. 総合表現活動③ 音楽的表現・効果音について
4. 総合表現活動④ 視覚的表現の課題発見と解決
5. 総合表現活動⑤ 鑑賞者を意識した表現効果の工夫
6. 総合表現活動⑥ 上演に向けた予行練習
7. 総合表現活動⑦ 発表と自己評価・相互評価
8. 総合表現活動⑧ まとめと省察
9. 総合表現活動⑨ レポート作成
10. 音楽表現の事例研究
11. 造形表現の事例研究
12. 身体表現の事例研究
13. 音楽表現の教材研究
14. 造形表現の教材研究
15. 身体表現の教材研究
16. 課題提出

使用教科書名

特に指定しない。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

障害児保育を支える理念に関して理解を深め、保育所、障害乳幼児通園施設等での保育の変遷と現状、および今後の課題を理解する。
障害についての基本的考え方としては、障害を持つ子どもを「要助児」と捉える。そして保育者としての役割は「助けることを必要としている子ども（self-help needed person）であることに気づいて、保育者として自分が何をしたらいいか、役割の可能性を探ることにある。」
このように「障害児保育」をとらえ、福祉・保育・心理などの知見を総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

様々な障害があることを知り、正しく理解し、助けを必要としている子ども達（要助児）への対応の仕方、考え・行動することのできる保育者となる。

評価方法その他

平常点40％ レポート20％ 試験40％ の割合で評価する
（平常点とは、授業への参加状況や、リアクションペーパーの内容等を総合的に評価するものである。）

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 「障害」のとらえ方－「障害」とは
- 第2週 「障害」のとらえ方－「障害児とは」「要助児の概念」
- 第3週 障害に応じた保育支援 視覚障害Ⅰ＜視覚の発達・視野・色覚・視力＞
- 第4週 障害に応じた保育支援 視覚障害Ⅱ＜援助・ガイドの方法＞
- 第5週 障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅰ＜聞こえのしくみ＞
- 第6週 障害に応じた保育支援 聴覚言語障害Ⅱ＜会話の方法、留意点＞
- 第7週 障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅰ
- 第8週 障害に応じた保育支援 肢体不自由Ⅱ
- 第9週 障害に応じた保育支援 知的障害Ⅰ
- 第10週 障害に応じた保育支援 知的障害Ⅱ
- 第11週 障害に応じた保育支援 発達障害Ⅰ
- 第12週 障害に応じた保育支援 発達障害Ⅱ
- 第13週 障害児を取り巻く保育の現状 ― 保育の現状と課題
- 第14週 遊びや対人関係の援助、食事動作、排泄動作、行為動作などの生活動作に関する具体的な保育技術
- 第15週 家庭への支援、家庭との連携と協力

使用教科書名

- ①「手話ソングブック 〜子どもたちになるために〜」すずき出版 新沢としひこ 中野 佐世子 共著
- ②「ハッピーコミュニケーションのすすめ」中野 佐世子著 書店での取り扱いがないため、講義

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育の基本や保育方法にかかわる基礎的事項について、教科書を基にした講義、演習・実践などを通して授業を行う。保育での遊びや園生活全体における援助等を、幼児期の保育方法の理論と実践の両方から学び、保育者としての実践力を身につけることを目指す。子ども・保護者についての理解や保育者の役割について理解を深める。

学習目標・到達目標

保育の基本や保育方法にかかわる基礎的知識を確認する。環境・子どもの興味関心・発達過程及び発達課題等を総合的に考慮した「方法」の選択、実践ができるようになる。保育現場の多様化も視野に入れたらさらに広く学びを深め、子ども理解や保護者理解の視点から保育者の役割を考え、教育実習・保育実習などの保育の現場で実践力を活かすことができるようになる。

評価方法その他

- ・定期試験(50点)
- ・課題、レポートの提出(30点)
- ・平常点、授業参加態度(20点)

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス、保育方法とは何か
- 2.保育の基本についての復習
- 3.保育方法、指導方法の考え方
- 4.子ども理解からはじまる保育方法
- 5.環境を生かした保育方法
- 6.遊びを通しての総合的な指導方法
- 7.個と集団を生かした保育方法
- 8.子どもにふさわしい園生活と保育形態
- 9.中間のまとめ
- 10.3,4,5歳児の発達の時期に応じた保育方法
- 11.保育の計画・実践・評価
- 12.家庭・地域との連携を生かした保育
- 13.小学校との交流活動のデザイン
- 14.配慮を要する子どもへの保育方法
- 15.学習のまとめ
- 16.定期試験

使用教科書名

- ・「最新保育講座6 保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡辺英則・森上史郎 編(ミネルヴァ書房)
- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

障害児保育を支える基本的理念と障害の概念が歴史的変遷を遂げ、ソーシャルインクルージョンを取り入れていくことを目指している保育の現状があることを理解する。そのうえで、保育者として必要である様々な障害の正しい知識と保育における発達の支援や実際、家族支援、専門機関等の連携などを幅広く学び理解を深め、多様な子どもたちをひとしく大切にし、個々に合わせた配慮がおこなえるよう、基本的態度や技術も含めて学ぶ授業である。

学習目標・到達目標

子どもにかかわる様々な障害への理解を深める
障害のある子ども一人ひとりに合わせた援助の方法、合理的配慮や環境設定の工夫等、保育内容を考えることができる力を身につける。

評価方法その他

平常点40％・レポート20％・定期試験40％
（平常点とは、授業の出席状況、授業への積極性、課題に対する取り組み等を総合的に評価するものである。）

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション、「障害」の捉え方
- 2 障害児保育の歴史
- 3 障害児保育の基本
- 4 障害の理解と保育における発達の支援－肢体不自由児、視覚・聴覚障害児
- 5 障害の理解と保育における発達の支援－知的障害児
- 6 障害の理解と保育における発達の支援－発達障害児（自閉症）
- 7 障害の理解と保育における発達の支援－発達障害児（ADHD, LD）
- 8 医療を要する子どもの理解と保育における発達の支援－病児、病弱児
- 9 障害児保育の実際①生活と遊びの環境
- 10 障害児保育の実際②子ども同士のかわり
- 11 障害児保育の実際③職員間の協働
- 12 家庭との連携、家族への支援
- 13 専門機関との連携
- 14 障害のある子どもを取り巻く保育の現状と課題
- 15 障がい児保育の授業のまとめ
- 16 定期試験

使用教科書名

藤永保（監修）阿部五月他（著）『障害児保育 子どもとともに成長する保育者を目指して』南文書林

NO. G04043001

保育実践演習

中田 範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地域社会が抱える児童にかかわる問題を取り上げ、多面的に分析・考察し、先の見通しを立て、課題解決の可能性を広げる。これらの実践活動を振り返り発表する。
具体的には以下のような点を念頭に置く。
・保育に関する科目横断的な学習となること
・保育に関する現代的課題について取り上げ、現状分析や考察、検討を行う。
・子どもに関する問題解決のための対応や判断について子どもを中心に置きながら考える。
・これまでの自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能の修得に関する

学習目標・到達目標

これまでの児童学科における学びに基づいて、保育、心理、健康、福祉、文化などの視座から、地域社会が抱える児童にかかわる問題に具体的に取り組む。3年次までの経験の積み重ねをもとに、最終学年において、学内だけでなく地域や社会とつながり、貢献へとつながるようにする。児童学の専門的な理論と方法と実践を学ぶ。

評価方法その他

ポスター発表40％ 平常点60％で総合的に評価する。主体的に参加し、取り組むことを期待する。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育実践演習ガイダンス

2～28(次の①～⑧のうち、いずれかまたは全てを選択し、授業回数に入れる。その他、各教員の指導に基づいて子どもにかかわる実践や調査・研究などを組み込むことができる。)

① 子ども体験塾

② 学外への見学、ボランティア

③ 特別公開講座(講座内容が保育分野であったときのみ)

④ 特別授業等の学内での講座

⑤ 森のようちえん

⑥ 乳児グループ

⑦ 幼児グループ

⑧ 子ども体験塾準備

29～30.保育実践演習報告会(ポスターセッション)

使用教科書名

各指導教員の指示による。

NO. G04045001

生活科教育

中田 範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活科で取り扱われている、自分と社会との関わり、自分と自然との関わり、および自分自身と自分の生活についての基本的事項について、学生自身の生活から考えを深め、それを生活科教育の中でどう扱うかについて言及する。
可能な限り、野外や学外での踏査を取り入れ、体験を通して小学校低学年の児童への生活科教育に役立つ知識、概念、技能を習得する。

学習目標・到達目標

1.幼稚園教育から小学校教育への接続の重要性を踏まえ、生活科の意義と内容の基本を理解する。
2.生活科で取り上げている児童と人・自然・社会・家庭などのかかわりについて実践例を踏まえながらその意義と内容を理解する。

評価方法その他

授業内に提出するレポート・課題(40%), 学期末レポート(60%)で総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス

2. 幼稚園教育と小学校教育の接続について

3. 生活科創設の経緯と意義

4. 学校と生活

5. 家庭と生活

6. 地域と生活

7. 8. 公共物や公共施設の利用

9. 季節の変化と生活

10. 自然や物を使った遊び

11. 動植物の飼育・栽培

12. 生活や出来事の交流

13. 自分自身の成長

14 子どもと情報化社会、国際交流

15 子どもと事故、災害、安全教育

使用教科書名

特に指定しない。適宜授業時に紹介する。

NO. G04044001

算数科教育

新海 公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学習指導要領における小学校算数教科の目標および「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の基礎的内容を教える側の立場で学ぶ。まずは、小学校から高校までに学習する算数・数学を系統別に概観し、特に躓きやすい分野について再考する。次に、これらをわかりやすく指導するにあたって教師に必要とされる、より広く深い数学的内容について学習する。さらに、保幼小連携・接続の観点から、就学前算数についても一緒に考える。

学習目標・到達目標

整数、小数と分数、数についての見方や感覚、四則演算、概数と見積り、長さ、様々な量とその単位、量の大きさについての感覚、量の比較と測定、面積や体積、図形についての理解、平面図形、立体図形、図形の構成・性質、図形についての感覚、見取図、展開図、関数の考え、式のもつ意味、統計、数学的活動、就学前算数

評価方法その他

中間テスト(20点)、期末テスト(20点)、平常点(60点)
(平常点は、課題への取り組みと授業への貢献度(授業内での発表や質問)を総合的に評価する)

週 テーマ・授業目標等

1. 新学習指導要領の概略、就学前算数と数学の概論

2. 就学前算数(1)数、量

3. 就学前算数(2)図形、論理

4. 就学前算数(3)(発達段階に応じた連続的な遊びの提案1)

5. 就学前算数(4)(発達段階に応じた連続的な遊びの提案2)

6. 数と計算(1)数の体系、四則演算

7. 数と計算(2)記教法

8. 量と測定(1)単位、

9. 量と測定(2)長さ、面積、体積など

10. 図形(1)平面図形と面積

11. 図形(2)立体図形と体積

12. 数量関係(1)文字式

13. 数量関係(2)表とグラフ

14. 数量関係(3)統計

15. 数学的活動について

16. 期末テスト(またはレポート)

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配布する。

NO. G04046001

音楽科教育

吉永 早苗

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの音楽表現の発達の諸相を知ると同時に、乳幼児期の音楽表現の指導から小学校の音楽科の指導に関する知識と実践を学ぶ。学習指導要領の内容に沿って、音楽科の各領域(歌唱・器楽・鑑賞・音楽づくり)の内容について理解を深める。また、歌唱や器楽、鑑賞等の実践を通して、音楽実践力の向上を図る。必要に応じてピアノの指導も行う。

学習目標・到達目標

子どもの音楽的発達の諸相と、音楽表現の多様性を実感するとともに、教科教育としての音楽科の目標・内容・方法を理解することを目指す。

評価方法その他

意欲・態度30％、発表準備30％、提出物40％で評価する

週 テーマ・授業目標等

1 オリエンテーション

2 聴くということを考えよう

3 サウンドエデュケーション

4 歌う活動(1)／歌うということの意味

5 歌う活動(2)／学校教育における歌唱活動

6 歌う活動(3)／感じる・考える・工夫する歌唱活動

7 合奏を楽しもう(1)／身の回りのモノを使って

8 合奏を楽しもう(2)／音が音楽になっっていくとき

9 合奏を楽しもう(3)／音楽会企画(1)テーマについて

10 音楽をつくろう(1)／音楽会企画(2)選曲について

11 音楽をつくろう(2)／音楽会企画(3)編曲について

12 ミニ音楽発表会

13 発表会ので育まれる資質・能力

14 音楽教育から展開する保幼小連携

15 まとめ・実戦に向けて

使用教科書名

熊鷹陸監修 吉永早苗著「子どもの音感受の世界」明文書林 2016

NO. G04047001

図画工作科教育

立川 泰史

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校図画工作科の指導に必要な基礎的な知識と基本的な技能について、具体的な実技演習を通して学ぶ。
「みる・つくる」活動の実践事例や実際の経験から、図画工作科の特性を理解する。材料や用具に関する指導方法・表現と鑑賞などの領域と授業の具体的な展開について体験的に理解する。

学習目標・到達目標

小学校図画工作科の目標と内容、及び教育的な意義の理解を深め、演習を通して実践的な指導力を培う。
教科の特性を知り、具体的な題材事例に触れることを通して、題材開発や実践的な指導と評価の態度・能力を高める。

評価方法その他

平常点30％、ポートフォリオ（製作過程と成果・反省の記録）20％、期末小論文レポート50％などを総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション（子ども造形表現・子ども文化と美術）
- A表現(1)造形遊びー低学年
- A表現(1)造形遊びー中・高学年
- A表現(2)絵や立体に表すー低学年
- A表現(2)絵や立体に表すー中・高学年
- A表現(2)工作に表す
- デジタル機器・ICT・メディアを活用する造形活動
- からだ造形表現
- ことば造形表現
- コミュニケーション題材と造形表現
- 鑑賞活動(1)相互鑑賞場面の展開と方法
- 鑑賞活動(2)身のまわりの生活や自然・文化的作品を活用する展開と方法
- 子どもの協働場面を生む表現活動
- 領域を超えた表現活動のバリエーション
- 計画と実践について（事例観察と討論）・まとめ

使用教科書名

特になし（授業者が適宜資料を配布する）

NO. G04048001

国語科教育（書写を含む）

宮津 大蔵

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学習指導要領をもとに、小学校国語科の教科構造、目標、内容等について幅広く考察することによって、実際に授業を行うために不可欠な知識や方法論を身につける。

概要：

- ・小学校国語科の教科構造、目標、内容について
- ・国語科各領域の現代的課題について
- ・授業設計の際の課題、留意点について
- ・学習者評価、授業評価における課題、留意点について

学習目標・到達目標

小学校国語科の授業を行うための基本的な事項を理解し、適切な授業計画を立てることができる。

評価方法その他

平常点(40％)レポート(60％)

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:シラバスに基づくガイダンス
- 第2回:小学校国語科の構造
- 第3回:国語科の目標、内容
- 第4回:国語科の教育課程
- 第5回:学習指導要領の変遷
- 第6回:各領域の課題①
- 第7回:各領域の課題②
- 第8回:各領域の課題③
- 第9回:各領域の課題④
- 第10回:国語科授業設計の課題
- 第11回:国語科教材研究の実践
- 第12回:国語科授業観察・評価の課題①
- 第13回:国語科授業観察・評価の課題②
- 第14回:書写指導留意点
- 第15回:まとめと評価

使用教科書名

「小学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省
その他のものは随時、資料を配布する。

NO. G04049001

体育科教育

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもたちの健康の維持・増進、体力の向上及び健康な生活を維持するための基本の習得は小学校体育の目標です。体育科教育の各運動領域の特性について理解し、それぞれの領域の指導方法や展開について学びます。学習指導案の作成と模擬授業の展開から体育科教育の実践力を養います。

学習目標・到達目標

小学校の体育授業を実際に展開できるようになることを目標とします。小学校教育の中では、様々な授業条件の中で子どもたちひとり一人を見据えた授業を展開しなくてはなりません。運動の得意な子ども、あるいは不得意な子どもに対して、教員は体育に対する子どもの「やる気」を起こさせながら授業を展開していかなくてはなりません。多くの模擬授業を経験することで、実際の現場で対応できる能力を修得します。

評価方法その他

授業への出席(40％)、指導案作成と模擬授業の展開(30％)、課題の提出(30％)

週 テーマ・授業目標等

- 小学校教科教育「体育科教育」の目的
- 小学生の成長と体育
- 運動の指導方法と展開例
- 体育科教育の指導計画と指導案の作成
- 基本の運動の理解と指導について 個人運動
- 基本の運動の理解と指導について チーム運動
- 基本の運動の理解と指導について 競技運動
- 指導案作成と授業の展開Ⅰ
- 指導案作成と授業の展開Ⅱ
- 指導案作成と授業の展開Ⅲ
- 指導案作成と授業の展開Ⅳ
- 指導案作成と授業の展開Ⅴ
- 指導案作成と授業の展開Ⅵ
- 指導者と学習者の理解
- まとめ
- テスト

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」

NO. G04050001

社会科教育

尾崎 利生

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校社会科の学習目標と内容を学習指導要領にそって把握し、社会科の基礎的な知識・洞察力を身につけ、社会科に含まれる諸領域に関する教材研究能力を養う。また、各自が教材開発とその工夫を試み、指導案づくりの基礎的な力を涵養することをめざす。

学習目標・到達目標

社会科の基礎的な概念や知識を総合的に身につけ、授業の展開能力を高める。

評価方法その他

教材開発・指導案(60％)、平常点(40％)
(平常点は授業への参加状況、模擬授業への取り組み姿勢等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 社会科教育の目標の概要
- 社会科教育カリキュラム開発の推移
- 地理的内容(1)
- 地理的内容(2)
- 歴史的内容(1)
- 歴史的内容(2)
- 政経的内容(1)
- 政経的内容(2)
- 地域社会の教材化・指導案づくり
- 国土と資源・産業の教材化・指導案づくり
- 日本の歴史と社会の教材化・指導案づくり
- 政経、国際関係の教材化・指導案づくり
- 教材開発および指導案の発表(1)
- 教材開発および指導案の発表(2)
- 教材開発および指導案の発表(3)
- まとめ

使用教科書名

小学校学習指導要領解説 社会編
文部科学省

NO. G04051001

理科教育

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

理科の学習では、子どもが自然に対して興味・関心をもち、問題解決の活動を通して科学的なものの見方や考え方をすることになることが期待されている。小学校理科の目標と各区分の内容を理解し、子どもの自然認識の形成を図る基本的な指導法を習得する。理科嫌い・理科嫌いと言われる最近の子どもにいかに関心をもち、興味を持たせるかについても考える。

学習目標・到達目標

小学校理科の目標と各区分の内容を理解し、子どもの自然認識の形成を図る基本的な考え方を習得する。

評価方法その他

定期試験・レポート・提出物（80％）、平常点（20％）の総合評価（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）。見学时に入館料と交通費がかかる。見学予定の国立科学博物館の入館料は620円（最寄り駅はJR上野駅、東京メトロ上野駅）。見学に参加しないとレポートは書けない。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション
2. 小学校理科の初歩的知識の確認
3. 小学校理科教育の目標と内容
4. 小学校理科全体の目標
5. 学年進行を経験する（植物の成長を例として）
6. 各学年の目標と内容1
7. 各学年の目標と内容2
8. 各学年の目標と内容3
9. 「生物とその環境」ー植物の成長を例としてー
10. 「物質とエネルギー」ー電気と磁気1ー簡単な実験
11. 「物質とエネルギー」ー電気と磁気2ー学年進行と内容
12. 社会教育施設との連携ー博物館の見学の事前準備ー
13. 社会教育施設との連携ー博物館の見学1ー
14. 社会教育施設との連携ー博物館の見学2ー
15. 小学校理科における環境教育

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説・理科編」、文部科学省「小学校学習指導要領解説・総則」、その他、プリントを配付する。

NO. G04054001

算数科教育法

新海 公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

まず、算数科学習指導要領を基に、算数科教育の特質とそのねらいについての理解を深める。次に、教科書や具体的な教材・教具を使用しながら、四つの領域「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」および「数学的活動」の内容と、学年ごとの学習内容を教える立場で概観し、指導方法を考える。最後に、指導案の作成と模擬授業および協議会を通して、指導方法、評価の在り方について学ぶ。

学習目標・到達目標

算数科教育では、学習指導要領に明記されている算数科の目標および各領域の学習内容について理解を深めた。算数科教育法では、教える側の立場で、児童がつまずきやすい学習単元の指導方法を考えるとともに、授業における教材・教具（ICTを含む）の重要な役割を理解し関心を深め、指導案の作成を通して学習指導の要点を確認し、模擬授業を通して実践的な授業力の獲得を目指す。算数科の学習評価や授業の評価活動についても理解する。後半では、特別講師による今

評価方法その他

講義への貢献（30点）
指導案作成と模擬授業と模擬授業への貢献（40点）
最終課題（テストまたはレポート）（30点）

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、算数科の特質と目標、学習指導案の作成
2. 「数と計算」 かけ算、わり算を中心に、模擬授業
3. 「図形」 平面図形・立体図形を中心に、模擬授業
4. 「数と計算」「数量関係」 分数と小数を中心に、模擬授業
5. 「数と計算」 分数学習の実際、模擬授業
6. 「量と測定」 伴って変わる二つの数量の関係、模擬授業
7. 「量と測定」 単位量当たりの大きさ、模擬授業
8. 学習評価の授業評価について
9. 模擬授業と協議会Ⅰ 1年生中心（指導法を中心に）
10. 模擬授業と協議会Ⅱ 2年生中心（指導法を中心に）
11. 模擬授業と協議会Ⅲ 3年生中心（指導法を中心に）
12. 模擬授業と協議会Ⅳ 4年生中心（教材や教具の工夫を中心に）
13. 模擬授業と協議会Ⅵ 5年生中心（教材や教具の工夫を中心に）
14. 特別講師による今日的な課題に対する種々の教育法の提案
15. 模擬授業と協議会Ⅴ 6年生中心（現場の先生の視点から教育評価を中心に）
16. テストまたはレポート

使用教科書名

「小学校学習指導要領解説 算数編」 文部科学省
小学校算数教科書 1, 2, 3, 4, 5, 6年（全6社）

NO. G04053001

社会科教育法

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校の社会科の目標・内容を確認し、子どもたちに如何に授業を行うか、その要点をのべる。また社会科誕生（戦後に誕生した新しい科目である）から現在に至る、すぐれた社会科授業を分析し、遺産を学びたい。

学習目標・到達目標

学習指導要領と実際の教科書の比較ができること。
教科書と実際の授業の違いを比較し、教師の工夫、子どもの認識の深まり、など、具体的に検討できること。
社会科を基礎づける社会科学の基本文献にあたり、教科書の記述そのものを検討できること。

評価方法その他

授業への出席、発言、レポートの提出、試験など総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 社会科教育法、オリエンテーション
2. 社会科の歴史、戦前、
3. 社会科の歴史、戦後の誕生
4. 社会科教育の目標と方法
5. 社会科教育の目標と方法、その2
6. 社会科教育と子ども
7. 社会科教育と地域
8. 社会科教育と文化
9. 社会科教育と道德教育の関連
10. 社会科教育、3年生
11. 社会科教育、4年生
12. 社会科教育、5年生
13. 社会科教育、6年生
14. 社会科教育と評価
15. まとめ
16. 試験

使用教科書名

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説社会編

NO. G04055001

理科教育法

黒田 篤志

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもに対して、理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには、子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では、子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。

学習目標・到達目標

子どもに対して、理科の楽しさや興味・関心をもたせるためには、子どもの考えに基づいた問題が大切となる。本授業では、子どもの問題解決的な学習を構成できる資質・能力を身につけることを目的とする。初等理科での授業実践に必要な基礎的内容・方法を学ぶ授業内容となる。

評価方法その他

授業でのポートフォリオ作成（30％）、平常点（30％）、事後テスト（40％）の結果より評価する。（平常点は、授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション、小学校理科の歴史と学習指導要領。
2. 理科の目標について学ぶ。
3. 科学概念、子どもの科学概念について学ぶ。
4. 小学校理科授業の実践・問題解決的な学習と効果的な導入について学ぶ。
5. 小学校理科授業の実践・明確な見通しをもたせる工夫について考える。
6. 小学校理科授業の実践・主体的な学習について考える。
7. 小学校理科授業の実践・安全な観察・実験について学ぶ。
8. 小学校理科授業の実践・多様な学習形態について学ぶ。
9. 小学校理科授業の実践・効果的な板書について考える。
10. 小学校理科授業の実践・ノート指導・発問について考える。
11. 小学校理科授業の実践・理科の評価について考える。
12. 理科器具について学ぶ。
13. 理科指導案について学ぶ。
14. 授業ビデオの視聴、全体の協議により理科授業の定型を学ぶ。
15. 小テスト・全講義のまとめをする。

使用教科書名

森本信也・森藤義孝著「小学校理科の指導」第2版、建帛社 2018年4月に改訂版が出版される。

NO. G04056001

生活科教育法

池田 仁人

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生活科の成果と課題の検討、授業参観（ビデオによる）を通して授業構成原理を探索し、生活科の授業を計画、実施するために必要な力量を育成するとともに授業技術の向上はかる。また、個人 またはグループで学習指導案を作成し、模擬授業を展開する事を通して生活科授業実践のための指導力を育成する。

学習目標・到達目標

- ・小学校教育における生活科の役割を理解し、生活科授業を構成する力を身につける。
- ・生活科の活動計画を作成する力を身につける。
- ・生活科における子どもの見方・支援（評価）の仕方について理解する。

評価方法その他

授業参加態度20％
指導案60％
模擬授業20％

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 生活科の理念と目標 生活科で育てたい子ども像や生活科の役割
- 第2週 生活科の現状と課題 現在の生活科が置かれている状況、問題点
- 第3週 生活科の授業例 生活の理念に沿った学習展開の例を紹介
- 第4週 生活科の授業の見方と子ども理解 授業の留意点や子どもの見取り方
- 第5週 授業の実際 評価の方法、授業展開上の疑問点などを整理
- 第6週 生活科の指導計画① 教材開発から単元計画の立て方について
- 第7週 生活科の指導計画② 単元目標の設定の仕方、子どもと教材との関わり
- 第8週 生活科の指導計画③ 本時の授業計画案作りの仕方について
- 第9週 指導計画の実際① 各グループ（若しくは個人）で授業計画を立案1
- 第10週 指導計画の実際② 各グループ（若しくは個人）で授業計画を立案2
- 第11週 指導計画の実際③ 教材製作、模擬授業準備
- 第12週 模擬授業と討論①
- 第13週 模擬授業と討論②
- 第14週 模擬授業と討論③
- 第15週 まとめ 生活科を中心に据えた低学年学級経営などについて

使用教科書名

小学校学習指導要領解説－生活編－文部科学省

NO. G04058001

図画工作科教育法

立川 泰史

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校「図画工作科」の指導・評価に必要な知識を学習し、具体的な指導方法として模擬授業を経験する。
模擬授業では教科指導案、授業の感想カードなどを作成し、授業の準備、進め方を実践的に経験する。
評価の観点、指導案の趣旨・内容・作成方法、授業実践などについてグループ討論し、反省の実践者としての姿勢や視点を修得する。

学習目標・到達目標

小学校図画工作科の指導・評価のために必要な基礎的な知識、基本的な実践方法を理解する。
「表現」においては、豊かなイメージの創造とそれを表現に結びつける技法との関連を明らかにし、実際の制作や活動を通して体験的に学習する。
「鑑賞」においては、実際の教材を用いて、その背景となる美術史や鑑賞の視点等を学ぶ。
代表的な美術教育理論や歴史の変遷を知り、現代的な教育課題に応える造形教育の観点を学修

評価方法その他

平常点30％、模擬授業20％、期末小論レポート50％
平常点には積極的な態度や学習成果の振り返り課題などを含み、上記を総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション（図画工作科の今日的課題や動向）
2. 子どもを取り巻く問題と造形活動（子どもの発達と造形表現）
3. 図画工作科・美術科教育の理念と変遷
4. 図画工作科教育の目標と内容（学習指導要領と期待する児童像）
5. 内容領域と指導方法（1）造形遊び
6. 内容領域と指導方法（2）絵に表す
7. 内容領域と指導方法（3）立体に表す
8. 内容領域と指導方法（4）工作に表す
9. 内容領域と指導方法（5）鑑賞活動
10. 図画工作科学習の評価活動（教師評価・自己評価・相互評価）
11. 学習指導案の基礎的事項と作成
12. 模擬授業と討論
13. 模擬授業と討論
14. 模擬授業と討論
15. 模擬授業と討論・まとめ

使用教科書名

特になし（資料を適宜配布する）

NO. G04057001

音楽科教育法

吉永 早苗

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された小学校音楽科の学習内容について目標・内容・指導計画等と対応させながら理解を深める。様々な学習理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指し、子どもにとって実りある授業づくりを探究する。

学習目標・到達目標

- ・小学校音楽科学習指導要領について理解する。
- ・子どもに伝えたい音楽を探究する。
- ・子どもに伝えたい音楽の基礎基本を理解する。
- ・音楽の授業を構成し実践するための授業観を形成する。

評価方法その他

意欲態度30％ 小テスト20％ 提出物（レポート）50％ で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 学習指導要領解説①（日本の音楽教育の歴史、教育目標・育成を目指す資質能力）
- 第2回 学習指導要領解説②（小学校音楽科学習指導要領に関する全体構造の理解）
- 第3回 音楽的発達・保幼小連携としての音楽の役割（低学年における学習内容と指導上の留意点）
- 第4回 小学校音楽科教育に関する実践研究の動向
- 第5回 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた教材研究① 歌唱表現・器楽表現
- 第6回 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた教材研究② 鑑賞
- 第7回 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた教材研究③ 音楽づくり
- 第8回 日本の伝統音楽の理解
- 第9回 音楽科におけるインクルーシブ教育
- 第10回 音楽の授業づくり1（学習指導案の構成の理解）
- 第11回 音楽の授業づくり2（情報機器の活用と学習指導案の作成）
- 第12回 音楽の授業づくり3（模擬授業とその振り返り：低学年）
- 第13回 音楽の授業づくり4（模擬授業とその振り返り：中学年）
- 第14回 音楽の授業づくり5（模擬授業とその振り返り：高学年）
- 第15回 音楽の授業づくり6（評価について）

使用教科書名

初等科音楽教育研究会（2018）『最新 初等科音楽教育法 2017年告示』小学校学習指導要領「準拠」音楽之友社

NO. G04059001

家庭科教育法

海野 りつ子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・小学校家庭科教育の歴史と現状を踏まえ、教科としての位置づけ、意義、目標、指導内容について学ぶ。
・子どもたちを取り巻く生活の状況を見つめ、これからの家庭科教育の在り方も視野に入れて学習する。
・学習指導案の作成を通して、家庭科の指導を行うための実践力を養う。

学習目標・到達目標

- ・学習指導要領に基づき、家庭科教育の意義と役割を理解し、解説できる。
- ・家庭科の指導を行うための知識、技能などの実践力を身につける。
- ・子どもの実態に合わせた授業計画、指導案を作成し、教師としての資質の向上に努めることができる。

評価方法その他

- ・授業後に書いてもらうミニレポート 30％
- ・授業や議論の積極的参加、作品の提出20％
- ・学習指導案 20％
- ・学習目標・到達目標の達成を記述（定期試験）30％

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス（授業計画、評価等）、家庭科教育の今日的な意義や課題
2. 食生活に関する基礎・基本1 ごはんのみそ汁実習計画
3. 食生活に関する基礎・基本2 調理実習
4. 食生活に関する基礎・基本3 食生活と生活リズム
5. 消費と環境に関する基礎・基本1 エコたわし作り
6. 衣生活に関する基礎・基本1 衣服の役割
7. 衣生活に関する基礎・基本2 衣服の手入れ、洗濯
8. 衣生活に関する基礎・基本3 授業に役立つ作品づくり
9. 住生活に関する基礎・基本1 住まいの役割と機能
10. 住生活に関する基礎・基本2 整理・整頓、掃除
11. 住生活に関する基礎・基本3 災害に備えて
12. 家族・家庭に関する基礎・基本1 子どもを取り巻く家族・家庭の状況
13. 家族・家庭に関する基礎・基本2 家庭の仕事
14. 環境および消費に関する基礎・基本2 消費者教育を考える
15. 環境および消費に関する基礎・基本3 持続可能な社会とは
16. 定期試験

使用教科書名

小学校家庭科教科書「わたしたちの家庭科5・6」開隆堂出版

NO. G04060001

体育科教育法

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校における生きる力を育成する体育を中心として、体育科の教科目標を中心に取り扱う。児童の発育・発達に応じた教材の適切な取り上げ方、指導法について代表的な教材を基に小学校体育科の目的・目標、学習内容、方法、評価等についての基本的理論を学ぶ。さらに学習指導要領と指導書の内容について取り上げ、小学校における体育科の意義を考える。また、小学校体育の各領域の内容を指導できることを目指し、指導計画及び指導方法についても学ぶ。

学習目標・到達目標

運動・スポーツの研究成果はめざましく、小学校教員もそれらの多くに関心を示し、より教育効果の期待される教材や教育方法を積極的に取り入れていくことが重要であることを理解する。さらに、小学校における体育教材を扱う上で、しっかりした体育の理解を修得する。

評価方法その他

平常点(40%)、指導案作成と模擬授業の展開(30%)、課題の提出(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 教科としての体育の歴史と意義
- 第2週 発達と体育(低学年における目標と内容)
- 第3週 発達と体育(中学年における目標と内容)
- 第4週 発達と体育(高学年における目標と内容)
- 第5週 体育における指導と学習過程(発表)
- 第6週 体育における教材分析の方法(発表)
- 第7週 対象の理解と運動教材の選択(発表)
- 第8週 体育授業の留意点と展開(発表)
- 第9週 授業運営の留意点(発表)
- 第10週 体育における評価のあり方(発表)
- 第11週 運動の測定方法
- 第12週 指導計画の立案と討論
- 第13週 模擬授業の展開と討論
- 第14週 授業運営の課題と対策
- 第15週 まとめ
- 第16週 テスト

使用教科書名

文部科学省「小学校学習指導要領解説-体育編-」

NO. G04062001

小児保健Ⅱ

松井 知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援にいかに関わっていくことができるかを考えることを目標としている。

学習目標・到達目標

小児保健では、小児期における心身両面の成長・発達の理論を学び、それを理解した上で自らは健康の保持増進の支援にいかに関わっていくことができるかを考えることを目標としている。

評価方法その他

試験(60%)、授業への取り組み(10%)、課題レポート(30%)、その他を総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 健康の定義、健康・不健康とは(総論)
2. 生活環境と心身の健康1 小児期(新生児期、乳幼児期、学童期)
3. 生活環境と心身の健康2 青年期(青年期の課題)
4. 事故と応急処置
5. 感染症と予防接種
6. 感染症ガイドライン
7. 小児期の病気:感染症(発疹症)、消化器系疾患
8. 小児期の病気:呼吸循環器系疾患
9. 小児期の病気:その他の疾患
10. 小児の病気:神経精神疾患(ダウン症を含む)
11. 小児の病気:心身症、養育者との関係
12. 小児の病気:学習障害・発達障害など
13. 小児の病気:悪性腫瘍・川崎病など・母子保健
14. 母子保健、子育て・家庭の問題
15. 保健行政
16. 試験

使用教科書名

教科書「保育の中の保健」 萌文書林
配布するオリジナルテキスト

NO. G04063001

小児保健演習 (PA)

田中 和香菜

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの保健の講義で学んだ知識を基に、今日の子どもたちを取り巻く様々な環境に目を向け、保育者として子どもの健康を保持増進するために必要な技術や小児期に多い疾病への対応、事故防止対策等についての具体的な対応法について学びます。

子どもの発育発達の様子やその特徴の理解を体験的に深め、心身の健康を評価できるようになることを目標とし、また、集団保育において保育者が行うべき健康管理・安全管理とともに、子どもたちが自ら率先して健康で安全な生活を送ることができるようになるための支援についても考えます。

学習目標・到達目標

・子どもの発育の観察と評価、日々の健康状態の観察、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境設備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の場で実践できる能力を身につけます。
・子どもと保護者に健康相談と健康教育するための基礎的知識、技術を習得します。

評価方法その他

学期末試験(60%)、授業への参加姿勢(20%)、課題等(20%)
各々の点数を合計した総合評価ですが、合格には筆記試験が6割以上できていることが条件です。

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス、乳幼児の養護(1)だっこ
2. 乳幼児の養護(2)おむつ交換、衣服の着脱
3. 身体発育の観察と評価
4. 乳幼児の養護(3)おんぶ
5. 保育における健康観察
6. 健康診断
7. 乳幼児の養護(4)沐浴
8. 乳幼児の養護(5)歯みがき指導
9. 病気の症状とケア、感染症と感染症発生時の対応
10. 保育環境と安全対策、三角巾の結び方
11. 応急手当(1)きずの種類と応急手当
12. 保育と健康教育
13. 応急手当(2)三角巾、包帯法
14. 応急手当(3)一次救命処置
15. 個別の配慮を必要とする子どもへの対応、まとめ
16. 試験

使用教科書名

「これだけはおきたい! 保育者のための子どもの保健Ⅱ」(鈴木美枝子編著、創成社)

NO. G04064001

子どもの食と栄養

太田 百合子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳児期、幼児期、学童期、産前産後の食事、小児期の疾病の特徴と食事、児童福祉施設の給食の役割などDVD視聴や献立作成を通して実践力を身に付け、食育を行うための能力を習得する。実習は、理論を生かした調乳、離乳食、幼児食、成人食等の調理実習を行う。食育を題材にした教材づくりは発表を通して実践力を身に付ける。

学習目標・到達目標

栄養素や食事摂取基準の活用について学び、理想的な食生活のあり方を知る。子どもの発育・発達に即した栄養に関する基礎知識と実践を学び、栄養指導や食育活動を行う能力を習得する。

評価方法その他

平常点および提出物(40%)、試験(60%)による総合評価。
ただし定期試験において6割以上取れていること。平常点は受講態度、調理実習や演習への参加状況等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 総論 何者これから学ぶのか
 2. 子どもの栄養と食生活の意義
 3. 子どもの発育・発達と栄養
 4. 栄養に関する基礎知識
 5. 栄養に関する基礎知識の応用
 6. 乳児期の食生活 授乳と離乳食
 7. 離乳期の食生活
 8. 幼児期の食生活
 9. 幼児期の食の悩み
 10. 学童期、思春期の食生活
 11. 生涯発達と食生活、産前産後の食生活
 12. 特別な配慮を要する食事、食物アレルギー
 13. 特別な配慮を要する食事、障がい児
 14. 家庭や児童養護施設における食生活
 15. 食育発表とまとめ
 16. 定期試験
- 実習
1. 食事カードによるバランスのとれた食事、成長発達の評価
 2. 成人女性の食事調理
 3. 調乳、離乳食調理、ベビーフード試食
 4. 幼児食、おやつ調理
 5. 幼児弁当作り
 6. 行事食調理
 7. 食育のための媒体作り

使用教科書名

新版子どもの食生活 上田玲子編著(ななみ書房)

NO. G04065001	児童体育演習(PA)	金子 和正
---------------	------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間の発育・発達と運動との関連について幼児期・児童期を中心に考察していく。指導者は、子どもが自発的にからだを使って遊ぶに気づき、その子どもの遊びの充実と展開に関わる。子どものからだを使った遊びを尊重し、それが豊かに展開するようにかかわるだけでなく、新たな場面で新たな教材を提供するなど、子どもの身体能力や運動技能を高める道筋をさまざまに工夫する。子どもが自由にのびのびと活動する身体表現の楽しさを共有しつつも、指導者としての技術も習得する。

学習目標・到達目標

子どもたちと一緒に身体を動かす喜び、楽しさを修得する。子どもに対して運動やスポーツは無計画になされるのではなく、子どもの体調・環境・季節等多くの条件を考えなくてはならない。このような要因を考慮して、子どもの体育教材を考えられる保育士になることを目的とする。

評価方法その他

授業への2/3以上の出席を基本として、平常点50％、課題・レポートの内容50％

週 テーマ・授業目標等

- 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ（集団で行うアイスブレイクゲーム）
- 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ（集団から少人数グループで行う協力ゲーム）
- 室内を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ（ボール運動、マット運動、縄を用いた運動）
- 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅰ（芝地や平地で行うレクリエーションゲーム）
- 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅱ（ボールを使ったスポーティーなゲーム）
- 屋外を使った運動遊びの実践と指導法Ⅲ（ボールを蹴ったり、投げたりするスポーツゲーム）
- 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅰ（林を使った野外ゲーム）
- 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅱ（追跡・ハイキング等自然を生かせるゲーム）
- 自然環境を利用した運動遊びの実践と指導法Ⅲ（自然環境を考えるゲーム）
- 運動教材を用いた運動Ⅰ（フープ・ボール・縄を用いて屋内・屋外で運動する）
- 運動教材を用いた運動Ⅱ（様々な運動を運動会様式に配列し実践する）
- 児童の運動遊びの創造
- 児童の運動遊びの指導と安全・管理の方法
- 幼児の運動遊びの評価方法
- まとめ
- テスト

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04068001	児童とことば	和田 美香
---------------	--------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童期の子どもの言葉の発達を理解し、その時期の言語生活を豊かにするための環境について考える。また、幼児期からの繋がりを意識した上で、小学校以降の強化の学習をしていくための基礎としての言葉についても考える。「言葉による思考の深まり」「言葉と人間関係」などのテーマごとに教材研究を行い、理解を深めていく。

学習目標・到達目標

児童期の子どもの言葉について理解を深め、具体的な実践活動ができる力をつける。

評価方法その他

平常点(50％)、定期試験(50％)
（平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- 言葉の力の基礎、基本について
- 児童期の子どもの言葉の発達(ディスコース構造の発達)
- 児童期の子どもの言葉の発達(読み書きの発達)
- 言葉による思考の深まり1(リーフレット作成の実践活動から)
- 言葉による思考の深まり2(説明書作成の実践活動から)
- 言葉による表現活動1(帯づくりの活動から)
- 言葉による表現活動2(紹介カード作りの実践活動から)
- 物語を味わう1(一人一人の感じ方の違いを感じる)
- 物語を味わう2(ポップを作る)
- 言葉と人間関係(おわかれの手紙)
- 伝え方の効果について(パタプライマップ)
- 言葉とイメージ(絵文字)
- 評論文を読む
- ブックトーク
- 小学校教育の中の読書
- 定期試験

使用教科書名

『のはらうた1』工藤直子 電話屋

NO. G04067001	野外活動論（児童と野外環境）	金子 和正
---------------	----------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの成長にとって自然環境の果たす役割は極めて重要です。自然の中で子どもたちは他者との関わり、自己への認識、自然との関わりをそれぞれの発育・発達段階のちょうど良いペースで学んでいきます。自然環境がもつ多くの魅力と、子どもの成長にとって重要な要素となる野外環境について内外の知見や身近な実践例から学んでいきます。

学習目標・到達目標

「自然環境が子どもの成長過程において重要な働きをしていることを理解する。『生きる力』を生み出す『感動体験』について、子どもたちが自然環境の豊かな中ではぐくまれることを知る。同時に野外環境の消えゆく今日的現状についても理解し、個人で努力できる環境保護について考え、実践できる能力を身につける。

評価方法その他

授業に出席し考え、発言することを重要視します。授業の中で何回かのレポートの提出を求めます。評価は平常点(50％)、レポート点(50％)とし、授業への積極的参加を望みます。

週 テーマ・授業目標等

- 授業ガイダンス
- 子どもの遊びと成長
- 子どもの外遊びと環境
- 野外環境と野外教育
- 野外教育と環境教育
- 環境教育と冒険教育
- 野外教育の実践例から学ぶⅠ（日本の場合）
- 野外教育の実践例から学ぶⅡ（アメリカからの報告）
- 野外教育と安全教育
- 野外教育と指導者
- 野外環境を用いたプログラムの企画Ⅰ（短期野外教育プログラムを考える）
- 野外環境を用いたプログラムの企画Ⅱ（長期の野外教育プログラムを考える）
- アメリカの野外教育に学ぶ
- 日本型野外環境と子どもの関わり
- まとめ
- テスト

使用教科書名

NO. G04069001	児童と音楽A(PA)	吉永 早苗
---------------	------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業の目的は、保育者として子どもの様々な音楽的な表現を受け止め、育むために必要な知識や技術の基礎を身につけることである。前期は、まずリズム・音階・和音などの楽典に関する学習を中心に行う。また、子どもの歌の歌唱、伴奏法、器楽アンサンブル、編曲や創作など、保育の現場で必要となる技術を体験しながら身につける。さらに手や声など自らの身体を柔軟に使った音楽表現や、身のまわりのものを用いた音楽活動を楽しみながら、音楽表現の様々な可能性を実感する。続いて後期は、楽譜の読み方や音楽理論について随時復習しながら、各自のレベルに応じたピアノ曲に取り組み、ピアノ演奏の基本的な技術を身につける。また、子どもの歌の伴奏や、

学習目標・到達目標

音楽理論の基礎的知識の習得と、音楽表現への応用を目指す。具体的には、リズム・音階・和声などの基礎を学び、簡単な楽譜をスムーズに読んだり、演奏したりできるようにすることを目指す。また、保育の現場で必要となる弾き歌いの基本的技術の習得を目指す。

評価方法その他

出席30％、試験50％、参加態度および授業内容に関連した課題20％で評価する

週 テーマ・授業目標等

- 前期1 オリエンテーション　＋　五線と鍵盤
- 前期2 リズムと拍子 (1)リズムを読んでみよう
- 前期3 リズムと拍子 (2)ボディパーカッションで遊ぼう
- 前期4 音階と調 (1)わらべうたや民謡などの音階
- 前期5 音階と調 (2)長音階と短音階
- 前期6 和音と伴奏 (1)主要三和音
- 前期7 和音と伴奏 (2)いろいろな伴奏パターン
- 前期8 ピアノ弾き歌い基礎 (1)
- 前期9 歌唱の基礎 (1)
- 前期10 ピアノ弾き歌い基礎 (2)
- 前期11 歌唱の基礎 (2)
- 前期12 ピアノ弾き歌い基礎 (3)
- 前期13 歌唱の基礎 (3)
- 前期14 弾き歌い課題曲 (1)
- 前期15 弾き歌い課題曲 (2)
- 前期16 筆記試験
- 後期1 オリエンテーション
- 後期2 弾き歌い曲 (ピアノ) ①
- 後期3 弾き歌い曲 (ピアノ) ②
- 後期4 弾き歌い曲 (歌唱) ①
- 後期5 弾き歌い曲 (ピアノ) ③
- 後期6 弾き歌い曲 (ピアノ) ④
- 後期7 弾き歌い曲 (歌唱) ②
- 後期8 弾き歌い曲 (ピアノ) ⑤

使用教科書名

島田和昭・高倉秋子 編(1998)『うたってひいて童謡びつこりーの』共同音楽出版社

NO. G04070001	児童と音楽B(PA)	吉永 早苗
---------------	------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育の現場で、音楽活動を充実させ、子どもとともに音楽を楽しむための応用力を身につけることを目標とする。
授業は、主にピアノ・弾き歌いの実技レッスン（個人別）を行い、必要に応じて随時、音楽理論その他に関する復習を行う。

学習目標・到達目標

保育者として必要な弾き歌いの技能の向上と、レパートリーの充実を目指す。

評価方法その他

出席・授業への参加態度50％、発表内容50％で評価する

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション（課題曲決め）
- 弾き歌い曲（ピアノ）①
- 弾き歌い曲（ピアノ）②
- 弾き歌い曲（歌唱）①
- 弾き歌い曲（ピアノ）③
- 弾き歌い曲（ピアノ）④
- 弾き歌い曲（歌唱）②
- 弾き歌い曲（ピアノ）⑤
- 弾き歌い曲（ピアノ）⑥
- 弾き歌い曲（歌唱）③
- 弾き歌い曲（ピアノ）⑦
- 弾き歌い曲（ピアノ）⑧
- 弾き歌い曲（歌唱）④
- 弾き歌い曲（ピアノ）⑨
- 弾き歌い曲（ピアノ）⑩
- 弾き歌い曲 発表

使用教科書名

NO. G04071001	児童と身体表現	荒金 幸子
---------------	---------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもが身体やその動きを通して表現する活動に気づき、その指導方法について学ぶ。子どものイメージ・感性・意欲を育てる為の運動遊びや身体表現を楽しむ為の技術・環境づくりの方法について、また児童の福祉増進を目的とした運動遊び等の展開方法、野外活動を広く展開する為の指導の基本・要点を理解する。子どもたちが生き生きとした生活を送れるよう、運動遊びの教育的価値を語れるよう、表現の楽しさを共有しながら、自らの身体表現力向上にむけても十分動きを楽しむことが期待される。
履修条件：上手・下手を気にせず、子どもの心でリズムにのって楽しくからだを動か

学習目標・到達目標

- ・自ら動きを楽しむことができる。
- ・子どもにとっての身体表現の意義を理解できる。
- ・いろいろな表現を体験し、子ども達にあった工夫や指導ができる。

評価方法その他

平常点（70％）、提出物（30％）とし総合的に判断する。
平常点は実技テスト、授業への取り組み方（積極的性、協調性、安全性）とする。

週 テーマ・授業目標等

- 親子で楽しむ体力・運動能力チェック／コミュニケーション遊び
- アクティブコミュニケーション（からだを動かすことの楽しさを体験しよう）
- アクティブコミュニケーション（仲間とからだを動かすことの意味を探ろう）
- さまざまな動きに触れよう
- からだの動きを確認してみよう
- リズムに合わせてからだを動かしてみよう
- 身近にある用具をいかに動いてみよう
- 縄・輪を使って動いてみよう
- ボールを使って動いてみよう
- 運動会作品の紹介
- 運動会作品にチャレンジしよう
- 運動会作品を工夫してみよう
- 運動会作品を発表しあおう
- 実践～指導法について（言葉、動き、リズム）
- まとめ：笑顔の素敵な先生を目指して

使用教科書名

必要に応じて配布する。

NO. G04072001	児童と造形（PA）	立川 泰史
---------------	-----------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもの遊びや物語から広がる造形表現の特色や意味について、具体的な題材事例を通して体験的に学ぶ。
さまざまな材料や用具に触れる実技演習を通して、発達にそった造形活動の楽しさを知り、それらとの出会い方、指導の内容と方法を理解する。
造形遊びや場所づくり、体全体でかかわる表現や伝える表現などを体験しながら、表現するからだやことばの生かし方を考える。
保育環境の装飾や掲示物について活用場面を設定し、伝えたいことや美しさを考えた表し方を体験する。

学習目標・到達目標

幼児の豊かな造形活動を支えるために必要な造形表現の基礎的知識と基本的技能を習得する。
幼児の心身の発達に伴う造形表現の特徴や意味、変容と支援の方法を理解する。
伝わりやすく美しい壁面・環境装飾などの意味をとらえ、表し方の知識や技法を体験的に習得する。
グループで創作物語による造形表現を製作することを通して、保育場面での活用方法や意義を理解する。

評価方法その他

平常点20％・提出物30％・期末小論レポート50％
平常点は、授業での取り組み方、グループ活動での積極性などをもとに総合的に判断する。
提出物は、授業で目標にした内容の理解や基礎技能の修得を中心に総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 子どもの造形表現と保育の意義
- 「形や色」とふれる出会い
- 「描画材や用具」にふれる出会い
- 「身近な材料」にふれる出会い
- 子どもの育ちと造形表現
- さまざまな表し方と活用（1）技法や行為から
- さまざまな表し方と活用（2）感覚や見立てから
- 季節を感じる表現と壁面装飾
- 遊びから生まれる造形表現
- 人とつながる造形表現
- からだで生み出す造形表現
- かたまりから生まれる造形表現
- 語りつがれるおはなしづくり（1）構想と製作
- 語りつがれるおはなしづくり（2）製作と演じ方
- 物語表現の発表・まとめ

使用教科書名

特になし（毎回の授業にて資料を配布する）

NO. G04073001	保育表現技術	桜井 郁子
---------------	--------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・「情報とは何か？表現とは何か？」を考える。
- ・情報の読み取り方、伝え方の学習。
- ・情報伝達能力とコミュニケーション能力開発。
- ・独自の発想を大切に、創作童話を書く。
- ・児童文学を読み深い読解力を開発する。
- ・ワークショップ形式の授業では、グループメンバーの多様性を尊重する。

学習目標・到達目標

- ・「伝わるように伝える」事が出来る表現力を身につける。
- ・アナウンサーメソッドの発声・滑舌練習で「明瞭で良く通る声」を作る。
- ・言葉だけではなく全身で情報発信するスキルを磨く。
- ・子どもたちを惹きつける朗読のスキルを習得。
- ・オリジナルの創作童話を書ける。

評価方法その他

- ・試験は行わない。
- ・成績基準①授業にどれだけ集中したか？
- ・同②仲間と協力し積極的に課題に取り組んだか？
- ・同③独創的な発想でモノづくりが出来たか？

週 テーマ・授業目標等

- 情報伝達技術1 印象的な表現で自己紹介
- 情報伝達技術2 言葉を使わず伝達 多様性の体験
- 情報伝達技術3 自己体験を文章化して発表
- 情報伝達技術4 他者の体験を理解し評価する
- 読み聞かせ基礎1 発声・滑舌訓練
- 読み聞かせ基礎2 朗読技術習得
- 読み聞かせ基礎3 聴衆を巻き込む朗読技術取得
- 表現技術1 グループで朗読劇発表 構想と推敲
- 表現技術2 グループで朗読劇発表 上演と評価
- 保育教材研究1 絵画をもとに創作童話をつくる
- 保育教材研究2 各自の創作童話を発表し評価
- 演出技術1 グループで創作朗読劇をつくる
- 演出技術2 創作朗読劇 脚本演出の工夫
- 演出技術3 創作朗読劇 情報機器の演劇的利用
- 情報伝達の成果発表 インタビューと情報処理技術

使用教科書名

随時配付

NO. G04074001

英語アクティビティ

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

英語圏の伝承童話であるマザーグースの歌を実際に歌って覚える。同時に歌に伴うあそびを覚え、子どもたちに教えられるレベルをめざす。

学習目標・到達目標

英語圏の伝承童話であるマザーグースの歌とあそびを覚え、海外の子どものあそび歌の世界を理解する。

評価方法その他

平常点50％、試験50％で評価する。平常点は授業への参加態度から総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- マザーグース概説、DVD鑑賞
- Bingo, Eensy Weensy Spider I'm a Little Teapot
- Head Shoulders Knees and Toes, Hickory Dickory Dock, Hot Cross Buns
- The Wheels on the Bus, Humpty Dumpty, If You're Happy and You Know It
- Hokey Pokey, Jack and Jill, John Brown's Baby
- The Grand Old Duke of York, Old MacDonald Had a Farm, Where Is Thumbkin?
- Pat-a-Cake Pat-a-Cake, Ten Little Monkeys, Row Row Row Your Boat
- Twinkle Twinkle Little Star, Polly Put the Kettle On, One Two Three Four Five!
- Five Little Ducks, One Potato Two Potato, A Sailor Went to Sea
- Teddy Bear Teddy Bear, This Old Man, Rock-a-Bye-Baby
- Sing a Song of Six Pence, This Little Pig Went to Market, One Two Buckle My Shoe
- Here We Go Round the Mulberry Bush, Simple Simon, Pease Porridge Hot
- My Mother Said That I Never Should, Eeny Meeny Miny Mo, London Bridge
- The Big Ship Sails, The First Day of Christmas
- 復習
- 試験

使用教科書名

原幸子(2001)『てあそび英語うた』民衆社

NO. G04075001

児童と外国語A

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業では、小学校での外国語活動や新設される外国語科の教育内容、第二言語習得理論と外国語教授法、指導案の作成、英語音声の知識など、小学校で児童に英語を教えるための知識について学習する。

学習目標・到達目標

小学校で実施される外国語活動(英語)の進め方について学び、自信を持って英語の指導ができるようになることを目指す。

評価方法その他

平常点(出席および授業中の業績)50％、試験50％で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 小学校における外国語教育の理論と背景
- 新学習指導要領「外国語活動」および「外国語科」
- 第二言語習得理論と基本的な外国語教授法
- 小学校外国語教育の進め方
- 小学校外国語活動教材研究 Let's Try!①
- 小学校外国語活動教材研究 Let's Try!②
- 小学校外国語科教材研究 We Can!①
- 小学校外国語科教材研究 We Can!②
- 小学校外国語活動指導案作成
- 小学校外国語活動指導案発表
- 小学校外国語科指導案作成
- 小学校外国語科指導案発表
- 英語の発音:母音
- 英語の発音:子音
- まとめ、復習
- 試験

使用教科書名

岡秀夫、金森強(2012)『小学校外国語活動の進め方ー「ことばの教育」としてー』成美堂

NO. G04076001

児童と外国語B

畝部 典子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、「児童と外国語A」をさらに発展させ、小学校で外国語を指導する上で必要な「英語」について実践的に学ぶ。具体的には、教室で使う英語、基本的な英語活動や指導法、日本文化を英語で紹介する活動等、小学校で英語を教える上で必要な英語力を身につけることを目指す。

学習目標・到達目標

小学校での外国語活動や新設される外国語科において、自信を持って英語の指導ができるようになることを目指す。

評価方法その他

平常点(出席と授業中の業績)50％、試験50％で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- Unit 1 ALTの初訪問
- Unit 2 ALTとのコミュニケーション
- Unit 3 学校給食
- Unit 4 休み時間
- Unit 5 最初の授業
- Unit 6 数を数える1
- Unit 7 数を数える2
- Unit 8 振り回り
- Unit 9 幼稚園でのアクティビティ
- Unit 10 生活科・理科を取り入れて
- Unit 11 家庭科を取り入れて
- Unit 12 社会科を取り入れて
- Unit 13 日本文化の紹介
- Unit 14 避難訓練
- Unit 15 卒業
- 試験

使用教科書名

相利子州子他(2016)『子どもに教える先生のための英語一会話から授業までー』成美堂

NO. G04077001

児童と文学

原 善

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・各回に取り上げる具体的な作品についての精緻な読解に到達すること。
・児童文学をめぐる毎週のテーマについて、自分なりの理解を深めること。
・毎週のテーマに関わる作品を探して実際に自分で読むことを重ねる中で、自身で推薦図書を選択できるようになること。

学習目標・到達目標

幼児期から学童期にある子どもを主な読者対象とし、その年齢の子どもの描いた児童文学作品を取りあげ、その内容、意義について考究する。絵本、童話作品、伝承文学などを、子どもの要求や発達に即した表現という観点から検証するとともに、文学作品との関わりの中で、子どもに何が育まれていくのかについて探求する。その上で、保育・教育者として子どもの年齢にふさわしい文学作品を選択出来るようになることを目指す。

評価方法その他

・平常点…(60%)
・定期試験及びレポート等…(40%)
(平常点は授業への参加状況・随時行う課題の得点などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- ガイドランス(言葉と生命について)
・宮沢賢治「おきなぐさ」読解
- 児童文学のはじまり
・巖谷小波「こがね丸」読解
- 子供の純粋さ
・志賀直哉「清兵衛と瓢箪」読解
- 子供の純粋さへの幻想
・川端康成「バツと鈴虫」読解
- 「赤い鳥」の意義
・芥川龍之介「蜘蛛の糸」読解
- 童話の世界
・北原白秋・金子みすゞ・まどみちお 読解
- 児童文学と戦争
・小川未明「野薔薇」読解
- 児童文学と教科書
・新美南吉「ごん狐」読解
- 児童文学と道徳性
・太宰治「走れメロス」読解
- 児童文学と動物
・棕鳩十「大造爺さんと雁」読解
- ファンタジーとそれを支える伝承
・三浦哲郎「ユタとふしぎな仲間たち」読解
- 伝承文芸と現代
・阪田寛夫「桃次郎」読解
- 児童にとっての悲哀の仕事
・石井睦美「五月の初め、日曜日の朝」読解
- 童話と絵本
・村上春樹「ふわふわ」読解
- 絵本の読み聞かせ
・谷川俊太郎「もこもこ」他の実演

使用教科書名

そのつど指示し、必要に応じてプリントを配布する

NO. G04079001

カリキュラム論

中田 範子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

乳幼児の育ちを支えるための記録・計画の意味や意義、保育内容との関連を学びながら、よりよい保育のあり方を探ることが目的である。また、実際場面を想定して子どもの姿を予想しながら計画を作成し、省察の重要性について理解を深める。

学習目標・到達目標

到達目標①:実践における計画の種類、それらの意味と意義を理解することができる。
到達目標②: 子どもの発達の様子に即した教育内容を吟味しながら、育ちを支える保育者の援助の在り方と方法について考察し、計画に反映することができる。
到達目標③: 幼稚園教育要領と保育所保育指針の内容を踏まえた計画作成の基本を理解し作成することができる。

評価方法その他

○評価方法 レポート課題、演習課題、出席状況等
○評価基準 レポート課題(50%)、演習課題(40%)、平常点(10%)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 計画の意味と意義 保育の展開における計画の意味と意義
- 2 保育の計画 計画の種類と実践・記録・計画との関連・幼小接続について
- 3 保育所の計画① 保育所の短期的な活動の内容と計画の実際
- 4 保育所の計画② 短期計画の作成の概要
- 5 未満児の計画① 乳児の生活と計画
- 6 未満児の計画② 指導計画作成と演習
- 7 長期計画 行事等を鑑みた長期的な計画について
- 8 計画と省察 保育を展開する手がかりを導くための評価・反省・省察のあり方

使用教科書名

中田範子「子どもの育ちと環境―未来を見据えた保育の探求」

NO. G04080001

相談援助(PA)

西口 守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉の専門援助技術の基本的な理論や方法を演習を通して学習する。また、援助の方法や技術を知識として理解するだけでなく、援助の展開過程をより深く理解するために、具体的な事例検討等を通して学生自身が主体的に考え参加できるようにする。

学習目標・到達目標

保育実践で必要な社会福祉援助技術の総論と各論を理解する。

評価方法その他

出席数、授業態度及びレポート期末試験の総合評価。
割合は平常点10% レポート30% 期末試験 60%
平常点:出席や授業態度、予習復習の状況の他、井上先生と合議し評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1、オリエンテーション
- 2、自己理解(自己紹介)
- 3、人を援助することとは
- 4、ソーシャルワーカーの価値と倫理
- 5、援助関係形成の基本的態度
- 6、アセスメント
- 7、ケアマネジメント
- 8、相談面接の展開過程
- 9、面接技術
- 10、インテーク面接
- 11、事例検討①
- 12、事例検討②
- 13、事例検討③
- 14、事例検討④
- 15、まとめ
- 16、試験

使用教科書名

なし

NO. G04081001

保育相談支援（1クラス）

柳瀬 洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

複雑化している日本の今日の子育てに関する諸問題保育相談支援の意義と原則、及び保護者支援の基本について理解する。また支援の実践を学び、その内容や方法を理解するとともに、保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際についての理解を深める。

学習目標・到達目標

・子育て中の保護者や子どもが抱える諸問題について知り、多様化する保育現場に求められるニーズについて考える。
・保育所、児童養護施設等、さまざまな現場で行われている保育相談の取り組みについて学ぶ。
・保育相談支援における基本的な姿勢や技法を身に付け、地域における子育て家庭を支える地域支援ネットワークについて知り、事例を通じ、事に関わり解決にとどまらない、保護者も子どもも「共に

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加などで総合的に判断)40%、授業内に出される課題30%、ミニテスト30%により総合的に評価

週 テーマ・授業目標等

- 1.保育相談支援とは～保育相談支援の目指すもの
- 2.現代日本の子育てに関する問題
- 3.保育現場の気になる子どもとその家族
- 4.保護者と家族に対する支援
- 5.保育相談に求められる基本的な姿勢と技法
- 6.事例を通して学ぶ保育相談①～発達の気になる子どもとその家族への支援
- 7.地域におけるさまざまな子育て支援の実際～地域子育て支援ネットワーク
- 8.園における保育相談～保育者の果たす役割とは
- 9.「保育相談」の実際～ロールプレイ体験
- 10.事例を通して学ぶ保育相談②～養育に課題を抱える家庭への支援
- 11.事例を通して学ぶ保育相談③～気になる保護者への対応
- 12.施設における保育相談支援①～児童福祉施設の果たす役割と現状
- 13.施設における保育相談支援②～社会的養護施設の子どもたちへの支援
- 14.保育者の成長と学び
- 15.まとめ

使用教科書名

NO. G04082001

家庭支援論

新開 よしみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代において社会的な子育て支援が必要となった背景、家族を取りまく社会状況、子育て支援体制の現状をふまえ、家庭支援の実際や関係機関との連携のあり方について事例を通して具体的に考える。前半は、保育の場における保護者支援や子育て支援の実際について学ぶ。後半は、障害がある子どもとその家族の生活についての理解を深める。家族（特に母親）が子どもの誕生から成長に伴い、どのような生活問題に直面することになるのかを考えていくことにより、家庭支援のあり方について学ぶ。

学習目標・到達目標

- 保育の場に求められる家庭支援のあり方について理解する
- 地域子育て支援の具体的方法について理解する
- 家庭支援に必要な知識と技法を知る
- 障害のある子どもと家族について理解する

評価方法その他

平常点(提出物を含む)20%・レポートまたは試験80%の割合で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育における家庭支援とは(1) 在園児の保護者への支援
2. 保育における家庭支援とは(2) 地域の子育て支援
3. 家庭支援における基本的姿勢
4. 家庭支援のネットワーク
5. 事例から学ぶ家庭支援(1)
6. 事例から学ぶ家庭支援(2)
7. 前半のまとめ(小テスト)
8. 家族援助のキーワード
9. 子育ての悩みと家族支援
10. 子どもの障害を知らされる・理解する(母親が体験する出産と障害の理解)
11. 自閉症の障害特性・幼児期
12. 障害児福祉制度
13. 特別支援学校と障害
14. 子どもの障害をオープンにする・分かってもらう(きょうだいとの関係)
15. 子育て家族を取り巻く状況と家庭支援のあり方

使用教科書名

加藤邦子・浜口順子編著「子どもと地域と社会をつなぐ 家庭支援論」福村出版

NO. G04100001

卒業研究基礎ゼミ

児童学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

4年次に開講される卒業研究A・B履修に先立ち、各自が取り組みたいテーマをもとに研究の基礎について学ぶ。具体的には、資料の収集、講読及び討議を通して仮説や探究したい点を絞り込み、論文の構成や書き方について理解を深める。後期オリエンテーション期間にこの授業に関する詳しい説明を行う。

学習目標・到達目標

児童学研究の基礎を理解し、各自取り組みたいテーマに基づいた文献収集、分析をし、卒業論文作成の基礎を身につける。

評価方法その他

卒研基礎プレゼミ、卒研基礎ゼミへの出席、ゼミ相談記録及び卒研研究課題等の提出、卒研基礎ゼミ担当教員の評価等に基づき、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 卒研基礎プレゼミ1(文化、社会)
2. 卒研基礎プレゼミ2(健康、教育)
3. 卒研基礎プレゼミ3(生活、保育)
4. 卒研基礎プレゼミ4(特別支援教育)
5. 卒研基礎プレゼミ5(教育、幼児教育)
6. 卒研基礎プレゼミ6(発達心理、心理臨床)
7. 卒研基礎プレゼミ7(幼児教育、保育)
8. 卒研基礎ゼミ1
9. 卒研基礎ゼミ2
10. 卒研基礎ゼミ3
11. 卒研基礎ゼミ4
12. 卒研基礎ゼミ5
13. 卒研基礎ゼミ6
14. 卒研基礎ゼミ7
15. 卒研基礎ゼミ8

使用教科書名

NO. G04100101

多変量統計入門

新海 公昭

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代は、扱うデータの量が多く、いかに効率的かつ適切な処理をして分析するかが求められる。この授業では、データの種類が多い（多変量）場合の統計的手法を学ぶ。具体的には、予測・制御のための重回帰分析と判別分析、データ量の総合化のための主成分分析、共通因子を探す因子分析、データ分類のためのクラスター分析の基本概念などを理解し、応用事例に適用できることを目標とする。実際の処理・分析に当たってはパソコンの統計ソフト（EXCEL、EXCEL統計、Rなど）を用いる。

学習目標・到達目標

重回帰分析、重回帰分析、判別分析、確率変数と確率分布、重要な確率分布(正規分布・ χ^2 乗分布・F分布・t分布)、仮説検定(p値とt値)、分散分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析

評価方法その他

中間テスト(30点)、期末テスト(30点)、課題点(40点)

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 多変量解析手法の紹介
- 第2週 平均値、分散、標準偏差、標準化、共分散、相関係数
- 第3週 重回帰分析
- 第4週 判別分析
- 第5週 重要な確率分布
- 第6週 仮説検定1
- 第7週 仮説検定2
- 第8週 中間テスト
- 第9週 仮説検定3
- 第10週 分散分析
- 第11週 主成分分析(概念説明)
- 第12週 主成分分析(応用事例の紹介)
- 第13週 因子分析(概念説明)
- 第14週 因子分析(応用事例の紹介)
- 第15週 クラスター分析(概念説明と応用事例の紹介)
- 第16週 期末テスト

使用教科書名

特になし。毎回プリントを配布する。

NO. G04100201

青年心理学

木村 文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

青年期は自我を確立していく大切な時期である。本講では、青年期が人として生きていく上で大切な時期であることを理解した上で、青年自身の問題と社会の問題がどのように関わっているのかについて考え、問題意識を高めていくことを目的とする。

学習目標・到達目標

青年期は心理的・身体的・社会的に大きな変化を体験し、人生における一つの危機の時期ともいわれる。青年期のこうした状態について、自我同一性の確立を中心として心理的特質や発達課題を理解する。

評価方法その他

最終試験と授業への参加意欲、態度をもとに総合評価を行う。
(最終試験60%、授業への参加態度40%)

週 テーマ・授業目標等

1. 青年心理学の理論1——青年期を学ぶ意義——
2. 青年心理学の理論2——青年期の区分、一般的特徴——
3. 青年心理学の理論3——発達課題——
4. 青年心理学の理論4——アイデンティティ、自我・自己の発達——
5. 青年心理学の理論5——個と集団を学ぶ。対人関係の発達——
6. 青年期をとりまく時代背景、世代性
7. 青年期と現代社会
8. 青年期のコミュニケーション
9. 青年期の問題解決法——心理療法、カウンセリング入門——
10. 青年期の不適応1——不登校、ひきこもり——
11. 青年期の不適応2——摂食障害——
12. 青年期の不適応3——発達障害——
13. 青年期の不適応4——依存症、嗜癖——
14. 青年期の不適応5——対処法を考える——
15. 総括
16. 定期試験

使用教科書名

原則として適宜プリントを配布します。
その他参考資料は講義の際に適宜紹介します。

NO. G04100301

人格心理学

早野 富美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

パーソナリティとはどのようなものか、個人差はあるのか、また、パーソナリティは測れるものなのか、について解説する。各回ではそれぞれパーソナリティについて心理学的、精神医学的、精神症候学的、そして生物学的な側面から多面的な視点で説明する。

学習目標・到達目標

パーソナリティについてさまざまな理論があることを理解する。また、パーソナリティ心理学を学ぶことで自分自身や他者に興味を持ち、人間理解を深めることができる。

評価方法その他

出席(45%)と定期試験(55%)で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 導入
人格 性格 パーソナリティ 気質 特性 資質
- 第2回 人格理論Ⅰ
人格心理学の歴史
- 第3回 人格理論Ⅱ
日本における人格心理学の歴史 類型論
- 第4回 人格理論Ⅲ
特性論 因子論
- 第5回 人格と知能
知能検査の歴史 ウェクスラー知能検査
- 第6回 人格の測定
面接法 観察法 質問紙法 投影法
- 第7回 進化からみる人格
進化 発生
- 第8回 遺伝からみる人格
遺伝子 双生児研究
- 第9回 人格の生物基盤
神経 脳 ニューロン 神経伝達物質
- 第10回 脳の器質的な変化と人格の変化
頭部外傷 ロボトミー 認知症
- 第11回 心身の健康と人格
健康 障害 ころとからだ
- 第12回 精神病理からみた人格 I
パーソナリティ障害など

使用教科書名

使用しない。

NO. G04100401

心理学実験Ⅰ

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理実験・調査を企画し実験者・被験者として体験する。データの収集、データの処理、t検定を中心とした推計学的検定、心理学レポート作成、プレゼンテーションなどの一連の作業を通じて、心理学実験の基礎的知識と実践力を習得する。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法Ⅰ、反応時間実験、両側性転移実験、錯視実験、生理心理実験、記憶実験、実験全体の総括で構成される。

プレゼンテーションのスキルも学ぶ。心理学a、bおよび統計学入門、基礎統計学を履

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

実験レポート80％、平常点(出席・コメント等の参加度)20％

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 心理学実験とは;反応時間実験、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その1
- 第2週 心理学実験とは、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その2
- 第3週 心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その1
- 第4週 心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その2
- 第5週 反応時間実験を行う。パソコンを使った心理実験としての技能も学ぶ
- 第6週 鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その1
- 第7週 鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その2
- 第8週 錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その1
- 第9週 錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その2
- 第10週 中間の総括
- 第11週 感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その1
- 第12週 感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その2
- 第13週 系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その1
- 第14週 系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その2
- 第15週 全体についての論議

使用教科書名

特になし。

NO. G04100501

心理学実験Ⅱ

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「心理学実験Ⅰ」に引き続き心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。ここでは、より高度な統計学分析を学習する。実験の進行状況によっては時間内に目的を達成できない場合もありうる。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法、視覚情報処理による認知実験、認知的葛藤の測定実験、SD法によるイメージ実験、家庭用ロボットを使った行動観察・動作分析実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーション実習も行う。履修条件として「心理学実験Ⅰ」を単位修得していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

実験レポート80％、平常点(出席・コメント等の参加度)20％

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス、実験・調査の方法、データの分析とまとめ方、レポートの形式と内容について
- 第2週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その1
- 第3週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その2
- 第4週 視覚情報処理による認知実験
- 第5週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その1
- 第6週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その2
- 第7週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その3
- 第8週 認知的葛藤の測定実験を行う その1
- 第9週 認知的葛藤の測定実験を行う その2
- 第10週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その1
- 第11週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その2
- 第12週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その1
- 第13週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その2
- 第14週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その3
- 第15週 全体についての論議

使用教科書名

特になし。

NO. G04100601

家庭教育論

柳瀬 洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現代社会の変容の中で、近年、家庭が果たす役割や機能もまた変化してきている。家庭とは何か、人が成長してゆく過程に沿って家庭と家庭をめぐる諸問題を見つめるとともに、保育園・幼稚園・学校・地域社会等、社会全体と家庭とのかわりについて目を向け、今後の家庭教育のあり方について探究する。

学習目標・到達目標

- ・家庭と家庭教育をめぐる諸問題について現代社会全体との関連からとらえる。
- ・人が成長していく過程に沿って、家庭教育のあり方について考えていく。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加など)30％、レポート20％、試験50％により総合的に評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・家庭とは何か
2. 子どもが育つ場としての家庭
(養育者と子どものかわり方の基本原理)
3. 乳児期と家庭教育
4. 幼児期と家庭教育
5. 学童期・思春期と家庭教育
6. 青年期と家庭教育
7. 家庭教育にみる家族の発達の課題～育てられる者から育てる者へ
8. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題①
9. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題②
10. 現代社会の変容と家庭教育をめぐる諸問題③
11. 家庭教育支援の現状と課題
(家庭・保育所・幼稚園・学校・社会の連携)
12. 海外の家庭教育
13. 今後の家庭教育に求められるもの
14. 事例から考える家庭教育
15. まとめ

使用教科書名

特になし。必要な資料を配布します。

NO. G04100801

児童学概論

田尻 さやか

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

子どもとは何か。私たちは子どもについてどのように考え、関わっていったらよいのか。児童学における基礎的課題（子ども観、子どもの発達等）を、現実の生活と関連して捉え、子どもについての理解をすすめる。また、子どもの問題の解明に向けて、課題を捉え、知識を深め、実践できる力をつける。

学習目標・到達目標

子どもとは、どのような存在なのか、歴史や社会、大人との関係で、変化する関係的存在であることを知る。また、子どもの活動の実態を知り、発達の原理と過程、環境や学校との関係における諸問題と解決の方向についての、基礎的な知識と方法を理解し、現実の生活での実践に役立てることができるようにする。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)
(平常点は授業への参加状況・小レポート等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 児童学とは
2. 子どもとは何か(1)子ども観
3. 子どもとは何か(2)現代社会と子ども
4. 子どもとは何か(3)発達と臨床
5. 子どもと共に育つ(1)関係的存在としての子ども
6. 子どもと共に育つ(2)子どもとのかわり方
7. 子どもと共に育つ(3)幼児の集団活動と遊び
8. 子どもと共に育つ(4)児童福祉施設(児童養護施設など)におけるかわりの実践
9. 子ども発達(1)乳児期の発達とかかわり方
10. 子ども発達(2)幼児期の発達とかかわり方
11. 子ども発達(3)児童期の発達とかかわり方
12. 子ども発達(4)生涯発達とかかわり方
13. 児童と教育(1)地域で育つ子どもたち
14. 児童と教育(2)人とのかわりで育つ子どもたち
15. 児童と教育(3)心豊かな子どもたちの育ち
16. テスト

使用教科書名

「共に育つ―人間探究の児童学― 増補版」宣協社：2015年

NO. G04101001

児童福祉論

市川 和男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景について理解する。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について学ぶ。

学習目標・到達目標

- 1)児童福祉の意義及び歴史的展開過程について理解できるようになる。
- 2)児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に理解できるようになる。
- 3)児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスの現状と課題を理解できるようになる。
- 4)児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割や現状と課題について理解できるようになる。

評価方法その他

・児童福祉の意義及び歴史的展開過程、児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に理解できるようになったか、児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要に対するサービスの現状と課題を理解できるようになったか、児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割や現状と課題を理解できるようにしたか。

週 テーマ・授業目標等

- 【1】オリエンテーション 児童家庭福祉とは何かー人権擁護の視点から現代の社会と子どもの生活 子どもの生活環境の変化(5/12(土)1～3限)
- 【2】子どもの成長や発達と子育てをめぐる問題(5/12(土)1～3限)
- 【3】児童家庭福祉の理念と概念(5/12(土)1～3限)
- 【4】児童家庭福祉の歴史(6/16(土)1～4限)
- 【5】児童家庭福祉行財政・施策と法体系(6/16(土)1～4限)
- 【6】児童家庭福祉の行財政と制度(6/16(土)1～4限)
- 【7】児童家庭福祉と保育(6/16(土)1～4限)
- 【8】児童家庭福祉と社会的養護ー児童虐待・ドメスティックバイオレンス(6/30(土)1～3限)
- 【9】非行問題(6/30(土)1～3限)
- 【10】障害児問題(6/30(土)1～3限)
- 【11】次世代育成支援と子どもの遊びの保障(7/14(土)1～5限)
- 【12】児童家庭福祉の専門職(7/14(土)1～5限)
- 【13】児童福祉施設と連携ネットワーク(7/14(土)1～5限)
- 【14】世界の子どもたち&児童家庭福祉の今後(7/14(土)1～5限)
- 【15】まとめ (7/14(土)1～5限)

使用教科書名

松本園子・堀口美智子・森和子編著「子どもと家庭の福祉を学ぶ」ななみ書房 2017年

NO. G04101601

自然体験活動演習Ⅱ

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

自然体験活動演習Ⅰで学んだ知識や技術をさらに充実し、特に冬季の自然体験活動を中心に実施する。雪の中での遊びやゲーム、スキーやスノーボードでの雪山の楽しみ方、さらにテントでの宿泊体験も経験する。自然体験が夏季中心のなかで実施されている現況の中で、冬季の自然体験の素晴らしさを経験していく。

学習目標・到達目標

2015年度から全国の小学校で実施される長期自然体験活動、活動のメインとなるプログラムを積極的に企画・実施でき、またその評価ができるようになることを目的とする。様々な場面で多くの子ども達に楽しみや喜びを与えられ、さらに危機管理能力をも備えた人材の育成を目指す。

評価方法その他

実習への参加をもって評価の対象とする。オリエンテーション50％、実習参加50％

週 テーマ・授業目標等

本学の蓼科高原にある山の家を使用して3泊4日の集中授業を実施する。

雪上での伝承遊びやゲーム、スキー、スノーボード、雪上でのデント泊、キャンプファイヤーや飯ごう炊飯を学ぶ。また寒さに対する防寒方法、危機管理やクライシスマネジメントについても学習する。

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04101501

自然体験活動演習Ⅰ

金子 和正

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校教育で施行される長期自然体験活動指導者の育成を目的とする。キャンプや自然体験のより多くの経験を積み、実践経験を通して得た知識をもつ指導者の養成を目的とする。様々な条件に臨機応変に対応できる指導者、対象者や環境を考慮した指導者の育成。

学習目標・到達目標

小学校で実施される長期自然体験活動プログラムに、積極的に参加できる能力をもった人材の育成を目的とする。実践経験を積んだ的確な判断ができる指導者の育成を目指す。

評価方法その他

実習のオリエンテーション及び実習への参加をもって単位の認定をする。オリエンテーション50％、実習参加50％

週 テーマ・授業目標等

9月上旬に本学山の家(蓼科)を中心に4泊5日で実施する。

・自然環境に対する考え方

・自然体験活動のとらえ方

・自然体験かつ指導者とは

・自然の中での危機管理と救急法

・子どもと自然体験活動

・生きる力、感動体験

・自然の中で生活する知恵と技術

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G04101801

初等教育演習A

齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・小学校教員採用試験（1次試験）に対応できる一般教養の基礎学力を養う。具体的には、英語、数学、理科の基礎学力を養う。
・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる、教師力、教育課題、教職についての基礎的理解を図る。具体的には、教師に求められる力、教育界の課題や子どもたちの抱える問題、教職についての基礎的理解を図る。

学習目標・到達目標

・小学校教員採用試験(1次試験)に対応できる、一般教養の基礎学力を養う。
・小学校教員採用試験(2次試験)に対応できる、教師力、教育課題、教職についての基礎的理解を図る。

評価方法その他

金子・尾崎・新海・畛部・斎藤・立川:試験またはレポート、平常点
佐々木:試験またはレポート、平常点
総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

第1回 ガイダンス・教員採用試験対策演習1:ガイダンス等(担当:斎藤義雄)

第2回 教員採用試験対策演習2:心構え(担当:金子和正)

第3回 教員採用試験対策演習3:算数・数学(担当:新海公昭)

第4回 教員採用試験対策演習4:英語・国語(担当:畛部典子)

第5回 教員採用試験対策演習5:社会(担当:尾崎利生)

第6回 教員採用試験対策演習6:国語(担当:立川康史)

理科(担当:外部講師)

第7回 教員採用試験対策講義1:最も印象に残っている先生(担当:佐々木悦子)

第8回 教員採用試験対策講義2:大きな影響を与えてくれた先生(担当:佐々木悦子)

第9回 教員採用試験対策講義3:教師に求められる力(担当:佐々木悦子)

第10回 教員採用試験対策講義4:教職とは(担当:佐々木悦子)

第11回 教員採用試験対策講義5:自分の教職への適性(担当:佐々木悦子)

第12回 教員採用試験対策講義6:教育界の課題や子どもたちの抱える問題(担当:佐々木悦子)

第13回 教員採用試験対策講義7:教育課題への対応についての小論文(担当:佐々木悦子)

第14回 教員採用試験対策講義8:目標とする子どもの姿(担当:佐々木悦子)

第15回 教員採用試験対策講義9:学習指導要領について(担当:佐々木悦子)

試験またはレポート課題

使用教科書名

特になし

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・小学校教員採用試験（1次試験）に対応できる一般教養の学力を養う。具体的には、英語、数学、理科・社会の学力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる、自己分析、理想の教師像、自己アピール等についての理解を図る。具体的には、自己分析、自分の性格・資質・能力、自分を変えた出来事、理想の教師像、教職の理解、自己アピール等についての理解を図る。

学習目標・到達目標

- ・小学校教員採用試験（1次試験）に対応できる、一般教養の学力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる、自己分析、理想の教師像、自己アピール等についての理解を図る。

評価方法その他

金子・齋藤・新海・畛部・尾崎・立川：試験またはレポート、平常点
佐々木：試験またはレポート、平常点
総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 ガイダンス・教員採用試験対策演習1：ガイダンス等（担当：齋藤義雄）
第2回 教員採用試験対策演習2：心構え（担当：金子和正）
第3回 教員採用試験対策演習3：算数・数学（担当：新海公昭）
第4回 教員採用試験対策演習4：英語・国語（担当：畛部典子）
第5回 教員採用試験対策演習5：社会（担当：尾崎利生）
第6回 教員採用試験対策演習6：国語（担当：立川康史）
理科（担当：外部講師）
第7回 教員採用試験対策講義1：自己分析（自分の性格、資質・能力、考え方の傾向など）（担当：佐々木悦子）
第8回 教員採用試験対策講義2：教職に活かせる自分の性格や資質・能力（担当：佐々木悦子）
第9回 教員採用試験対策講義3：理想の教師像と努力したいこと（担当：佐々木悦子）
第10回 教員採用試験対策講義4：これまでの人生で自分を大きく成長させ体験や出来事（担当：佐々木悦子）
第11回 教員採用試験対策講義5：自己アピール文作成 その1（担当：佐々木悦子）
第12回 教員採用試験対策講義6：教育に求められている「生きる力」の育成について（担当：佐々木悦子）
第13回 教員採用試験対策講義7：新しい学力論とアクティブラーニング（担当：佐々木悦子）
第14回 教員採用試験対策講義8：豊かな心や健やかな体（担当：佐々木悦子）
第15回 教員採用試験対策講義9：自己アピール文完成（担当：佐々木悦子）
試験またはレポート

使用教科書名

特になし

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・小学校教員採用試験（1次試験）に対応できる、教職教養の基礎学力と一般教養の学力を養う。具体的には、教育原理、教育法規等の基礎学力と、一般教養の英語、数学、理科、社会の学力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる小論文を書く力、面接試験に対応する力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる授業実践指導力を養う。

学習目標・到達目標

- ・小学校教員採用試験（1次試験）に対応できる、教職教養の基礎学力と一般教養の学力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる小論文を書く力、面接試験に対応する力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる授業実践指導力を養う。

評価方法その他

金子・齋藤・尾崎・新海・畛部・杉野・立川・阿尾・原田：試験またはレポート、平常点
佐々木：試験またはレポート、平常点
総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 ガイダンス・教員採用試験対策演習1ガイダンス・教育原理・教職全般（担当：齋藤義雄）
第2回 教員採用試験対策演習2：心構え（担当：金子和正）
第3回 教員採用試験対策演習3：教育法規・社会（担当：尾崎利生）
第4回 教員採用試験対策演習4：数学（担当：新海公昭）理科
第5回 教員採用試験対策演習5：英語・国語（担当：畛部典子）
第6回 教員採用試験対策演習6：面接・小論文（担当：杉野学・立川泰史）
特別支援（担当：杉野、阿尾、原田）
理科（担当：外部講師）
第7回 教員採用試験対策講義1：場面指導の実際 その1（担当：佐々木悦子）
第8回 教員採用試験対策講義2：場面指導の実際 その2（担当：佐々木悦子）
第9回 教員採用試験対策講義3：教育課題の解決に向けて小論文作成（担当：佐々木悦子）
第10回 教員採用試験対策講義4：模擬授業と集団協議その1（担当：佐々木悦子）
第11回 教員採用試験対策講義5：模擬授業と集団協議その2（担当：佐々木悦子）
第12回 教員採用試験対策講義6：模擬授業と集団協議その3（担当：佐々木悦子）
第13回 教員採用試験対策講義7：授業力をつける 指導案の改善（担当：佐々木悦子）
第14回 教員採用試験対策講義8：授業力をつける 教材の工夫（担当：佐々木悦子）
第15回 教員採用試験対策講義9：授業力をつける 指導内容と方法の工夫改善（担当：佐々木悦子）
試験またはレポート課題

使用教科書名

『2020年度 教員採用試験対策問題集1教職教養』東京アカデミー編 七賢出版（2018年10月ごろ発刊）

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・小学校教員採用試験（1次試験）に対応できる、教職教養・一般教養の学力を養う。具体的には、教育原理、教育法規、教育心理等の学力を養う。必要に応じて、一般教養の復習を行う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる小論文を書く力、面接試験に対応する力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる授業実践指導力を養う。

学習目標・到達目標

- ・小学校教員採用試験（1次試験）に対応できる、教職教養や一般教養の学力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる小論文を書く力、面接試験に対応する力を養う。
- ・小学校教員採用試験（2次試験）に対応できる授業実践指導力を養う。

評価方法その他

齋藤・尾崎・畛部・新海・金子・杉野・立川・阿尾・原田：試験またはレポート、平常点
佐々木：試験またはレポート、平常点
総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 ガイダンス・教員採用試験対策演習1ガイダンス・教育原理・教職全般（担当：齋藤義雄）
第2回 教員採用試験対策演習2：心構え（担当：金子和正）
第3回 教員採用試験対策演習3：教育法規・社会（担当：尾崎利生）
第4回 教員採用試験対策演習4：数学（担当：新海公昭）
第5回 教員採用試験対策演習5：英語・国語（担当：畛部典子）
第6回 教員採用試験対策演習6：面接・小論文（担当：杉野学・立川泰史）
特別支援（担当：杉野・阿尾・原田）
理科（担当：外部講師）
第7回 教員採用試験対策講義1：自己アピール文提出（担当：佐々木悦子）
第8回 教員採用試験対策講義2：教育実習に向けての心構え（担当：佐々木悦子）
第9回 教員採用試験対策講義3：教育実習の反省と学習したこと（担当：佐々木悦子）
第10回 教員採用試験対策講義4：自己アピール文完成（担当：佐々木悦子）
第11回 教員採用試験対策講義5：予想問題の小論文作成（担当：佐々木悦子）
第12回 教員採用試験対策講義6：模擬授業と集団協議の実施と改善 その1（担当：佐々木悦子）
第13回 教員採用試験対策講義7：模擬授業と集団協議の実施と改善 その2（担当：佐々木悦子）
第14回 教員採用試験対策講義8：面接対応と場面指導の実施と改善 その1（担当：佐々木悦子）
第15回 教員採用試験対策講義9：面接対応と場面指導の実施と改善 その2（担当：佐々木悦子）
試験またはレポート課題

使用教科書名

『2019年度 教員採用試験対策問題集1 教職教養』東京アカデミー編 七賢出版

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼児グループ活動（就園前親子集団活動）の意義と原理を講義や演習を通して理解し、参加者が共に育ちあひながら保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。

学習目標・到達目標

幼児グループ活動（子どもグループ・親グループ）への参加に向けて就園前集団活動の意義や運営について理解を深める。特に、個と集団が相期的に発展する過程とリーダーの役割、チームワークを実践的に心理制などを通して理解する。また、環境の設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。

評価方法その他

授業態度・レポートによる総合評価

週 テーマ・授業目標等

使用教科書名

吉川晴美他「子育て・発達支援 一地域に開く大学として共に育つ保育活動から― 第3巻」（2010）東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ

NO. G04102301

児童臨床実習AⅡ

田尻 さやか

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

AⅠに続き、幼児グループ活動の発展、統合期の活動を、共に担いながら学ぶ。具体的には行事活動の企画・準備・実践を行うなかで、保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。

学習目標・到達目標

幼児グループ(子どもグループ・親グループ)に参加し、就園前集団活動の意義や運営について理解を深める。特に、個と集団が相即的に発展する過程とリーダーの役割、チームワークを実践的に理解する。また、環境の設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。

評価方法その他

授業態度、レポートによる総合評価

週 テーマ・授業目標等

使用教科書名

吉川晴美他「子育て・発達支援 一地域に開く大学として共に育つ保育活動から― 第3巻」(2010)東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ

NO. G04102401

児童臨床実習BⅠ

田尻 さやか

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼児グループ活動(就園前親子集団活動)の意義と原理を講義や演習を通して理解し、参加者が共に育ちあいながら保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。

学習目標・到達目標

幼児グループ(子どもグループ・親グループ)への参加に向けて、就園前集団活動の意義や運営について理解を深める。特に、個と集団が相即的に発展する過程とリーダーの役割、チームワークを実践的に心理劇などを通して理解する。また、活動環境の設定、準備などを経験し、自ら集団を運営する責任と役割が担えるように研鑽する。

評価方法その他

授業態度、レポートによる総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 幼児グループの概要の理解
3. 共に育ちあう活動としての幼児グループ―集団の発達を学ぶ
4. 集団における自己・人・ものの関係的発展―かかわり方を学ぶ
5. 親グループの心理劇①
6. 親グループの心理劇②
7. 子どもと遊び①指導者のかかわり方
8. 子どもと遊び②危機場面について考える
9. 子どもと遊び③もの・課題のとらえ方、活かし方
10. 子育て支援活動としての幼児グループ―親との面談から
11. 幼児グループ活動の展開①行事活動などの準備
12. 幼児グループ活動の展開②環境設定
13. 幼児グループ活動の展開③親グループ
14. 幼児グループ活動の展開④子どもグループ
15. まとめ(成果発表会)

使用教科書名

吉川晴美他「子育て・発達支援 一地域に開く大学として共に育つ保育活動から― 第3巻」(2010)東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ

NO. G04102501

児童臨床実習BⅡ

田尻 さやか

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童臨床実習の活動体験に基づいて集団討議を行い、児童学研究の方法・論文作成上の諸問題などについて考究する。幼児グループ活動において、共に育ちあいながら実践力を養成する。

学習目標・到達目標

幼児グループ活動の経過を省察・研究し、次への実践に活かすことができるよう体験的に理解する。リーダーチームのなかで自他の役割を理解する。状況に応じて、柔軟にリーダーの役割が担えるようにする。

評価方法その他

授業態度、レポートによる総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 幼児グループ 活動準備(環境整備)
3. 幼児グループ活動⑫(集団における状況の明確化)
4. 幼児グループ活動⑬(集団における状況の展開)
5. 幼児グループ活動⑭(集団における状況の発展)
6. 幼児グループ活動⑮(集団内活動の構造化)
7. 幼児グループ活動⑯(集団内活動の連結化)
8. 幼児グループ活動⑰(集団内活動の統合化)
9. 幼児グループ活動⑱(集団内活動と地域社会の構造化)
10. 幼児グループ活動⑲(集団内活動と地域社会の連結化)
11. 幼児グループ活動⑳(集団内活動と地域社会の統合化)
12. 集団活動体験のまとめ(子どもグループ)
13. 集団活動体験のまとめ(親グループ・合同活動)
14. 集団活動体験による個人研究発表
15. 集団活動体験による集団研究発表

使用教科書名

吉川晴美他「子育て・発達支援 一地域に開く大学として共に育つ保育活動から― 第3巻」(2010)東京家政学院大学「児童臨床実習」担当者グループ

NO. G04102601

児童臨床実習CⅠ

柳瀬 洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学内で実施している乳児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知り、保育者としての実践力、児童臨床者としての資質を養成する。なお、本実習授業は原則として、前期・後期通しての履修とする。

学習目標・到達目標

- ・乳児の発達について実践を通して学ぶ。
- ・乳児の子どもに寄り添った保育者としてのかかわりについて実践的に学ぶ。
- ・保護者との交流を通し、現代日本の子育て支援の現状についてその実際を知る。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加など)および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・準備活動
2. 子育て支援の現状と乳児グループ活動の基礎理論
3. 乳児グループ インテーク①(初回面談)
4. 乳児グループ インテーク②(初回面談)
5. 乳児グループ活動①(集団での安定、出会い体験)
6. 乳児グループ活動②(集団での安定)
7. 乳児グループ活動③(集団における課題の成立①)
8. 乳児グループ活動④(集団における課題の成立②)
9. 乳児グループ活動⑤(集団における課題内容の深化)
10. 乳児グループ活動⑥(集団における課題内容の拡大)
11. 乳児グループ活動⑦(集団における役割の明確化)
12. 乳児グループ活動⑧(集団における役割の展開)
13. 乳児グループ活動⑨(集団における役割の発展)
14. 乳児グループ活動⑩(集団における役割の連携)
15. 前期活動の総括

使用教科書名

NO. G04102701

児童臨床実習CⅡ

柳瀬 洋美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学内における、乳児とその保護者を対象とした親子参加型のグループ活動実習。前期活動を踏まえ、個々の課題と取り組み、保育実践力や省察力の向上をはかる。児童臨床実習の活動体験にもとづく集団討議をおこない、児童学研究の方法、論文作成上の諸問題などについても考究する。
なお、本実習授業は原則として、前期・後期通しての履修とする。

学習目標・到達目標

- ・目の前の乳児ひとりひとりの個性や発達課題を踏まえ、個々に寄り添った対応をおこなう。
- ・個と集団の相即的発展を意識し、保育者としての役割について実践的に学ぶ。
- ・子育て支援のあり方について理解を深める。

評価方法その他

平常点(授業への参加状況・討論への参加など)および実習課題への取り組みやレポートなどによる総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 1オリエンテーション
- 2後期乳児グループ準備活動
- 3乳児グループ後期インターク(集団における個の課題の確認)
- 4乳児グループ活動⑪(集団におけるコーナー活動の展開①)
- 5乳児グループ活動⑫(集団における状況の発展)
- 6乳児グループ活動⑬(集団におけるコーナー活動の展開②)
- 7乳児グループ活動⑭(集団内活動の構造化)
- 8乳児グループ活動⑮(集団内活動の統合化)
- 9乳児グループ活動⑯(集団内活動と地域社会の構造化)
- 10乳児グループ活動⑰(集団内活動と地域社会の連結化)
- 11乳児グループ活動⑱(集団内活動と地域社会の統合化)
- 12集団活動体験のまとめ①
- 13集団活動体験のまとめ②
- 14集団活動体験による個人研究発表
- 15まとめ

使用教科書名

NO. G04102901

特別支援学校教育課程論

杉野 学

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

特別支援学校における障害の重度・重複化、多様化の傾向が著しく幼児児童の障害の状態や特性に応じた教育内容・方法の工夫が求められている。また、平成29年4月、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領が新しく告示された。そのため、特別支援学校の教育課程編成に関する法令や教育課程編成・実施・評価について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。特別支援学校の教育課程編成に関する基本的な内容について、新学習指導要領等を基に概説する。

学習目標・到達目標

- ・特別支援学校の教育課程編成に関する法令、学習指導要領等の基礎的な知識を獲得する。
- ・特別支援学校の教育課程編成・実施・評価への関心と理解を深める。
- ・特別支援学校における教育課程に関する教育内容・方法を他者に説明することができる。

評価方法その他

評価は以下の点を総合して行う。詳細については初回に説明する。
①出席回数・授業態度(30%)、②レポート・筆記試験(70%)を総合的に判断し、60%以上を合格とする。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:特別支援学校教育の変遷
- 第2回:特殊教育から特別支援教育への転換
- 第3回:特別支援教育を取り巻く最近の動向
- 第4回:特別支援学校における教育課程編成の基本的事項
- 第5回:視覚障害、聴覚障害特別支援学校の教育課程
- 第6回:肢体不自由特別支援学校の教育課程
- 第7回:病弱特別支援学校の教育課程編成
- 第8回:知的障害特別支援学校の教育課程編成
- 第9回:特別支援学校における年間指導計画
- 第10回:特別支援学校における教育課程の評価
- 第11回:特別支援学校における学級経営計画
- 第12回:個別的教育支援計画の意義と概要
- 第13回:個別の指導計画の意義と概要
- 第14回:キャリア教育
- 第15回:特別支援学校における特別活動
- 第16回:定期試験

使用教科書名

・「特別支援教育の基礎」、大学図書出版

NO. G04102801

障害の基礎的理解

阿尾 有朋

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

初回の講義では「障害」という言葉の概念について触れ、本講義を通じて「障害について学ぶ」ということの意味と意義について解説する。第2回以降は、「障害について学ぶ」ための知識の涵養を目的として、障害を捉える枠組みであるICF、障害の生理・心理、障害の原因と発達診断、生活に係る困難さとそれへの支援、家族への支援と連携、特別な教育ニーズについて解説する。

学習目標・到達目標

障害の概念、障害を捉える枠組み、障害の生理・心理、障害の原因と発達診断、生活に係る困難さとそれへの支援、家族への支援と連携、特別な教育ニーズについて、障害種別(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、言語障害、重複障害、情緒障害、発達障害)ごとに基礎的理解を深めることを目標とする。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(20%)、毎回の小テスト(20%)による総合評価とする。
※平常点は授業への参加状況や態度等で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.「障害について学ぶ」ということの意味と意義
2. 障害を捉える枠組み
3. 障害の原因と発達診断
4. 生活に係る困難さの理解
5. 視覚障害の基礎的理解
6. 聴覚障害の基礎的理解
7. 知的障害の基礎的理解
8. 肢体不自由の基礎的理解
9. 病弱・身体虚弱の基礎的理解
10. 言語障害の基礎的理解
11. 重複障害の基礎的理解
12. 情緒障害の基礎的理解
13. 発達障害の基礎的理解
14. 家族への支援と連携
15. 特別な教育ニーズ ー障害を有する子どもの自立(自律)ー
16. 定期試験

使用教科書名

使用しない

NO. G04103001

特別支援教育総論

杉野 学

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

平成19年度から特別支援教育が施行されて、幼稚園、小学校においても障害のある幼児児童の教育的ニーズに応じたより適切な指導が求められている。特別支援教育の意義や概要について、理解を深め確かな知識を身に付ける必要がある。そして、一人一人の障害の状態や学習特性等に応じた教育を実施していかなければならない。授業では、特別支援教育の意義と概要、視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病弱教育、重複障害教育、言語障害教育、情緒障害教育、発達障害教育の理解及び学校組織マネジメント、学級経営、危機管理、地域連携、2020東京オリンピック・パラリンピックについて概説する。

学習目標・到達目標

- ・特別支援教育の意義、教育要領・学習指導要領に関する基礎的な知識を獲得する。
- ・特別支援教育における障害種別の教育活動への関心と理解を深める。
- ・障害種ごとの特徴的な教育内容・方法を、他者に説明することができる。
- ・学校の組織マネジメント、チーム学校、危機管理、2020東京オリンピック・パラリンピックに関する理解を深める。

評価方法その他

定期試験50%、平常点50%とし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業への出席状況、討論への参加、課題に対するレポートの取り組み等で総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

- 1.特別支援教育の現状
2. 障害の基本的な理解と学校教育
3. 特別支援教育の基本的な内容
4. 視覚障害教育の理解
5. 聴覚障害教育の理解
6. 知的障害教育の理解
7. 肢体不自由教育の理解
8. 病弱・身体虚弱教育の理解
9. 重複障害教育の理解
10. 言語障害教育の理解
11. 情緒障害教育の理解
12. 発達障害教育の理解
13. 特別支援学校の専門性
14. 地域と連携した特色ある教育活動
15. 2020東京オリンピック・パラリンピック教育
16. 定期試験

使用教科書名

「特別支援学校における学校組織マネジメントの実践ー組織的な特別支援教育の推進ー」杉野学著 ジアース教育新社

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

知的障害児の障害や学習特性を正しく理解して個別の指導計画に基づき授業を計画的に実施することは重要である。また幼稚園、小学校等に在籍する特別な教育的ニーズを要する幼児児童も含めて、一人一人の障害の状態や学習特性等に応じた多様な指導方法が求められている。そのためには、まず知的障害児の障害や学習特性に応じた指導内容・方法について理解を深め確かな知識を身に付けることが重要である。知的障害児の障害や学習特性の理解、知的障害教育の教育内容・方法、実態把握から指導目標の設定や指導内容・方法及び学習評価の理解、個別的教育支援計画や個別の指導計画及び指導案の作成、教材・教具の作成について概説する。

学習目標・到達目標

- (1) 知的障害児の障害や学習特性及び基本的な指導方法を理解することができる。
- (2) 知的障害教育の指導内容・方法や学習評価の理解及び学習指導案を作成することができる。
- (3) 知的障害教育における基本的な指導内容や指導方法を他者に説明することができる。

評価方法その他

定期試験50％、平常点50％とし、授業回数全体にわたり総合的に評価する。平常点は、授業への出席状況、討論への参加、課題に対するレポートの取り組み等で総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 知的障害児の障害の程度や障害特性の理解
2. 幼稚園、小学部の教育内容・方法
3. 知的障害児の実態把握と学習指導
4. 知的障害児の各教科別の学習指導の実践
5. 知的障害児の学習指導の事例研究
6. 知的障害児の学習特性に応じた支援方法
7. 個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用
8. 学習指導案の作成と活用
9. 教材・教具の活用方法
10. 国語指導の実践(幼稚園、小学部)
11. 算数指導の実践(幼稚園、小学部)
12. 学習評価の考え方と評価方法
13. 各教科等を合わせた指導の考え方と指導法
14. 自立活動の指導の考え方と指導法
15. 知的障害児の障害特性に応じた指導法
16. 定期試験

使用教科書名

「特別支援教育の基礎」、大学図書出版

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小児期の疾患を有する子どもの基本的理解を踏まえ、教育（指導法を含む）について講義を行う。解説は疾患別の特性を踏まえて行う。講義では、疾患をもつ子どもの教育の形態について紹介するとともに、教育的かかわりにおける具体的な配慮事項について解説する。また、医療との連携の重要性とその在り方について重点的に述べる。

学習目標・到達目標

小児期の疾患を有する子どもの基本的理解を踏まえ、また、疾患に特有の対応の難しさ、それへの教育指導上の配慮の必要性、具体的な配慮について自ら考えることで理解を深める。併せて、特別支援教育に関わる教員としてもつべき視点や態度について学ぶことを目標とする。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(20%)、毎回の小テスト(20%)による総合評価とする。
*平常点は授業への参加状況や態度等で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 病弱者の理解
2. ICFに基づく教育的ニーズの整理
3. 疾患・障害別の教育上の留意事項
4. 病弱教育を巡る歴史の変遷
5. 病弱教育の場
6. 学校段階別の目的と課題
7. 学習指導要領と教育課程
8. 個別の指導計画と個別的教育支援計画
9. 自己の疾患理解を促す学習指導
10. 生活体験の補償に重点をおいた学習指導
11. ペッドサイドでの学習指導
12. 医療的ケアの習熟を促す学習指導
13. 自閉症スペクトラムの児童生徒の学習指導
14. 注意欠如多動性障害と学習障害の児童生徒の学習指導
15. 病弱者の教育をとりまく課題
16. 定期試験

使用教科書名

使用しない

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

肢体不自由を有する子どもの基本的理解を踏まえ、教育（指導法を含む）について講義を行う。講義においては、近年の特別支援教育の動向や肢体不自由教育における特別な配慮について解説する。また、障害の重度・重複化の傾向と個に応じた特別支援教育の必要性や在り方について事例を交えて解説する。

学習目標・到達目標

肢体不自由を有する子どもの基本的理解を踏まえ、また、子どもの抱える困難さ、教育に関する具体的な配慮について自ら考えることで理解を深める。併せて、特別支援教育に関わる教員としてもつべき視点や態度について学ぶことを目標とする。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(20%)、毎回の小テスト(20%)による総合評価とする。
*平常点は授業への参加状況や態度等で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 肢体不自由者の理解
2. ICFに基づく教育的ニーズの整理
3. 肢体不自由教育を巡る歴史の変遷
4. 肢体不自由教育の場
5. 学校段階別の目的と課題
6. 学習指導要領と教育課程
7. 個別の指導計画と個別的教育支援計画
8. 肢体不自由者のポジショニング指導
9. 知的障害を伴わない肢体不自由者の学習指導
10. 軽度・中度の知的障害を伴う肢体不自由者の学習指導
11. 重度知的障害を伴う肢体不自由者の学習指導
12. 肢体不自由者のコミュニケーション指導
13. 肢体不自由者の家族への支援
14. 肢体不自由者の卒後に向けた支援(キャリア教育、進路支援)
15. 肢体不自由者の教育をとりまく課題
16. 定期試験

使用教科書名

使用しない

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

知的障害者の発生要因や病理的特徴、学習、記憶、認知、思考等の心理的特徴から障害特性等の基礎的な知識を学び、知的障害児の定義、評価法、障害診断、病理、知的障害児・者の生活上の課題等について事例を取り上げながら理解を図る。

学習目標・到達目標

知的障害者の生物医学的発生要因や医学、診断医学的側面からの病理的特徴の理解、および心理的側面から障害特性について理解を深める。基礎的な概念を説明できるようになり、それらの概念を応用して、知的障害児者に対する支援方法を立案できるようになることを目指す。

評価方法その他

平常点(50%)、課題・試験結果(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- [1]～[6](担当:原田晋吾)
- ・授業日:後期オリエンテーション時に説明
- ＜授業内容:テキスト範囲＞
- ・ガイドス
- ・1章 発達と障害
- ・3章 脳の機能の発達と障害
- ・5章 認知の発達と障害
- [7]～[8](担当:大瀧潮)
- ・授業日:後期オリエンテーション時に説明
- ＜授業内容:テキスト範囲＞
- ・2章 発達障害を引き起こす原因
- ・4章 てんかんの病理と発達
- ・11章 脳性麻痺
- [9]～[12](担当:原田晋吾)
- ・授業日:後期オリエンテーション時に説明
- ＜授業内容:テキスト範囲＞
- ・6章 社会性と情緒の発達と障害
- ・8章 自閉症
- [13]～[14](担当:大瀧潮)
- ・授業日:後期オリエンテーション時に説明
- ＜授業内容:テキスト範囲＞
- ・7章 知的障害
- ・12章 重症心身障害
- 8章 発達と障害の診断

使用教科書名

発達障害児の病理と心理 改訂版／培風館／黒田吉孝、小松秀茂

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「聴覚障害とはどのような障害か」という点について、聞こえの状態、発達上の特徴や課題について学ぶと共に、特別支援学校や特別支援学級、通級指導教室等の各教育機関の役割や教育・指導上の特徴について講義を通じて学習する。また、自立活動および教科指導の側面を中心に教育・指導の理念や方法を巡る今日的課題について学習する。

学習目標・到達目標

本授業では聴覚障害の特性、聴覚障害児の発達や、教育システムについて学習することをめざし、本授業の受講によって、聴覚障害および聴覚障害教育に関する基礎的知識を学ぶことが期待される。学生には、基本的知識に加えて、聴覚障害児の自立を促すための教育や支援の在り方について、その現状や課題への関心を高めて欲しい。

評価方法その他

- ・平常の授業への取り組み 30%
→授業においてミニレポートを課す場合がある。
- ・テスト 70%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:学習内容の紹介
2. 聴覚障害とはどのような障害か？(1):聴覚障害の基礎と理解__1:音の物理の基礎と聞こえの程度
3. 聴覚障害とはどのような障害か？(2):聴覚障害の基礎と理解__2:障害の部位と特徴
4. 聴覚障害とはどのような障害か？(3):聴覚障害の基礎と理解__3:失聴時期による影響
5. 聴覚障害児の発達課題と支援(1)ー認知・知的能力の発達とその支援__1ー
6. 聴覚障害児の発達課題と支援(2)ー認知・知的能力の発達とその支援__2ー
7. 聴覚障害児の発達課題と支援(3)ー音声・書記言語の発達とその支援__1ー
8. 聴覚障害児の発達課題と支援(4)ー音声・書記言語の発達とその支援__2ー
9. 聴覚障害児の発達課題と支援(5)ーコミュニケーションの発達とその支援__1ー
10. 聴覚障害児の発達課題と支援(6)ー対人関係・社会性の発達とその支援__2ー
11. それぞれの教育機関とその特徴(1)ー特別支援学校の役割と教育内容ー
12. それぞれの教育機関とその特徴(2)ー特別支援学級・通級指導教室の役割と教育内容ー
13. それぞれの教育機関とその特徴(3)ー児童福祉施設・その他の教育機関の役割と教育内容ー
14. 聴覚障害児・者の支援に関する今日的課題
15. まとめ

使用教科書名

特に指定しない。
授業ではプリントを使用する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

重複障害を有する子どもの基本的理解を踏まえ、教育（指導法を含む）について講義を行う。講義においては、近年の特別支援教育の動向や教育現場における特別な配慮について解説する。特に、障害の重度・重症化の傾向に応じた合理的配慮の必要性、医療との連携の在り方について事例を交えて解説する。

学習目標・到達目標

重複障害を有する子どもの基本的特性を理解する。また、子どもの抱える困難さ、教育に関する具体的な配慮について自ら考えることで理解を深める。併せて、特別支援教育に関わる教員としてつべき視点や態度について学ぶことを目標とする。

評価方法その他

定期試験(60%)、平常点(20%)、毎回の小テスト(20%)による総合評価とする。
＊平常点は授業への参加状況や態度等で評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 重複障害の理解
2. 重複障害の子どもの実態と課題ー感覚障害を伴う重複障害ー
3. 重複障害の子どもの実態と課題ー知的障害と肢体不自由を伴う重複障害ー
4. 重複障害の子どもの実態と課題ー知的障害と自閉症スペクトラムを伴う重複障害ー
5. 重複障害の子どもの実態と課題ー医療的ケアを要する重複障害ー
6. 学習指導要領と教育課程
7. 個別の指導計画と個別の教育支援計画
8. 健康の保持に係る学習指導
9. 身体の動きに係る学習指導
10. 環境の把握に係る学習指導
11. 人間関係の形成、心理的な安定、コミュニケーションに係る学習指導
12. 医療的ケアを要する子どもの共同支援
13. 重複障害者の家族への支援
14. 重複障害者の卒後に向けた支援
15. 重複障害者の教育をとりまく課題
16. 定期試験

使用教科書名

使用しない

NO. G0003001	インターンシップ（3年次）	金森 敏
--------------	---------------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

企業や行政等の現場における実践的な体験を通して、組織で働くことの意味を考えてもらう。仕事を外見だけで判断するのではなく、隠れている部分を含めて総合的に理解し、仕事を担う重さと充実感（働き甲斐）を感じてもらいたい。なお研修先の面接で許可が得られれば、研修生として受け入れてもらえる。従って、受講生の希望に沿う研修先がない場合、あるいは、面接で断られた場合は研修が受けられないケースもでてくる。また、本授業はインターン実習後1～2回ほど振り返りを行う。本講義の受講者は全員参加を義務づける。これら2点を予め理解しておくこと。

学習目標・到達目標

インターンシップを通して、自分の適性をチェックするひとつの機会としてほしい。インターンシップを行う目的を理解し、積極的かつ主体的に取り組む姿勢を確立する。インターンシップの学びをキャリアデザインに結び付ける。インターンシップの学びを、今後の学生生活（就職活動も含む）に結びつける。企業先企業の研究を通して、業界・職種・会社についての知識を身に付ける。

評価方法その他

成果報告書70％
平常点30％

週 テーマ・授業目標等

- 前期
- 1回目：本授業の全体説明
- 2回目：1回目と同じ内容
- ＊1回目と2回目は同じ内容なので、学生はどちらか一方に参加すること。
- 3回目：インターンシップとは
- 4回目：成果報告書からインターンシップのイメージを把握する
- 5回目：先輩から聞くインターンシップの実像を知る
- 6回目：インターンシップに向けたエントリーシートの書き方
- 7回目：ビジネスマナー（1）外部講師予定
- 8回目：ビジネスマナー（2）同上
- 9回目～15回目：個別対応
- 後期
- 1回目～2回目：インターンシップの振り返り
- 3回目～4回目：インターンシップを今後に生かす

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00095001	キャリアデザインB	金森 敏
---------------	-----------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。なお就職活動に役立つ力を「入社する力」と呼び、生き方や働き方を「働き続ける力」と呼び、両者を区別する。そして本授業では後者の「働き続ける力」に力点がある。キャリアというどうしても個人の考え方から始まりがちだが、まずは、現代社会に対する理解を深める必要がある。なお、本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

自分がどのような時代や社会に生きているのかを認識し説明することができる。他者とのコミュニケーションを通して、自己を見つめなおし自分の考えを他者に説明することができる。自分の生き方や働き方を自分の言葉で記述することができる。

評価方法その他

レポート(60％)
宿題4～5回(40％)

週 テーマ・授業目標等

- 1.イントロ:授業概要について
- 2.キャリア教育とは何か
- 3.働くとは
- 4.憧れの人や彼らを取り巻く職業について考える
- 5.これまでとこれからの時代の流れを知る
- 6.社会についてわかっていないことを考える
- 7.社会を知ろう
- 8.やりたいことのうそ
- 9.幸せとは
- 10.職種・業界について考える
- 11.会社とは
- 12.良い会社とは
- 13.レポート作成について
- 14.キャリアジレンマについて
- 15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G00094001	キャリアデザインA	金森 敏
---------------	-----------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

キャリアは就職という言葉と結びつきがちであるが、この講義の目的は、広い意味での働き方、幸せな職業人生について考えるものである。したがって、就職活動や資格取得に直接役立つ授業ではない。就職活動や資格取得に興味がある人はその類のセミナーの受講を勧める。本授業では、単に職業や働き方を知るのではなく、「大学での学びとキャリア」がどのようにつながっているのかなどを含めて、多様な働き方について考えてもらう。なお本授業では、グループワークを中心に授業を行うので、受講者数の上限を設ける。

学習目標・到達目標

多様な働き方があることを知り、多様な考え方があることを知るができる。興味を持てる働き方と大学での学びがどう関係しているのかを「自分の言葉」で記述できる。

評価方法その他

レポート(60％)
宿題4～5回(40％)

週 テーマ・授業目標等

- 1.イントロ:授業概要の説明
- 2.大学での学びと働く
- 3.社会の多様な働き方
- 4.「社会にでる」ってどういうこと
- 5.学びと社会のつながりを知る
- 6.多様な働き方を知る
- 7.職種・業種を知る
- 8.会社を知る
- 9.チームワークを知る
- 10.リーダーシップを知る
- 11.社会に求められる能力
- 12.会社・職種・業界を知る
- 13.レポート作成について
- 14.仕事人生40年を考える
- 15.振り返り

使用教科書名

なし。必要な資料はプリントで配布します。

NO. G05001001	現代生活論（人間福祉学科）	朝倉 和子
---------------	---------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

研究の進め方、調査方法、分析方法、論文の書き方について具体的に学ぶ。

学習目標・到達目標

社会福祉を学んだ集大成として卒業研究があるが、その前段階としての基本的な調査方法、研究方法、論文の書き方を社会福祉分野に特化した形で学ぶ。

評価方法その他

平常点(50％)、課題(50％)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- [1]全体オリエンテーション／授業の進め方
- [2-3]図書館の活用について
- [4-6]研究論文とは(卒業研究に向けて)
- [7-10]レポート・論文の書き方
- [11-14]社会福祉分野における調査方法、論文について
- [15]まとめ

使用教科書名

NO. G05006001

社会調査法

小野 由美子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会調査の目的と意義を理解し、先行調査の結果を読み取る経験を通して、専門職として求められる社会調査の企画、実施、結果報告といった一連の知識と技術に関わる理解を深める。

学習目標・到達目標

社会調査の目的と意義を知る。
社会調査の様々な種類と方法を学び、データの読み取り方を身につける。
調査票の作成について適切な質問や選択肢が設定できる能力を習得する。
調査結果の取りまとめとグラフ化のポイントを学習する。

評価方法その他

- (1) 期末試験 40%
- (2) 課題提出 30%
- (3) 平常点 30%
- (平常点は、授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス(授業の目的・概要、授業計画、評価方法など)
- 社会福祉と社会調査
- 社会調査の概要: 量的調査を中心に
- 社会調査の概要: 質的調査を中心に
- 量的調査の方法①: 特徴と種類
- 量的調査の方法②: 調査票の作成方法と留意点
- 量的調査の方法③: 調査の実施と集計
- 量的調査の方法④: 集計結果の分析
- 質的調査の方法①: 特徴と種類
- 質的調査の方法②: 調査票の作成方法と留意点
- 質的調査の方法③: 調査の実施と集計
- 質的調査の方法④: 集計結果の分析
- 社会調査における倫理と個人情報保護
- ITを活用した社会調査
- 社会科学としての社会福祉
- 期末試験

使用教科書名

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 社会調査の基礎』中央法規出版、2013年

NO. G05007001

ソーシャルワーク各論Ⅲ

嶋田 芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

今日では、高齢者、児童、障害者福祉領域における援助技術として、ケアマネジメントが主流になりつつある。また、フォーマルなサービスとインフォーマルなサービスを組み合わせ、総合的に提供していくために必要なネットワークの構築も重要な課題となっている。そこで講義では、ケアマネジメントの手法およびネットワークの構築法を学ぶ。また、フィールドワークにより、福祉現場におけるネットワークの現状を理解する。

学習目標・到達目標

ケアマネジメントの手法およびネットワーク構築法について理解する

評価方法その他

平常点(授業・グループ討議への参加状況)20%、プレゼンテーション30%、定期試験50%

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- ケアマネジメントについて学ぶ(1)ーケアマネジメントとはー
- ケアマネジメントについて学ぶ(2)ーケアマネジメントの過程ー
- ケアマネジメントについて学ぶ(3)ーケアマネジメントの過程ー
- ケアマネジメント演習(1)ー事例を用いて各自がケアプランを作成ー
- ケアマネジメント演習(2)ーグループでケアプランを作成ー
- ケアマネジメント演習(3)ー各グループで作成したケアプランを発表し、全体で共有するー
- ネットワークについて学ぶ(1)ーネットワークとはー
- ネットワークについて学ぶ(2)ー事例を用いたネットワークづくりー
- ネットワークについて学ぶ(3)ーネットワークの課題と今後ー
- フィールドワークー地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査ー
- フィールドワークー地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査ー
- フィールドワークー地域包括支援センターにおけるネットワークの現状を把握するための訪問調査ー
- プレゼンテーションーフィールドワークによる調査結果の発表ー
- プレゼンテーションーフィールドワークによる調査結果の発表ー
- 定期試験

使用教科書名

必要に応じて、授業時にプリントを配布

NO. G05008001

ソーシャルワーク各論Ⅳ

高橋 幸三郎

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉援助に係る専門職の在り方について、地域を基盤とした児童・障害・高齢分野の実践事例に沿って理解を深めていく。
さまざまな実践の課題に焦点を当てることにより、社会福祉援助の実践モデルやアプローチを身につける。

学習目標・到達目標

社会福祉士が行う援助活動の全体像を把握する。
さまざまな局面で用いられる概念や実践モデルを学ぶ。

評価方法その他

レポート
記述式テスト
出席状況

週 テーマ・授業目標等

- 理論の方法に関する振り返り
- 直接援助と間接援助という枠組み
- 社会福祉士のお仕事
- 地域を基盤とした社会福祉援助: ①子育てと地域援助
- 地域を基盤とした社会福祉援助: ②子どもの障害を知らされる
- 地域を基盤とした社会福祉援助: ③障害児の福祉制度と地域援助
- 地域を基盤とした社会福祉援助: ④犯罪と地域支援
- 外部講師: 障害者の自立を考える
- 地域を基盤とした社会福祉援助: ⑤ボランティア参加の促進
- 施設建設に反対する地域住民への対処
- 差別をなくす方法: 社会活動法
- 小テスト: 国家試験対策
- 援助活動の原型: ①欧米に始まる
- 援助活動の原型: ②日本への導入
- まとめ

使用教科書名

『地域づくりの福祉援助: コミュニティワークははじめの一歩』(ミネルヴァ書房)

NO. G05012001

ソーシャルワーク演習Ⅱ

嶋田 芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

面接技法などの基本的な相談援助技術について、ロールプレイを中心とした体験学習を通して具体的、実践的に習得させる。

学習目標・到達目標

体験学習を通して、社会福祉の相談援助で求められる基本的な相談援助技術を習得すると同時に、自己理解を深め、援助者としての資質の向上を図る。

評価方法その他

平常点70%(授業への参加状況)、レポート30%

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 面接技法1ーあいづちー
- 面接技法2ー繰り返しー
- 面接技法3ー質問ー
- 総合演習(振り返り)
- ロールプレイによる中間試験(あいづち・繰り返し・質問)
- ロールプレイによる中間試験(あいづち・繰り返し・質問)
- ロールプレイによる中間試験(あいづち・繰り返し・質問)
- 面接技法4ー感情の反射ー
- 面接技法5ー支持ー
- 総合演習(振り返り)
- 事例に基づいた相談援助演習1ー高齢者ー
- 事例に基づいた相談援助演習2ー障害者ー
- 事例に基づいた相談援助演習3ー児童ー
- ロールプレイによる総合試験
- ロールプレイによる総合試験
- ロールプレイによる総合試験およびまとめ

使用教科書名

『社会福祉援助演習』中央法規出版

NO. G05013001

ソーシャルワーク演習Ⅲ

嶋田 芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「社会福祉援助演習Ⅱ」に続いて、インテーク、アセスメント、プランニング、援助の実施、モニタリング、援助の終結とアフターケア、援助の効果測定について、具体例を通して、ロールプレイング等の実技指導による少人数のゼミ形式で取組んでいく。本演習からは、特に社会福祉援助実習指導・実習との関連付けを意識して取組み、社会福祉士に必要とされる実践的な倫理と価値、知識と技術に基づく社会福祉援助に必要な力を習得する。

学習目標・到達目標

社会福祉士に求められる相談援助の「知識」「技術」を学び、概念で考える方法を身に着ける。観察・理解・分析・概念化をするための基礎的な能力を養成する。

評価方法その他

出席、発表、レポートなど演習内容への参加意欲を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1、社会福祉援助の実際(1):インテーク、アセスメント、観察・記録・マッピング
- 2、社会福祉援助の実際(2):プランニング
- 3、社会福祉援助の実際(3):援助の実施、モニタリング
- 4、社会福祉援助の実際(4):援助の終結とアフターケア
- 5、社会福祉援助の実際(5):援助の効果測定
- 6、具体例検討:高齢者への社会福祉援助(1)
- 7、具体例検討:高齢者への社会福祉援助(2)
- 8、具体例検討:児童への社会福祉援助(1)
- 9、具体例検討:児童への社会福祉援助(2)
- 10、具体例検討:障害者への社会福祉援助(1)
- 11、具体例検討:障害者への社会福祉援助(2)
- 12、具体例検討:母子への社会福祉援助(1)
- 13、具体例検討:母子への社会福祉援助(2)
- 14、具体例検討:経済的困窮への社会福祉援助(1)
- 15、具体例検討:経済的困窮への社会福祉援助(2)
- 16、まとめ

使用教科書名

『社会福祉士相談援助演習』(中央法規 2009年)
授業時にプリント類を配布

NO. G05018001

社会福祉リカレント講座Ⅰ

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験対策として、これまでの3年間で勉強してきた各科目の総復習を取組みます。国家試験合格に向け全員で努力していきます。従って、授業に参加しない方は履修登録を行わないでください。

学習目標・到達目標

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

評価方法その他

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第2回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第3回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第4回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第5回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第6回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第7回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第8回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第9回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第10回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第11回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第12回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第13回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第14回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第15回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策

使用教科書名

「社会福祉士国家試験のためのレビューブック2019」・「クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題開設2019」、以上、メディックメディア

NO. G05014001

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ソーシャルワーク実習指導Ⅰはソーシャルワーク実習へ向けての基礎知識を培うと共に、社会福祉専門職としての実践的な力量を養成していくことを目的とする。学生自らが積極的に援助演習や援助実習に取組んでいけることを目標とする。

学習目標・到達目標

専門職養成における社会福祉援助実習の目的・意義を十分に理解すること。

評価方法その他

出席50%および授業への参加度・レポート50%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 実習オリエンテーション
- 第2週 事前指導:実習の意義と目的について
- 第3週 事前指導:実習生の立場、義務、心構えについて
- 第4週 在校生による現場実習報告会への参加
- 第5週 在校生による現場実習報告会への参加
- 第6週 領域別学習(高齢者)
- 第7週 領域別学習(障害者)
- 第8週 領域別学習(児童・母子)
- 第9週 領域別学習(事務所等)
- 第10週 グループワーク
- 第11週 グループワーク
- 第12週 事前指導:実習ノートの書き方
- 第13週 事前指導:倫理
- 第14週 事前指導:実習実施に向けての基本的な心得
- 第15週 まとめ

使用教科書名

実習の手引き他、適宜授業中に示します。

NO. G05019001

社会福祉リカレント講座Ⅱ

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の受験対策として、これまでの3年間で勉強してきた各科目の総復習を取組みます。国家試験合格に向け全員で努力していきます。従って、授業に参加しない方は履修登録を行わないでください。

学習目標・到達目標

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

評価方法その他

国家試験の合格という目標に向けた努力を評価します。履修登録だけ行って授業に出席しないということのないようにしてください。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第2回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第3回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第4回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第5回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第6回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第7回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第8回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第9回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第10回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第11回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第12回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第13回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第14回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策
- 第15回 社会福祉士国家試験全19科目の受験対策

使用教科書名

「社会福祉士国家試験のためのレビューブック2019」・「クエスチョン・バンク社会福祉士国家試験問題開設2019」、以上、メディックメディア

NO. G05020001

卒業研究A

人間福祉学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

3年間学修した知識や実習で得た技術を統合して研究テーマを考え、成果をまとめることを目的とする。
Aでは個々のテーマに沿った調査、資料収集、整理分析をしながら論文としてまとめる準備を行い、前期終了時には中間報告を行う。

学習目標・到達目標

各自の論文テーマに沿った内容の枠組みを完成することができる。
資料収集するための文献検索の方法が理解でき、実際の検索から文献の収集ができる。

評価方法その他

平常点50% 中間報告書の成果50%

週 テーマ・授業目標等

1. 研究計画書の作成・提出
2. 研究目的・内容・方法の検討
3. 資料の収集と整理
4. 研究目的・内容・方法の再検討
5. 卒業研究の継続
6. 個別指導、グループ検討
7. 問題点の把握
8. 問題解決
9. KJ法
10. 文章化
11. 再構成
12. 資料批判
13. 結論への前提示
14. 中間報告書作成
15. 中間報告書提出

使用教科書名

各指導教員が個別に提示する。

NO. G05021001

卒業研究B

人間福祉学科 教員

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

卒業研究Aでまとめた資料（文献、調査項目等）をもとに論文としてまとめることを目的とする。終了後にはその成果を発表する。

学習目標・到達目標

各自の論文テーマに沿った内容を論文としてまとめることができる。
成果を発表でき、自己の論文を客観的に批判し、検証することができる。

評価方法その他

平常点50% 中間報告書の成果50%

週 テーマ・授業目標等

1. 中間報告書にもとづいた論文作成の準備
2. 各自の進捗状況に応じて個別指導を受ける。必要時グループ検討
3. 同上
4. 同上
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 同上
10. 同上
11. 論文提出準備
12. 論文提出
13. 卒業研究発表会
14. 事後検討
15. 事後検討

使用教科書名

NO. G05022001

社会保障論Ⅰ

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会保障制度は、社会福祉援助の具体的な実践活動に比べて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方は少なくないかもしれません。けれど、社会保障制度は人が社会で生きることの基礎となる、ある意味とても人間臭い制度でもあります。社会福祉援助では社会保障制度に関する具体的な知識を持っていることはとても大切なことです。例えば、福祉や医療、雇用、年金など、社会保障制度はさまざまな形で私たちの生活に具体的に関係する役割を担っています。そのようなことを意識して勉強していきたいと思っています。

学習目標・到達目標

具体的な社会保障制度を「分かる」こと！

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション、社会保障の歴史的発展と沿革
- 2 社会保障の理念の発達、社会保障の概念と範囲
- 3 社会保障の財政、社会保障の機能、社会保障の現代における課題
- 4 社会保障制度の体系と国際動向
- 5 社会保障制度の体系と国際動向 その2
- 6 年金保険制度
- 7 年金保険制度 その2
- 8 年金保険制度 その3
- 9 年金保険制度 その4
- 10 年金保険制度 その5
- 11 年金保険制度 その6
- 12 年金保険制度 その7
- 13 年金保険制度 その8
- 14 年金保険制度 その9
- 15 年金保険制度 その10

使用教科書名

特にありません。こちらでレジュメを渡します。

NO. G05023001

社会保障論Ⅱ

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会保障論Ⅰに続いて、何か機械的で堅苦しいイメージを持たれる方の少なくないかもしれない社会保障制度について、人が社会で生きることの基礎としての、ある意味とても人間臭い制度として社会保障制度を勉強していきたいと思っています。“実は大切なのですよ！”というようなことを意識して勉強していきたいと思っています。

学習目標・到達目標

具体的な社会保障制度を「分かる」こと！

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週 テーマ・授業目標等

- 1、医療保険制度
- 2、医療保険制度 その2
- 3、医療保険制度 その3
- 4、医療保険制度 その4
- 5、医療保険制度 その5
- 6、医療保険制度 その6
- 7、医療保険制度 その7
- 7、労働者災害補償保険制度
- 8、労働者災害補償保険制度 その2
- 9、雇用保険制度
- 10、雇用保険制度 その2
- 11、その他の社会保障制度
- 12、その他の社会保障制度 その2
- 13、民間保険
- 14、社会保険の管理運営
- 15、社会保障論まとめ

使用教科書名

特にありません。こちらでレジュメを渡します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、社会福祉施設の現状、歴史的発展、現代の課題、社会福祉施設の新しい動き、社会福祉施設のサービス、特に手順書の作り方（PDCAサイクルの方法）を学び、後半では、グループ学習として、サービスを起業する取組を行う。

学習目標・到達目標

この授業では、社会福祉施設の置かれている状況を歴史的に概観し、また経営環境における課題、またビジネス手法や財務管理、ビジネスに関する様々な理論と社会福祉ビジネスを取り巻く課題について理解する。また起業トレーニングを通じて、実際のシミュレーションを学ぶ。題を実践的に学び、その意義を理解する

評価方法その他

- 1) 平常点10% 2) レポート30%
- 3) グループ学習の発表60% かわりの度合いも評価するこれらの総合点

平常点:出席や授業態度、予習の状況の他/)

週 テーマ・授業目標等

- 1) オリエンテーション 社会福祉施設で暮らすとは何か
- 2) 社会福祉施設の現状
- 3) 社会福祉施設の歴史的発展 ①
- 4) 社会福祉施設の歴史的発展 ②
- 5) 社会福祉施設の現代的課題
- 6) 社会福祉施設の新しい動き サービスの小規模化 総合化
- 7) PDCAサイクルとは何か 手順書の作り方
- 8) 特別授業 現場では
- 9) グループ学習 デイサービスを起業する①
- 10) 同上②
- 11) 同上③
- 12) 同上④
- 13) まとめ
- 14) グループ発表
- 15) 社会福祉施設の財務を学ぶ

使用教科書名

なし

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

2000年の社会福祉法施行、社会福祉の基礎構造改革以降、社会福祉の行政財政と、関連する福祉計画は、公的責任の果たされ方や、民間社会福祉部門との連携のあり方など、実際にはいくつもの問題に直面しています。

この授業では、机上の勉強ではなく、＜生存権＞の保障を原点とする社会福祉行政の実際、その具体的な問題点について、具体的に勉強していきたいと思います。

学習目標・到達目標

社会福祉行政の仕組みと現状を具体的に理解することを通して、社会福祉計画の意味を把握する。

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週 テーマ・授業目標等

- 1.福祉計画
- 2.福祉行政
- 3.福祉計画と福祉行政の関係
- 4.福祉行政その1
- 5.福祉行政その2
- 6.福祉財政その1
- 7.福祉財政その2
- 8.福祉援助の実施・提供機関その1
- 9.福祉援助の実施・提供機関その2
- 10.福祉計画の目的と意義その1
- 11.福祉計画の目的と意義その2
- 12.福祉計画の理論と技法その1
- 13.福祉計画の理論と技法その2
- 14.福祉計画の実際その1
- 15.福祉計画の実際その2

使用教科書名

特にありません。こちらでレジュメを渡します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

憲法第25条に規定されている＜生存権＞は社会的な「セイフティネット」としての生活保護制度によって保障されているはずですが、けれども、実際の社会では、この制度を利用できずに餓死したり、路上・公園・河川敷等での野宿生活を強いられている人たちが実在します。何故なのでしょう？

権利とは言っても、実際にはとても利用しにくい制度、利用しにくい運用が行われている、それが現在の生活保護制度だと思います。あえて見ようとしないとなかなか見えてこない、この制度の実際を皆さんと一緒に考える勉強をしていきたいと思っています。

学習目標・到達目標

人が不運にして経済的貧困状況に陥った際に、「最低限の文化的な生活」を保障する役割を担う生活保護制度について、その制度・運用の実際を理解します。また、同制度とその運用上の問題点・課題を整理して、制度・運用のあり方について考えます。

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション、経済的貧困状況とは…
- 2.公的扶助の概念と範囲
- 3.公的扶助の歴史-欧米と日本-
- 4.公的扶助の役割と意義
- 5.生活保護制度の目的
- 6.生活保護制度の原理
- 7.生活保護制度の原則
- 8.制度利用者の権利と義務
- 9.保護の種類と内容・方法、保護施設
- 10.生活保護の運営実施体制(福祉事務所)と財源・予算
- 11.生活保護の運営実施体制(福祉事務所)の実際
- 12.生活保護の最近の動向
- 13.低所得対策の概要と他法・他施策等
- 14.現行生活保護法・制度の問題点と課題
- 15.現行生活保護法・制度の運用上の課題と問題点

使用教科書名

特にありません。こちらでレジュメを渡します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近年、保健医療と福祉の連携が強調されており、入院のみならず地域で暮らす高齢者・障害者にとって、両者は切っても切り離せない関係にある。また、昨今は不況による失業も深刻な社会問題となっており、低所得の無保険者に対する医療サービス提供の問題も表面化している。従来は、病院の医療ソーシャルワーカーが保健医療サービスに対する知識を必要としていたが、今は、地域支援に当たるすべての支援者にとって、保健医療の動向・制度の理解・他職種連携の理解等は欠かせないものとなっている。そこで、より現場目線に近い内容で授業を展開していき、また、社会福祉士国家試験対策の内容についても取り入れていく。

学習目標・到達目標

本科目においては、次の5つのテーマを学習目標・到達目標とする。①保健医療制度の変遷とそれを生み出した社会背景について理解する。②保健医療サービスの概要について理解する。③診療報酬制度の概要について理解する。④保健医療サービスにおける専門職の役割について理解する。⑤専門職の連携のあり方について理解する。

評価方法その他

最終試験(50%)、課題レポート(30%)、講義の出席状況(20%)で総合的に判断する。より具体的な評価方法等については、第1回目の授業の際に確認する。

週 テーマ・授業目標等

- ①オリエンテーション・授業全体の説明
- ②医療保険制度の概要と仕組みについて①
- ③医療保険制度の概要と仕組みについて②
- ④医療保険制度の概要と仕組みについて③
- ⑤介護保険制度の概要と仕組みについて①
- ⑥介護保険制度の概要と仕組みについて②
- ⑦介護保険制度の概要と仕組みについて③
- ⑧地域包括ケアシステムの概要と仕組みについて①
- ⑨地域包括ケアシステムの概要と仕組みについて②
- ⑩地域包括ケアシステムの概要と仕組みについて③
- ⑪保健医療サービスの概要について
- ⑫医療法における医療施設の機能と類型について①
- ⑬医療法における医療施設の機能と類型について②
- ⑭医療ソーシャルワーカーの役割について①
- ⑮医療ソーシャルワーカーの役割について②
- ⑯最終テスト

使用教科書名

新・社会福祉士養成講座17 保健医療サービス 第5版。
必要な資料については適宜配布する。

NO. G05028001

権利擁護と成年後見制度

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実際の社会には社会的排除や権利の侵害、また、「契約社会」にあって、自身の権利を正当に主張することの困難な状況を生きざるを得ない人々が存在する。そのような人達にとって、その権利を擁護し、社会福祉援助の力をもった社会福祉援助者としての基礎をしっかりと形成する。

学習目標・到達目標

社会福祉援助の活動に際して必要とされる日本国憲法の原理、民法、行政法等の理解、成年後見制度と日常生活自立支援制度の内容の理解、さらに、実際の権利擁護の実践活動に際しての問題点を理解する。以上の基本的理解に立脚して実際に社会的排除や権利侵害、認知症、知的障害、精神障害のために生活問題に遭遇する人達への具体的援助を展開していく力をつける。

評価方法その他

出席と試験。より具体的な評価方法については第1回目の授業で皆さんと確認したいと思っています。

週 テーマ・授業目標等

- 生活に身近な法律知識と成年後見制度、日常生活自立支援事業を軸とした、援助の内容を確実に理解することに重点をおく。
1. 社会福祉援助に関係する法律問題
 2. 日本国憲法の基本原理
 - 3民法の理解
 4. 行政法の理解
 5. 成年後見制度の概要
 6. 成年後見・成年補佐・成年補助制度の理解
 7. 親権と扶養の概要
 8. 成年後見制度の現状
 9. 日常生活自立支援事業の概要
 10. 日常生活自立支援事業の現状
 11. 成年後見制度利用支援事業
 12. 市町村、家庭裁判所等の関係機関
 13. 権利擁護活動の実際-認知症-
 14. 権利擁護活動の実際-消費者被害・虐待・障害児者-
 15. 権利擁護活動の実際-野宿生活者・アルコール依存等-

使用教科書名

特にありません。こちらでレジュメを渡します。

NO. G05033001

更生保護制度

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

刑事政策（犯罪対策）としての更生保護制度の位置づけを明確にしたうえで、更生保護制度の概要を説明する。また、更生保護制度の担い手である諸機関・団体及び担い手等について説明し、更生保護制度の特色である官民協働システムについて理解する。さらに、最近の更生保護で課題になっている司法と福祉との連携の必要性についても理解を深めていく。

学習目標・到達目標

社会福祉士等専門職としての相談援助活動において必要とされる更生保護制度(医療観察制度を含む)の全容について理解する。また更生保護を中心に、刑事司法、少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。そのうえで、刑事司法、少年司法分野の他機関等との連携の重要性について理解し、究極のソーシャルワークとしての更生保護制度のあり方を考える。

評価方法その他

出席(50%)と定期試験(50%)で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 刑事司法と更生保護制度
- 2 仮釈放と生活環境の調整
- 3 保護観察
- 4 更生緊急保護
- 5 更生保護制度の担い手、関係機関・団体との連携
- 6 医療観察制度の概要
- 7 更生保護の動向と今後の展望

使用教科書名

特にありません。こちらでレジュメを渡します。

NO. G05032001

就労支援

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現在の社会の中で、人が生きる際に「働く」ということは不可欠に必要なこととされている。しかし、実際にはさまざまな理由から「働く」ことから社会的に遠ざけられている人々がいる。そのため、就労にあたって何らかの支援を必要とする人々へ社会的に人が「働く」ことを支援していくことの必要性や労働を取り巻く環境について学ぶ。さらに、現代における就労支援の本質として、人が「働く」ということの社会的な意味を考え、人が「働く」ことを社会的に保障する方向性や今後の改善につながる視点を学ぶ。

学習目標・到達目標

ソーシャルワーカーが担う就労支援の特徴として、生活全体への支援、権利擁護の視点が重要である。就労支援制度と就労支援に係る組織や団体、専門職の意義等について社会福祉士に求められる役割を理解し、福祉・教育・保健医療の各分野との連携や課題、その実際について学ぶことを目標とする。

評価方法その他

平常点(50%)、終了時調査課題(50%)の総合評価(平常点は授業への参加状況・討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 1.オリエンテーション・働くことの意味と社会福祉士の役割
- 2.雇用・就労の動向と施策
- 3.障害と就労支援(1)
- 4.障害と就労支援(2)
- 5.専門職の役割と実際(1)
- 6.低所得者と就労支援(1)・専門職の役割と実際(2)、就労支援の連携と実際(1)
- 7.低所得者と就労支援(2)・専門職の役割と実際(3)、就労支援の連携と実際(2)
- 15.まとめ(8～14 更生保護制度)

使用教科書名

特にありません。こちらでレジュメを渡します。

NO. G05034001

スクールソーシャルワーク

芦田 正博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

スクールソーシャルワークの理論と基礎を学習したうえで、新聞記事や教育現場を訪問することのなかから我が国の学校教育現場が抱える課題をとりあげ、スクールソーシャルワーカーの果たすべき役割と支援方法について学ぶ。

学習目標・到達目標

- ・今日の学校教育現場が抱える課題について理解する。
- ・スクールソーシャルワークの発展過程と実践モデルについて理解する。
- ・スクールソーシャルワーカーの役割と支援方法について理解する。

評価方法その他

平常点50%、レポート50%
(平常点は、授業への参加状況、受講への意欲、討論への参加等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 子どもの現状
2. スクールソーシャルワークの国際的動向
3. スクールソーシャルワークをめぐる行政と民間の動向
4. スクールソーシャルワークの理論
5. 子どもの権利擁護実践者としてのスクールソーシャルワーカーの役割
6. スクールソーシャルワークと社会資源
7. メンタルヘルスに関わる問題とスクールソーシャルワーク
8. スクールソーシャルワークと子ども虐待
9. 特別支援教育とスクールソーシャルワーク
10. 学校・教師・学習とスクールソーシャルワーク
11. スクールソーシャルワークと他職種との連携
12. 事例検討(貧困)
13. 事例検討(虐待)
14. 事例検討(不登校)
15. 事例検討(発達障害)

使用教科書名

スクールソーシャルワーク論 中央法規

NO. G05044001

精神障害者の生活支援

朝倉 和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

精神障害者の地域生活を支える支援の制度・施策について、居住支援、就労支援、日中活動支援等の具体的な取り組みを通して理解し、トータルな生活支援システムについて考える。

学習目標・到達目標

精神保健福祉関連科目の総集編として、関連知識を確実に身につけ、国家試験に対応できる総合的な力を獲得する。

評価方法その他

定期試験 60%、平常点 40%
平常点は、出席、参加意欲、小テスト、リアクション・ペーパー等を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

- 1 精神障害者が地域で暮らすということ
- 2 精神障害者の地域生活の実際
- 3 精神障害者の地域生活と人権
- 4 精神障害者の居住支援に関する制度、施策
- 5 精神障害者の居住支援の実例－グループホーム、ケアホーム
- 6 精神障害者の居住支援の実例－単身生活支援、アウトリーチ
- 7 精神障害者の就労支援に関する制度、施策
- 8 精神障害者の就労支援の歴史と現在
- 9 精神障害者の就労支援の実例
- 10 発達障害、高次脳機能障害の就労支援、うつ病のリワーク支援
- 11 地域活動支援センターと精神障害者の日中活動支援
- 12 精神障害者の地域性生活支援システム
- 13 行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動
- 14 市町村における精神保健福祉士の相談援助活動
- 15 精神保健福祉センター、保健所における精神保健福祉士の相談援助活動
- 16 まとめ、定期試験

使用教科書名

毎回、レジュメ、プリントを配布する。

NO. G05048001

精神保健福祉援助実習

朝倉 和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

2ヶ所、計24日間の配属実習では、精神障害者の医療・リハビリテーション・地域生活支援の実際を知ると同時に、実習先で出会った精神障害者たちと直接向き合う体験を通して、病気や障害を抱えての生きづらさへの共感を深め、精神保健福祉士の役割を認識し、必要な支援を組み立てる力を高めることができるよう期待する。

学習目標・到達目標

精神保健福祉援助実習は、原則として4年次の前期の期間内に、精神科病院と地域生活支援施設の2ヶ所で、12日間ずつ計24日間の配属実習を行う。現場体験を通して、精神障害者の医療・リハビリテーション・地域生活支援の実際をこの目で知ること目標とし、その際、個人票、実習計画票の作成という事前準備から、実習中の日誌、実習後の報告書作成まで、書くことを通して「伝える」という作業が重要視される。

評価方法その他

3年後期の実習準備から、4年次の計24日間の配属実習での課題達成度、及び報告書作成までを総合評価し、4年次の終わりに成績をつける。

週 テーマ・授業目標等

- 1 事前学習
(1)精神保健福祉援助実習指導Ⅰ(3年後期)－見学、当事者との交流等
(2) " Ⅱ(4年前期)－個人票、実習計画書等作成
- 2 配属実習
(1)精神科医療機関 12日間、90時間以上
(基本実習モデル)
・初日 :オリエンテーション、医療相談室(or地域連携室)
・4日間:病棟体験、作業療法等
・2日間:デイケア・ナイトケア
・1日間:外来診療・訪問看護
・3日間:医療相談室(相談面接、家族支援、家族教室、地域連携)
・最終日:まとめ、実習報告
(2)地域生活支援施設 12日間、90時間以上
(基本実習モデル)
・初日 :オリエンテーション
・4日間:相談支援事業所or地域活動支援センター
・4日間:就労移行or就労継続支援事業所
・1日間:グループホーム・ケアホーム
・1日間:地域連携、アウトリーチ
・最終日:まとめ、実習報告
- 3 事後学習
(3)精神保健福祉援助実習指導Ⅲ(4年後期)－実習報告書作成、実習報告会

使用教科書名

「実習の手引き」他

NO. G05048001

精神保健福祉援助実習指導Ⅱ

朝倉 和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実習の実習生個人票、実習計画票の作成から、実習中の日誌・まとめまで、主に文章化を通して、自分の思いや考え、実習体験からの学びを的確に人に伝えることが出来ること。

学習目標・到達目標

周到な心身の準備を整えて実習に臨むとともに、実習で学んだ具体的な体験や学び、気づきを的確に概念化、文章化し、人に伝えることができるようになること。

評価方法その他

出席、授業への参加態度、個人票や実習計画表等の課題への取り組み、実習のまとめや、実習報告書等を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

週 テーマ・授業目標等

- 1 実習オリエンテーション
- 2 実習生個人票作成(精神科医療機関)
- 3 精神科医療機関実習に必要な専門知識
- 4 精神科医療機関におけるPSWの援助技術
- 5 実習計画票作成
(配属実習1:精神科医療機関)
- 6 精神科医療機関実習振り返り
- 7 精神科医療機関実習振り返り
- 8 精神科医療機関実習のまとめ
- 9 実習生個人票作成(地域支援・相談支援施設)
- 10 地域支援施設実習に必要な専門知識
- 11 地域支援施設におけるPSWの援助技術
- 12 実習計画票作成
(配属実習2:地域支援・相談支援施設)
- 13 地域支援・相談支援施設実習振り返り
- 14 地域支援・相談支援施設実習振り返り
- 15 地域支援施設・相談支援施設実習まとめ

使用教科書名

NO. G05065001

福祉の心理学

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

福祉の心理学の課題は広い。児童、障害者、高齢者など福祉の対応を必要とする人々やその家族の心理的な問題、さらにはケースワーカーなど福祉の援助活動に携わる人々の心理的な問題等広範多岐に及ぶ。ここでは主として障害者や高齢者の心理的な問題に焦点を当てて、その援助方法について探求する。

学習目標・到達目標

社会福祉の実践現場で、すぐに役に立つような利用者の心理を理解し、また基本的な援助方法の理論を学習する。

評価方法その他

毎回の授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 高齢者の心理的な特徴
- 2 高齢者の課題
- 3 高齢者への効果的な援助方法
- 4 障害者の心理的な特徴
- 5 障害者の課題
- 6 障害者への効果的な援助方法
- 7 クライアント理解の方法
- 8 ケース理解の方法
- 9 受容的態度と共感的理解
- 10 面接の意義と方法
- 11 アセスメントの福祉心理学的な視点
- 12 心理検査の効用と限界
- 13 心理検査－質問紙法、投影法など
- 14 心理療法－カウンセリング、家族療法、交流分析等
- 15 まとめ
- 16 定期試験

使用教科書名

授業開始後、退って指示

NO. G05066001

こころの障害者心理

糸井 千尋

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

代表的な障害についての基礎的な知識を得る（第1回～8回）。それらの知識を身につけた上で、障害を抱える方への心理的な支援の方法について考える（第9回）。更に、グループワークを通じて、障害を抱える方の心理についての考察を深める（第10回～14回）。

学習目標・到達目標

障害の知識を身につけ、その障害を抱える人々や、その周りの人々の心理を想像できる力を身につける

評価方法その他

平常点(50%)、授業中の小レポート(20%)、グループ発表(30%)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・障害の捉え方
2. 知的障害児・者の特性と心理
3. 発達障害児の特性と心理
4. 発達障害者の特性と心理
5. 精神障害者の特性と心理①
6. 精神障害者の特性と心理②
7. 高次脳機能障害者の特性と心理
8. 認知症者の特性と心理
9. 福祉・教育・医療分野における相談援助-他職種との協働
10. グループワーク①:発達障害児の理解
11. グループワーク②:発達障害者の理解
12. グループワーク③:高次脳機能障害者の理解
13. グループワーク④:認知症者の理解
14. グループワーク⑤:プレゼンテーションの発表
15. 総括・まとめ

使用教科書名

「特に指定しない」

NO. G05074001

地域福祉論Ⅱ

嶋田 芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

地域福祉論Ⅰを基盤に本授業では、地域福祉を推進するために必要な援助技術（コミュニティワーク、コミュニティソーシャルワーク）や福祉計画についての知識や技術を習得するとともに、権利擁護や福祉教育などに関する知識の習得をめざす。また、フィールドワークで収集した各地域包括支援センターの「地域づくり」に向けた取り組みを共有する

学習目標・到達目標

地域福祉の推進方法、地域における権利擁護、福祉教育について理解する

評価方法その他

平常点20%（授業・グループ討議への参加状況）、フィールドワークおよびプレゼンテーション20%、課題提出10%、定期試験50%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. フィールドワーク発表
3. フィールドワーク発表
4. 地域福祉の推進法(1)―地域福祉推進法の概要―
5. 地域福祉の推進法(2)―コミュニティワークの過程―
6. 地域福祉の推進法(3)コミュニティソーシャルワークの過程―
7. 地域福祉の推進法(4)地域福祉計画の概要
8. 地域福祉の推進法(5)地域福祉計画の立案過程
9. 地域における権利擁護(1)―権利擁護の概要―
10. 地域における権利擁護(2)―日常生活自立支援事業―・成年後見制度―
11. 福祉教育(1)―福祉教育の概要―
12. 福祉教育(2)―福祉教育の課題―
13. 地域福祉演習(1)―各グループごとに事例を基に課題解決を図る計画を立案―
14. 地域福祉演習(2)―各グループごとの計画を発表し、共有する―
- 15.まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

『(第2版)地域福祉の原理と方法』学文社
必要に応じて、プリントを配布

NO. G05073001

地域福祉論Ⅰ

嶋田 芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

わが国の社会福祉も大きな転換を遂げ、今や住民にとって身近な市町村を基盤に、行政と地域社会が協働して、福祉システムを形成し、サービスを提供していく時代に入っている。そこで授業では、新しい社会福祉のあり方や地域福祉に係わる基礎的な知識や枠組みを学ぶことで、社会福祉専門職として身につけておくべき視点の習得をめざす

学習目標・到達目標

地域福祉推進の背景、地域社会、コミュニティ、概念、地域福祉の流れ(日本とイギリス)、地域福祉組織と人について理解する

評価方法その他

平常点20%（授業・グループ討議への参加状況）、課題提出20%、定期試験60%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 地域福祉推進の背景(1)―産業構造の変化から―
3. 地域福祉推進の背景(2)―少子高齢社会から―
4. 地域社会の特性(1)―地域共同体・伝統型アミ型地域社会―
5. 地域社会の特性(2)―個我・コミュニティ型地域社会―
6. コミュニティとは
7. 地域福祉の概念(1)―構造的アプローチからみた概念―
8. 地域福祉の概念(2)―機能的アプローチからみた概念―
9. 地域福祉の理念(1)―ノーマライゼーション・住民主体―
10. 地域福祉の理念(2)―ボランタリズム・ソーシャルインクルージョン―
11. 日本における地域福祉
12. イギリスにおける地域福祉
13. 地域福祉を支える組織(1)―国・都道府県・市町村の役割―
14. 地域福祉を支える組織(2)―民間部門の役割―
15. 地域福祉を支える人
16. 定期試験

使用教科書名

『(第2版)地域福祉の原理と方法』学文社
必要に応じてプリントを配布

NO. G05075001

精神保健福祉援助実習指導Ⅲ

朝倉 和子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・グループ討議による実習振り返り。
- ・実習報告書の作成
- ・実習報告会開催

学習目標・到達目標

・実習体験とその総括を通して、精神保健福祉士としての基本的な能力、資質を確立する。

評価方法その他

出席、学習態度、発表、実習報告書、その他の提出物等を総合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 週 テーマ 授業目標等
- 1 オリエンテーション
- 2 精神科医療機関実習を終えてのグループ討議(1)
- 3 精神科医療機関実習を終えてのグループ討議(2)
- 4 精神科医療機関における精神保健福祉士
- 5 地域支援・相談支援施設実習を終えてのグループ討議(1)
- 6 地域支援・相談支援施設実習を終えてのグループ討議(2)
- 7 地域支援・相談支援施設における精神保健福祉士
- 8 4年生から3年生に向けての実習申し送り(1)
- 9 4年生から3年生に向けての実習申し送り(2)
- 10 実習報告書作成(1)
- 11 実習報告書作成(2)
- 12 実習報告書作成(3)
- 13 実習報告会(1)
- 14 実習報告会(2)
- 15 全体総括

使用教科書名

精神保健福祉援助実習の手引き・他

NO. G05076001

IT活用演習

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

表計算や文書・プレゼンテーションの作成を行う情報技術を業務や生活に活用できるようにするための基礎的な演習を行う。それらの技術を利用するスキルに関する一般レベルの資格における内容評価基準の一部に対応できるようにする。表計算では、ヘッダーとフッター・印刷・図などについても取り扱う。文書の作成では、共有・テンプレート・検索と置換などについても取り扱う。また、業務や生活におけるメールでのコミュニケーションの演習も行う。
【持ち物】USBフラッシュメモリ
【履修条件】本学のメールアドレスを扱えること

学習目標・到達目標

表計算や文書・プレゼンテーションの作成を行う情報技術を業務や生活にしっかりと活用できる。業務や生活においてメールでの良いコミュニケーションを行うことができる。

評価方法その他

平常点(5%)・提出物(75%)・定期試験(20%)
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. メールでのコミュニケーション
3. 表計算環境の管理
4. セルやワークシートの書式設定
5. ワークシートやブックの管理
6. 数式や関数の適用
7. 視覚的なデータの表示
8. データの共有
9. 文書の共有と管理
10. 文書の書式設定
11. ページのレイアウトと再利用可能なコンテンツの適用
12. 文書の校正
13. 参考資料とハイパーリンクの適用
14. 差し込み印刷の実行
15. プレゼンテーションの作成
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G05077001

生活実践英会話

マーク ルイス

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

The content of this course moves from simple introductions to more complex conversational topics. Students taking this course should gradually at ease when discussing topics from their lives.

学習目標・到達目標

This course provides students English conversational patterns of speaking and listening, with emphasis on experience from their lives. Students will be provided with speaking models and practical time to speak with classmates.

評価方法その他

Evaluation will be determined by attendance and attitude (40%) and by a final interview conversation with a partner. This final interview will show how comfortable students have become using everyday English patterns.

週 テーマ・授業目標等

- Week 1: How was your summer vacation?
- Week 2: Did you have dinner last night?
- Week 3: How many people are there in your family?
- Week 4: What are you going to do after school today?
- Week 5: Do you belong to any circles or clubs?
- Week 6: Do you work?
- Week 7: Do you like singing karaoke?
- Week 8: When did you last go to a hair salon?
- Week 9: Do you have a pet at home?
- Week 10: Do you like going out for a drink or eating out with friends?
- Week 11: Are you worried about anything at the moment?
- Week 12: Do you cook and clean your place?
- Week 13: Did you shop at a convenience store yesterday?
- Week 14: Do you like shopping? Have you ever bought something online
- Week 15: Final interview with a partner

使用教科書名

Say What You Like 3, by Matt Takahashi, Hot Cocoa Press

NO. G05076002

社会福祉情報演習Ⅰ

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

表計算や文書・プレゼンテーションの作成を行う情報技術を業務や生活に活用できるようにするための基礎的な演習を行う。それらの技術を利用するスキルに関する一般レベルの資格における内容評価基準の一部に対応できるようにする。表計算では、ヘッダーとフッター・印刷・図などについても取り扱う。文書の作成では、共有・テンプレート・検索と置換などについても取り扱う。また、業務や生活におけるメールでのコミュニケーションの演習も行う。
【持ち物】USBフラッシュメモリ
【履修条件】本学のメールアドレスを扱えること

学習目標・到達目標

表計算や文書・プレゼンテーションの作成を行う情報技術を業務や生活にしっかりと活用できる。業務や生活においてメールでの良いコミュニケーションを行うことができる。

評価方法その他

平常点(5%)・提出物(75%)・定期試験(20%)
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. メールでのコミュニケーション
3. 表計算環境の管理
4. セルやワークシートの書式設定
5. ワークシートやブックの管理
6. 数式や関数の適用
7. 視覚的なデータの表示
8. データの共有
9. 文書の共有と管理
10. 文書の書式設定
11. ページのレイアウトと再利用可能なコンテンツの適用
12. 文書の校正
13. 参考資料とハイパーリンクの適用
14. 差し込み印刷の実行
15. プレゼンテーションの作成
16. 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G05100401

心理学実験Ⅰ

加地 雄一

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

心理実験・調査を企画し実験者・被験者として体験する。データの収集、データの処理、t検定を中心とした推計学的検定。心理学レポート作成、プレゼンテーションなどの一連の作業を通じて、心理学実験の基礎的知識と実践力を習得する。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法Ⅰ、反応時間実験、両側性転移実験、錯視実験、生理心理実験、記憶実験、実験全体の総括で構成される。
プレゼンテーションのスキルも学ぶ。心理学a、bおよび統計学入門、基礎統計学を履

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

実験レポート80%、平常点(出席・コメント等の参加度)20%

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 心理学実験とは;反応時間実験、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その 1
- 第2週 心理学実験とは、実験・調査のデザインとは、データの収集と分析法、レポートの作り方、その 2
- 第3週 心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その1
- 第4週 心理統計における相関分析、t検定、カイ自乗検定等を学ぶ、その2
- 第5週 反応時間実験を行う。パソコンを使った心理実験としての技能も学ぶ
- 第6週 鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その1
- 第7週 鏡映描写実験により学習のプロセスを実験する、その2
- 第8週 錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その1
- 第9週 錯視の発生メカニズムについて実験を通じて理解する、その2
- 第10週 中間の総括
- 第11週 感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その1
- 第12週 感情の変化と自律神経の機能を実験を通じ理解する、その2
- 第13週 系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その1
- 第14週 系列位置効果実験により記憶の情報処理過程を実験する、その2
- 第15週 全体についての論議

使用教科書名

NO. G05100501	心理学実験Ⅱ
加地 雄一	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「心理学実験Ⅰ」に引き続き心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。ここでは、より高度な統計学分析を学習する。実験の進行状況によっては時間内に目的を達成できない場合もありうる。受講生は課題ごとにレポートの提出が義務づけられ、レポートは添削返却するのでスキルアップが出来る。内容は、心理統計法、視覚情報処理による認知実験、認知的葛藤の測定実験、SD法によるイメージ実験、家庭用ロボットを使った行動観察・動作分析実験、実験全体の総括で構成される。プレゼンテーション実習も行う。履修条件として「心理学実験Ⅰ」を単位修得していること。

学習目標・到達目標

新たな知識・情報を学習し日常生活場面への活用も考える。

評価方法その他

実験レポート80％、平常点(出席・コメント等の参加度)20％

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 ガイダンス、実験・調査の方法、データの分析とまとめ方、レポートの形式と内容について
- 第2週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その1
- 第3週 心理統計における分散分析、多変量分析について学ぶ、その2
- 第4週 視覚情報処理による認知実験
- 第5週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その1
- 第6週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その2
- 第7週 イメージなどの評定尺度構成を実習し因子分析法を習得する その3
- 第8週 認知的葛藤の測定実験を行う その1
- 第9週 認知的葛藤の測定実験を行う その2
- 第10週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その1
- 第11週 行動のコーディングと分析法を実験を通じて学習する その2
- 第12週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その1
- 第13週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その2
- 第14週 アンケート法の基礎と実践を行いデータの分析と解釈法を学ぶ その3
- 第15週 全体についての論議

使用教科書名

NO. G05102001	障害者福祉論
高橋 幸三郎	

NO. G05102001	障害者福祉論
高橋 幸三郎	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、障害の問題を子どもの誕生から成長に伴う変化に着目しか考えていきません。障害を持って産まれて、ライフコースに沿った具体的な困難と社会福祉援助のあり方を考えていきます。校外授業（ハンセイ病記念資料館：東村山市）は、受講の条件になっています。

学習目標・到達目標

障害者福祉に関わる基本的理念と制度の理解を深めることが学習目標です。

評価方法その他

出席・中間レポート・事前レポート・学期末試験を総合して行います。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション:障害者福祉とは
- 自分の体験から障害を考える:障害をどのようにイメージするか
- 障害とは
- 障害の概念と障害者の定義
- 障害者支援の理念
- 郊外授業:ハンセン病記念館(差別と偏見の歴史的理解)
- 国家試験対策
- 障害者の生活実態
- 障害者福祉制度の発展
- 障害者総合支援法
- 成人期:きょうだいとの関係
- 障害者基本法と障害種別各法
- その他の関連法
- 地域生活と障害者福祉
- まとめ
- 定期試験

使用教科書名

MINERVA福祉資格テキスト:社会福祉士・精神保健福祉士＜共通科目編＞ ミネルヴァ書房 2012年

NO. G05101901	福祉の社会学
中條 共子	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業では、社会学の代表的な概念と理論を用いて、福祉の対象となるようなさまざまな社会現象について、それが「何であるのか」の輪郭をとらえていきます。また、福祉の実践が、それらの社会現象に「どのように」かわり得るのかについても考察していきます。

学習目標・到達目標

社会学が生み出す理論や概念は、社会を鳥の視界や虫の視界から見ることを可能とする、いわば「ウェアブル端末」です。本授業では社会学の概念や理論の学びを通して、学生自身が、「貧困」や「虐待」などの福祉的課題への新たな理解の道筋を発見していくことを学習目標とします。

評価方法その他

まとめのレポート70％、小テスト・小レポート30％で評価します。

週 テーマ・授業目標等

- 「社会」への接近方法
- 社会をシステムとみる見方
- 硬くて大きなシステムとしての制度
- さまざまな集団
- 生活環境の変化
- 生活条件の変化
- 人口変動と社会
- 社会変動論のいろいろ
- 行為とつながり
- 自己と役割
- 合理性と矛盾
- 逸脱の諸理論
- 貧困と社会的排除
- 家族の変化
- ケアの社会学

使用教科書名

社会福祉士養成講座編集委員会編「社会理論と社会システム（新・社会福祉士養成講座）」中央法規出版

NO. G05102101	児童福祉論
市川 和男	

NO. G05102101	児童福祉論
市川 和男	

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

児童福祉の理念と意義、現代社会における児童の成長・発達と生活実態、それらにおける問題点や、児童福祉制度の歴史的社会的背景について理解する。さらに、児童に関する福祉ニーズの捉え方や、現在の児童福祉に関する法律および制度、福祉サービス体系について学ぶ。

学習目標・到達目標

1)児童福祉の意義及び歴史的展開過程について理解できるようになる。
2)児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に理解できるようになる。
3)児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要(子育て、ひとり親家庭、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなど)に対するサービスの現状と課題を理解できるようになる。
4)児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割や現状と課題にういて理解できるようになる。

評価方法その他

・児童福祉の意義及び歴史的展開過程、児童福祉の法律、制度、福祉機関、施設を体系的に理解できるようになったか、児童の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、人権擁護、児童福祉需要に対するサービスの現状と課題を理解できるようになったか、児童福祉の専門職としての社会福祉士、保育士などの役割や現状と課題を理解できるようにする。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション 児童家庭福祉とは何かー人権擁護の視点から現代の社会と子どもの生活 子どもの生活環境の変化(5/12(土)1～3限)
- 子どもの成長や発達と子育てをめぐる問題(5/12(土)1～3限)
- 児童家庭福祉の理念と概念(5/12(土)1～3限)
- 児童家庭福祉の歴史(6/16(土)1～4限)
- 児童家庭福祉行財政・施策と法体系(6/16(土)1～4限)
- 児童家庭福祉の行財政と制度(6/16(土)1～4限)
- 児童家庭福祉と保育(6/16(土)1～4限)
- 児童家庭福祉と社会的養護ー児童虐待・ドメスティックバイオレンス(6/30(土)1～3限)
- 非行問題(6/30(土)1～3限)
- 障害児問題(6/30(土)1～3限)
- 次世代育成支援と子どもの遊びの保障(7/14(土)1～5限)
- 児童家庭福祉の専門職(7/14(土)1～5限)
- 児童福祉施設と連携ネットワーク(7/14(土)1～5限)
- 世界の子どもたち&児童家庭福祉の今後(7/14(土)1～5限)
- まとめ (7/14(土)1～5限)

使用教科書名

松本園子・堀口美智子・森和子編著『子どもと家庭の福祉を学ぶ』ななみ書房 2017年

NO. G05102301

高齢者福祉論Ⅰ

西口 守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

この授業では、高齢者の心身の状況、社会的課題、高齢者関連法規として老人福祉法、高齢者医療確保法（旧老人保健法）、介護保険を学ぶ。また虐待防止法や、その他の高齢者サービス法令を学習する。

学習目標・到達目標

わが国の少子高齢社会の現状を理解し、特にこの中でも高齢者を支える、福祉、介護、医療、住宅制度について理解する。

評価方法その他

平常点 20% ミニテスト(小論文) 15% 学期末試験 65%
これらの総合点とする
平常点:出席や授業態度、予習復習の状況の他、井上先生と合議し評価する

週 テーマ・授業目標等

- 1) オリエンテーション
- 2) 命の終わりを考える・安楽死と尊厳死
- 3) 高齢者の心身の状況 身体的側面
- 4) 高齢者の心身の状況 心理的側面
- 5) 高齢者の社会的状況①
- 6) 高齢者の社会的状況②
- 7) 高齢者の生活困難
- 8) 高齢者の保健福祉制度の体系
- 9) 老人福祉法
- 10) 高齢者医療の体系理解
- 11) 高齢者医療確保法 後期高齢者医療とは何か
- 12) 特別講演
- 13) 介護保険法
- 14) 介護保険法の実際
- 15) 授業のまとめ
- 16) 試験

使用教科書名

新 社会福祉士養成講座 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規

NO. G05102401

高齢者福祉論Ⅱ

嶋田 芳男

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

公的介護保険制度の創設により、措置から契約へとパラダイムの転換が図られた。そこで問われるのは、利用者本位の視点に基づいたサービス提供であり、これを可能とする支援システムの構築である。講義では、介護保険制度における居宅と施設サービス等の内容を詳細に示すことで、介護保険に関する基礎的知識の習得をめざす

学習目標・到達目標

介護保険制度に関する基礎的知識を習得する

評価方法その他

平常点(授業・グループ討議への参加状況)20%、課題提出20%、
定期試験60%

週 テーマ・授業目標等

1. 公的介護保険制度が導入された背景
2. 公的介護保険制度の現状
3. 居宅サービスの内容(1)ー訪問介護・訪問看護・訪問リハビリー
4. 居宅サービスの内容(2)ー居宅療養管理指導・訪問入浴介護・通所介護ー
5. 居宅サービスの内容(3)ー通所リハビリ・短期入所生活介護・短期入所療養介護ー
6. 居宅サービスの内容(4)ー特定施設入居者生活介護・福祉用具の貸与・住宅改修ー
7. 居宅サービスの内容(5)ー介護予防の各種サービスー
8. 地域密着型サービスの内容(1)ー夜間対応型訪問介護・認知症対応型通所介護ー
9. 地域密着型サービスの内容(2)ー小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護ー
10. 施設サービスの内容(1)ー介護老人福祉施設ー
11. 施設サービスの内容(2)ー介護老人保健施設・介護療養型医療施設ー
12. 地域支援事業の内容
13. 公的介護保険制度における介護報酬(居宅・施設)
14. 介護報酬を踏まえたケアマネジメント演習(1)ー事例を用いてグループでケアプランを作成ー
15. 介護報酬を踏まえたケアマネジメント演習(2)ーグループ別に作成したケアプランを発表し、全体で共有ー
16. 定期試験

使用教科書名

高齢者に対する支援と介護保険制度(高齢者福祉論Ⅰで使用したテキスト)／福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版

NO. G05102501

精神保健学

糸井 千尋

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1. 人が成長する過程で直面する発達課題について(第2、3回)
 2. 代表的な精神障害の診断・治療・予防に関する基礎的な知識(第5~7回)
 3. 家族・学校・社会の課題と精神保健(第8~11回)
 4. 社会で生きていく上でのストレスに対応するセルフケアの方法(第13、14回)
- これらの講義を通して、精神保健の問題は身近な問題であることに気づき、これらの人生でも応用可能な知識やセルフケアの方法を身につける。

学習目標・到達目標

現代における精神保健学の重要性を理解する。

評価方法その他

平常点(60%)、授業中の小レポート(20%)、学期末レポート(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 精神保健学の概要
2. 発達課題とは?①
3. 発達課題とは?②
4. ストレス・予防の概念
5. 精神疾患とその治療①(発達障害、高次脳機能障害、認知症)
6. 精神疾患とその治療②(気分障害、神経症)
7. 精神疾患とその治療③(パーソナリティ障害、依存症)
8. 家族の課題と精神保健
9. 学校教育の課題と精神保健
10. 産業、労働分野の精神保健
11. 司法分野における精神保健
12. 現代社会の課題とアプローチ
13. メンタルヘルスのセルフケア①
14. メンタルヘルスのセルフケア②
15. 総括・まとめ

使用教科書名

「特に指定しない」

NO. G05103201

アロマセラピーⅠ

川人 紫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「ナチュラルセラピー」は、現代西洋医学だけでは解決できない人の心と身体の問題を、植物など自然の力を利用することによって解決するための自然療法である。特に「アロマセラピー（芳香療法）」は、EBM(医学的根拠)が確立した「ナチュラルセラピー」として、今や多くの医療及び福祉施設でも応用されている。
授業では、ナチュラルセラピー及びアロマセラピーの定義や歴史、精油の知識からアロマトリートメントの方法まで広く学ぶことにより、知識、技術と徳性を兼ね備えたセラピストとしての資質を養うことを目的とする。

学習目標・到達目標

社会でナチュラルセラピーが必要とされている現状と背景を理解した上で、アロマセラピーの理論を学ぶ。一般的な癒しとして要求されるアロマセラピーのレベルを超えて、医療や福祉、教育の現場で活用することのできる、高度な知識と専門的な技術、豊かな徳性を身につけることを目標とする。

評価方法その他

授業中の小テスト(80%)
平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. ナチュラルセラピーの定義と種類・癒し産業の市場規模
2. アロマセラピーの定義・アロマセラピーの使用方法・アロマバスソルトづくり
3. アロマセラピー関連の職業・アロマセラピーの歴史
4. 認知症とアロマセラピー・アロマスプレーづくり
5. 精油の品質と選びかた・精油の製造方法
6. アロマセラピーで使われる代表的な精油と作用・アロマせっけんづくり
7. 精油の使い方と注意
8. 精油の特徴と効果・香水づくり
9. 生活を豊かにする香り
10. 医療・福祉領域におけるナチュラルセラピー1・アロマトリートメント実習
11. 医療・福祉領域におけるナチュラルセラピー2・アロマトリートメント実習
12. 医療・福祉領域におけるナチュラルセラピー3・アロマトリートメント実習
13. 香りと地方創生
14. ナチュラルセラピーとソーシャルビジネス
15. まとめ

使用教科書名

レジュメを配布

NO. G05103501	アロマセラピーⅡ	川人 紫
---------------	----------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

香りの療法であるアロマセラピーを福祉領域で応用するための知識と技能を身につけます。授業は理論の他、実践も行うことで、実際アロマセラピーを福祉の現場で使えるよう教育します。

学習目標・到達目標

アロマセラピーⅠで学んだ内容をあまえ、よりレベルの高いアロマセラピーの知識を習得します。アロマセラピーをセルフケアで応用するための知識に加えて、キャリアアップや起業につなげるための専門的な知識と応用法を身につけます。

評価方法その他

定期試験の得点(70%)授業中の小テスト、レポート(20%)平常点(10%)

週 テーマ・授業目標等

- 1アロマセラピーのメカニズム
- 2統合医療とアロマセラピー
- 3アロマセラピーで行うセルフケアの方法
- 4アロマセラピーに関連する法律
- 5アロマセラピーの利用法
- 6精油(エッセンシャルオイル)の知識Ⅱ-1
- 7精油(エッセンシャルオイル)の知識Ⅱ-2
- 8精油(エッセンシャルオイル)の知識Ⅱ-3
- 9 アロマセラピーの基剤Ⅱ-1
- 10アロマセラピーの基剤Ⅱ-2
- 11アロマセラピーの資格制度・関連する仕事1
- 12アロマセラピーの資格制度・関連する仕事2
- 13起業の知識
- 14ハーブの基礎知識
- 15まとめ

使用教科書名

特に指定しない

NO. G05103601	アロマセラピー演習	川人 紫
---------------	-----------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

香りの療法であるアロマセラピーを、医療福祉領域や商業空間で応用するための知識と技能を身につける。
授業は理論の他、実践も行うことで、実際香りを目的に応じてデザインし、ブレンドするまでの技能を習得する。

学習目標・到達目標

香りの療法アロマセラピーは、利用者様、患者様のQOL(生活の質)を高める有用な方法としてすでに介護施設や医療施設で応用されており、最近では、ホテルやマンションのモデルルーム、店舗などの空間でも香りを拡散させるなど様々な領域で導入が進んでいる。
本講義ではアロマセラピーを医療福祉領域や商業空間で応用するための知識と実践方法を身につけることを目標とする。

評価方法その他

授業中の小テスト、レポート(80%)平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 アロマセラピーの定義と導入例
- 2 アロマセラピーの効くメカニズム
- 3 精油(エッセンシャルオイル)の特性と使いかた
- 4 精油(エッセンシャルオイル)の使用上の注意
- 5 精油(エッセンシャルオイル)の知識1
- 6 精油(エッセンシャルオイル)の知識2
- 7 精油(エッセンシャルオイル)の知識3
- 8 アロマクラフトの作り方1
- 9 アロマクラフトの作り方2
- 10アロマトリートメントの方法1
- 11アロマトリートメントの方法2
- 12香りのブレンド実習1
- 13香りのブレンド実習2
- 14空間におけるアロマセラピーデザイン
- 15まとめ

使用教科書名

レジュメを配布

NO. G05103801	園芸療法実習	本田 ともみ
---------------	--------	--------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

園芸療法を現場で実践するためには、知識や概念の理解だけでなく、技術を身につけておく必要がある。本実習ではグループ毎に対象者別プログラム案を作成し、他の学生を相手に実施を行いながら、現場で必要なスキルについて体験的に学ぶ。

学習目標・到達目標

園芸療法の手順、情報収集や整理を行うことができ、またプログラムの理解と作成、効果測定など、実践するための知識と技術を習得する。

評価方法その他

毎回の実習への意欲的な取り組みと課題の提出、プログラム案、現場実習の内容をそれぞれ均等に評価し、総合的に成績をつける。〔評価割合:平常点25%、課題25%、プログラム案実施25%、現場実習25%〕

週 テーマ・授業目標等

- 1、授業ガイダンス:実践に向けて何が必要かを理解する
- 2、プログラムの体験と作成:グループ毎に課題を設定し、プログラムを考える
- 3、プレゼンテーション:各グループからプログラム案を発表する
- 4、プログラム案の再考:フィードバックを受け、プログラムを再考する
- 5、プログラムの準備:実施までの流れ、道具・場の準備
- 6ー8、各グループのプログラム実施:他の学生を相手にプログラムを実施し、改良する
- 9、実践現場の体験:園芸療法が行われている現場を体験する
- 10ー12、プログラムの再実施:改良したプログラム案を再度実施する
- 13、本実施に向けた準備:本実施のための最終準備
- 14、本実施:対象者を募集し、実際にプログラムを実施する
- 15、ふりかえり:プログラム実施後にふりかえりを行い、まとめる

使用教科書名

NO. G05103901	ガーデニングⅠ	本田 ともみ
---------------	---------	--------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

園芸療法について現場で実践するためには対象者のことだけでなく、植物の生育に適した環境についても整えていく必要がある。本演習では園芸機材の取り扱いから実際にガーデンを造成していく基本的なプロセスを体験的に学ぶ。

学習目標・到達目標

園芸機材について取り扱い方法を知り、育苗・寄せ植えなどからガーデン造成までの基本的なガーデニング技術を習得する。

評価方法その他

毎回の演習への意欲的な取り組み、課題の提出、実際のガーデンデザインと現場の整合性を評価し、総合的に成績をつける〔評価割合:平常点25%、課題25%、デザインとの整合性50%〕

週 テーマ・授業目標等

- 1、授業ガイダンス:ガーデニングとは？
- 2、空間をデザインする1:庭園事例の紹介
- 3、空間をデザインする2:自分が造成したい庭を描く
- 4、育苗:播種の方法について知る
- 5、維持管理1:水やり・除草について道具の扱いに慣れる
- 6、維持管理2:肥料の与え方について知る
- 7、維持管理3:病害虫予防について知る
- 8、寄せ植え1:コンテナへの寄せ植えの方法を知る
- 9、ガーデンデザイン1:現場の図面にガーデンデザインを描く
- 10、ガーデンデザイン2:自分のアイディアをプレゼンテーションする
- 11、施工:土づくりについて知る
- 12、植え付け:デザインした通りに植え付けを行う
- 13、維持管理:ガーデンの維持管理を総合的に行う
- 14、寄せ植え2:寄せ植えの維持管理作業を学ぶ
- 15、鑑賞:他のチームのガーデンの出来栄を鑑賞し、ディスカッションする

使用教科書名

NO. G05104001

ガーデニングⅡ

本田 ともみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ガーデニングⅠで造成したガーデンをベースに、長雨対策や冬の耐寒対策など園芸技術の応用を体験的に学ぶ。

学習目標・到達目標

ガーデニングⅠで学んだ基本的な知識に加えて、天候に応じた対応や、季節によって変わる管理方法などを学ぶ。

評価方法その他

毎回の演習の意欲的な取り組みと課題の提出、実際のガーデンデザインとの整合性を評価し、総合的に成績をつける。〔評価割合：平常点25％、課題25％、ガーデンデザインの整合性50％〕

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス：秋冬のガーデンの変化
2. 空間をデザインする1：秋冬用のガーデン事例を紹介
3. 空間をデザインする2：秋冬用のガーデン構想を描く
4. 育苗：秋播き植物の播種
5. 維持管理1：秋冬の水やりについて知る
6. 維持管理2：防寒対策について知る
7. 寄せ植え1：秋冬用の寄せ植えの方法を知る
8. ガーデンデザイン1：現場の図面に秋冬用のガーデンデザインを描く
9. ガーデンデザイン2：ガーデンデザインのプレゼンテーション
10. 施工：土壌の性質を見極め、必要に応じて改良を行う
11. 植え付け：デザインした通りに植え付けを行う
12. 維持管理：ガーデンの維持管理作業を復習する
13. 寄せ植え2：秋冬用の寄せ植えの維持管理作業を学ぶ
14. 鑑賞：実際に造成された他グループのガーデンを鑑賞する
15. ふりかえり：1年間をふりかえり、年間で必要な園芸作業・技術についてまとめる

使用教科書名

NO. G05104101

音楽セラピーⅠ

深野 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

音楽療法は、音楽を媒介とし、障害の軽減・回復、機能の維持や改善、生活の質の向上などをめざす技法であり、今日では子ども、成人、高齢者、障害者に関わる医療、保健、福祉、教育現場で活用されている。音楽療法を通して、生き難さが和らいだり、喜びを持って過ごすことができるなど、援助できることは多くある。そこで、本講義では音楽療法に関する基礎的な知識・技術の修得をめざす。

学習目標・到達目標

1. 対象者が何を必要としているかを考えられるようになる
2. その必要を満たすための音楽を用いた対応を修得する

評価方法その他

小テスト(20％)、定期試験(40％)、プログラム発表(40％)から総合的に評価する。尚、所定の出席日数を満たさない場合は定期試験は受験できないものとする。

週 テーマ・授業目標等

音楽セラピーの概説を学ぶ

具体的に対象者を想定し、音楽の用い方をワーク及び発表を通して経験する

使用教科書名

教員が随時、資料を配付する。

NO. G05104201

音楽セラピーⅡ

深野 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

音楽セラピーⅡは、音楽療法及び音楽活動で使用するここのできる楽器演奏を修得する。それぞれ個人で演奏する楽器練習と、複数人で実施するハンドベル及びトーンチャイムの練習に取り組み、演奏できるようになる。

学習目標・到達目標

ハンドベル、トーンチャイム等の演奏ができるようになる。

評価方法その他

出席・練習態度・レポートにより総合評価する。

週 テーマ・授業目標等

各個人が選択した楽器演奏を修得する。グループ演奏としてハンドベル・トーンチャイム

の演奏をできるようになる。

使用教科書名

教員が随時、資料を配付する。

NO. G05104301

プレイセラピーⅠ

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

そもそもプレイ（遊戯）とは何か、われわれの生活とどう関わるのか。特に治療的側面では現在どのように活用されているかを具体的に把握すること。

学習目標・到達目標

遊戯が成人の精神分析と最も異なる重要な点は、遊戯が第一のメディアであるのに対して、こたばは第二のメディアとして使われることだす。

プレイするという行為は自由連想法(free association)のテクニックの代わりに用いられます。歴史的に遊戯療法では、プレイとこたばのどちらとも用いて診断し、回復を助けるために使われました。

この講義では、遊戯療法における日本の現状から「遊戯」がどのように捉えられてきたか、また、遊

評価方法その他

平常点50％、テスト50％で判定する。(平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。)

週 テーマ・授業目標等

1. そもそもプレイ(遊び)とは何か
2. 祭りとプレイ(遊び)
3. シャーマニズムとプレイ(遊び)
4. 遊びと儀礼
5. プレイセラピー(遊戯療法)の発見
6. クライエント・セラピスト関係
7. 遊びの治療的機能について
8. 病院という場で考えられる遊戯療法
9. 自閉症児にプレイセラピーは無効か
10. 子供の施設治療における遊びの役割
11. 子どもの心とセラピストの心
12. 自分らしくあるということ
13. 遊戯療法から得られたことの大人への影響
14. グループセラピーと遊戯療法
15. ごっこ遊びとその周辺
16. テスト

使用教科書名

適宜プリントを配布

NO. G05104401

プレイセラピーⅡ

大嶋 徹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

グループ遊戯療法の手順やその進め方、構造的な限界設定とその関連、表現芸術におけるグループ遊戯療法、グループでの操り人形匹、グループ箱庭療法、思春期の若者の活動的集団遊戯療法等について取り上げる。

学習目標・到達目標

グループ遊戯療法の基本を理解すること

評価方法その他

平常点20%(目標達成度・質疑応答・授業の理解など)テスト80%で評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1.グループ遊戯療法のイントロダクション
- 2.グループ遊戯療法の理論的なアプローチ
- 3.多文化の問題
- 4.倫理上の配慮
- 5.グループ遊戯療法の手順とステージ
- 6.構造的な限界―設定とその関連
- 7.統制グループと統制しないへのグループ介入
- 8.表現芸術におけるグループ遊戯療法
- 9.グループでの操り人形劇
- 10.グループ箱庭療法
- 11.思春期の若者の活動的集団療法
- 12.災害対応のためのグループ遊戯療法の手順
- 13.学校のグループ遊戯療法
- 14.死別と喪失の癒しとしての遊戯療法
- 15.グループ遊戯療法の研究と結果
- 16.テスト

使用教科書名

適宜プリントを配布する。

NO. G05104601

福祉セラピー専門演習Ⅱ

木本 明

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

福祉セラピー専門演習Ⅱでは、今まで修得した技術を用い実際に施設訪問をして音楽を用いた活動を実施する。そのため学内でプログラムの作成、準備練習を行った後、ボランティア演奏を実施する。

学習目標・到達目標

音楽セラピーⅠ及びⅡで学習、修得した技術を用い施設でボランティア演奏ができるようになる。

評価方法その他

プログラムの作成・準備・練習(40%)、訪問ボランティア演奏(30%)、レポート(30%)

週 テーマ・授業目標等

プログラムを作成し、学内での練習を経て、施設でボランティア演奏を実施する。

使用教科書名

教員が随時、資料を配付する

NO. G05104501

福祉セラピー専門演習Ⅰ

川人 紫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「福祉セラピー専門演習Ⅰ」で学ぶセラピーとは、現代西洋医学だけでは解決できない人の心と身体の問題を、植物など自然の力を利用することによって解決するためのケアの方法である。
具体的には、植物の香りを嗅覚から取り入れることにより心身を健やかに保つ「アロマセラピー（芳香療法）」、ハーブや薬用植物を用いて植物の有効成分を体内に取り入れる「フィトセラピー（植物療法）」、庭に佇むことにより五感を活性化させる「ガーデンセラピー（庭園療法）」などがあげられる。
授業では、各セラピーの理論から実践まで広く学ぶことにより、知識、技術と徳性

学習目標・到達目標

福祉領域でセラピーが必要とされている現状と背景を理解した上で、福祉セラピーを学ぶ。福祉セラピーとは福祉の現場で活用することのできる自然療法である。各セラピーの高度な知識と専門的な技術、豊かな徳性を身につけることを目標とする。

評価方法その他

授業中の小テスト(80%)
平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- 1 福祉セラピーの定義と種類
- 2 アロマセラピーの定義、作用メカニズム
- 3 アロマセラピーの福祉領域におけるエビデンス(科学的根拠)
- 4 福祉領域で行うアロマセラピーの方法1
- 5 福祉領域で行うアロマセラピーの方法2
- 6 フィトセラピーの定義、作用メカニズム
- 7 フィトセラピーの福祉領域におけるエビデンス(科学的根拠)
- 8 福祉領域で行うフィトセラピーの方法1
- 9 福祉領域で行うフィトセラピーの方法2
- 10ガーデンセラピーの定義、作用メカニズム
- 11ガーデンセラピーの福祉領域におけるエビデンス(科学的根拠)
- 12福祉領域で行うガーデンセラピーの方法1
- 13福祉領域で行うガーデンセラピーの方法2
- 14その他のセラピー
- 15まとめ

使用教科書名

レジュメを配布

NO. G05104701

社会福祉経営学Ⅰ

遠藤 茂

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義は、福祉サービス提供組織の視点から経営諸概念がどのように扱われているのかその実際を一つ一つ学んでいきます。理想とする福祉サービスを提供したいものの、では、お金はどのくらいかかるだろうか、人はどのくらい必要だろうか、建物はどのくらいの広さが必要だろうか等、よりよいサービスを提供していくにあたり、どのような組織でも直面する事象を想定し講義や演習を通じて学びを深めていきます。

学習目標・到達目標

・福祉サービス提供組織と経営諸概念の繋がりを理解する。
・経営概念を念頭に置いたうえで、福祉サービスを考えられるようになる。

評価方法その他

60% 平常点(授業出席回数や授業態度)
40% 演習プレゼンテーションならびにレポート

週 テーマ・授業目標等

- 1、福祉サービス提供組織と経営の基礎概念
- 2、福祉サービス提供組織と経営環境
- 3、経営戦略と意思決定
- 4、サービスマネジメント
- 5、多職種連携とチームマネジメント
- 6、人材確保
- 7、人材育成
- 8、労務管理
- 9、情報管理と広報戦略
- 10、リスクマネジメント
- 11、財務諸表の見方
- 12、損益分岐点と稼働率
- 13、事業経営特論(演習)
- 14、事業経営特論(演習)
- 15、事業計画書作成と予算編成

使用教科書名

当日、講師より資料を配布します。

NO. G05104801

社会福祉経営学Ⅱ

山田 真弥

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

民間の有料老人ホーム経営に必要な品質向上に向けたファンをつくるサービス、尊厳を守るマネジメント等実践を、事例を通し総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

- 民間の施設マネジメントを理解する。
1. サービスに対する考え方を理解する。
2. 尊厳を守るマネジメントを理解する
3. 施設におけるリスクマネジメントを理解する

評価方法その他

- 60% 平常点(授業参加時の意見交換での発言や受講姿勢による)
40% 授業中のレポート(毎回授業終了時に回収)

週 テーマ・授業目標等

- サービスとは①: サービスに対する考え方、顧客の期待に応えるとは
- サービスとは②: 具体的事例を通して/リビーターの心理・ファンの心理
- 介護付有料老人ホームとは: 特養経営との違い・居住系サービスの特徴
- シルバービジネスの現状と課題: 外的環境と収支の仕組み、今後の課題
- データから考える老後の住まい方: 日本の高齢化の現状とホームの選び方
- 品質とブランディング: 品質で選ばれるには
- マネジメントとは①: マネジメントの資源とは？
- 尊厳を守る介護①: 福祉サービスの根本姿勢、高齢者虐待防止
- 尊厳を守る介護②: センサーに頼らない介護、虐待の芽を摘むためには
- 収益と入居促進について: 一件の入居を例に考えるお金の流れ
- 顧客ニーズを知る: 家族からの期待とは/お客様の声、顧客満足度アンケート
- リスクマネジメント①: 事故・ヒヤリハットとは？
- リスクマネジメント②: 感染症発生のリスクマネジメントとは
- 品質を支える職場づくり: 品質に繋がる社員満足度を支える仕組み
- マネジメントとは②: 施設マネジメントに必要な要素は？

使用教科書名

適宜、授業開始時にプリント配布します

NO. G05104901

社会福祉経営学Ⅲ

前田 卓也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、福祉経営を経営者の視点からより実践的に理解をすることを目標とする。
福祉に限らず、経営は組織の大きさや状態、環境により大きく左右される。そして、その時に取るべき戦略・戦術はそれぞれ異なり、その選択を誤れば、組織の存続を左右する事態にもなりかねる。また、その選択はどのような組織であろうと必ず訪れる事態でもある。では、そのような時、どのような戦略・戦術を取れば良いのだろうか。それを考えるには、どのような知識が必要なのだろうか。
ここでは、参加者を経営者と想定し、幾つかのパターンの組織を運営するシミュレー

学習目標・到達目標

本講義では、福祉経営を経営者の視点からより実践的に理解を深めることを目標とする。

評価方法その他

- ・出席・授業態度(70%)
・レポート(30%)

週 テーマ・授業目標等

・福祉サービス提供組織の特徴と構造

・弱者の戦略と組織マネジメント

・弱者の戦略事例検討

・強者の戦略と組織マネジメント

・強者の戦略事例検討

・経営組織における意思決定

・社会福祉を運営する意義

使用教科書名

NO. G05105001

社会福祉情報演習Ⅱ

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

基本的な資料とデータの分析に関して演習する。公的統計や社会福祉の簡単な文章や情報が読めるための基本的知識に関して学ぶ。単純集計、度数分布、代表値、クロス集計などの記述統計データの読み方や、表・グラフの読み方、また、表計算ソフトウェアを活用してそれらの計算や作成のしかたを演習する。さまざまな質的データの読み方も演習する。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別なども学ぶ。

学習目標・到達目標

公的統計や社会福祉の簡単な文章や情報が読める。

評価方法その他

- ・平常点(5%): 授業への参加状況等で総合的に判断する
・提出物(75%)
・定期試験(20%)

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス
- 質的データの読み方と基本的なまとめ方
- 記述統計データ(単純集計)の読み方や計算のしかた
- 記述統計データ(度数分布)の読み方や作成のしかた
- 主要な記述統計量(代表値: 平均)
- 主要な記述統計量(代表値: 中央値)
- 主要な記述統計量(散布度: 分散)
- 主要な記述統計量(散布度: 標準偏差)
- クロス集計
- 連関係数
- 基礎的統計概念(相関係数)
- 因果関係と相関関係
- 疑似相関
- 統計資料の整理(既存統計資料の収集)
- 統計資料の整理(既存統計資料の読み方)
- 定期試験

使用教科書名

特に指定しない。

NO. G05105401

福祉ビジネス専門演習Ⅰ

前田 卓也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

福祉とビジネスという、時に相反する概念に対し、本講義では社会福祉学はもとより、隣接諸科学の知恵を参考にして学びを深めていきます。
とりわけ、福祉ビジネスは従来のビジネスモデルをベースに考えを深めることが少なくありません。

本講義では、基本的なビジネスモデルを学び、そのうえで福祉をビジネスとして捉えていきたいと考えています。特に、事例を複数用意し、それを丁寧に振り返ること
で、実際に起きている事象を適切に捉え、福祉ビジネスへの理解を深めていきます。
講

学習目標・到達目標

近年、福祉がビジネスとして捉えられる機会が多くなっています。
しかし、福祉ビジネスはまだまだ熟成されたものであるとはいえないのが現状です。
加えて、今後は更に広がる市場ニーズの中で、それに対する期待は高まっていくことが予想されま
す。

本講義では、様々な企業や社会福祉法人のビジネスモデルを参考にしながら、ビジネスを展開す

評価方法その他

- 授業態度・出席(70%)
レポート(30%)

週 テーマ・授業目標等

・福祉とビジネスについて

・戦略とは何か/状況に応じた戦略の使い方

・ビジネスモデルの理論

・事例1…戦略思考のビジネスモデル(ビジネス感覚を養う)

・事例2…社会福祉法人のビジネスモデル

・事例3…NPO法人のビジネスモデル

・あなたが考える福祉ビジネスについて

※同テーマで、2回程度授業を行う予定です。

使用教科書名

NO. G05105501	福祉ビジネス専門演習Ⅱ
	前田 卓也

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本講義では、福祉ビジネスを展開するうえで欠かすことのできない組織に着目して学びを深めます。
福祉ビジネスを展開する時、そこには必ずビジョンや理念が存在します。
そして、ビジョンや理念は一人では達成することが難しくありません。
その時、組織の存在が強く求められます。
では、福祉ビジネスを展開する組織とはどのような特徴があるのでしょうか。また、そこに携わる人々にはどのような能力が求められるのでしょうか。
本講義はこれらの理解を深め、皆さんが将来福祉ビジネスを展開するための展望を描

学習目標・到達目標

本講義の目標は福祉ビジネスをするうえで欠かすことのできない、組織の理解を深めることです。
加えて、組織を構成する人々が持ち合わせていべき能力についても理解を深めていきます。

評価方法その他

出席・授業態度(60%)
レポート(40%)

週 テーマ・授業目標等

・ヒューマンサービス提供組織について

・組織構造と組織設計

・組織における意思決定

・講義/演習「マネジメント」

・講義/演習「交渉」

・講義/演習「コーチングとティーチング」

・講義/演習「フォロワーシップ」

・講義/演習「リーダーシップ」

・ソーシャルワークの可能性

※講義/演習については、一つのテーマにつき、2回～3回授業の時間を用います。

使用教科書名

『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣

『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣

『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣

『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣

『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣

『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣
『社会調査の基礎知識』 有斐閣

NO. G05105701	社会調査法演習
	福嶋 美佐子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会調査は、私たちの生活や仕事の様々な場面で役立てられています。どのような調査が、どのように役立てられているのかを理解し、それを使って真理を追究することは、人間社会学科で学ぶ学生にとって必要な基礎力と考え、この科目が立ち上げられました。社会調査の基礎知識をつけること、その知識を用いて論文やレポートを書く力とプレゼンテーション力を向上させること、を目ざしています。

学習目標・到達目標

社会調査の基礎知識をつけるために、次の3つの目標を掲げています。
1.調査事例を通じて、社会調査が生活や仕事にどのように役立てられているかを理解する。
2.質的調査と量的調査の全貌を理解する。
3.社会調査を計画、調査、分析するスキルをつける。

評価方法その他

出席点 50点（1回2点。ただし50点満点）
課題 20点
グループプロジェクト 30点
合計 100点

週 テーマ・授業目標等

1.社会調査とは何か
社会調査の歴史
2.質的調査①資料調査
質的調査②データの集め方
3.質的調査③インタビュー調査
質的調査④フォーカスグループインタビュー
4.質的調査⑤⑥その他の調査法
5.質的調査⑦⑧情報の整理・分析
6.量的調査①全数調査と標本調査
量的調査②調査対象・方法の選び方
7.量的調査③調査票の作成の仕方
量的調査④調査票の点検
8.調査を用いた仕事の現場（ゲスト講師による講義）
9.量的調査⑤データのまとめ方:単純集計
グループプロジェクト①関心事の共有とテーマの決定
10.量的調査⑥データのまとめ方:クロス集計
グループプロジェクト②調査の対象・方法の決定
11.量的調査⑦データのまとめ方:グラフの選び方
グループプロジェクト③調査の準備
12.量的調査⑧プレゼンテーションの方法
グループプロジェクト④調査
13.グループプロジェクト⑤情報の整理・回答の集計
グループプロジェクト⑥回答の分析
14.グループプロジェクト⑦発表準備

使用教科書名

特に指定しませんが、授業時に参考文献を紹介することがあります。

NO. G05105601	コミュニティアートプロデュース論
	高橋 かおり

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は「コミュニティアートプロデュース」を「コミュニティ」「アート」「プロデュース」それぞれの要素にわけ、その歴史と変遷、実践と実施者たちの言葉について学ぶ。近年日本各地でアートプロジェクトは増えつつあるが、その歴史的背景や文脈を知らなければ、現状を理解することは難しいだけでなく、自分たちで実践することも容易ではない。そこで、具体的な事例を見ながら、特に日本特異の文脈について理解を深め、今後展開される、あるいは自身で展開していく活動をとらえる際の枠組みについて共に考えていく。

学習目標・到達目標

本授業では、「コミュニティアートプロデュース」ということについて、実践面・研究面から課題を見出すことを目標とする。地域において芸術活動をする際の困難や、実際の運営について、各地の事例と先人たちの試みを学ぶことによって、今後自身で実践しうる際の指針や注意事項を身につけると同時に、現在実施されている諸プロジェクトに対して批判的に検討する力を身につける。

評価方法その他

平常点30%、授業中の事例検討発表30%、コミュニティアート(アートプロジェクト)の計画発表40%

週 テーマ・授業目標等

1.導入授業の進め方の説明:受講生の興味関心領域の確認、テーマへの要望、地域における芸術活動に関する基礎的な紹介
2.アートプロジェクトとは(日本の地域芸術活動):伝統的な芸術活動を踏まえたうえで、1990年代後半からのアートプロジェクトの歴史について紹介。
3コミュニティとは:コミュニティに関する諸議論の整理(社会関係資本など)、コミュニティの必要性・重要性・意義について。
4.コミュニティアートとは(諸外国の地域芸術活動):海外の地域芸術活動の諸事例の紹介、討議(ソーシャリー・エンゲージド・アートなど)。
5.日本の文化政策史——芸術への公的資金流入。特に1990年代以降の日本の文化政策史や公的資金流入の動きについて整理する(メセナ活動など)。
6.アートマネジメントとは:日本のアートマネジメント史を振り返りながら、アートマネジメントの必要性について議論する。
7.コミュニティアートの影:藤田直哉「前衛のゾンビたち」の精読を通じて、「地域アート」や「コミュニティアート」の負の側面を考える。
8.【事例紹介・検討①】第8～10回は、受講生による発表をもとに、事例となるコミュニティアート活動についての検討を行う。
事例案としては「大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ」、「中之条ビエンナーレ」、「BEPUPROJECT」、「黄金町バザール」などを予定
9.【事例紹介・検討②】
10.【事例紹介・検討③】
11.計画の立て方/企画書の書き方。企画書や計画の立て方について実際の受講生の関心をもとに考える。
12.コミュニティアートプロデュースの実際。事例検討を踏まえて、コミュニティアートを実際に運営する上での流れや事務手続きについて紹介。

使用教科書名

『働き方の育て方 アートの現場で共通認識をつくる』
『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことは。の本<増補版>』アーツカウンシル東京
(担当者が準備し、2回目以降履修者に配布します。)

『働き方の育て方 アートの現場で共通認識をつくる』
『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことは。の本<増補版>』アーツカウンシル東京
(担当者が準備し、2回目以降履修者に配布します。)

『働き方の育て方 アートの現場で共通認識をつくる』
『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことは。の本<増補版>』アーツカウンシル東京
(担当者が準備し、2回目以降履修者に配布します。)

『働き方の育て方 アートの現場で共通認識をつくる』
『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことは。の本<増補版>』アーツカウンシル東京
(担当者が準備し、2回目以降履修者に配布します。)

『働き方の育て方 アートの現場で共通認識をつくる』
『東京アートポイント計画が、アートプロジェクトを運営する「事務局」と話すときのことは。の本<増補版>』アーツカウンシル東京
(担当者が準備し、2回目以降履修者に配布します。)

NO. G05106201	園芸療法論
	本田 ともみ

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

園芸作業により、心身の健康を維持する園芸療法は、現在では作業療法などのリハビリテーションの代替療法としてだけでなく、あらゆる人々の健康維持の1つとしても注目されている。本講義では、人間と植物の歴史的な関わりから、現在のリハビリテーションについて対象者別に説明する。

学習目標・到達目標

人間と植物の関わりに関する歴史を知り、それを踏まえて対象者別の園芸療法の内容、また実施する手順などについて理解する。

評価方法その他

試験およびレポートにより評価し、点数が60点以上の場合に単位を与える。原則として5回以上欠席した場合は不可となる。〔評価割合〕試験60%、レポート40%

週 テーマ・授業目標等

1. 授業ガイダンス:園芸療法とは？ 人間と植物の関わり
2. 癒しのメカニズム:植物から受ける体内メカニズムについて知る
3. 暮らしの中の園芸:コミュニティガーデンなどの事例を紹介する
4. 高齢者における園芸療法:対象者別の注意点・工夫点を紹介する
5. 子どもにおける園芸療法:対象者別の注意点・工夫点を紹介する
6. 身体障害者における園芸療法:対象者別の注意点・工夫点を紹介する
7. 知的障害者における園芸療法:対象者別の注意点・工夫点を紹介する
8. 精神障害者における園芸療法:対象者別の注意点・工夫点を紹介する
9. 園芸療法の手順:園芸療法を行う際の手順について知る
10. 情報収集と整理:多様な情報をどのように集め、整理するか知る
11. 観察と評価(1):園芸療法を行う上で心身機能・構造の観察・評価するためのポイントを知る
12. 観察と評価(2)園芸療法を行う上での活動分析について学ぶ
13. マネジメント:園芸療法を行う際に必要なマネジメントについて知る
14. 園芸にできること:他の療法と比較し、各々のメリット・デメリットを知る
15. 学外見学:都内で園芸療法を行っている施設へ伺い、現状を知る

使用教科書名

・園芸療法の資格と仕事の本 園芸療法テキスト基礎編

NO. G05106301	ケア実践の理論と方法	中田 光彦
---------------	------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ケア実践は、本人にとって何が必要なのか、何を援助しなければならないのかを考えられる力が必要になる。そのための理論と方法を学び、考察していく。

学習目標・到達目標

援助者として取り組むための姿勢・目的が、理解できるようになることを目標とする。

評価方法その他

定期試験(50%)・課題(20%)・授業姿勢(20%)・出席率(10%)等、総合して判断します。

週 テーマ・授業目標等

1「ケア実践の理論と方法」「ケア実践の理論と方法」についての説明と理解。社会福祉士としてまた、	自分の専攻に役立てていく。授業のおもしろさを知ってもらうように
紹介し	ていく。
2 援助者とはな援助で	援助者としての態度とは。相手を理解するということは。主観的
3 ケアの必要性・意欲を援助し	はなく、相手の立場に立った援助を理解し実践してもらう。本人の保有する能力をいかに活用していくか。本人の生き抜
る。	ていく。また、事例をふまえて、援助と自己決定の重要性を考察す
4 離床の実践でも、本来の	ベッドから通常の生活へ導く意味。身体障害や認知症があつ
介護方法、	生活に近づける意味。介護のこつと、本人の保持能力を活かした
5 生活課題の理解・域包括支援等の連	その人らしい暮らしとは。現代社会の社会資源の活用。役所・地域センター・社協・各福祉施設・医療機関・警察・地域・ボランティア
6 介護の専門性・誕生の背景と	携と協働。日本・海外の介護の歴史。「介護福祉士」「社会福祉士」制度
使用教科書名	現在のニーズについて。業務独占と名称独占の資格の違い、連

特に指定しない。

NO. G05165001	ソーシャルワーク演習Ⅳ	朝倉 和子
---------------	-------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

相談援助で求められる実際の援助過程を想定した実技指導を行う。

学習目標・到達目標

実際の相談事例に対応できるような関わり方や対応の仕方を学びながら、事例を読み解く理解力や分析力を培い、ひいては実際の事例に対応できる力を身につける。

評価方法その他

出席50％、学習態度、発表、レポート50％。

週 テーマ・授業目標等

1.事例に学ぶ(1)－事例研究の意義	
2.事例に学ぶ(2)－事例の読み方	
3.事例に学ぶ(3)－事例研究の進め方	
4.実際の事例の展開過程(1)－インテーク、アセスメント、プランニング	
5.実際の事例の展開過程(2)－インターベンション、モニタリング、アフターケア	
6.具体的な事例の把握(1)－児童虐待、老親虐待	
7.具体的な事例の把握(2)－ドメスティック・バイオレンス	
8.具体的な事例の把握(3)－低所得者、ホームレス	
9.具体的な事例の把握(4)－その他、権利擁護に係わる事例	
10.事例検討(1)－児童・家庭の問題	
11.事例検討(2)－障害者の問題	
12.事例検討(3)－高齢者の問題	
13.事例検討(4)－地域福祉の問題	
14.相談援助実習後の問題	
15.授業の振り返り	

使用教科書名

授業内で適宜紹介する。

NO. G05106401	スポーツセラピー	大嶋 徹
---------------	----------	------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

スポーツセラピストは怪我を防止し、事故を検証し、適切な処置をします。治療において使われる技術は、スポーツ・マッサージや電気療法、テーピング、筋肉をのばす運動技術、自己受容性の感覚トレーニングなどです。そして精神面のセラピーも重要です。スポーツマンのメンタリティーはどのようなものか。スポーツマンは危機的状況から如何にして立ち直るのか。その援助法を事例から学びます。

学習目標・到達目標

スポーツセラピストとはどのような職業か。その援助作業の基礎を学ぶ。

評価方法その他

平常点50％、テスト50％で判定する。
（平常点はプログラムの達成状況・質問の受け答え・討論への参加・学習意欲等で総合的に判断する。）

週 テーマ・授業目標等

1. マッサージセラピー	
2. 筋骨格障害	
3. 電気療法	
4. テーピング	
5. ストレッチ	
6. 感覚トレーニング	
7. 音楽運動療法(ダンス・トランポリンなど)	
8. リハビリテーションプログラム	
9. 治療的レクリエーション	
10. プレイセラピー	
11. 介護予防	
12. リハビリテーションカウンセリング(アセスメント)	
13. 障害法政と社会政策	
14. 障害マネジメント(法政・雇用・委員会)	
15. まとめ(自立生活支援)	
16. テスト	

使用教科書名

適宜プリントを配布する。

NO. G05168001	ソーシャルワーク演習Ⅴ	朝倉 和子
---------------	-------------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「ソーシャルワーク演習Ⅳ」に続いて、本演習Ⅴは社会福祉援助実習指導Ⅲとともに、社会福祉援助実習の事後指導と密接に関係付けて実施する。アウトリーチとニーズ把握、地域福祉の基盤整備と開発、地域福祉の計画、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発、サービス評価などの理解・習得、それらを実践的に担っていく能力の獲得に向けて、具体例を通したロールプレイング等の実技指導による少人数のゼミ形式で取組んでいく。

学習目標・到達目標

社会福祉学を始め、隣接科学の知識を福祉現場に応用できるようにする。自分の持っている潜在的な力を発見し、それを開花させ、成長するよるこびを体験することを目的とする。また、自分の考えを自分の言葉で正しく相手に伝えるコミュニケーション力を高めると同時に、他者の意見に耳を傾け、冷静に意見を交換できる力や、年齢の異なった世代とつながっているようにする。

評価方法その他

出席50％、学習態度、発表、レポート50％などによる総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1)オリエンテーション	
2)学生による課題発表と検討(SW実習での体験を中心に)	
3)同上	
4)同上	
5)同上	
6)同上	
7)同上	
8)中間まとめ	
9)学生による課題発表と検討	
10)同上	
11)同上	
12)同上	
13)同上	
14)同上	
15)まとめ	

使用教科書名

授業内で適宜紹介する。

NO. G05167001

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「社会福祉援助実習指導Ⅰ」に続いて、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理に加えて、具体的に求められる課題把握のための力、真摯に向う姿勢等を幅広く習得します。また次の課題に取り組めます。

①社会福祉援助に係る知識と技術について具体的、実際に理解する②実習担当教員からの指導のもと、実習課題、実習計画について検討する。③「個人票」「実習計画票」等の作成を通して、実習に向けた具体的な準備を行う④実習中の巡回指導、実習後の実習課題、実習計画の達成状況の整理を行う。なお、本科目は社会福祉援助実習の実施条件を満たし、

学習目標・到達目標

- 自己理解
①自己の思考・感情を理解する。
②自己の思考・感情の意味を理解し、表現する。
③現場実習の重要性を理解し、自身の適性を把握する。

評価方法その他

- 出席(50%)
レポートその他提出物(50%)

週 テーマ・授業目標等

- ①オリエンテーション
- ②現場実習について(グループワーク)
- ③担当教員別指導(個人票の作成)
- ④担当教員別指導(実習施設の理解)
- ⑤実習報告会(4年生による報告)
- ⑥実習ノートの記録法
- ⑦分野別学習(高齢者福祉)
- ⑧分野別学習(児童福祉)
- ⑨分野別学習(社会福祉協議会・社会福祉事務所・救護施設)
- ⑩分野別学習(障害福祉:外部講師)
- ⑪実習事前指導(担当教員別グループワーク)
- ⑫分野別学習(高齢者相談:外部講師)
- ⑬実習事前指導(担当教員別グループワーク)
- ⑭実習事前指導(担当教員別グループワーク)
- ⑮前期の振り返りと後期の授業(実習事前指導・礼状の書き方・必要書類の作成など)

使用教科書名

「ソーシャルワーク実習の手引き」その他、授業中に適宜紹介。

NO. G05168001

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「ソーシャル実習指導Ⅱ」に続いて、実習体験から得られた成果と課題、気付きと反省等を、「実習記録」「実習報告書」として記述、作成する。具体的に実習として取組んだ内容を概念化、理論化する。また、下記の通り、具体的、実践的で基本的な理解を行う。①実習を通しての気付きや反省についてのまとめを行う②実習によって得られた自身の課題について整理する③具体的な実習体験から、社会福祉援助に係わる社会福祉専門職としての援助の実際を整理する④実習先機関、施設の業務の状況と課題について、実習生としての考察を行う。

学習目標・到達目標

ソーシャルワーク実習指導のまとめとして、現場実習での体験を中心に社会福祉専門職として必要な知識、技術を習得する。

評価方法その他

- 出席(50%)
レポートその他提出物(50%)

週 テーマ・授業目標等

- 1)オリエンテーション
- 2)実習の振り返り・グループワーク
- 3)実習の振り返り・個別
- 4)実習報告書作成
- 5)同上
- 6)同上
- 7)実習の振り返り・個別
- 8)9)実習報告会
- 10)実習報告会のまとめ
- 11)実習の振り返り・グループワーク
- 12)同上
- 13)同上
- 14)同上
- 15)全体のまとめ

使用教科書名

「社会福祉援助実習の手引き」、その他適宜紹介する。

NO. G05172001

ソーシャルワーク実習

千葉 一博

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

現場実習を通して社会福祉専門職として仕事をするための基礎となる「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」についての理解を深めます。理論と実践の統合を目指していく。学内における事例研究、演習で学習したことを応用し、実習の中で体験的に社会福祉の制度的理解、職業倫理や心構えの基本的な理解、利用者の理解、ソーシャルワーク（社会福祉援助）の課程の理解、援助の実践、自己理解などを進め統合的理解を行っていきます。

学習目標・到達目標

ソーシャルワーク(社会福祉援助)の実習に向けた個々の準備と、実習、実習後の整理について取り組んでいく。

評価方法その他

・実習先からの実習内容の評価、実習担当教員による実習内容の評価、実習報告書の提出(必須)、その他実習先への提出物の確認/各種検査の有無/実習準備/実習期間の態度/礼状の提出など、実習の事前/事後について手続を完了しているかどうかを含め、総合的に判断する。(実習先からの評価50%、学内における評価50%)

週 テーマ・授業目標等

・高齢者施設、障害者・児施設、児童福祉施設、福祉事務所、病院等の施設・機関にお

いて、合計180時間以上の実習を行う。

・実習時期は8月～9月中旬もしくは2月～3月中旬を中心に実施する。(ただし、実習先によって実習時期は異なるので注意すること。)

・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等の体得。

・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力の習得。

・関連分野の専門職との連携の在り方及びその具体的内容の実践的理解。

詳細は、実習指導室で確認すること。

使用教科書名

ソーシャルワーク実習の手引き・他

NO. G06001001

食生産体験演習A

高尾 純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1年生の必修科目であり、学科の全教員が担当する授業でもあります。通年開講される重要な授業で、主に担当する教員の授業内容は、野菜栽培などを通した「食育」の学びとなります。野菜等を育成栽培する基礎知識、栽培管理の実体験を通して、野菜栽培を学ぶ。他の教員による、食生産関係の見学会を数回予定している。

の育成の経験を重視し、土の酸度（6 PH～6.5 PH）、収穫したトマトの糖度計測などを体験する。収穫

学習目標・到達目標

1年生の必修科目であり、学科の全教員が担当する授業でもあります。通年開講される重要な授業で、主に担当する教員の授業内容は、野菜栽培などを通した「食育」の学びとなります。野菜等を育成栽培する基礎知識、栽培管理の実体験を通して、野菜栽培全般を学ぶ。他の教員による、食生産関係のハウス栽培見学、加工工場等の見学会を数回予定しているので、学外実習で広く見聞を広める事を目標としている。

評価方法その他

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・ガイダンス、グループ分け
- 第2週・・・プランター栽培のための準備
- 第3週・・・プランター栽培、苗の植え付け
- 第4週・・・
- 第5週・・・
- 第6週・・・
- 第7週・・・
- 第8週・・・
- 第9週・・・
- 第10週・・・
- 第11週・・・
- 第12週・・・
- 第13週・・・
- 第14週・・・
- 第15週・・・レポート提出

使用教科書名

NO. G06002001

食生産体験演習B

高尾 純宏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

①秋・冬野菜の栽培の基礎知識と管理方法とを実体験を通して学ぶ。苗からの栽培、種からの栽培等の方法も体験する。
②土壌の酸度（pH6～6.5）と作物の関係、収穫した野菜の糖度計測などを体験する。
③他の教員による、食生産関係のハウス栽培見学、加工工場等の見学会を数回予定しているのので、学外実習で広く見聞を広める。

学習目標・到達目標

1年生の必修科目であり、学科の全教員が担当する授業でもある。通年開講される重要な授業で、主に担当する教員の授業内容は、野菜栽培などを通した「食育」の学びである。まず、家庭菜園で栽培されている基本的な野菜を栽培育成する基礎知識を習得する。また、栽培管理の作業である植え付け、水やり、除草、追肥、中耕、土寄せ、支柱立て、誘引、わき芽き、摘心、収穫などの基本的作業を体験する。

評価方法その他

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・ガイダンス、グループ分け
- 第2週・・・プランター栽培のための準備
- 第3週・・・プランター栽培、苗の植え付け
- 第4週・・・実習場苗の植え付け
- 第5週・・・育成管理
- 第6週・・・
- 第7週・・・
- 第8週・・・
- 第9週・・・
- 第10週・・・
- 第11週・・・
- 第12週・・・
- 第13週・・・
- 第14週・・・
- 第15週・・・レポート提出

使用教科書名

NO. G06003001

栄養士論

山田 正子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

・栄養士の業務内容、使命および社会が要請する役割について学ぶ。
・食物・調理・栄養・体の構造等についての基礎知識を復習することで、これからの学ぶ専門科目の内容とその重要性の理解を深める。
・保育所・学校・医療・企業などにおける健康の維持・増進、病気の予防・治療に関わる栄養士の役割と業務および関連職種との関わりについて理解する。
・栄養士としての責務、職業倫理を理解する。

学習目標・到達目標

栄養士の活動分野、役割、業務内容を理解することにより、栄養専門職としての栄養士の役割と業務内容を説明できるようになる。また、栄養士業務に必要な知識が何かを理解することにより、栄養士を目指すために学ぶ意義を確認することができる。さらに、様々な分野で栄養士・管理栄養士として仕事をされている方々からのご講義頂き、学生とのディスカッションを通し、栄養士の仕事の重要性を学生自ら考え理解できるようになる。

評価方法その他

平常点(40%)、レポート提出状況(30%)、レポート内容(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 1. 栄養士の役割と業務
- 2. 栄養の基礎知識
- 3. 体の構造の基礎知識
- 4. 食生活・食文化の基礎知識
- 5. 栄養士の活動分野① 保育所
- 6. 栄養士の活動分野② 小学校
- 7. 栄養士の活動分野③ 病院
- 8. 栄養士の活動分野④ 給食会社
- 9. 栄養士の活動分野⑤ 食品会社
- 10. 栄養士の活動分野⑥ 在宅(フリーランス)
- 11. 栄養士の活動分野⑦ その他
- 12. 栄養士の責務と職業倫理
- 13. 栄養士養成教育とカリキュラムとの関連
- 14. 授業前に身に付けたい基礎知識
- 15. まとめ
- 16. 定期試験

使用教科書名

めざせ栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション／小野草史編著／第一出版

NO. G06005001

フードビジネス概論

山岡 義卓

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は、いのちの源であり、私たちが生きていく上では欠くことのできない営みである。フードビジネスは、食に関わるあらゆる事業活動の総称であり、私たちの生活に密接に関わることはもちろん、殊更重要な社会的役割を有する。本授業では、食品の生産から消費に至る過程を軸に各種フードビジネスの事業や担い手について概観し、その機能や役割を理解すると同時にフードビジネスが抱える諸課題を確認する。さらに、今後、持続可能な社会の構築を目指すうえでの望ましいあり方や進むべき方向性についても考える。

学習目標・到達目標

各種フードビジネスの事業や担い手、歴史的経緯等基本的な知識を身につけることにより、その機能や役割、現代社会における諸課題を理解するとともに、持続可能な社会を目指すうえでの望ましいあり方や進むべき方向性を考究することができるようになる。さらに、短期的な視点からの消費者メリットやビジネス上のメリットだけでなく、長期的および倫理的な観点も考慮して相応しい考え方や行動ができるようになることを目標とする。

評価方法その他

試験60点、平常点20点、レポート20点

週 テーマ・授業目標等

- (1) ガイダンス フードビジネスとは
- (2) 私たちの暮らしとフードビジネス
- (3) フードビジネス①生産（農業・漁業）
- (4) フードビジネス②加工（食品製造業）
- (5) フードビジネス③食品の流通
- (6) フードビジネス④卸売流通
- (7) フードビジネス⑤小売流通
- (8) フードビジネス⑥中食・外食
- (9) フードビジネスの実際
- (10) フードビジネスの現代的課題①グローバル化・工業化
- (11) フードビジネスの現代的課題②食の安全性・環境問題
- (12) フードビジネスの現代的課題③地域コミュニティ
- (13) これからのフードビジネス①地産地消・スローフード
- (14) これからのフードビジネス②消費者課題・コミュニティとの関わり
- (15) まとめ・振り返り

使用教科書名

特に指定しない。必要な文献や資料は授業の際に随時配布する。

NO. G06006001

コミュニケーション・プレゼン演習

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

アクティブラーニングに対応するための基本的な対話力を養います。グループワーク形式で各種課題に取り組む過程で、コミュニケーションの基礎である傾聴・発信・協働等のコンピテンシーを身につけます。また、演習形式により多数の人に効果的なプレゼンテーションを行う方法を学びます。近代的な教育に適應するための初めの演習であり、今後の学びの基盤を築きます。

学習目標・到達目標

- ・コミュニケーションの基本である「発信」と「受容」が習得できている
- ・効果的なプレゼンテーションの力が身についている
- ・主体的に学ぶ習慣が出来上がり、上級のアクティブラーニングへの対応力とモチベーションが身についている

評価方法その他

グループワークへの積極的な参加 56点
課題 28点
ショートプレゼンテーション・テスト 16点

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス:グループワークの進め方と基本的なコミュニケーション技術の説明
- 第1クール:大学で学びたいこと、学ぶべきこと
- 第1クール:私たちが置かれている状況について考える
- 第1クール:プレゼンテーションの極意「TED」
- 第1クール:コミュニケーションを楽しもう(その1)
- 第2クール:一つの目標に向かって進む
- 第2クール:ICTの活用
- 第2クール:ファシリテーションを理解する
- 第2クール:コミュニケーションを楽もう(その2)
- 第3クール:リーダーシップと意思決定
- 第3クール:交渉!
- 第3クール:チームビルディング
- 第3クール:ビジョンを持つよう!
- ショートプレゼンテスト:効果的に大勢の人の心に伝える技術
- まとめ:女性の自立と個の確立

グループワークのテーマは、クラスの進み方により多少の変更があります。

使用教科書名

NO. G06007001

有機化学

三島 綾子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

有機化学で学ぶべき課題を基礎的な事項から複雑な生体構成成分まで学習する。特に食品、生体分子に関連する有機化合物の理解に力を入れる。生体分子や食物に含まれる有機化合物のみならず、私たちの身のまわりに存在する有機化合物についても、その性質や反応性について学習する。

学習目標・到達目標

- 食品、生体分子に含まれる有機化合物、私たちの身のまわりに存在する有機化合物の構造、性質ならびに化学変化について学ぶ。

評価方法その他

平常点(50%)および定期試験の得点(50%)により評価する。
平常点は授業への参加状況・演習・課題レポート等により総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 有機化合物の分類と化学結合
- 有機化合物の立体化学I
- 有機化合物の立体化学II
- アルカン、アルケン、命名法
- アルキン、芳香族化合物
- 官能基による特徴・・・酸素含有有機化合物と硫黄を含む化合物
- 官能基による特徴・・・窒素含有有機化合物
- 有機化合物の反応・・・酸化還元、置換反応
- 有機化合物の反応・・・付加反応、脱離反応
- 炭水化物
- 糖の誘導体
- アミノ酸と蛋白質
- 脂質
- ビタミン
- 核酸
- 定期試験

使用教科書名

基礎有機化学（宗義科学シリーズNEXT）講談社サイエンティフィク
（適宜、プリントも配布する。）

NO. G06008001

分子生物学

岩見 哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

分子生物学とは細胞内部での様々な生命現象を分子のレベルで理解する学問である。そこで、生命の基本的特性のひとつである遺伝現象を司る遺伝子のはたらきを明らかにすることを目的に、DNA・ゲノムの構造・機能、遺伝情報の解読・利用の仕組みを学び、さらには、近年注目されているエビジェネティックスや遺伝子組換え技術について理解を深める。免疫や代謝等の重要な生命現象についても、分子生物学的視点から解説し、その機構について明らかにしていく。

学習目標・到達目標

- 種々の生命現象を分子レベルでとらえ、その現象を司る遺伝子の働きについて理解を深める。また、遺伝子に関する身近な話題に関心を持ち、その意義・問題点等を認識する。その上で、生命現象を司る遺伝子の働きについて具体的に述べることができる。遺伝子からタンパク質、さらには具体的な生命現象に至る過程を関係づけ、説明することができる。今後発展が予想される遺伝子に関する科学技術について、その意義・問題点等を評価・批判することができることなどを到達目標とする。

評価方法その他

毎回実施する質問・アンケートへの回答状況(20%)および定期試験の得点(80%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 第01回 生命と物質:分子生物学に扱う領域を概説・生命の物質的基盤を解説
- 第02回 細胞の構造と機能
- 第03回 オルガネラ:細胞内構造であるオルガネラのゲノム、オルガネラ間の関係
- 第04回 細胞とゲノム
- 第05回 DNAの構造
- 第06回 DNAと染色体
- 第07回 遺伝子とDNA:遺伝暗号とDNAが遺伝子として機能する仕組み
- 第08回 DNAの複製:細胞分裂時におけるDNAの挙動と複製機構
- 第09回 DNAの修復・組換え:DNA損傷とその複製機構・組換えの機構
- 第10回 DNAからRNAへ:DNAの塩基配列がRNAに転写される機構
- 第11回 RNAからタンパク質へ:RNAの塩基配列が翻訳されタンパク質が合成される機構
- 第12回 転写調節:さまざまな転写調節機構
- 第13回 エビジェネティクス:最近注目されている遺伝子発現制御
- 第14回 免疫の多様性と遺伝子:多様な抗原に対応できる免疫機構
- 第15回 遺伝子に関する最近の話題:iPS細胞や遺伝子治療など遺伝子に関する身近な話題を紹介・解説
- 第16回 定期試験

使用教科書名

授業中に資料を配付する。

NO. G06009001

統計学演習

黒田 久夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

統計の基礎を理解し、統計ソフトウェア・エクセル統計ベルカーブを使いこなせるようにします。実験データや社会調査結果をどのように数値化し、解析するかを演習形式で学んでいきます。疫学や心理統計学の考え方も紹介していきます。

学習目標・到達目標

- ・データを数値化し、統計的手法により検定ができる。
- ・統計の考え方と手法が説明できる。

評価方法その他

課題 60%
テスト 40%

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス、統計学を学ぶ意義、バックグラウンド調査
- 高校数学の復習
- エクセル・ソフトウェアの習得
- データと尺度
- 散布図と相関
- カイ2乗検定
- 仮説の検定
- 心理実験(A)
- t検定
- 心理実験(B)
- 分散分析(1)
- 分散分析(2)
- 心理統計法
- その他の統計(1)
- その他の統計(2)
- 期末試験

使用教科書名

よくわかる心理統計
テキストの例題を解いていきます。

NO. G06010001

基礎サイエンス実験

岩見 哲夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実験実習を通して、食品科学の基礎となる化学・生化学・生物学の考え方と実験技術を学ぶ。試薬調製、ガラス器具の操作、滴定や酵素反応などの基本的な実験操作や生物学の基礎実験を実習し、クリティカルシンキング、仮説構築と検証など基本的な考え方を理解する。また、ラボノートの作成や研究倫理についても学習し、専門科目の学びの基盤を築く。

学習目標・到達目標

科学実験の基礎的実験技術を習得し、その過程で科学的思考法を理解できるようにする。また、グループワークを通じて仮説構築とその検証、そして考察するといった、科学分野において必要とされている習慣を身につける。
知識:動物細胞や生物の構造・特徴を具体的に列挙できる。実験結果から作用機序等について推察を行う。

評価方法その他

生物分野:毎回実施する質問・アンケートへの回答状況50%,ラボノート50%
化学分野:ラボノート70%,定期試験30%

週 テーマ・授業目標等

- 第01回 オリエンテーション／班分け・準備作業、科学的思考法の説明
第02回 科学実験の基本とラボノート・サブノートの書き方、データの検定(統計処理の方法)
第03回 生物学①:生物学実験の内容と解説／顕微鏡・マイクロメーターの使い方
第04回 生物学②:植物細胞の構造
第05回 生物学③:動物細胞の構造
第06回 生物学④:魚類の解剖／骨格標本の観察
第07回 生物学⑤:ATPによる筋収縮
第08回 生物学⑥:コハク酸デヒドロゲナーゼによる還元作用
第09回 化学①:分子模型を組み立て、構造と性質を理解する(有機化学基礎)
第10回 化学②:酸と塩基(中和滴定)その1
第11回 化学③:酸と塩基(中和滴定)その2
第12回 化学④:酸と塩基(pHと滴定曲線)、緩衝液
第13回 化学⑤:植物性食品の色素のクロマトグラフィーによる分離
第14回 生化学①:高分子化合物の分離精製(バナナからDNAを抽出する)
第15回 生化学②:大麦の発芽と α -アミラーゼ
第16回 定期試験(化学分野)

使用教科書名

生物分野:テキストを配付する。
化学分野:基礎分析化学実験(東京化学同人)

NO. G06013001

社会福祉学概論

西口 守

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

社会福祉の歴史的意義、現代的課題について学びます。

学習目標・到達目標

社会福祉の意味、社会福祉の制度、社会福祉の実践を「食」との関連の中で考え理解します。

評価方法その他

出席15%
中間試験30%
普段の授業態度10%
期末試験45%

週 テーマ・授業目標等

- ①オリエンテーション
②社会福祉の意味
③社会福祉の歴史
④社会福祉の歴史2)
⑤社会保障と社会福祉
⑥特別授業
⑦社会福祉の制度概要 福祉六法
⑧児童福祉
⑨障がい者福祉
⑩高齢者福祉
⑪高齢者福祉
⑫地域福祉
⑬ソーシャルワーク
⑭ソーシャルワーク
⑮まとめ
⑯試験
⑰

使用教科書名

別途指示

NO. G06011001

食と語学A

大和田 寛

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教科書に即して、食に関する英会話と英文購読を行う。キッチンの説明、レシピ、外食はもちろん、栄養学も含まれる。英文法等英語自体の勉強にもなります。パートナーと会話練習をしていただきますので、初回の授業の際毎回のパートナーを決めていただき、隣同士で着席してください。

学習目標・到達目標

食に関連する色々なことを英語で説明できるようにする。

評価方法その他

毎回の小テスト

週 テーマ・授業目標等

1. 初対面の挨拶
2. キッチンの説明①
3. キッチンの説明②
4. 食べ物の好き嫌い
5. 食品の買い物頼む
6. レストランで
7. 調理
8. レシピ
9. 栄養指導
10. 自分の食習慣について話す①
11. 食品の栄養価を調べる
12. 栄養士の仕事
13. 自分の食習慣について話す②
14. 特別食
15. 自分の食体験について話す

使用教科書名

Speaking of Nutrition(南雲堂、2017)

NO. G06029001

食品学総論

山崎 薫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品はヒトにとって大変身近な存在であり、生命維持に必要不可欠な存在である。食品の成分を理解し、日々の生活の維持、健康増進のために役立てる知識を自身が実働的に活用、また第三者へも提供できる基盤となる知識を食品が有する三つの基本的機能(一次機能:栄養特性、二次機能:嗜好特性、三次機能:健康機能特性)を柱に本講義では学びを展開する。そのために食品を構成する成分を化学的に捉えられるようになる学びに加え、近年の食品に関係する法律の変化も捉えながら知識を深める講義展開を行う。

学習目標・到達目標

食品の分類及び成分を体系的に理解する。食品の人体や健康への影響に関する基礎的知識を修得する。その知識を食品製造管理、安全管理、栄養指導、食事計画や調理現場等の場で実践的に役立てられる。

評価方法その他

筆記試験100%

週 テーマ・授業目標等

- 01.ヒトと食品;食文化と食生活、食生活と健康、食料と環境問題
02.食品の一次機能;食品の一次機能とは、炭水化物(糖質、食物繊維)の構造と種類と特性
03.食品の一次機能;脂質の構造と種類と特性
04.食品の一次機能;タンパク質の構造と種類と特性
05.食品の一次機能;ビタミンの構造と種類と特性、ミネラル(無機質)の構造と種類と特性
06.食品の一次機能;核酸・核酸の構成成分、食品の二次機能;食品の二次機能とは
07.食品の二次機能;水分、食品中に含まれる色素成分の分類と特徴
08.食品の二次機能;呈味成分(味とは、甘味成分、酸味成分、苦味成分、塩味成分、うまみ成分)
09.食品の二次機能;香気・におい成分、官能評価、有害成分(植物・動物性、アレルゲン、突然変異原性物質)
10.食品の三次機能;食品の三次機能とは、機能性食品とは、口腔内や消化管内で作用する機能
11.食品の三次機能;消化管吸収後の標的組織における生理機能調節
12.食品の成分変化;炭水化物・脂質・たんぱく質・ビタミンの変化、成分の相互作用による変化
13.食品の成分変化;褐変、光による変化、加圧・加圧・減圧による変化、酵素による変化
14.食品の物性;食品の物性とは、コロイド、レオロジー、テクスチャー
15.食品の表示と規格基準;食品表示制度、健康や栄養に関する表示制度、食品に関する基準
16.定期試験

使用教科書名

栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅰ 食べ物と健康―食品の成分と機能を学ぶ／幸士社
水品啓之、菊崎泰枝、小西洋太郎／編
定価2600・税2015年10月30日発行B5208―ページ

NO. G06051001

基礎調理学実習

小口 悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本・西洋・中国料理の調理実習を通して、基礎的調理技術（加熱、非加熱、調味）、食品の性質と衛生的な取り扱い方、食事作法など食事に関する基礎的総合能力を養うことを目的とする。また、原則として1回の食事となる献立の実習を通して、それぞれの料理様式の特徴や食卓の整え方についても師範を確認しながら理解できるよう、また、多面的な場面で実践をすることが可能となるようにする。

学習目標・到達目標

1. 食材の下処理法や衛生的な取り扱い方を身につける。
2. 食品の種類やその質量が理解でき、味付け(調味割合)の基本を身につける。
3. 日本・西洋・中国料理の基本的な調理法を理解し、技術を身につける。
4. 栄養価計算を可能にし、食品の栄養的な特徴を理解する。また、献立作成、食器・調理器具の取扱いなど、配膳方法、基本的な食事マナーを身につける。

評価方法その他

実習試験(15%)筆記試験(15%)調理のノート(材料・分量・調理法の記載、配膳図、反省、感想、実習ごとの栄養価計算の記載、30%)、授業参加状況(40%)

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション・授業の目的と概要、授業の進め方、評価、実習上の心得
2. 炊飯(水・火加減)、一番だしの種類ととり方、汁物の味付け、野菜の切り方、酢の物の要点
3. 日本料理1、塩味飯、味噌汁の要点、焼き魚の要点、青菜の扱い方、和え物の要点、果物の切り方
4. 食品成分表の成り立ちと使用方法・栄養価計算について、菓子の実習とお茶の入れ方
5. 日本料理2、醤油飯の要点、魚の扱い方と三枚おろし、揚げ物の要点、小豆餡の煮方、餅生地調理
6. 日本料理3、茶飯の要点、生物調理、くずの扱い方
7. 日本料理4、五目飯の要点、煮干だしの要点、卵白・寒天・晒し餡の扱い方
8. 日本料理6、すし飯の要点と具材、卵料理(卵液の希釈割合と加熱条件)、浸し物の調理・調味方法
9. 日本料理7、もち米の扱い方と加熱法、潮汁の要点、煮物の要点、天ぶらの衣と具材(魚介類)の扱い方、寒天の扱い方
10. 西洋料理1、ムニエルの要点、ピラフの要点、ゼラチンの扱い方、西洋料理の配膳法、食卓作法
11. 西洋料理2、ソースとルウ、スープストックの取り方、豚肉の部位と扱い方・焼き方、卵液の希釈と加熱法
12. 西洋料理3、ベシャメルソースの調理法、スポンジケーキの調製法、生クリームの扱い方
13. 西洋料理4、スープの澄まし方、リゾットの要点と魚介類の扱い方、サラダとドレッシング、バターケーキの要点
14. 中国料理1、中国料理の特徴とテーブルセッティング、冷菜、炸菜、湯菜、鹹点心、甜點心(同料理)、中国料理の献立(二、三例)、二、三例の献立、湯菜、鹹点心、甜點心(同料理)

使用教科書名

七訂 食品成分表 女子栄養大学出版部
調理のためのベーシックデータブック 女子栄養出版部
基礎調理学実習テキスト

NO. G06076001

フードスペシャリスト論

山田 正子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

フードスペシャリストとは、食品の品質判定、情報の調査と提供、食品知識の普及、教育、販売促進、食事のコーディネーターや指導、食育活動など、食に関する専門的、総合的知識と技術を持ち、食についての確かな情報を提供する専門職である。食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることを理解した上で、フードスペシャリストの役割、食の専門家として活躍するために求められる食分野の知識について学ぶ。

学習目標・到達目標

社会におけるフードスペシャリストの役割を理解し、食品の品質、安全性、機能性、栄養と健康などの的確な情報を提供する力、豊かで安全かつバランスのとれた「食」を提案できる力を修得する。また、フードスペシャリスト資格認定試験に合格できる知識も身に付ける。

評価方法その他

平常点(40%)、定期試験(60%)

週 テーマ・授業目標等

1. フードスペシャリストとは
2. 人類と食物
3. 人類と食物
4. 世界の食
5. 世界の食
6. 日本の食
7. 日本の食
8. 現代日本の食生活
9. 現代日本の食生活
10. 食品産業の役割
11. 食品産業の役割
12. 食品の品質規格と表示
13. 食品の品質規格と表示
14. 食情報と消費者保護
15. 食情報と消費者保護
16. 定期試験

使用教科書名

四訂 フードスペシャリスト論 第4版／フードスペシャリスト協会／建帛社

NO. G06066001

応用調理学実習

小口 悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

基礎調理学実習を発展させた日本・西洋・中国料理の調理実習を行う。季節向きの献立、行事食、精進料理等、各趣向や目的に合わせた献立において内容に沿った食べ物の文化的、歴史背景も学べる内容とする。技術、食品の性質とその取り扱い方、演出、食事作法なども学ぶ。

学習目標・到達目標

1. 食材の下処理法や衛生的な取扱い方、調理技術を身につける。
2. 食品の種類と質量を理解でき、味付け(調味割合)の基本と応用を可能にする。
3. 行事食を通して食べ物と行事の繋がりや意味合い、食の文化的、歴史的背景を理解する。
4. 趣向に合わせた食事の演出とマナーや献立作成を可能とする。

評価方法その他

平常点(30%)授業への参加状況)、筆記試験(20%)、実習試験(20%)、調理実習ノート他提出物(30%)による総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:オリエンテーション、授業の目的と概要、授業の進め方、評価。実習上の心得、準備等
- 第2回:行事食(桃の節句)
- 第3回:季節向き日本料理(秋)
- 第4回:行事食(端午の節句)
- 第5回:行楽弁当、料理と器、盛り付けの工夫
- 第6回:精進料理
- 第7回:季節向き献立(秋)
- 第8回:中国料理(飲茶)
- 第9回:中国料理(宴席)
- 第10回:テーブルマナー(日本料理)
- 第11回:ティーパーティーメニュー(お茶と菓子の演出とマナー)
- 第12回:こどものための欧風パーティー料理(クリスマス)
- 第13回:行事食(正月料理)
- 第14回:テーブルマナー(日本料理)
- 第15回:テーブルマナー(西洋料理)
- 第16回:定期試験(実習、筆記)

使用教科書名

・「応用調理実習」のテキスト(作成教材)を配布する
・七訂 食品成分表 / 女子栄養大学出版部
・調理のためのベーシックデータ/女子栄養大学出版部・

NO. G06087001

食事計画論

小口 悦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食生活指針や食事摂取基準の概念を理解し、喫食者にとって望ましい食事の計画(献立の作成)ができるための基礎を学ぶ。具体的には、エネルギーと各栄養素の指標を理解し、献立の栄養価計算を食品成分表を用いて可能にする。また、自身の食事内容(料理の種類、料理を構成する材料・分量、調理方法、供応の順番)などを計画し、その評価をおこなう。

学習目標・到達目標

1. 食事計画・設計の意義・目的を理解する。
2. 日本食品成分表の成り立ちを理解し、その使い方を修得する。
3. 食生活指針や食事摂取基準など栄養・食品に関連する施策や指針を理解し、日常の食事献立において実践可能とする。

評価方法その他

定期試験(70%)及びレポート(30%)の総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 食事計画・食事設計の定義と意義・目的
2. 食生活指針について
3. 食事摂取基準と活用(1)栄養素の指標
4. 食事摂取基準と活用(2)エネルギーの指標
5. 食事摂取基準と活用(3)栄養素の指標
6. 食事摂取基準と活用(4)ビタミン・ミネラルの各指標
7. 食育基本法の成り立ちと目的
8. 食事バランスガイド
9. 食卓構成
10. 日本食品成分表の成り立ちと食品の扱い
11. 日本食品成分表の利用上の見方・使い方 廃棄率、必要な食品の重量
12. 栄養価計算
13. 献立作成の条件と方法(1) 献立作成の条件
14. 献立作成の条件と方法(2) 献立作成の実践と評価
15. 献立作成の条件と方法(3) 献立作成の実践と評価

使用教科書名

日本食品成分表 (女子栄養大学出版部)
調理のためのベーシックデータブック(女子栄養大学出版部)

NO. G06091001

被服学概論

富田 弘美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康で豊かな衣生活を目標に、被服材科学、被服管理学、被服衛生学、服飾デザイン、被服構成学などの分野の基礎を総括的に講義し、被服の役割と機能を分かりやすく概説する。
（花田朋美／8回）被服に要求される保健衛生的快適性に関わる機能について概説する。
（富田弘美／7回）被服に要求される社会心理的快適性に関わる機能について概説する。

学習目標・到達目標

被服の領域全般を広く学び、被服に求められる社会的・心理的快適性に関わる機能と身体・生理的快適性に関わる機能を理解し、魅力的で快適な衣生活を送ることに役立つ基礎的な知識を習得する。更に、現代そして未来の衣生活に求められている課題について考察する力を身につける。

評価方法その他

第1回～第8回と第9回～第15回の担当者による担当者別の筆記試験(80%)及び平常点(20%)による総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 1:被服学の領域、被服の着用目的・起源(担当:花田朋美)
- 2:布帛の構造 ー繊維・糸・織物・編物の構造ー(担当:花田朋美)
- 3:被服の素材(1)ー天然繊維ー(担当:花田朋美)
- 4:被服の素材(2)ー化学繊維ー(担当:花田朋美)
- 5:被服素材の染色加工と機能化(担当:花田朋美)
- 6:被服と健康 ー被服の快適性ー(担当:花田朋美)
- 7:被服の管理と機能保持 ー洗浄と保管ー(担当:花田朋美)
- 8:衣生活と環境保全(担当:花田朋美)
- 9:服飾デザイン(1)ーデザイン構成ー(担当:富田弘美)
- 10:服飾デザイン(2)ーデザイン要素ー(担当:富田弘美)
- 11:被服の変遷(1)ー西洋の服装ー(担当:富田弘美)
- 12:被服の変遷(2)ー日本の服装と和服文化ー(担当:富田弘美)
- 13:アパレル設計 ーアパレル産業と既製服サイズー(担当:富田弘美)
- 14:衣生活とファッションビジネス(担当:富田弘美)
- 15:衣生活と福祉 ーユニバーサルデザイナーー(担当:富田弘美)
- 16:定期試験

使用教科書名

適宜プリントを配布する

NO. G06093001

住居学概論

小池 孝子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

住居全般についての基礎的知識を習得する。個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から検討を行う。

学習目標・到達目標

住居は個人や家族の生活の拠点であり、人間生活の最も基本的な場である。人間にとって住まいとは何かを考え、人間らしい生活を送るための空間としての住居のあり方について理解する。建築製図の基本的な技術を習得する。

評価方法その他

小課題20%、製図課題40%、テスト40%により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1) ガイドンス・住居の機能
- 2) 寸法と空間
- 3) 日本の住まいの変遷(1)
- 4) 日本の住まいの変遷(2)・生活様式と住居
- 5) 現代の家族と住まい
- 6) 日本の住宅政策
- 7) 住居の選択と管理
- 8) 住まいと環境
- 9) 安心・安全な住まい
- 10) 高齢者・障害者の住まいー集まって住む(1)
- 11) 集まって住む(2)
- 12) 住まいの設計
- 13) 住まいの設計／製図(1)
- 14) 住まいの設計／製図(2)
- 15) 住まいの設計／製図(3)
- 16) 定期試験

使用教科書名

定行まり子「生活と住居」光生館

NO. G06092001

服飾造形実習A

藤田 恵子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人体下半身の形状を理解し、その計測法を学ぶ。さらに計測値に基づいて下衣の基本的なショートパンツとスカートの製図を書き、立体の形状とパターンとの関係を理解する。自身のサイズのショートパンツとスカートの制作を通して、基礎的な制作技術を習得する。

学習目標・到達目標

下衣の基本的なショートパンツおよびスカートの制作をする。制作に必要な人体下半身の計測法を学び、計測値を基に自身のサイズの製図をし、作品を完成させて着装発表をする。

評価方法その他

平常点40%、作品制作30%、レポート30%
授業の参加状況、作品制作の取り組み方等を総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

1. 各種スカート、ショートパンツの説明、用具の説明、人体計測
2. ショートパンツ・スカートの製図
3. ショートパンツパターンの整理、布裁断、印付け
4. ショートパンツ、ポケット作り・付け、
5. ショートパンツ、脇・股下・股上縫合
6. ショートパンツ、裾・ウエスト始末、ゴム通し、完成
7. スカートのパターン整理、裁断、印付け
8. 仮縫い
9. 補正、脇・ダーツなどの本縫い
10. ファスナー付け
11. ベルト付け、レポート作成の説明
12. ベルト付け完成、ヘムの始末
13. 前カン付け
14. 仕上げアイロン
15. ショートパンツ・スカートの着装発表、レポートの提出

使用教科書名

製作したテキスト配布

NO. G06094001

家庭経営学概論

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間が人間らしく生きる拠点が家庭であり、家庭生活を中心とした家族・コミュニティの営みが家政＝家庭経営である。現代社会における家庭経営の課題を、「家族」「ジェンダー」「消費者」をキーワードに、概説する。特に、親と子、夫と妻など家族を核とする人と人の関係や、仕事や消費といった日々の生活と生命の再生産の営みを中心に現代社会の危機的状況を生活者の視点から見直し、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある消費者市民社会につくりかえる方法を、自分の生活設計と重ねながら考える。

学習目標・到達目標

生活者の視点から、誰もが安心してくらせる、持続可能性のある社会につくりかえる方法を考えます。社会において家庭・家族がもつ意味、果たす役割は時代や社会背景によって異なることを理解し、ジェンダー構造や消費者としてのあり方を将来的展望を持って考察できる力を身につけることを目標とします。

評価方法その他

平常点 30点
小テスト・レポート 70点

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:現代社会における家庭経営の枠組み
- 第2回: 社会変動と家族・家庭～パブリックとプライベートな領域～
- 第3回:生活経営～新しい価値・規範の創造～
- 第4回:家庭経営とジェンダー(1)近現代日本におけるジェンダー構造の変動
- 第5回:家庭経営とジェンダー(2)現代社会におけるワークライフバランス
- 第6回: 家庭生活の経済
- 第7回: 地域と消費者市民社会
- 第8回: 経済生活設計と金融リテラシー
- 第9回: 家族関係(1)家族の概念 結婚と離婚
- 第10回: 家族関係(2)親子関係
- 第11回: 家族関係(3)出産と子育て
- 第12回: 家族・家庭と法律 婚姻・親権・相続等
- 第13回: 少子高齢化社会と福祉
- 第14回: 高齢化社会における生活設計
- 第15回: 家庭と環境問題 持続可能な社会づくりのための家庭経営

使用教科書名

(1)暮らしをつくりかえる生活経営力/朝倉書店/2010

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「食」は心豊かに健康な日常生活を送る上で重要な要素である。自立した社会生活を個々が営むためにも「食」を取り巻く環境や現状、変遷を踏まえ、日本国内に限らず、大きな視野で「食」を捉え、幅広く「ヒトと食生活」「ヒトと栄養」「ヒトと食品」「ヒトと食の安全と衛生」をキーワードにライフステージにも留意し、最新の話題も交えながら総合的に学ぶ。

学習目標・到達目標

生きる力)を育むために重要な要素である「食」に留し、多角的な視点と基礎知識(特に食生活・栄養学・食品学)を習得することを目的とする。また、「食」に関する興味の引出しかたのアプローチとなる正確な食情報を得るツールや情報の精査の仕方にも視点をおき、食情報を正しく活用できる基礎能力習得も行う。

評価方法その他

筆記試験100%

週 テーマ・授業目標等

- 01.ヒトと食生活 「食情報と現代の食の課題」
- 02.ヒトと食生活 「日本の食文化と現代の食生活」
- 03.ヒトと食生活 「世界の食文化」
- 04.ヒトと食生活 「地域の食文化」
- 05.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;炭水化物(糖質・食物繊維)」
- 06.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;脂質・タンパク質」
- 07.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;ビタミン・ミネラル」
- 08.ヒトと栄養 「人体組成と栄養素のはたらき;水分・ファイトケミカル」
- 09.ヒトと食品 「食生産の現場から食卓まで」
- 10.ヒトと食品 「日本食品標準成分表」「食事バランスガイド」
- 11.ヒトと食品 「食品の特徴;分類と成分、表示」
- 12.ヒトと食品 「食品の特徴;動物性食品とその加工食品」
- 13.ヒトと食品 「食品の特徴;植物性食品とその加工食品」
- 14.ヒトと食の安全と衛生 「微生物的危害」
- 15.ヒトと食の安全と衛生 「化学的危害」
- 16.定期試験

使用教科書名

適宜、資料を配布します。

NO. H02001031

人間栄養学原論

加藤 理津子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

健康を維持・増進するためには、食べ物からの側面（栄養・調理など）だけでなく、人からの側面（嗜好、代謝、疾病・健康状態など）を考慮した食生活を営むことが不可欠である。一方、食生活とは、個人々人を取り巻く地域の自然・社会・経済・文化などの条件や歴史の変遷と密接に関わって形成される。そこで、本講義では、食品の生産・流通、食品の選択、調理、食文化との関連を踏まえ、人々が望ましい食生活を営むための栄養管理について解説する。

学習目標・到達目標

- ①4年間の学び、および管理栄養士としての業務の基礎となる人間栄養学を理解する。
- ②人間栄養学を基にした栄養管理を理解する。
- ③栄養管理に必要な知識（食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等）を理解し、説明できる。

評価方法その他

- 提出物30％（1回でも未提出の場合は、評価の対象外とする）
- 定期試験40％
- 平常点30％（受講態度、予習の状況等を総合的に判断する）

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション：人間栄養学の考え方、授業の概要、諸注意事項など
- 人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場（フードサービス、食育・地域栄養ケア）
- 人間栄養学からみた管理栄養士の活躍の場（臨床栄養、スポーツ栄養）
- 人間栄養学からみた栄養管理
- 食生活の現状と対策①：食品の生産・流通、食糧需給、食品ロス
- 食生活の現状と対策②：食品・栄養の情報
- 健康状態の現状と対策：健康問題
- 食文化①：食文化の形成、食事のマナー
- 食文化②：日本料理の変遷、年中行事と食べもの、伝統食・郷土食
- 栄養管理計画の進め方
- 「栄養素」：栄養素の種類と働き、1日の摂取量（日本人の食事摂取基準[2015年版]）
- 「食品」：栄養素の供給源、食品成分表、廃棄率、購入量、栄養価の算出方法
- 「料理」：調理操作、配合、調味の基本
- 「食事」と「生活習慣」：食事の基本形、生活リズムと食事、食事と生活習慣病
- まとめ
- 定期試験

使用教科書名

- 「ヒト食品成分表2016」 女子栄養大出版部
- 「調理のためのベーシックデータ第4版」 女子栄養大出版部
- 「日本人の食事摂取基準[2015年版]」 第一出版

NO. H02003031

有機化学

佐山 信成

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

有機化学はメタノールのような簡単な分子からビタミンB12や糖、タンパク質のような高分子まで多くの有機化合物を対象としている。有機化合物（炭素化合物）は日常生活に欠かせない食品や繊維・医薬品・動植物の生体内にみられ、それらの化合物を学ぶ有機化学は私たちの生活を化学的に説明し、生活方法の指針を示す学問の一つである。本講義は化学入門（基礎科目）の履修を前提に行う。有機化合物の基本構造や性質、有機化学反応について体系的に学ぶ。また糖やアミノ酸、タンパク質等の分子構造や性質について理解し説明できる学力を身につける。

学習目標・到達目標

生化学等を学ぶ上で必要とされる生体分子や日常生活に関連する化学物質について有機化学の観点から、それらの性質や反応性について説明できる基礎学力を身につける。

評価方法その他

- 平常点（50％）および定期試験の得点（50％）により評価する。
- 平常点は授業への参加状況・演習・課題レポート等により総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 有機化合物の構造式と結合、官能基
- アルカン、アルケン、命名法
- アルキン、芳香族化合物
- アルコール、フェノール、エーテル
- アルデヒド、ケトン
- カルボン酸
- カルボン酸誘導体
- アミン・演習（1）
- 中間試験
- 炭水化物
- 立体化学
- アミノ酸、タンパク質
- 核酸
- 脂質
- 演習（2）
- 定期試験

使用教科書名

- マクマリー有機化学概説 第7版（伊東・兎玉訳、東京化学同人）
- （適宜、プリントも配布する。）

NO. H02002031

管理栄養士基礎演習

城田 直子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

専門科目の導入にあたり、人間栄養学科で何をどのように学ぶのか、どのように過ごすしていくのか、全体のカリキュラムを理解する。
また、管理栄養士の活躍する実践現場や活躍する可能性のある場の見学を通して、管理栄養士の社会的役割を理解する。さらに、気付いたこと、学んだことをグループ討議などで深め、4年間の学びの体系をイメージし、学びの意欲を高める。

学習目標・到達目標

実践現場の見学を通じ、管理栄養士が活躍する様々な分野や社会的役割を学ぶことで、管理栄養士業務に対する理解を深め、管理栄養士を目指す気持ちを育む。

評価方法その他

授業への参加状況、授業態度、レポートおよび課題提出状況等により総合的に評価する。
単位を取得できた場合の成績評価は「P（合格）」とする。
ただし、実践現場の見学を欠席した場合は、他の要件を満たしていても単位を認めない。

週 テーマ・授業目標等

- 人間栄養学科のカリキュラムの特徴と4年間の学び、臨地実習の意義
- 管理栄養士の使命と役割および職業倫理
- 管理栄養士の活躍の場
- 管理栄養士の学びの分野と内容および分野間の関連性
- 施設見学で学ぶこと
- プレゼンテーションの方法
- グループワーク
- 学外実習のための基礎知識
- 実践現場の見学（学外実習）
- グループワーク
- 見学報告会①
- 見学報告会②
- 食事様式セミナー実習（学外実習）
- 学びの考察および将来像の描画（演習）
- 栄養価計算ソフトの使用方法（演習）

使用教科書名

特になし。

NO. H02004031

基礎サイエンス実験

沼波 秀樹

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品学実験や栄養学実験など実験科目の基礎となる科目である。自然科学分野の理解は講義を聴くだけでは不十分で、体験に基づく理解が不可欠である。化学及び生物学の分野より、特に必要と思われる基本的な実験を行い、基本的実験技術を体得するとともに、実験結果の分析、観察、考察力を養い、レポートの書き方を習得する。

学習目標・到達目標

自然科学の基本的な事項が、実験に裏打ちされた理解の上に成り立っていることを学ぶ。実験結果の整理を通して、文献・書籍を自ら調べ、理解を深める習慣をもつ。（化学分野）
基礎的な実験によって基本的な生物現象について理解する。また、実験に対する取り組み方やレポートの書き方などについても学び、2年次以降に行われるより高度な実験に対する基礎力を養う。（生物学分野）

評価方法その他

生物分野と化学分野の総合評価
化学分野：平常点（実験態度を含む授業への参加状況）50％＋レポート50％
生物分野：レポート＋実技試験（100％）

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス
- 生物学分野（1）顕微鏡の基本操作
- 生物学分野（2）動物・植物細胞の観察
- 生物学分野（3）染色体・DNA・酵素実験解説
- 生物学分野（4）染色体の観察と核型分析
- 生物学分野（5）DNAの抽出と定性分析
- 生物学分野（6）ATPによる筋収縮実験
- 生物学分野（7）コハク酸脱水素酵素の実験
- 化学分野（1）溶液の調製
- 化学分野（2）中和滴定
- 化学分野（3）酸化還元滴定
- 化学分野（4）緩衝溶液
- 化学分野（5）陽イオンの定性分析
- 化学分野（6）有機化合物の定性分析
- 化学分野（7）分子模型
- 顕微鏡実技試験（生物分野）

使用教科書名

教員作成の実験テキストを配付する。

NO. H02015031

解剖生理学Ⅰ

原 光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「解剖学」は体の「構造」を、「生理学」は体の「機能」を学ぶ学問です。
「解剖生理学」は、「解剖学」と「生理学」を統合・簡略した科目で、人体栄養学の基礎となります。
この講義の教育目的は、管理栄養士が臨床栄養の現場で基礎知識として持つべき、正常（健康）な人体の構造や機能を学習することです。
授業は、ヒトの細胞や組織について論じた後、骨、筋肉、血液、循環器、呼吸器、消化器、内分泌、腎・泌尿器、神経、感覚器について講義を行ってゆきます。

学習目標・到達目標

人体を構成する細胞の構造や機能に関する知識を深め、主な組織や器官の名称を記憶する。
更に、正常（健康）な人体の構造や機能を理解する。

評価方法その他

定期試験の成績で100%評価します。
15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

- 1 遺伝子・細胞の構造
- 2 組織・器官の構造
- 3 面と方向・骨格系の構造
- 4 筋系の構造
- 5 血液・生体防御系の構造
- 6 循環器系の構造
- 7 内分泌系の構造
- 8 消化管の構造
- 9 肝・胆・膵の構造
- 10 呼吸器系の構造
- 11 腎・泌尿器系の構造
- 12 生殖器系の構造
- 13 神経系・感覚器系の構造
- 14 皮膚の構造と栄養
- 15 全体総括
- 16 試験

使用教科書名

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第4版)/岩堀修明/文光堂/2016年

NO. H02016031

解剖生理学Ⅱ

原 光彦

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

解剖生理学Ⅱでは、すでに解剖生理学Ⅰで習得した解剖学の基礎的な知識に基づいて、管理栄養士にとって重要な領域である「人体の構造と機能」についてわかりやすく解説する。特に正常機能（生理学）について理解を深め、2年次後期より始まる応用栄養学、臨床栄養学などの基礎となる知識を網羅する。

学習目標・到達目標

正常における栄養学や、スポーツ栄養、骨代謝・血液疾患・内分泌代謝、消化器・腎臓・神経系などの各種疾患における栄養学を学ぶ上で基礎となる人体の正常な構造と機能の概要を理解する。

評価方法その他

試験100%で行う。
15回の講義の内、正当な理由なく6回以上欠席すると定期試験の受験資格を失います。

週 テーマ・授業目標等

- 1 細胞・遺伝子の構造と機能
- 2 組織・器官の構造と機能
- 3 生殖器系の構造と機能
- 4 骨格系・筋系の構造と機能
- 5 感覚器系の構造と機能
- 6 循環器系の構造と機能
- 7 呼吸器系の構造と機能
- 8 腎・泌尿器系の構造と機能
- 9 血液系の構造と機能
- 10 免疫系の構造と機能
- 11 内分泌系の構造と機能
- 12 消化管の構造と機能
- 13 肝・胆・膵の構造と機能
- 14 神経系の構造と機能
- 15 全体総括と問題演習
- 16 試験

使用教科書名

管理栄養士を目指す学生のための解剖生理学テキスト(第4版)/岩堀修明/文光堂/2016年
（前期の解剖生理学Ⅰと同じテキスト）

NO. H02019031

微生物学

津山 淳

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

微生物は身の回りに多く存在し、我々に様々な影響を与えている。病原微生物学では微生物の基礎的な知識を習得した上で、主に感染症を引き起こす微生物について学んでいく。感染機構および宿主の防御機構、主な感染症の概要、感染症の予防について解説する。初めて微生物を学ぶことを想定し、基本的な内容から丁寧に説明するが、時によっては最新の研究成果も紹介していく。

学習目標・到達目標

感染症を引き起こす病原体の種類と構造について理解する。
宿主の防御機構と感染症が成立する過程を理解する。
主な感染経路およびそれを引き起こす微生物について基礎的な知識を獲得する。
食中毒や腸内細菌など、食と微生物との関連について理解する。

評価方法その他

試験100%(100点満点)で行う。
ただし、講義中に内容に関連した質問をした場合や、こちらから出す問いに対して正答した場合は加点の対象とする。
試験は定期試験のみ。

週 テーマ・授業目標等

- 1.微生物とは何か
- 2.感染の基本と自然免疫システム
- 3.獲得免疫システム
- 4.細菌の分類とグラム陽性球菌
- 5.通性嫌気性グラム陰性桿菌
- 6.好気性菌 芽胞菌
- 7.嫌気性菌 マイコバクテリウム 非定型細菌
- 8.ウイルスⅠ
- 9.ウイルスⅡ
- 10.ウイルスⅢ
- 11.プリオン 真菌
- 12.蠕虫と原虫
- 13.感染性食中毒
- 14.ワクチン・腸内細菌と腸管免疫
- 15.法令・院内感染予防・消毒と滅菌
- 16.定期試験

使用教科書名

コンバト微生物学(改訂第4版)

NO. H02022031

生化学

馬場 修

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

生化学は生命現象の本質を化学的方法によって解明しようとする学問である。生化学Ⅰでは、一般的な生化学の知識を習得するとともに、特に食品学、栄養学、調理学との関連を重視し、我々が食品に含まれる栄養素をどのように体内に取り入れ、どのように生命の維持と生命現象の発現に利用しているかについて概説する。

学習目標・到達目標

生体成分(糖質・脂質・アミノ酸・たんぱく質・核酸等)の構造と性質を理解する。
生体成分の相互関係を理解する。
生体成分の代謝について理解する。

評価方法その他

筆記試験(100%)

週 テーマ・授業目標等

1. 生命の化学的基礎
2. たんぱく質と酵素(1)
3. たんぱく質と酵素(2)
4. たんぱく質と酵素(3)
5. 糖質とその代謝(1)
6. 糖質とその代謝(2)
7. 糖質とその代謝(3)
8. 生体酸化還元とエネルギー生産
9. 脂質と生体膜
10. 脂質とその代謝(1)
11. 脂質とその代謝(2)
12. 脂質とその代謝(3)
13. アミノ酸代謝(1)
14. アミノ酸代謝(2)
15. プリン、ピリミジンとその代謝

使用教科書名

基礎から学ぶ生化学／奥 恒行他編／南江堂／20016

NO. H02024031

基礎食品学

海野 知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

食品の構成成分（水分、タンパク質、炭水化物、脂質、ビタミン、ミネラル、色素成分、呈味成分、香気・におい成分など）の物理的・化学的性質を理解するとともに、食品成分間の反応や調理・加工特性など、我々が食している食品について総合的に学ぶ。また、食品の機能性をベースとした食品（特定保健用食品、特別用途食品、栄養機能食品、機能性表示食品など）について関連法規の枠組みを講義する。

学習目標・到達目標

食品に含まれる各種成分の化学的特徴を習得する。また、人間と食品の関わりについて、食品利用の歴史の変遷はもとより、栄養面、嗜好面、安全面への影響を説明できるようにする。さらに、食品成分の具体的な機能性や疾病予防に対する役割を学び、それらを適切に利用するために食品表示制度の仕組みを把握する。

評価方法その他

定期試験(80%)、小テスト(20%)

選 テーマ・授業目標等

1. 食生活と健康、食料と環境問題
2. 食品の主要成分(水分)
3. 食品の主要成分(炭水化物)
4. 食品の主要成分(脂質)
5. 食品の主要成分(タンパク質)
6. 食品の主要成分(ビタミン)
7. 食品の主要成分(ミネラル)
8. 食品の嗜好成分(色素成分)
9. 食品の嗜好成分(呈味成分)
10. 食品の嗜好成分(香り成分)
11. 食品の物性
12. 食品成分の反応(化学的変化・酵素的変化)
13. 食品の機能性
14. 特定保健用食品・特別用途食品・栄養機能食品・機能性表示食品
15. 栄養成分の表示(強調表示)
16. 定期試験

使用教科書名

食べ物と健康「食品成分を理解するための基礎(第2版)喜多野宣子・近藤民恵・水野裕士(化学同人)」

NO. H02030031

基礎調理学実習

大富 あき子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

具体的な調理技術の到達目標を最初に示すので、授業中はもとより自宅でも日々調理に慣れること。毎回決められているテーマにそった3〜4品の献立を、4〜5人のグループごとに調理する。授業の前に予習レポートを書くことにより実習内容を把握して実習に臨む。授業後は実習の反省点や調べたことを復習レポートに書く。以上で1回の実習が完結する。

学習目標・到達目標

- ①基本的調理技術と器具類の正しい使用方法を身に付け実践できる。
- ②薄味、均等な盛り付け、最小の栄養損失などを考えた調理が実践できる。
- ③様々な食材について調理特性を考慮して扱うことができる。

評価方法その他

提出物30%(1回でも未提出の場合は、30%分を評価の対象外とする)
技術試験30%
定期試験20%
平常点20%(実習時のみ身だしなみ、班での取り組み状況等を総合的に判断する)

選 テーマ・授業目標等

- 1 ガイドانس実習の注意事項、調理器具類の確認
- 2 計量の練習、
- 3 生の操作 包丁の扱い方、野菜の切り方1
- 4 日本茶について 日本茶の知識と入れ方、五節句について(柏餅)
- 5 鯉節について だしの種類と取り方
- 6 ゆでる操作(日本料理)基本の一汁三菜 青菜のゆで方 他
- 7 野菜の切り方2、魚の三枚おろし(日本料理) 実技試験1(3回で既習の内容)
- 8 煮る操作(日本料理) 煮物 他
- 9 炒める操作(中国料理)炒飯 他
- 10 揚げる操作(中国料理)唐揚げ 他
- 11 焼く操作(西洋料理)ハンバーグ、オーブンで焼く菓子 他
- 12 蒸す操作(西洋料理)カスタードプディング 他
- 13 実技試験2(7回で既習の内容)
- 14 和菓子作り、包丁の研ぎ方 水ようかん 他
- 15 まとめ 実技試験3(包丁の確認)
- 16 定期試験

使用教科書名

「新調理学実習第2版」同文書院、
「七訂食品成分表2018」女子栄養大学出版部、
「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部

NO. H02028031

調理学

大富 あき子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

調理過程における食品材料の化学的、物理的、組織学的変化を知り、おいしくなる方向へとその変化を制御する学問が調理学である。体に必要な栄養成分を食べられる形である献立として示せなければ、せっかくの管理栄養士としての栄養指導も実行できない。従って保存・調理による栄養素の消長や機能成分の出現あるいは減少、物性の変化と食べ易さや消化吸収との関係などの知識は非常に重要である。そこで食品材料や調理操作に関すること、おいしさを評価する方法に関すること、調理学的な側面からの献立作成に関することなどを順を追って学ぶ。

学習目標・到達目標

調理学という学問の意義を理解し説明することが出来る。
各食品材料の調理過程による変化を理解し説明することが出来る。
調理操作の結果、なぜその様な現象が起きるのかを根拠を持って考えることが出来る。

評価方法その他

定期試験(90%)、平常点(10%)
(平常点は授業への参加状況等で総合的に判断する)

選 テーマ・授業目標等

1. 食べ物と嗜好性
2. 食事設計と栄養
3. 調理器具と調理操作
4. 調理操作による変化 : 米
5. 調理操作による変化 : 小麦
6. 調理操作による変化 : イモ類、豆類
7. 調理操作による変化 : 野菜
8. 調理操作による変化 : 海藻、果物
9. 調理操作による変化 : 肉
10. 調理操作による変化 : 魚
11. 調理操作による変化 : 砂糖
12. 調理操作による変化 : 卵
13. 調理操作による変化 : 牛乳、デンプン
14. 調理操作による変化 : 油脂、寒天、ゼラチン
15. まとめ
16. 定期試験

使用教科書名

「調理学」東京化学同人

NO. H02032031

食事計画論実習

加藤 理津子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

管理栄養士業務の基本は、健康状態に応じた栄養管理を適切に運営することである。そのためには、栄養状態の診断結果を客観的に分析する力、必要な支援計画を立案する力、目標達成に向け計画を運営する力が必要となる。そこで、本実習では、栄養管理の要となる食事計画について、栄養管理の手順に沿って実践しながら、対象者の健康状態に応じた栄養管理を行うために必要な知識と技術を学ぶ。また、食事計画の立案にあたっては、平成25年にユネスコ無形文化遺産に登録された「和食：日本人の伝統的な食文化」をベースに、「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」、「生活習慣」を適切に選択し、食事計画を立案できる力を身に

学習目標・到達目標

- ①栄養管理の目的および手順を理解し、説明できる。
- ②栄養管理の手順に基づいた食事計画を運営できる。
- ③栄養管理計画の作成に必要な知識(食事摂取基準、食品成分表、食品構成、食文化等)を適切に使用しながら、対象者の健康状態に応じた「栄養素」、「食品」、「料理」、「食事」を選択し、食事計画を立案できる。

評価方法その他

提出物50%(1回でも未提出の場合は、評価の対象外とする)
定期試験30%
平常点20%(受講態度、予習の状況、プレゼンテーション等を総合的に判断する)

選 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション:授業の概要、授業の進め方、諸注意事項など
2. 栄養管理の手順の確認、栄養状態の診断(アセスメント)の実践
3. 栄養状態の診断(アセスメント)の結果分析、目標設定、給与栄養目標量の設定
4. 食品構成の作成
5. 献立の作成①(献立構成の決定)
6. 献立の作成②(食材および使用量の決定)
7. 献立の作成③(発注伝票の作成)
8. 献立の点検、調理計画の立案、衛生管理の確認
9. 献立の実践
10. 献立の評価
11. 献立の改善①(献立の見直し、発注伝票の作成)
12. 献立の改善②(調理計画の見直し、衛生管理の見直し)
13. 献立の実践
14. 献立の評価
15. 評価の報告会
16. 定期試験

使用教科書名

「七訂食品成分表」女子栄養大学出版部
「調理のためのベーシックデータ第5版」女子栄養大学出版部
「日本人の食事摂取基準[2015年版]」第一出版

NO. H02035031

基礎栄養学Ⅰ

海野 知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養と健康および疾病との係わり、栄養と食生活の関係、栄養学の歴史的背景から栄養の定義について学ぶ。また、栄養素の機能について理解を深めるために、栄養素の生理的作用、体構成成分としてのエネルギー源の役割、栄養素の体内相互変換および機能性について体系的に学ぶ。さらに、個体の栄養状態に適合した栄養マネジメントを行うためには、生活活動や生活のリズムにより食欲が大きく変化することも予想されることから、食物の摂取のタイミングによる栄養素の消化・吸収の変化についても基本的概念を中心に解説する。

学習目標・到達目標

基礎栄養学Ⅰでは、「栄養」の定義、その意義を学ぶとともに、摂食行動から消化・吸収および栄養素の体内運搬までの基本的な概念を理解する。特に、食後・食間期の糖質や脂質の代謝変化の概要を理解し、エネルギー源としての生理的意義を説明できるようにする。また、摂取する脂質の量・質が生活習慣病の発症に関連することも指摘されることから、その重要性について理解を深める。

評価方法その他

定期試験(80%)、小テスト(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. 栄養の定義、栄養と健康・疾患
2. 遺伝形質と栄養の相互作用
3. 満腹感・空腹感と食欲、摂食量の調節、食事のリズムとタイミング
4. 消化器系の構造と機能
5. 消化過程の概要、管腔内消化の調節
6. 膜消化・吸収
7. 栄養素別の消化・吸収(たんぱく質、炭水化物)
8. 栄養素別の消化・吸収(脂質、ビタミン、ミネラル)
9. 栄養素の体内動態、生物学的利用度
10. 炭水化物の栄養(エネルギー源としての作用、血糖とその調節)
11. 炭水化物の栄養(糖質の体内代謝、他の栄養素との関係)
12. 炭水化物の栄養(食物繊維)
13. 脂質の栄養(脂質の臓器間輸送、脂質の体内代謝)
14. 脂質の栄養(貯蔵エネルギーとしての作用、摂取する脂質の量と質の評価)
15. 脂質の栄養(脂肪酸由来の生理活性物質、他の栄養素との関係)
16. 定期試験

使用教科書名

栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第3版(羊土社)

NO. H02036031

基礎栄養学Ⅱ

海野 知紀

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ヒトの健康維持・増進には、栄養素やエネルギー量の摂取バランスが重要な要因の一つと考えられる。基礎栄養学Ⅱにおいては、食品中のたんぱく質、ビタミン、ミネラルなどの栄養素が人体の機能維持において果たす役割、その過不足がもたらす欠乏症と過剰症などについて解説する。次に、栄養素ではないが、ヒトの生命維持に必須となる水の栄養学意義を理解し、1日当たりの水の出入納を把握する。後半では、食後と食間期の代謝の違いや身体活動(生活活動・運動)との関わりに伴って変化するエネルギー産生栄養素の体内利用を解説する。

学習目標・到達目標

基礎栄養学Ⅰに引き続き、栄養素(たんぱく質、ビタミン、ミネラル)の役割を説明できるようにする。たんぱく質は量だけでなくその質(栄養価)が重要であることから、栄養価の評価法を説明できるようにする。ビタミン、ミネラルは、欠乏と過剰の観点からそれらの生理的意義を修得する。エネルギー代謝は、その測定原理を理解するとともに、エネルギー消費量の算出法を学び、管理栄養士に要求される個人および集団の健康維持・増進、疾病予防の活用に発展できるようにする。

評価方法その他

定期試験(80%)、小テスト(20%)

週 テーマ・授業目標等

1. たんぱく質の栄養(たんぱく質の合成と分解)
2. たんぱく質の栄養(たんぱく質・アミノ酸の体内代謝)
3. たんぱく質の栄養(アミノ酸の臓器間輸送)
4. たんぱく質の栄養(摂取するたんぱく質の量と質の評価)
5. ビタミンの栄養(ビタミンの構造と機能)
6. ビタミンの栄養(ビタミンの栄養学的機能)
7. ビタミンの栄養(ビタミンの生物学的利用度)
8. ミネラルの栄養(ミネラルの分類と栄養学的機能)
9. ミネラルの栄養(硬組織におけるはたらき、生体機能の調節作用、酵素反応の賦活作用)
10. ミネラルの栄養(鉄代謝と栄養、ミネラルの生物学的利用度)
11. 水の栄養的意義(生体内の水、水の出入納、脱水・浮腫)
12. 電解質の栄養的意義(電解質代謝と栄養)
13. エネルギー代謝の概念
14. エネルギー消費量、臓器別エネルギー代謝
15. エネルギー代謝の測定法
16. 定期試験

使用教科書名

栄養科学イラストレイテッド基礎栄養学 改訂第3版(羊土社)

NO. H02056031

給食経営管理論

吉野 知子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

給食における栄養管理、安全・衛生管理、作業管理および施設管理等の給食運営の理論を学ぶ。さらに食品流通や給食に関わる経営全般を総合的に判断し、栄養面、安全面、経営面全体のマネジメントを行うための基礎理論について理解する。具体的には、特定給食施設の概要と管理栄養士の配置基準、人事・労務管理、原価管理、給食業務の流れ、栄養管理と栄養教育、食事計画と献立作成、食材料管理、大量調理の特性と作業管理、HACCPと安全・衛生管理等について学ぶ。

学習目標・到達目標

特定給食施設における給食経営管理の理論(組織管理・マネジメント、システム、食材料管理、栄養・食事管理、品質管理、衛生管理、危機管理 等)を説明できる。

評価方法その他

定期試験(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、課題の提出状況等で総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. ガイダンス
2. 給食の概念と特定給食施設
3. 給食経営管理の対象と組織
4. 給食の組織と人事・労務管理
5. 給食経営と会計・原価管理
6. 栄養管理と栄養教育
7. 食事計画と献立作成
8. 食材料管理
9. 生産・作業管理
10. 安全・衛生管理とHACCP
11. 施設・設備管理
12. 給食管理における評価とその方法
13. 各種給食運営の特徴
14. 給食の関係法規
15. まとめ
16. テスト

使用教科書名

給食経営管理論/三好恵子、山部秀子、平澤マキ/第一出版

資 格 科 目

NO. 610001001

教師論

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教師とはどのような仕事をする職業なのかを論じます。その職務、身分、研修など、現代の教師にとって最も重要な仕事の一つは、子どもをどうとらえるか、です。つまり、教師の子ども観です。これは、みなさん自身の問題に直接つながる問題でもあります。また、教師以外の職業選択についても考えます。

学習目標・到達目標

子どもを理解するとは、どのようなことなのか、この課題が、じつは、大変に困難な課題であることが分かること、である。子どもを理解するとは、自分自身を考えることであり、自分の問題を通して、教師論の課題が理解されなければならない。教師の仕事は、どのように教材を教えるかだけではない、さまざまな仕事を持っており、学級経営や同僚との関係維持、保護者や地域の人々との話し合い、があることを理解すること。

評価方法その他

平常点15％、試験85％、など総合評価

週 テーマ・授業目標等

1. 教師をめざす人たちへ
2. 現代における子ども・青年
3. いじめ自殺問題
4. 学力と競争
5. 暴力と子ども
6. 消費社会と子ども
7. 登校拒否
8. 思春期・青年期とは何か
9. 現代の教師とは
10. 身分と服務
11. 教師の養成と研修
12. 父母と地域との共同
13. 教育にたずさわる人びと
14. 社会教育施設、福祉施設の職員
15. NPO関連の人びと
16. 試験

使用教科書名

特に指定はしない。

NO. 610002031

教育原理

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1. 教育とは何か、を論じる。人間にとって教育とは何か、教育は発達に働きかける営みである、ことを論じる。2. 学校とは何か、を論じる。古代の学校はなぜ、成立したのか、そして、近代学校はどのような成立したのか、を論じる。3. つぎに、学力とは何か、授業とは何か、教育評価はどうあるべきか、教育課程の編成原理について、生活指導とは何か、そして、道徳教育の意義、ついて論じる。教育の内的事項の説明である。最後の、4. 教師の仕事とは何か、教育行政の原理とは何か、を論じる。現代日本の教育現実を批判的に見つめ、どのような改革が必要か、自分の頭で考え

学習目標・到達目標

テキストを厳密に読み、理解することができるようになること。教育の基本原理解（教育、学校、教育評価、教育課程、授業づくり、生活指導、教育行政、教師、子どもの権利など）について、簡潔に、説明できるようになること。実際の教育現場の具体的な問題を教育の理論問題にして考える能力をつけてもらいたい。つまり、教育問題の理論的解決という姿勢の形成、である。

評価方法その他

平常点20％、試験80％、など総合評価。教科書の要点や講義の話など、きとっと自分のノートにまとめておくことが肝心である。自宅に帰ったら、かならず、家庭学習ノート(KGノート)を再度、つくること。KGノートを作成しなければ、おそらく、単位修得は難しいだろう。

週 テーマ・授業目標等

1. 教育学を学ぶ、主体的契機とは
2. 教育とは何かー人間と教育の関係
3. 教育とは何かー発達と教育の関係
4. 文明と学校の誕生
5. 近代学校の成立、
6. 学力とは何か、学習指導要領とは何か、
7. 教育評価とは何か
8. 教育課程の編成原理
9. 生活指導とは何か
10. 道徳教育の意義
11. 授業とは何か
12. 教師の仕事
13. 教育行政の課題ー教育を受ける権利
14. 教育行政の課題ー教師の自由
15. 教育行政の課題ー地域に開かれた学校
16. 試験

使用教科書名

田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有楽園

NO. 610002001

教育原理

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育が人間にとってどのような意味をもっているのかを根本的に考えるために、人類の歴史、教育の歴史、教科書問題、学力、生涯学習、子どもの権利等の多様な観点から理解が深められるように授業を行う。毎時資料（歴史的原典・ワークシート（A3判表裏印刷2枚）を配布し、知識および理解の定着を図っている。歴史的な建造物や絵画については、PPTで映像を示しながら授業を行う。

学習目標・到達目標

教育が人間固有の営みであることを理解し、現代教育問題の本質にあるものを見つめられるようになることを学習目標とする。教育の意義を理解することで、教職を志す者としての心構えを身につけ、広い視野で社会貢献できる教員を目指す姿勢が備わることも目標である。

評価方法その他

平常点20％、小テスト(2回)30％、最終レポート50％で総合評価。積極的な授業参加態度と真面目に考える姿勢を持つことが評価のポイントとなる。

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:教育が人間にとって持つ意味:人間とチンパンジー等の他の動物と比較しながら、人間にとって教育がもつ意味を考える。
- 第2回:人間は教育をどのように捉えてきたか:「教育とは何か」を考える導入として、古代から現代に至るまで、世界の著名人が教育について述べた理念および名言等を紹介する。
- 第3回:<子ども>の発見:西洋近代では「子ども期」の発見によって教育が誕生した。フィリップ・アリエスの研究を紹介しながら西洋教育史の導入とし、西洋近代における教育思想:コメニウス、ルソー、コンドルセの教育思想を概説する。
- 第4回:近代日本に影響を与えた西洋教育思想:ペスタロッチー、フレーベル、デュエーイの教育思想を概説する。
- 第5回:近世以前の教育と近世の教育:大学寮、足利学校等近世以前の教育と近世の藩校郷校について映像を用いて概説する。
- 第6回:近世の教育思想:中江藤樹、細井平洲、貝原益軒等と私塾の塾主となった本居宣長、広瀬淡窓、吉田松陰等江戸時代の代表的な教育者の思想を紹介する。(第1回小テスト)
- 第7回:近代日本公教育制度の成立と展開:近代日本公教育制度の成立期の制度として学制の頒布と教育令について概説する。
- 第8回:近代日本公教育制度の成立と展開:初代文部大臣森有礼の教育政策と教育勅語の公布
- 第9回:子どもの権利条約:コルチャック神父の思想について概説し、子どもの権利条約の条文を示しながら、それに抵触する現代日本社会における児童虐待等の問題を子どもの権利の観点から批判的に検討する。
- 第10回:教科書の歴史:近代日本の教科書の歴史、現代的課題を概説する。(第2回小テスト)

使用教科書名

田嶋一ほか『やさしい教育原理 改訂版』有楽園

NO. 610003001

教育心理学

木村 文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校・家庭・社会でよりよい教育を展開するために必要な、教育心理学の基礎的概念と基本的事項を様々な具体例から習得させ、生涯発達の観点から乳児期から死に至るまでの能力の発達過程と、個々の発達に応じた教育的対応への理解を深めさせる。障害のある幼児、児童・生徒の心身の発達及び学習の過程も理解させ、実践的な問題解決能力を習得させる。

学習目標・到達目標

「教職」という立場で、生徒、保護者、他の教師、関係諸機関に接するにあたり、必要な教育心理学的な知識、および心理学に基づく考え方やものの見方を概観する。その上で、生徒にまつわるさまざまな現場での問題解決手段の一つとして、これらの考え方やものの見方を用いることができるようになることをその授業の到達目標とする。そのため、テキストや資料を基にした講義を行うが、受講者が主体的に「考える」ことを重視する予定である。

評価方法その他

授業への姿勢(30%)、及び試験の結果(70%)をもとに総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクションー心理学と教育、人の発達の関わりー
2. 発達と教育1ー身体・運動機能ー
3. 発達と教育2ー脳と神経ー
4. 発達と教育3ー自我の発達ー
5. 発達と教育4ー自我の防衛機制ー
6. 発達と教育5ー社会性の発達ー
7. 発達と教育6ー心理的発達に関する理論ー
8. 学習を支えるメカニズム1ー動機づけー
9. 学習を支えるメカニズム2ー記憶と自己効力感ー
10. 学習に関する理論1ー条件づけー
11. 学習に関する理論2ー観察学習と技能学習ー
12. 学習に関する理論3ー教育における評価ー
13. 障害と教育1ー「障害のある子ども」とはー
14. 障害と教育2ー合理的配慮と教育の過程ー
15. 総括
16. 定期試験

使用教科書名

NO. 610004001

教育制度論

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

なぜ、公教育制度が制定されるようになったのか、教育関連の制度が時代によってどのように変遷してきたのか、現代教育が抱える問題とどのような関係があるのかについて、憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法等の基本的な教育法規をもとに概説する。

学習目標・到達目標

教育制度は、近代国家に制定された学校教育を中心とした制度である。近代国家は、何故、このような教育制度を必要としたのか、こうした法制度のもつ意味としくみおよび他の憲法等の法制度との関係を理解することを目標とする。

評価方法その他

受講態度20%、試験50%、小テスト(2回)30%で総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 教育制度を学ぶことの意味 人間にとって制度とは何か。
2. 教育法のしくみ 教育関連法のしくみと相互関係
3. フランス公教育制度成立の歴史
4. 日本国憲法と教育
5. 戦前日本の教育制度:教育法規の勅令主義が決定するまでの課程
6. 日本国憲法と教育基本法
7. 教育基本法改訂とその問題
8. 学校教育法と義務教育
9. 教育機会の均等
10. 教職員の制度(1)教員の任用と身分保障
11. 教職員の制度(2)教員養成・研修
12. 教育行政制度(1)教育委員会の組織と職務
13. 教育行政制度(2)教育委員会制度の意味と歴史
14. 教科書制度
15. 現行教育制度の諸問題とこれからの教育制度
16. 期末試験

使用教科書名

川口祥登・中山弘之編著「改訂版 未来を創る教育制度論」北樹出版 2016年

NO. 610004031

教育制度論

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

近代日本における教育制度の展開を論じる。教育制度は、教育政策と教育運動のダイナミックな動きによって、改編されてきた。教育政策の本質と機能、教育運動の果たした役割などを講じる。戦前と戦後、その違いが重要であるので、特に詳しく論じたい。また、今後の教育制度上の課題は何か、具体的に論じたい。

学習目標・到達目標

テキストをきちんと読みこなすことが重要。要約を求める。要約をした上で、自分の感想を、述べるることができること。

日本の教育制度が、どのような変遷をたどったのか、とくに、教育政策と教育運動(民衆の教育要求)との関連というその事実をふまえて理解できること。そして、未来に向かって、いかなる教育制度上の課題を解決する必要があるのか、具体的にイメージできることが重要である。

評価方法その他

平常点15%、試験85%、など総合評価。

週 テーマ・授業目標等

1. 教育政策と教育運動
2. 明治国家の成立と教育制度の展開
3. 学制頒布
4. 自由民権運動と教育政策
5. 教育勅語
6. 天皇制国家体制と教育制度の改編
7. 教育制度の拡充(女子教育、実業教育、高等教育)
8. 社会主義運動と教育政策
9. 大正期新教育運動
10. 臨時教育会議
11. 新教育運動、芸術教育運動
12. 戦時教育体制と教育運動
13. 戦後教育改革
14. 教育基本法の成立
15. 教育を受ける権利、など
16. 試験

使用教科書名

NO. 610005001

教育課程論

齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校教育にはさまざまな問題が山積しており、新たな学校教育のあり方が問われている。そこで重要となるのが、「学校における子どもの学びの総体」である教育課程(カリキュラム)の充実である。また、教育課程経営(カリキュラムマネジメント)の重要性も増している。この講義では、教育課程や教育課程経営をとらえる際に必要な視点や教育課程を規定している学習指導要領についての基礎的・基本的事項について、歴史的な視点を通して講義を行う。特に次期学習指導要領については詳しく解説する。また、「主体的・対話的で深い学び」を積極的に取り入れ、理解の深化を図る。

学習目標・到達目標

この講義では、子どもの学びを保障する教育課程の意義について考え、理解を深める。教育課程に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、編成の方法を理解することを目標とする。

評価方法その他

定期試験 70%、平常点 30%。
定期試験:基礎的・基本的な用語を理解し、身に付ける。
平常点 :授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

週 テーマ・授業目標等

授業計画

- 第1回:ガイダンス・教育課程とカリキュラムの類型
・教育課程とカリキュラムの類型
- 第2回:教育課程に関する法制及び行政
・教科書検定制
- 第3回:近代日本の教育課程
・明治期や大正自由教育、国民学校
- 第4回:現代日本の教育課程 昭和編
・戦後の経験主義、現代化とゆとり教育
- 第5回:現代日本の教育課程 平成編
・ゆとり教育と生きる力
- 第6回:学習指導要領の改訂
・次期学習指導要領(中学校編・高等学校編)の解説
- 第7回:教育課程をどう編成するか。
・教育課程の構成要件と編成の基本原理
・カリキュラムマネジメント

定期試験

使用教科書名

齋藤義雄・倉本哲男・野澤有希「教育課程論―カリキュラムマネジメント入門―」大学国書出版 2018年

NO. 610006001

家庭科教育法A

和田 早苗

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

中学校・高等学校の家庭科を担当するために必要な基礎知識(家庭科の歴史、教科目標、内容、意義、評価等)について学び、中学生、高校生の発達段階や生活状況、社会の変化の動向を考慮した教育法や題材の選び方を学ぶ。それらをふまえ、学習指導案の作成および検討、模擬授業を行う。

学習目標・到達目標

中学校・高等学校の家庭科の目標や内容、学習方法、評価等について理解し、学習指導案を作成することができるようになることを目標とする。

評価方法その他

レポート(学習指導案、省察):40%
授業内提出物:40%
平常点(授業への参加状況、発表など):20%

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス、家庭科とは
- 2.家庭科教育の理念、歴史的変遷、家庭科の教科目標と内容
- 3.家庭科の学習内容(1)家庭・家族
- 4.家庭科の学習内容(2)衣生活
- 5.家庭科の学習内容(3)食生活
- 6.家庭科の学習内容(4)住生活
- 7.家庭科の学習内容(5)環境
- 8.家庭科の学習内容(6)消費生活
- 9.家庭科の評価と年間指導計画
- 10.学習指導案の作成方法
- 11.学習指導案の作成(1)指導計画案
- 12.学習指導案の作成(2)授業の展開
- 13.学習指導案の検討(1)
- 14.学習指導案の検討(2)、修正
- 15.模擬授業、総括

使用教科書名

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」
高等学校家庭科教科書「家庭総合」(東京書籍)

NO. 610006031

家庭科教育法A

上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭科は、人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させ、主体的に家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる教科である。教材研究、学習指導案の作成、模擬授業などを通して、特に衣食住に関する消費者教育を軸に、家庭科教師としての実践力を養う。

学習目標・到達目標

家庭科の教員においては、生徒が主体的に生活を見直し改善するよう指導するための能力が求められている。家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通して開発する。

評価方法その他

平常点(ビデオ教材分析・指導案の作成含む):40点
授業記録(アスノートへの授業記録・自宅学習記録):20点
学期末試験:40点

週 テーマ・授業目標等

1. 家庭科とは(アスノート記入方法説明)
2. 学習指導要領、家庭科の歴史とジェンダー、グループ分け
3. 学習指導案の書き方
4. 家族・家庭経済・消費者領域の学習内容と課題
5. 衣・住領域の学習内容と課題
6. 食領域の学習内容と課題
7. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(1)家族・家庭経済・消費者
8. 学習指導案の作成／映像教材による教材研究(2)衣・食・住領域
9. 家庭科教員の役割、授業計画(家庭科教員経験者による)
10. 家庭科教育の事例(家庭科教員経験者による)
11. 学習指導案グループ研究発表(1)家族、子ども、高齢者
12. 学習指導案グループ研究発表(2)食生活、衣生活、住生活
13. 学習指導案グループ研究発表(3)消費行動、家庭経済
14. 家庭科教育の現場について(教育現場の教員による)
15. 教育実習報告会
16. 学期末試験

使用教科書名

(1)学習指導要領解説(高等学校 家庭)／文部科学省
(2)学習指導要領解説(中学校 技術・家庭)／文部科学省
(3)高等学校 家庭総合 パートナースHIPでつくる未来／実教出版

NO. 610007031

家庭科教育法B

上村 協子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭科全般にわたる広い視野から、また消費者教育を軸として、学習指導案および教材研究を行う。全員が模擬授業を行い、評価し合う。

学習目標・到達目標

家庭科教育法Aとの継続をはかりながら、家庭科教員に求められる指導能力を、実践を通じて開発する。

評価方法その他

平常点(学習指導案・授業用教材など):40点
授業記録(アスノートへの授業記録・自宅学習記録):20点
学期末試験:40点

週 テーマ・授業目標等

1. 授業の進め方、学習指導案の確認
2. 指導教材の作成
3. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(1)消費者教育
4. 学習指導案・指導教材研究事例紹介(2)食生活
5. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(1)家族
6. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(2)子ども・高齢者
7. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(3)食生活
8. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(4)衣生活
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(5)住生活
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(6)消費行動
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業(7)家庭経済
12. 学習指導案・教材作成および模擬授業の振り返り
13. 家庭科教員への道(在学生などからの報告)
14. 模擬授業ビデオ撮影
15. まとめ
16. 学期末試験

使用教科書名

「家庭科教育法A」と同一
(1)学習指導要領解説(高等学校 家庭)／文部科学省
(2)高等学校 家庭総合 パートナースHIPでつくる未来／実教出版

NO. 610007001

家庭科教育法B

和田 早苗

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭科教育法Aで学習した内容を踏まえて様々な学習方法について検討し、中学校・高等学校の家庭科についてさらに理解を深める。学習指導案の作成および模擬授業を行い、授業実践力を付ける。また、衣生活分野の実習を通して指導する際の手がかりを修得する。

学習目標・到達目標

中学校・高等学校の家庭科についての理解を深め、学習指導案および教材・教具を作成し、模擬授業の経験を通して家庭科を指導する際に必要な知識と技術を身につけることを目標とする。

評価方法その他

レポート(学習指導案、教材、省察):40%
模擬授業:20%
授業内提出物:20%
作品製作(作品、製作の記録):10%
授業内提出物・作品・製作の記録:10%

週 テーマ・授業目標等

- 1.ガイダンス、授業の進め方、模擬授業の担当領域
- 2.学習指導案、教具・教材の作成方法
- 3.学習指導案、教具・教材の作成
- 4.衣生活実習(1)基礎縫い
- 5.衣生活実習(2)作品製作
- 6.衣生活実習(3)作品製作および製作記録の作成
- 7.模擬授業(1)家庭・家族・保育・高齢者・福祉
- 8.模擬授業(2)食生活
- 9.模擬授業(3)衣生活
- 10.模擬授業(4)住生活
- 11.模擬授業(5)環境
- 12.模擬授業(6)経済生活・消費者
- 13.模擬授業の振り返り
- 14.学習指導案の検討
- 15.学習指導案の修正、総括

使用教科書名

文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」
高等学校家庭科教科書「家庭総合」(東京書籍)

NO. 610008001

家庭科教育法C

花形 美緒

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭科教育法A、Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容について確認する。家庭科の授業づくりでは教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、模擬授業を通して実践力を高める。

学習目標・到達目標

家庭科の教育目標と学習内容を理解し、社会の変化に対応した教材を構成するための情報を収集し、それらを活用した授業を想像し、中・高等学校の授業時間に沿った学習指導案を作成し、模擬授業の実践を通して家庭科教師として必要な指導力を養う。

評価方法その他

学習指導案、模擬授業案などの課題提出・・・70%
模擬授業の発表と質疑応答・・・30%

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 家庭科教育の目標と内容、授業形態、授業計画
3. 家庭科教育の意義、指導方法
4. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
5. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
6. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
7. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
8. 学習指導案の作成および模擬授業・省察
9. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
10. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
11. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
12. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
13. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察
14. 教育実習報告会
15. 学習指導案の作成・考察および模擬授業・省察・総括

使用教科書名

中学校 技術・家庭科学習指導要領解説
高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編
家庭総合 パートナースHIPでつくる未来(実教出版)

NO. 610008031	家庭科教育法C	深谷 敏子
---------------	---------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭科教育法A、Bで学習した中学校「技術・家庭」の「家庭分野」と高等学校「家庭」の目標及び内容の確認をする。教材研究、年間指導計画、題材（単元）別指導計画、学習指導案の作成、評価等の基礎知識の修得と指導法を学び、模擬授業を通して家庭科の授業をつくる実践力を身につける。

学習目標・到達目標

中学校技術・家庭及び高等学校家庭科教員としての実践的指導力を養う。
家庭科教育法A、Bで修得した基礎的な知識をもとに家庭科教員としての資質を養う。

評価方法その他

- ①平常点（出欠・学習指導案・授業用教材等）40点
- ②授業記録（アースノート）20点
- ③学期末テスト40点

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
授業の進め方予定、家庭科教育法Cの評価確認、班分け
アースノートの確認
- 教材研究 研究計画書作成 進捗状況 方法の確認
DVDを用いた家庭科教育法Bの学びの振り返り
- 学習指導要領の目標及び内容の確認。学習指導計画の作成
- 学習指導案の書き方、教育評価（評価の意義と目的、評価の観点と目標）
- 学習指導案の作成、教材研究
- 学習指導案の作成・考察、模擬授業
- 学習指導案の作成・考察、模擬授業
- 学習指導案の作成・考察、模擬授業
- 学習指導案の作成・考察、模擬授業
- 教材研究（食品ロス削減）グループ発表用紙提出
- 学習指導案の作成・考察、模擬授業
- 教材研究 グループ発表①
- 教材研究 グループ発表②
- 教育実習報告会、アースノート提出
- 教育実習報告会
- 定期試験

使用教科書名

教科教育法A、Bで使用した学習指導要領解説（中学校技術・家庭、高等学校家庭）と高等学校家庭総合パートナーシップでつくる未来（実教）に加えて、評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】【高等学校 共通教科「家庭」】／国立教育政策研究所 教育課程センター

NO. 610009031	家庭科教育法D	深谷 敏子
---------------	---------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭科教育法ABCの学びを総合して、家庭科の指導方法や教材研究の工夫をすることに重点を置き、家庭科の授業能力を高めることを目標とする。学習指導案を作成して模擬授業を行い、その省察・改善から家庭科の授業の実践力を高める。

学習目標・到達目標

中学校技術・家庭及び高等学校家庭科の教員としての指導力を養う。家庭科教育法Cの学習を確認しながら応用力と実践力を養い、教育実習において家庭科の授業能力を高めることを目標とする。

評価方法その他

- ①平常点40点
- ②授業記録（アースノート）20点
- ③定期試験40点

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 年間指導計画と学習指導案、評価
- 持続可能な社会にむけた学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 持続可能な社会にむけた学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 教育実習にむけた学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善。
- 教育実習にむけた学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 地域社会や学校の特色を意識した学習指導案の検討。 模擬授業。省察・改善
- 地域社会や学校の特色を意識した学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 学習指導案の検討。模擬授業。省察・改善
- 家庭科教育の現状と課題、総括

使用教科書名

教科指導法Cで使用した教科書
学習指導要領解説（中学校技術・家庭、高等学校 家庭）、高等学校家庭総合パートナーシップでつくる未来（実教出版）、評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校技術・家庭】【高等学校共通教科「家庭」】国立教育政策研究所

NO. 610009001	家庭科教育法D	花形 美緒
---------------	---------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

家庭科教育法Cを継続しながら家庭科の目標と学習内容を確認する。家庭科の授業づくりをととし学習指導の諸方法における留意点等また評価の意義、目的等を具体的に学び、家庭科教員としての実践力を養う。

学習目標・到達目標

家庭科の教育目標と学習内容を理解し、生徒が主体的に学習に臨む授業内容を研究し、授業時間に沿った学習指導案を作成し、模擬授業を通して家庭科教員として必要な指導力、実践力を養う。

評価方法その他

小レポート、学習指導案、模擬授業案などの課題提出。・・・70%
模擬授業の発表と質疑応答。・・・30%

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション、学習指導案の作成および模擬授業
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察
- 学習指導案の作成および模擬授業・省察。総括

使用教科書名

中学校 技術・家庭科学習指導要領解説
高等学校 家庭科学習指導要領解説 家庭編
家庭総合 パートナーシップでつくる未来（実教出版）

NO. 610022001	道徳教育論(小)	河田 敦子
---------------	----------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。
- ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。
- ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。
- ・毎時、学生1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う。

学習目標・到達目標

社会的自己を形成することである。自己主張を正しく行い、他者の存在を理解して受け入れ、協調しながら社会生活を営むためにはどのようにしたらよいのかを考え、教員として学習指導を実践していく姿勢をもてるようになることを到達目標とするの形成がどのように道徳性を発達させるのかという、基本課題への自覚である。

評価方法その他

- ・ 授業中の「心に残る言葉」発表 20%
- ・ 学習指導案(20%)
- ・ 模擬授業実技(30%)
- ・ 平常点 (30%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1回：道徳とは何か。「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて概説する。
- 第2回：近代日本における道徳教育の歴史Ⅰ 徳育論争
- 第3回：近代日本における道徳教育の歴史Ⅱ 教育勅語と修身教育
- 第4回：戦後日本における道徳教育の歴史「道徳の時間」特設
- 第5回：現代日本における道徳教育：『心のノート』に至るまで
- 第6回：新教育基本法から道徳の教科化に至るまで
- 第7回：世界の道徳教育Ⅰ 道徳性の発達理論：モラルジレンマ（ディスカッション）
- 第8回：世界の道徳教育Ⅱ アメリカ・フランスの道徳教育
- 第9回：世界の道徳教育Ⅲ 独仏共通教科書：国際理解と道徳教育
- 第10回：いじめについて（ディスカッション）
- 第11回：道徳の授業の学習指導案の作成
- 第12回：学生による模擬授業（ロールプレイングを含む模擬授業）
- 第13回：学生による模擬授業（読み聞かせ資料を用いた模擬授業）
- 第14回：学生による模擬授業（グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業）
- 第15回：現代教育の課題と道徳教育

使用教科書名

特に指定しない。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・道徳に関する国内外の歴史および実践に関する知識を深める。
- ・道徳教育に関する国内外の歴史および実践に関する知識を学びながら、「道徳とは何か」について考えを深める。
- ・学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容が理解できるようにする。
- ・学生が、現代社会の道徳教育の課題について多様な考え方に触れながら、柔軟な思考と理解力を持ち、発言できるようにする。
- ・毎時、学生1人1回ずつ、「心に残る言葉」というテーマで5分程度の発表を行う

学習目標・到達目標

道徳教育とは、社会的自己を形成することである。自己主張を正しく行い、他者の存在を理解して受け入れ、協調しながら社会生活を営むためにはどのようにしたらよいのかを考え、教員として学習指導を実践していく姿勢をもてるようになることを到達目標とする。

評価方法その他

- ・「心に残る言葉」発表(20%)
- ・学習指導案の作成(20%)
- ・模擬授業(30%)
- ・平常点(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 第1回:道徳とは何か。「道徳」という言葉の語源や意味および欧米との違いについて概説する。
- 第2回:近代日本における道徳教育の歴史Ⅰ 徳育論争
- 第3回:近代日本における道徳教育の歴史Ⅱ 教育勅語と修身教育
- 第4回:戦後日本における道徳教育の歴史 「道徳の時間」特設
- 第5回:現代日本における道徳教育:『心のノート』に至るまで
- 第6回:新教育基本法から道徳の教科化に至るまで
- 第7回:世界の道徳教育Ⅰ 道徳性の発達理論:モラルジレンマ(ディスカッション)
- 第8回:世界の道徳教育Ⅱ アメリカ・フランスの道徳教育
- 第9回:世界の道徳教育Ⅲ 独仏共通教科書:国際理解と道徳教育
- 第10回:いじめについて(ディスカッション)
- 第11回:道徳の授業の学習指導案の作成
- 第12回:学生による模擬授業(ロールプレイングを含む模擬授業)
- 第13回:学生による模擬授業(読み聞かせ資料を用いた模擬授業)
- 第14回:学生による模擬授業(グループワーク、ディスカッションを含む模擬授業)
- 第15回:現代教育の課題と道徳教育

使用教科書名

- 特に指定しない
- 参考文献は授業中に紹介する

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事からなる特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」(小学校学習指導要領)ことが目標とされている。

授業では、学生相互の協力によって、特別活動の実践を模擬的に創造する。今日の教育と子どもの現状を学び、共同して指導案を具体的に構想し、模擬実践する。

履修条件：教員免許資格に必要

学習目標・到達目標

「人格の完成」をめざす教育の目的(教育基本法)の実現のために、学校のエデュケーションにおいて教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を学ぶ。

将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、今日の教育の課題と特別活動の意義の理解

評価方法その他

- 特別活動指導案(30%)
- 模擬授業とプレゼンテーション(30%)
- BRD(当日ブリーフレポート)(40%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.特別活動論の課題と目的―授業ガイダンス
- 2.特別活動実践演習 学級開き
- 3.教育の目的と特別活動1 エピソード記述から探る子どもの願い
- 4.教育の目的と特別活動2 ホームルーム班活動による教育目標の検討
- 5.教育の目的と特別活動3 生徒の視点から見た教育の目的(BRD)
- 6.コミュニケーション能力の育成と特別活動
- 7.コミュニケーション・ワーク演習1(学級活動)
- 8.コミュニケーション・ワーク演習2(学校行事)
- 9.BRD 今日の子どもとコミュニケーション能力育成の課題
- 10.事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動
- 11.憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法
- 12.特別活動の指導案(生徒会活動)
- 13.特別活動の指導案(学校行事)
- 14.特別活動計画と職員会議
- 15.特別活動の課題と展望(BRD)

使用教科書名

- 特に使用しない
- 必要に応じて授業内で指定する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ホームルーム(学級)活動・生徒会活動・学校行事からなる特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」(高等学校学習指導要領)ことが目標とされている。

授業では、学生相互の協力によって、特別活動の実践を模擬的に創造する。今日の教育と生徒の現状を学び、共同して指導案を具体的に構想し、模擬実践する。

履修条件：教員免許資格に必要

学習目標・到達目標

「人格の完成」をめざす教育の目的(教育基本法)の実現のために、学校のエデュケーションにおいて教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を学ぶ。

将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、今日の教育の課題と特別活動の意義の理解

評価方法その他

- 特別活動指導案(30%)
- 模擬授業とプレゼンテーション(30%)
- BRD(当日ブリーフレポート)(40%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.特別活動論の課題と目的―授業ガイダンス
- 2.特別活動実践演習 ホームルーム(学級)開き
- 3.教育の目的と特別活動1 エピソード記述から探る生徒の願い
- 4.教育の目的と特別活動2 ホームルーム班活動による教育目標の検討
- 5.教育の目的と特別活動3 生徒の視点から見た教育の目的(BRD)
- 6.コミュニケーション能力の育成と特別活動
- 7.コミュニケーション・ワーク演習1(ホームルーム活動)
- 8.コミュニケーション・ワーク演習2(学校行事)
- 9.BRD 今日の生徒とコミュニケーション能力育成の課題
- 10.事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動
- 11.憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法
- 12.特別活動の指導案(生徒会活動)
- 13.特別活動の指導案(学校行事)
- 14.特別活動計画と職員会議
- 15.特別活動の課題と展望(BRD)

使用教科書名

- 特に使用しない
- 必要に応じて授業内で指定する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

ホームルーム(学級)活動・生徒会活動・学校行事からなる特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。」(高等学校学習指導要領)ことが目標とされている。

授業では、学生相互の協力によって、特別活動の実践を模擬的に創造する。今日の教育と生徒の現状を学び、共同して指導案を具体的に構想し、模擬実践する。

学習目標・到達目標

「人格の完成」をめざす教育の目的(教育基本法)の実現のために、学校のエデュケーションにおいて教科と共に特別活動が位置付けられている。今日の教育において特別活動の持つ役割を理解し、特別活動を計画し実践する方法を学ぶ。

将来の、学校教育の研究的共同実践者である教師として、今日の教育の課題と特別活動の意義の理解

評価方法その他

- 特別活動指導案(30%)
- 模擬授業とプレゼンテーション(30%)
- BRD(当日ブリーフレポート)(40%)

週 テーマ・授業目標等

- 1.特別活動論の課題と目的―授業ガイダンス
- 2.特別活動実践演習 ホームルーム(学級)開き
- 3.教育の目的と特別活動1 エピソード記述から探る生徒の願い
- 4.教育の目的と特別活動2 ホームルーム班活動による教育目標の検討
- 5.教育の目的と特別活動3 生徒の視点から見た教育の目的(BRD)
- 6.コミュニケーション能力の育成と特別活動
- 7.コミュニケーション・ワーク演習1(ホームルーム活動)
- 8.コミュニケーション・ワーク演習2(学校行事)
- 9.今日の生徒とコミュニケーション能力育成の課題(BRD)
- 10.事例検討・教師の専門性・生きがいと特別活動
- 11.憲法・子どもの権利条約・児童憲章・教育基本法
- 12.特別活動の指導案(生徒会活動)
- 13.特別活動の指導案(学校行事)
- 14.特別活動計画と職員会議
- 15.特別活動の課題と展望(BRD)

使用教科書名

- 特に使用しない
- 必要に応じて授業内で指定する。

NO. 610030001

教育方法・技術論（幼・小）

齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育方法には、教育内容や教材内容、教育評価、さらに生活指導や学級経営などの問題を含むが、教授・学習指導の領域を中心とする。主に、西洋における教育方法や日本における教育方法を学ぶことを通して、現在の教育方法や技術とのつながりを理解する。
具体的な授業のデザインや情報機器及び教材の活用、評価についても取り上げる。
また、「主体的・対話的で深い学び」を積極的に取り入れ、理解の深化を図る。

学習目標・到達目標

教育方法とは、教育の目標を達成し、教育の目的である人間形成を図るための道を意味する。教授・学習過程に焦点をしぼり、その原理や一般的理論をふまえながら、問題解決型の授業構成や指導のあり方の基本を理解する。さらに、学校教育に必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器及び教材の活用について学ぶ。

評価方法その他

- ・定期試験 70％ 平常点 30％
- ・定期試験：重要な用語を理解し、身に付ける。
- ・平常点：授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

週 テーマ・授業目標等

授業計画

第1回：西洋における教育方法(1) 19世紀前半まで

- ・ペーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ベスタロッツ、フレーベル、ヘルバルト

第2回：西洋における教育方法(2) 19世紀後半から

- ・デュエイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツ

キー

第3回：日本における教育方法

第4回：省察的実践者・授業のデザイン

第5回：学び合い

第6回：教材・教育機器とICT

第7回：評価

定期試験

使用教科書名

齋藤義雄『教育方法・技術論－主体的・対話的で深い学びに向けて－』大学図書出版 2018年

NO. 610031001

生徒指導論(小)

齋藤 史夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。

履修条件：教員免許資格に必要

学習目標・到達目標

子どもの学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、教師は指導について深く理解する必要がある。共同的な能動的学修（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導について学び、将来の教師として必要な見識と技術を身に付ける。
将来の、学校教育の研究の共同実践者である教師として、
・子どもと対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量

評価方法その他

- 生徒指導案(30%)
- 模擬授業・プレゼンテーション(30%)
- ミニテスト・BRD(当日ブリーフレポート)(40%)

週 テーマ・授業目標等

第1回 生徒指導論の課題と目的

第2回 生徒指導実践演習－学習指導の新しい構想

第3回 体験的教師生徒関係論－生徒指導の目標（絵日記ワーク）

第4回 教育の目標と生徒指導（BRD）

第5回 文献研究による生徒指導実践の構想

第6回 事例研究による生徒指導実践の構想

第7回 生徒指導のための子ども理解

第8回 子ども観と指導（BRD）

第9回 地域と共にある学校づくりと生徒の成長

第10回 いじめなど子どもの関係性の現状と課題

第11回 子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題

第12回 生徒指導のための学校内外の連携と教育相談

第13回 キャリア教育と進路指導

第14回 「指導」概念研究と『生徒指導提要』

第15回 生徒指導上の課題と展望（BRD）

使用教科書名

日本子どもを守る会編『子ども白書2018』本の泉社

NO. 610030001

教育方法・技術論

齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育方法には、教育内容や教材内容、教育評価、さらに生活指導や学級経営などの問題を含むが、教授・学習指導の領域を中心とする。主に、西洋における教育方法や日本における教育方法を学ぶことを通して、現在の教育方法や技術とのつながりを理解する。
具体的な授業のデザインや情報機器及び教材の活用、評価についても取り上げる。
また、「主体的・対話的で深い学び」を積極的に取り入れ、理解の深化を図る。

学習目標・到達目標

教育方法とは、教育の目標を達成し、教育の目的である人間形成を図るための道を意味する。教授・学習過程に焦点をしぼり、その原理や一般的理論をふまえながら、問題解決型の授業構成や指導のあり方の基本を理解する。さらに、学校教育に必要な指導技術の基礎的な理解を図るとともに、情報機器及び教材の活用について学ぶ。

評価方法その他

- ・定期試験 70％ 平常点 30％
- ・定期試験：重要な用語を理解し、身に付ける。
- ・平常点：授業への積極的な参加態度、レポート、ノート等

週 テーマ・授業目標等

授業計画

第1回：西洋における教育方法(1) 19世紀前半まで

- ・ペーコン、コメニウス、ロック、ルソー、ベスタロッツ、フレーベル、ヘルバルト

第2回：西洋における教育方法(2) 19世紀後半から

- ・デュエイ、キルパトリック、ソーンダイク、パーカースト、タイラー、ブルーム、ヴィゴツ

キー

第3回：日本における教育方法

第4回：省察的実践者・授業のデザイン

第5回：学び合い

第6回：教材・教育機器とICT

第7回：評価

定期試験

使用教科書名

齋藤義雄『教育方法・技術論－主体的・対話的で深い学びに向けて－』大学図書出版 2018年

NO. 610031002

生徒指導論（中・高）

齋藤 史夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。

学習目標・到達目標

生徒の学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、教師は指導について深く理解する必要がある。共同的な能動的学修（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導について学び、将来の教師として必要な見識と技術を身に付ける。
将来の、学校教育の研究の共同実践者である教師として、
・生徒と対話し主体的に研究して課題を明らかにする力量

評価方法その他

- 生徒指導案(30%)
- 模擬授業・プレゼンテーション(30%)
- ミニテスト・BRD(当日ブリーフレポート)(40%)

週 テーマ・授業目標等

第1回 生徒指導論の課題と目的

第2回 生徒指導実践演習－学習指導の新しい構想

第3回 体験的教師生徒関係論－生徒指導の目標（絵日記ワーク）

第4回 教育の目標と生徒指導（BRD）

第5回 文献研究による生徒指導実践の構想

第6回 事例研究による生徒指導実践の構想

第7回 生徒指導のための子ども理解

第8回 子ども観と指導（BRD）

第9回 地域と共にある学校づくりと生徒の成長

第10回 いじめなど子どもの関係性の現状と課題

第11回 子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題

第12回 生徒指導のための学校内外の連携と教育相談

第13回 キャリア教育と進路指導

第14回 「指導」概念研究と『生徒指導提要』

第15回 生徒指導上の課題と展望（BRD）

使用教科書名

日本子どもを守る会編『子ども白書2018』本の泉社

NO. 610031031

生徒指導論

齋藤 史夫

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学生の能動的な学習参加（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導にかかわる諸問題を学生相互の協力で研究し、今日の教育と生徒の現状を知り、指導案を具体的に構想し、模擬実践する。

学習目標・到達目標

生徒の学校生活の充実と「人格の完成」（教育基本法）のために、教師は指導について深く理解する必要がある。共同的な能動的学習（アクティブ・ラーニング）によって、生徒指導について学び、将来の教師として必要な見識と技術を身に付ける。

将来の、学校教育の研究の共同実践者である教師として、

・生徒と相談し、主体的に研究して課題を明らかにする力量

評価方法その他

生徒指導案（30％）

模擬授業・プレゼンテーション（30％）

ミニテスト・BRD（当日ブリーフレポート）（40％）

週 テーマ・授業目標等

第1回 生徒指導論の課題と目的

第2回 生徒指導実践演習－学習指導の新しい構想

第3回 体験的教師生徒関係論－生徒指導の目標（絵日記ワーク）

第4回 教育の目標と生徒指導（BRD）

第5回 文献研究による生徒指導実践の構想

第6回 事例研究による生徒指導実践の構想

第7回 生徒指導のための子ども理解

第8回 子ども観と指導（BRD）

第9回 地域と共にある学校づくりと生徒の成長

第10回 いじめなど子どもの関係性の現状と課題

第11回 子どもの貧困・不登校・学力不振等の現代的課題

第12回 生徒指導のための学校内外の連携と教育相談

第13回 生徒指導における栄養教諭の役割

第14回 「指導」概念研究と『生徒指導提要』

第15回 生徒指導上の課題と展望（BRD）

使用教科書名

日本子どもを守る会編『子ども自書2017』本の泉社

NO. 610032001

教育相談論（幼小）

木村 文香

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

様々な具体例から、生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決に必要な「教育相談の基礎的な知識と技能、態度、および実践力」を習得し、生徒の適応や発達を促し、充実した学校生活が送れるための支援ができる実践的能力を身につける。

学習目標・到達目標

生徒ひとり一人の教育上・発達上の諸問題の問題解決に必要な「教育相談の基礎的な知識と技能、態度、および実践力」を習得し、生徒の適応や発達を促し、充実した学校生活が送れるための支援ができる実践的能力を身につける。具体的には、学校現場において問題とされている学校不適応等の諸問題を概観し、正しい知識を身につける。その上で、教師として、生徒の学習、健康、生活といった学校適応にどのようにかわり、またどのように支援していったらよいのかを理解し、身

評価方法その他

最終課題と授業への意欲、態度をもとに総合評価を行う。

（最終課題50％、意欲・態度50％）

週 テーマ・授業目標等

1. イントロダクション——教育相談の目的と領域——

2. 学校における「相談」とは

3. 問題行動はいつ起きる？1 ——ストレスの仕組み——

4. 問題行動はいつ起きる？2 ——子どもの発達と「困りごと」——

5. 教育相談でのコミュニケーション1 ——カウンセリングと心理療法——

6. 教育相談でのコミュニケーション2 ——カウンセリングによる問題解決の手法——

7. 教育相談でのコミュニケーション3 ——ラボールの形成の手法——

8. 教育相談でのコミュニケーション4 ——集団を活かす——

中間総括

9. 個別対応の実際1 ——ラボール形成編——

10. 個別対応の実際2 ——問題への対応編——

11. 個別対応の実際3 ——青年期問題編——

12. 集団対応の実際1 ——発達障害の子どもの世界——

13. 集団対応の実際2 ——合理的配慮とアセスメント——

14. 集団対応の実際3 ——グループマネジメント——

15. 集団対応の実際4 ——集団を対象とした予防・開発的取り組み——

16. 定期試験

使用教科書名

使用しない。

NO. 610035001

教育実習指導（中等）

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

本授業は、教育実習そのものである。教科担当の先生や、担任の先生との事前の連絡をしっかりと取れるようになり、担当授業の教材研究・学習指導案作成・実践、生徒との関わり方、担任業務ができるようになることを目的とする。

学習目標・到達目標

まず、教育実習時にしっかりとした授業が実施できるようになることを目標とする。また、実習ノートがしっかりとかけられるようになること。たとえば、教材の工夫、教材の配置、教師の働きかけ、児童・生徒の動き、結果と評価などについて、書けること。生徒の生活指導、学級運営、放課後の生徒指導、クラブ・部活の指導、学級給食指導、保護者との応対、などなど、さまざまな活動への関心をしっかりと示せるようになることも目標である。

評価方法その他

実習校の評価を重視する。

週 テーマ・授業目標等

1. 事前指導

実習前のオリエンテーションと実習校との連絡の取り方、実習日誌の書き方

2. 事後指導

使用教科書名

特になし。

NO. 610035031

教育実習指導

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習についての事前・事後指導を行う。授業実習については教科教育法等で主要事項を扱うので、本授業ではより全般的・包括的な事項を扱う。また、実習実施にあたっての諸連絡もこの時間に行うので、毎時間必ず出席すること。教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

実習記録簿がきちんとかけられるようになること。たとえば、教材の工夫、教材の配置、教師の働きかけ、児童・生徒の動き、結果と評価などについて、書けること。生徒の生活指導、学級運営、放課後の生徒指導、クラブ・部活の指導、学級給食指導、保護者との応対、などなど、さまざまな活動への関心をしっかりと示せるような、教師としての基本的な力量の前提が形成されることである。

評価方法その他

出席および毎時のレポートにより評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 事前指導としては、以下のような内容をとりあげる。

授業観察の訓練

2. 模擬授業とその分析

3. 実習日誌の書き方

4. VTRIによる実習全般の模擬体験

5. 実習に当たっての諸注意

6. 事後指導としては、以下のような内容をとりあげる。

使用教科書名

毎回、プリントを用意する。

NO. 610036001

教育実習A

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めていくよう指導したい。

学習目標・到達目標

教育実習先の教科担当の先生や学級担任とのコミュニケーションを良く取り、授業を担当する単元（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠らず、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想定できるよう、綿密な計画を立てられるようにする。また、児童・生徒の普段の様子を教育実習に行く前に観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できるよう、子ども理解を深めておくこと

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。
取り組み姿勢(30%)、実習先での評価(50%)、校内模擬授業(20%)

週 テーマ・授業目標等

第1回 教育実習の事前の心構え:実習ノートの書き方、実習校との連絡の取り方(担当:

河田・齊藤)

第2回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第3回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第4回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第5回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第6回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第7回 教育実習の反省 実習校への御礼状執筆と送付

第8回 教育実習学内報告会

使用教科書名

文部科学省『中学校学習指導要領 家庭科』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 家庭科』
文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』
文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』

NO. 610037001

教育実習B

河田 敦子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

教育実習先の教科担当の先生や学級担任とのコミュニケーションを良く取り、授業を担当する単元（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠らず、また、教師の働きかけと生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想定できるよう、綿密な計画を立てられるようにしてほしい。また、児童・生徒の普段の様子を教育実習に行く前に観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できるよう、子ども理解を深める、とい

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。
取り組み姿勢(30%)、実習先での評価(50%)、校内模擬授業(20%)

週 テーマ・授業目標等

第1回 教育実習の事前の心構え:実習ノートの書き方、実習校との連絡の取り方(担当:

河田・齊藤)

第2回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第3回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第4回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第5回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第6回学生による模擬授業:研究授業となる単元を想定して1人1回は実施する。

第7回 教育実習の反省 実習校への御礼状執筆と送付

第8回 教育実習学内報告会

使用教科書名

文部科学省『中学校学習指導要領 家庭科』
文部科学省『中学校学習指導要領解説 家庭科』
文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』
文部科学省『高等学校学習指導要領 家庭科』

NO. 610036031

教育実習A

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。中学・高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

担当科目（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠らず、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想定できるよう、綿密な計画を立てられるようにしてほしい。

また、児童・生徒の不断の様子を観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できるよう、子ども理解を深める、というつもりで臨む態度を

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

週 テーマ・授業目標等

使用教科書名

NO. 610037031

教育実習B

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。授業実習だけでなく、教員として行う全般的な業務に携わることになる。大学での学習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、教員になる自覚を高めてほしい。高校教員免許資格に必要。教育実習参加（派遣）基準に合致していること。

学習目標・到達目標

担当教科（とくに、研究授業）の目標を具体的に定め、教材の作成の工夫を怠ることなく、また、教師の働きかけと児童・生徒の学習の実際の動きを、きめ細かく想像できるよう、綿密な計画をたてられるようにしてほしい。

また、児童・生徒の不断の様子を観察し、彼らが、いったいどのような生活をしているのか、友人関係や学習上の悩みなど、その内面を想像できるよう、子ども理解を深める、というつもりで臨む態度

評価方法その他

実習校の評価に『教育実習記録』を加味して評価する。

週 テーマ・授業目標等

NO. 610038031

栄養教育実習指導

辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教諭免許取得に関わる教育実習について、事前・事後指導を行う。食に関する専門的事項については、栄養士免許取得必須科目で習得済みであり、また、「学校栄養教育実習」など必須授業は履修済みである。したがって、本授業では、包括的な内容を学ぶ。特に、事前指導においては連絡等も行うため、必ず毎時間出席すること。

学習目標・到達目標

学校の組織を理解する。栄養教諭の職務内容をよく理解する。また、実習における教育実習生としての心構えを勉強しておく。教師像をイメージして実習に望める様に準備する。

評価方法その他

平常点30% その他報告書等のレポート作成70%（平常点は授業への参加状況や実習に臨む態度など総合的に評価する）

週 テーマ・授業目標等

- 1 教育実習前のオリエンテーション(事前指導として、以下の内容を行う)
- 2 実習日誌の書き方など
- 3 教育実習参加にあたっての諸注意
- 4 関連授業と授業観察の方法
- 5 学校の組織の理解について
- 6 栄養教諭の職務内容とその心構えについて
- 7 実習校の教諭との連携について
- 8 模擬授業の準備①指導案作り
- 9 模擬授業の準備②教材づくり
- 10 模擬授業の模擬体験①指導案のみでの模擬授業
- 11 模擬授業の模擬体験②教材も使用しての実践模擬授業
- 12 教育実習後のオリエンテーション(事後指導として、以下の内容を行う)
- 13 実習日誌の整理・報告書作成
- 14 実習の自己評価と報告会準備
- 15 実習報告会

使用教科書名

NO. 610039031

栄養教育実習

辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教育実習校において実習を行う。「食に関する指導」と「学校給食管理」、および、教員として学校で行う全般的な業務に携わる。大学での学びや実習と現場での実践とを関連づけて考察しながら、栄養教諭となる自覚を高めるような学びを実施してもらいたい。

学習目標・到達目標

教育実習期間は、5日間という極めて短期間ではあるが、可能な限り、現場の先生方、栄養教諭（管理栄養士・栄養士）、養護教諭の方々が、児童・生徒達にどのように、「食」「栄養」「健康」に関わる教育を展開しているかを参観し、学びを深め、理解することも目標とする。また、指導の時間では、学習の指導案を作成し、実施ができること、また実施に対する適切な評価が出来ることを目標とする。

評価方法その他

実習校の評価と「栄養教育実習記録」を加味して評価する。

週 テーマ・授業目標等

教育実習校と打ち合わせて決める。

使用教科書名

NO. 610040001

初等教育実習指導（小学校）

齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校における教育実習についての事前・事後指導を行う。小学校との連絡や訪問についての手続き、教育実習に出かける上での心構え、教育実習に留意すること等について講義で理解を進める。また、指導案について、教育実習記録の書き方など、実務的な指導も行う。さらに、教育実習後の事後指導や教育実習についての報告等も行い、小学校教員への自覚を深める。

学習目標・到達目標

小学校の教育実習に取り組む前に、教育実習中に必要な事務的な処理や心構え、授業への取り組み(学習指導案)等についての理解を深め、意欲をもって教育実習に取り組もうとする姿勢をつくる。

評価方法その他

教育実習記録・学習指導案・レポート 70% 教育実習報告会等の取り組み等 30%

週 テーマ・授業目標等

- 1 教育実習の意味
- 2 実習校の選択と内諾まで
- 3 教育実習の概要
- 4 教育実習の心構え等
- 5 学校の組織や学校生活の流れ
- 6 学習指導案の書き方、指導案の作成(国語・算数)
- 7 模擬授業
- 8 授業研究会、指導案の修正
- 9 指導案の作成(国語・算数以外)
- 10 模擬授業
- 11 授業研究会、指導案の修正
- 12 教育実習記録の書き方
- 13 お礼状の書き方
- 14 教育実習報告会
- 15 まとめ

使用教科書名

齋藤義雄・中田範子『幼稚園・小学校教育実習一学びの連続性を通して一』大学図書出版 2018年
齋藤義雄『教育方法・技術論一主体的・対話的で深い学びに向けて一』大学図書出版 2018年

NO. 610041001

初等教育実習C

齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

小学校の教育実習校において4週間の教育実習を行う。授業だけでなく、小学校教員として行う全般的な職務に携わることを通して、小学校教員としての資質を養う。大学での学習と現場での実践とを関連づけながら、小学校教員になる自覚を高める。小学校教員免許取得には必須であるばかりでなく、実際に小学校教員としての資質が自分にあるかどうかを知ることができる貴重な機会である。積極的な参加が望まれる。

学習目標・到達目標

小学校教員としての自覚をもって教育実習に取り組むことができる。授業観察、児童たちとの関わり、実際の授業実践、研究授業等を通して、小学校教員としての実践的指導力を身に付ける。

評価方法その他

巡回訪問における研究授業・授業研究会の他に、教育実習校による評価を参考にする。さらに『教育実習記録』への記入内容等を考慮し、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 教育実習に臨む心構え
- 2 教育実習記録の記入について
- 3 授業観察
- 4 学習指導案の作成
- 5 学習指導案の改善
- 6 授業実践
- 7 研究授業・授業研究会(巡回訪問)
- 8 まとめ

使用教科書名

齋藤義雄・中田範子『幼稚園・小学校教育実習一学びの連続性を通して一』大学図書出版 2018年

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

幼稚園における初等教育実習に先立って行う事前指導と、教育実習が終了してから行う事後指導が含まれるものである。実習の意義や実習生としての立場と心得、教育実習生としての勤務の在り方を理解する。また、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容と保育の実践との関連について理解を深めながら、子どもの発達に応じた保育者の援助、保育内容等についての留意事項を学び、実習の成果を高めようとするものである。

学習目標・到達目標

到達目標①:実習の意義や実習生としての基本的な態度について理解する
到達目標②:子どもや保育者、幼稚園の生活全体に対する観察の意義と視点を理解する。
到達目標③:実習に向けて子どもの発達段階に応じた保育内容を考え、計画を作成することができ
到達目標④:初等教育実習A及びBを通して学んだことを省察し、今後に向けた課題を見出し自己

評価方法その他

授業態度(15点)、出席状況(15点)、提出物(70点)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス 初等教育実習Aの配属園及び実習期間の周知、一日実習の振り返り及び目標の設定
- 事務手続きについて オリエンテーションの実施概要、事務手続き
- 初等教育実習Aの心構え 実習の意義と実習生としての在り方の理解
- 幼児の発達の理解 幼児の発達の特徴と保育における観察の視点
- 実習記録について 実習記録の作成と観察の実践について
- 観察と考察 ビデオを視聴し、作成した観察記録から考察をし、子どもや保育者の理解を深める
- 最終確認 初等教育実習A終了後の手続きに関する説明および最終確認
- 保育の実践 幼稚園の一日の生活を理解し実習に役立つ技術を修得する
- 実習の振り返り 初等教育実習Aの省察、実習報告会の概要と準備
- ガイダンス 初等教育実習Bの概要、課題の生成
- オリエンテーションに向けて 初等教育実習Bの配属園及び実習期間の周知オリエンテーションの概要、部分実習指導案作成
- 初等教育実習Bの意義 実習の意義・概要の説明
全日実習の主活動内容案作成の概要
- 指導計画の作成 全日実習指導案の作成、修正
巡回指導について
- 実践と省察 保育におけるPDCAサイクルについて
- 保育者の役割 幼児期の教育の意義と保育者の役割について

使用教科書名

中田範子、斎藤義雄編著「幼稚園・小学校教育実習―学びの連続性を通して―」大学図書出版
幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等、適宜紹介する。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

実際に教育活動が展開されている幼稚園の中で、園長を始め指導教諭等の指導の下で、3週間にわたって直接子どもと関わり、各自が計画した保育を実践するものである。また、この実習を通して、保育の準備や計画・保育者の補助的な役割等、保育として行われる業務に全般的に携わることになる。大学での学習を踏まえながら各自の実践を子どもとの関係から振り返り考察しながら、保育者としての服務、学級経営、保育方法や保育技術等について総合的な力を身に付けるとともに、保育者として相応しい専門性や倫理観を身に付け、識見を豊かにする。

学習目標・到達目標

到達目標①:子どもとのかかわり、子ども理解を深める過程を通し、共に育ちあうことを実践する
到達目標②:長期的及び短期的な保育のねらいと方法、内容の関連について実践を通して具体的に学ぶ
到達目標③:幼稚園教諭としての自分のあり方やかわり方を学び、自己の成長をはかる
到達目標④:子どもの様子や自分自身の子どもとのかかわりや援助の方法を省察することにより、課

評価方法その他

提出物(20点)、実習配属園からの評価(80点)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション 各自の配属園に赴き、配属園の概要や必要な準備等について話を伺う
- 2～10. 本実習 配属園の指定した15日間の間、通常、第1週目は3～5歳児クラスのういずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに
応じた保育について理解を深める。
第2,3週目は特定のクラスに配属され、子ども一人ひとりの関係を作りながら、子どもの興味や特性、長期的な保育のねらいに照らし合わせながら、部分実習指導案、全日実習指導案を作成する。また、作成した指導案に基づいて、保育を実践し、省察する。
なお、全日程において実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
15日間の現場実習のいずれかの日程で学科教員が巡回指導を行う。
- 事後指導 実習終了後に日誌を配属園に提出し、事後指導を受ける。
- 保育の省察 大学において実習で学んだことをエピソードにまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。
- 保育の省察の共有 実習で学んだことを報告しあい、学びを共有する。
- 実習報告会準備 実習報告会で報告すべき事項とプレゼンテーションの方法について協議し資料を作成する
- 実習報告会の実施及び参加 グループごとに実習で観察された子どもの様子や保育技術、今後の課題等について報告をする

使用教科書名

幼稚園教育要領、初等教育実習Bの手引き、日誌

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1週間（5日間）、幼児の活動が展開されている幼稚園に赴き、子ども達の活動の様子を観察することを中心にした実習である。初等教育実習Bにつなげる実習であり、観察だけではなく子ども達と直接関わり、実際の援助・指導を行う。こうした実習を通して、幼稚園教育の実践を具体的に体験し、園児達の実施に直接触れるとともに、実習の振り返りを通して初等教育実習Bへ向けての課題を見出し、目標を設定することを目的とする。

学習目標・到達目標

到達目標①:幼稚園において子ども達の生活を体験しながら子どもの発達、保育環境、保育内容等を理解し、幼稚園教諭や他の教職員の役割に気付く、理解を深める
到達目標②:育てる存在としての自分のあり方を考え、自己理解を深める
到達目標③:その日の保育の省察をもとに積極的に実習課題を見つける
到達目標④:子どもを取り巻く家庭・地域・社会の幼稚園へのニーズに気づく

評価方法その他

提出物(20点)、実習配属園から評価(80点)により総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 一日実習 幼稚園において登園から降園・延長保育までの一日の生活の流れと子どもや保育の様子を観察し、記録する
- 幼稚園の特性 幼稚園と地域・家庭との連携、小学校教育への接続について
- 教師の役割 子どもや保護者にとっての教師の存在
- オリエンテーション 各自の配属園において、配属園の概要や必要な準備等について話を伺い、準備を進める。
5～9. 観察実習① 配属園の指定した5日間の間、通常3～5歳児クラスのういずれかに1～2日間ずつ入り、子どもと関わりながら観察を深め、各年齢の発達やそれに
応じた保育について理解を深める。実習終了後は、各指導担当者による指導を受け、一日の保育を省察しながら実習記録を作成する。
配属園の指導に応じてピアノの伴奏、絵本の読み聞かせ、手遊び等の部分実習を行う。5日間の現場実習の後半の日程で学科教員が巡回指導を行う。
- 事後指導 実習終了後に日誌を配属園に提出し、事後指導を受ける。
- 保育の省察 大学において実習で学んだことをエピソードにまとめ、自己の保育を振り返り課題を見出す。
- 保育の省察の共有 実習で学んだことを学生同士で報告しあい、学びを共有する
- 実習報告会準備 実習報告会で報告すべき事項とプレゼンテーションの方法について協議し資料を作成する。
- 実習報告会の実施 グループごとに実習で観察された子どもの様子や保育技術、今後の課題等について報告をする
実習報告会の参加 1年生による初等教育実習Bの報告を聞き、今後に向けて課

使用教科書名

初等教育実習A 実習の手引き、日誌

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力や指導力の実践力とのさらなる統合を図り、教師としての使命感や責任感に基づく、教師としての資質形成を目的とする。教育実習で指摘された改善点に取り組み、教師としての能力を更に高める時間としたい。おもな授業形態は、講義や演習、模擬授業、ロールプレイ、学校見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教育実習の反省に基づき、本学で履修した教職課程の専大として位置付ける。教師としての使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教師(管理職を含めて)との共同協力を進める関係能力、生徒理解や学級経営、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力の理解し、その能力を向上させるにはどのようにしたらよいかを考え、実践できるようにすることを、本演習の到達目標とする。

評価方法その他

授業参加の姿勢、各授業ごとの話し合いの姿勢の評価。発表内容の評価。レポート課題の評価など、総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 教職と教育実習に関するディスカッション
- 自らの反省に基づく授業改善計画の作成
- 授業力向上のための教材研究・学習会(被服分野 人数によって変動する)
- 授業力向上のための教材研究・学習会(食分野 人数によって変動する)
- 授業力向上のための教材研究・学習会(住分野 人数によって変動する)
- 授業力向上のための教材研究・学習会(家族分野 人数によって変動する)
- 授業力向上のための教材研究・学習会(環境・消費者問題 人数によって変動する)
- 学級経営
- 教員間のコミュニケーション
- 学校訪問・見学
- 学校訪問・見学
- 家庭科教師と現代社会
- これからの家庭科教育(ディスカッション)
- まとめ、レポート

使用教科書名

特に指示しない。各講義中で、参考文献を明示する。

NO. 610045031	教職実践演習（中等）
	佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

大学4年間で学んだ学習知と教育実習などで得られた教科指導力や生徒理解力・生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた教師としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義や演習、発表。ロールプレイなどを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教師としての使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教師（管理職を含めて）との共同協力を進める関係能力、児童・生徒理解や学級経営能力、教科内容の指導力、表現力やコミュニケーション能力について、理解し、その能力の形成を具体的に実感できるようにすること

評価方法その他

授業の参加姿勢と各授業ごとの評価テスト。発表内容、レポートなどをみて、総合評価を行う。

週 テーマ・授業目標等

1. オリエンテーション
2. 教職の意義と教師の役割
3. 教師の使命感
4. 子ども理解
5. 現代社会と家庭
6. 現代社会と地域
7. 現代社会と消費
8. 家庭科授業の実施のために、衣と環境
9. 家庭科授業の実施のために、食と環境
10. 家庭科授業の実施のために、生活
11. 家庭科授業の実施のために、女性
12. 家庭科授業の実施のために、子育てと家庭
13. 家庭科と保護者
14. 学校の中の家庭科授業
15. まとめ、レポート

使用教科書名

特に使用はしない。授業の中で、その都度、参考文献を指示する。

NO. 610046001	教職実践演習（栄養）
	辻 雅子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

大学4年間で学んだ知識と教育実習などで得られた栄養を中心とする教科指導力や生徒理解力及び指導力とのさらなる統合をはかり、使命感や責任感に裏打ちされた教諭としての資質形成を目的とする。おもな授業形態は、講義、演習、発表、ロールプレイ、学校訪問見学などを組み合わせ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱う。

学習目標・到達目標

教諭として使命感や責任感、教育的愛情、保護者や同僚教諭（管理職を含む）との共同協力を進める関係能力、給食調理師との連携、児童生徒の理解や学級経営力、教科内容、とくに栄養及び食関連教科の指導力、表現力やコミュニケーション能力、などをきちんと理解すること。そして、その能力を具体的に実践できることを目指す。

評価方法その他

各授業の参加姿勢、発表、レポート、グループワーク等の総合評価

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション
- 2 教師の使命・意義
- 3 学校とは何か、学校経営
- 4 子ども理解
- 5 現代日本の食生活の問題と食をめぐる学校の役割
- 6 子どもの食と栄養
- 7 親の食生活と子どもの食
- 8 学校給食の課題
- 9 学校訪問と学校経営の課題
- 10 学校訪問から、地域の住民と学校の関係
- 11 学校訪問から、教師の食意識
- 12 学校訪問から、子どもの食環境について
- 13 学校訪問から、栄養指導の実際
- 14 学校訪問から、親の食生活と子どもの実態
- 15 まとめとレポート

使用教科書名

テキストは指定しない。参考文献は、随時紹介する。

NO. 610047001	教職実践演習（幼・小）
	齋藤 義雄

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

教師として教育の理念を学ぶとともに、実践的な指導力・反省力を身に付け、それらを向上させることを目指す。
初等教育実習の園や小学校の実習体験やボランティア活動など、実践的な経験や観察を通して教師としての姿勢・態度・意識、および自ら資質・能力を高める意義について理解を深める。

前半は、幼稚園教諭・小学校教員の教育実習での成果と課題を振り返り、個々がもつ課題をグループで共有する。問題解決をまとめたプレゼンテーションをグループで行う。

学習目標・到達目標

幼稚園・小学校における指導と評価の基礎的な知識と基本的な技能を理解し修得する。
実習体験やボランティア活動から成果と課題を照らし、問題意識を基に実践的な指導力を高める。
実践改善の視点や問題解決の方法について理解する。

評価方法その他

平常点（出席・積極的に学ぶ姿勢）20％、プレゼンテーションと模擬授業20％、相互評価票の記入10％、期末小論レポート50％などをもとに、総合的に判断する。

週 テーマ・授業目標等

- 1 オリエンテーション、教育実習の振り返り、成果と課題の抽出
- 2 ①実習日誌や教育現場参加に関する資料の持参と事例の類別、
②事例・課題によるグループ編成と調査
- 3 課題解決プレゼンテーションの作成
- 4 プレゼンテーションの概要と相互評価の資料作成
- 5 プレゼンテーション①、相互評価
- 6 プレゼンテーション②、相互評価
- 7 プレゼンテーション③、相互評価
- 8 模擬授業（ロールプレイ）の計画、話し合い、指導案作り
- 9 模擬授業（ロールプレイ）の練習、学習指導案作成、シナリオ作成
- 10 模擬授業①、相互評価・講評
- 11 模擬授業②、相互評価・講評
- 12 模擬授業③、相互評価・講評
- 13 模擬授業④、相互評価・講評
- 14 模擬授業⑤、相互評価・講評
- 15 「履修カルテ」の確認・まとめ2（教育の今日的課題・求められる教師像）

使用教科書名

特になし。（資料・ワークシートは適宜配布する）

NO. 620001031	学校栄養教育論Ⅰ
	田中 延子

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

栄養教諭教職免許の必修科目である。学校栄養教育論Ⅱ、そして教職実習に向けた基礎の学習として、小・中学校での食に関する指導のあり方や指導方法を学んでいく。

学習目標・到達目標

子どもを取りまく食に関する課題・社会的背景を踏まえ、栄養教諭としての使命、職務内容についての理解を深める。食に関する全体計画の作成方法、学校給食を活用した給食の時間や食に関連する教科等における指導案の作成、個別的な対応指導方法について学ぶ。

評価方法その他

平常点(40%),教員が課するレポート、指導案等(60%)
平常点は、授業態度、授業や討論への積極的な参加状況を重視

週 テーマ・授業目標等

- 第1週・・・オリエンテーション
- 第2週・・・児童生徒の食に関する諸課題
- 第3週・・・食育に関する法律及び諸制度
- 第4週・・・栄養教諭制度に関する法律及び諸制度
- 第5週・・・栄養教諭の職務内容、使命、役割
- 第6週・・・食に関する指導の全体計画のあり方
- 第7週・・・食に関する全体計画の作成(演習)
- 第8週・・・学校給食の意義役割
- 第9週・・・給食の時間における食に関する指導
- 第10週・・・給食の時間における食に関する指導案作成(演習)
- 第11週・・・食に関する個別的な対応指導
- 第12週・・・教科等における食に関する指導
- 第13週・・・教科等における食に関する指導案作成(演習)
- 第14週・・・教科等における食に関する指導の模擬授業
- 第15週・・・諸外国における学校給食および食に関する指導・まとめ

使用教科書名

食に関する指導の手引ー第1次改訂版ー（平成22年3月）文部科学省 東山書房
よくわかる栄養教諭 第二版 同文書院

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

学校栄養教育論Ⅰに引き続き、食に関する指導の全体計画から、家庭や地域と連携した各教科や特別活動等、また、個別指導までの具体的な実践方法を理解する。指導案作成、発表、相互評価等の実践演習や模擬授業を通して指導の手法を取得する。

学習目標・到達目標

学校栄養教育論Ⅰの実践編として、まず栄養教諭が配置される義務教育の仕組みを理解する。その学校において食育を実践するための指標となる、食に関する指導の全体計画の作成から、栄養教諭が職務として取り組む個別の相談指導、家庭や地域との連携指導についての実践方法や、関連する教科等の具体的な指導の手法を習得する。

評価方法その他

この科目は実践論なので、課題の提出と実践演習で評価する。主な内容は<課題>食に関する指導の全体計画の作成(10%)。食育の教材となる給食献立1週間分の作成(30%)。個別指導、家庭や地域との連携指導の指導事例等(15%)を提出。また、義務教育1時限の指導案を作成し(30%)、その指導案による授業を演習し(15%)、指導過程を評価する。

週 テーマ・授業目標等

- 第1週 オリエンテーション・授業の進め方・食に関する指導の立案方法
- 第2週 食生活に関する歴史
- 第3週 食事・食物の文化的事項
- 第4週 児童の発達に応じた教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)
- 第5週 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法1
- 第6週 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の指導案の立案方法2
- 第7週 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習1(指導案を含む)
- 第8週 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習2(指導案を含む)
- 第9週 教科における食に関する指導(家庭科、技術・家庭科)の演習3(指導案を含む)
- 第10週 教科・教科外の模擬授業及び授業研究
- 第11週 教科・教科外の模擬授業及び授業研究
- 第12週 教科・教科外の模擬授業及び授業研究
- 第13週 教科・教科外の模擬授業及び授業研究
- 第14週 強化・教科外の模擬授業及び授業研究
- 第15週 まとめ

使用教科書名

- 1) 栄養教育論 金田雅代著、建帛社、2006
- 2) 小学校学習指導要領、文部科学省
- 3) 小学校学習指導要領解説 家庭編、文部科学省
- 4) 食に関する指導の手引、文部科学省、2007

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館において最も重視される業務のひとつに博物館資料の保存作業があげられる。この業務が博物館の中で十分に機能しないと、博物館資料の有効な活用が期待できないばかりか、次世代への確実な受け渡しもできなくなる。講義に当たっては、博物館資料の意味を考えるとところからはじまり、資料の収集、資料の保存整理、資料の町研究、そして資料の活用に至るまでの一連のプロセスを追って博物館資料の取扱いに関する考え方について理解する。

学習目標・到達目標

博物館活動を維持し発展させるために必要とされる基本的な要素が「博物館資料」であるという視点に立って、博物館資料の収集・整理保管・保存・展示・調査研究など博物館学芸員がたずさわる、さまざまな専門的分野に関する理論や方法および知識や技術の習得を目的とする。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 博物館資料論の目的と意義:博物館資料とは何か、ということ学ぶために博物館資料の種類と分類、物館資料とするための手続きについて考察する。
2. 博物館資料の性格:実物資料(一次資料)だけが博物館資料と考えられがちであるが、二次資料とよばれる資料について学ぶ。
3. 博物館資料の収集方法:博物館の収集の方法を、採集・購入・寄贈・寄託・借用・製作などに視点あてて考察する。
4. 博物館資料の保存:博物館資料の材質は多種多様であるため、それぞれの材質に対応する保存方法について学ぶ。
5. 博物館資料の整理:具体的に収蔵品カードを扱いながら、博物館で資料を整理しデータを保存するために必要な手続きについて学ぶ。
6. 博物館資料の記録化(1):博物館の資料を学術資料として活用するために、データとして残す記録について学ぶ。実測図の作成の意味について学ぶ。
7. 博物館資料の記録化(2):拓本・拓本技術の特色と資料データ保存の有効性について学ぶとともに、使用される道具類について考察する。
8. 博物館資料の記録化(3):写真:資料のデータを保存する上で写真の有用性と撮影の技術とその特色について学ぶ。
9. 博物館資料の収蔵と梱包:収集、整理された資料が収められる収蔵庫の構造と特徴について学ぶとともに搬送の際の梱包の方法について理解する。
10. 博物館資料の活用:博物館の資料を活用する代表的形態としての展示業務について、おもに展示企画の作成と展示技術について考察する。
11. 博物館の刊行物:博物館における調査研究などの活動を公開するさまざまな刊行物を取り上げて、博物館における活動について考察する。
12. 実物資料から読み解く(1):民俗学・民族学資料(木地玩具、染織品など)から資料の観察方法を学ぶ。

使用教科書名

講義の時に資料を配布します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

わが国の博物館総数は年々増加しており、平成20年10月で5775館となった。博物館という社会教育施設を理解するために、まず博物館と博物館学芸員とのかわわりを明確にして、そのうえで博物館の基本的な性格を学ぶ。さらに今日の博物館が形成された歴史的な過程を概観し、加えて今日の諸問題について理解する。

学習目標・到達目標

かつては学術研究を公開する場として位置づけられることが大きかった博物館であるが、生涯学習社会の到来とともに博物館も変化が求められるようになった。本講義では、こうした変化がはじまった博物館の現状を考察するとともに具体例に即して博物館の定義、博物館の目的と機能、博物館の歴史、博物館関連法規について理解し、次年度から学ぶ各論(博物館資料論、博物館情報論、博物館経営論等)をスムーズに学ぶように博物館学の基礎知識を習得する。

評価方法その他

小テスト(複数回)(80%)、平常点(20%)
(平常点は授業への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

1. 博物館概論:学芸員資格ガイダンス:博物館学芸員の職務について理解するとともに、博物館業務との関連性について概説する。
2. 博物館の目的と役割:博物館は社会教育施設としてどのような目的を持っているのか、生涯学習の時代における博物館の役割について考える。
3. 博物館の定義:博物館と見間違う施設が増えてきた中で、博物館の定義について学ぶ。おもに、ICOM、UNESCO、博物館法の定義を対象とする。
4. 博物館の分類と種類:多種多様な特色を持つ博物館をさまざまな分類基準にしたがって整理して、現在の博物館の性格を明らかにする。
5. 博物館の機能(1):博物館が持つ機能(収集・保管整理・調査研究・公開展示)のそれぞれの特徴と学芸員の職務との関連について学ぶ。
6. 博物館の機能(2):同上
7. 博物館と町づくり:博物館が生涯学習の場としてだけでなく、町おこしの活動例として盛んになってきたエコミュージアムを考察する。
8. 博物館の歴史(1)博物館誕生
9. 博物館の歴史(2)ヨーロッパ、アメリカ
10. 博物館の歴史(3)日本、その他
11. 博物館法と関連法規(1)博物館法以前
12. 博物館法と関連法規(2)博物館法
13. 博物館の現状(1):博物館の各種統計にあらわれている数字からわが国の博物館の動向を把握する。
14. 博物館の現状(2):指定管理者制度、博物館評価、学会、組織など現在の博物館に関する現状と課題について学ぶ。
15. まとめ

使用教科書名

講義の時に資料を配布します。

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

日本における経済的危機は悪化の一途をたどっていたが、この間、企業や行政における組織改革や業務内容の改善が重要な課題となっていたことは周知の通りである。こうした社会的な潮流は博物館の運営面においても例外とはいえず、近年、博物館の生き残りを賭けた多角的な検討が行われてきている。本講義では、博物館経営において学芸員が取り組むべき課題や現代社会における博物館の役割について、テーマを設けて解説する。

学習目標・到達目標

これからの博物館学芸員は、個別分野の専門家としてだけでなく、博物館の運営や将来計画に積極的に参加していかなければならない立場にある。こうした学芸員の業務の多様化を踏まえて、博物館を経営する上で重要と思われるテーマを個別に取りあげながら、博物館が直面している課題を概観し、現代社会における博物館のあり方、学芸員の役割を理解して欲しい。

評価方法その他

・平常点および授業への取り組み 30%
・期末試験またはレポート 70%
を基準として、総合的に評価する。
なお、4回を超える欠席(5回以上)は評価の対象としない。

週 テーマ・授業目標等

1. 博物館経営論とは何か 行政が積極的にとりいれているニュー・パブリック・マネジメントの視点から、博物館経営論の必要性を解説する。
2. 博物館の設立と理念:博物館の設置要件や博物館の基本理念等について概観する。
3. 博物館の行財政制度:博物館を経営する上での法的根拠と財政のあり方について述べる。
4. 博物館の組織と職員:博物館の組織づくりと人員について概観する。
5. 博物館の人的資源:博物館の専門職員である学芸員に焦点をあて、その役割や特質を概観する。
6. 博物館の施設と設備:近年における博物館施設の傾向やリニューアル等の問題点について触れる。
7. 博物館の倫理:ICOM(国際博物館会議)の倫理規定と行動規範を参考に、博物館の倫理について解説する。
8. ミュージウム・マーケティングと事業評価:博物館の集客戦略としてのミュージウム・マーケティングの手法と、事業評価のあり方を述べる。
9. 指定管理者制度と博物館:行政が行う指定管理者制度について、博物館における制度の長短と利点、問題点を検討する。
10. 博物館のサービス:今日の博物館が利用者に対して行うべきサービスについて、多角的に概観する。
11. ミュージウム・リテラシー:利用者側から見た博物館のあり方を、多面的に捉えていく。
12. 博物館のバリアフリー施策:多岐にわたるバリアフリーの対象者を知り、博物館が行っているハード面、ソフト面での施策について概観する。
13. 博物館のネットワーク:博物館の従来型のネットワークと情報社会におけるネットワークについて、事例を挙げながら解説する。
14. 地域社会と博物館:博物館と地域社会との関係を、実践例を挙げて紹介する。

使用教科書名

各回の項目に沿ったプリントを教材として配付する。

NO. 630006001	生涯学習概論	矢内 夢江
---------------	--------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

人間は、生涯を通して学び続けています。また、学び続けることは、私たちの権利でもあります。では、人は何のために学ぶのでしょうか。また、どこで、どのようにして学ぶのでしょうか。この授業では、多様な実践事例を通して生涯学習について理解するとともに、グループ・ワーク、フィールド・ワークなどで、自分たちで自分たちの学習を創っていきます。それにより、生涯学習について、実践的に学びます。そして、自分にとっての学ぶことの意味を捉えなおしながら、なぜ私たちは生涯にわたる学習の権利を保障することが大事なのか、どのようにその権利を保障することが出来るのかを学びます。また、博物館の活動における生涯学習の意味について考えます。

学習目標・到達目標

- ①生涯学習とは何かを理解し、説明することができる。
- ②博物館における生涯学習の意味について説明することができる。
- ③主体的に学習を組織することができる。

評価方法その他

平常点50％（授業への積極的な参加、リフレクション・ペーパーの提出）
レポート50％

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 生涯学習とは何か
- なぜ・何のための学習か
- 生涯学習の政策動向
- 私たちの暮らしと生涯学習① 地域の子ども、若者、高齢者をつなぐ学習
- 私たちの暮らしと生涯学習② 働くことを支える学習
- 私たちの暮らしと生涯学習③ 女性たちの生き方と生涯学習
- 中間まとめ（学習の主体は誰か。生涯学習とはどのような学習か。何のための学習か。）
- 生涯学習を支える施設①公民館
- 生涯学習を支える施設②美術館・博物館
- 生涯学習を支える多様な場
- 生涯学習を支える人の役割・機能・資格
- 生涯学習の展開を支える仕組み
- 海外における生涯学習の取り組み
- 生涯学習の課題と展望

使用教科書名

特に指定しない。

NO. 630009001	博物館資料保存論	田尾 誠敏
---------------	----------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館において資料（コレクション）とは、博物館活動を支える重要な役割を果たすと同時に、後世に伝えるべき貴重な遺産である。このような資料は現代社会において、環境や二次適当な要因による物理的な劣化や、喪伝統による喪失といった人為的な理由により、常に滅失の危機にさらされている。本講義では、博物館が行っている資料保存のあり方を、多面的に解説していく。

学習目標・到達目標

博物館でおこなわれている資料保存に関する基礎的な知識や考え方を学ぶ。資料保存の実際には、学芸員が自ら日常的に行うべき事項と、高度な専門知識・技術を必要とする事項の二つの側面が存在し、どのように資料を取り扱っていくのかという判断は学芸員に委ねられている。こうしたことから、資料保存についての幅広い知識を身につけることによって、多様な資料の個々の特性を把握し、次世代へと資料を継承していく姿勢を身につけることを目標としたい。

評価方法その他

授業への取り組みなど平常点 30％
定期試験 70％
を勘案して、総合的に評価する。
なお、4回を超える欠席(5回以上)は評価の対象としない。

週 テーマ・授業目標等

- 博物館の資料保存 一守る・残す・伝えるー 博物館の使命のひとつである資料保存について、その意義や法的根拠について述べると共に、資料の種類や特性について解説する。
- 文化財保護法の理念と特質 博物館と文化財保護の関わりを取り上げ、文化財保護法の成り立ち、理念、特質を知る。
- わが国の気候・風土と伝統的保存 年間気候変化が激しく、劣化しやすい材質の資料が多いわが国において培われた、伝統的保存法を概観する。
- 正倉院にみる伝統的保存 伝統的保存法の代表例として、奈良時代から続く正倉院の資料保存を取り上げる。
- 博物館資料と文化財科学 資料の保存と修復に関わる理科学的研究分野である文化財科学について解説する。
- 博物館の保存環境 博物館における資料の保存環境について、その調査や保存環境の整備について具体例を挙げて検討する。
- 博物館資料の生物被害対策 博物館資料に対する生物被害対策として、臭化メチルの全廃を受け手導入されたIPM(総合的有害生物管理)について概説する。
- 考古資料の保存と修復 考古学的発掘調査による出土資料が、博物館資料として整理・修復される過程を追う。
- 文獻史料の保存と修復 光や温湿度に影響を受けやすい古文書史料の保存・修復について概説し、アーカイブ化にも触れる。
- 映像資料・写真資料の保存とアーカイブ 資料の二次的な保存手段である映像・写真を取り上げ、劣化しやすい性質や保存方法およびアーカイブ化について概観する。
- 美術工芸資料の保存 美術系博物館や歴史系博物館が取り扱う、幅広い美術工芸品の取り扱いと保存について概観する。
- 自然資料の保存 自然科学系の博物館のうち、動植物園や水族館が行う種の保護・

使用教科書名

特に使用しないが、その都度プリント等を配布する。

NO. 630008001	博物館実習	小瀬 康行
---------------	-------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

「学内実習」「見学実習」「館園実習」の面から博物館の実務に対する理解を図る。「学内実習」では、資料の取り扱いをはじめとして博物館資料の収集、整理、保管、展示に関する理論や技術など基礎的な手続きについて学ぶ。「博物館見学」では、博物館の構造や施設、バックヤード（研究室、収蔵庫、作業室、煙蒸庫など）、展示技術などを見学して具体的に博物館施設と業務の多様性について理解する。また「館園実習」として、博物館所蔵の実物資料を用いての資料の取り扱い方法、整理方法、各種道具類などの習熟を踏まえたうえで、総括的な実習として博物館展示室において展示実習を行い一般公開する。

学習目標・到達目標

多様な博物館の実態や博物館学芸員の業務を理解し、実践的な能力を身につけることを目的とする。そのために学内実習として、博物館資料の取り扱いや博物館運営の実務を習得するとともに、さまざまな博物館の実態を見学し理解する。館園実習では実際に博物館の現場にはいり、博物館資料の収集、整理、展示、調査研究などの実務を体験する。

評価方法その他

小テスト(複数回) (40%)、レポート(30%)、平常点(30%)
(平常点は実習への参加状況、討論への参加などで総合的に判断する)

週 テーマ・授業目標等

- 学内実習(9時間)(1)
・オリエンテーション、博物館の環境と保存(測定機器の取り扱いと習熟)
- 学内実習(9時間)(2)
・博物館資料の取り扱い方法 (i)ビデオ学習 (ii)講義 (iii)取り扱い実習
- 学内実習(9時間)(3)
・博物館資料の梱包と輸送 (i)ビデオ学習 (ii)講義 (iii)取り扱い実習
- 学内実習(9時間)(4)
・博物館リテラシーの実践:解説文の検討と作成 各種広報資料の作成
- 学内実習(9時間)(5)
・博物館資料の整理保存実習:収蔵品カードの整理、二次資料化作業
- 博物館見学(9時間)(1)
・各種博物館の団体見学(歴史系博物館の施設・バックヤードの見学)
- 博物館見学(9時間)(2)
・各種博物館の団体見学(美術系博物館の施設・バックヤードの見学)
- 博物館見学(9時間)(3)
・各種博物館の団体見学(その他博物館の施設・バックヤードの見学)
- 博物館見学(9時間)(4)
・各種博物館の個人テーマ見学(歴史系／美術系博物館の展示・テーマ見学)
- 博物館見学(9時間)(5)
・各種博物館の個人テーマ見学(その他博物館の展示・テーマ見学)
- 館園実習(9時間)(1)
・事前指導、オリエンテーション(実習のねらい、日程説明、館の概要と見学)
- 館園実習(9時間)(2)
・展示実習の準備+①企画案の作成等)

使用教科書名

授業中に資料を配布します。

NO. 630010001	博物館展示論	小瀬 康行
---------------	--------	-------

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館の展示は調査研究の成果を公開する場であると同時に展示する側と見る側のコミュニケーションの場であるという視点に立つて展示の意義について学ぶ。実際の展示に基づいて展示の方法を概観するとともに、展示室内に備えられるさまざまな装置類、デザイン・照明などの展示技術、展示企画作成の実際、さらにギャラリートーク、視聴覚機器類、展示図録など博物館の展示の在り方について総合的に理解する。

学習目標・到達目標

博物館の基本的な性格は実物資料を直接目にして学習できるという点にある。すなわち地域に固有のモノであっても、あるいは人類過去の遺物遺構であっても現地で参観することなく博物館に行けば見られるのが博物館である。それは美術館、動物園、植物園、水族館などにおいても共通している。博物館展示論は、そうした社会教育施設において十分な学習効果を得るために、実物資料を正確にわかりやすく展示する技術とそれを支える基本的な考え方について学習することを目標と

評価方法その他

小テスト(複数回) (60%)、レポート(20%)、平常点(20%)

週 テーマ・授業目標等

- ガイダンス:博物館展示論の概要
- 博物館における展示:展示とは何か。
- 博物館展示の実際(1)生活文化博物館の展示
- 展示の類型とそのあり方
- 展示の技術(1)展示室、動線、展示ケース
- 展示の技術(2)壁面の利用、展示解説パネル
- 展示の技術(3)展示環境の管理
- 博物館展示の計画
- 博物館展示の実際(2)民俗学の展示
- 博物館の広報
- 博物館の展示図録の内容と編集
- 博物館展示の評価とその方法
- 企画案の実例と発表
- 博物館展示の実際(3)考古学分野の展示
- 博物館展示論の総括

使用教科書名

とくに指定しないが、授業ごとに関係プリントを配布する。

NO. 630010031

博物館展示論

田尾 誠敏

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

来館者にとって、展示は博物館の顔である。しかしながら博物館が収蔵する資料（コレクション）は多岐にわたる。これらの資料は過去にどのように展示されてきたのかという歴史をはじめとして、博物館展示に関する個別テーマを取り上げて概説する。

学習目標・到達目標

博物館展示の基礎を学ぶ。博物館における展示の意義を知り、博物館が資料を展示するための様々な取り組みについて理解する。

評価方法その他

授業に対する日頃の取り組み 30%
期末の試験ないしはレポート 70%
を勘案して評価する。
なお、4回を超える欠席(5回以上)は評価の対象としない。

週 テーマ・授業目標等

- 博物館における展示とは何か
今日の博物館展示は、教育・普及活動の側面のみならず、地域活性化をはじめとする地域貢献をも視野に入れた事業として展開している。導入として、現代社会における博物館展示の意義について述べる。
- 展示の歴史－陳列から展示へー
わが国で行われてきた前近代的な陳列や列品が、今日の展示に発展していく様相を、時代を追って概観する。
- 博物館資料の多様性と展示の類型
博物館は美術工芸品や考古資料などの文化財や、生き物を含む自然資料など、多様なコレクションを有する。これらの様々な資料がどのように展示されるのか、展示手法を類型化して概観する。
- 展示空間の設計
博物館という施設は、ハード面においてもソフト面においても、独特な建築の視点や設備の要素が盛り込まれている。そのなかでも、博物館の顔ともいべき展示空間を構成する諸要素について述べる。
- 展示を企画する
来館者に展示をより良く理解してもらうためには、ストーリー作りや導線計画が重要な要素となる。ここでは、いくつかの事例に照らしながら、展示解説の手法を含めた展示設計について解説する。

使用教科書名

授業毎に適宜プリント等を配布する。

NO. 630011031

博物館教育論

佐藤 広美

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館教育の意義を理念を講じる。生涯学習の場としての意義を論じる。博物館の利用を考え、利用者の実態を調べてみる。その体験を通じて、利用者は何を学ぶ、考えたのか、その特性を考えてみる。学校教育と異同を考え、学びの本質を考え、人間の成長を論じてみたい。

学習目標・到達目標

生涯学習の場である博物館の存在を考えられるようになること。その歴史を知ること。博物館の価値を知ること。多様な学習の場が展開されていることを理解すること。なにより、人間が物事を知ることの意義を深く考えて見ることができることが重要である。

評価方法その他

毎回の発言を重視。レポート等総合評価。

週 テーマ・授業目標等

- オリエンテーション
- 博物館教育とは何か、その歴史
- 博物館教育とは何か、その種類
- 博物館教育とは何か、利用者の要望、体験
- 博物館教育とは何か、学芸員の仕事
- 教育とは何か、歴史、学ぶとは何か
- 教育とは何か、学校とは何か
- 教育とは何か、博物館と学校の歴史
- 教育とは何か、子どもの学びと成長、
- 教育と展示、文化と国家との関係
- 教育と展示、文化と教育
- 教育と展示、文化と子ども
- 教育と展示、教科書とは何か
- 教育と展示、漫画と教育
- まとめ

使用教科書名

テキストは指定しない、参考文献を紹介する。

NO. 630011001

博物館教育論

高木 幸枝

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

多様な事例も用いて博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得させ、博物館の教育機能に関する基礎的能力を身につけさせる。

学習目標・到達目標

多様な事例も用いて博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育機能に関する基礎的能力を身につける。

評価方法その他

授業中の課題(40%)、受講態度(30%)、定期試験(30%)

週 テーマ・授業目標等

- 博物館教育論を学ぶ意義
- 博物館教育の双方向性
- 博物館諸機能の教育的意義
- 生涯学習の場としての博物館
- 人材養成の場としての博物館
- 地域における博物館の教育機能
- 博物館リテラシーの涵養
- 博物館教育の方針と評価
- 博物館の利用実態と利用者の博物館体験
- 博物館における学びの特性
- 博物館内での教育活動の手法
- 博物館外での教育活動の手法
- 博物館教育活動の企画と実施
- 博物館と学習指導要領
- 博物館と学校教育
- 定期試験

使用教科書名

使用しない。

NO. 630012001

博物館情報・メディア論

木村 涼

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

博物館において、情報がどのように整理され、社会にどのように提供され活用されるのか、大規模な博物館から市町村規模の博物館に至るまで代表的な事例を紹介していきます。その上で、博物館における情報の取り扱いを理解し、その活用方法を考えます。これからの学芸員は、コンピューターなどのデジタル機器を使いこなして編集作業も出来る事が求められます。実際の博物館の事例をみることによって、情報、メディア活用の実態を学びます。

学習目標・到達目標

博物館における情報の意義及び提供、活用などに留する基礎的な知識を身につけることを目標とします。また、博物館における情報発信の現状と課題について理解することを目指します。

評価方法その他

小テスト(複数回)(70%)、平常点(30%)で評価します。なお、平常点は授業の参加状況、討論への積極的な参加などをもとに総合的に判断します。

週 テーマ・授業目標等

- 博物館情報・メディア論とは:博物館における情報・メディアの提供について概観します。
- 博物館における情報・メディアの意義:展示映像や音声ガイドといった視聴覚メディアの特性や学芸員の果たす役割を学びます。
- 博物館の機能からみた情報の蓄積と活用:博物館は情報をどのように扱うか、また、現代社会における博物館の情報をより良く活用する取り組みを解説します。
- 情報教育の意義と重要性:博物館の展示や教育に利用されているメディアについて解説します。
- データベースの構築と運用:博物館におけるデータベースの役割、機能について解説します。
- 博物館標本のデジタル化の技法:デジタル技術が収蔵品の管理や展示にどのように利用されているのかを把握します。
- デジタルミュージアム:デジタルミュージアムを構成する基本技術を解説します。
- デジタル・アーカイブ:デジタル・アーカイブの意義とその構築の流れを解説します。
- 情報通信技術の活用:博物館が行う情報発信について、特に博物館展示に視点を向け、近年の活用事例をあげて解説します。

使用教科書名

西岡貞一・藤田謙一編『博物館情報・メディア論』(NHK出版、平成25年)

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を修得し、学習内容・課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。保育現場で乳幼児の生活と発達の現実にあふれ、これまでの学んできた知識を再構築し、社会福祉への意欲を活性化し、援助者としての保育者の役割への関心を育てる。事前指導として、学内において講義や視聴覚教材を用いた演習を行い、また実習施設において見学・オリエンテーションを行う。実習中には巡回訪問指導を行い、実習後には、実習総括・評価・自己評価・事例研究を行い、新たな学習目標を明確化する。

学習目標・到達目標

- 実習の意義・目的・内容・方法を理解する
- 実習生としての心構えを正しく身につける
- 実習課題を明確化する
- 実習施設の概要と機能を理解する
- 基本的な保育技術を身につける

評価方法その他

本授業においては出席率100%が前提である。評価は授業に対する事前・事後の取り組みや平常の態度について、総合的に行う。

週 テーマ・授業目標等

1. <事前指導> (1) 保育実習の意義・目的・内容の理解
2. (2) 保育実習の方法の理解
3. (3) 実習の心構えの理解
4. (4) 個人情報保護と守秘義務、子どもの人権尊重についての理解
5. (5) 実習課題の明確化とロールプレイ
6. (6) 実習記録の意義・方法の理解
7. (7) 実習施設の理解
8. (8) 保育指導案作成の実際
9. <巡回訪問指導> 実習施設指導担当者との連携によるスーパービジョン
10. <事後指導> (1) 実習総括
11. (2) 実習日誌の評価とふりかえり
12. (3) 指導実習の評価とふりかえり
13. (4) 心理劇法によるふりかえり
14. (5) 自己課題と学習目標の明確化
15. 実習Ⅱ・Ⅲに向けて

使用教科書名

1. 実習日誌の書き方/相馬和子・中国カヨ子/南文書林/2004
2. 指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/南文書林/2009
3. 福祉施設実習ハンドブック/内山元夫ほか編/みらいV/2007
4. 感性をひらく表現遊び/岡本祐子編著/北大路書房/2013

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

- ・保育所以外の施設で働く保育士の職務について、実習経験を通して学ぶ。
- ・実習施設の果たす役割や機能について理解する。
- ・施設利用児（者）への理解を深めるとともに、その社会的背景について考える。

学習目標・到達目標

入所型児童福祉施設や障害児通園施設等の生活や活動に参加し、施設の利用児（者）への理解を深めると共に、施設の果たす役割や機能等について理解し、施設で働く保育士の職務について学ぶ。

評価方法その他

実習施設における実習担当者による評価(50%)、実習日誌・学生自身の自己評価・実習前学習や実習直前・事後指導の様子(50%)を統合して評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 実習施設の役割や機能・拠って立つ法律について理解する。
2. 実習施設の利用児（者）について理解を深める
3. 自分の課題や実習の目的を明らかにする(以上、実習前学習)
4. 養護の1日の流れを理解し、参加する。
5. 子どもや子どもと職員とのかわりを観察し、保育者として学ぶべきことや自らの課題に気づく。
6. 生活や援助などの一部を担当し、積極的に養護技術の習得に努める。
7. 安全および個々の利用児（者）への配慮について理解する。
8. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
9. 実習中盤では、記録などを通して前半の実習を振り返り、自分自身の課題に気づき、後半の実習に向けて目標を設定する。
10. 利用児（者）とのかわりを通し、利用児（者）の最善の利益についての配慮を学ぶ。
11. 保育士としての職業倫理を理解する。
12. 利用児（者）や施設のおかれている社会的背景について理解を深める。
(以上、実習時)
13. 実習終了後、実習全体を振り返り、実習で得た気づきや学びを整理し、施設で行われる反省会などの機会を通し、自らの課題に気づく。
14. 実習で得た学びについて、グループで共有する。(事後指導)
15. ミニ実習報告会

使用教科書名

岡本幹彦・神戸賢次編「3訂 保育士養成課程 福祉施設実習ハンドブック」みらい

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育所における保育に参加し、乳幼児の生活・遊び・発達等についての理解を深め、保育所の機能、保育士の業務等について学ぶ。各科目で修得した知識と技術を保育所での実践や子どもとの関係を通して再構築する。実習段階としては、「参加観察実習」から「部分実習」までの範囲とする。
※履修条件：規定による保育実習参加基準を満たしていること（学生便覧参照）

学習目標・到達目標

- 保育所の機能や、保育所保育の実態、園内外の環境、保育所における子どもの生活を具体的に知る。
- 子どもたちと遊び、生活の中で、子どもへの理解を深める。
- 保育所における保育士の役割と業務内容について具体的に・体験的に学習する。
- 参加観察実習を経て、部分実習指導案作成・実践までを体験する。

評価方法その他

実習保育所による評価(50%)と担当教員による評価(50%)を合わせて総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 実習施設を多面的に理解する。
2. 保育の一日の流れを理解し、参加する。
3. 子どもの観察やかわりを通して乳幼児の発達を理解する。
4. 保育計画・指導計画を理解する。
5. 生活や遊びなどの一部を担当し、保育技術を修得する。
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
7. 参加観察の記録方法を体験的に習得する。
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
9. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
10. 安全および疾病予防への配慮について理解する。
11. 保育者の子どもへのかわり方、環境構成の工夫を詳細に観察する。
12. 実習生としてふるまう中で自己課題に気づく。
13. 指導計画を立て、部分実習に臨む。
14. 保育マップを作成する。
15. 反省会に出席し、実習全体を省察する。

使用教科書名

- ・実習日誌の書き方/相馬和子・中国カヨ子編/南文書林
- ・指導計画の考え方・立て方/久富陽子編/南文書林

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育の実践現場に置いて子ども達とふれあい、生活を共にするなかで、保育所における子どもの生活を理解する。
また、保育者の関わり方や保育技術を体験的に学ぶ。
保育実習Ⅱ（保育所）は「参加観察実習」（部分実習を含む）を経て「指導実習（責任実習）」（部分実習から全日実習）へと移行する段階である。実習生は、保育の場に積極的に参加し、実習を行うクラスの主任の展開する保育の流れを理解するとともに、子どもへの基本的かつ適切な関わり方を習得する。また、実習保育所の指導のもと、平日から二日の保育を保育者として実践させていただく。

学習目標・到達目標

- 1) 実習態度(学びの姿勢・責任感・協調性・自覚性等)を身につける
- 2) 子ども理解(関心・共感する・子どもに即してかわる等)
- 3) 保育に向かう姿勢(保育に臨む姿勢・動き・配慮等)
- 4) 実習園を理解する(保育所の役割・園の方針・特色・環境の理解等)
- 5) 自己理解(実習を通じて自己課題に気づく省察する等)

評価方法その他

実習保育所による評価(50%)と担当教員による評価(50%)を合わせて総合的に評価する。

週 テーマ・授業目標等

1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。
2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。
3. 発達の遅れや生活環境に伴う子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。
4. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に学ぶ。
5. 地域社会に対する理解を深め、子育て支援のための手法や連携方法について学ぶ。
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。
7. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
8. 保育者の子どもとかわる姿勢から、効果的な援助と指導の内容と方法を学ぶ。
9. 園環境と子どもの遊びの実態について理解する。
10. 子どもの実態を把握し、これに即した指導計画を立案する。
11. 子どもの遊びや活動を促す環境を構成する。
12. 立案した指導計画に基づいて実践し、子どもの実態に即した援助の方法を試みる。
13. 自己の保育を省察するための記録(日誌)を工夫して書く。
14. 保育マップを作成する。
15. 反省会に出席し、実習全体を省察する。

使用教科書名

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育実習Ⅲの目的は、実習生によってさまざまです。実習生は自分自身の関心の持ち方について幅広く、深く考えるようにしてから、実習施設を選定しましょう。
実習施設としては、3年生の時の実習ⅠCに新たに児童厚生施設である児童館が加わります。

学習目標・到達目標

児童への福祉は現在、特別な支援を必要とされる児童に対する施策だけでなく、すべての家庭において児童が健全に育成されることが児童を生き育てやすい社会環境を整備することを目指した施策が中心となっています。このため保育実習Ⅲでは保育士を目指す人が、保育所や保育所以外の入所型児童福祉施設だけでなく、児童福祉施設についての幅広い理解をすすめます。

評価方法その他

評価は下記の2つの観点で行う。
1. 実習施設からの評価80％
2. 日誌評価20％

週 テーマ・授業目標等

1. 養護全般に参加し、養護技術を習得する。好ましい援助の方法を具体的に体得する。

2. 子どもの個人差について理解し、対応方法を習得する。特に発達の違いや生活環境

にともなう子どものニーズを理解し、その対応について学ぶ。

3. 利用者（児）の実態を把握し、集団による生活を全体的に体得する。

4. 処遇計画案または余暇活動案の立案の実際について学び実践する。

5. 子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。

6. 地域社会に対する理解を深め、連携の方法について学ぶ。

7. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。

8. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ。

9. 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課

題を明確化する。

使用教科書名

保育実習ⅠCで用いた教科書を続けて使用します

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

保育実習Ⅰにおいて課題となったテーマについて、課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにする。

保育所実習Ⅱに向けた準備を行う。実習後には、その経験をを手掛かりとして、卒業後保育士として働く意欲が育つような準備をする。さらに、卒業後、子どもたちや他の保育士に学び、育ち続けることができるような基盤づくりをする。

学習目標・到達目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容とその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確に

評価方法その他

授業参加 60％
指導案作成・ロールプレイ・レポート提出 40％

週 テーマ・授業目標等

< 内容 >

1. 保育実習による総合的な学び

(1) 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解

(2) 子どもの保育と保護者支援

2. 保育実践力の育成

(1) 子どもの状態に応じた適切ななかかわり

(2) 保育の表現技術を生かした保育実践

3. 計画と観察、記録、自己評価

(1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践

(2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善

4. 保育士の専門性と職業倫理

5. 事後指導における実習の総括と評価

(1) 実習の総括と自己評価

(2) 課題の明確化

使用教科書名

授業概要・教育目的・準備学習（履修条件）

1. 保育実習の内、保育所以外の児童福祉施設実習（以下、施設実習）の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 施設における保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

学習目標・到達目標

1. それぞれの学生が3年生までに体験した保育実習において課題となったテーマを中心に、それらの課題解決の過程を各自がプログラムし、実行できるようにする。
2. 実習する施設の特色について十分に事前学習し、新たに自己課題を明確に設定する。さらに、卒業後、保育士として育ち続けることができるような基盤づくりをする。

評価方法その他

平常点60％
指導案作成・ロールプレイ・レポート提出40％

週 テーマ・授業目標等

1. 保育実習を手掛かりとして総合的・俯瞰的に学ぶ

(1) 子どもの最善の利益をについて考える

(2) 子どもの保育と保護者支援

2. 実習施設に必要とされる専門性と保育実践力の育成

(1) 子どもの状態に応じた適切ななかかわり

(2) 保育技術を生かした保育実践

3. 実習施設に応じた実習計画と観察・記録の仕方を知る。

(1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践

(2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善

4. 保育士の専門性と職業倫理

5. 事後指導における実習の総括と評価

(1) 実習の総括と自己評価

(2) 課題の明確化

使用教科書名



所在地

東京家政学院大学

【町田キャンパス】

〒194-0292 東京都町田市相原町 2600 番地

電話 042(782)9811

【千代田三番町キャンパス】

〒102-8341 東京都千代田区三番町 22 番地

電話 03(3262)2251

授 業 計 画 平成 30 年度

平成 30 年 4 月 1 日 発 行

発 行 東京家政学院大学

大学事務局

電 話 03(3262)2257

<http://www.kasei-gakuin.ac.jp/>